中医協　総－7 ２７．３．１８	中医協　検－1－1 ２７．３．１８

平成２６年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成２６年度調査）の速報案について

〇適切な向精神薬使用の推進や精神疾患患者の地域移行と地域定着の推進等を含む精神医療の実施状況調査

（右下頁）

・ 調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ７頁

・ 施設調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １３頁

・ 病棟調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ８７頁

・ 患者調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １２５頁

・ 調査票 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １８１頁

平成 26 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 26 年度調査）

適切な向精神薬使用の推進や精神疾患患者の地域移行と地域定着の推進等を含む精神医療の実施状況調査　結果概要（速報）（案）

◇◆目　　次◇◆

Ⅰ．調査の概要 1
１．目的 1
２．調査対象 1
３．調査方法 2
４．調査項目 2
５．その他 5
Ⅱ．調査の結果 6
１．回収結果 6
２．施設調査の結果 7
（１）施設の概況（平成 26 年 10 月末現在） 8
①開設者 8
②病院種別 8
③同一法人または関連法人が運営する施設・事業所 9
④救急医療体制の状況 10
⑤精神医療に関する指定等の状況 11
⑥精神科救急医療体制整備事業への参加状況等 12
⑦時間外、休日または深夜の診療状況等 13
⑧出来高情報の記録・保管状況 14
⑨病棟数・許可病床数・病床利用率・平均在院日数 15
（２）精神科の診療体制等 21
①精神科の外来を担当している医師数 21
②１週間の外来診療従事時間 22
③１週間の外来延べ患者数 22
④精神科病棟に従事している職員数 23
⑤精神病棟入院基本料の種類 26
（３）精神医療・認知症医療の実施状況等 27
①施設基準の届出状況等 27
②精神科救急入院料、精神科救急・合併症入院料、精神科急性期治療病棟入院料に関する最も厳しい施設基準 56
③認知症患者リハビリテーション料の実施状況等 57
④各診療報酬項目の算定患者数と算定回数 59
⑤精神科薬物療法の状況等 69
（４）精神科訪問看護の実施状況等 70
①精神科訪問看護の実施状況等 70

②精神科訪問看護の開始時期 70
③精神科訪問看護に携わる職員数 71
④精神科訪問看護利用者数 71
⑤精神科訪問看護・指導料の算定利用者数と算定回数 72
⑥精神科訪問看護・指導料の各加算の算定利用者数と算定患者数 73
⑦複数回の精神科訪問看護を行った利用者数 74
（５）精神科重症患者早期集中支援管理料の実施状況等 75
①精神科重症患者早期集中支援管理料の施設基準の届出状況 75
②精神科重症患者早期集中支援管理料を実施する上で、連携する訪問看護ステーションの有無 75
③精神科重症患者早期集中支援管理料を実施する際の職員の体制 76
④精神科重症患者早期集中支援管理料を算定した患者数 77
⑤精神科重症患者早期集中支援管理料の施設基準の届出を行っていない理由 78
⑥精神科重症患者早期集中支援管理料の施設基準の届出意向 80
３．病棟調査の結果 81
（１）精神病棟入院基本料算定病棟 81
①病棟数・許可病床数 81
②月末在院患者数 81
③年齢階級別在院患者数 82
④主たる疾患別在院患者数 82
⑤GAF 尺度別在院患者数 83
⑥向精神薬使用数別患者数 83
⑦在院期間別在院患者数 84
⑧平成 26 年 10 月 1 か月間における新規入院患者数 84
⑨平成 26 年 10 月 1 か月間における退院患者数 85
⑩病棟の診療体制 86
⑪精神保健福祉士配置加算の施設基準の届出の有無 87
⑫精神保健福祉士配置加算の施設基準の届出をしていない最大の理由 87
⑬精神病棟入院基本料算定病棟の入院患者が、地域へ移行する上で重要となる事業・サービス等 88
（２）精神療養病棟入院料算定病棟 89
①病棟数・許可病床数 89
②月末在院患者数 89
③年齢階級別在院患者数 89
④主たる疾患別在院患者数 90
⑤GAF 尺度別在院患者数 91
⑥向精神薬使用数別患者数 91
⑦在院期間別在院患者数 92

⑧平成 26 年 10 月 1 か月間における新規入院患者数 93
⑨平成 26 年 10 月 1 か月間における退院・転院患者数 93
⑩病棟の診療体制 94
⑪精神療養病棟における退院支援相談 94
⑫精神保健福祉士配置加算の施設基準の届出の有無 95
⑬精神保健福祉士配置加算の施設基準の届出をしていない最大の理由 95
⑭精神療養病棟の入院患者が、地域へ移行する上で重要となる事業･サービス等 96
（３）精神科救急入院料算定病棟 97
①病棟数・許可病床数 97
②月末在院患者数 97
③年齢階級別在院患者数 97
④主たる疾患別在院患者数 98
⑤GAF 尺度別在院患者数 99
⑥向精神薬使用数別患者数 99
⑦在院期間別在院患者数 100
⑧1 か月間における新規入院患者数 101
⑨1 か月間における退院・転院患者数 102
⑩病棟の診療体制 103
（４）精神科救急･合併症入院料算定病棟 104
①病棟数・許可病床数 104
②月末在院患者数 104
③年齢階級別在院患者数 104
④主たる疾患別在院患者数 105
⑤GAF 尺度別在院患者数 106
⑥向精神薬使用数別患者数 106
⑦在院期間別在院患者数 107
⑧1 か月間における新規入院患者数 108
⑨1 か月間における退院・転院患者数 109
⑩病棟の診療体制 110
（５）精神科急性期治療病棟入院料算定病棟 111
①病棟数・許可病床数 111
②在院患者数 111
③年齢階級別在院患者数 111
④主たる疾患別在院患者数 112
⑤GAF 尺度別在院患者数 113
⑥向精神薬使用数別患者数 113
⑦在院期間別在院患者数 114
⑧1 か月間における新規入院患者数 115

⑨1 か月間における退院・転院患者数 116
⑩病棟の診療体制.....117
⑪精神科急性期医師配置加算の施設基準の届出状況.....117
４．患者調査の結果 119
（１）入院患者.....119
①患者の基本的事項.....119
②入院の状況..... 121
③患者の状態等 131
④治療の状況..... 142
⑤患者の社会的状況と退院の見通し 152
（２）外来患者..... 156
①患者の基本的事項..... 156
②精神療法開始前後の状況..... 157
③患者の現況..... 159

Ⅰ．調査の概要

１．目的

平成 26 年度診療報酬改定において、精神科急性期病床における平均在院日数の短縮を図る観点から医師を重点的に配置した場合の評価など、精神病床の機能分化を進める取組に対して評価が行われるとともに、精神疾患患者の地域生活への移行や地域定着を促進する観点から多職種チームによる在宅医療についての評価が行われた。

また、諸外国と比較して向精神薬の処方剤数が多いことが課題となっていることを踏まえ、向精神薬の適切な処方について見直しが行われた。

これらを踏まえ、精神疾患患者の急性期病床での受入状況、精神疾患患者の地域への移行状況や向精神薬の使用状況等について調査を行う。

＜主な目的＞

・精神科病棟における入院患者の状況の把握
・精神科病棟における医師や看護師の配置状況の把握
・精神科入院患者の入院日数及び地域への移行状況の把握
・向精神薬の処方の状況の把握

２．調査対象

本調査では、「施設調査」「病棟調査」「患者調査」を実施した。各調査の対象は、次のとおりである。

〇施設調査

・ ①精神科救急入院料、精神科救急・合併症入院料、精神科急性期治療病棟入院料、精神療養病棟入院料、認知症治療病棟入院料の届出を行っている病院（悉皆）、②精神病棟入院基本料の届出を行っている病院の中から無作為抽出した病院（①を除く）。
・ ①②を合わせて 1,300 施設とした。

〇病棟調査

・ 上記「施設調査」の対象施設における、精神病棟入院基本料、精神療養病棟入院料、精神科救急入院料、精神科救急・合併症入院料、精神科急性期治療病棟入院料を算定している病棟。

〇患者調査

・ 上記「病棟調査」対象病棟のうち、精神科救急入院料、精神科救急・合併症入院料、精神科急性期治療病棟入院料、精神療養病棟入院料の各病棟に入院している患者。ただし、1 施設につき病棟種別ごとに 5 名とした（無作為抽出）。
・ 調査日に上記「施設調査」の対象施設の精神科を受診した外来患者。ただし、1 施設につき最大 4 名とした（無作為抽出）。

３．調査方法

・対象施設が記入する自記式調査票の郵送配布・回収とした。

・施設調査については、施設属性、精神医療の実施状況・体制、患者の地域移行と地域定着に向けた取組状況、課題等を尋ねる「施設票」を配布した。

・病棟調査については、対象とする病棟の状況を把握するために、「①精神病棟入院基本料病棟票」、「②精神療養病棟入院料病棟票」、「③精神科救急入院料病棟票」、「④精神科救急・合併症入院料病棟票」、「⑤精神科急性期治療病棟入院料病棟票」の 5 種類を作成し、上記「施設票」を配布する際に、当該病床の有無等に応じて同封した。

・患者調査については、平成 26 年 10 月 31 日現在、精神科救急入院料、精神科救急・合併症入院料、精神科急性期治療病棟入院料、精神療養病棟入院料を算定している病棟に入院している患者の状況を把握するための「①入院患者票」、平成 26 年 10 月 31 日現在精神科外来を利用している患者の状況を把握するための「②外来患者票」の 2 種類を作成し、上記「施設票」を配布する際に同封した。「①入院患者票」は病棟種別ごとに最大 5 名、「②外来患者票」は 1 施設につき最大 4 名とした。

・回答者は、施設票については管理者・開設者及びその代理者、各病棟票については各病棟責任者、患者票については、対象患者を担当する看護師または精神保健福祉士等とした。

・調査実施時期は平成 26 年 11 月 12 日～平成 27 年 1 月 15 日。

４．調査項目

区分	主な調査項目
(1)施設調査	○施設の概況 ・ 開設者、同一法人または関連法人が運営する施設・事業所、病院種別、救急告示の有無、救急医療体制、精神医療に関する指定等の状況、精神科救急医療体制整備事業への参加状況・体制、時間外、休日または深夜の対応状況、出来高情報の記録・保管状況 ・ 病棟数、病床数、病床利用率、平均在院日数の変化 ○精神科の診療体制等 ・ 精神科外来担当医師数、外来診療時間、外来患者数 ・ 精神科病棟の職員体制、精神病棟入院基本料の届出状況 ○精神医療・認知症医療の実施状況 ・ 施設基準の届出状況、届出時期 ・ 精神科リエゾンチーム加算の届出がない理由 ・ 精神科救急入院料、精神科救急・合併症入院料、精神科急性期治療病棟入院料の届出状況、最も厳しい施設基準の要件 ・ 児童・思春期精神科入院医療管理料で改善が必要な施設基準要件 ・ 認知症患者リハビリテーション料に関する職員体制、届出意向のな

	い施設におけるその理由 ・　診療報酬項目の算定状況、適切な向精神薬の使用促進を図る上での課題等 ○患者の地域移行と地域定着に向けた取組等 ・　精神科訪問看護の実施の有無、開始時期、職員体制、利用者数 ・　精神科訪問看護の時間区分別算定状況、精神科訪問看護・指導料に関する訪問状況、算定状況、加算状況 ・　1 日につき複数回精神科訪問看護を行った利用者数の変化、精神科複数回訪問加算の算定状況 ・　精神科重症患者早期集中支援管理料の届出の有無、連携訪問看護ステーションの有無、職員体制、算定状況、届出がない場合の理由と今後の届出意向 ○患者の地域移行と地域定着のために必要な取組等 ・　患者の地域移行と地域定着を推進するために必要な取組等
⑵病棟調査	【精神病棟入院基本料病棟票】 ○精神病棟入院基本料病棟入院患者の状況等 ・　算定病棟数、病床数 ・　年齢階級別患者数、主たる疾患別患者数、在院期間別患者数、GAF 尺度のスコア別患者数、向精神薬使用数別患者数等 ・　新規入院患者数、退院・転院した患者数等 ○精神病棟入院基本料病棟の職員体制 ・　職員体制 ・　精神保健福祉士配置加算の施設基準の届出の有無、届出がない場合の理由 ・　患者の地域移行で重要となる事業・サービス、有効な取組等 【精神療養病棟票】 ○精神療養病棟入院患者の状況等 ・　算定病棟数、病床数 ・　年齢階級別患者数、主たる疾患別患者数、在院期間別患者数、GAF 尺度のスコア別患者数、向精神薬使用数別患者数等 ・　新規入院患者数、退院・転院した患者数等 ○精神療養病棟の職員体制 ・　職員体制 ・　退院支援相談員数、退院支援委員会の開催数 ・　精神保健福祉士配置加算の施設基準の届出の有無、届出がない場合の理由 ・　患者の地域移行で重要となる事業・サービス、有効な取組等 【精神科救急入院料病棟票】

	○精神科救急入院料病棟入院患者の状況等 ・　病棟数、病床数 ・　年齢階級別患者数、主たる疾患別患者数、在院期間別患者数、GAF尺度のスコア別患者数、向精神薬使用数別患者数等 ・　新規入院患者数、退院・転院・転棟した患者数等 ○精神科救急入院料病棟の職員体制 ・　職員体制 【精神科救急・合併症入院料病棟票】 ○精神科救急・合併症入院料病棟入院患者の状況等 ・　病棟数、病床数 ・　年齢階級別患者数、主たる疾患別患者数、在院期間別患者数、GAF尺度のスコア別患者数、向精神薬使用数別患者数等 ・　新規入院患者数、退院・転院・転棟した患者数等 ○精神科救急・合併症入院料病棟の職員体制 ・　職員体制 【精神科急性期治療病棟入院料病棟票】 ○精神科急性期治療病棟入院料病棟入院患者の状況等 ・　病棟数、病床数 ・　年齢階級別患者数、主たる疾患別患者数、在院期間別患者数、GAF尺度のスコア別患者数、向精神薬使用数別患者数等 ・　新規入院患者数、退院・転院・転棟した患者数等 ○精神科急性期治療病棟入院料病棟の職員体制 ・　職員体制 ・　精神科急性期医師配置加算の届出の有無、届出がない場合の理由
(3)患者調査	【入院患者票】 ○基本的事項 ・　性別、年齢、精神障害者福祉手帳の状況 ○入院の状況 ・　入院日、初診日、精神科・神経科への通算入院回数・通算入院期間、直近の退院日 ・　入棟前の居場所、直近の在宅療養期間における精神科訪問看護の利用の有無、入院の理由、入院形態、処遇、主傷病、その他精神疾患の傷病、身体合併症 ○患者の状態等 ・　症状の程度 ・　患者の GAF スコア、改訂長谷川式簡易知能評価スケール（HDS-R）、認知症高齢者の日常生活自立度、ADL 区分、重症度・看護必要度、患者の状態等

	○治療の状況 ・　主傷病に対して実施している診療内容 ・　向精神薬の処方状況 ・　身体合併症に対する対応状況、他の診療科を受診した回数・目的、費用請求の形式 ○患者の社会的状況と退院の見通し ・　退院後に生活を継続するために必要な支援 ・　退院の見通し ・　退院した場合の支援として重要なもの、退院できない場合の理由 【外来患者票】 ○基本的事項 ・　性別、年齢、精神障害者福祉手帳の状況 ○精神療法開始前後の状況 ・　通院開始日、精神療法開始日、精神科での入院の有無、過去 2 年間における通算入院回数、入院中の精神療法等実施の有無、直近の入院の理由 ○患者の現況 ・　現在の居場所、主傷病、その他の傷病、精神療法の実施回数、精神療法の平均実施時間 ・　GAF 尺度、改訂長谷川式簡易知能評価スケール（HDS-R）、認知症高齢者の日常生活自立度、ADL 区分、IADL の困難度 ・　利用している診療内容等、訪問看護の利用状況、精神療法の内容、向精神薬の処方内容、向精神薬多剤投与の除外規定対象となる場合の内容、現在利用している精神科デイ・ケア等

５．その他

本調査の集計結果は速報値であり、数値が変わることがありうる。

Ⅱ．調査の結果

１．回収結果

図表 1　回収の状況

	対象数	有効回答数	有効回答率
施設票			
①施設票	1,300	478	36.8%
病棟票			
①精神病棟入院基本料病棟票	1,300	372	28.6%
②精神療養病棟票	836	289	34.6%
③精神科救急入院料病棟票	108	55	50.9%
④精神科救急･合併症入院料病棟票	10	6	60.0%
⑤精神科急性期治療病棟入院料病棟票	325	122	37.5%
患者票			
①入院患者票	―	2,379	―
②外来患者票	―	1,826	―

（注）・病棟票の対象数については、精神病棟入院基本料病棟票以外は、調査対象施設のうち調査発送時点で施設基準の届出のあった施設数である。各病棟票の対象数は客体抽出時の数であり、調査票発送に際しては名簿作成後に届出をした施設にも回答いただくため、②は 959 施設、③～⑤はいずれか 1 つでも施設基準の届出のあった 411 施設に③～⑤の病棟票を共通に配布している。このため、有効回答率は参考値である。

・入院患者票は、②～⑤の病棟票に調査日に在院していた患者、各病棟につき 5 名を対象に配布している。

・外来患者票は施設調査の対象施設の精神科外来を調査日に受診した患者、1 施設につき最大 4 名を対象に配布した。

２．施設調査の結果

【調査対象等】

○施設調査

調査対象：①精神科救急入院料、精神科救急・合併症入院料、精神科急性期治療病棟入院料のいずれかの届出を行っている病院（悉皆、411 施設）

②精神療養病棟入院料、認知症治療病棟入院料の届出を行っている病院（①を除く、悉皆、548 施設）

③その他、精神病棟入院基本料の届出を行っている病院の中から無作為抽出した病院（①②を除く、無作為抽出、341 施設）。

①②③を合わせて 1,300 施設とした。

回 答 数：478 施設

回 答 者：管理者

なお、本調査では、以下のように施設を分類した。

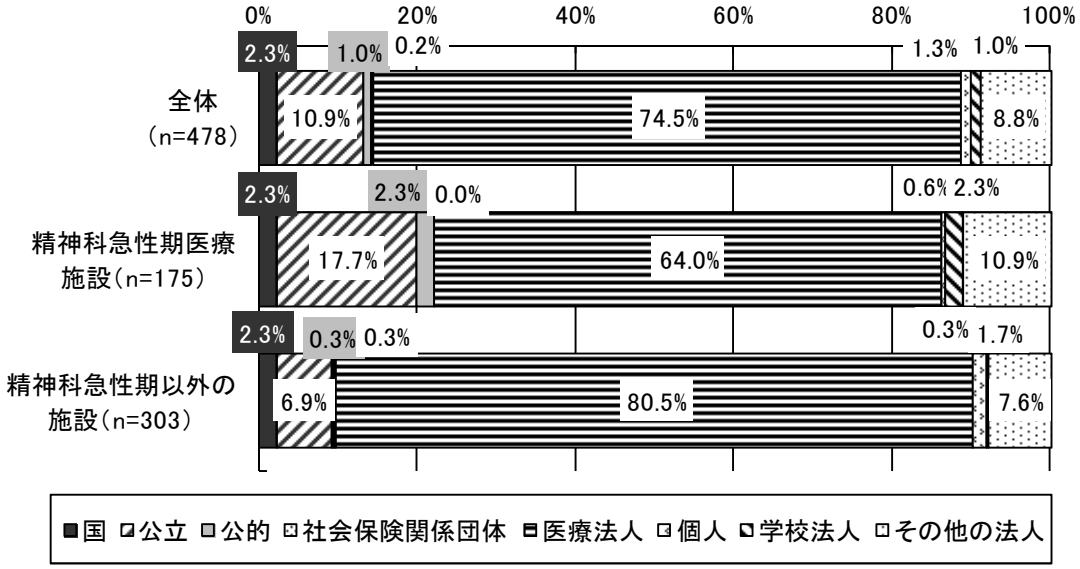
精神科急性期医療施設：「精神科救急入院料」、「精神科救急・合併症入院料」、「精神科急性期治療病棟入院料」のいずれか 1 つでも届出を行っている医療機関。

精神科急性期以外の施設：上記以外の施設で、精神病棟入院基本料、精神療養病棟入院料、または認知症治療病棟入院料のいずれか 1 つでも算定する病棟を有する施設。

（１）施設の概況（平成 26 年 10 月末現在）

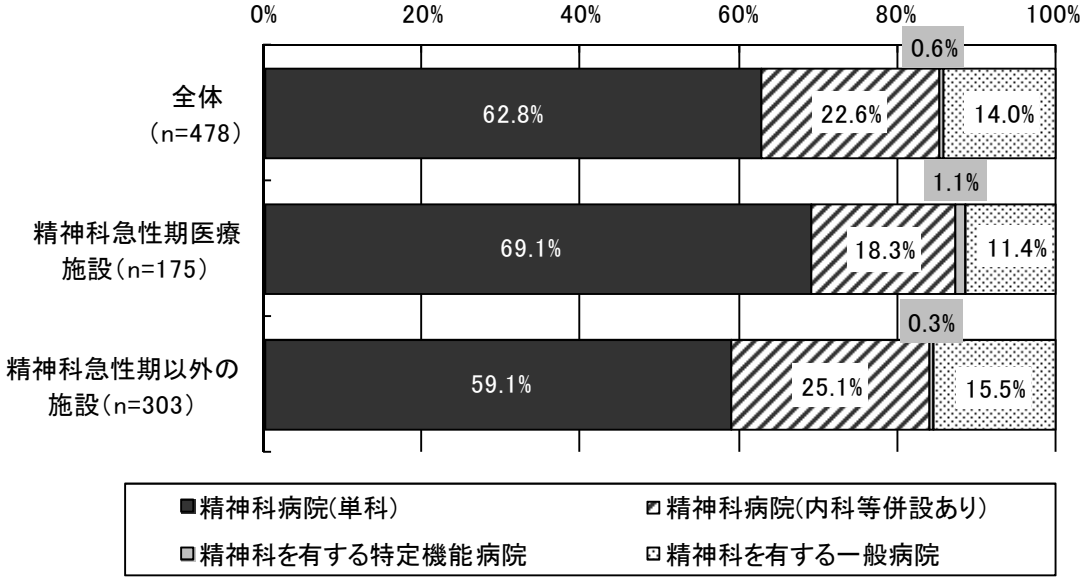
①開設者

図表 2　開設者



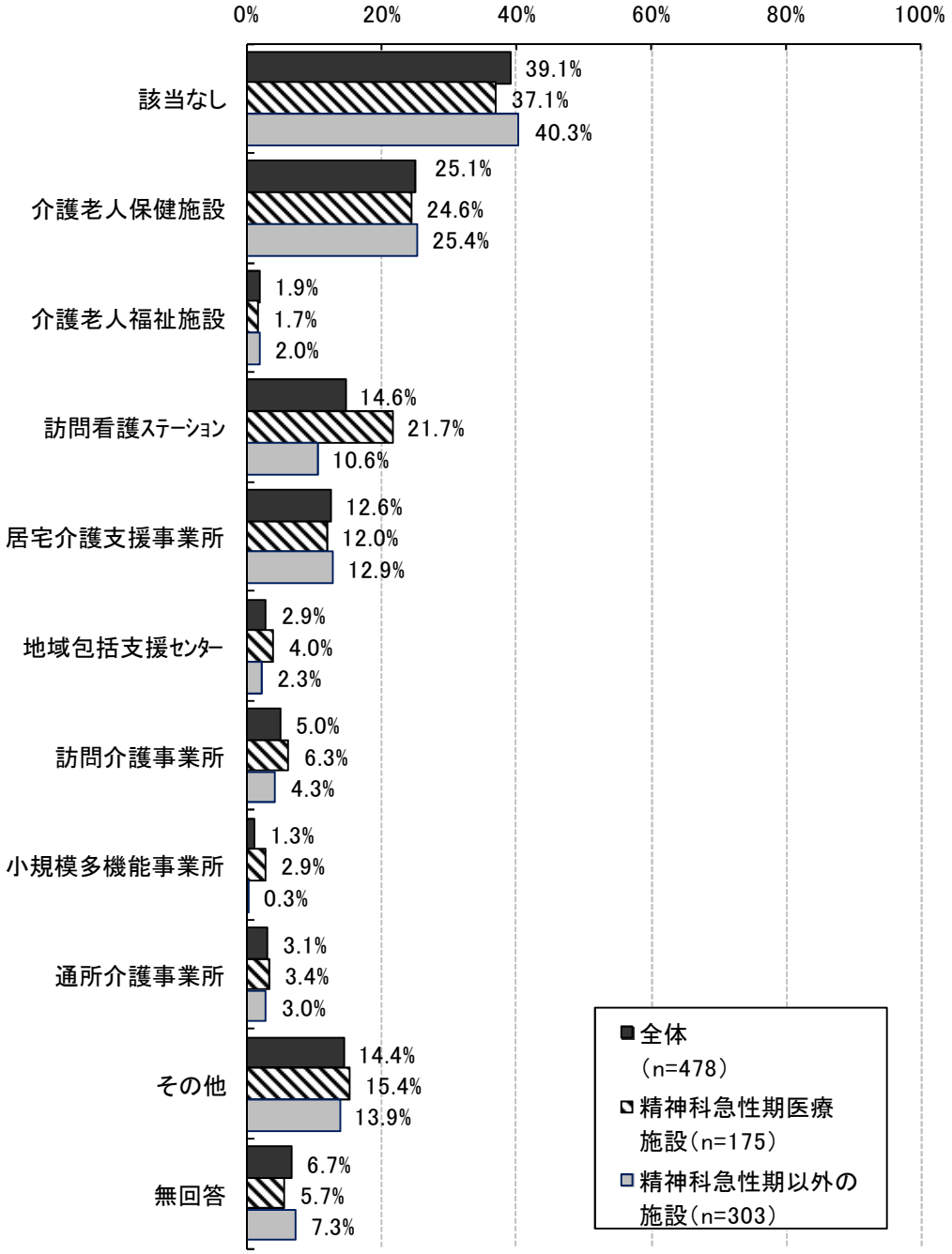
②病院種別

図表 3　病院種別



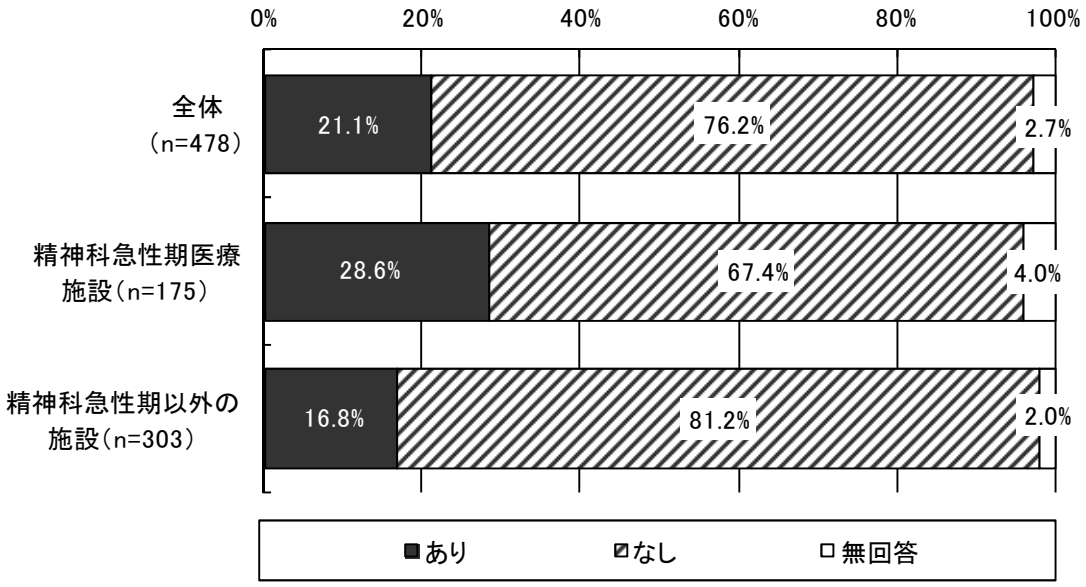
③同一法人または関連法人が運営する施設・事業所

図表 4　同一法人または関連法人が運営する施設・事業所（複数回答）

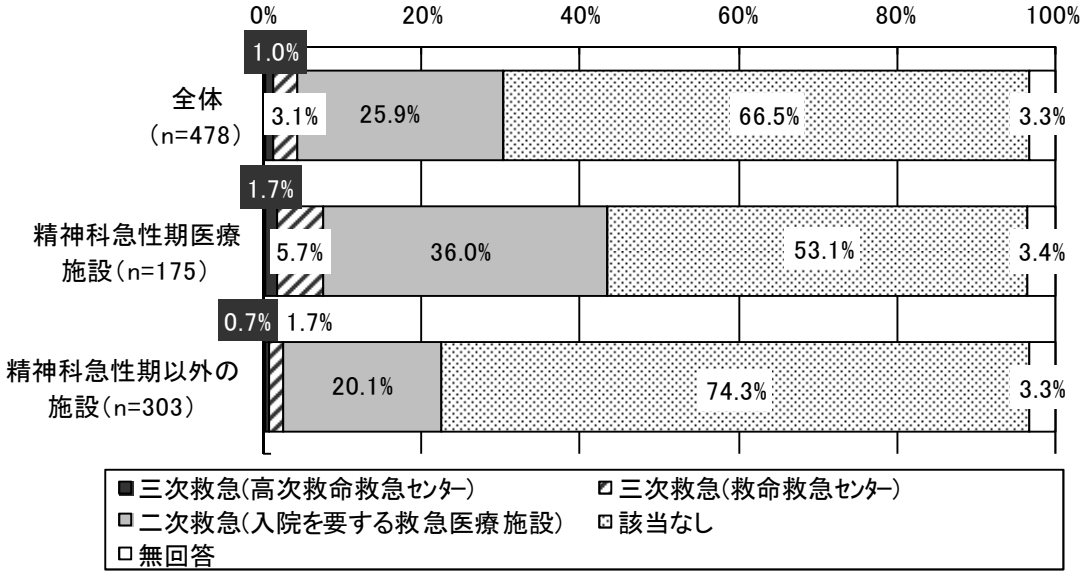


④救急医療体制の状況

図表 5　救急告示の有無

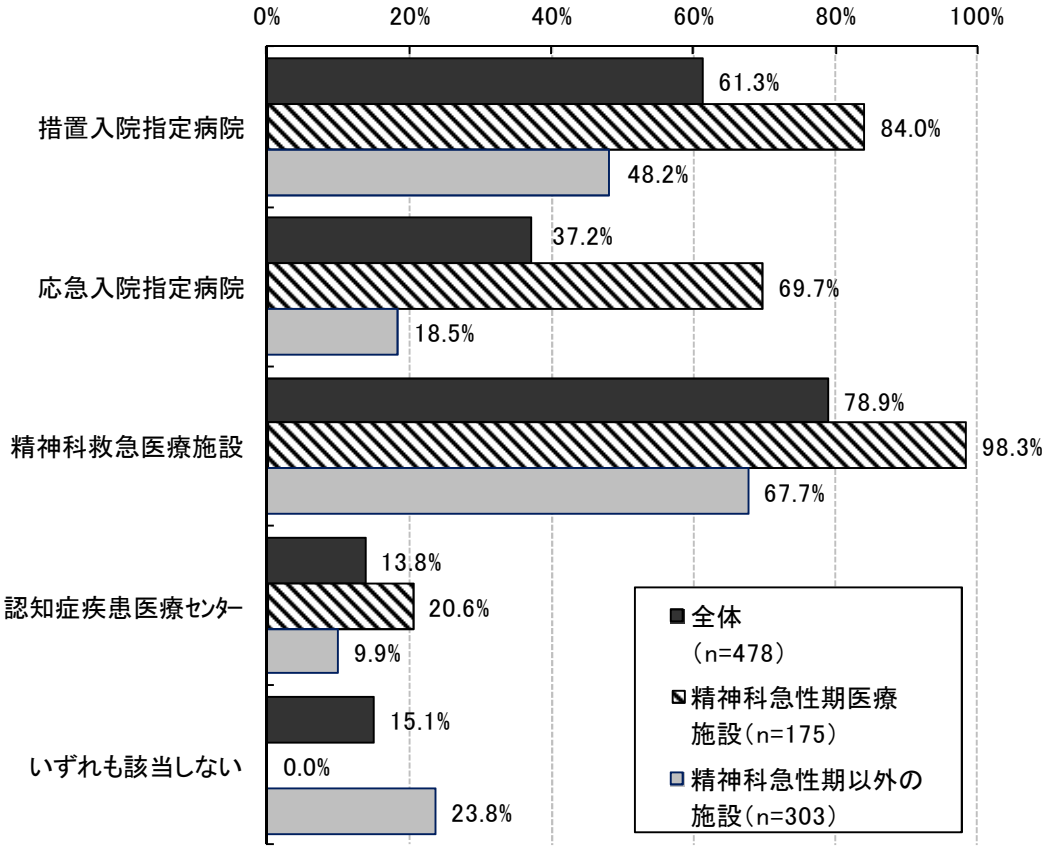


図表 6　救急医療体制



⑤精神医療に関する指定等の状況

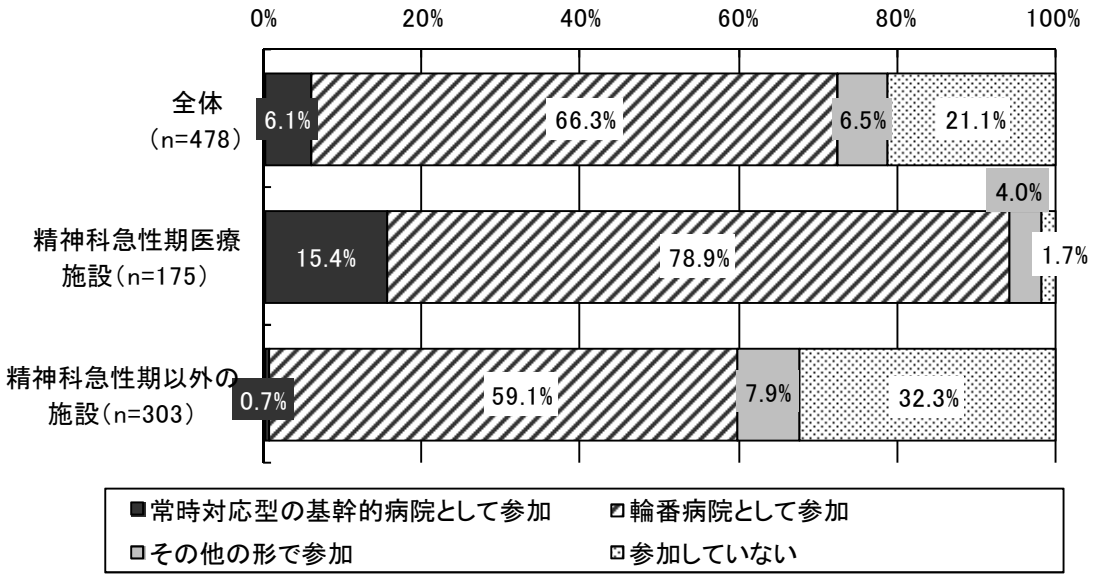
図表 7　精神医療に関する指定等の状況（複数回答）



（注）無回答の施設はなかった。

⑥精神科救急医療体制整備事業への参加状況等

図表 8　精神科救急医療体制整備事業への参加状況



図表 9　精神科救急医療体制整備事業の当番日

（精神科救急医療体制整備事業に参加している施設、平成 26 年 10 月 1 か月分）

（単位：日）

	回答施設数	平均値	標準偏差	中央値
全体	347	5.4	8.1	2.0
精神科急性期医療施設	160	7.8	10.0	4.0
精神科急性期以外の施設	187	3.2	5.0	2.0

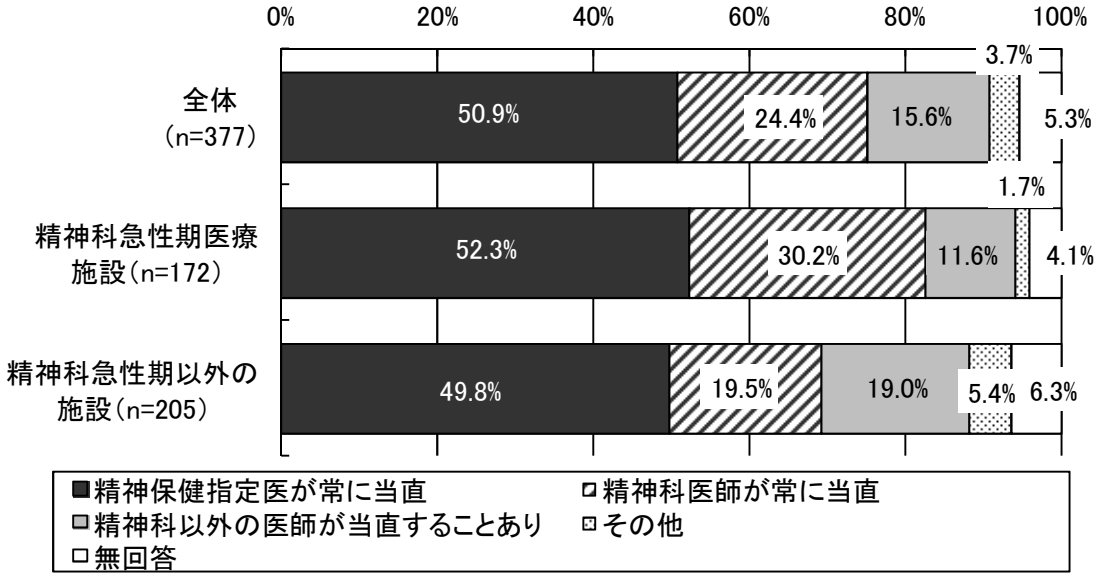
図表 10　精神科救急医療体制整備事業の当番日における診療実績

（精神科救急医療体制整備事業に参加している施設、平成 26 年 10 月 1 か月分）

（単位：件）

	回答施設数	入院			外来診療のみ		
		平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
全体	335	1.4	3.1	0.0	1.5	3.6	0.0
精神科急性期医療施設	154	2.4	4.2	1.0	2.6	4.9	1.0
精神科急性期以外の施設	181	0.5	0.9	0.0	0.6	1.4	0.0

図表 11　精神科救急医療体制整備事業の当番日における医師当直体制
（精神科救急医療体制整備事業に参加している施設）



（注）凡例の詳細は以下の通り。
「精神科医師が常に当直」:「精神科医師が常に当直（精神保健指定医がオンコールになることがある）」
「精神科以外の医師が当直することあり」:「精神科以外の医師が当直することあり（精神保健指定医はオンコール対応）」

⑦時間外、休日または深夜の診療状況等

図表 12　時間外、休日または深夜の診療状況等（平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月の 1 年間）
～時間外、休日または深夜の入院件数（精神疾患にかかるもの）～

（単位：件）

	回答施設数	平均値	標準偏差	中央値
全体	437	30.0	55.3	9.0
精神科急性期医療施設	165	65.8	75.3	42.0
精神科急性期以外の施設	272	8.3	15.3	3.0

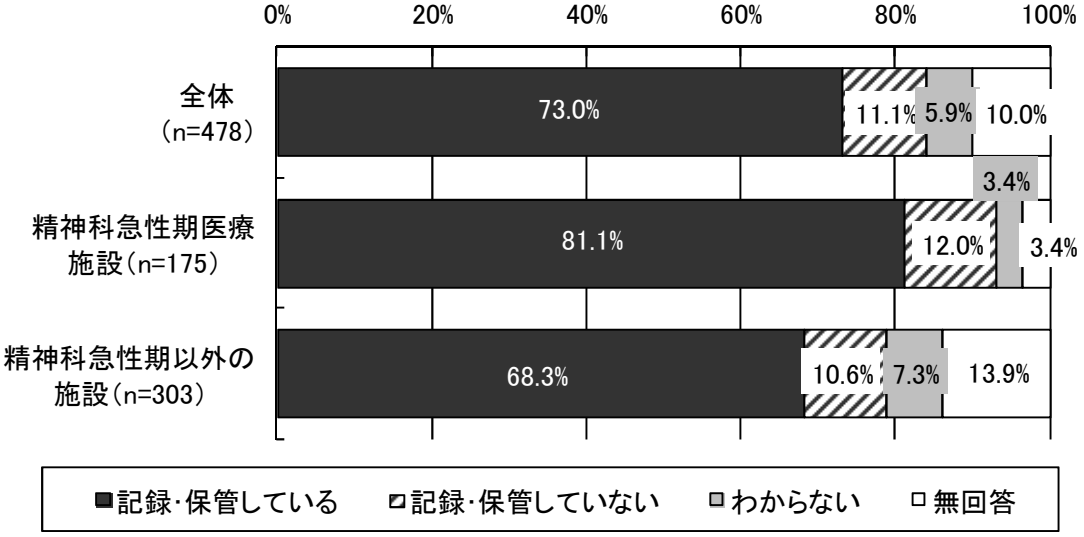
図表 13　時間外、休日または深夜の診療状況等（平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月の 1 年間）
～時間外、休日または深夜の診療（電話再診を除く）件数（精神疾患にかかるもの）～

（単位：件）

	回答施設数	平均値	標準偏差	中央値
全体	432	84.0	172.6	17.0
精神科急性期医療施設	165	175.8	235.7	94.0
精神科急性期以外の施設	267	27.2	74.5	5.0

⑧出来高情報の記録・保管状況

図表 14　出来高情報の記録・保管状況



（注）特定入院料に含まれて評価されている診療行為や検査等を実施した場合に、その診療行為等の項目・回数などのいわゆる「出来高情報」を記録・保管しているかを尋ねた。

⑨病棟数・許可病床数・病床利用率・平均在院日数

1）病棟数

図表 15　1 施設あたりの病棟数（全体、n=472）

（単位：病棟）

	平成 25 年 10 月			平成 26 年 10 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
精神病床	4.2	2.2	4.0	4.2	2.2	4.0
精神病棟入院基本料	1.7	1.6	1.0	1.7	1.6	1.0
精神科救急入院料	0.1	0.4	0.0	0.2	0.5	0.0
精神科救急･合併症入院料	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0
精神科急性期治療病棟入院料	0.3	0.5	0.0	0.3	0.5	0.0
児童･思春期精神科入院医療管理料	0.0	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0
精神療養病棟入院料	1.4	1.5	1.0	1.3	1.4	1.0
認知症治療病棟入院料	0.5	0.7	0.0	0.5	0.7	0.0
その他の精神科病棟	0.1	0.6	0.0	0.2	0.6	0.0
一般病床	1.3	4.1	0.0	1.3	4.0	0.0
療養病床	0.3	0.8	0.0	0.3	0.8	0.0
結核病床	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0
感染症病床	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0
病院全体	5.8	4.0	5.0	5.8	3.9	5.0

（注）すべての項目について回答のあった 472 施設を集計対象とした。

図表 16　1 施設あたりの病棟数（精神科急性期医療施設、n=173）

（単位：病棟）

	平成 25 年 10 月			平成 26 年 10 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
精神病床	5.2	2.4	5.0	5.2	2.4	5.0
精神病棟入院基本料	1.8	1.8	1.0	1.8	1.8	1.0
精神科救急入院料	0.4	0.6	0.0	0.5	0.7	0.0
精神科救急･合併症入院料	0.0	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0
精神科急性期治療病棟入院料	0.8	0.5	1.0	0.7	0.5	1.0
児童･思春期精神科入院医療管理料	0.1	0.2	0.0	0.1	0.2	0.0
精神療養病棟入院料	1.7	1.7	2.0	1.6	1.7	1.0
認知症治療病棟入院料	0.4	0.6	0.0	0.4	0.6	0.0
その他の精神科病棟	0.2	0.8	0.0	0.2	0.8	0.0
一般病床	1.8	5.2	0.0	1.7	5.1	0.0
療養病床	0.2	0.5	0.0	0.2	0.5	0.0
結核病床	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0
感染症病床	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0
病院全体	7.2	4.7	6.0	7.0	4.5	6.0

（注）すべての項目について回答のあった 173 施設を集計対象とした。

図表 17　1 施設あたりの病棟数（精神科急性期以外の施設、n=299）

（単位：病棟）

	平成 25 年 10 月			平成 26 年 10 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
精神病床	3.5	1.8	3.0	3.5	1.8	3.0
精神病棟入院基本料	1.7	1.5	1.0	1.7	1.5	1.0
精神科救急入院料	0.0	－	0.0	0.0	－	0.0
精神科救急・合併症入院料	0.0	－	0.0	0.0	－	0.0
精神科急性期治療病棟入院料	0.0	－	0.0	0.0	－	0.0
児童・思春期精神科入院医療管理料	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0
精神療養病棟入院料	1.2	1.2	1.0	1.2	1.2	1.0
認知症治療病棟入院料	0.5	0.8	0.0	0.5	0.8	0.0
その他の精神科病棟	0.1	0.5	0.0	0.1	0.5	0.0
一般病床	1.1	3.3	0.0	1.1	3.3	0.0
療養病床	0.4	1.0	0.0	0.4	1.0	0.0
結核病床	0.0	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0
感染症病床	0.0	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0
病院全体	5.0	3.4	4.0	5.0	3.4	4.0

（注）すべての項目について回答のあった 299 施設を集計対象とした。

2）許可病床数

図表 18　1 施設あたりの許可病床数（全体、n=472）

（単位：床）

	平成 25 年 10 月			平成 26 年 10 月			
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	
精神病床	222.9	123.8	202.5	221.8	124.0	200.0	*
精神病棟入院基本料	94.9	92.9	62.5	94.2	92.6	60.0	
精神科救急入院料	7.0	20.4	0.0	7.9	22.6	0.0	**
精神科救急・合併症入院料	0.7	6.9	0.0	0.8	7.3	0.0	
精神科急性期治療病棟入院料	13.3	23.8	0.0	13.1	23.6	0.0	
児童・思春期精神科入院医療管理料	0.8	5.5	0.0	0.8	5.5	0.0	
精神療養病棟入院料	74.7	81.1	60.0	72.4	79.3	59.0	**
認知症治療病棟入院料	24.3	39.8	0.0	24.9	40.1	0.0	*
その他の精神科病棟	7.3	31.3	0.0	7.8	32.1	0.0	
一般病床	54.1	158.8	0.0	52.8	156.1	0.0	
療養病床	13.4	43.1	0.0	13.3	43.1	0.0	
結核病床	0.5	2.8	0.0	0.5	2.8	0.0	
感染症病床	0.2	1.0	0.0	0.2	1.0	0.0	
病院全体	291.1	167.3	240.0	288.7	164.3	240.0	

（注）・すべての病床について回答のあった 472 施設を集計対象とした。

・**：$p < 0.01$、　*：$p < 0.05$ で有意だったもの

図表 19　1 施設あたりの許可病床数（精神科急性期医療施設、n=173）

（単位：床）

	平成 25 年 10 月			平成 26 年 10 月			
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	
精神病床	275.0	140.3	253.0	273.8	140.6	254.0	
精神病棟入院基本料	96.5	104.2	60.0	95.8	104.4	60.0	
精神科救急入院料	19.0	30.1	0.0	21.5	33.2	0.0	*
精神科救急・合併症入院料	1.9	11.3	0.0	2.2	11.9	0.0	
精神科急性期治療病棟入院料	36.2	26.8	43.0	35.7	26.8	41.0	
児童・思春期精神科入院医療管理料	1.7	7.9	0.0	1.7	7.9	0.0	
精神療養病棟入院料	91.1	96.8	79.0	87.6	94.6	60.0	**
認知症治療病棟入院料	18.6	30.4	0.0	18.9	30.5	0.0	
その他の精神科病棟	10.0	41.4	0.0	10.4	41.6	0.0	
一般病床	68.2	197.0	0.0	64.4	190.9	0.0	
療養病床	7.0	22.1	0.0	6.9	25.3	0.0	
結核病床	0.4	2.6	0.0	0.4	2.6	0.0	
感染症病床	0.2	1.2	0.0	0.2	1.0	0.0	
病院全体	350.7	189.0	296.0	345.7	184.5	299.0	

（注）・すべての病床について回答のあった 173 施設を集計対象とした。
・**：p＜0.01、　*：p<0.05 で有意だったもの

図表 20　1 施設あたりの許可病床数（精神科急性期以外の施設、n=299）

（単位：床）

	平成 25 年 10 月			平成 26 年 10 月			
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	
精神病床	192.8	101.8	180.0	191.8	102.2	180.0	**
精神病棟入院基本料	93.9	85.9	70.0	93.4	85.2	69.0	
精神科救急入院料	0.0		0.0	0.0		0.0	
精神科救急・合併症入院料	0.0		0.0	0.0		0.0	
精神科急性期治療病棟入院料	0.0		0.0	0.0		0.0	
児童・思春期精神科入院医療管理料	0.3	3.4	0.0	0.3	3.4	0.0	
精神療養病棟入院料	65.2	68.9	56.0	63.6	67.5	56.0	**
認知症治療病棟入院料	27.7	44.0	0.0	28.3	44.5	0.0	
その他の精神科病棟	5.7	23.5	0.0	6.2	25.0	0.0	
一般病床	46.0	131.5	0.0	46.1	131.7	0.0	
療養病床	17.1	51.2	0.0	17.1	50.3	0.0	
結核病床	0.5	2.9	0.0	0.5	2.9	0.0	
感染症病床	0.2	0.9	0.0	0.2	0.9	0.0	
病院全体	256.6	142.7	215.0	255.6	141.7	215.0	**

（注）・すべての病床について回答のあった 299 施設を集計対象とした。
・**：p＜0.01、　*：p<0.05 で有意だったもの

3）病床利用率

図表 21　病床利用率（全体）

（単位：%）

	平成 25 年 10 月				平成 26 年 10 月				
	施設数	平均値	標準偏差	中央値	施設数	平均値	標準偏差	中央値	
精神病床	430	87.7	13.5	92.0	432	87.2	13.2	91.0	**
精神病棟入院基本料	336	85.2	15.9	90.0	342	84.6	15.6	89.0	**
精神科救急入院料	57	88.0	7.3	88.0	59	87.1	8.9	89.0	
精神科救急・合併症入院料	6	89.2	10.1	92.0	7	83.1	17.7	90.0	
精神科急性期治療病棟入院料	118	83.6	12.3	87.0	116	82.9	11.6	85.0	
児童・思春期精神科入院医療管理料	11	75.2	18.2	75.0	11	77.2	21.9	87.0	
精神療養病棟入院料	275	94.2	8.0	96.0	272	93.3	8.7	96.0	**
認知症治療病棟入院料	159	91.3	11.6	95.0	163	91.2	10.8	94.0	
その他の精神科病棟	－	－	－	－	－	－	－	－	
一般病床	79	80.4	14.9	82.0	77	78.1	15.7	79.0	**
療養病床	－	－	－	－	－	－	－	－	
結核病床	－	－	－	－	－	－	－	－	
感染症病床	－	－	－	－	－	－	－	－	
病院全体	428	88.8	11.0	92.0	431	87.9	11.0	91.0	**

（注）・各病床を有する施設に限定して集計した。
・**：p＜0.01、　*：p<0.05 で有意だったもの

図表 22　病床利用率（精神科急性期医療施設）

（単位：%）

	平成 25 年 10 月				平成 26 年 10 月				
	施設数	平均値	標準偏差	中央値	施設数	平均値	標準偏差	中央値	
精神病床	164	88.0	10.8	90.8	164	87.2	11.1	90.4	**
精神病棟入院基本料	115	87.8	11.7	91.6	116	87.1	11.8	90.0	
精神科救急入院料	57	88.0	7.3	88.0	59	87.0	8.9	89.1	
精神科救急・合併症入院料	6	89.1	10.3	92.2	7	83.2	17.6	89.9	
精神科急性期治療病棟入院料	118	83.7	12.3	87.3	116	82.9	11.6	85.2	
児童・思春期精神科入院医療管理料	9	74.2	19.9	74.9	9	73.9	23.0	77.9	
精神療養病棟入院料	106	94.6	5.9	96.5	103	94.0	5.8	96.0	
認知症治療病棟入院料	52	91.3	8.5	93.7	53	91.7	7.4	94.3	
その他の精神科病棟	－	－	－	－	－	－	－	－	
一般病床	29	80.8	11.3	81.4	29	78.5	13.1	78.3	**
療養病床	－	－	－	－	－	－	－	－	
結核病床	－	－	－	－	－	－	－	－	
感染症病床	－	－	－	－	－	－	－	－	
病院全体	162	88.3	10.4	90.8	164	87.3	10.6	89.9	**

（注）・各病床を有する施設に限定して集計した。
・**：p＜0.01、　*：p<0.05 で有意だったもの

図表 23　病床利用率（精神科急性期以外の施設）

（単位：%）

	平成 25 年 10 月				平成 26 年 10 月				
	施設数	平均値	標準偏差	中央値	施設数	平均値	標準偏差	中央値	
精神病床	266	87.5	15.0	92.7	268	87.3	14.3	91.2	**
精神病棟入院基本料	221	83.8	17.6	89.9	226	83.3	17.1	88.3	**
精神科救急入院料	0				0				
精神科救急・合併症入院料	0				0				
精神科急性期治療病棟入院料	0				0				
児童・思春期精神科入院医療管理料	2	79.0	9.8	79.0	2	91.9	5.7	91.9	
精神療養病棟入院料	169	94.0	9.1	96.1	169	92.8	10.0	96.0	**
認知症治療病棟入院料	107	91.3	12.8	95.0	110	90.9	12.1	94.9	
その他の精神科病棟	－	－	－	－	－	－	－	－	
一般病床	50	80.1	16.8	83.0	48	77.7	17.1	79.4	**
療養病床	－	－	－	－	－	－	－	－	
結核病床	－	－	－	－	－	－	－	－	
感染症病床	－	－	－	－	－	－	－	－	
病院全体	266	89.1	11.3	92.8	267	88.3	11.3	91.1	**

（注）・各病床を有する施設に限定して集計した。
・**：p＜0.01、　*：p<0.05 で有意だったもの

4）平均在院日数

図表 24　平均在院日数（全体）

（単位：日）

	平成 25 年 10 月				平成 26 年 10 月				
	施設数	平均値	標準偏差	中央値	施設数	平均値	標準偏差	中央値	
精神病床	418	421.8	485.0	290.0	418	410.9	442.6	290.1	*
精神病棟入院基本料	331	442.0	881.8	254.0	333	411.6	697.6	246.1	
精神科救急入院料	55	60.0	60.2	50.5	57	59.9	42.4	54.2	
精神科救急・合併症入院料	4	57.0	15.5	51.0	5	53.0	14.1	56.0	
精神科急性期治療病棟入院料	117	69.6	41.1	62.2	116	71.1	70.1	60.9	
児童・思春期精神科入院医療管理料	9	131.7	59.3	132.5	9	137.7	71.3	102.0	
精神療養病棟入院料	266	1279.4	1469.7	853.0	263	1250.5	1375.2	809.0	
認知症治療病棟入院料	156	694.0	933.5	433.5	160	648.5	666.0	420.5	
その他の精神科病棟	－	－	－	－	－	－	－	－	
一般病床	77	93.8	265.5	15.0	75	78.4	228.2	15.0	
療養病床	－	－	－	－	－	－	－	－	
結核病床	－	－	－	－	－	－	－	－	
感染症病床	－	－	－	－	－	－	－	－	
病院全体	418	405.4	478.2	292.2	419	382.5	428.1	276.0	**

（注）・各病床を有する施設に限定して集計した。
・**：p＜0.01、　*：p<0.05 で有意だったもの

図表 25　平均在院日数（精神科急性期医療施設）

（単位：日）

	平成 25 年 10 月				平成 26 年 10 月				
	施設数	平均値	標準偏差	中央値	施設数	平均値	標準偏差	中央値	
精神病床	160	231.0	308.8	192.7	160	220.3	293.0	187.0	**
精神病棟入院基本料	114	505.0	1269.4	256.5	114	463.3	937.9	266.9	
精神科救急入院料	55	60.0	60.2	50.5	57	59.9	42.4	54.2	
精神科救急・合併症入院料	4	57.0	15.5	51.0	5	53.0	14.1	56.0	
精神科急性期治療病棟入院料	117	69.6	41.1	62.2	116	71.1	70.1	60.9	
児童・思春期精神科入院医療管理料	7	136.2	64.1	132.5	7	127.2	66.1	102.0	
精神療養病棟入院料	104	1072.3	987.5	770.0	102	1030.0	1045.3	727.5	**
認知症治療病棟入院料	52	460.7	539.0	324.0	53	462.9	550.4	300.0	
その他の精神科病棟	－	－	－	－	－	－	－	－	
一般病床	27	31.3	43.9	15.0	27	29.6	32.4	16.0	
療養病床	－	－	－	－	－	－	－	－	
結核病床	－	－	－	－	－	－	－	－	
感染症病床	－	－	－	－	－	－	－	－	
病院全体	160	226.2	311.3	194.0	161	213.0	295.6	179.4	**

（注）・各病床を有する施設に限定して集計した。
・**：p＜0.01、　*：p<0.05 で有意だったもの

図表 26　平均在院日数（精神科急性期以外の施設）

（単位：日）

	平成 25 年 10 月				平成 26 年 10 月				
	施設数	平均値	標準偏差	中央値	施設数	平均値	標準偏差	中央値	
精神病床	258	540.2	534.8	419.0	258	529.0	477.6	419.5	
精神病棟入院基本料	217	408.8	584.8	247.0	219	384.7	532.1	244.0	
精神科救急入院料	0				0				
精神科救急・合併症入院料	0				0				
精神科急性期治療病棟入院料	0				0				
児童・思春期精神科入院医療管理料	2	115.7	53.2	115.7	2	174.4	105.2	174.4	
精神療養病棟入院料	162	1412.4	1698.8	909.5	161	1390.2	1535.0	867.0	
認知症治療病棟入院料	104	810.6	1061.3	501.3	107	740.5	700.7	483.0	
その他の精神科病棟	－	－	－	－	－	－	－	－	
一般病床	50	127.5	324.1	14.7	48	105.8	281.6	15.0	
療養病床	－	－	－	－	－	－	－	－	
結核病床	－	－	－	－	－	－	－	－	
感染症病床	－	－	－	－	－	－	－	－	
病院全体	258	516.5	527.9	405.3	258	488.3	463.1	404.1	

（注）・各病床を有する施設に限定して集計した。
・**：p＜0.01、　*：p<0.05 で有意だったもの

（２）精神科の診療体制等

①精神科の外来を担当している医師数

図表 27　精神科の外来を担当している医師数

（単位：人）

		平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
		常勤	非常勤	常勤	非常勤
全体	回答施設数	469	469	473	473
	平均値	5.8	1.1	5.9	1.2
	標準偏差	4.4	1.6	4.4	2.1
	中央値	5.0	0.6	5.0	0.6
精神科急性期医療施設	回答施設数	174	174	174	174
	平均値	9.1	1.5	9.2	1.8
	標準偏差	5.2	1.9	5.2	3.1
	中央値	8.0	1.0	8.0	1.0
精神科急性期以外の施設	回答施設数	295	295	299	299
	平均値	3.8	0.8	3.9	0.8
	標準偏差	2.1	1.2	2.1	1.2
	中央値	4.0	0.3	4.0	0.3

図表 28　精神科外来専従の医師数

（単位：人）

		平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
		常勤	非常勤	常勤	非常勤
全体	回答施設数	469	469	473	473
	平均値	0.1	0.3	0.2	0.3
	標準偏差	0.9	0.8	1.0	0.9
	中央値	0.0	0.0	0.0	0.0
精神科急性期医療施設	回答施設数	174	174	174	174
	平均値	0.3	0.6	0.3	0.6
	標準偏差	1.3	1.2	1.5	1.4
	中央値	0.0	0.0	0.0	0.0
精神科急性期以外の施設	回答施設数	295	295	299	299
	平均値	0.1	0.1	0.1	0.1
	標準偏差	0.4	0.4	0.5	0.4
	中央値	0.0	0.0	0.0	0.0

②１週間の外来診療従事時間

図表 29　１週間の外来診療従事時間

（単位：時間）

	回答施設数	常勤			非常勤		
		平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
全体	418	54.4	63.5	40.0	11.8	18.1	6.0
精神科急性期医療施設	148	84.6	92.7	68.1	17.0	23.2	10.5
精神科急性期以外の施設	270	37.8	27.9	32.5	9.0	13.8	4.0

（注）外来診療従事時間とは、実際に患者の診療を行った時間であり、平成 26 年 10 月 19 日～10 月 25 日の 1 週間に精神科の外来を担当した医師全員の、外来患者の診療を行った時間の総合計時間。

③１週間の外来延べ患者数

図表 30　１週間の外来延べ患者数

（単位：人）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
全体	418	381.1	346.8	299.0
精神科急性期医療施設	148	619.4	448.0	535.5
精神科急性期以外の施設	270	250.4	168.6	221.0

（注）1 週間の外来延べ患者数とは、平成 26 年 10 月 19 日～10 月 25 日の 1 週間に精神科の標榜診療時間に外来受診した患者の延べ人数（初診＋再診延べ患者数）。

④精神科病棟に従事している職員数

図表 31　1施設あたりの精神科病棟に従事している職員数（全体、n=454）

（単位：人）

	平成25年10月			平成26年10月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
医師	8.2	5.7	7.0	8.4	5.8	7.0
（うち）精神保健指定医	5.1	3.3	4.8	5.3	3.4	5.0
（うち）精神科特定医師	0.3	1.2	0.0	0.4	1.3	0.0
（うち）上記以外の精神科医	1.4	2.0	1.0	1.4	2.0	1.0
（うち）内科医	0.9	1.7	0.2	1.0	1.8	0.2
（うち）外科医	0.1	0.3	0.0	0.1	0.4	0.0
看護師（保健師を含む）	47.3	37.7	36.1	47.9	38.0	37.0
（うち）精神看護専門看護師	0.1	0.5	0.0	0.1	0.5	0.0
（うち）認知症看護認定看護師	0.1	0.4	0.0	0.1	0.5	0.0
（うち）精神科認定看護師	0.5	1.0	0.0	0.5	1.1	0.0
准看護師	24.2	17.2	23.0	23.2	16.5	21.9
看護補助者	28.2	20.5	25.0	27.7	20.0	24.8
薬剤師	2.1	3.0	2.0	2.0	3.0	2.0
作業療法士	4.2	4.0	3.0	4.3	4.1	3.0
臨床心理技術者	1.1	1.7	0.2	1.1	1.8	0.2
精神保健福祉士	3.7	3.5	3.0	3.9	3.6	3.0
社会福祉士	0.1	0.4	0.0	0.1	0.5	0.0
事務職員	1.8	3.8	0.0	1.8	3.9	0.0
その他の職員	1.9	6.5	0.0	1.9	6.6	0.0
精神科病棟職員数合計	122.6	70.6	108.9	122.3	70.7	108.8

（注）・うち数を除くすべての職種について平成25年10月、平成26年10月ともに人数の記載のあった施設を集計対象とした。
・「精神看護専門看護師」、「認知症看護認定看護師」は日本看護協会の認定した者。「精神科認定看護師」は、日本精神科看護協会の認定した者。
・「社会福祉士」には、「精神保健福祉士」として従事する者は含まない。
・「事務職員」「その他の職員」は、精神科病棟専従者に限る。

図表 32　1 施設あたりの精神科病棟に従事している職員数（精神科急性期医療施設、n=167）

（単位：人）

	平成 25 年 10 月			平成 26 年 10 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
医師	11.5	6.2	9.9	11.8	6.4	10.3
（うち）精神保健指定医	7.5	3.7	7.0	7.7	3.9	7.0
（うち）精神科特定医師	0.8	1.9	0.0	0.8	1.8	0.0
（うち）上記以外の精神科医	2.0	2.6	1.0	2.1	2.5	1.0
（うち）内科医	0.7	1.0	0.2	0.8	1.3	0.2
（うち）外科医	0.0	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0
看護師（保健師を含む）	72.9	45.5	61.0	73.9	45.9	59.0
（うち）精神看護専門看護師	0.2	0.7	0.0	0.2	0.8	0.0
（うち）認知症看護認定看護師	0.1	0.4	0.0	0.2	0.5	0.0
（うち）精神科認定看護師	0.8	1.3	0.0	0.8	1.4	0.0
准看護師	24.3	19.8	23.0	22.9	18.9	21.4
看護補助者	31.6	22.1	30.0	31.2	22.0	30.2
薬剤師	2.7	4.2	2.0	2.7	4.1	2.0
作業療法士	5.6	5.1	4.0	5.7	5.1	4.8
臨床心理技術者	1.8	2.2	1.0	1.9	2.4	1.0
精神保健福祉士	5.6	4.4	5.0	5.9	4.4	5.0
社会福祉士	0.1	0.4	0.0	0.1	0.3	0.0
事務職員	1.8	4.5	0.0	1.8	4.7	0.0
その他の職員	1.7	7.6	0.0	1.7	7.8	0.0
精神科病棟職員数合計	159.4	79.5	146.7	159.5	79.9	145.6

（注）・うち数を除くすべての職種について平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに人数の記載のあった施設を集計対象とした。
・「精神看護専門看護師」、「認知症看護認定看護師」は日本看護協会の認定した者。「精神科認定看護師」は、日本精神科看護協会の認定した者。
・「社会福祉士」には、「精神保健福祉士」として従事する者は含まない。
・「事務職員」「その他の職員」は、精神科病棟専従者に限る。

図表 33　1 施設あたりの精神科病棟に従事している職員数

（精神科急性期以外の施設、n=287）

（単位：人）

	平成 25 年 10 月			平成 26 年 10 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
医師	6.4	4.5	5.9	6.5	4.4	6.0
（うち）精神保健指定医	3.8	2.1	3.2	3.9	2.0	3.8
（うち）精神科特定医師	0.1	0.3	0.0	0.1	0.7	0.0
（うち）上記以外の精神科医	1.1	1.4	0.8	1.1	1.4	0.7
（うち）内科医	1.0	2.0	0.3	1.1	2.1	0.3
（うち）外科医	0.1	0.4	0.0	0.1	0.4	0.0
看護師（保健師を含む）	32.5	21.1	27.0	32.8	21.0	27.0
（うち）精神看護専門看護師	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0
（うち）認知症看護認定看護師	0.1	0.3	0.0	0.1	0.4	0.0
（うち）精神科認定看護師	0.2	0.6	0.0	0.3	0.6	0.0
准看護師	24.1	15.5	23.0	23.3	15.0	22.0
看護補助者	26.2	19.3	23.0	25.7	18.6	22.3
薬剤師	1.7	2.0	1.5	1.7	2.0	1.5
作業療法士	3.4	3.0	3.0	3.5	3.1	3.0
臨床心理技術者	0.7	1.1	0.0	0.7	1.2	0.0
精神保健福祉士	2.6	2.3	2.0	2.7	2.4	2.0
社会福祉士	0.1	0.4	0.0	0.1	0.5	0.0
事務職員	1.7	3.4	0.0	1.8	3.5	0.0
その他の職員	2.0	5.7	0.0	2.0	5.8	0.0
精神科病棟職員数合計	101.2	54.6	92.1	100.6	54.1	92.0

（注）・うち数を除くすべての職種について平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに人数の記載のあった施設を集計対象とした。

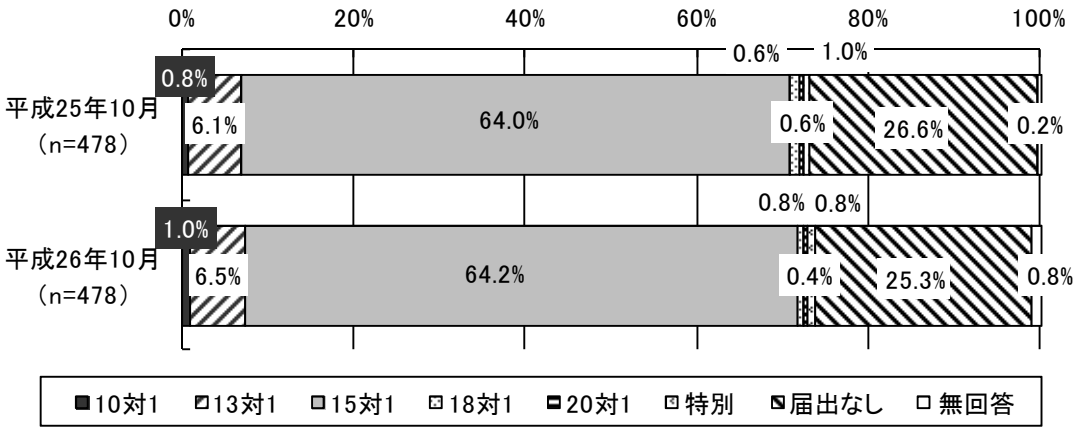
・「精神看護専門看護師」、「認知症看護認定看護師」は日本看護協会の認定した者。「精神科認定看護師」は、日本精神科看護協会の認定した者。

・「社会福祉士」には、「精神保健福祉士」として従事する者は含まない。

・「事務職員」「その他の職員」は、精神科病棟専従者に限る。

⑤精神病棟入院基本料の種類

図表 34　精神病棟入院基本料の種類



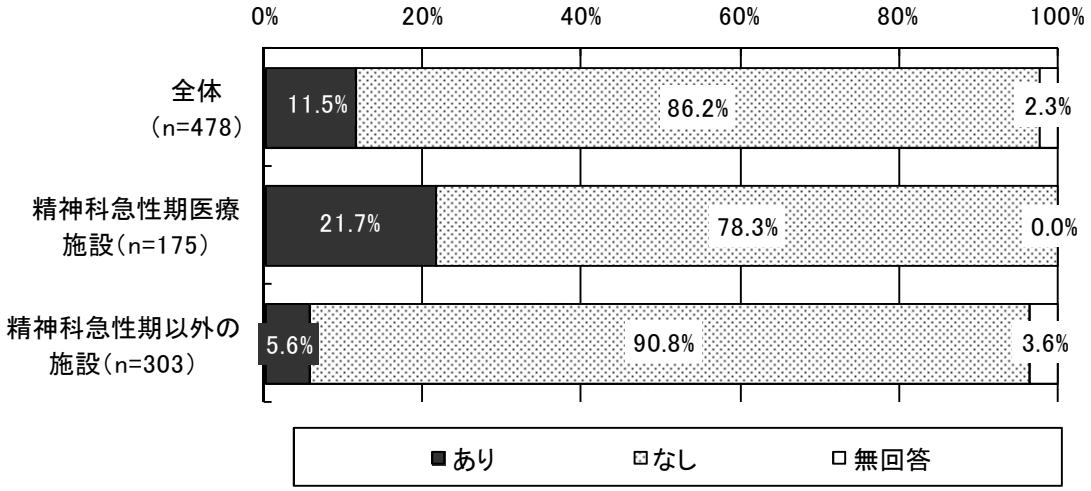
（注）特定機能病院入院基本料（精神病棟）は平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに、「13 対 1」の施設が 1 施設、「届出なし」の施設が 2 施設であった。

（３）精神医療・認知症医療の実施状況等

①施設基準の届出状況等

1）精神病棟入院時医学管理加算

図表 35　精神病棟入院時医学管理加算の届出の有無

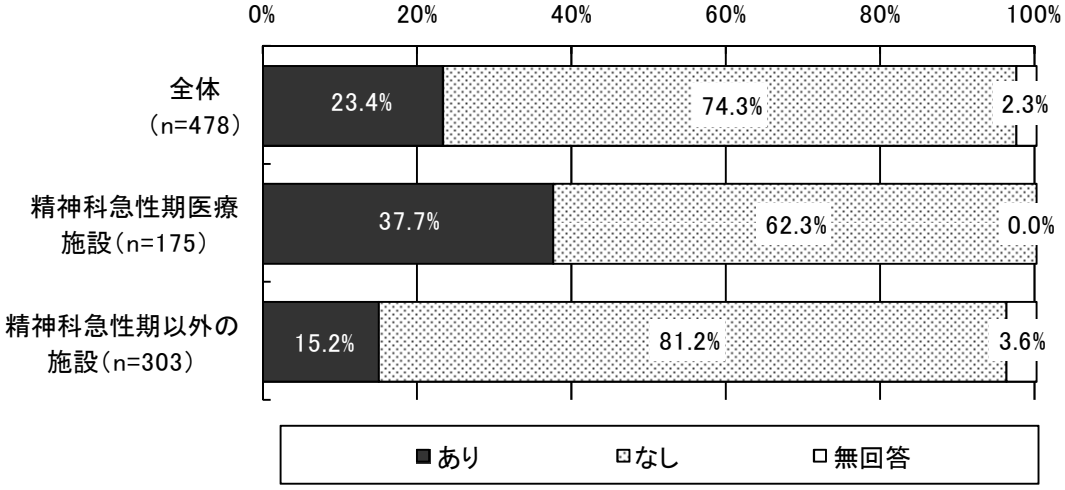


図表 36　精神病棟入院時医学管理加算の届出時期

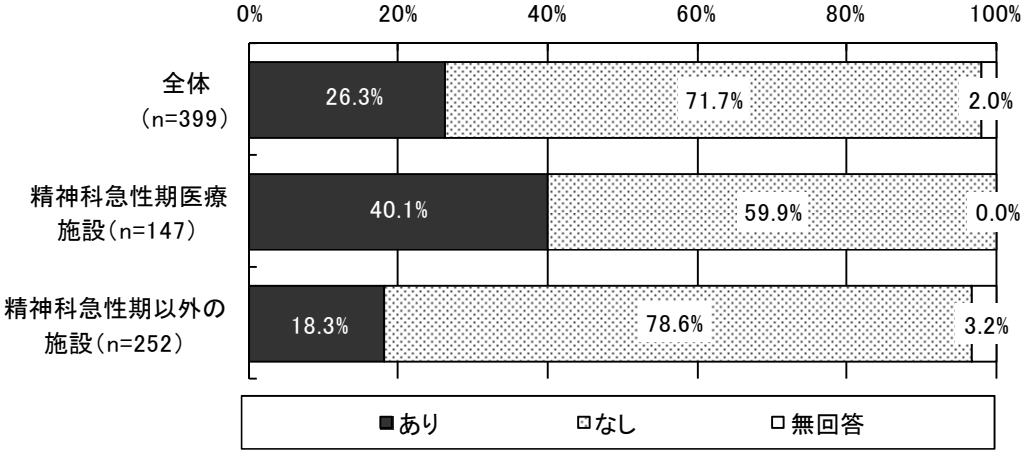
	施設数	割合
平成 12 年 4 月～平成 14 年 3 月	13	23.6%
平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月	8	14.5%
平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月	1	1.8%
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	8	14.5%
平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月	7	12.7%
平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月	3	5.5%
平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月	11	20.0%
平成 26 年 4 月～	2	3.6%
不明	2	3.6%
合計	55	100.0%

2）精神科地域移行実施加算

図表 37　精神科地域移行実施加算の届出の有無



図表 38　精神科地域移行実施加算の届出の有無（算定可能な病棟を有する施設）

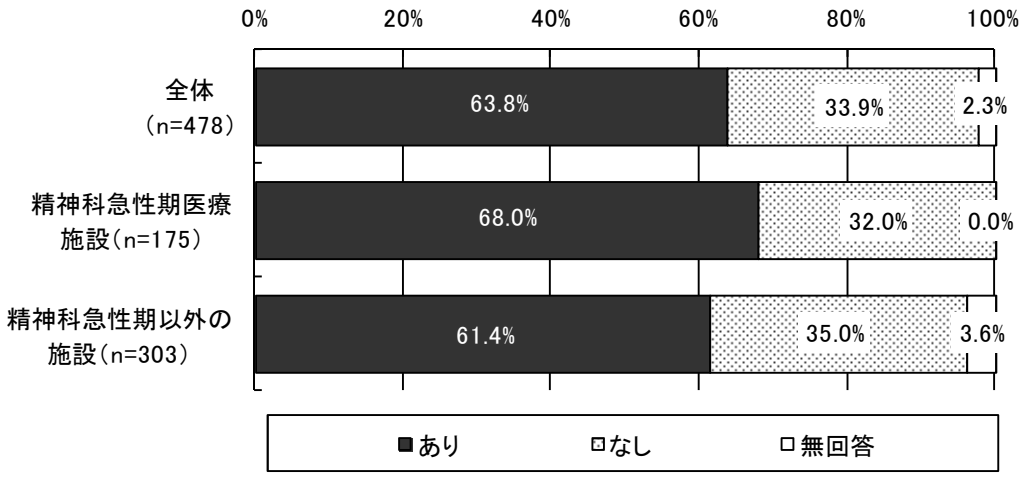


図表 39　精神科地域移行実施加算の届出時期

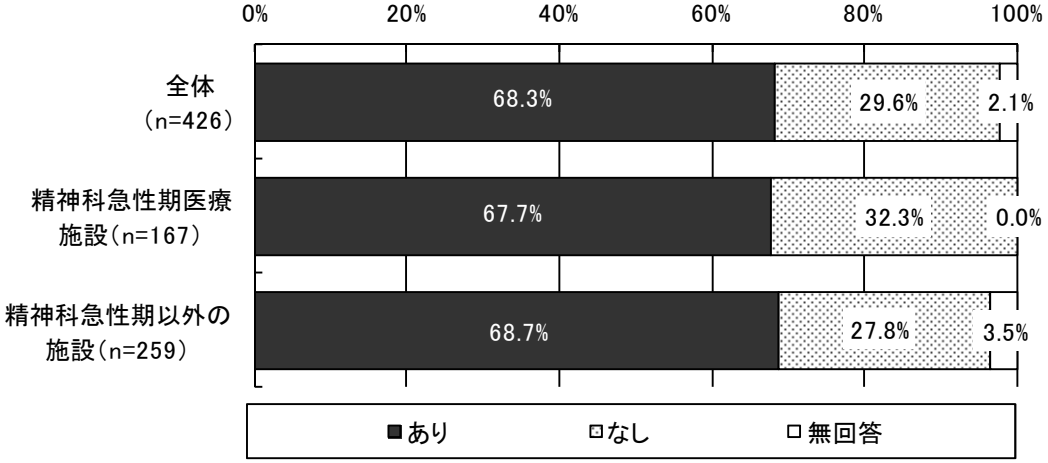
	施設数	割合
～平成 21 年 3 月	47	42.0%
平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月	9	8.0%
平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月	7	6.3%
平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月	15	13.4%
平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月	6	5.4%
平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月	12	10.7%
平成 26 年 4 月～	10	8.9%
不明	6	5.4%
合計	112	100.0%

3）精神科身体合併症管理加算

図表 40　精神科身体合併症管理加算の届出の有無



図表 41　精神科身体合併症管理加算の届出の有無（算定可能な病棟を有する施設）

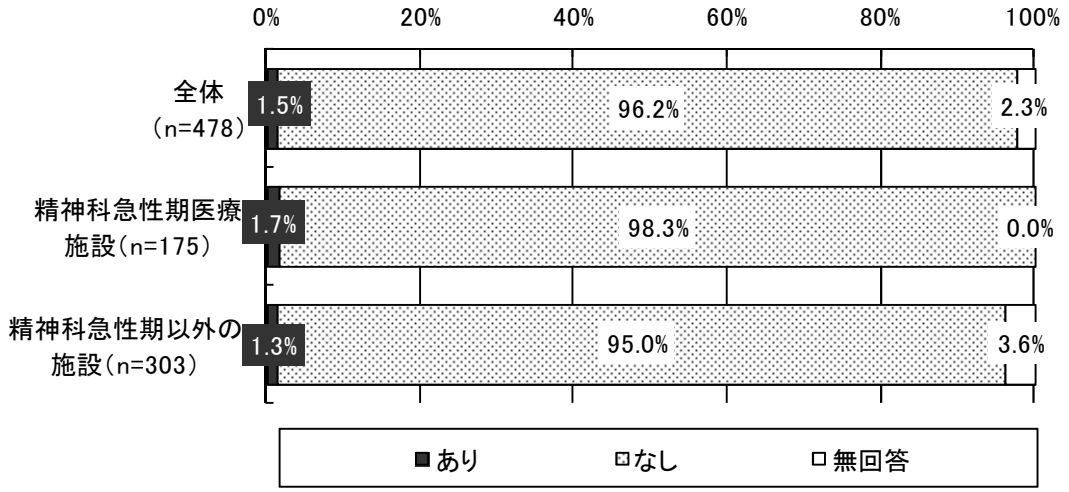


図表 42　精神科身体合併症管理加算の届出時期

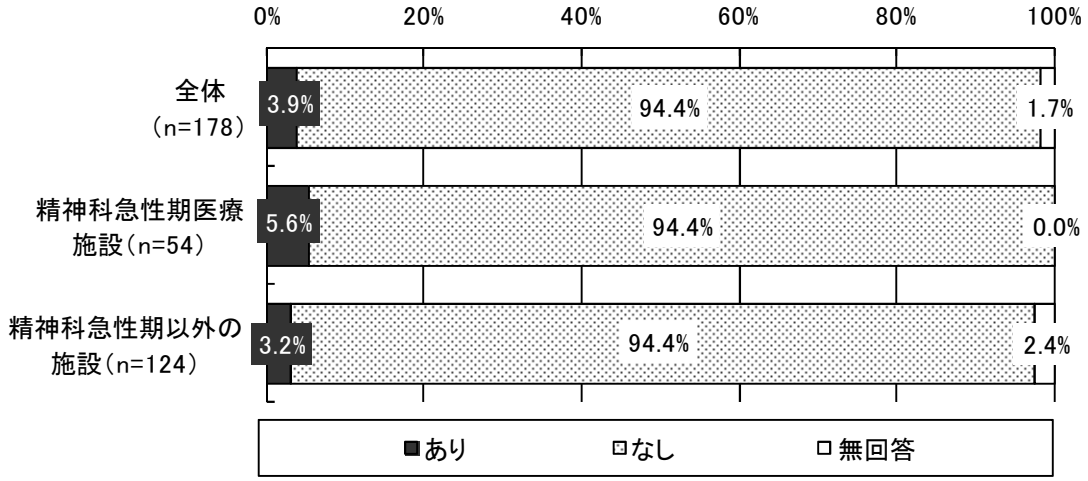
	施設数	割合
～平成 21 年 3 月	215	70.5%
平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月	17	5.6%
平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月	22	7.2%
平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月	4	1.3%
平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月	12	3.9%
平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月	16	5.2%
平成 26 年 4 月～	7	2.3%
不明	12	3.9%
合計	305	100.0%

4）精神科リエゾンチーム加算

図表 43　精神科リエゾンチーム加算の届出の有無



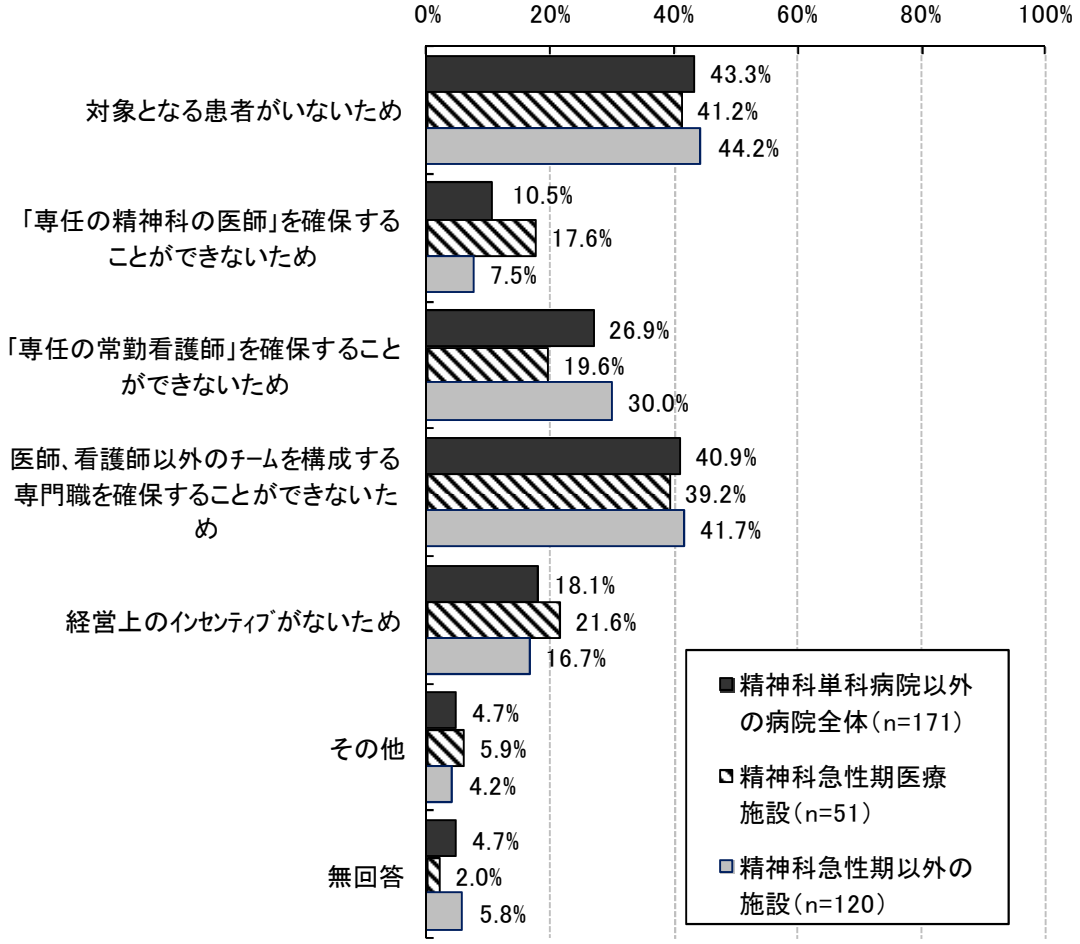
図表 44　精神科リエゾンチーム加算の届出の有無（精神科単科病院を除く）



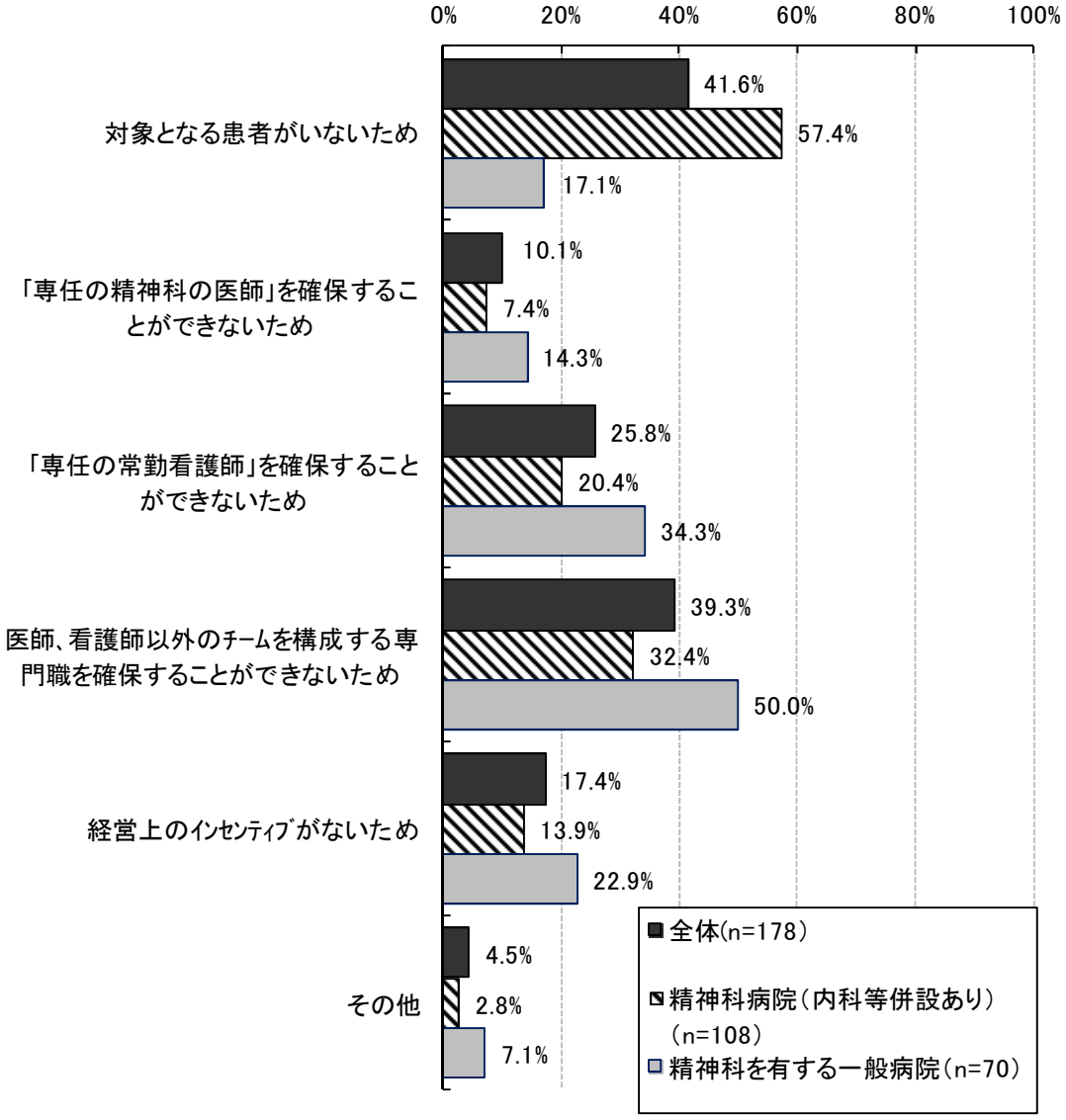
図表 45　精神科リエゾンチーム加算の届出時期

	施設数	割合
～平成 26 年 3 月	6	85.7%
平成 26 年 4 月～	1	14.3%
合計	7	100.0%

図表 46　精神科リエゾンチーム加算の届出をしていない理由
（届出をしていない施設（精神科単科病院を除く）、複数回答）

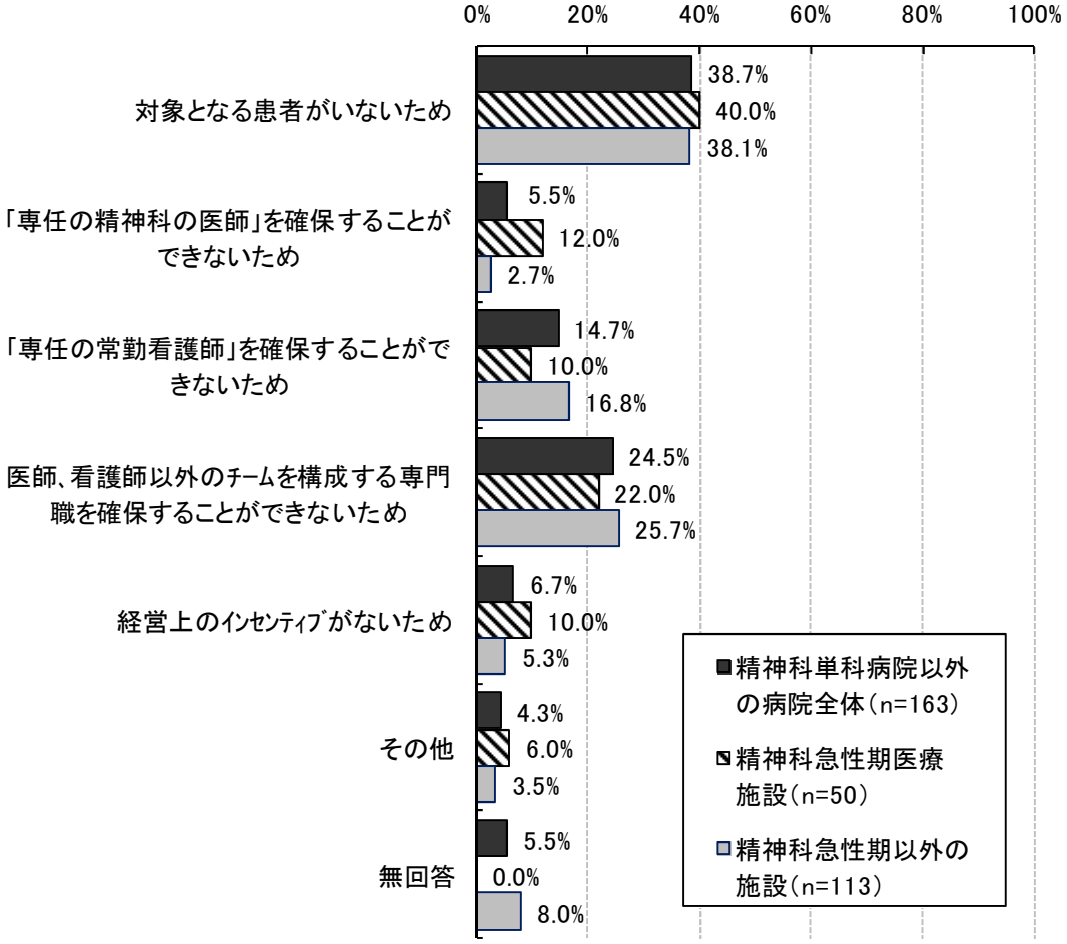


図表 47　精神科リエゾンチーム加算の届出をしていない理由
（病院種別別、届出をしていない施設（精神科単科病院を除く）、複数回答）

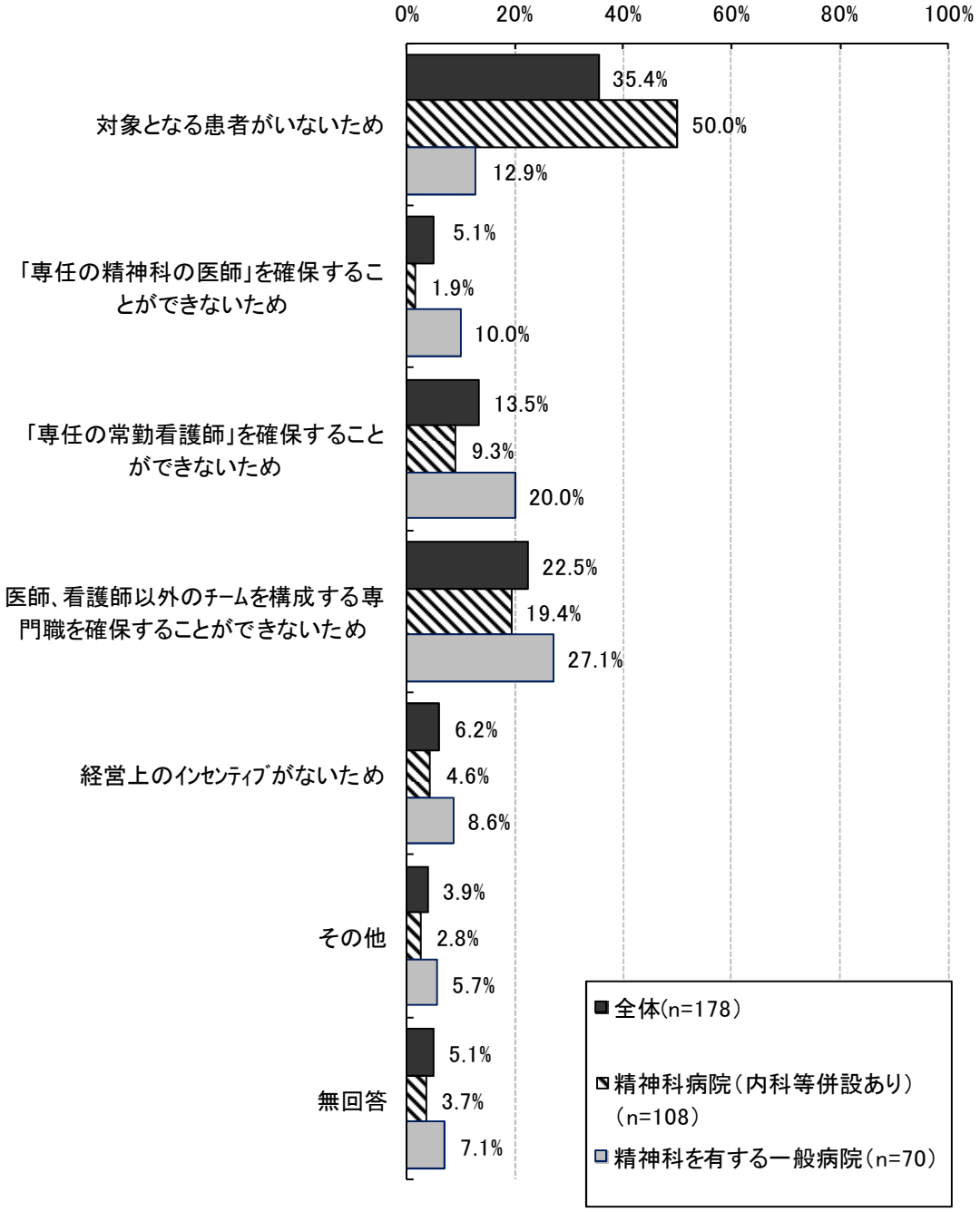


（注）「精神科を有する一般病院」には、精神科を有する特定機能病院 3 施設が含まれている。

図表 48　精神科リエゾンチーム加算の届出をしていない最大の理由
（届出をしていない施設（精神科単科病院を除く）、単数回答）



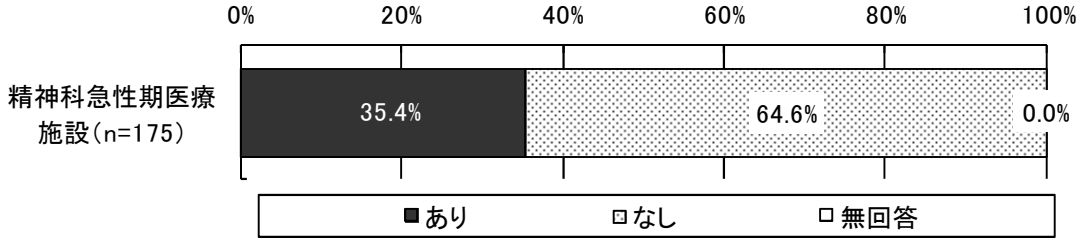
図表 49　精神科リエゾンチーム加算の届出をしていない最大の理由
（病院種別別、届出をしていない施設（精神科単科病院を除く）、単数回答）



（注）「精神科を有する一般病院」には、精神科を有する特定機能病院 3 施設が含まれている。

5）精神科救急搬送患者地域連携紹介加算

図表 50　精神科救急搬送患者地域連携紹介加算の届出の有無

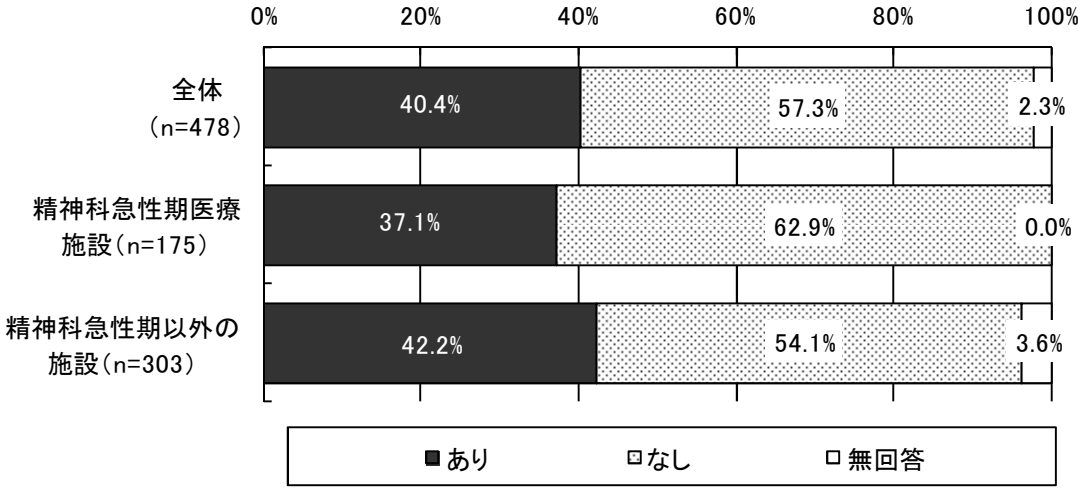


図表 51　精神科救急搬送患者地域連携紹介加算の届出時期

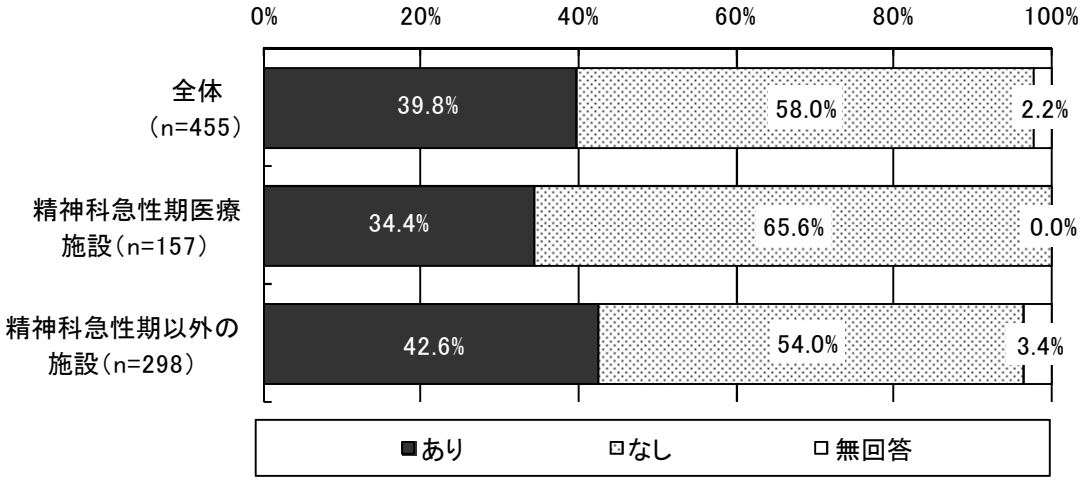
	施設数	割合
～平成 25 年 3 月	58	93.5%
平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月	2	3.2%
平成 26 年 4 月～	2	3.2%
合計	62	100.0%

6）精神科救急搬送患者地域連携受入加算

図表 52　精神科救急搬送患者地域連携受入加算の届出の有無



図表 53　精神科救急搬送患者地域連携受入加算の届出の有無
（届出可能な病棟を有する施設）

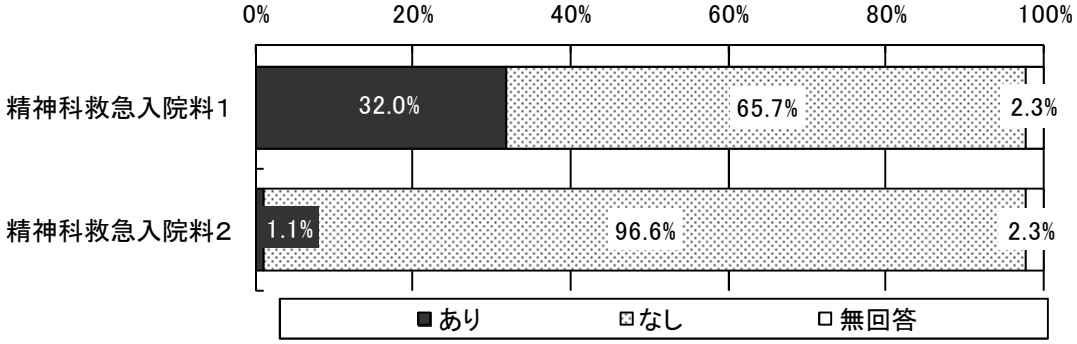


図表 54　精神科救急搬送患者地域連携受入加算の届出時期

	施設数	割合
～平成 25 年 3 月	170	93.9%
平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月	5	2.8%
平成 26 年 4 月～	1	0.6%
不明	5	2.8%
合計	181	100.0%

7）精神科救急入院料

図表 55　精神科救急入院料の届出の有無（精神科急性期医療施設、n=175）



図表 56　精神科救急入院料１の届出時期

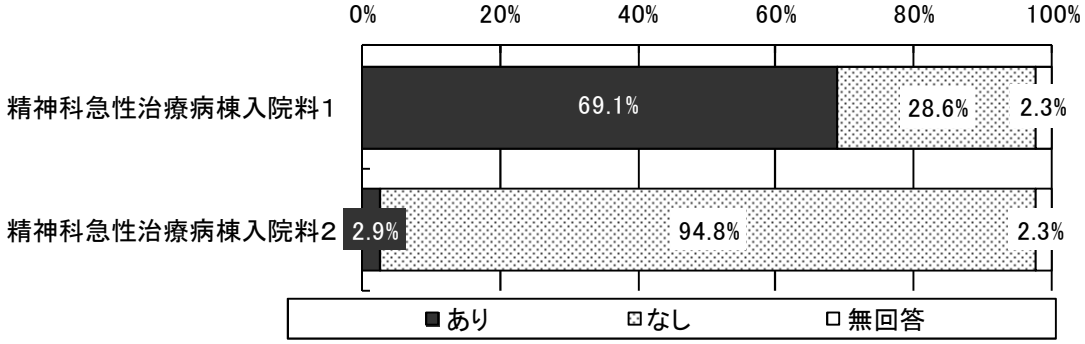
	施設数（件）	割合
～平成 21 年 3 月	18	32.1%
平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月	7	12.5%
平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月	4	7.1%
平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月	7	12.5%
平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月	5	8.9%
平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月	4	7.1%
平成 26 年 4 月～	11	19.6%
合計	56	100.0%

図表 57　精神科救急入院料２の届出時期

	施設数（件）	割合
平成 23 年 6 月	1	50.0%
平成 26 年 11 月	1	50.0%
合計	2	100.0%

8）精神科急性期治療病棟入院料

図表 58　精神科急性期治療病棟入院料の届出の有無（精神科急性期医療施設、n=175）



図表 59　精神科急性期治療病棟入院料１の届出時期

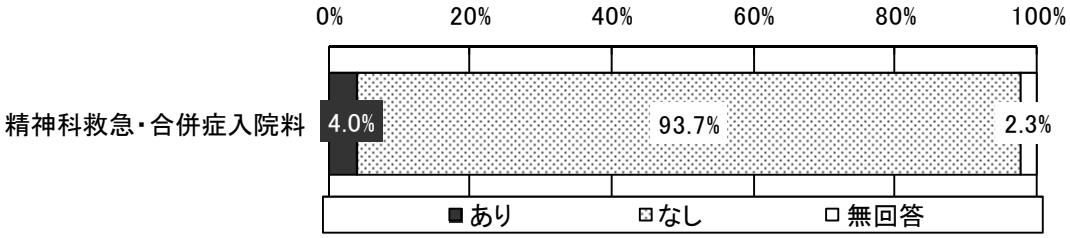
	施設数	割合
～平成 16 年 3 月	14	11.6%
平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月	8	6.6%
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	24	19.8%
平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月	23	19.0%
平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月	15	12.4%
平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月	22	18.2%
平成 26 年 4 月～	11	9.1%
不明	4	3.3%
合計	121	100.0%

図表 60　精神科急性期治療病棟入院料２の届出時期

	施設数	割合
～平成 22 年 3 月	2	40.0%
平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月	2	40.0%
平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月	0	0.0%
平成 26 年 4 月～	1	20.0%
合計	5	100.0%

9）精神科救急・合併症入院料

図表 61　精神科救急・合併症入院料の届出の有無（精神科急性期医療施設、n=175）

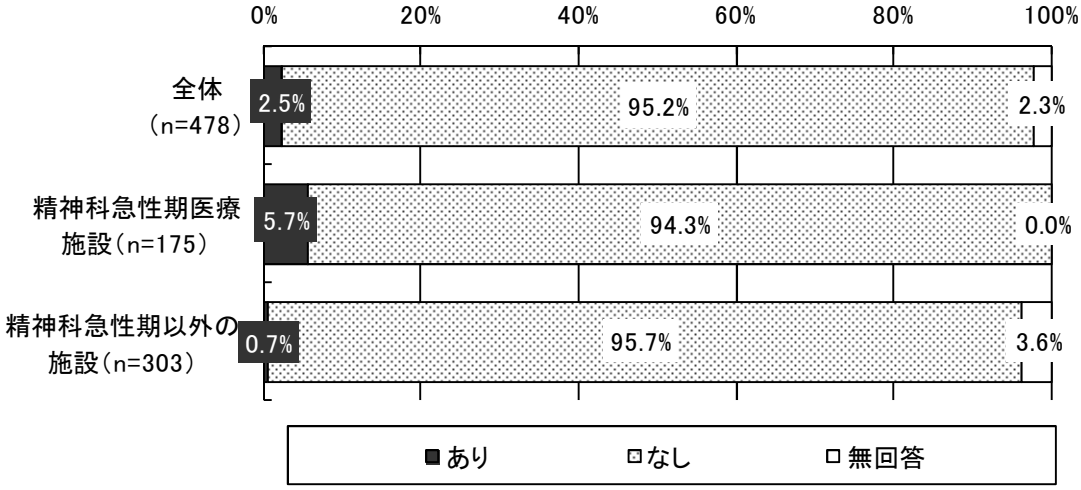


図表 62　精神科救急・合併症入院料の届出時期

	施設数	割合
～平成 22 年 3 月	2	28.6%
平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月	1	14.3%
平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月	2	28.6%
平成 26 年 4 月～	1	14.3%
不明	1	14.3%
合計	7	100.0%

10）児童・思春期精神科入院医療管理料

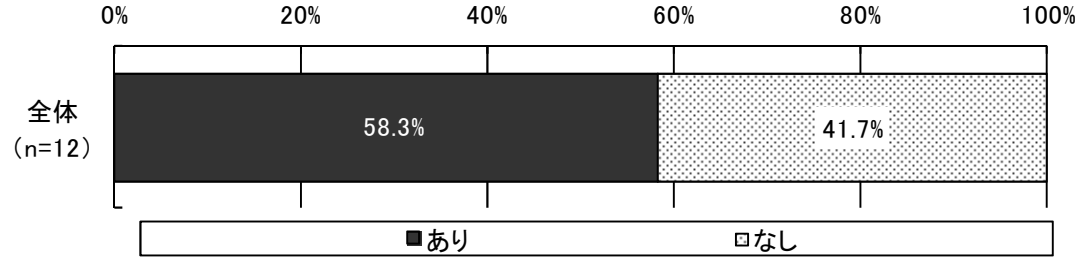
図表 63　児童・思春期精神科入院医療管理料の届出の有無



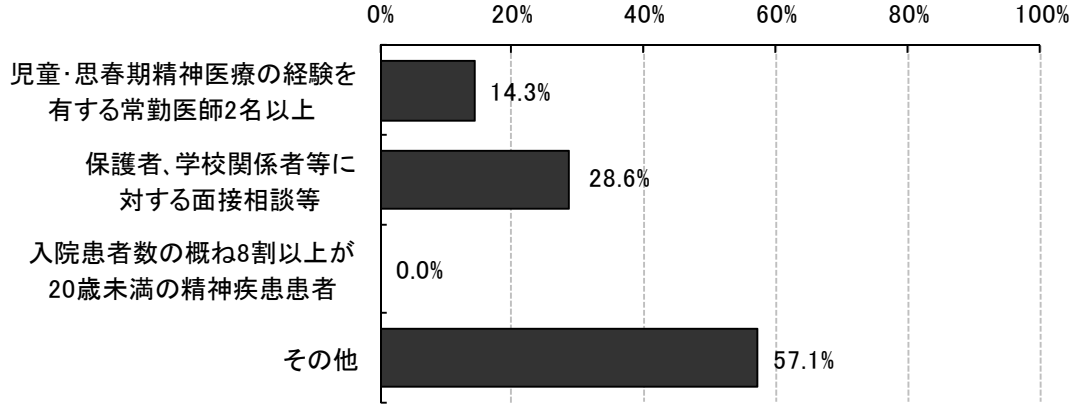
図表 64　児童・思春期精神科入院医療管理料の届出時期

	施設数	割合
～平成 25 年 3 月	9	75.0%
平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月	2	16.7%
平成 26 年 4 月～	1	8.3%
合計	12	100.0%

図表 65　児童・思春期精神科入院医療管理料の施設基準の中で改善が必要と思われる要件の有無（届出のある施設）



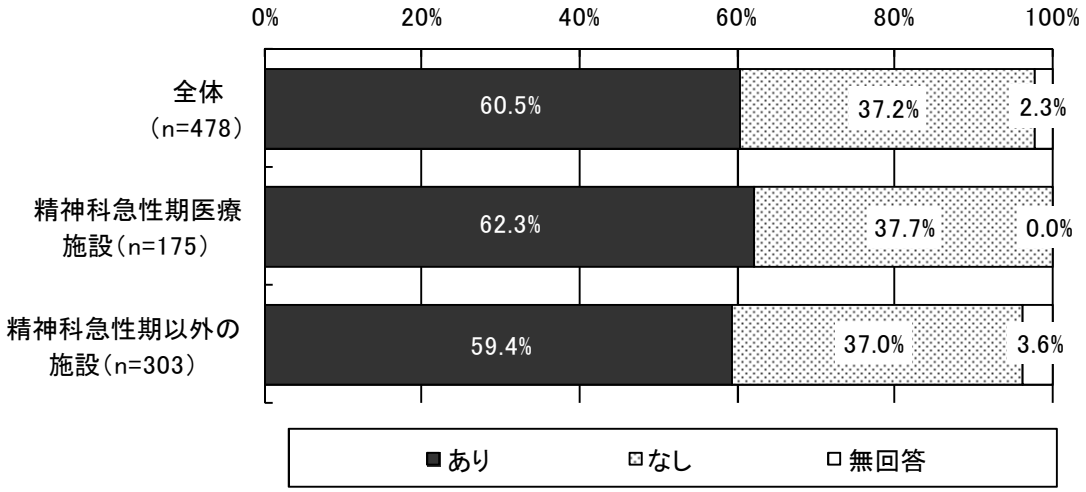
図表 66　児童・思春期精神科入院医療管理料の施設基準の中で改善が必要と思われる要件（届出のある施設のうち、改善が必要と思われる要件が「ある」と回答した施設、単数回答、n=7）



（注）「その他」は複数を選択したもの。

11）精神療養病棟入院料

図表 67　精神療養病棟入院料の届出の有無

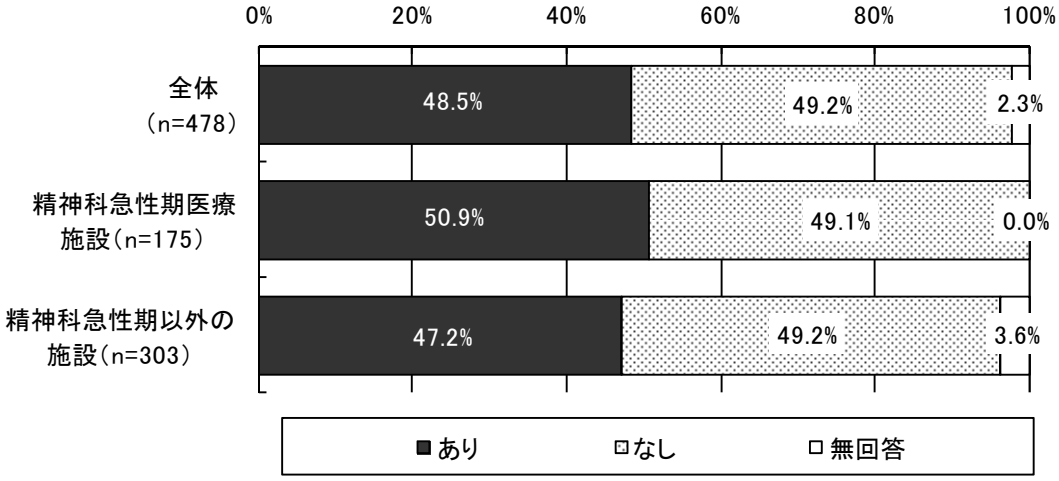


図表 68　精神療養病棟入院料の届出時期

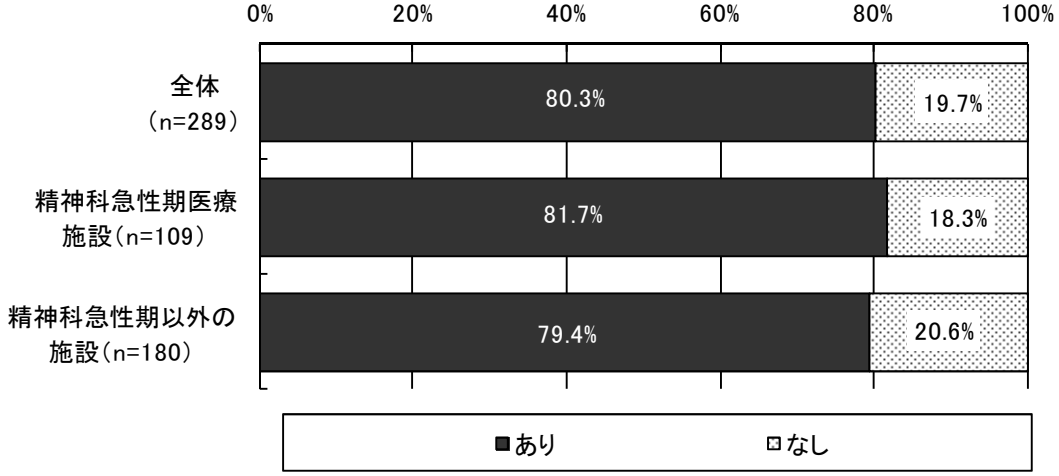
	施設数	割合
～平成 12 年 3 月	44	15.2%
平成 12 年 4 月～平成 14 年 3 月	32	11.1%
平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月	49	17.0%
平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月	30	10.4%
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	32	11.1%
平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月	19	6.6%
平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月	6	2.1%
平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月	16	5.5%
平成 26 年 4 月～	33	11.4%
不明	28	9.7%
合計	289	100.0%

12）精神療養病棟入院料　重症者加算１

図表 69　精神療養病棟入院料　重症者加算１の届出の有無



図表 70　精神療養病棟入院料　重症者加算１の届出の有無
（精神療養病棟入院料の届出がある施設）

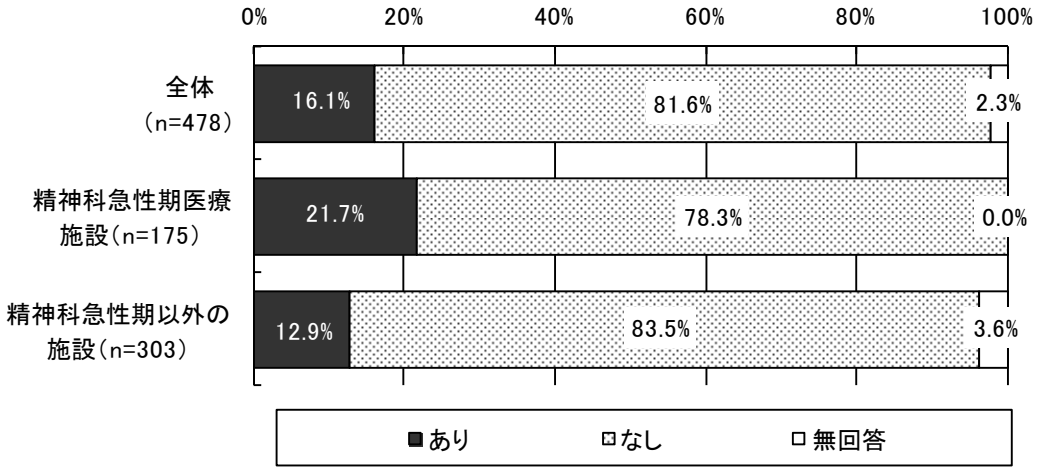


図表 71　精神療養病棟入院料　重症者加算１の届出時期

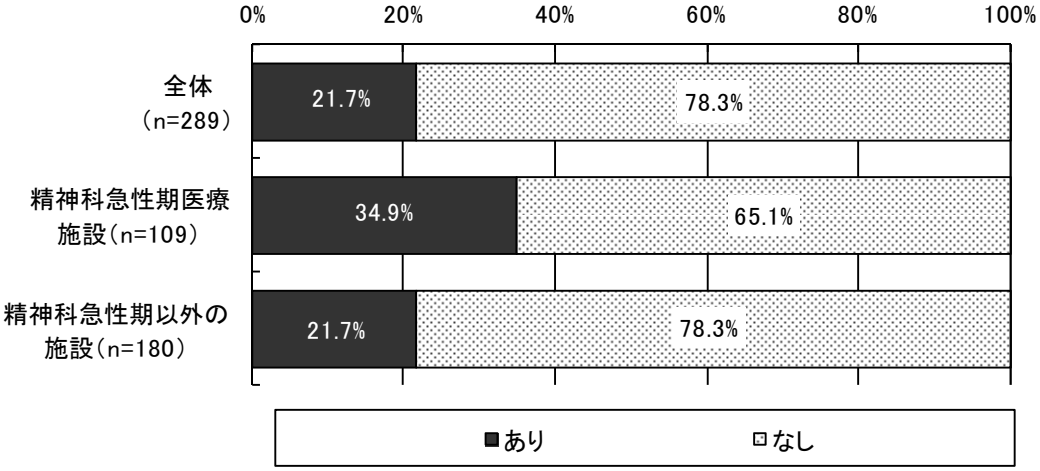
	施設数	割合
～平成 22 年 3 月	11	4.7%
平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月	16	6.9%
平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月	1	0.4%
平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月	65	28.0%
平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月	77	33.2%
平成 26 年 4 月～	46	19.8%
不明	16	6.9%
合計	232	100.0%

13）精神療養病棟入院料　退院調整加算

図表 72　精神療養病棟入院料　退院調整加算の届出の有無



図表 73　精神療養病棟入院料　退院調整加算の届出の有無
（精神療養病棟入院料の届出がある施設）

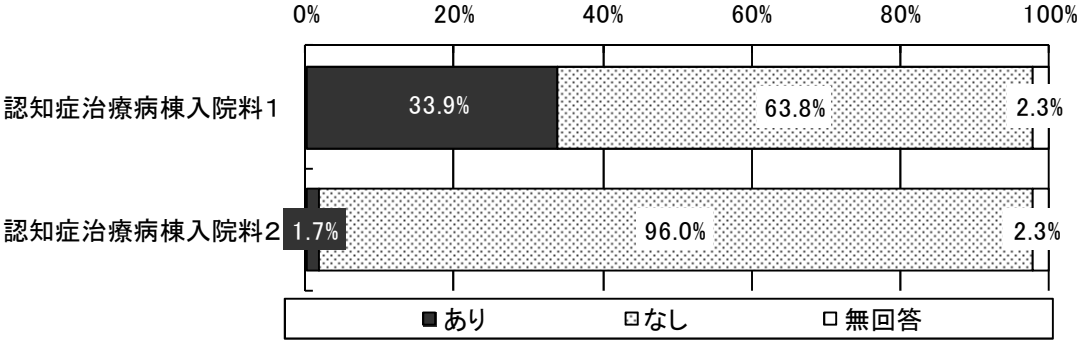


図表 74　精神療養病棟入院料　退院調整加算の届出時期

	施設数	割合
～平成 22 年 3 月	2	2.6%
平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月	3	3.9%
平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月	1	1.3%
平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月	43	55.8%
平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月	7	9.1%
平成 26 年 4 月～	19	24.7%
不明	2	2.6%
合計	77	100.0%

14）認知症治療病棟入院料

図表 75　認知症治療病棟入院料の届出の有無（全体、n=475）



図表 76　認知症治療病棟入院料１の届出時期

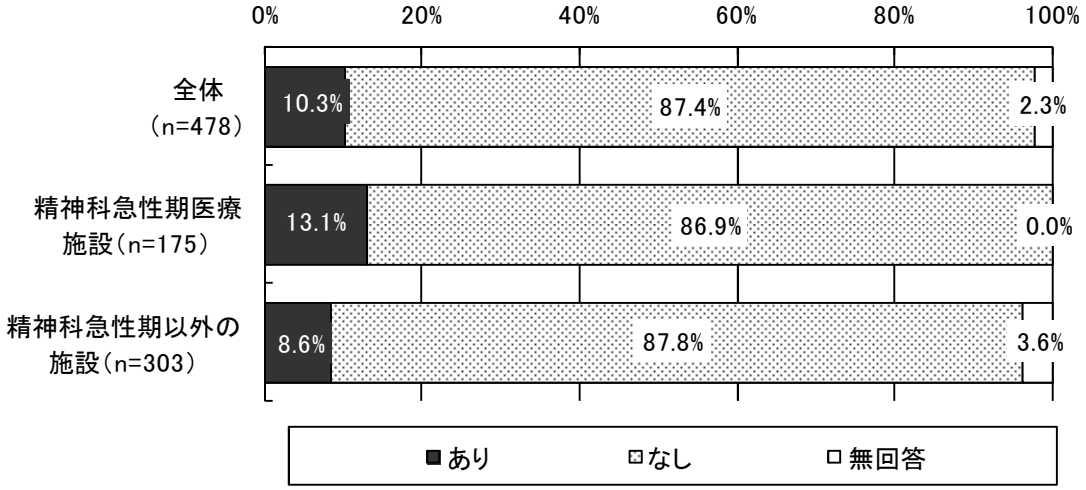
	施設数	割合
～平成 12 年 3 月	10	6.2%
平成 12 年 4 月～平成 14 年 3 月	3	1.9%
平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月	6	3.7%
平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月	8	4.9%
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	41	25.3%
平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月	26	16.0%
平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月	17	10.5%
平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月	32	19.8%
平成 26 年 4 月～	8	4.9%
不明	11	6.8%
合計	162	100.0%

図表 77　認知症治療病棟入院料２の届出時期

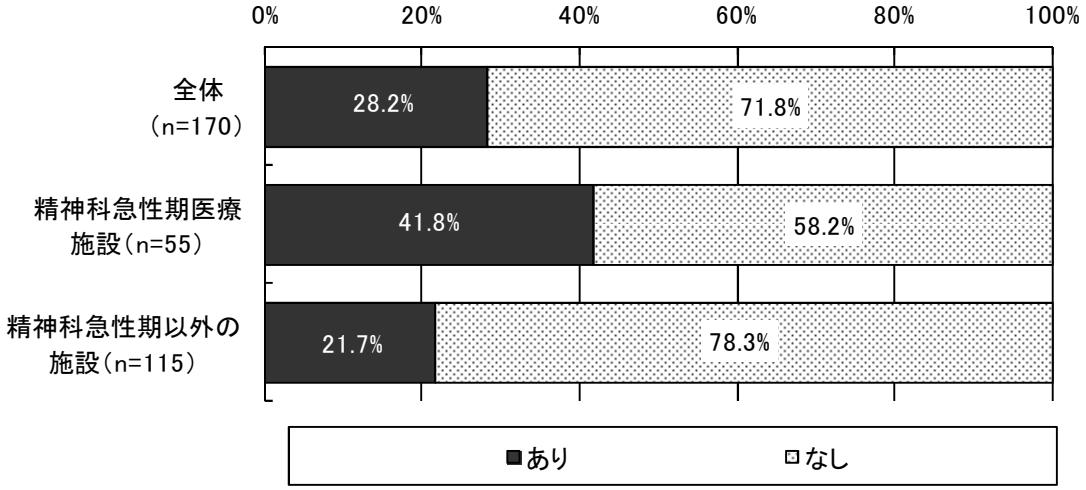
	施設数	割合
～平成 18 年 3 月	3	37.5%
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	3	37.5%
平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月	0	0.0%
平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月	1	12.5%
平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月	1	12.5%
平成 26 年 4 月～	0	0.0%
合計	8	100.0%

15）認知症治療病棟入院料　退院調整加算

図表 78　認知症治療病棟入院料　退院調整加算の届出の有無



図表 79　認知症治療病棟入院料　退院調整加算の届出の有無
（認知症治療病棟入院料の届出施設）

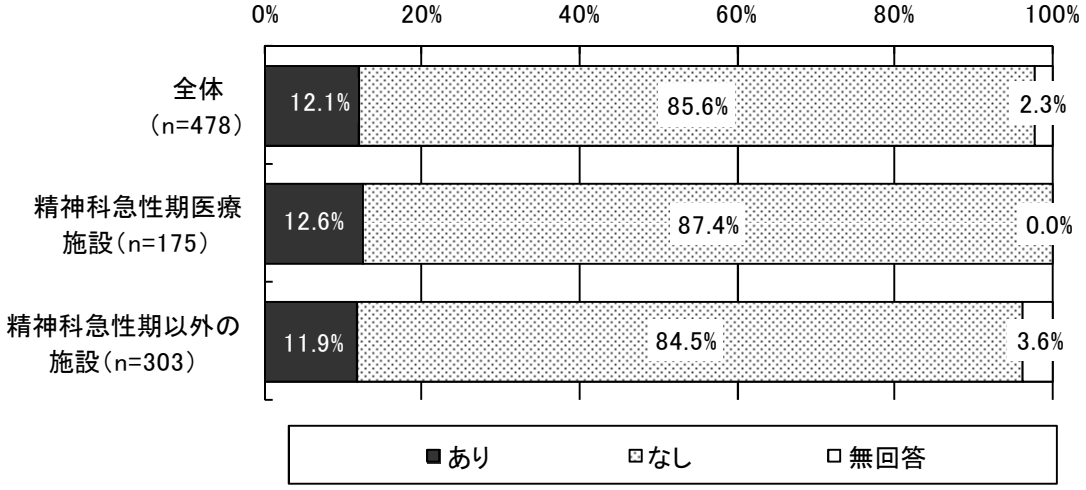


図表 80　認知症治療病棟入院料　退院調整加算の届出時期

	施設数	割合
平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月	16	32.7%
平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月	1	2.0%
平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月	23	46.9%
平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月	3	6.1%
平成 26 年 4 月～	6	12.2%
合計	49	100.0%

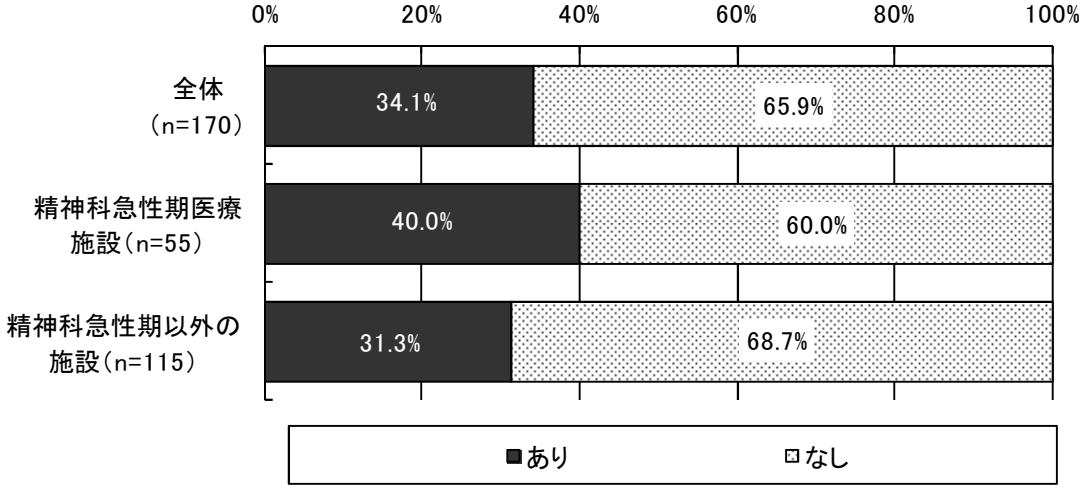
16）認知症治療病棟入院料　認知症夜間対応加算

図表 81　認知症治療病棟入院料　認知症夜間対応加算の届出の有無



認知症治療病棟入院料　認知症夜間対応加算の届出の有無

（認知症治療病棟入院料の届出施設）

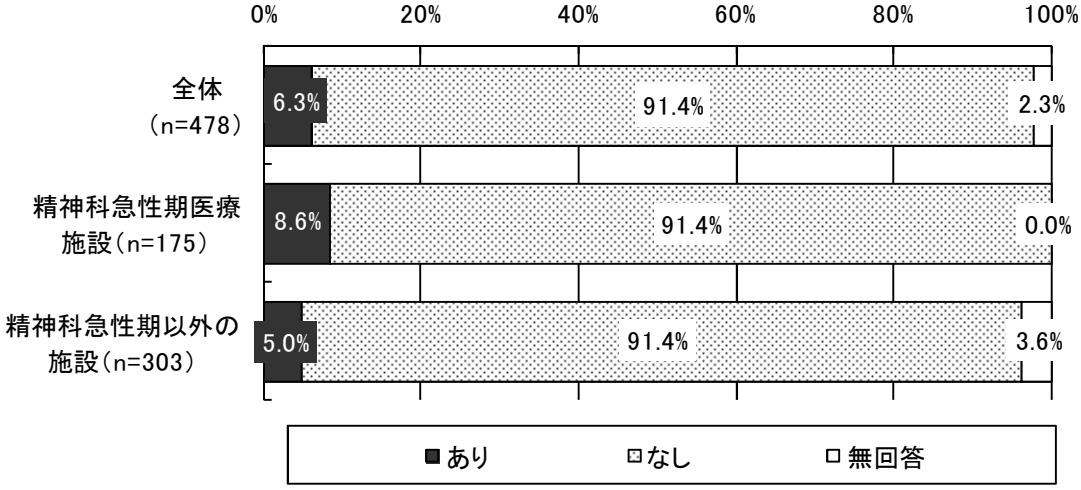


図表 82　認知症治療病棟入院料　認知症夜間対応加算の届出時期

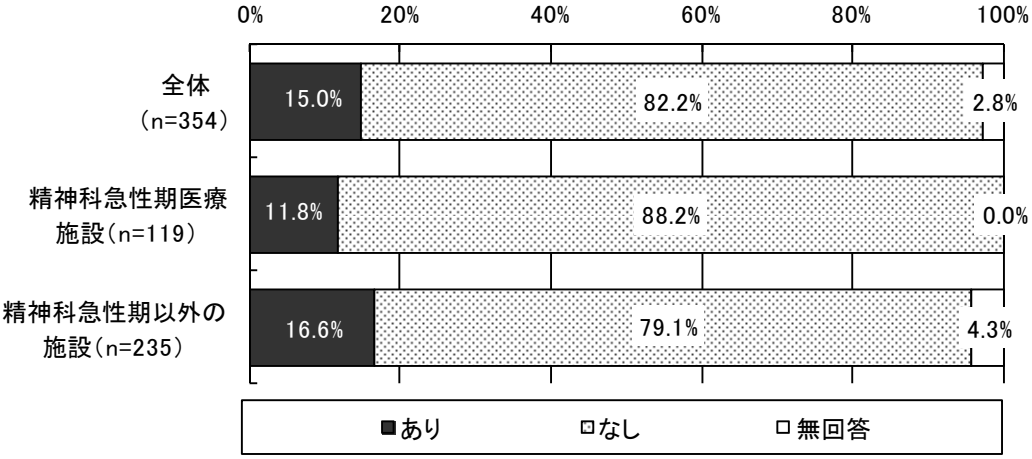
	施設数	割合
～平成 25 年 3 月	43	74.1%
平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月	5	8.6%
平成 26 年 4 月～	8	13.8%
不明	2	3.4%
合計	58	100.0%

18）精神病棟入院基本料　重度認知症加算

図表 83　精神病棟入院基本料　重度認知症加算の届出の有無



図表 84　精神病棟入院基本料　重度認知症加算の届出の有無
（精神病棟入院基本料の届出のある施設）

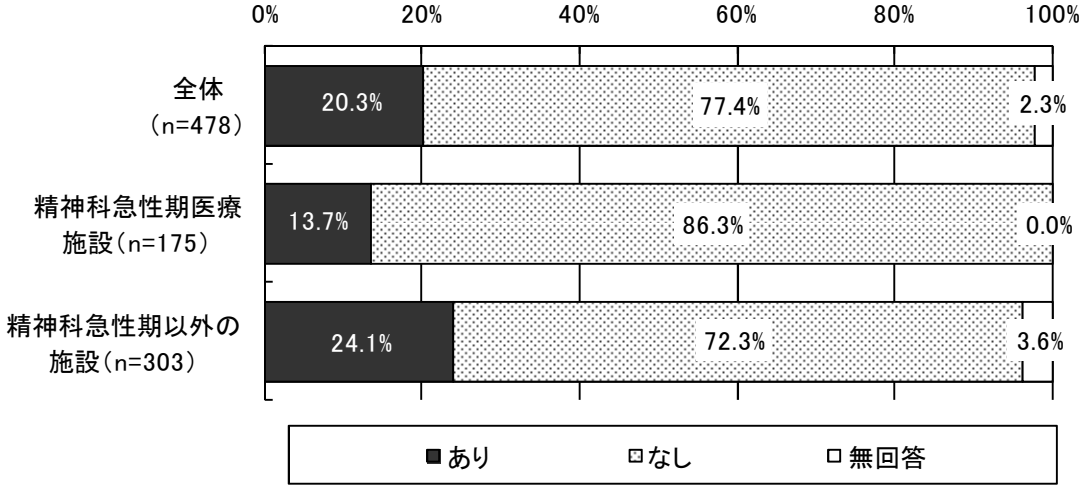


図表 85　精神病棟入院基本料　重度認知症加算の届出時期

	施設数	割合
～平成 18 年 3 月	4	7.1%
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	18	32.1%
平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月	5	8.9%
平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月	4	7.1%
平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月	8	14.3%
平成 26 年 4 月～	5	8.9%
不明	12	21.4%
合計	56	100.0%

19）精神科ショート・ケア

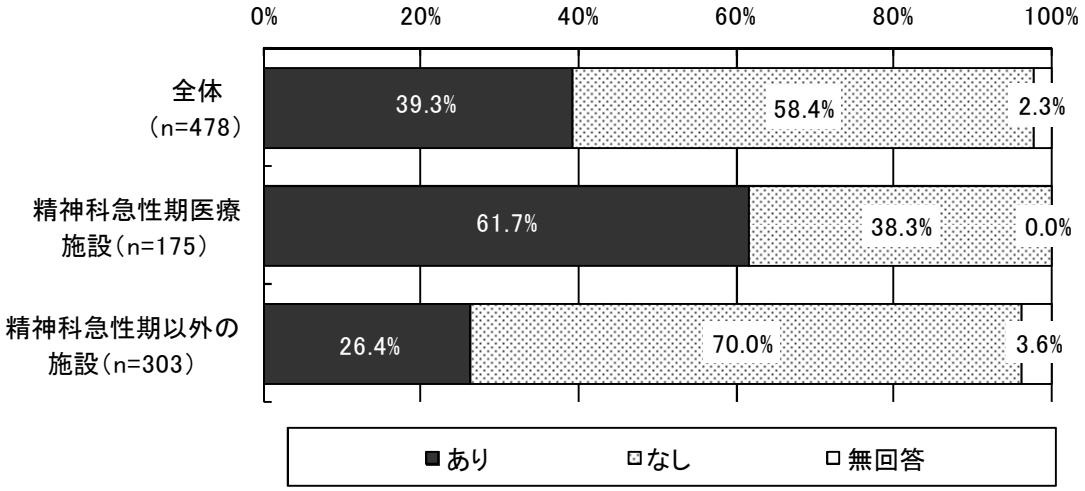
図表 86　精神科ショート・ケア（小規模なもの）の届出の有無



図表 87　精神科ショート・ケア（小規模なもの）の届出時期

	施設数	割合
～平成 18 年 3 月	8	8.2%
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	41	42.3%
平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月	15	15.5%
平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月	10	10.3%
平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月	13	13.4%
平成 26 年 4 月～	4	4.1%
不明	6	6.2%
合計	97	100.0%

図表 88　精神科ショート・ケア（大規模なもの）の届出の有無

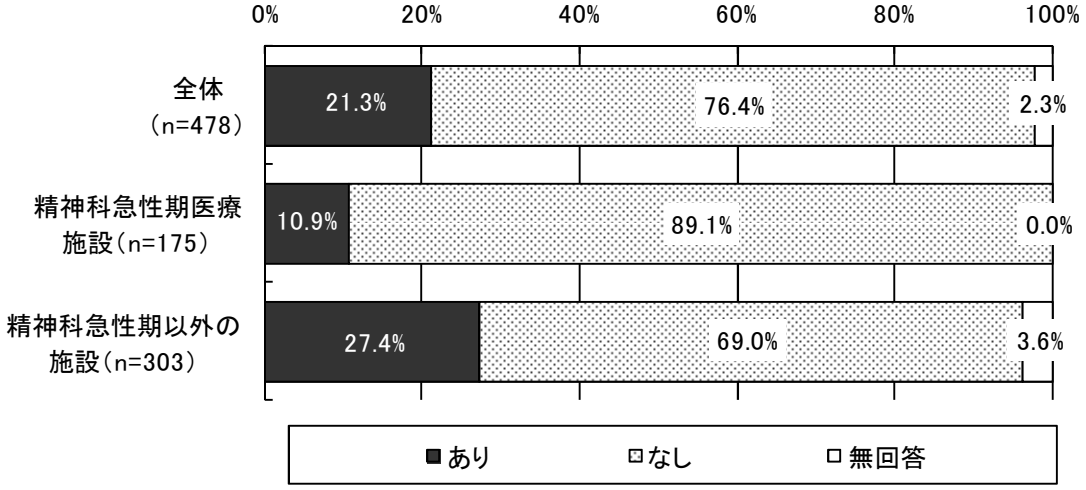


図表 89　精神科ショート・ケア（大規模なもの）の届出時期

	施設数	割合
～平成 18 年 3 月	5	2.7%
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	99	52.7%
平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月	14	7.4%
平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月	25	13.3%
平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月	31	16.5%
平成 26 年 4 月～	5	2.7%
不明	9	4.8%
合計	188	100.0%

20）精神科デイ・ケア

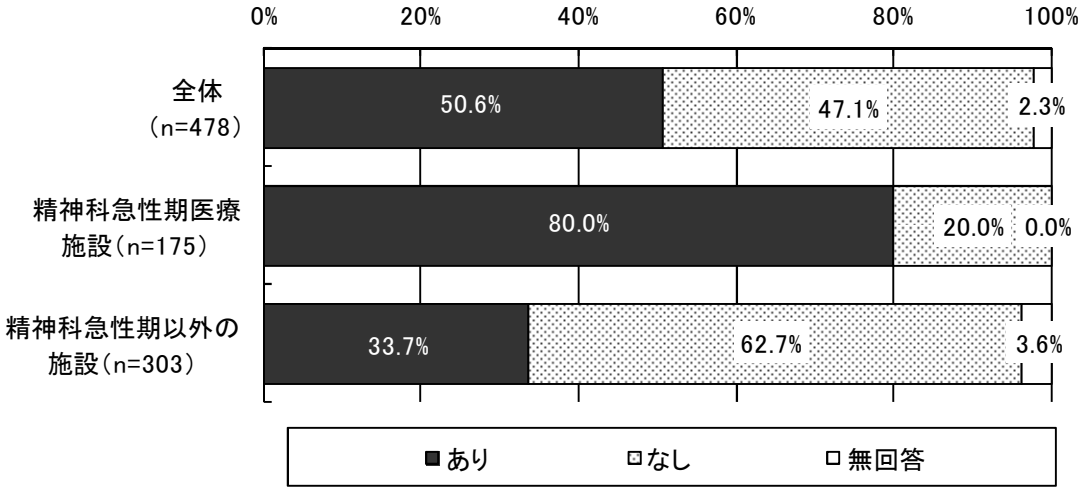
図表 90　精神科デイ・ケア（小規模なもの）の届出の有無



図表 91　精神科デイ・ケア（小規模なもの）の届出時期

	施設数	割合
～平成 12 年 3 月	24	23.5%
平成 12 年 4 月～平成 14 年 3 月	7	6.9%
平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月	11	10.8%
平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月	10	9.8%
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	10	9.8%
平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月	11	10.8%
平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月	6	5.9%
平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月	12	11.8%
平成 26 年 4 月～	5	4.9%
不明	6	5.9%
合計	102	100.0%

図表 92　精神科デイ・ケア（大規模なもの）の届出の有無

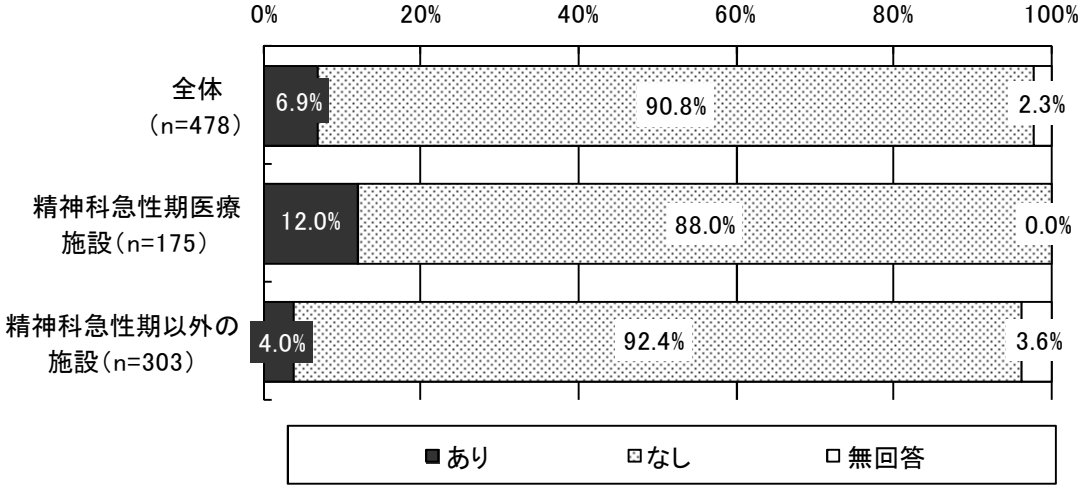


図表 93　精神科デイ・ケア（大規模なもの）の届出時期

	施設数	割合
～平成 12 年 3 月	68	28.1%
平成 12 年 4 月～平成 14 年 3 月	13	5.4%
平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月	33	13.6%
平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月	21	8.7%
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	30	12.4%
平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月	15	6.2%
平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月	24	9.9%
平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月	23	9.5%
平成 26 年 4 月～	4	1.7%
不明	11	4.5%
合計	242	100.0%

21）精神科ナイト・ケア

図表 94　精神科ナイト・ケアの届出の有無

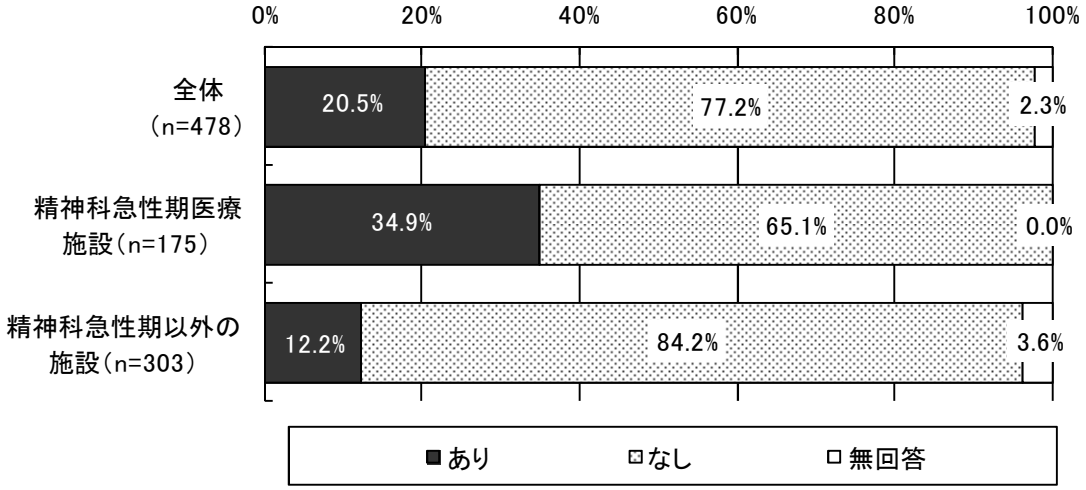


図表 95　精神科ナイト・ケアの届出時期

	施設数	割合
～平成 12 年 3 月	6	18.2%
平成 12 年 4 月～平成 14 年 3 月	2	6.1%
平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月	5	15.2%
平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月	7	21.2%
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	3	9.1%
平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月	5	15.2%
平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月	3	9.1%
平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月	1	3.0%
平成 26 年 4 月～	0	0.0%
不明	1	3.0%
合計	33	100.0%

22）精神科デイ・ナイト・ケア

図表 96　精神科デイ・ナイト・ケアの届出の有無

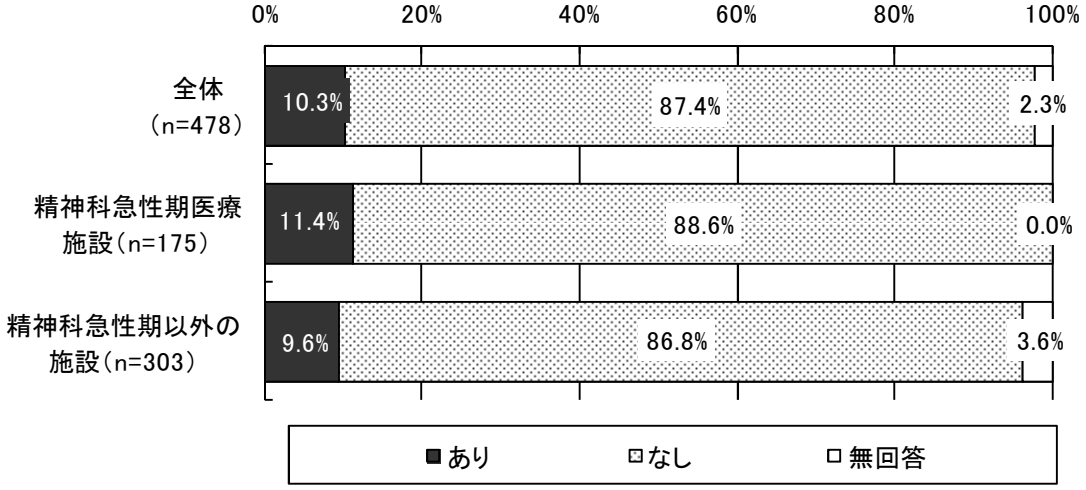


図表 97　精神科デイ・ナイト・ケアの届出時期

	施設数	割合
～平成 12 年 3 月	10	10.2%
平成 12 年 4 月～平成 14 年 3 月	5	5.1%
平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月	10	10.2%
平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月	21	21.4%
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	16	16.3%
平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月	16	16.3%
平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月	11	11.2%
平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月	5	5.1%
平成 26 年 4 月～	1	1.0%
不明	3	3.1%
合計	98	100.0%

23）重度認知症患者デイ・ケア料

図表 98　重度認知症患者デイ・ケア料の届出の有無

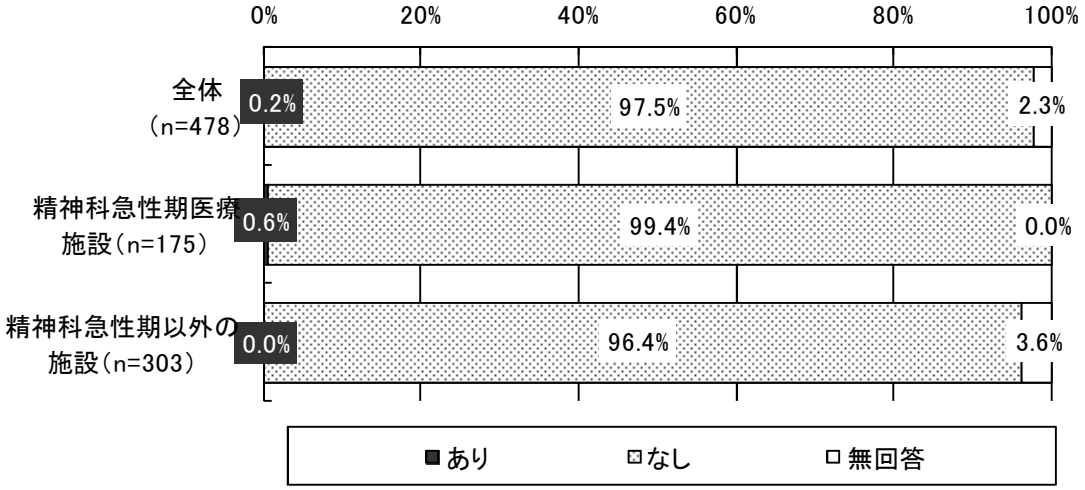


図表 99　重度認知症患者デイ・ケア料の届出時期

	施設数	割合
～平成 12 年 3 月	4	8.2%
平成 12 年 4 月～平成 14 年 3 月	1	2.0%
平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月	1	2.0%
平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月	4	8.2%
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	25	51.0%
平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月	5	10.2%
平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月	2	4.1%
平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月	4	8.2%
平成 26 年 4 月～	1	2.0%
不明	2	4.1%
合計	49	100.0%

24）重度認知症患者デイ・ケア料　夜間加算

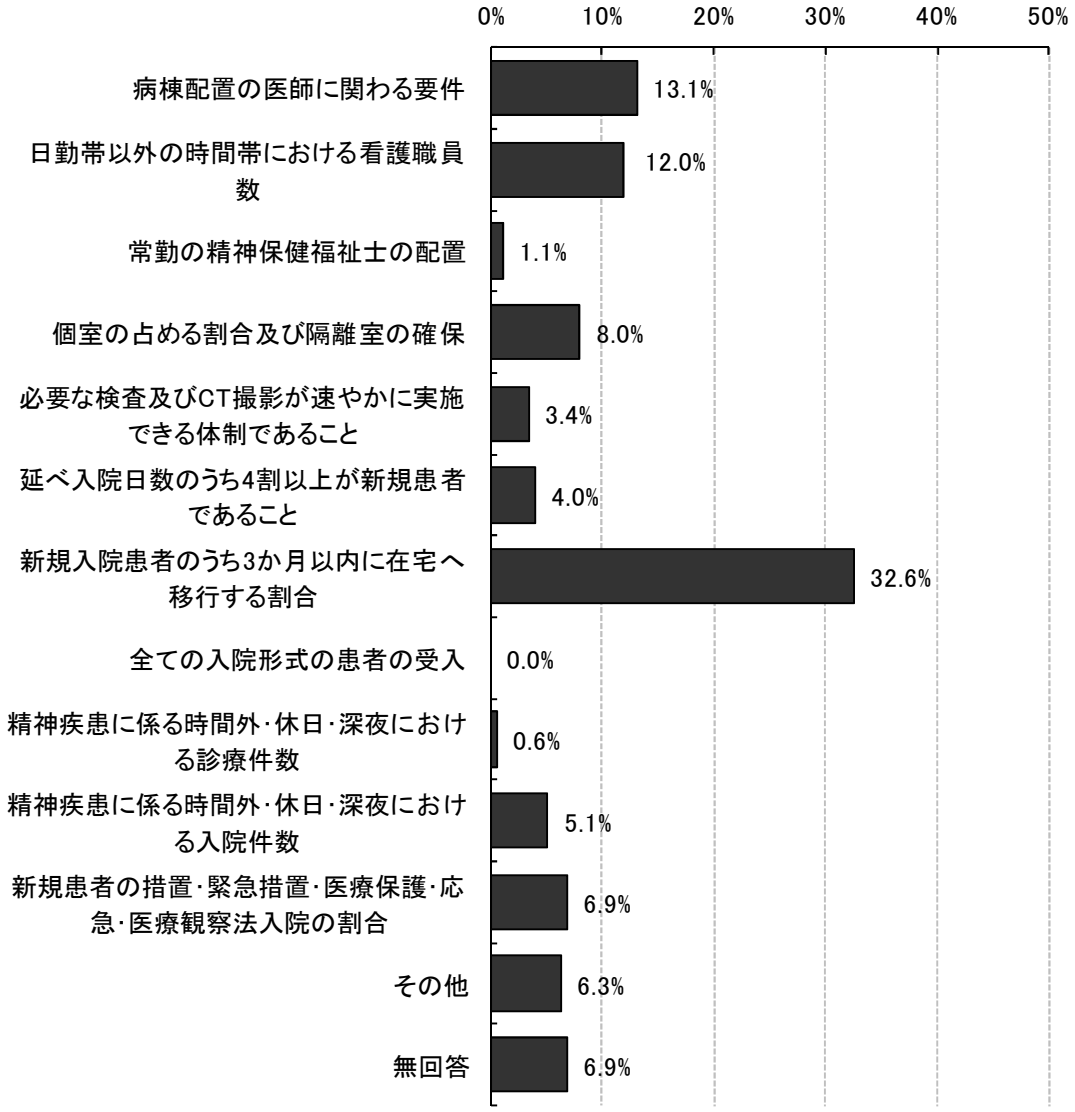
図表 100　重度認知症患者デイ・ケア料　夜間加算の届出の有無



（注）重度認知症患者デイ・ケア料　夜間加算の届出施設は 1 施設であり、その届出時期は「平成 24 年 5 月」であった。

②精神科救急入院料、精神科救急・合併症入院料、精神科急性期治療病棟入院料に関する最も厳しい施設基準

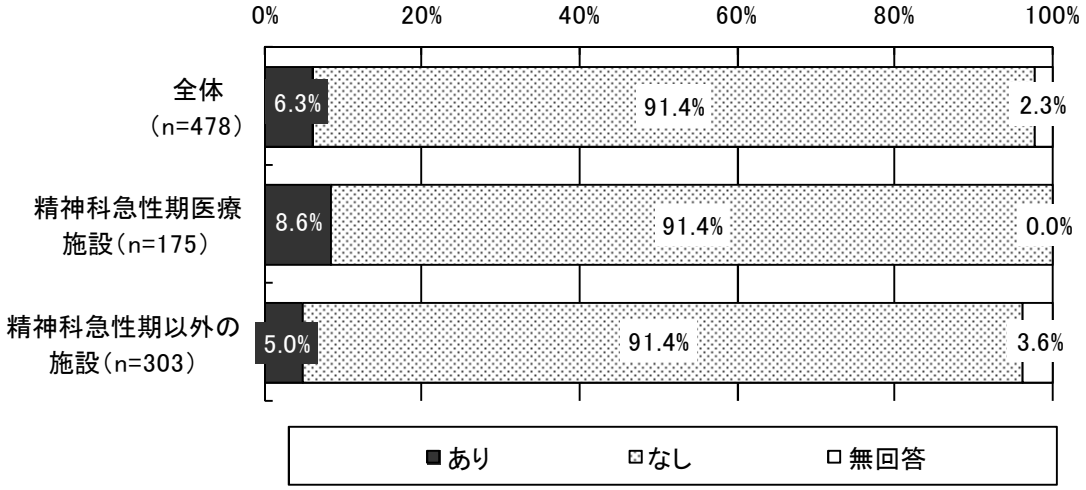
図表 101　精神科救急入院料、精神科救急・合併症入院料、精神科急性期治療病棟入院料に関する最も厳しい施設基準（いずれかの施設基準の届出のある施設、単数回答、n=175）



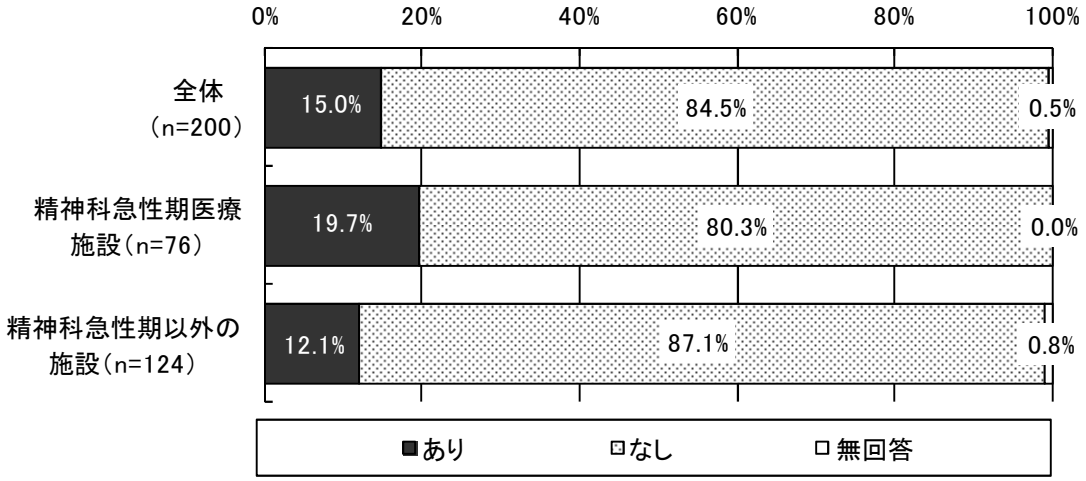
③認知症患者リハビリテーション料の実施状況等

1）施設基準の届出状況

図表 102　認知症患者リハビリテーション料の届出の有無



図表 103　認知症患者リハビリテーション料の届出の有無
（認知症治療病棟入院料の届出のある施設、または認知症疾患医療センターの指定を受けている施設）



図表 104　認知症患者リハビリテーション料の届出時期

	施設数	割合
平成 26 年 4 月	21	70.0%
平成 26 年 5 月	1	3.3%
平成 26 年 6 月	4	13.3%
平成 26 年 7 月	0	0.0%
平成 26 年 8 月	0	0.0%
平成 26 年 9 月	1	3.3%
平成 26 年 10 月	2	6.7%
不明	1	3.3%
合計	30	100.0%

2）平均在院日数

図表 105　認知症治療病棟の平均在院日数

（認知症患者リハビリテーション料の届出の有無別）

（単位：日）

	施設数	平成 25 年 10 月			平成 26 年 10 月		
		平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
全体	155	647.2	730.5	433.0	654.0	673.2	421.0
認知症患者ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ料の届出がある施設	25	476.0	356.6	408.0	449.4	259.3	431.0
認知症患者ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ料の届出がない施設	130	680.1	778.9	439.0	693.3	720.4	420.5

3）実施体制

図表 106　認知症患者リハビリテーション料の実施体制（実人数）

（認知症患者リハビリテーション料の届出施設、n=30）

（単位：人）

	常勤		非常勤	
	専従	専任	専従	専任
医師	0.07	1.39	0.03	0.23
認知症患者の診療の経験を 5 年以上有する医師	0.07	1.09	0.03	0.07
認知症患者のリハビリテーションに関し適切な研修を修了した医師	0.00	0.23	0.00	0.00
理学療法士	0.37	0.93	0.00	0.00
作業療法士	0.73	1.97	0.00	0.02
言語聴覚士	0.17	0.23	0.00	0.00
その他	0.00	0.03	0.00	0.00

4）算定患者数

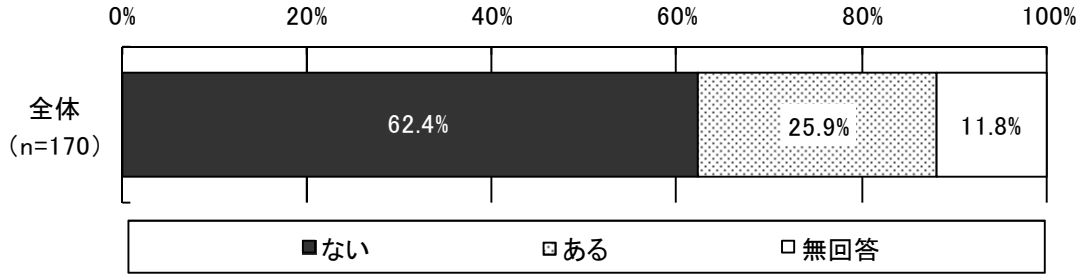
図表 107　認知症患者リハビリテーション料の算定患者数（平成 26 年 10 月 1 か月間）
（認知症患者リハビリテーション料の届出施設、n=28）

（単位：人）

平均値	標準偏差	中央値
7.6	10.5	3.0

5）届出のない施設における今後の意向

図表 108　認知症患者リハビリテーション料の施設基準の届出意向の有無
（認知症治療病棟入院料の届出をしている、または認知症疾患医療センターの指定を受けているが、認知症患者リハビリテーション料の届出をしていない施設）



④各診療報酬項目の算定患者数と算定回数

1）精神科身体合併症管理加算

図表 109　精神科身体合併症管理加算の算定患者数（届出のある施設）

（単位：人）

		平成 25 年 10 月	平成 26 年 10 月
精神科身体合併症管理加算 1 7 日以内	施設数	253	263
	平均値	7.7	7.9
	標準偏差	12.1	13.9
	中央値	4.0	4.0
精神科身体合併症管理加算 2 8 日以上 10 日以内	施設数		239
	平均値		5.1
	標準偏差		15.8
	中央値		2.0

2）精神病棟入院基本料　重度認知症加算

図表 110　精神病棟入院基本料　重度認知症加算の算定患者数（届出のある施設）

（単位：人）

	平成 25 年 10 月	平成 26 年 10 月
施設数	45	46
平均値	22.1	10.2
標準偏差	78.6	29.0
中央値	4.0	3.0

3）通院精神療法

図表 111　通院精神療法の算定患者数

（単位：人）

		平成 25 年 10 月	平成 26 年 10 月
通院精神療法　イ	施設数	367	371
	平均値	20.8	19.8
	標準偏差	23.3	21.1
	中央値	14.0	13.0
通院精神療法　ロ(1)30 分以上の場合	施設数	393	408
	平均値	34.6	33.6
	標準偏差	48.1	47.4
	中央値	21.0	19.0
通院精神療法　ロ(2)30 分未満の場合	施設数	401	412
	平均値	696.9	699.7
	標準偏差	615.4	621.8
	中央値	527.0	535.5
通院精神療法　20 歳未満加算	施設数	328	344
	平均値	17.0	18.8
	標準偏差	45.5	58.6
	中央値	4.0	3.0
通院精神療法　特定薬剤副作用評価加算	施設数	229	241
	平均値	0.8	1.0
	標準偏差	6.0	5.8
	中央値	0.0	0.0

図表 112　通院精神療法の算定回数

（単位：回）

		平成 25 年 10 月	平成 26 年 10 月
通院精神療法　イ	施設数	375	381
	平均値	21.0	20.3
	標準偏差	23.5	21.5
	中央値	15.0	13.0
通院精神療法　ロ(1)30 分以上の場合	施設数	410	426
	平均値	44.8	44.7
	標準偏差	63.3	66.5
	中央値	26.0	25.0
通院精神療法　ロ(2)30 分未満の場合	施設数	420	432
	平均値	955.1	953.2
	標準偏差	883.3	878.2
	中央値	709.5	706.5
通院精神療法　20 歳未満加算	施設数	341	356
	平均値	23.8	25.7
	標準偏差	64.8	78.8
	中央値	5.0	5.0
通院精神療法　特定薬剤副作用評価加算	施設数	232	243
	平均値	1.8	1.9
	標準偏差	13.8	14.4
	中央値	0.0	0.0

4）在宅精神療法

図表 113　在宅精神療法の算定患者数

（単位：人）

		平成 25 年 10 月	平成 26 年 10 月
在宅精神療法　イ	施設数	211	220
	平均値	0.1	0.2
	標準偏差	1.7	1.8
	中央値	0.0	0.0
在宅精神療法　ロ	施設数		214
	平均値		0.0
	標準偏差		0.2
	中央値		0.0
在宅精神療法　ハ(1)30 分以上の場合	施設数	221	230
	平均値	0.3	0.2
	標準偏差	1.8	0.9
	中央値	0.0	0.0
在宅精神療法　ハ(2)30 分未満の場合	施設数	224	234
	平均値	5.7	7.9
	標準偏差	41.5	43.0
	中央値	0.0	0.0
在宅精神療法　20 歳未満加算	施設数	219	226
	平均値	0.2	0.2
	標準偏差	2.4	1.8
	中央値	0.0	0.0
在宅精神療法　特定薬剤副作用評価加算	施設数	214	219
	平均値	0.0	0.0
	標準偏差	0.0	0.0
	中央値	0.0	0.0

図表 114　在宅精神療法の算定回数

（単位：回）

		平成 25 年 10 月	平成 26 年 10 月
在宅精神療法　イ	施設数	211	220
	平均値	0.1	0.2
	標準偏差	1.7	1.8
	中央値	0.0	0.0
在宅精神療法　ロ	施設数		214
	平均値		0.0
	標準偏差		0.3
	中央値		0.0
在宅精神療法　ハ(1)30 分以上の場合	施設数	221	232
	平均値	0.3	0.3
	標準偏差	1.8	1.4
	中央値	0.0	0.0
在宅精神療法　ハ(2)30 分未満の場合	施設数	224	234
	平均値	8.7	10.9
	標準偏差	68.8	69.6
	中央値	0.0	0.0
在宅精神療法 20 歳未満加算	施設数	219	227
	平均値	0.7	0.5
	標準偏差	9.4	5.3
	中央値	0.0	0.0
在宅精神療法 特定薬剤副作用評価加算	施設数	214	219
	平均値	0.0	0.0
	標準偏差	0.0	0.0
	中央値	0.0	0.0

5）心身医学療法

図表 115　心身医学療法の算定患者数

（単位：人）

		平成 25 年 10 月	平成 26 年 10 月
心身医学療法　入院中の患者	施設数	201	204
	平均値	0.4	0.3
	標準偏差	4.8	4.5
	中央値	0.0	0.0
20 歳未満加算	施設数	190	192
	平均値	0.0	0.0
	標準偏差	0.0	0.0
	中央値	0.0	0.0
心身医学療法　イ　初診時	施設数	202	205
	平均値	0.0	0.0
	標準偏差	0.3	0.3
	中央値	0.0	0.0
20 歳未満加算	施設数	189	192
	平均値	0.0	0.0
	標準偏差	0.0	0.0
	中央値	0.0	0.0
心身医学療法　ロ　再診時	施設数	207	211
	平均値	0.7	0.8
	標準偏差	5.1	5.2
	中央値	0.0	0.0
20 歳未満加算	施設数	190	192
	平均値	0.1	0.1
	標準偏差	0.8	0.8
	中央値	0.0	0.0

図表 116　心身医学療法の算定回数

（単位：回）

		平成 25 年 10 月	平成 26 年 10 月
心身医学療法　入院中の患者	施設数	203	206
	平均値	2.6	2.6
	標準偏差	20.8	21.8
	中央値	0.0	0.0
20 歳未満加算	施設数	190	192
	平均値	0.0	0.0
	標準偏差	0.0	0.0
	中央値	0.0	0.0
心身医学療法　イ　初診時	施設数	202	205
	平均値	0.0	0.0
	標準偏差	0.3	0.3
	中央値	0.0	0.0
20 歳未満加算	施設数	189	192
	平均値	0.0	0.0
	標準偏差	0.0	0.0
	中央値	0.0	0.0
心身医学療法　ロ　再診時	施設数	208	211
	平均値	1.4	1.4
	標準偏差	13.8	12.6
	中央値	0.0	0.0
20 歳未満加算	施設数	190	192
	平均値	0.1	0.1
	標準偏差	1.1	1.0
	中央値	0.0	0.0

6）精神科継続外来支援・指導料

図表 117　精神科継続外来支援・指導料の算定患者数

（単位：人）

		平成 25 年 10 月	平成 26 年 10 月
精神科継続外来支援･指導料	施設数	317	320
	平均値	31.1	28.8
	標準偏差	71.3	60.4
	中央値	7.0	7.0
療養生活環境整備支援加算	施設数	231	236
	平均値	6.1	6.1
	標準偏差	29.2	27.9
	中央値	0.0	0.0
特定薬剤副作用評価加算	施設数	210	212
	平均値	0.5	0.4
	標準偏差	2.4	2.5
	中央値	0.0	0.0

図表 118　精神科継続外来支援・指導料の算定回数

（単位：回）

		平成 25 年 10 月	平成 26 年 10 月
精神科継続外来支援･指導料	施設数	322	324
	平均値	36.3	33.6
	標準偏差	79.4	68.1
	中央値	9.0	9.0
療養生活環境整備支援加算	施設数	231	235
	平均値	6.2	6.1
	標準偏差	28.2	27.3
	中央値	0.0	0.0
特定薬剤副作用評価加算	施設数	210	212
	平均値	0.5	0.4
	標準偏差	2.4	2.5
	中央値	0.0	0.0

7）精神科ショート・ケア等

図表 119　精神科ショート・ケア等の算定患者数

（単位：人）

		平成 25 年 10 月	平成 26 年 10 月
精神科ショート・ケア 小規模なもの	施設数	237	242
	平均値	3.8	5.2
	標準偏差	8.1	23.1
	中央値	0.0	0.0
精神科ショート・ケア 大規模なもの	施設数	273	278
	平均値	19.3	22.6
	標準偏差	29.2	38.2
	中央値	7.0	9.0
精神科デイ・ケア 小規模なもの	施設数	244	245
	平均値	10.8	10.2
	標準偏差	26.3	26.5
	中央値	0.0	0.0
精神科デイ・ケア 大規模なもの	施設数	304	307
	平均値	55.0	55.6
	標準偏差	73.0	67.3
	中央値	46.0	46.0
精神科ナイト・ケア	施設数	211	213
	平均値	3.0	2.4
	標準偏差	22.7	17.0
	中央値	0.0	0.0
精神科デイ・ナイト・ケア	施設数	249	252
	平均値	20.5	20.4
	標準偏差	78.6	87.9
	中央値	0.0	0.0

図表 120　精神科ショート・ケア等の算定回数

（単位：回）

		平成 25 年 10 月	平成 26 年 10 月
精神科ショート・ケア 小規模なもの	施設数	241	246
	平均値	13.3	15.2
	標準偏差	34.2	43.8
	中央値	0.0	0.0
精神科ショート・ケア 大規模なもの	施設数	278	287
	平均値	75.8	94.4
	標準偏差	152.1	222.9
	中央値	20.0	23.0
精神科デイ・ケア 小規模なもの	施設数	249	251
	平均値	86.9	87.4
	標準偏差	153.3	154.7
	中央値	0.0	0.0
精神科デイ・ケア 大規模なもの	施設数	311	318
	平均値	451.3	452.1
	標準偏差	505.6	459.9
	中央値	386.0	406.5
精神科ナイト・ケア	施設数	211	213
	平均値	8.2	6.9
	標準偏差	36.9	32.0
	中央値	0.0	0.0
精神科デイ・ナイト・ケア	施設数	251	254
	平均値	199.5	191.9
	標準偏差	387.0	387.1
	中央値	0.0	0.0

8）精神科退院指導料

図表 121　精神科退院指導料の算定患者数

（単位：人）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
平成 25 年 10 月	388	11.4	11.9	8.0
平成 26 年 10 月	393	11.6	11.9	8.0

9）精神科退院前訪問指導料

図表 122　精神科退院前訪問指導料の算定患者数

（単位：人）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
平成 25 年 10 月	323	1.9	3.4	1.0
平成 26 年 10 月	330	2.2	3.7	1.0

図表 123　精神科退院前訪問指導料の算定回数

（単位：回）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
平成 25 年 10 月	323	3.1	6.3	1.0
平成 26 年 10 月	330	3.5	6.6	1.0

10）精神科訪問看護指示料

図表 124　精神科訪問看護指示料の算定患者数

（単位：人）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
平成 25 年 10 月	296	9.3	27.4	0.0
平成 26 年 10 月	309	11.5	30.2	1.0

⑤精神科薬物療法の状況等

図表 125　精神科薬物療法の状況等（n=409）

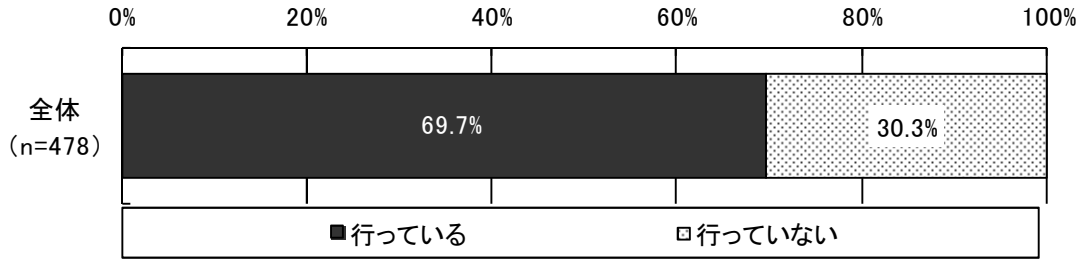
	平均値	標準偏差	中央値
1)外来患者数（初診＋再診延べ患者数）（人）	1,837.7	1,620.6	1,486.0
2)上記 1)のうち、精神科薬物療法を行った患者数（人）	1,066.5	976.1	856.0
3)上記 2)のうち、処方せん料(30 点)・処方料（20 点）を算定した患者数（人）	215.8	598.9	27.0
4）外来患者に占める精神科薬物療法を行った患者の割合（ 2)/1) ）	58.0%		
5）精神科薬物療法を行った患者に占める向精神薬多剤投与患者数の割合（3)/2)）	20.2%		

（注）上記 1）～3）のすべての項目について記入のあった 409 施設を集計対象とした。

（４）精神科訪問看護の実施状況等

①精神科訪問看護の実施状況等

図表 126　精神科訪問看護の実施状況



②精神科訪問看護の開始時期

図表 127　精神科訪問看護の開始時期

	施設数	割合
～平成 4 年 3 月	30	9.0%
平成 4 年 4 月～平成 6 年 3 月	12	3.6%
平成 6 年 4 月～平成 8 年 3 月	20	6.0%
平成 8 年 4 月～平成 10 年 3 月	13	3.9%
平成 10 年 4 月～平成 12 年 3 月	18	5.4%
平成 12 年 4 月～平成 14 年 3 月	27	8.1%
平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月	17	5.1%
平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月	38	11.4%
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	38	11.4%
平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月	25	7.5%
平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月	15	4.5%
平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月	18	5.4%
平成 26 年 4 月～	4	1.2%
不明	58	17.4%
合計	333	100.0%

③精神科訪問看護に携わる職員数

図表 128　精神科訪問看護に携わる職員数（常勤換算）

（単位：人）

		平成 25 年 10 月（n=315）	平成 26 年 10 月（n=322）
保健師･看護師	平均値	2.59	2.77
	標準偏差	3.11	3.18
	中央値	2.00	2.00
准看護師	平均値	0.28	0.34
	標準偏差	1.38	1.57
	中央値	0.00	0.00
作業療法士	平均値	0.35	0.35
	標準偏差	0.99	0.94
	中央値	0.00	0.00
精神保健福祉士	平均値	1.59	1.52
	標準偏差	1.91	1.86
	中央値	1.00	1.00
看護補助者	平均値	0.04	0.04
	標準偏差	0.25	0.24
	中央値	0.00	0.00

（注）すべての職種について回答のあった施設を集計対象とした。

④精神科訪問看護利用者数

図表 129　精神科訪問看護利用者数（平成 26 年 10 月 1 か月間、実人数）

（単位：人）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
精神科訪問看護利用者数	327	51.9	52.9	34.0
うち、新規の利用者数	318	1.5	2.5	1.0
うち、退院当日に訪問看護を実施した利用者数	317	0.0	0.3	0.0

図表 130　精神科訪問看護利用者数（平成 26 年 10 月 1 か月間の訪問日数別、実人数、n=280）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
5 日以内	43.68	42.78	29.00
6～12 日	3.07	6.47	0.00
13～15 日	0.66	2.89	0.00
16～20 日	0.07	0.66	0.00
21～25 日	0.09	0.78	0.00
26 日以上	0.12	1.06	0.00

⑤精神科訪問看護・指導料の算定利用者数と算定回数

1）精神科訪問看護・指導料（Ⅰ）

図表 131　精神科訪問看護・指導料（Ⅰ）の算定利用者数（平成 26 年 10 月 1 か月間、n=311）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
30 分未満	4.7	14.6	0.0
30 分以上	42.3	46.6	26.0
合計	47.0	49.1	30.0

図表 132　精神科訪問看護・指導料（Ⅰ）の算定回数（平成 26 年 10 月 1 か月間、n=321）

（単位：回）

	平均値	標準偏差	中央値
30 分未満	10.6	34.3	0.0
30 分以上	105.3	118.5	72.0
合計	115.9	123.9	79.0

2）精神科訪問看護・指導料（Ⅱ）

図表 133　精神科訪問看護・指導料（Ⅱ）の算定利用者数（平成 26 年 10 月 1 か月間、n=311）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
30 分未満	1.9	8.4	0.0
30 分以上	3.7	8.1	0.0
合計	5.6	13.7	0.0

図表 134　精神科訪問看護・指導料（Ⅱ）の算定回数（平成 26 年 10 月 1 か月間、n=320）

（単位：回）

	平均値	標準偏差	中央値
30 分未満	7.4	39.0	0.0
30 分以上	11.7	35.7	0.0
合計	19.2	61.2	0.0

図表 135　精神科訪問看護・指導料（Ⅱ）の施設への訪問延べ日数・対象利用者数・算定回数

（平成 26 年 10 月 1 か月間、n=327）

	平均値	標準偏差	中央値
施設への訪問延べ日数(日)	1.10	4.04	0.00
対象利用者数(人)	1.06	3.49	0.00
算定回数(合計)(回)	2.79	12.04	0.00

⑥精神科訪問看護・指導料の各加算の算定利用者数と算定患者数

図表 136　精神科訪問看護・指導料の各加算の算定利用者数と算定回数

（平成 26 年 10 月 1 か月間、n=324）

	平均値	標準偏差	中央値
【算定利用者数】(人)			
長時間精神科訪問看護･指導加算	0.54	3.40	0.00
夜間･早朝訪問看護加算	0.04	0.49	0.00
深夜訪問看護加算	0.00	0.06	0.00
精神科緊急訪問看護加算	0.09	1.10	0.00
【算定回数】(回)			
長時間精神科訪問看護･指導加算	1.07	7.91	0.00
夜間･早朝訪問看護加算	0.27	4.51	0.00
深夜訪問看護加算	0.00	0.06	0.00
精神科緊急訪問看護加算	0.10	1.12	0.00

⑦複数回の精神科訪問看護を行った利用者数

図表 137　1 日に複数回の訪問看護を行った利用者数（加算の有無は問わず、実人数、n=270）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
平成 25 年 10 月	0.41	4.71	0.00
平成 26 年 10 月	0.43	4.93	0.00

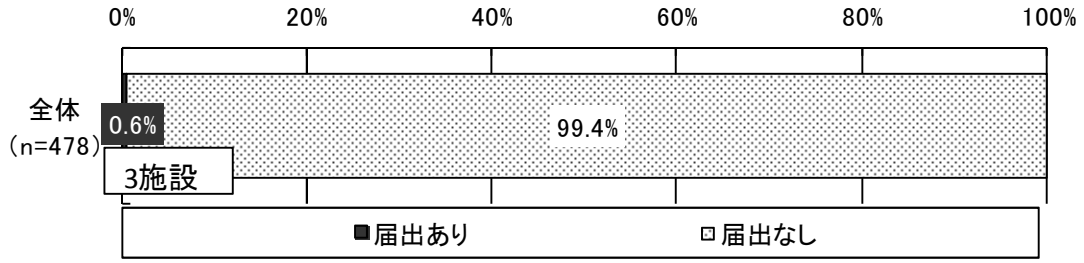
図表 138　複数回訪問看護加算の算定利用者数と算定回数（n=262）

	平均値	標準偏差	中央値
【算定利用者数】（人）			
1 日に 2 回	0.15	2.47	0.00
1 日 3 回以上	0.03	0.49	0.00
【算定回数】（回）			
1 日に 2 回	0.22	3.58	0.00
1 日 3 回以上	0.13	2.04	0.00

（５）精神科重症患者早期集中支援管理料の実施状況等

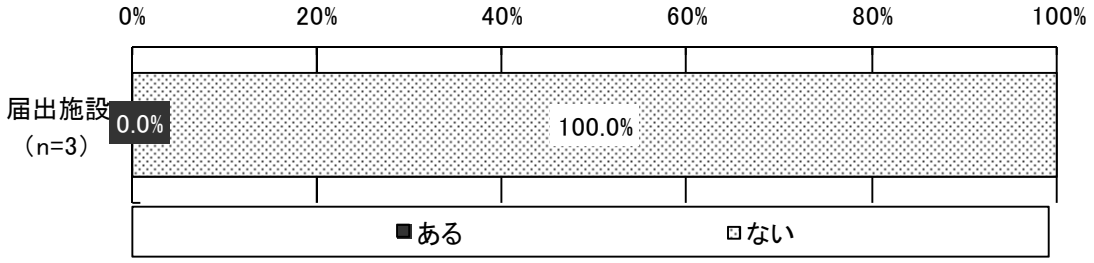
①精神科重症患者早期集中支援管理料の施設基準の届出状況

図表 139　精神科重症患者早期集中支援管理料の施設基準の届出状況



②精神科重症患者早期集中支援管理料を実施する上で、連携する訪問看護ステーションの有無

図表 140　精神科重症患者早期集中支援管理料を実施する上で、連携する訪問看護ステーションの有無（届出施設）



③精神科重症患者早期集中支援管理料を実施する際の職員の体制

図表 141　精神科重症患者早期集中支援管理料を実施する際の職員の体制（届出施設、n=3）

（単位：人）

		常勤		非常勤	
		専従	専任	専従	専任
医師	平均値	0.00	1.00	1.00	0.00
	標準偏差	0.00	0.00	0.00	0.00
	中央値	0.00	1.00	1.00	0.00
【再掲】精神保健指定医	平均値	0.00	1.00	1.00	0.00
	標準偏差	0.00	0.00	0.00	0.00
	中央値	0.00	1.00	1.00	0.00
看護師（保健師含む）	平均値	0.33	0.67	0.67	0.00
	標準偏差	0.58	0.58	0.58	0.00
	中央値	0.00	1.00	1.00	0.00
作業療法士	平均値	0.33	0.67	0.67	0.00
	標準偏差	0.58	0.58	0.58	0.00
	中央値	0.00	1.00	1.00	0.00
精神保健福祉士	平均値	0.67	0.33	0.33	0.00
	標準偏差	0.58	0.58	0.58	0.00
	中央値	1.00	0.00	0.00	0.00
その他	平均値	0.00	0.00	0.00	0.00
	標準偏差	0.00	0.00	0.00	0.00
	中央値	0.00	0.00	0.00	0.00

④精神科重症患者早期集中支援管理料を算定した患者数

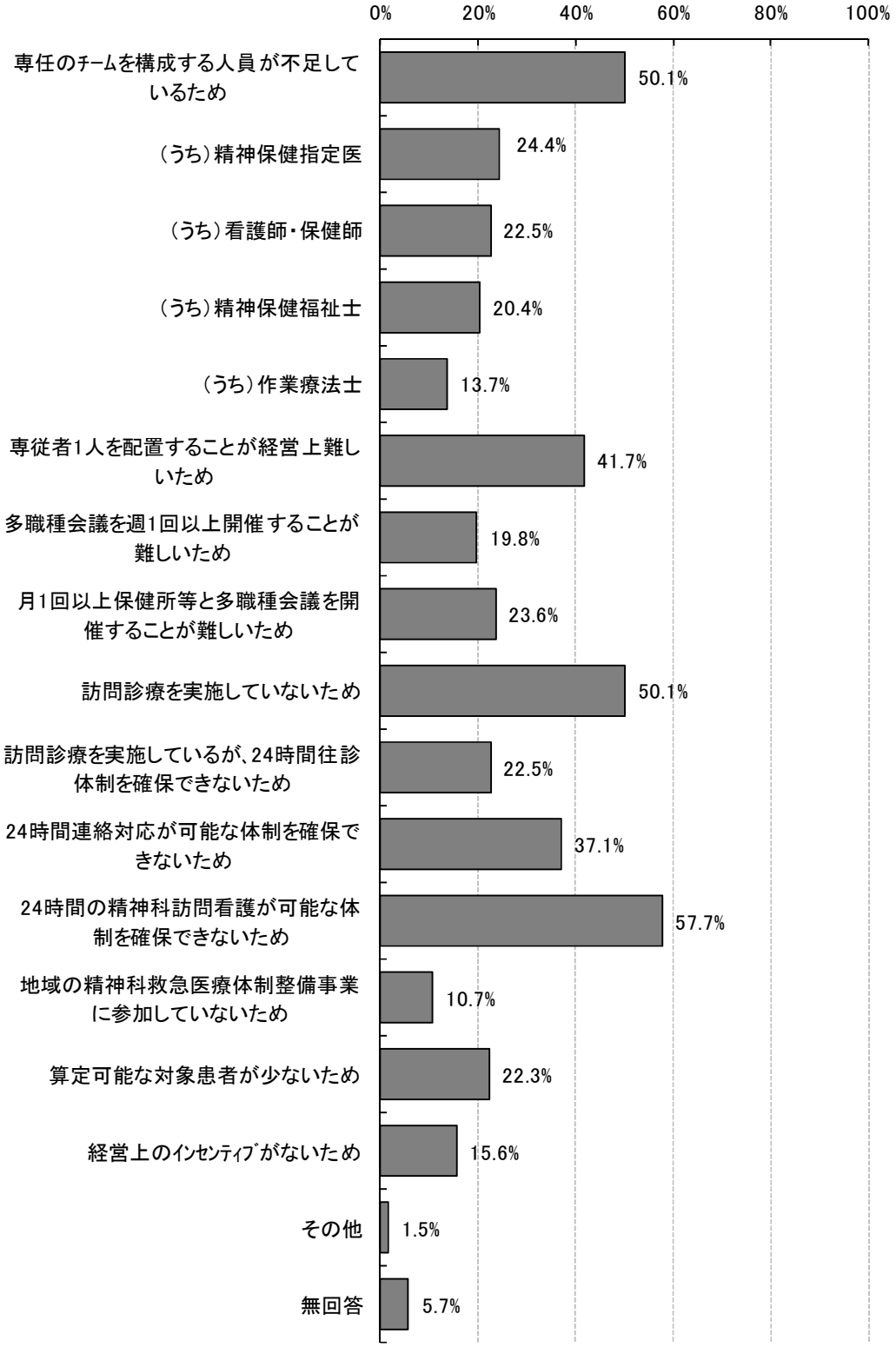
図表 142　精神科重症患者早期集中支援管理料を算定した患者数（届出施設、n=3）

（単位：人）

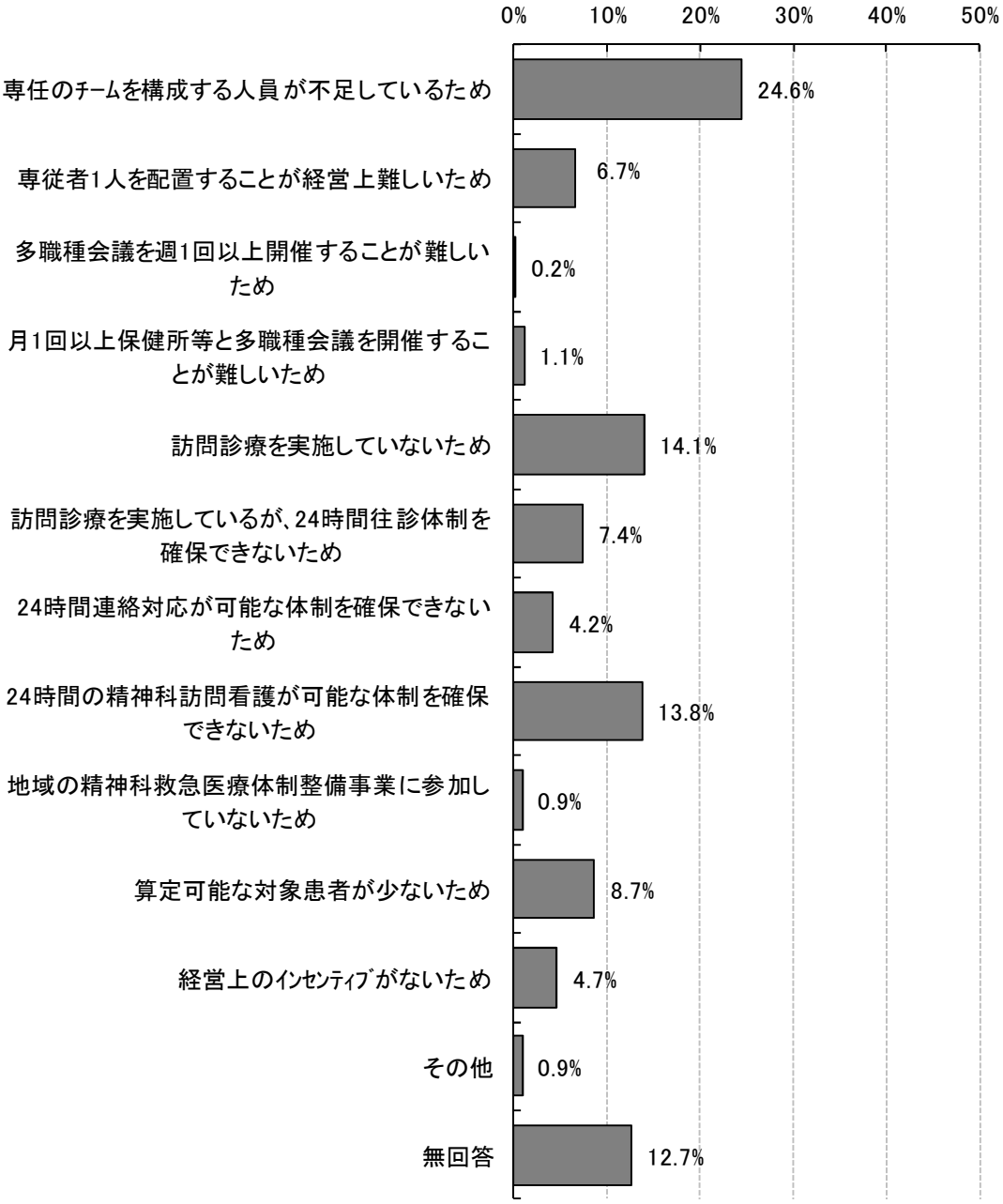
	平均値	標準偏差	中央値
精神科重症患者早期集中支援管理料 1 同一建物居住者以外	0.67	1.15	0.00
精神科重症患者早期集中支援管理料 1 同一建物居住者・特定施設等	0.00	0.00	0.00
精神科重症患者早期集中支援管理料 1 同一建物居住者・特定施設以外	0.00	0.00	0.00
精神科重症患者早期集中支援管理料 2 同一建物居住者以外	0.00	0.00	0.00
精神科重症患者早期集中支援管理料 2 同一建物居住者・特定施設等	0.00	0.00	0.00
精神科重症患者早期集中支援管理料 2 同一建物居住者・特定施設以外	0.00	0.00	0.00

⑤精神科重症患者早期集中支援管理料の施設基準の届出を行っていない理由

図表 143　精神科重症患者早期集中支援管理料の施設基準の届出を行っていない理由
（届出のない施設、複数回答、n=475）

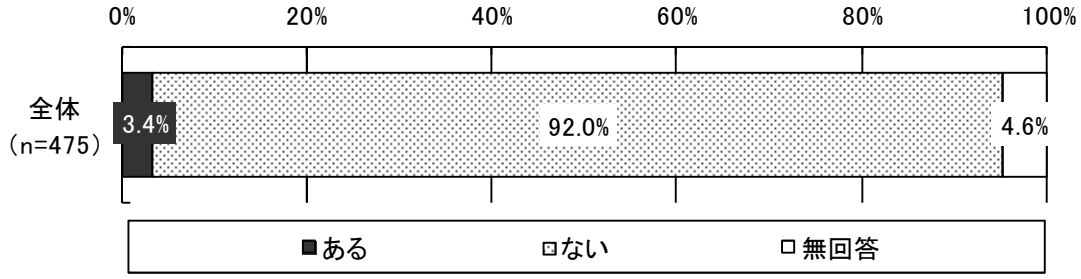


図表 144　精神科重症患者早期集中支援管理料の施設基準の届出を行っていない最大の理由（届出のない施設、単数回答、n=475）



⑥精神科重症患者早期集中支援管理料の施設基準の届出意向

図表 145　精神科重症患者早期集中支援管理料の施設基準の届出意向
（届出のない施設）



３．病棟調査の結果

【調査対象等】

○病棟調査

施設調査を補完するため、施設調査の対象施設に対して以下の病棟調査を実施した。

調査対象：①精神病棟入院基本料算定病棟票
②精神療養病棟票
③精神科救急入院料算定病棟票
④精神科救急・合併症入院料算定病棟票
⑤精神科急性期治療病棟入院料算定病棟票

回 答 数：①372 施設、②289 施設、③55 施設、④6 施設、⑤122 施設

回 答 者：管理者

（１）精神病棟入院基本料算定病棟

①病棟数・許可病床数

図表 146　病棟数・許可病床数（精神病棟入院基本料算定病棟、n=367）

	平成 25 年 10 月			平成 26 年 10 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
病棟数（病棟）	2.3	1.5	2.0	2.4	2.5	2.0
許可病床数（床）	127.1	86.3	102.0	126.0	86.3	102.0

（注）病棟数、許可病床数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 367 施設を集計対象とした。

②月末在院患者数

図表 147　月末在院患者数（精神病棟入院基本料算定病棟、n=361）

（単位：人）

	平成 25 年 10 月			平成 26 年 10 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
月末在院患者数	109.3	77.4	90.0	107.3	77.0	89.0

（注）月末在院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 361 施設を集計対象とした。

③年齢階級別在院患者数

図表 148　年齢階級別在院患者数（精神病棟入院基本料算定病棟、n=350）

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	人数（人）	割合	人数（人）	割合
20 歳未満	0.6	0.6%	0.7	0.7%
20 歳以上 40 歳未満	9.8	9.0%	9.2	8.6%
40 歳以上 65 歳未満	46.3	42.2%	43.8	40.9%
65 歳以上 75 歳未満	26.3	24.0%	26.8	25.0%
75 歳以上	26.7	24.3%	26.6	24.8%
合計	109.8	100.0%	107.1	100.0%

（注）年齢階級別の在院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 350 施設を集計対象とした。

④主たる疾患別在院患者数

図表 149　主たる疾患別在院患者数（精神病棟入院基本料算定病棟、n=346）

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	人数（人）	割合	人数（人）	割合
症状性を含む器質性精神障害	18.4	16.7%	18.0	16.8%
精神作用物質による精神及び行動の障害	4.6	4.2%	4.7	4.4%
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	67.9	61.8%	65.7	61.2%
気分[感情]障害	10.6	9.7%	10.7	10.0%
神経症性障害、ｽﾄﾚｽ関連障害及び身体表現性障害	1.8	1.7%	1.8	1.6%
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0.4	0.3%	0.4	0.3%
成人の人格及び行動の障害	0.6	0.5%	0.6	0.5%
知的障害(精神遅滞)	2.2	2.0%	2.2	2.0%
心理的発達の障害	0.5	0.5%	0.7	0.6%
小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害	0.2	0.2%	0.2	0.2%
詳細不明の精神障害	0.2	0.2%	0.2	0.2%
その他	2.4	2.2%	2.3	2.2%
合計	109.9	100.0%	107.4	100.0%

（注）主たる疾患別の在院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 346 施設を集計対象とした。

⑤GAF 尺度別在院患者数

図表 150　GAF 尺度別在院患者数（精神病棟入院基本料算定病棟、n=125）

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	人数(人)	割合	人数(人)	割合
91～100	0.1	0.1%	0.0	0.0%
81～90	0.6	0.6%	0.7	0.7%
71～80	2.0	2.1%	2.1	2.2%
61～70	5.2	5.3%	4.8	5.1%
51～60	8.6	8.8%	8.4	9.0%
41～50	9.8	9.9%	9.4	10.1%
31～40	17.7	18.0%	17.8	19.0%
21～30	27.3	27.8%	26.8	28.6%
11～20	13.4	13.6%	13.0	13.9%
1～10	6.4	6.5%	6.3	6.8%
0	0.1	0.1%	0.1	0.1%
不明	7.2	7.3%	4.3	4.5%
合計	98.3	100.0%	93.8	100.0%

（注）GAF 尺度別の在院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった施設を集計対象とした。ただし、すべて「不明」とした施設は集計対象外とした。

⑥向精神薬使用数別患者数

図表 151　向精神薬使用数別患者数（精神病棟入院基本料算定病棟、n=264）

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	人数(人)	割合	人数(人)	割合
主傷病に対して薬物療法を受けている患者数	82.8	100.0%	80.1	100.0%
向精神薬使用数/1 種	20.8	25.1%	20.3	25.3%
向精神薬使用数/2 種	20.2	24.4%	20.3	25.3%
向精神薬使用数/3 種	16.4	19.8%	16.7	20.8%
向精神薬使用数/4 種	10.5	12.7%	10.0	12.5%
向精神薬使用数/5 種以上	14.9	17.9%	12.9	16.1%

（注）向精神薬使用数別の在院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 264 施設を集計対象とした。

⑦在院期間別在院患者数

図表 152　在院期間別在院患者数（精神病棟入院基本料算定病棟、n=331）

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	人数（人）	割合	人数（人）	割合
1 か月未満	9.8	8.9%	9.6	8.9%
1 か月以上～3 か月未満	11.8	10.7%	12.4	11.5%
3 か月以上～6 か月未満	10.5	9.5%	10.3	9.6%
6 か月以上～1 年未満	10.7	9.7%	10.5	9.8%
1 年以上～5 年未満	31.3	28.3%	30.5	28.4%
5 年以上～10 年未満	14.3	13.0%	13.6	12.6%
10 年以上～20 年未満	11.5	10.4%	11.0	10.2%
20 年以上	10.5	9.5%	9.8	9.1%
合計	110.4	100.0%	107.6	100.0%

（注）在院期間別の在院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 331 施設を集計対象とした。

⑧平成 26 年 10 月 1 か月間における新規入院患者数

図表 153　平成 26 年 10 月 1 か月間における新規入院患者数
（精神病棟入院基本料算定病棟、n=368）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
精神病棟入院基本料算定病床における新規入院患者数	11.84	11.41	9.00
（うち）救急搬送･警察搬送患者数	0.58	2.54	0.00
（うち）緊急措置入院患者数	0.01	0.12	0.00
（うち）措置入院患者数	0.19	0.65	0.00
（うち）応急入院患者数	0.13	1.01	0.00
（うち）任意入院患者数	6.82	7.34	5.00

（注）平成 26 年 10 月 1 か月間における当該病床への新規入院患者数について記入のあった 368 施設を集計対象とした。

⑨平成 26 年 10 月 1 か月間における退院患者数

図表 154　平成 26 年 10 月 1 か月間における退院・転院患者数
（精神病棟入院基本料算定病棟、n=369）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
1 か月間における精神病棟入院基本料病棟からの退院患者数	11.22	10.39	8.00
（うち）入院期間が 1 年以内の患者数	9.41	9.77	6.00
（うち）主たる疾患が「症状性を含む器質性精神障害」の患者数	1.76	3.43	1.00
（うち）主たる疾患が「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」の患者数	3.99	4.42	3.00
1 か月間における精神病棟入院基本料病棟からの転院患者数	2.26	3.29	1.00
（うち）入院期間が 1 年以内の患者数	1.54	2.91	1.00
（うち）主たる疾患が「症状性を含む器質性精神障害」の患者数	0.51	1.12	0.00
（うち）主たる疾患が「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」の患者数	0.93	1.49	0.00

（注）平成 26 年 10 月 1 か月間における当該病床からの退院・転院患者数について記入のあった 369 施設を集計対象とした。

⑩病棟の診療体制

図表 155　病棟の診療体制（精神病棟入院基本料算定病棟、n=338）

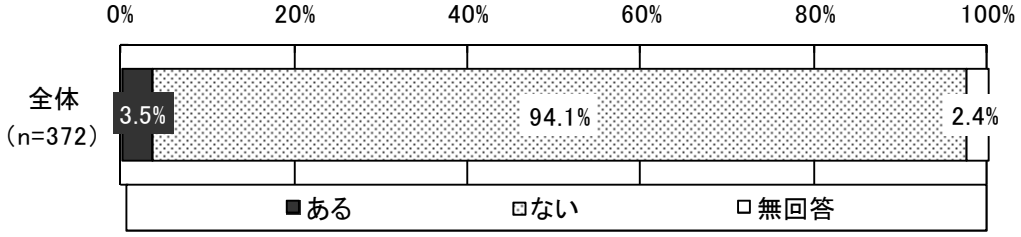
（単位：人）

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	専従	専任	専従	専任
医師	1.40	3.03	1.33	2.99
（うち）精神科医	1.03	2.56	0.97	2.53
看護師（保健師を含む）	26.84	2.36	26.74	2.41
准看護師	12.73	1.01	12.06	1.00
看護補助者	11.70	0.87	11.54	0.81
薬剤師	0.20	0.62	0.20	0.61
作業療法士	0.44	0.88	0.45	0.94
臨床心理技術者	0.08	0.31	0.10	0.34
精神保健福祉士	0.50	0.77	0.50	0.85
社会福祉士	0.01	0.04	0.01	0.03
事務職員	0.19	0.19	0.19	0.19
その他の職員	0.95	1.08	0.98	1.11
合計	55.05	11.17	54.10	11.28

（注）すべての職種について記入のあった 338 施設を集計対象とした。

⑪精神保健福祉士配置加算の施設基準の届出の有無

図表 156　精神保健福祉士配置加算の施設基準の届出の有無
（精神病棟入院基本料算定病棟）

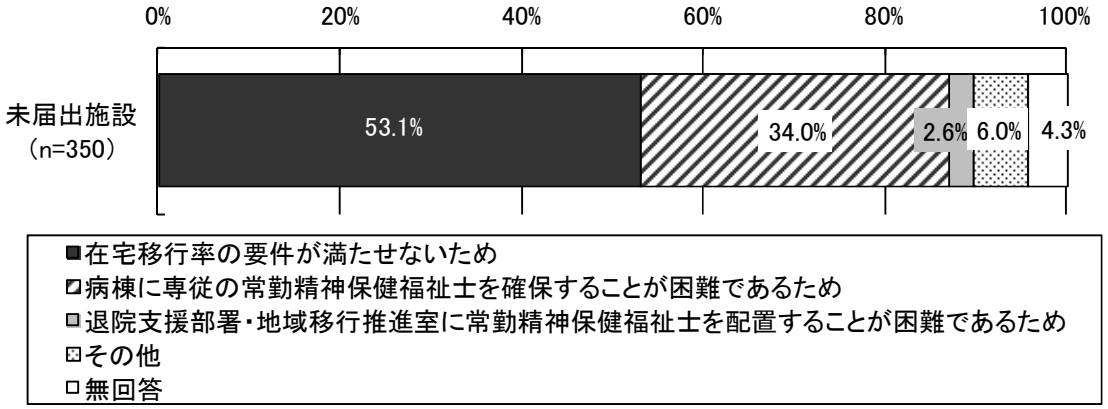


図表 157　精神保健福祉士配置加算の施設基準の届出時期（精神病棟入院基本料算定病棟）

	施設数	割合
平成 26 年 4 月	10	76.9%
平成 26 年 5 月	0	0.0%
平成 26 年 6 月	1	7.7%
平成 26 年 7 月	1	7.7%
平成 26 年 8 月	1	7.7%
合計	13	100.0%

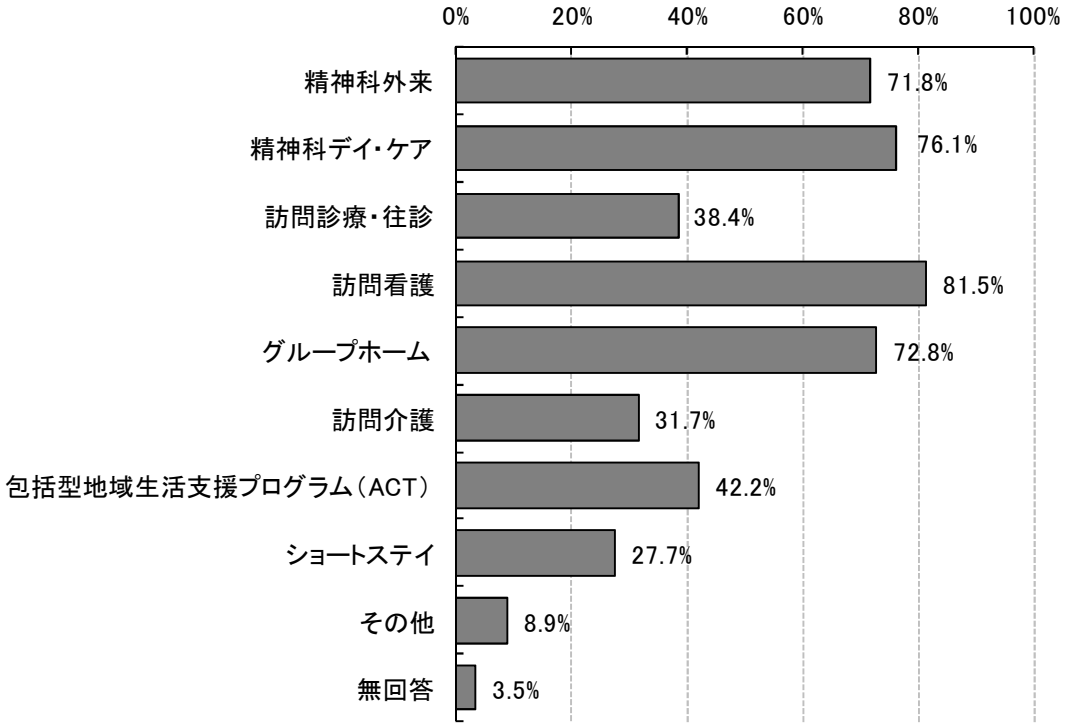
⑫精神保健福祉士配置加算の施設基準の届出をしていない最大の理由

図表 158　精神保健福祉士配置加算の施設基準の届出をしていない最大の理由
（精神病棟入院基本料算定病棟、届出をしていない施設）



⑬精神病棟入院基本料算定病棟の入院患者が、地域へ移行する上で重要となる事業･サービス等

図表 159　精神病棟入院基本料病棟の入院患者が、地域へ移行する上で重要となる事業・サービス等（精神病棟入院基本料算定病棟、複数回答、n=372）



（２）精神療養病棟入院料算定病棟

①病棟数・許可病床数

図表 160　病棟数・許可病床数（精神療養病棟入院料算定病棟、n=283）

	平成 25 年 10 月			平成 26 年 10 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
病棟数（病棟）	2.2	1.2	2.0	2.2	1.2	2.0
許可病床数（床）	123.1	68.4	112.0	119.8	67.0	110.0

（注）病棟数、許可病床数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 283 施設を集計対象とした。

②月末在院患者数

図表 161　月末在院患者数（精神療養病棟入院料算定病棟、n=283）

（単位：人）

	平成 25 年 10 月			平成 26 年 10 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
月末在院患者数	116.5	65.1	105.0	112.3	64.2	102.0

（注）月末在院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 283 施設を集計対象とした。

③年齢階級別在院患者数

図表 162　年齢階級別在院患者数（精神療養病棟入院料算定病棟、n=278）

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	人数（人）	割合	人数（人）	割合
20 歳未満	0.1	0.1%	0.2	0.2%
20 歳以上 40 歳未満	6.1	5.2%	5.2	4.7%
40 歳以上 65 歳未満	49.1	42.2%	46.4	41.4%
65 歳以上 75 歳未満	33.8	29.1%	33.8	30.2%
75 歳以上	27.3	23.5%	26.4	23.6%
合計	116.3	100.0%	112.1	100.0%

（注）年齢階級別の在院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 278 施設を集計対象とした。

④主たる疾患別在院患者数

図表 163　主たる疾患別在院患者数（精神療養病棟入院料算定病棟、n=275）

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	人数（人）	割合	人数（人）	割合
症状性を含む器質性精神障害	12.9	11.1%	12.2	11.0%
精神作用物質による精神及び行動の障害	3.8	3.2%	3.4	3.1%
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	83.1	71.6%	80.0	71.7%
気分[感情]障害	8.4	7.2%	8.2	7.3%
神経症性障害、ｽﾄﾚｽ関連障害及び身体表現性障害	1.8	1.6%	1.8	1.6%
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0.2	0.2%	0.3	0.2%
成人の人格及び行動の障害	0.5	0.4%	0.5	0.4%
知的障害(精神遅滞)	2.9	2.5%	2.8	2.5%
心理的発達の障害	0.2	0.2%	0.2	0.1%
小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害	0.1	0.1%	0.1	0.1%
詳細不明の精神障害	0.2	0.2%	0.2	0.2%
その他	1.9	1.7%	1.9	1.7%
合計	116.1	100.0%	111.6	100.0%

（注）主たる疾患別の在院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 275 施設を集計対象とした。

⑤GAF 尺度別在院患者数

図表 164　GAF 尺度別在院患者数（精神療養病棟入院料算定病棟、n=247）

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	人数（人）	割合	人数（人）	割合
91～100	0.0	0.0%	0.0	0.0%
81～90	0.1	0.0%	0.1	0.1%
71～80	0.5	0.5%	0.6	0.5%
61～70	0.3	0.3%	0.2	0.2%
51～60	0.9	0.7%	0.7	0.6%
41～50	2.8	2.4%	2.6	2.3%
31～40	22.8	19.7%	21.9	19.6%
21～30	58.2	50.4%	56.5	50.6%
11～20	20.9	18.1%	21.3	19.1%
1～10	6.7	5.8%	6.1	5.5%
0	0.4	0.4%	0.4	0.3%
不明	2.0	1.7%	1.4	1.2%
合計	115.5	100.0%	111.8	100.0%

（注）GAF 尺度別の在院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 247 施設を集計対象とした。

⑥向精神薬使用数別患者数

図表 165　向精神薬使用数別患者数（精神療養病棟入院料算定病棟、n=223）

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	人数（人）	割合	人数（人）	割合
主傷病に対して薬物療法を受けている患者数	96.8	100.0%	94.5	100.0%
向精神薬使用数/1 種	28.6	29.5%	28.0	29.6%
向精神薬使用数/2 種	28.3	29.3%	28.2	29.9%
向精神薬使用数/3 種	18.8	19.4%	18.3	19.4%
向精神薬使用数/4 種	10.1	10.4%	9.8	10.4%
向精神薬使用数/5 種以上	11.1	11.4%	10.1	10.7%

（注）向精神薬使用数別の在院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 223 施設を集計対象とした。

⑦在院期間別在院患者数

図表 166　在院期間別在院患者数（精神療養病棟入院料算定病棟、n=271）

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	人数（人）	割合	人数（人）	割合
1 か月未満	2.5	2.2%	2.3	2.1%
1 か月以上～3 か月未満	4.1	3.5%	3.9	3.5%
3 か月以上～6 か月未満	6.1	5.2%	5.7	5.1%
6 か月以上～1 年未満	8.5	7.2%	8.2	7.3%
1 年以上～5 年未満	37.0	31.6%	35.8	31.8%
5 年以上～10 年未満	21.3	18.2%	20.6	18.3%
10 年以上～20 年未満	18.6	15.9%	17.9	15.9%
20 年以上	18.9	16.1%	18.1	16.1%
合計	117.0	100.0%	112.6	100.0%

（注）在院期間別の在院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 271 施設を集計対象とした。

図表 167　平成 26 年 4 月 1 日以降に精神療養病棟に入院した患者数
（精神療養病棟入院料算定病棟、n=248）

	平均値	標準偏差	中央値
【再掲】平成 26 年 4 月 1 日以降に当該病棟に入院した患者数	21.8	30.2	11.0

⑧平成 26 年 10 月 1 か月間における新規入院患者数

図表 168　平成 26 年 10 月 1 か月間における新規入院患者数
（精神療養病棟入院料算定病棟、n=280）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
精神療養病棟における新規入院患者数	2.60	3.58	1.00
（うち）救急搬送･警察搬送患者数	0.03	0.21	0.00
（うち）緊急措置入院患者数	0.00	0.00	0.00
（うち）措置入院患者数	0.04	0.49	0.00
（うち）応急入院患者数	0.01	0.10	0.00
（うち）任意入院患者数	2.01	3.40	1.00

（注）平成 26 年 10 月 1 か月間における当該病床への新規入院患者数について記入のあった 280 施設を集計対象とした。

⑨平成 26 年 10 月 1 か月間における退院・転院患者数

図表 169　平成 26 年 10 月 1 か月間における退院・転院患者数
（精神療養病棟入院料算定病棟、n=288）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
1 か月間における精神療養病棟からの退院患者数	3.82	4.59	2.00
（うち）入院期間が 1 年以内の患者数	2.66	3.86	1.00
（うち）主たる疾患が「症状性を含む器質性精神障害」の患者数	0.56	1.29	0.00
（うち）主たる疾患が「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」の患者数	1.87	2.55	1.00
1 か月間における精神療養病棟からの転院患者数	1.26	1.86	1.00
（うち）入院期間が 1 年以内の患者数	0.48	0.96	0.00
（うち）主たる疾患が「症状性を含む器質性精神障害」の患者数	0.23	0.59	0.00
（うち）主たる疾患が「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」の患者数	0.67	1.09	0.00

（注）平成 26 年 10 月 1 か月間における当該病床からの退院・転院患者数について記入のあった 288 施設を集計対象とした。

⑩病棟の診療体制

図表 170　病棟の診療体制（精神療養病棟入院料算定病棟、n=277）

（単位：人）

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	専従	専任	専従	専任
医師	1.13	1.94	1.05	2.02
（うち）精神科医	1.06	1.74	0.92	1.84
看護師（保健師を含む）	14.33	1.26	14.04	1.25
准看護師	13.51	1.18	12.46	1.04
看護補助者	18.04	1.14	16.06	1.14
薬剤師	0.13	0.42	0.13	0.36
作業療法士	1.04	0.64	1.06	0.66
臨床心理技術者	0.03	0.10	0.04	0.10
精神保健福祉士	0.46	0.75	0.57	0.84
社会福祉士	0.01	0.03	0.01	0.04
事務職員	0.18	0.17	0.17	0.16
その他の職員	0.61	0.57	0.64	0.60
合計	49.47	8.21	46.22	8.20

（注）すべての職種について記入のあった 277 施設を集計対象とした。

⑪精神療養病棟における退院支援相談

図表 171　精神療養病棟における退院支援相談員数（精神療養病棟入院料算定病棟、n=269）

（単位：人）

	専従			専任		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
精神保健福祉士	0.5	1.1	0.0	1.4	1.7	1.0
その他の職員数	0.3	1.5	0.0	1.3	5.5	0.0
合計	0.9	1.8	0.0	2.7	5.5	2.0

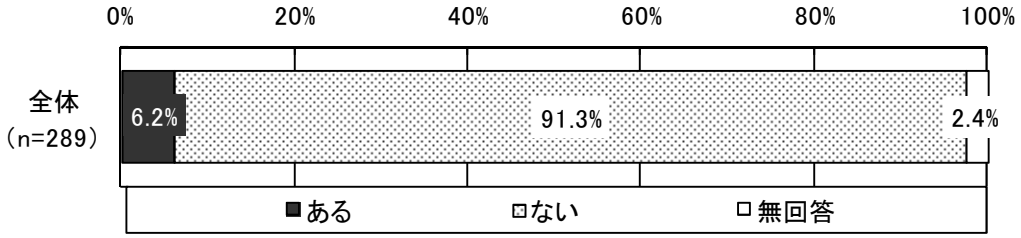
図表 172　患者１人あたりの１か月間における退院支援委員会の平均開催数
（精神療養病棟入院料算定病棟、n=269）

（単位：回）

平均値	標準偏差	中央値
1.26	1.07	1.00

⑫精神保健福祉士配置加算の施設基準の届出の有無

図表 173　精神保健福祉士配置加算の施設基準の届出の有無
（精神療養病棟入院料算定病棟）

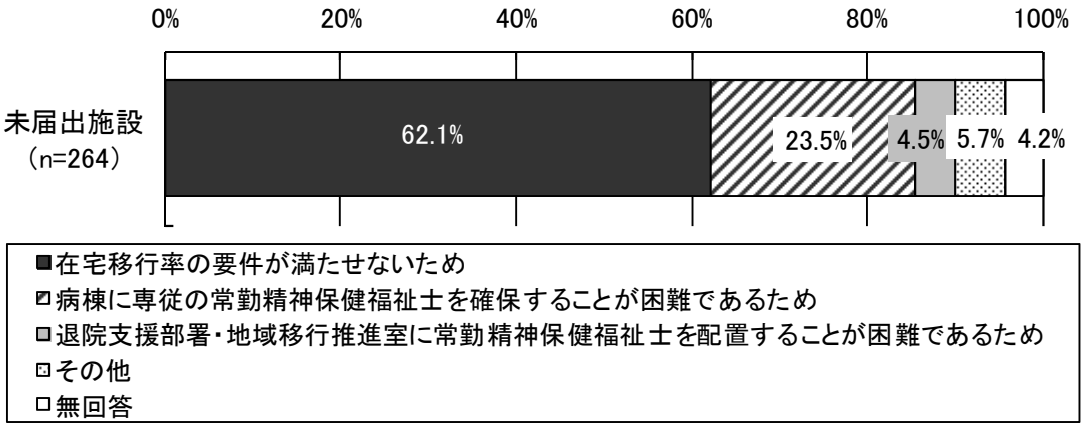


図表 174　精神保健福祉士配置加算の施設基準の届出時期（精神療養病棟入院料算定病棟）

	施設数	割合
平成 26 年 4 月	13	72.2%
平成 26 年 5 月	0	0.0%
平成 26 年 6 月	1	5.6%
平成 26 年 7 月	2	11.1%
平成 26 年 8 月	0	0.0%
平成 26 年 9 月	1	5.6%
不明	1	5.6%
合計	18	100.0%

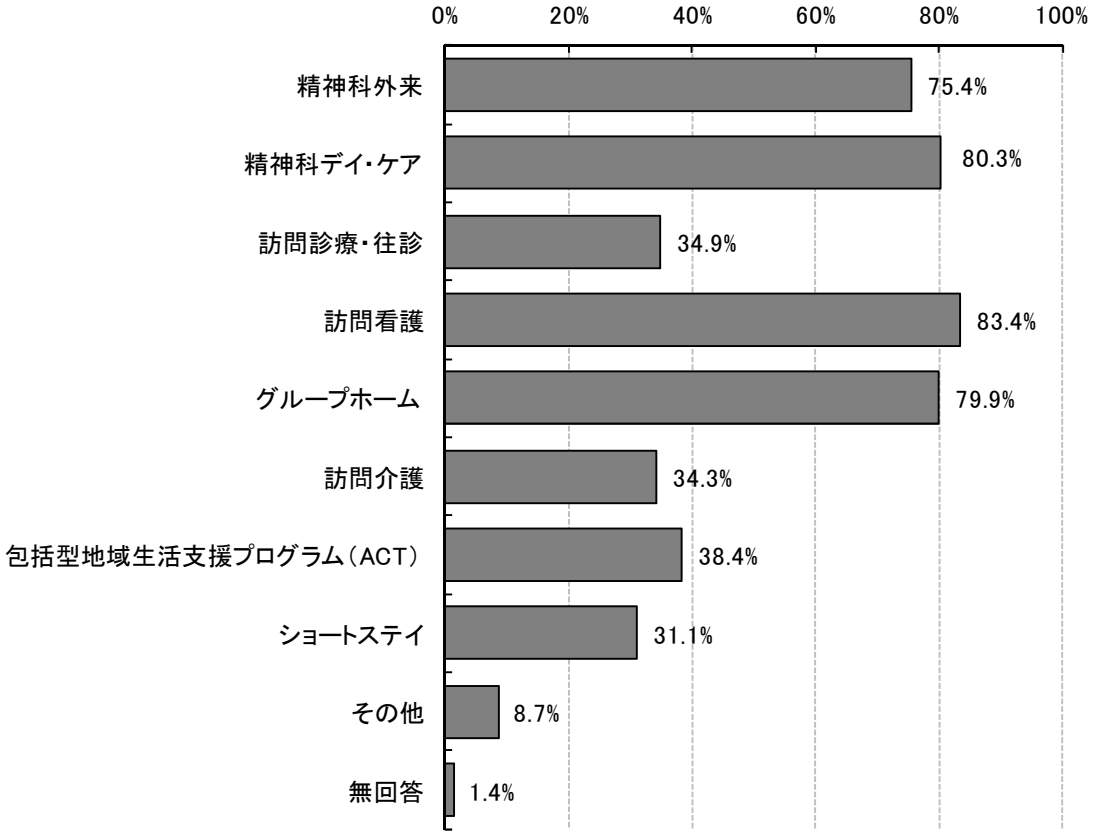
⑬精神保健福祉士配置加算の施設基準の届出をしていない最大の理由

図表 175　精神保健福祉士配置加算の施設基準の届出をしていない最大の理由
（精神療養病棟入院料算定病棟、届出をしていない施設）



⑭精神療養病棟の入院患者が、地域へ移行する上で重要となる事業･サービス等

図表 176　精神療養病棟の入院患者が、地域へ移行する上で重要となる事業・サービス等
（精神療養病棟入院料算定病棟、複数回答、n=289）



（３）精神科救急入院料算定病棟

①病棟数・許可病床数

図表 177　病棟数・許可病床数（精神科救急入院料算定病棟、n=55）

	平成 25 年 10 月			平成 26 年 10 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
病棟数（病棟）	1.2	0.5	1.0	1.3	0.6	1.0
許可病床数（床）	55.5	26.1	50.0	62.4	26.2	50.0

（注）病棟数、許可病床数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 55 施設を集計対象とした。

②月末在院患者数

図表 178　月末在院患者数（精神科救急入院料算定病棟、n=55）

（単位：人）

	平成 25 年 10 月			平成 26 年 10 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
月末在院患者数	47.7	23.9	41.0	53.1	24.4	45.0

（注）月末在院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 55 施設を集計対象とした。

③年齢階級別在院患者数

図表 179　年齢階級別在院患者数（精神科救急入院料算定病棟、n=49）

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	人数（人）	割合	人数（人）	割合
20 歳未満	1.2	2.3%	1.6	2.9%
20 歳以上 40 歳未満	14.9	29.4%	16.0	29.0%
40 歳以上 65 歳未満	22.7	44.7%	24.0	43.6%
65 歳以上 75 歳未満	6.7	13.1%	8.6	15.5%
75 歳以上	5.3	10.4%	5.0	9.0%
合計	50.8	100.0%	55.1	100.0%

（注）年齢階級別の在院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 49 施設を集計対象とした。

④主たる疾患別在院患者数

図表 180　主たる疾患別在院患者数（精神科救急入院料算定病棟、n=50）

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	人数（人）	割合	人数（人）	割合
症状性を含む器質性精神障害	4.2	8.4%	3.8	7.0%
精神作用物質による精神及び行動の障害	2.7	5.4%	3.6	6.6%
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	25.9	51.0%	26.3	47.9%
気分[感情]障害	12.0	23.6%	14.0	25.5%
神経症性障害、ｽﾄﾚｽ関連障害及び身体表現性障害	2.0	3.9%	2.0	3.6%
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0.3	0.7%	0.2	0.4%
成人の人格及び行動の障害	0.6	1.2%	1.1	1.9%
知的障害(精神遅滞)	0.9	1.7%	1.1	2.0%
心理的発達の障害	0.8	1.6%	1.2	2.2%
小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害	0.2	0.4%	0.2	0.4%
詳細不明の精神障害	0.2	0.5%	0.4	0.8%
その他	0.9	1.8%	0.9	1.7%
合計	50.7	100.0%	55.0	100.0%

（注）主たる疾患別の在院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 50 施設を集計対象とした。

⑤GAF 尺度別在院患者数

図表 181　GAF 尺度別在院患者数（精神科救急入院料算定病棟、n=30）

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	人数（人）	割合	人数（人）	割合
91～100	0.0	0.0%	0.0	0.0%
81～90	0.2	0.3%	0.1	0.3%
71～80	0.9	1.8%	1.0	1.9%
61～70	1.9	3.8%	1.5	2.8%
51～60	3.0	6.0%	4.4	8.3%
41～50	3.1	6.3%	4.2	7.9%
31～40	6.2	12.4%	7.6	14.4%
21～30	11.4	23.0%	11.0	20.7%
11～20	4.1	8.3%	4.1	7.7%
1～10	1.1	2.2%	1.6	3.0%
0	0.1	0.3%	0.0	0.0%
不明	17.6	35.6%	17.6	33.2%
合計	49.6	100.0%	53.0	100.0%

（注）GAF 尺度別の在院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 30 施設を集計対象とした。

⑥向精神薬使用数別患者数

図表 182　向精神薬使用数別患者数（精神科救急入院料算定病棟、n=30）

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	人数（人）	割合	人数（人）	割合
主傷病に対して薬物療法を受けている患者数	44.2	100.0%	46.5	100.0%
向精神薬使用数/1 種	12.3	27.7%	11.7	25.1%
向精神薬使用数/2 種	10.8	24.3%	12.5	27.0%
向精神薬使用数/3 種	8.3	18.7%	10.2	21.9%
向精神薬使用数/4 種	6.2	14.0%	6.2	13.3%
向精神薬使用数/5 種以上	6.7	15.2%	6.0	12.8%

（注）向精神薬使用数別の在院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 30 施設を集計対象とした。

⑦在院期間別在院患者数

図表 183　在院期間別在院患者数（精神科救急入院料算定病棟、n=47）

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	人数（人）	割合	人数（人）	割合
1 か月未満	24.1	48.0%	26.7	48.7%
1 か月以上～3 か月未満	21.0	41.9%	24.0	43.7%
3 か月以上～6 か月未満	3.3	6.6%	2.4	4.4%
6 か月以上～1 年未満	0.9	1.8%	0.6	1.2%
1 年以上～5 年未満	0.7	1.4%	0.8	1.4%
5 年以上～10 年未満	0.1	0.2%	0.2	0.4%
10 年以上～20 年未満	0.0	0.0%	0.1	0.2%
20 年以上	0.0	0.0%	0.0	0.0%
合計	50.3	100.0%	54.9	100.0%

（注）在院期間別の在院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 47 施設を集計対象とした。

⑧1 か月間における新規入院患者数

図表 184　1 か月間における新規入院患者数（精神科救急入院料算定病棟、n=51）

（単位：人）

	平成 25 年 10 月			平成 26 年 10 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
精神科救急入院料算定病床における新規入院患者数	33.67	15.87	30.00	33.37	14.37	29.00
（うち）救急搬送･警察搬送患者数	4.12	4.97	3.00	3.57	4.07	2.00
（うち）緊急措置入院患者数	0.98	1.89	0.00	0.75	1.62	0.00
（うち）措置入院患者数	2.22	2.59	1.00	2.55	2.72	2.00
（うち）応急入院患者数	1.49	2.45	0.00	1.08	1.68	0.00
（うち）他の精神科病院からの転院患者数	0.31	0.65	0.00	0.41	1.59	0.00
（うち）他の一般病院からの転院患者数	1.37	2.85	0.00	1.08	1.90	0.00
身体合併症の治療のために、救命救急センター等の他院の一般病床に入院していたが、治療を終えて、自施設に再入院となった患者数	0.25	0.72	0.00	0.08	0.27	0.00
（うち）自院の一般病床からの転棟患者数	0.20	0.63	0.00	0.20	0.66	0.00
【別掲】院内標準診療計画書を策定した患者数				5.84	15.35	0.00

（注）当該病床への新規入院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 51 施設を集計対象とした。

⑨1 か月間における退院・転院患者数

図表 185　1 か月間における退院・転院患者数（精神科救急入院料算定病棟、n=28）

（単位：人）

	平成 25 年 10 月			平成 26 年 10 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
1 か月間に当該病床から退院･転院･転棟した患者数	31.46	18.85	26.00	33.00	16.04	27.50
（うち）自宅退院患者数（障害者施設等含む）	23.43	12.61	21.00	24.64	12.84	21.00
（うち）自院の他の精神病床に転棟した患者数	4.93	8.02	2.50	5.25	6.18	4.00
（うち）自院の他の一般病床に転棟した患者数	0.43	1.43	0.00	0.21	0.79	0.00
（うち）他院の精神病床に転院した患者数	1.11	1.83	0.00	1.21	2.45	0.00
連携の取り決めのある医療機関への転院患者数	0.21	0.83	0.00	0.21	0.79	0.00
（うち）他院の一般病床に転院した患者数	0.71	1.01	0.00	0.68	1.25	0.00
【別掲】入院期間が 1 年以内の患者数	29.00	19.87	24.00	30.96	17.34	27.00
【別掲】認知症の患者数	2.71	4.92	1.00	2.54	4.50	1.00
【別掲】統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害の患者数	13.18	7.43	12.00	14.07	7.23	14.00
【別掲】気分[感情]障害の患者数	7.11	6.09	5.00	7.29	4.98	6.50
【別掲】院内標準診療計画加算を算定した患者数				2.89	8.49	0.00
【別掲】精神科身体合併症管理加算を算定したことがある患者数				0.64	1.25	0.00

（注）平成 26 年 10 月 1 か月間における当該病床からの退院・転院患者数について記入のあった 28 施設を集計対象とした。

図表 186　精神科身体合併症管理加算を算定したことがある患者の平均在院日数（精神科救急入院料算定病棟、n=8）

（単位：日）

	平均値	標準偏差	中央値
精神科身体合併症管理加算を算定したことがある患者の平均在院日数	55.4	87.5	33.0

（注）精神科身体合併症管理加算を算定したことがある患者数が 1 名以上であった 8 施設を集計対象とした。

⑩病棟の診療体制

図表 187　病棟の診療体制（精神科救急入院料算定病棟、n=49）

（単位：人）

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	専従	専任	専従	専任
医師	1.46	3.62	1.75	3.57
（うち）精神科医	1.26	3.37	1.35	3.39
看護師（保健師を含む）	27.61	3.04	30.46	2.96
准看護師	0.26	0.00	0.42	0.00
看護補助者	3.15	0.18	3.60	0.13
薬剤師	0.04	1.25	0.04	1.25
作業療法士	0.14	1.15	0.20	1.15
臨床心理技術者	0.08	0.43	0.16	0.43
精神保健福祉士	1.47	1.14	1.69	1.18
社会福祉士	0.00	0.04	0.00	0.04
事務職員	0.18	0.02	0.18	0.02
その他の職員	0.04	0.06	0.05	0.03
合計	34.45	10.93	38.56	10.78

（注）すべての職種について記入のあった 277 施設を集計対象とした。

（４）精神科救急･合併症入院料算定病棟

①病棟数・許可病床数

図表 188　病棟数・許可病床数（精神科救急・合併症入院料算定病棟、n=6）

	平成 25 年 10 月			平成 26 年 10 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
病棟数（病棟）	0.8	0.4	1.0	1.0	0.0	1.0
許可病床数（床）	35.3	18.5	39.0	43.7	7.2	45.0

（注）病棟数、許可病床数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 6 施設を集計対象とした。

②月末在院患者数

図表 189　月末在院患者数（精神科救急・合併症入院料算定病棟、n=6）

（単位：人）

	平成 25 年 10 月			平成 26 年 10 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
月末在院患者数	30.0	15.9	33.5	34.2	7.0	36.0

（注）月末在院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 6 施設を集計対象とした。

③年齢階級別在院患者数

図表 190　年齢階級別在院患者数（精神科救急・合併症入院料算定病棟、n=5）

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	人数（人）	割合	人数（人）	割合
20 歳未満	1.0	2.8%	1.2	3.6%
20 歳以上 40 歳未満	7.2	20.0%	7.0	20.8%
40 歳以上 65 歳未満	14.4	40.0%	11.2	33.3%
65 歳以上 75 歳未満	6.6	18.3%	9.6	28.6%
75 歳以上	6.8	18.9%	4.6	13.7%
合計	36.0	100.0%	33.6	100.0%

（注）年齢階級別の在院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 5 施設を集計対象とした。

④主たる疾患別在院患者数

図表 191　主たる疾患別在院患者数（精神科救急・合併症入院料算定病棟、n=4）

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	人数（人）	割合	人数（人）	割合
症状性を含む器質性精神障害	4.8	12.6%	2.0	5.5%
精神作用物質による精神及び行動の障害	2.0	5.3%	1.3	3.4%
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	11.0	29.1%	12.8	34.9%
気分[感情]障害	10.3	27.2%	10.0	27.4%
神経症性障害、ｽﾄﾚｽ関連障害及び身体表現性障害	2.5	6.6%	4.0	11.0%
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0.3	0.7%	0.3	0.7%
成人の人格及び行動の障害	0.5	1.3%	0.0	0.0%
知的障害(精神遅滞)	0.3	0.7%	0.8	2.1%
心理的発達の障害	0.0	0.0%	0.3	0.7%
小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害	0.0	0.0%	0.0	0.0%
詳細不明の精神障害	1.3	3.3%	0.8	2.1%
その他	5.0	13.2%	4.5	12.3%
合計	37.8	100.0%	36.5	100.0%

（注）主たる疾患別の在院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 4 施設を集計対象とした。

⑤GAF 尺度別在院患者数

図表 192　GAF 尺度別在院患者数（精神科救急・合併症入院料算定病棟、n=4）

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	人数（人）	割合	人数（人）	割合
91～100	0.0	0.0%	0.0	0.0%
81～90	0.3	0.7%	0.3	0.7%
71～80	0.5	1.3%	0.5	1.4%
61～70	1.0	2.6%	1.5	4.1%
51～60	5.8	15.2%	2.8	7.5%
41～50	5.3	13.9%	3.0	8.2%
31～40	5.8	15.2%	3.5	9.6%
21～30	10.3	27.2%	9.8	26.7%
11～20	6.8	17.9%	6.8	18.5%
1～10	1.8	4.6%	1.5	4.1%
0	0.0	0.0%	0.0	0.0%
不明	0.5	1.3%	7.0	19.2%
合計	37.8	100.0%	36.5	100.0%

（注）GAF 尺度別の在院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 4 施設を集計対象とした。

⑥向精神薬使用数別患者数

図表 193　向精神薬使用数別患者数（精神科救急・合併症入院料算定病棟、n=4）

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	人数（人）	割合	人数（人）	割合
主傷病に対して薬物療法を受けている患者数	26.5	100.0%	28.5	100.0%
向精神薬使用数/1 種	12.3	46.2%	14.0	49.1%
向精神薬使用数/2 種	7.5	28.3%	6.8	23.7%
向精神薬使用数/3 種	3.5	13.2%	3.8	13.2%
向精神薬使用数/4 種	2.3	8.5%	1.3	4.4%
向精神薬使用数/5 種以上	1.0	3.8%	2.8	9.6%

（注）向精神薬使用数別の在院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 4 施設を集計対象とした。

⑦在院期間別在院患者数

図表 194　在院期間別在院患者数（精神科救急・合併症入院料算定病棟、n=5）

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	人数（人）	割合	人数（人）	割合
1 か月未満	19.4	53.9%	15.4	45.8%
1 か月以上～3 か月未満	10.8	30.0%	12.8	38.1%
3 か月以上～6 か月未満	3.6	10.0%	3.4	10.1%
6 か月以上～1 年未満	1.0	2.8%	0.6	1.8%
1 年以上～5 年未満	1.2	3.3%	1.4	4.2%
5 年以上～10 年未満	0.0	0.0%	0.0	0.0%
10 年以上～20 年未満	0.0	0.0%	0.0	0.0%
20 年以上	0.0	0.0%	0.0	0.0%
合計	36.0	100.0%	33.6	100.0%

（注）在院期間別の在院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 5 施設を集計対象とした。

⑧1 か月間における新規入院患者数

図表 195　1 か月間における新規入院患者数（精神科救急・合併症入院料算定病棟、n=5）

（単位：人）

	平成 25 年 10 月			平成 26 年 10 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
精神科救急･合併症入院料算定病床における新規入院患者数	24.40	7.99	23.00	19.80	7.40	17.00
（うち）救急搬送･警察搬送患者数	4.00	5.10	2.00	5.60	5.68	5.00
（うち）緊急措置入院患者数	0.40	0.55	0.00	0.60	0.89	0.00
（うち）措置入院患者数	0.80	1.79	0.00	0.80	1.30	0.00
（うち）応急入院患者数	1.80	4.02	0.00	0.20	0.45	0.00
（うち）精神科単科病院からの転院してきた身体合併症患者数	1.20	1.64	0.00	1.20	1.64	1.00
（うち）精神科救急･合併症入院料を算定した後に、手術等により一時期 ICU 等で治療を受け、再入棟した患者数	0.20	0.45	0.00	0.60	0.89	0.00
特定集中治療室管理料算定病床から再入院した患者数	0.20	0.45	0.00	0.60	0.89	0.00
ﾊｲｹｱﾕﾆｯﾄ入院医療管理料算定病床から再入院した患者数	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
脳卒中ｹｱﾕﾆｯﾄ入院医療管理料算定病床から再入院した患者数	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
小児特定集中治療管理料算定病床から再入院した患者数	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
総合周産期特定集中治療室管理料算定病床から再入院した患者数	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
（うち）自院の一般病床からの転棟患者数	1.40	0.55	1.00	3.00	3.67	1.00
【別掲】院内標準診療計画書を策定した患者数				4.40	7.37	0.00

（注）当該病床への新規入院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 5 施設を集計対象とした。

⑨1 か月間における退院・転院患者数

図表 196　1 か月間における退院・転院患者数（精神科救急・合併症入院料算定病棟、n=5）

（単位：人）

	平成 25 年 10 月			平成 26 年 10 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
1 か月間に当該病床から退院･転院･転棟した患者数	22.00	12.98	25.00	19.20	10.38	23.00
（うち）自宅退院患者数（障害者施設等含む）	18.40	10.69	24.00	14.60	9.18	14.00
（うち）自院の他の精神病床に転棟した患者数	0.20	0.45	0.00	0.00	0.00	0.00
（うち）自院の他の一般病床に転棟した患者数	0.20	0.45	0.00	1.20	1.30	1.00
（うち）他院の精神病床に転院した患者数	2.20	3.49	0.00	2.60	2.79	2.00
連携の取り決めのある医療機関への転院患者数	0.20	0.45	0.00	0.40	0.89	0.00
（うち）他院の一般病床に転院した患者数	0.40	0.55	0.00	0.00	0.00	0.00
【別掲】入院期間が 1 年以内の患者数	21.80	12.87	25.00	18.80	11.21	23.00
【別掲】認知症の患者数	2.20	2.59	1.00	1.20	1.10	2.00
【別掲】統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害の患者数	9.40	7.02	10.00	6.60	5.50	5.00
【別掲】気分[感情]障害の患者数	5.20	3.42	6.00	3.00	2.55	3.00
【別掲】院内標準診療計画加算を算定した患者数				0.60	1.34	0.00

（注）平成 26 年 10 月 1 か月間における当該病床からの退院・転院患者数について記入のあった 5 施設を集計対象とした。

⑩病棟の診療体制

図表 197　病棟の診療体制（精神科救急・合併症入院料算定病棟、n=5）

（単位：人）

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	専従	専任	専従	専任
医師	5.82	1.50	5.24	1.40
(うち)精神科医	5.02	0.50	4.44	0.60
看護師(保健師を含む)	26.60	0.20	26.08	0.20
准看護師	0.20	0.00	0.20	0.00
看護補助者	2.20	0.00	2.40	0.00
薬剤師	0.48	0.20	0.48	0.20
作業療法士	0.00	0.20	0.20	0.20
臨床心理技術者	1.10	0.08	1.30	0.04
精神保健福祉士	0.96	0.80	1.10	0.80
社会福祉士	0.40	0.00	0.60	0.00
事務職員	0.40	0.00	0.40	0.00
その他の職員	0.00	0.00	0.00	0.00
合計	38.16	2.98	38.00	2.84

（注）すべての職種について記入のあった 5 施設を集計対象とした。

（５）精神科急性期治療病棟入院料算定病棟

①病棟数・許可病床数

図表 198　病棟数・許可病床数（精神科急性期治療病棟入院料算定病棟、n=122）

	平成 25 年 10 月			平成 26 年 10 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
病棟数（病棟）	1.7	5.5	1.0	1.5	5.3	1.0
許可病床数（床）	48.6	19.4	49.5	50.0	17.3	49.5

（注）病棟数、許可病床数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 122 施設を集計対象とした。

②在院患者数

図表 199　月末在院患者数（精神科急性期治療病棟入院料算定病棟、n=121）

（単位：人）

	平成 25 年 10 月			平成 26 年 10 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
月末在院患者数	39.3	17.0	38.0	40.0	16.7	37.0

（注）月末在院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 121 施設を集計対象とした。

③年齢階級別在院患者数

図表 200　年齢階級別在院患者数（精神科急性期治療病棟入院料算定病棟、n=108）

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	人数（人）	割合	人数（人）	割合
20 歳未満	0.8	2.0%	0.9	2.1%
20 歳以上 40 歳未満	9.5	23.1%	9.4	22.4%
40 歳以上 65 歳未満	18.6	45.3%	18.4	43.9%
65 歳以上 75 歳未満	6.0	14.6%	6.6	15.9%
75 歳以上	6.1	14.9%	6.6	15.7%
合計	41.1	100.0%	41.8	100.0%

（注）年齢階級別の在院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 108 施設を集計対象とした。

④主たる疾患別在院患者数

図表 201　主たる疾患別在院患者数（精神科急性期治療病棟入院料算定病棟、n=113）

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	人数（人）	割合	人数（人）	割合
症状性を含む器質性精神障害	4.4	10.7%	4.3	10.4%
精神作用物質による精神及び行動の障害	3.9	9.5%	4.0	9.6%
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	18.9	46.1%	18.3	44.3%
気分[感情]障害	9.8	24.0%	10.6	25.6%
神経症性障害、ｽﾄﾚｽ関連障害及び身体表現性障害	1.6	3.9%	1.7	4.1%
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0.4	0.9%	0.3	0.8%
成人の人格及び行動の障害	0.5	1.2%	0.4	1.0%
知的障害(精神遅滞)	0.6	1.6%	0.7	1.6%
心理的発達の障害	0.3	0.7%	0.5	1.1%
小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害	0.2	0.4%	0.1	0.2%
詳細不明の精神障害	0.0	0.1%	0.1	0.1%
その他	0.4	0.9%	0.4	1.0%
合計	40.9	100.0%	41.4	100.0%

（注）主たる疾患別の在院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 113 施設を集計対象とした。

⑤GAF 尺度別在院患者数

図表 202　GAF 尺度別在院患者数（精神科急性期治療病棟入院料算定病棟、n=65）

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	人数（人）	割合	人数（人）	割合
91～100	0.0	0.1%	0.1	0.2%
81～90	0.5	1.3%	0.6	1.5%
71～80	0.9	2.1%	0.9	2.1%
61～70	1.5	3.6%	1.8	4.2%
51～60	3.2	7.7%	4.0	9.4%
41～50	3.4	8.3%	3.3	7.6%
31～40	5.1	12.3%	5.4	12.6%
21～30	5.7	13.7%	6.5	15.1%
11～20	2.1	5.1%	2.2	5.2%
1～10	0.3	0.7%	0.5	1.2%
0	0.0	0.1%	0.0	0.0%
不明	18.6	44.9%	17.7	41.0%
合計	41.4	100.0%	43.1	100.0%

（注）GAF 尺度別の在院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 65 施設を集計対象とした。

⑥向精神薬使用数別患者数

図表 203　向精神薬使用数別患者数（精神科急性期治療病棟入院料算定病棟、n=75）

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	人数（人）	割合	人数（人）	割合
主傷病に対して薬物療法を受けている患者数	34.8	100.0%	35.3	100.0%
向精神薬使用数/1 種	9.0	25.9%	9.4	26.6%
向精神薬使用数/2 種	9.8	28.3%	10.1	28.7%
向精神薬使用数/3 種	6.6	18.9%	7.2	20.5%
向精神薬使用数/4 種	3.9	11.3%	4.1	11.6%
向精神薬使用数/5 種以上	5.4	15.6%	4.4	12.6%

（注）向精神薬使用数別の在院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 75 施設を集計対象とした。

⑦在院期間別在院患者数

図表 204　在院期間別在院患者数（精神科急性期治療病棟入院料算定病棟、n=111）

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	人数（人）	割合	人数（人）	割合
1 か月未満	17.0	41.2%	16.8	40.4%
1 か月以上～3 か月未満	16.6	40.4%	18.4	44.1%
3 か月以上～6 か月未満	4.0	9.7%	3.4	8.1%
6 か月以上～1 年未満	1.5	3.6%	1.3	3.1%
1 年以上～5 年未満	1.4	3.3%	1.2	2.9%
5 年以上～10 年未満	0.4	0.9%	0.3	0.7%
10 年以上～20 年未満	0.3	0.7%	0.2	0.5%
20 年以上	0.1	0.3%	0.1	0.1%
合計	41.1	100.0%	41.6	100.0%

（注）在院期間別の在院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 111 施設を集計対象とした。

⑧1 か月間における新規入院患者数

図表 205　1 か月間における新規入院患者数
（精神科急性期治療病棟入院料算定病棟、n=100）

（単位：人）

	平成 25 年 10 月			平成 26 年 10 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
精神科急性期治療病棟入院料算定病床における新規入院患者数	22.13	10.30	20.00	21.70	10.26	20.00
（うち）救急搬送･警察搬送患者数	1.04	1.71	0.00	0.86	1.28	0.00
（うち）緊急措置入院患者数	0.08	0.39	0.00	0.01	0.10	0.00
（うち）措置入院患者数	0.50	1.10	0.00	0.36	0.80	0.00
（うち）応急入院患者数	0.14	0.43	0.00	0.11	0.58	0.00
（うち）他の精神科病院からの転院患者数	0.49	1.11	0.00	0.39	1.05	0.00
（うち）他の一般病院からの転院患者数	0.87	1.38	0.00	0.80	1.61	0.00
身体合併症の治療のために、救命救急センター等の他院の一般病床に入院していたが、治療を終えて、自施設に再入院となった患者数	0.19	0.53	0.00	0.25	0.59	0.00
（うち）自院の一般病床からの転棟患者数	0.46	2.94	0.00	0.49	3.06	0.00
【別掲】院内標準診療計画書を策定した患者数				2.94	7.42	0.00

（注）当該病床への新規入院患者数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記入のあった 100 施設を集計対象とした。

⑨1 か月間における退院・転院患者数

図表 206　1 か月間における退院・転院患者数
（精神科急性期治療病棟入院料算定病棟、n=79）

（単位：人）

	平成 25 年 10 月			平成 26 年 10 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
1 か月間に当該病床から退院･転院･転棟した患者数	22.76	12.36	21.00	22.70	11.02	22.00
（うち）自宅退院患者数（障害者施設等含む）	16.96	10.44	15.00	16.89	9.34	16.00
（うち）自院の他の精神病床に転棟した患者数	3.97	4.93	3.00	3.58	5.49	2.00
（うち）自院の他の一般病床に転棟した患者数	0.13	0.54	0.00	0.20	0.77	0.00
（うち）他院の精神病床に転院した患者数	0.47	1.52	0.00	0.41	1.01	0.00
連携の取り決めのある医療機関への転院患者数	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
（うち）他院の一般病床に転院した患者数	0.65	0.93	0.00	0.71	1.04	0.00
【別掲】入院期間が 1 年以内の患者数	19.63	11.95	20.00	20.53	11.50	20.00
【別掲】認知症の患者数	1.84	2.54	1.00	1.67	2.98	1.00
【別掲】統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害の患者数	8.30	6.90	7.00	8.99	6.63	8.00
【別掲】気分[感情]障害の患者数	5.81	4.91	5.00	6.04	5.46	5.00
【別掲】院内標準診療計画加算を算定した患者数				1.24	4.09	0.00
【別掲】精神科身体合併症管理加算を算定したことがある患者数				0.67	2.01	0.00

（注）平成 26 年 10 月 1 か月間における当該病床からの退院・転院患者数について記入のあった 79 施設を集計対象とした。

図表 207　精神科身体合併症管理加算を算定したことがある患者の平均在院日数
（精神科急性期治療病棟入院料算定病棟、n=17）

（単位：日）

	平均値	標準偏差	中央値
精神科身体合併症管理加算を算定したことがある患者の平均在院日数	57.9	120.6	28.0

（注）精神科身体合併症管理加算を算定したことがある患者数が 1 名以上であった 17 施設を集計対象とした。

⑩病棟の診療体制

図表 208　病棟の診療体制（精神科急性期治療病棟入院料算定病棟、n=109）

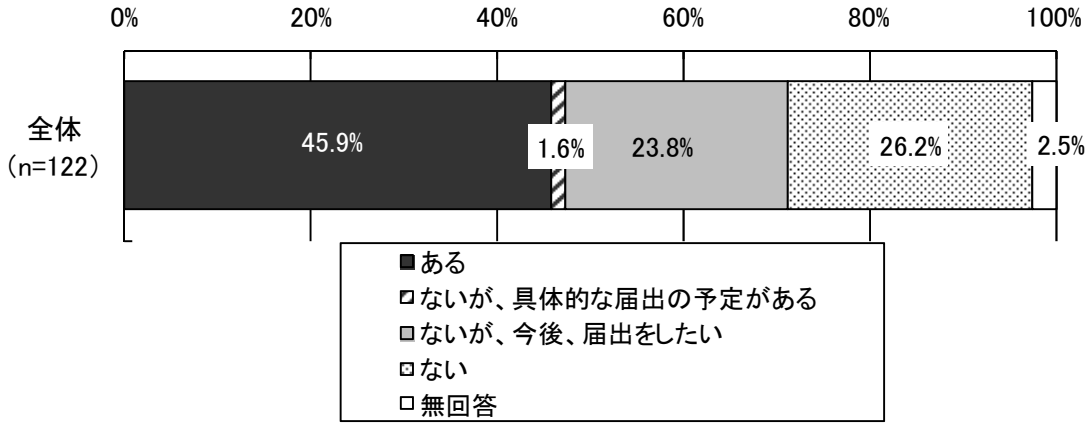
（単位：人）

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	専従	専任	専従	専任
医師	1.03	1.71	1.38	1.96
（うち）精神科医	0.88	1.55	1.24	1.79
看護師（保健師を含む）	14.71	2.16	14.84	2.28
准看護師	4.27	0.70	4.04	0.64
看護補助者	5.33	0.76	5.27	0.82
薬剤師	0.15	0.20	0.15	0.20
作業療法士	0.19	0.47	0.20	0.50
臨床心理技術者	0.09	0.30	0.09	0.32
精神保健福祉士	0.70	0.46	0.87	0.45
社会福祉士	0.00	0.00	0.00	0.00
事務職員	0.10	0.06	0.10	0.06
その他の職員	0.27	0.11	0.26	0.11
合計	26.84	6.93	27.20	7.34

（注）すべての職種について記入のあった 109 施設を集計対象とした。

⑪精神科急性期医師配置加算の施設基準の届出状況

図表 209　精神科急性期医師配置加算の施設基準の届出状況
（精神科急性期治療病棟入院料算定病棟）

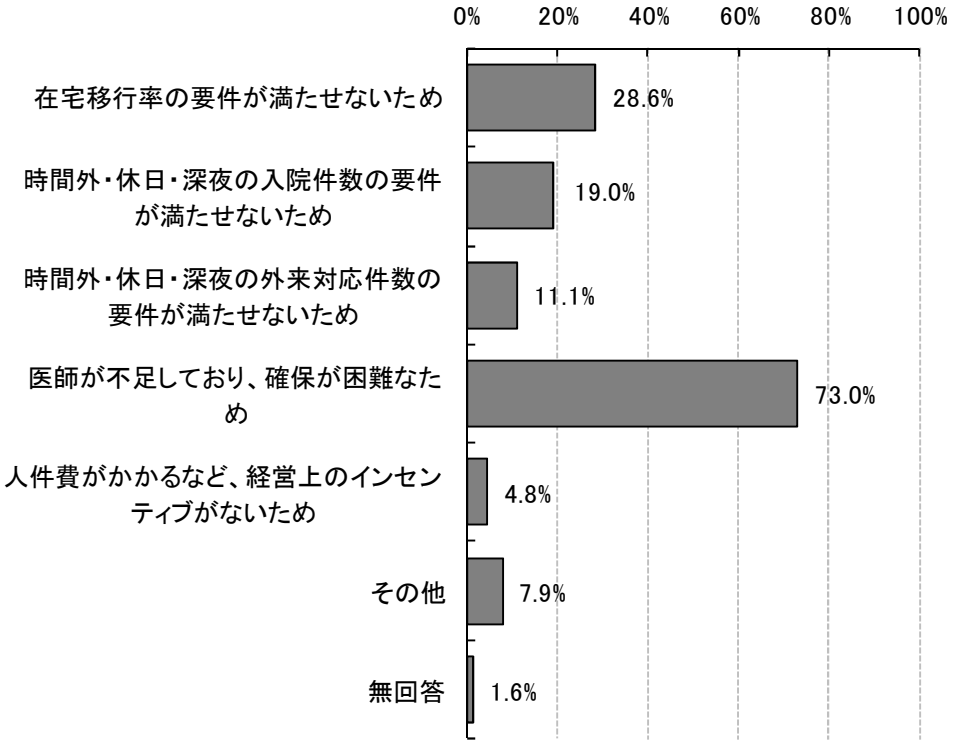


図表 210　精神科急性期医師配置加算の施設基準の届出時期
（精神科急性期治療病棟入院料算定病棟、届出が「ある」と回答した施設）

	施設数	割合
平成 26 年 4 月	30	53.6%
平成 26 年 5 月	6	10.7%
平成 26 年 6 月	3	5.4%
平成 26 年 7 月	3	5.4%
平成 26 年 8 月	8	14.3%
平成 26 年 9 月	2	3.6%
平成 26 年 10 月	3	5.4%
不明	1	1.8%
合計	56	100.0%

（参考）「ないが、具体的な予定がある」と回答した施設の届出予定時期は「平成 27 年 4 月」が 1 施設、不明が 1 施設であった。

図表 211　精神科急性期医師配置加算の施設基準の届出をしていない理由
（精神科急性期治療病棟入院料算定病棟、未届出施設、複数回答、n=63）



４．患者調査の結果

【調査対象等】

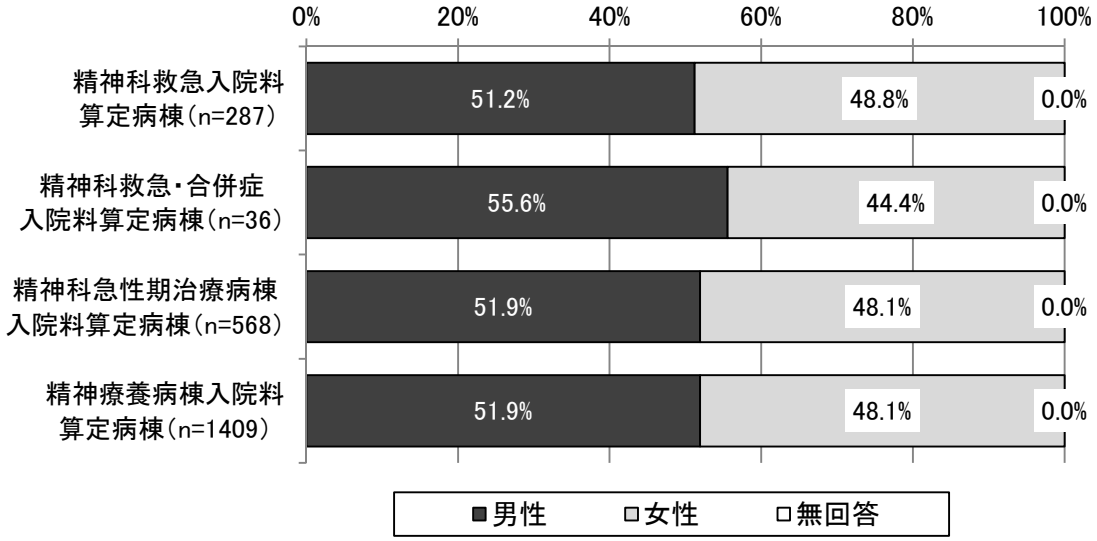
調査対象：①入院患者（精神科救急入院料、精神科救急・合併症入院料、精神科急性期治療病棟入院料、精神療養病棟入院料を算定している病棟の入院患者）
②外来患者
回 答 数：①入院患者：2,379 人
②外来患者：1,826 人
回 答 者：①入院患者：対象患者を担当する看護師等
②外来患者：対象患者を担当する看護師・精神保健福祉士等

（１）入院患者

①患者の基本的事項

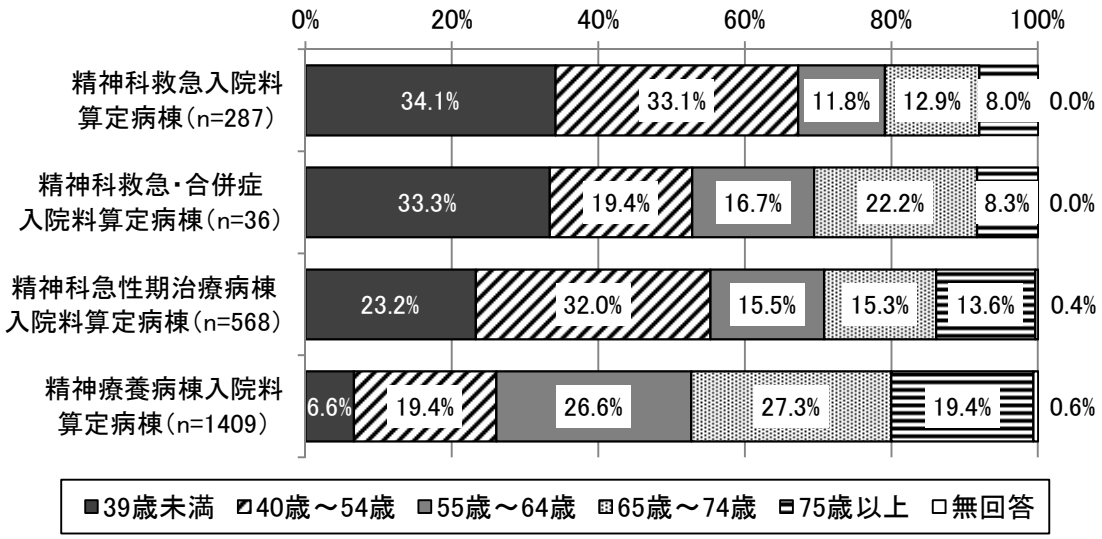
1）性別

図表 212　性別



2）年齢

図表 213　年齢階級別分布



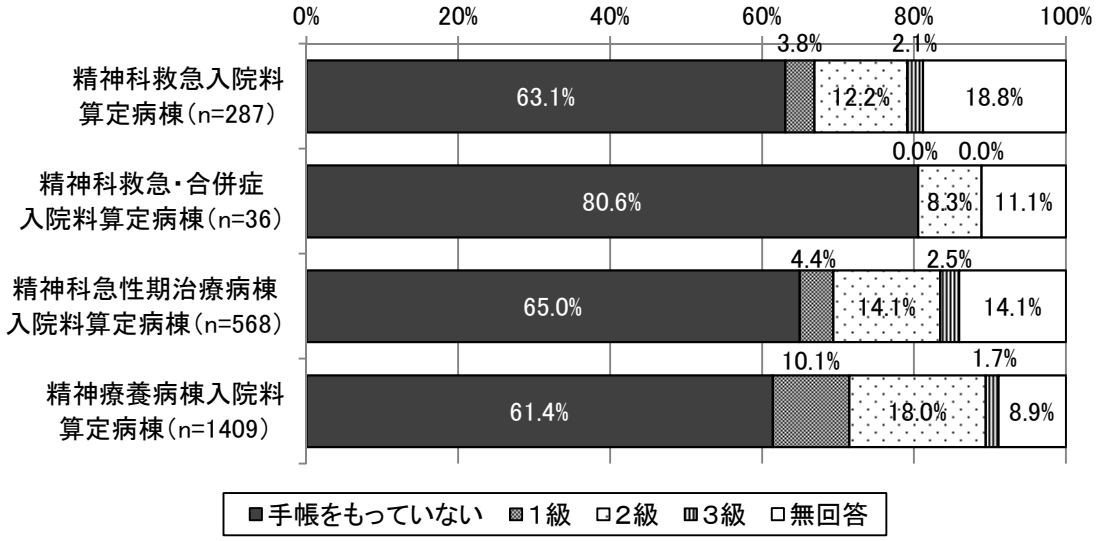
図表 214　年齢

（単位：歳）

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
精神科救急入院料算定病棟	287	48.0	17.4	47.0
精神科救急・合併症入院料算定病棟	36	50.0	21.1	54.0
精神科急性期治療病棟入院料算定病棟	566	52.9	17.9	51.0
精神療養病棟入院料算定病棟	1400	62.5	14.0	64.0

3）精神障害者福祉手帳

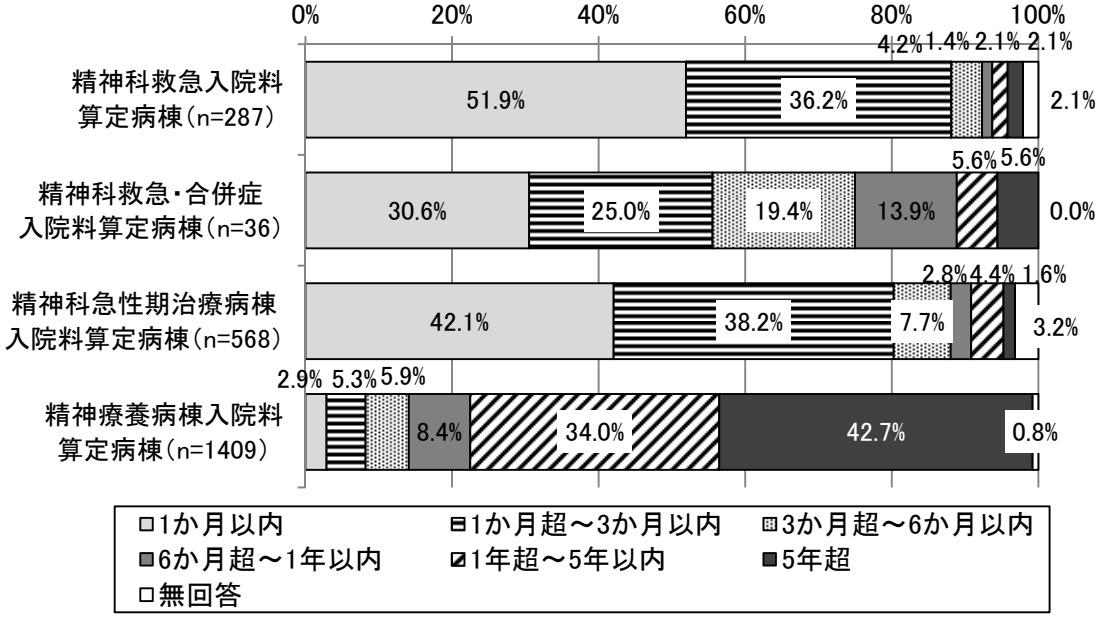
図表 215　精神障害者福祉手帳



②入院の状況

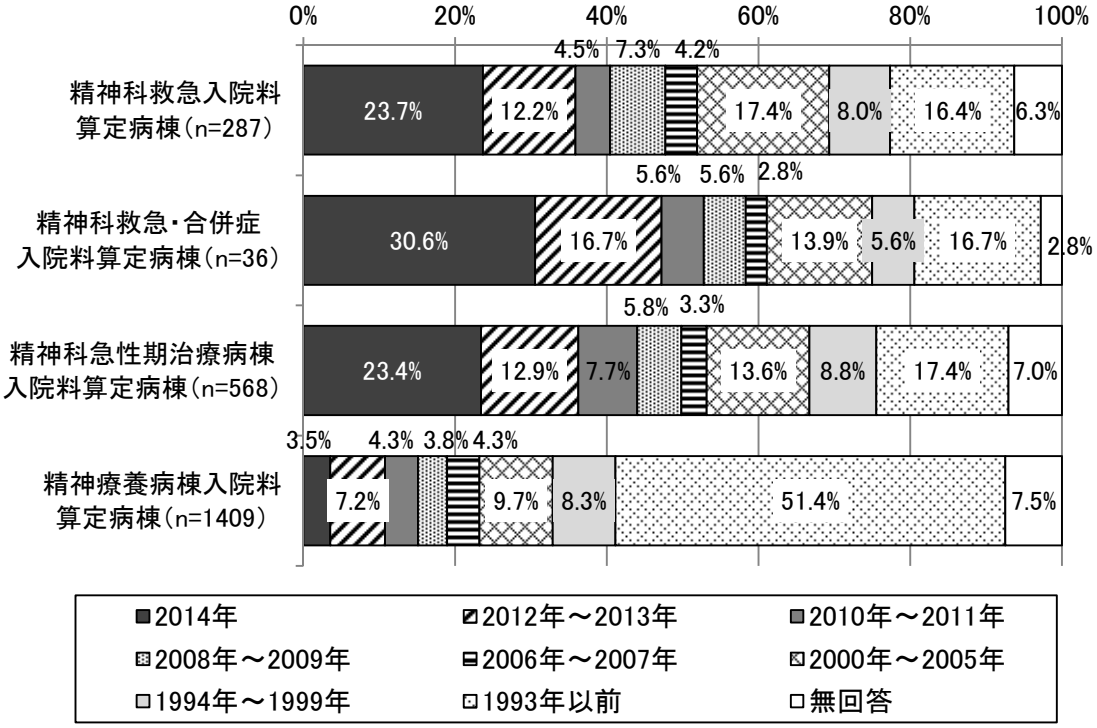
1）入院日からの期間

図表 216　入院日からの期間



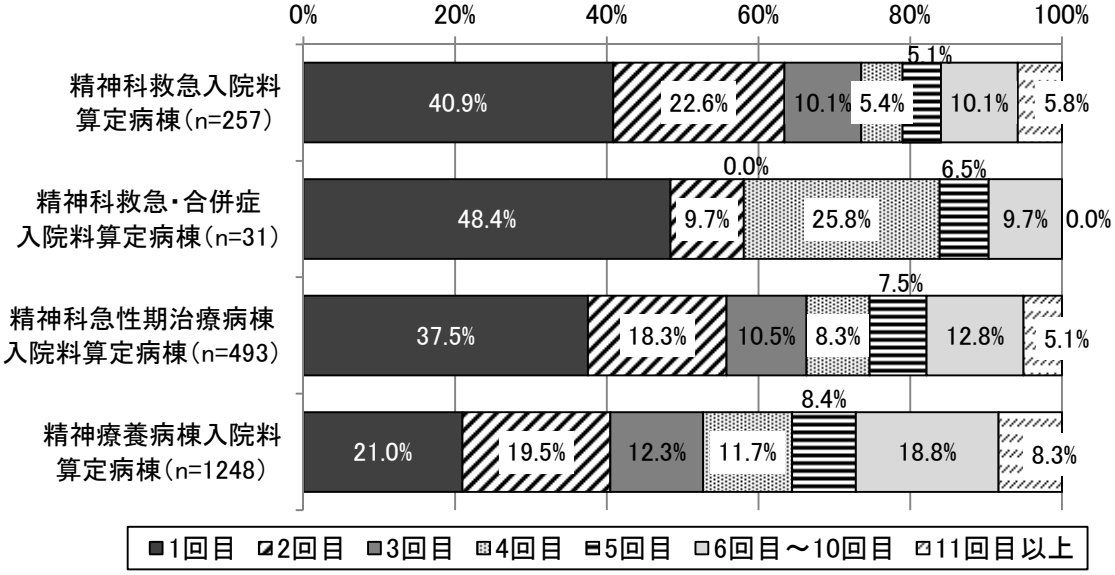
2）初診日

図表 217　初診日（他の医療機関を含む）

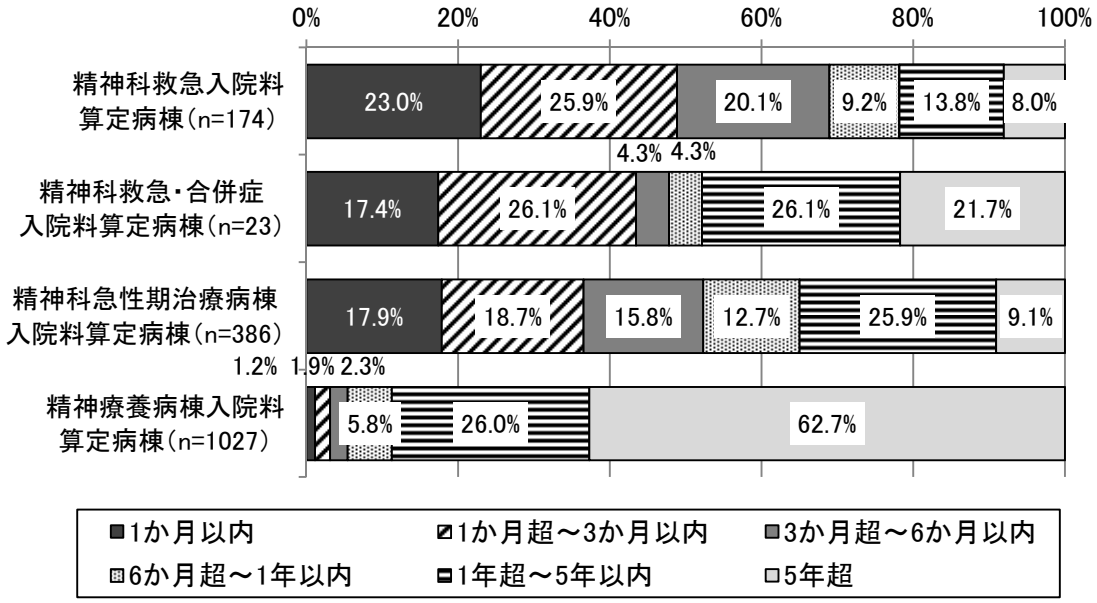


3）精神科・神経科への通算入院回数・入院期間

図表 218　精神科・神経科への通算入院回数（無回答者を除く）

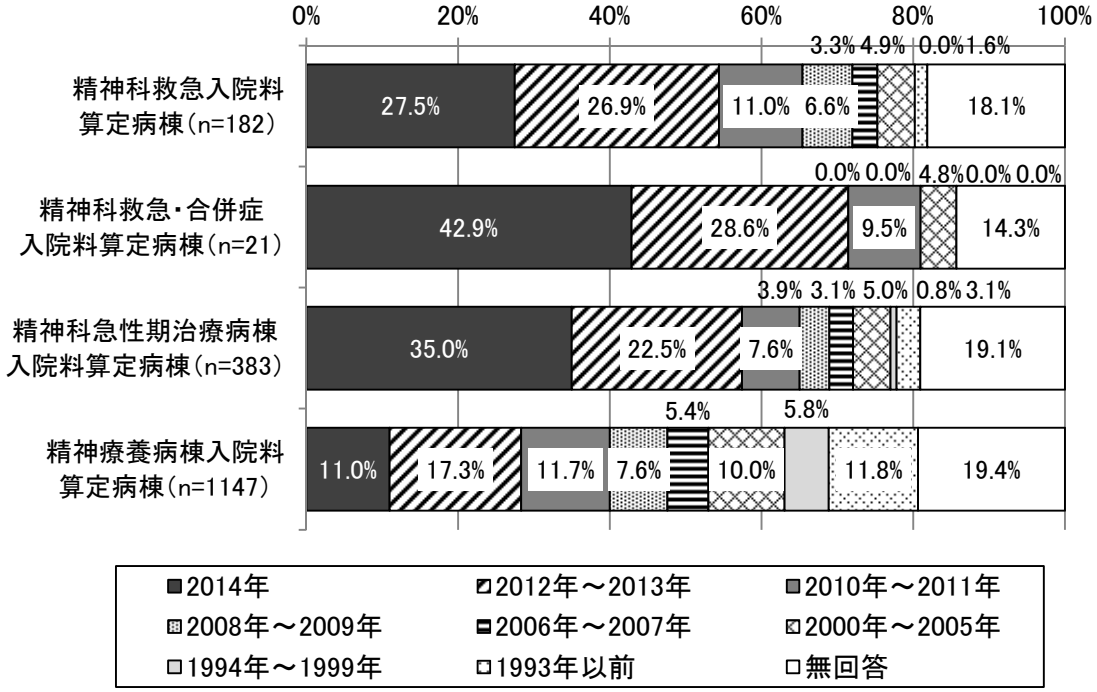


図表 219　精神科・神経科への通算入院期間（無回答者を除く）



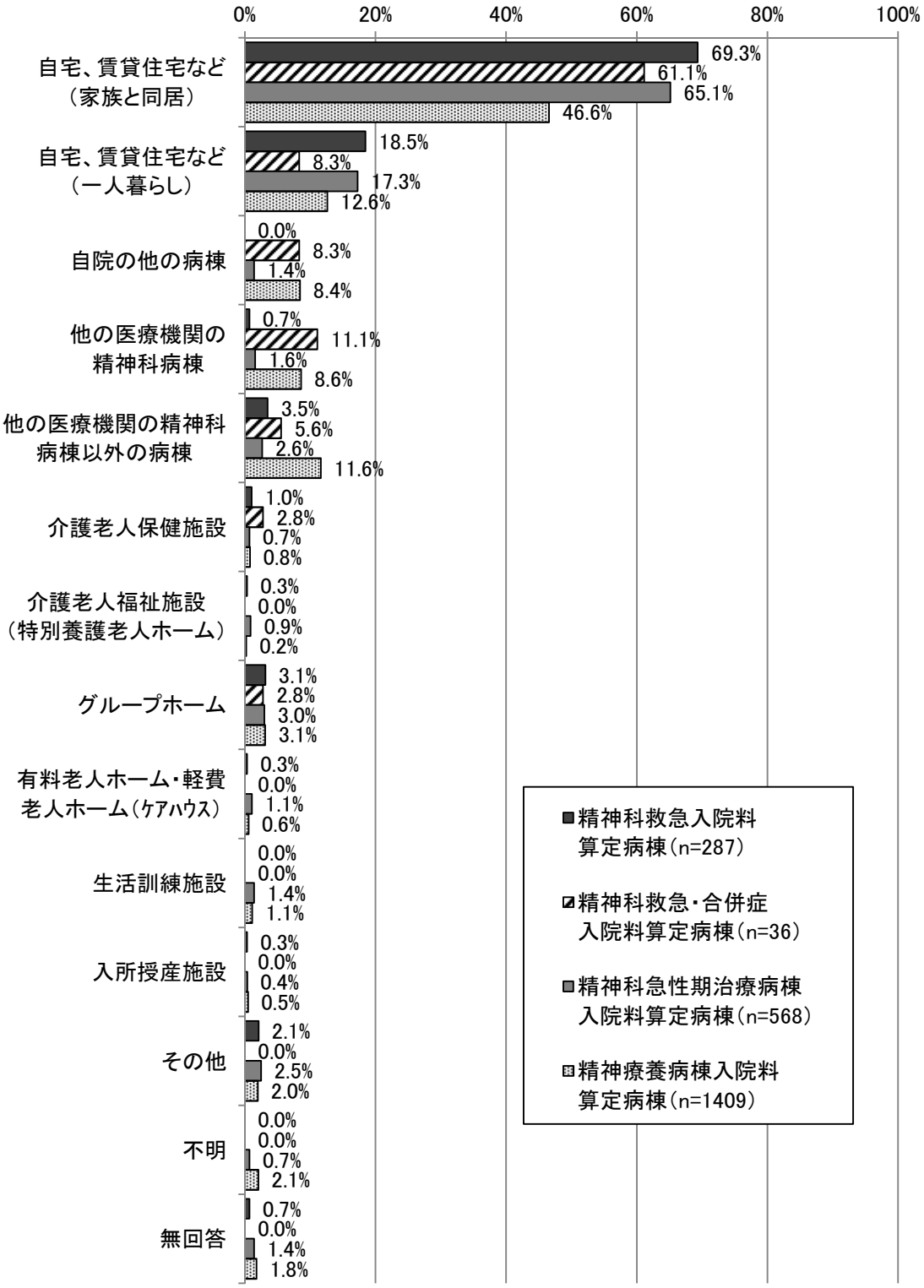
4）直近の退院日

図表 220　直近の退院日（初回の入院患者を除く）



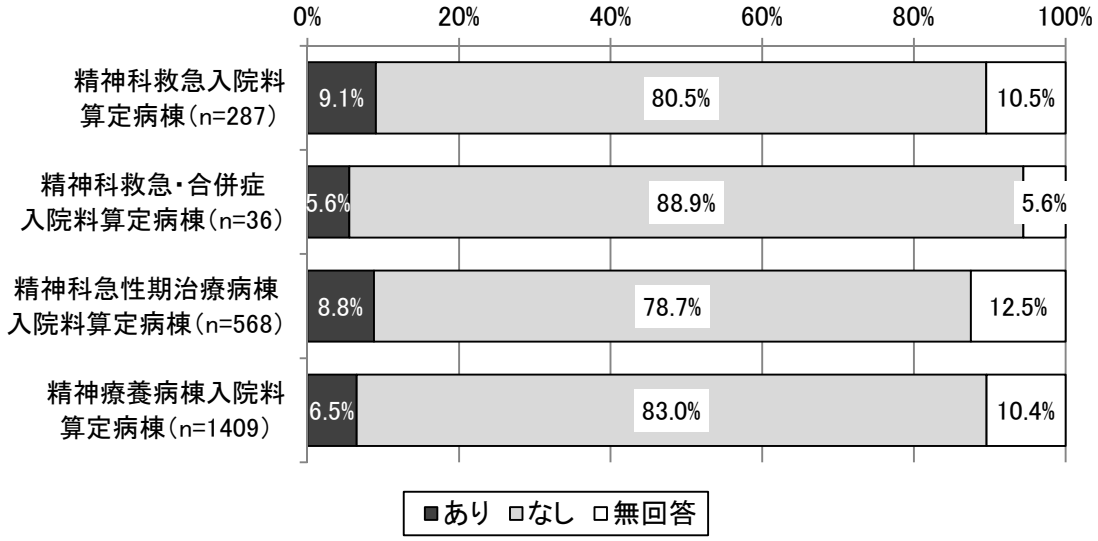
5）入棟前の居場所

図表 221　入棟前の居場所（単数回答）



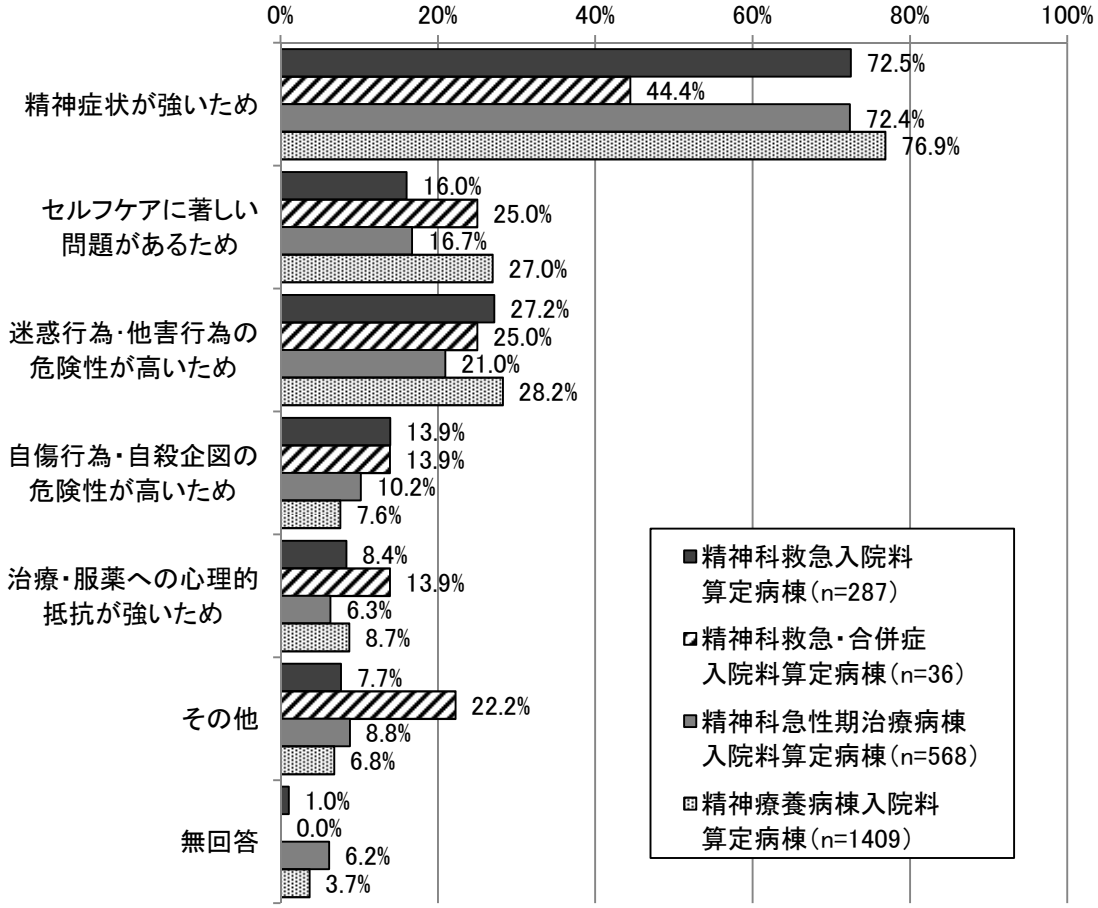
6）直近の在宅療養期間における、精神科訪問看護の利用の有無

図表 222　直近の在宅療養期間における、精神科訪問看護の利用の有無



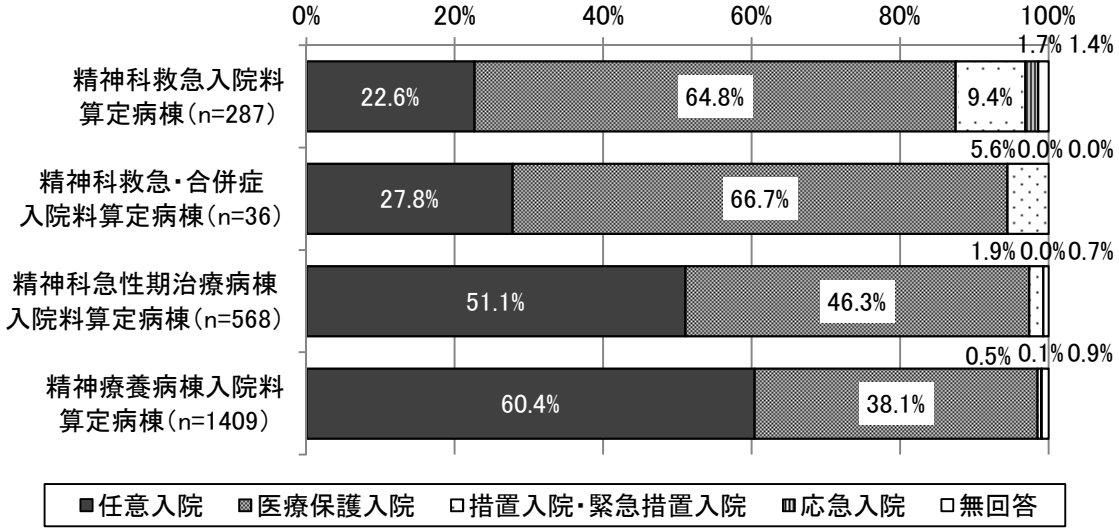
7）入院の理由

図表 223　入院の理由（複数回答）



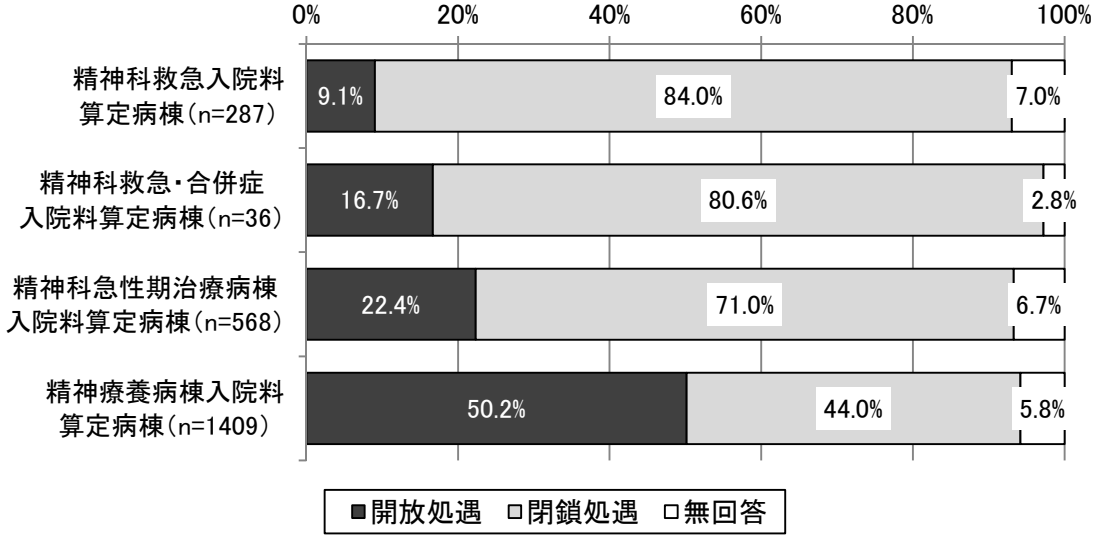
8）入院形態

図表 224　入院形態



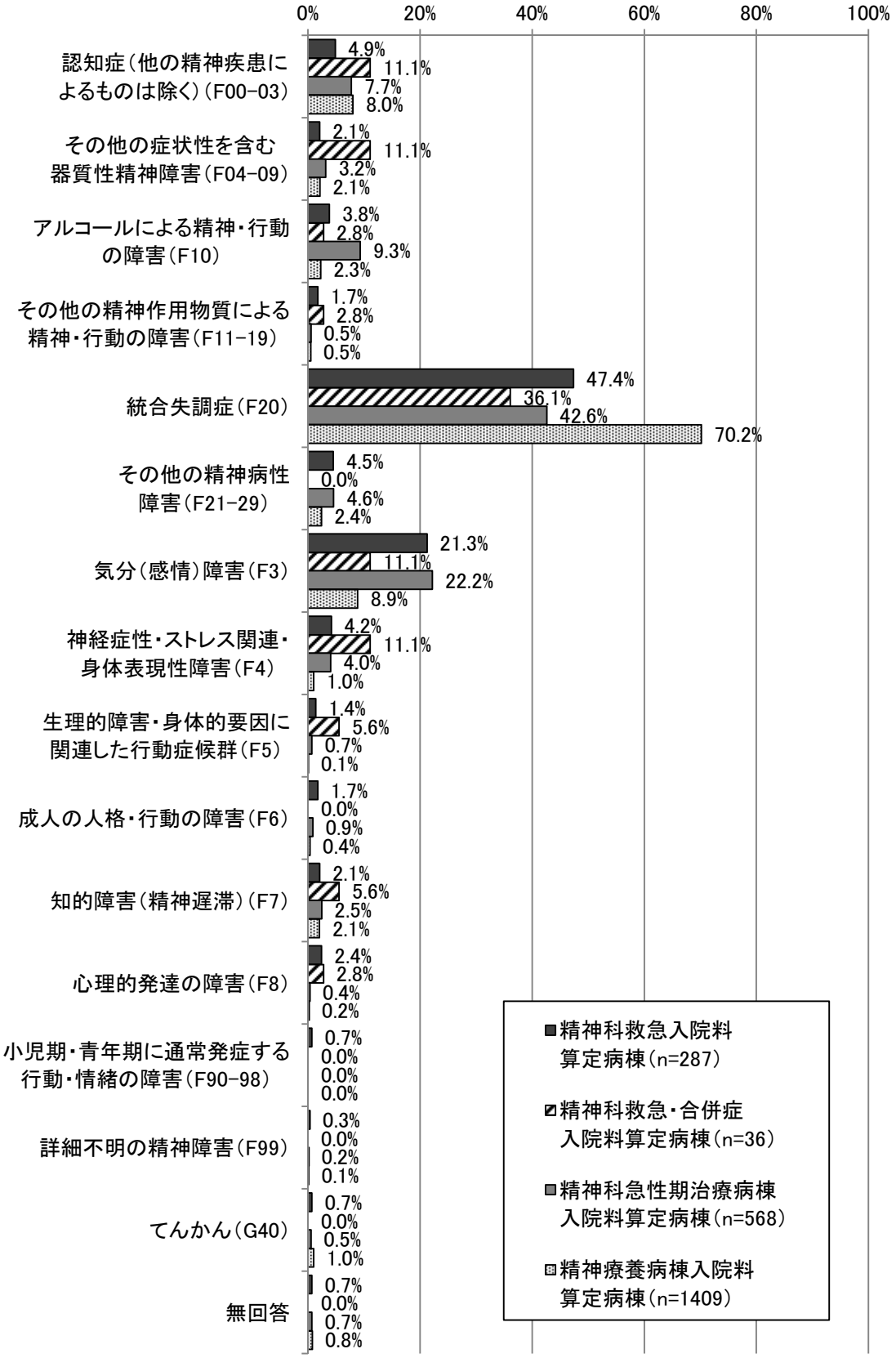
9）処遇

図表 225　処遇



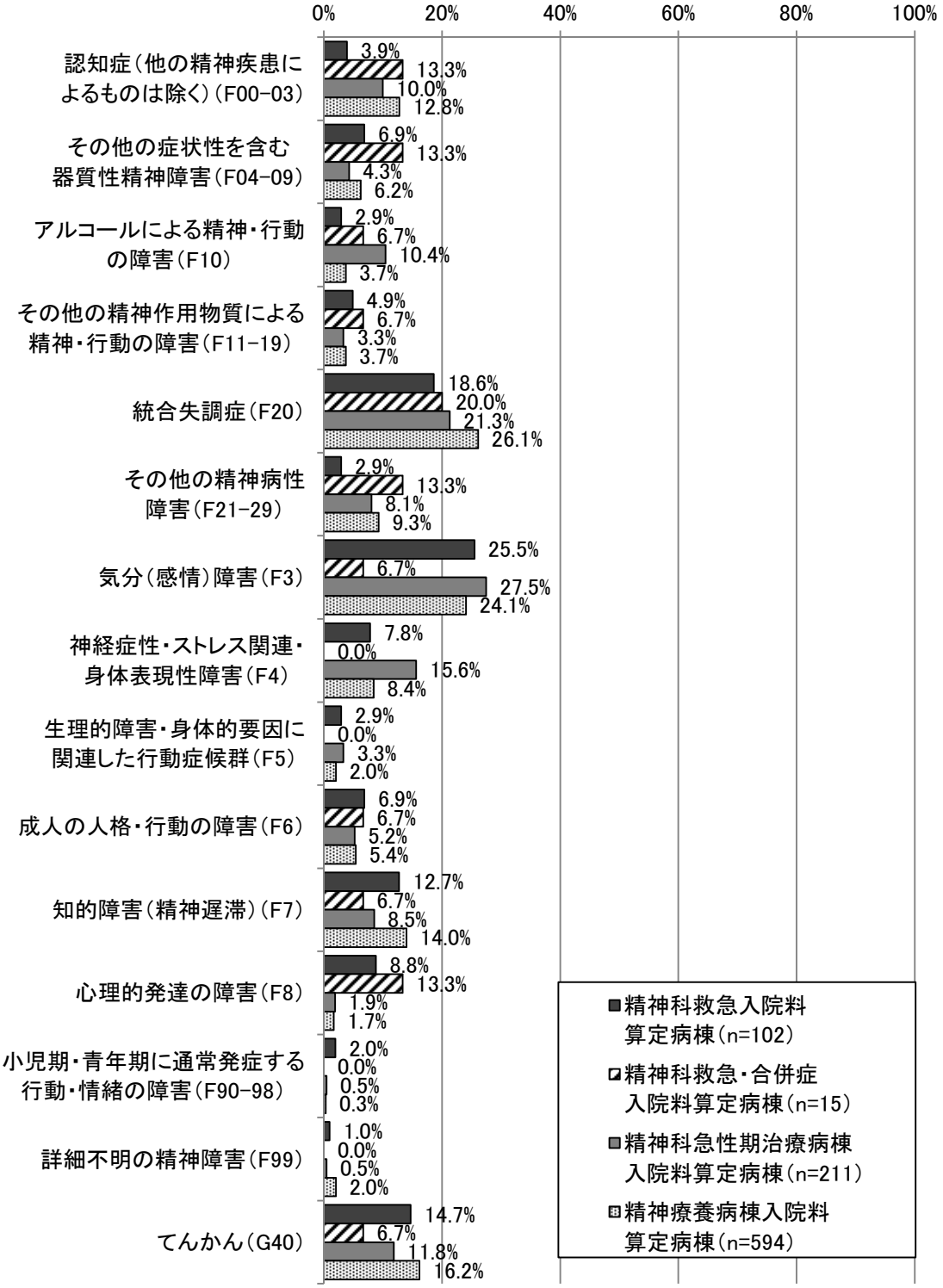
10）主傷病

図表 226　主傷病（単数回答）



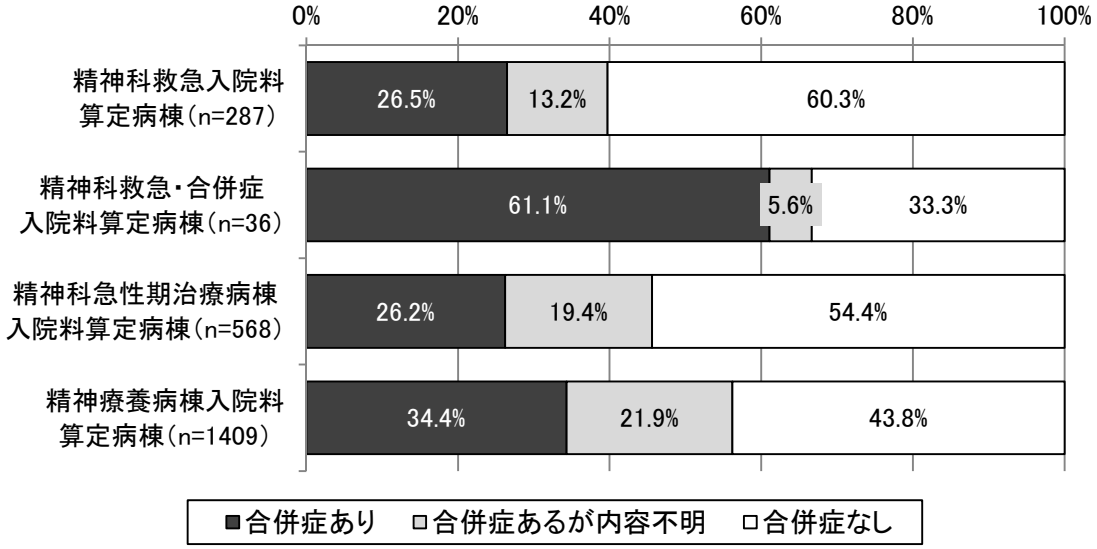
11）その他の精神疾患の傷病

図表 227　その他の精神疾患の傷病（複数回答、無回答者を除く）

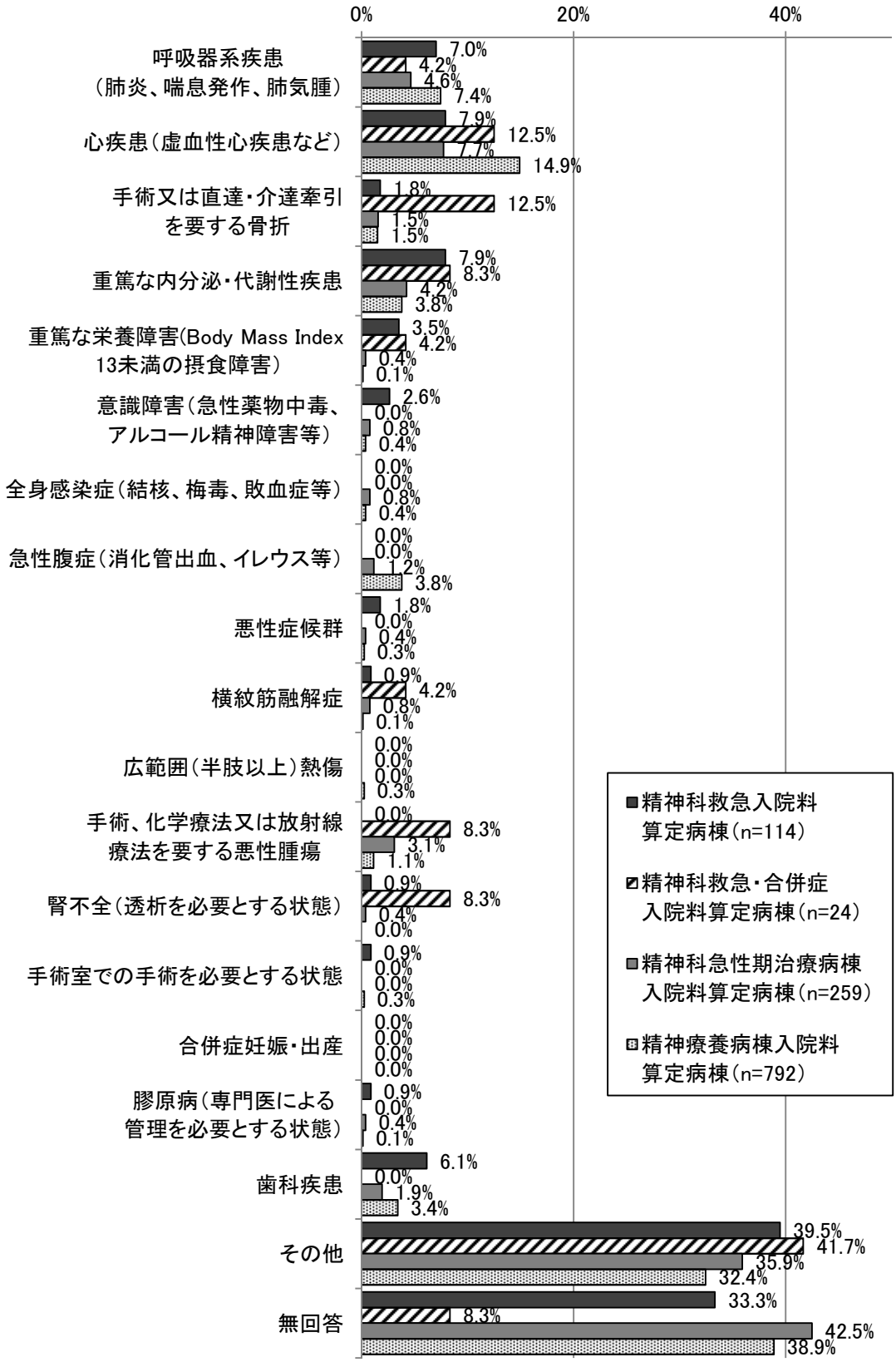


12）身体合併症

図表 228　身体合併症の有無



図表 229　身体合併症の内容（身体合併症のある患者、複数回答）

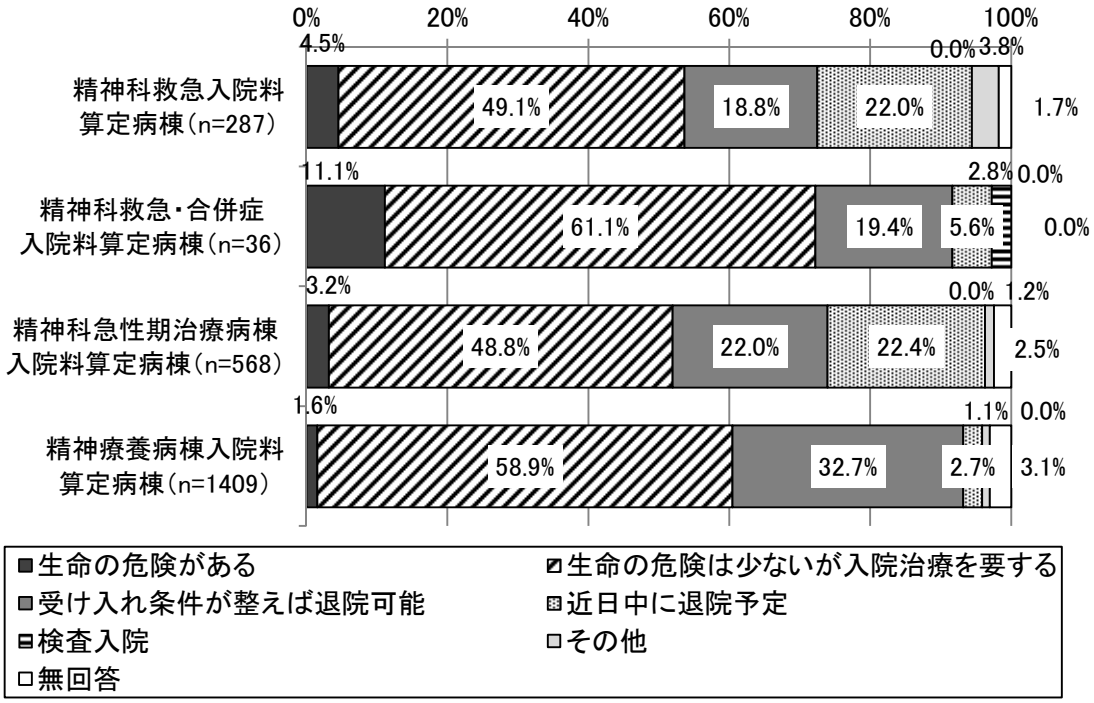


（注）「その他」の内容として、「糖尿病」（同旨含め 58 件）、「高血圧」（同旨含め 41 件）、「パーキンソン病」（同旨含め 11 件）、「高脂血症」（同旨含め 9 件）等が挙げられた。

③患者の状態等

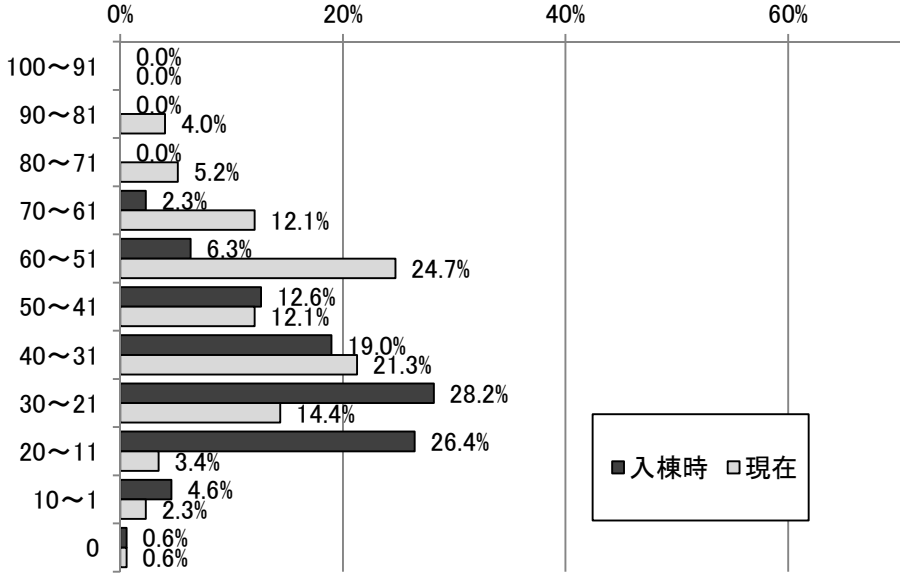
1）症状の程度

図表 230　症状の程度



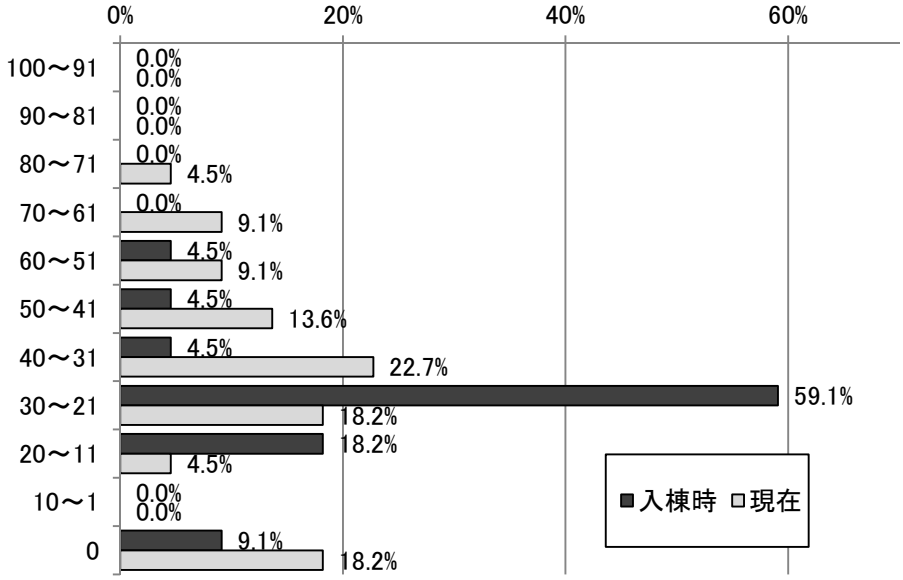
2）GAF スコア

図表 231　GAF スコア（精神科救急入院料算定病棟）
（無回答者を除く、n=174）



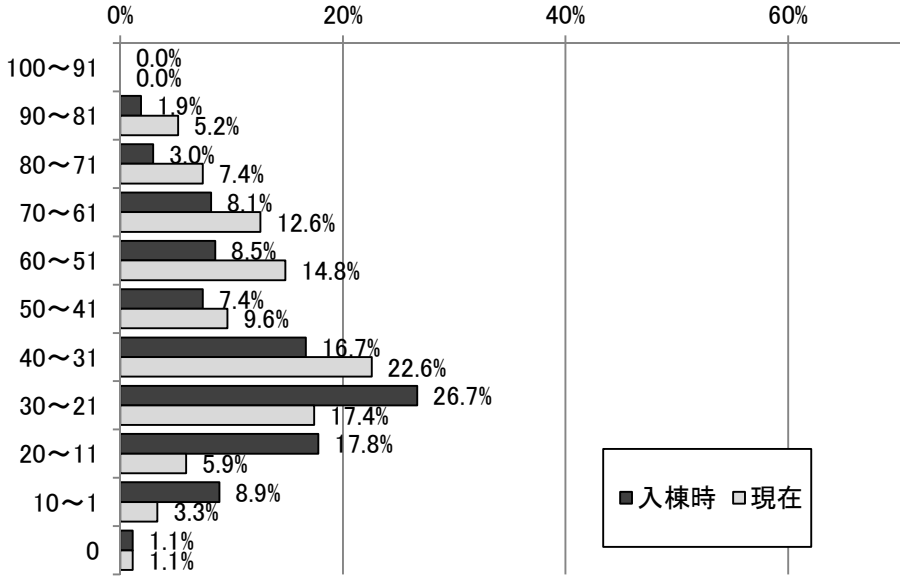
（注）入棟時と現在の両方で回答のあった 174 人を集計対象とした。

図表 232　GAF スコア（精神科救急・合併症入院料算定病棟）
（無回答者を除く、n=22）



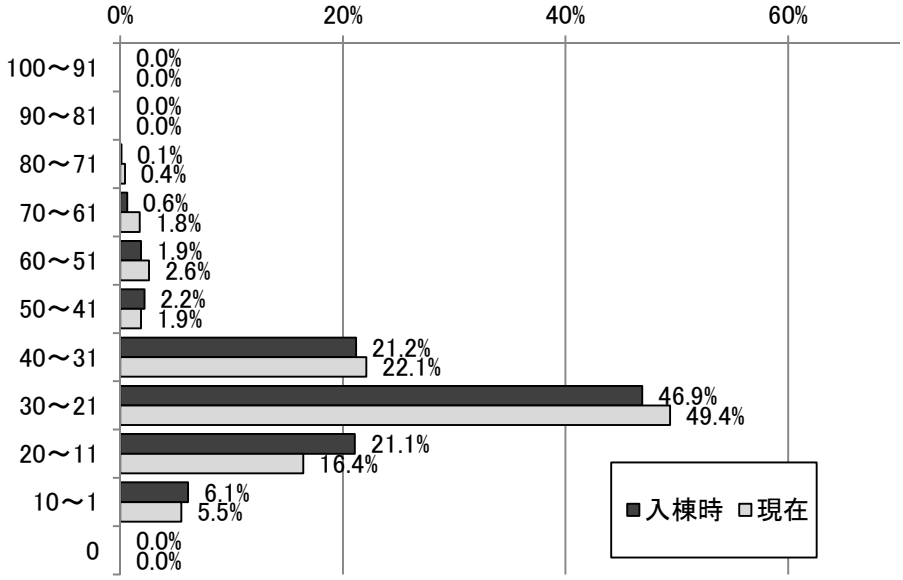
（注）入棟時と現在の両方で回答のあった 22 人を集計対象とした。

図表 233　GAF スコア（精神科急性期治療病棟入院料算定病棟）
（無回答者を除く、n=270）



（注）入棟時と現在の両方で回答のあった 270 人を集計対象とした。

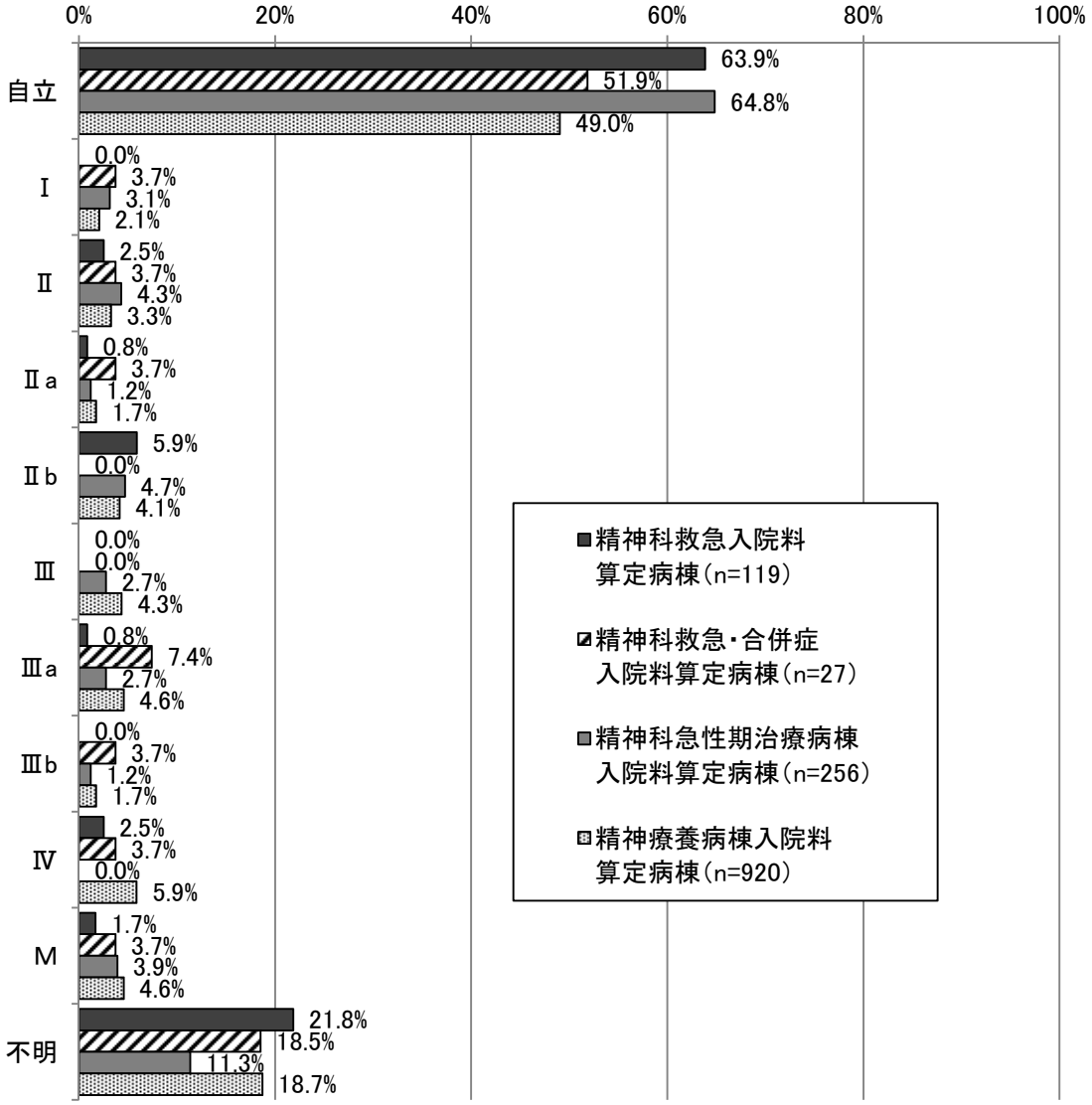
図表 234　GAF スコア（精神療養病棟入院料算定病棟）
（無回答者を除く、n=968）



（注）入棟時と現在の両方で回答のあった 968 人を集計対象とした。

3）認知症高齢者の日常生活自立度

図表 235　認知症高齢者の日常生活自立度（単数回答、無回答者を除く）



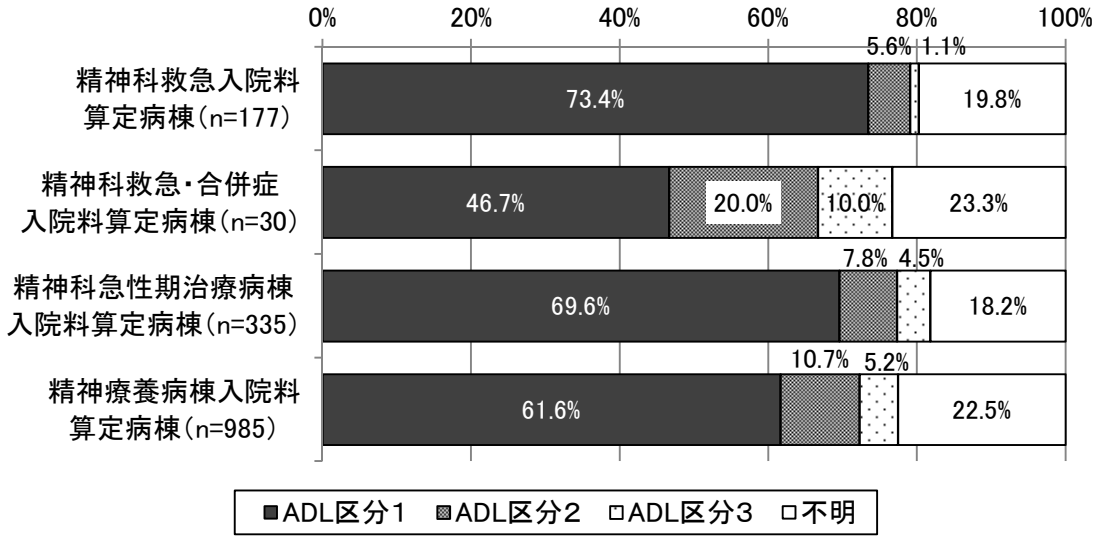
（注）認知症高齢者の日常生活自立度の判断基準は以下のとおり。

ランク	判 断 基 準	見られる症状・行動の例
Ⅰ	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	
Ⅱ	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	
Ⅱa	家庭外で上記Ⅱの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等
Ⅱb	家庭内でも上記Ⅱの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の応答や訪問者との対応など一人で留守番ができない等
Ⅲ	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。	

Ⅲa	日中を中心として上記Ⅲの状態が見られる。	着替え、食事、排便、排尿が上手にできない・時間がかかる。やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声をあげる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等
Ⅲb	夜間を中心として上記Ⅲの状態が見られる。	ランクⅢaに同じ
Ⅳ	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクⅢに同じ
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等

4）ADL 区分

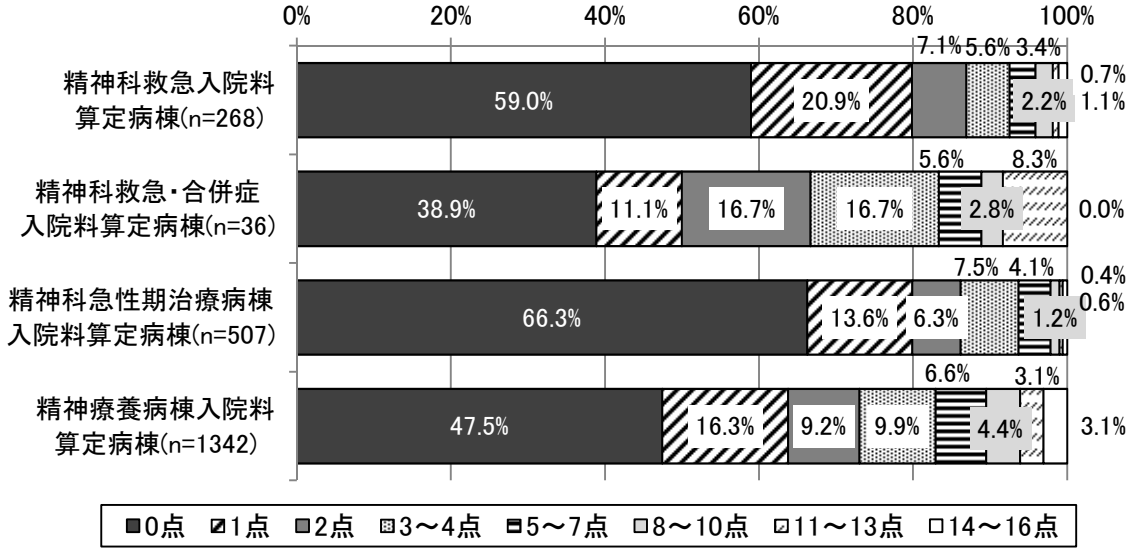
図表 236　ADL 区分（無回答者を除く）



（注）診療報酬点数表の「別紙様式 2」に基づき、ADL 得点 0～10 点を ADL 区分 1、ADL 得点 11～22 点を ADL 区分 2、ADL 得点 23～24 点を ADL 区分 3 とした。

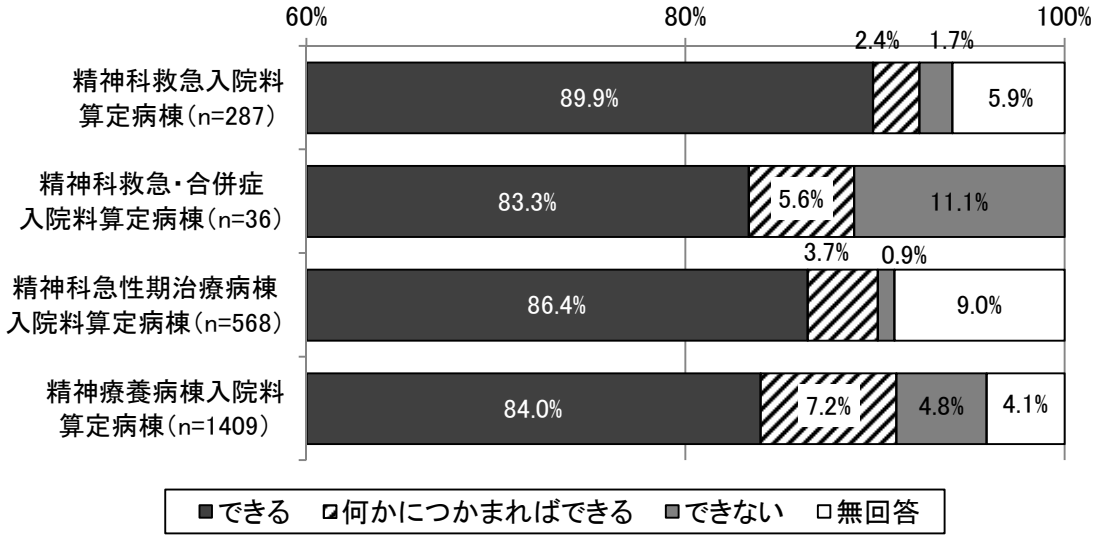
5）患者の状況等

図表 237　患者の状況等（IADL の点数化）

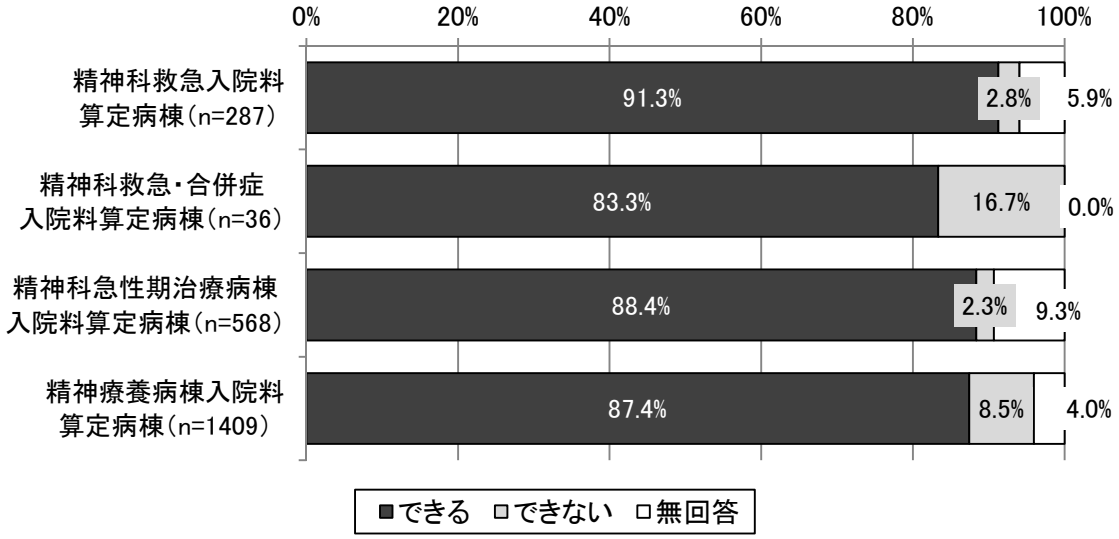


（注）・寝返り、起き上がり、座位保持、移乗、口腔清潔、食事摂取、衣服の着脱、他者への意思伝達、診療・療養上の指示が通じる、危険行動への対応（過去 1 か月）の 10 項目について、診療報酬点数表の別紙様式 10「日常生活機能評価表」に基づき 0 点～16 点で点数化した。
・全 10 項目で回答のあった人を集計対象とした。

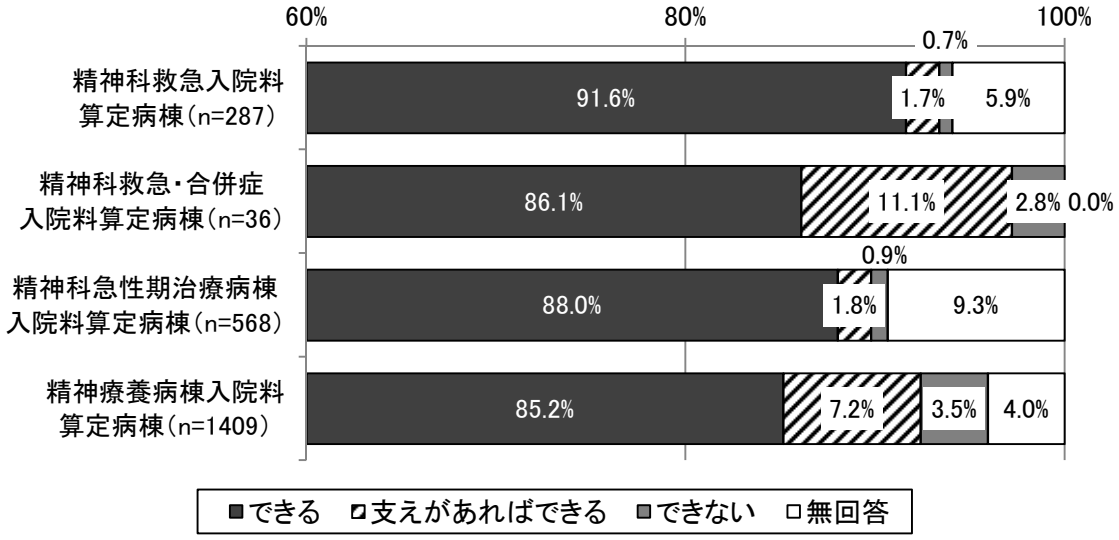
図表 238　患者の状況等～a. 寝返り～



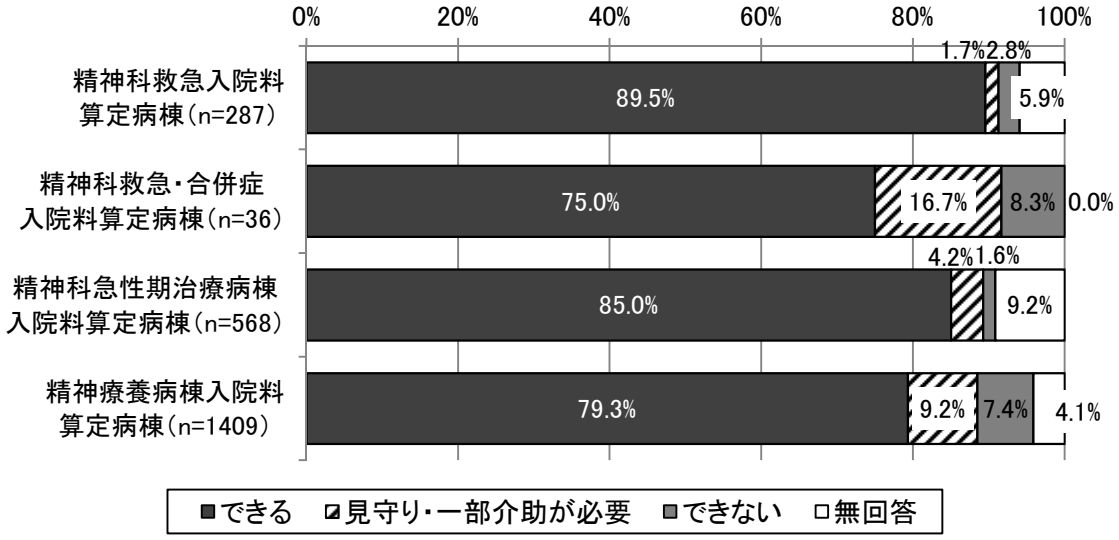
図表 239　患者の状況等～b. 起き上がり～



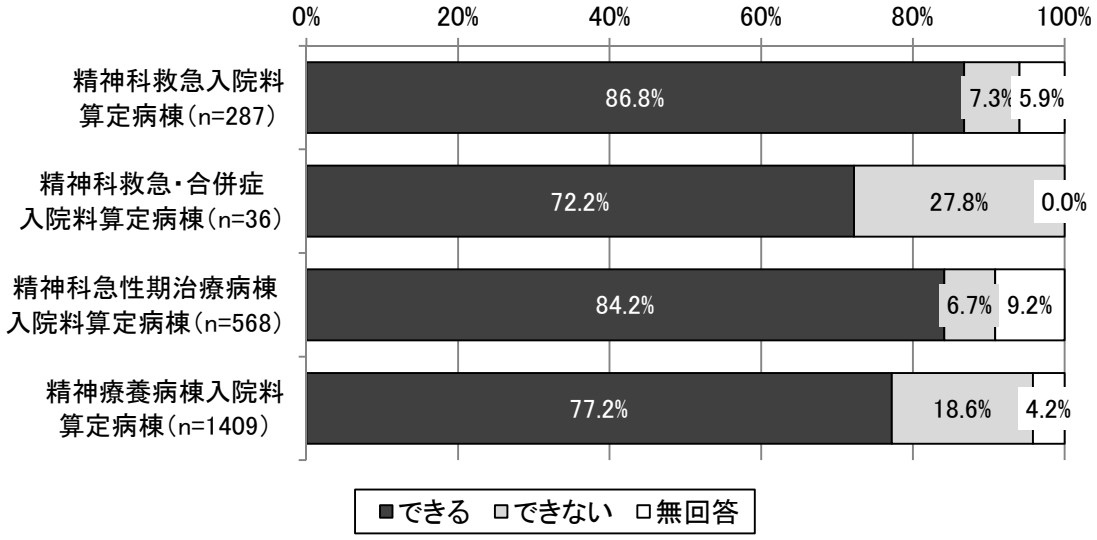
図表 240　患者の状況等～c. 座位保持～



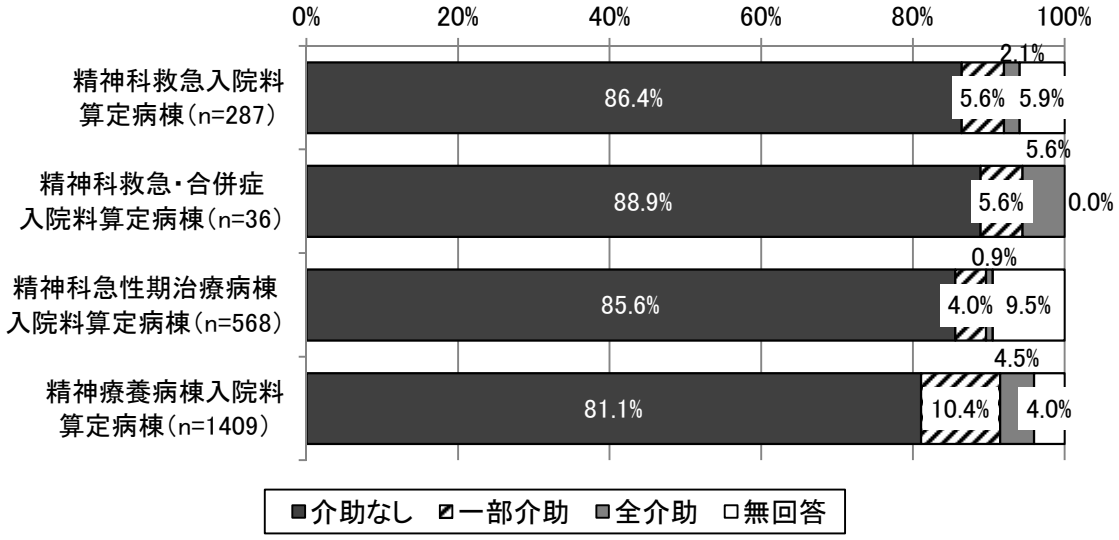
図表 241　患者の状況等～d. 移乗～



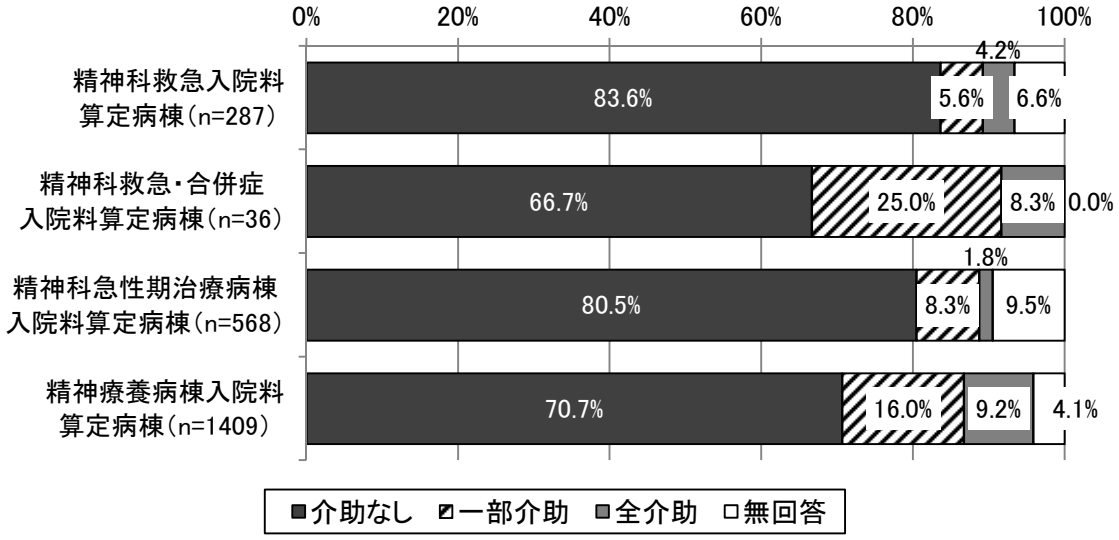
図表 242　患者の状況等～e. 口腔清潔～



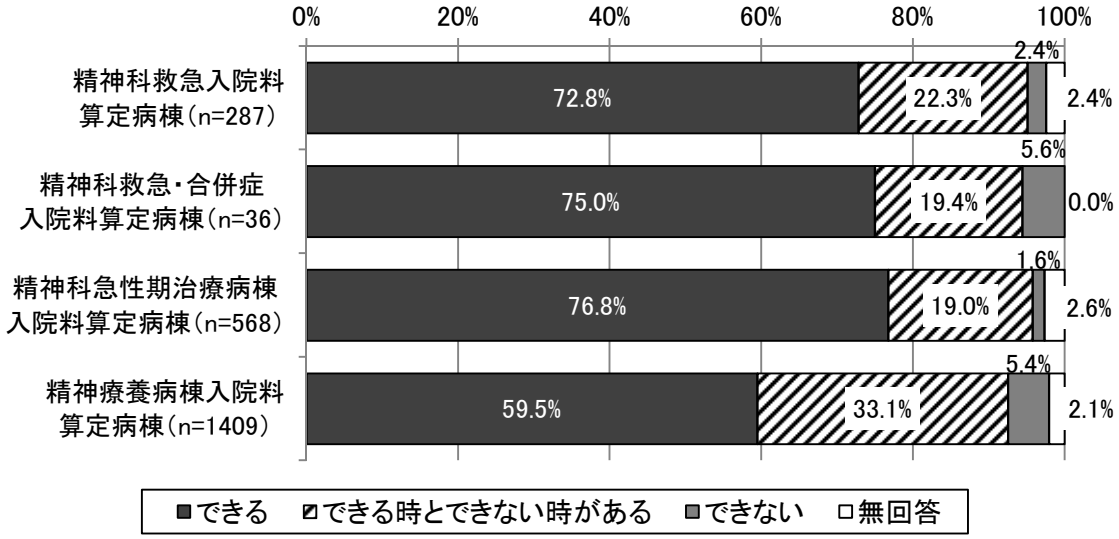
図表 243　患者の状況等～f. 食事摂取～



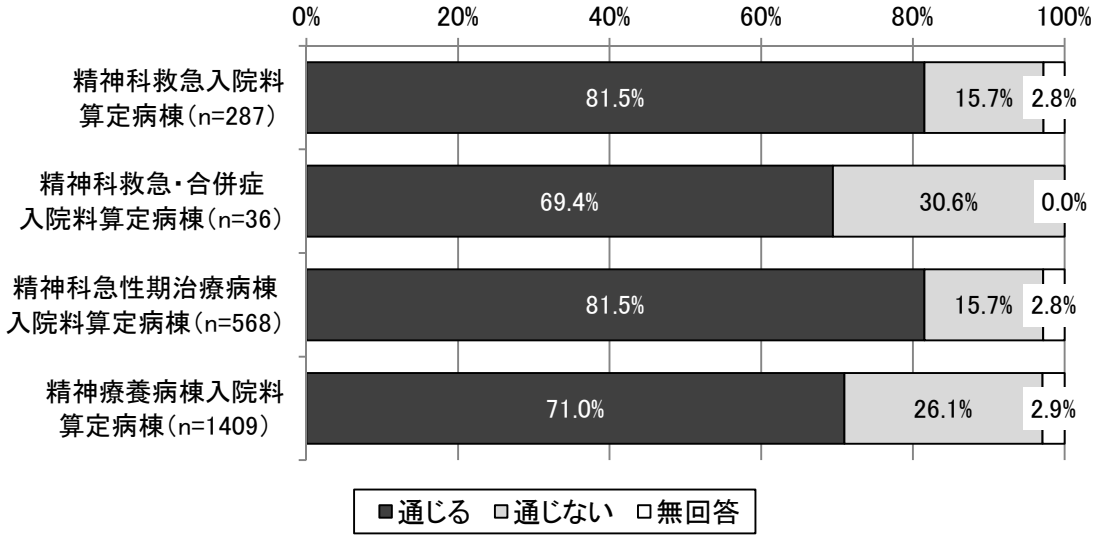
図表 244　患者の状況等～g. 衣服の着脱～



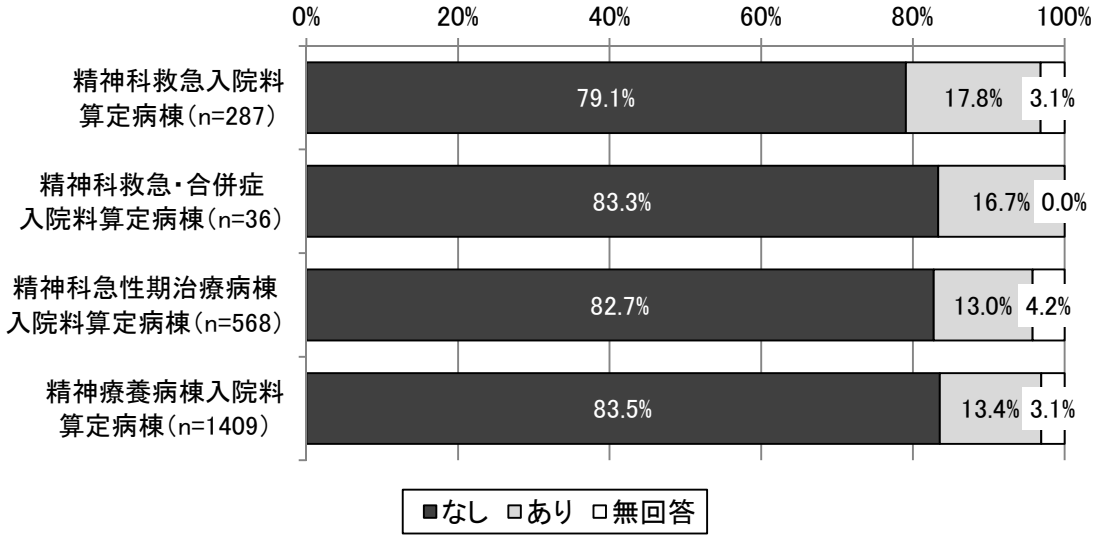
図表 245　患者の状態～a 他者への意思伝達～



図表 246　患者の状態～b 診療・療養上の指示が通じる～



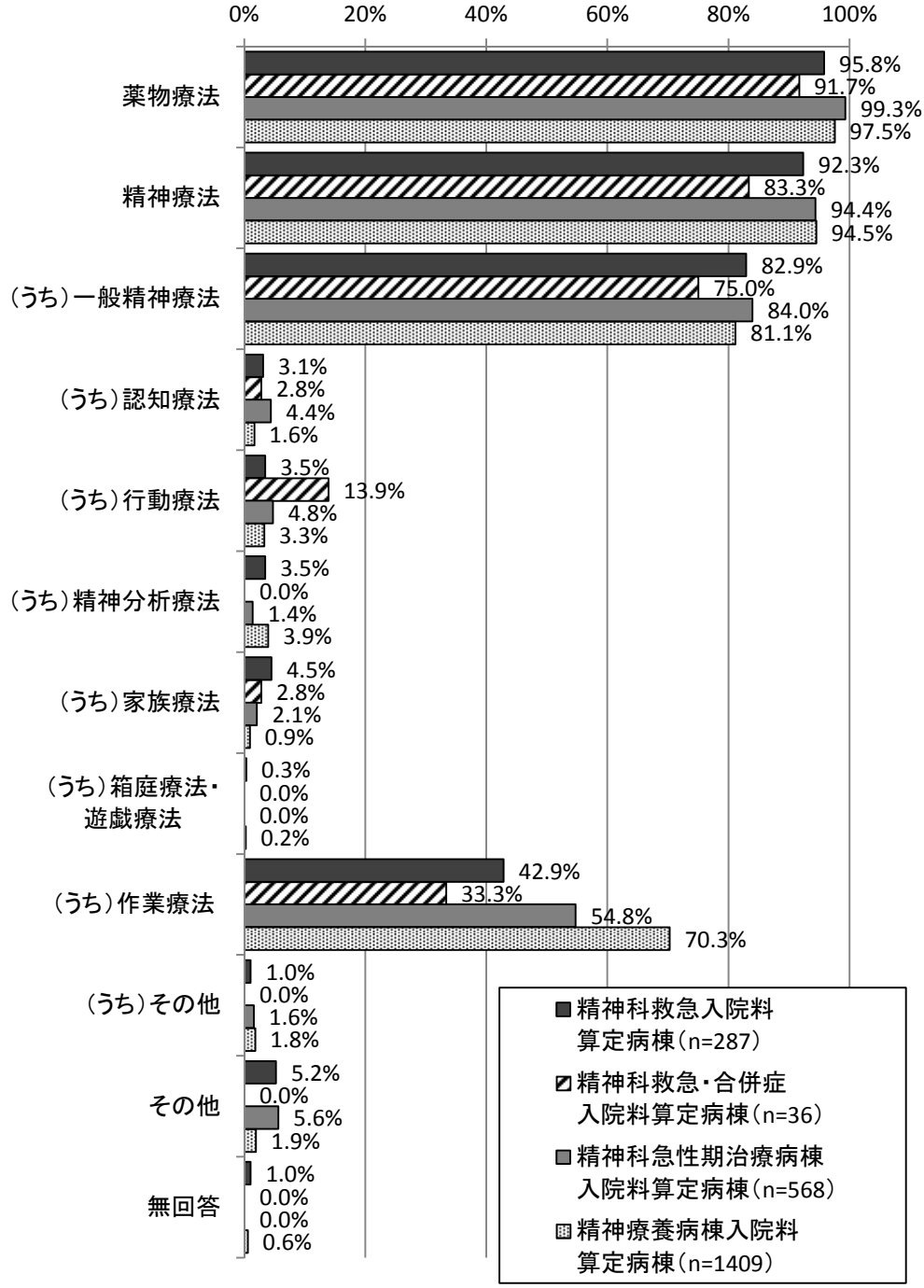
図表 247　患者の状態～c 危険行動への対応（過去 1 か月）～



④治療の状況

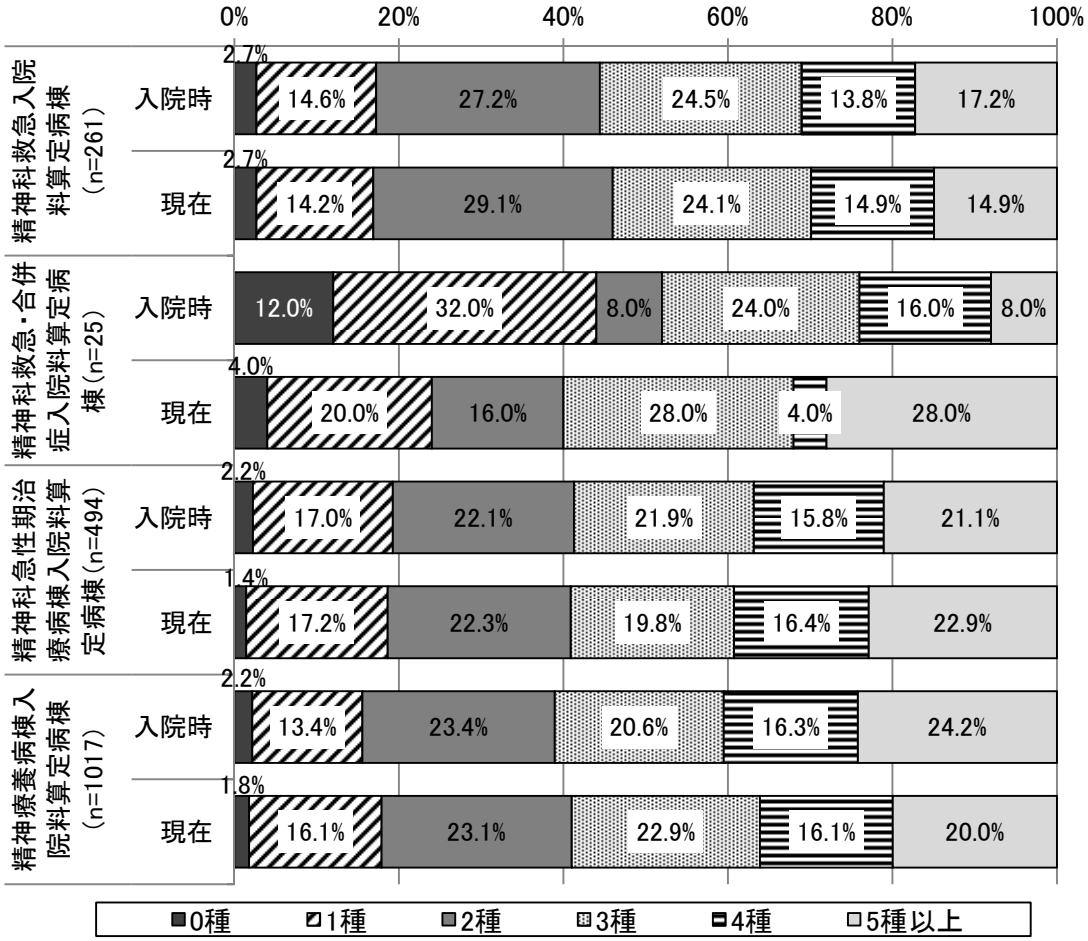
1）主傷病に対して実施している診療内容

図表 248　主傷病に対して実施している診療内容（複数回答）



2）向精神薬の処方内容

図表 249　薬物療法で使用している向精神薬の使用数（入院時、現在）
（主傷病に対して薬物療法を行っている患者）



（注）入院時、現在の両方に回答のあった人を集計対象とした。

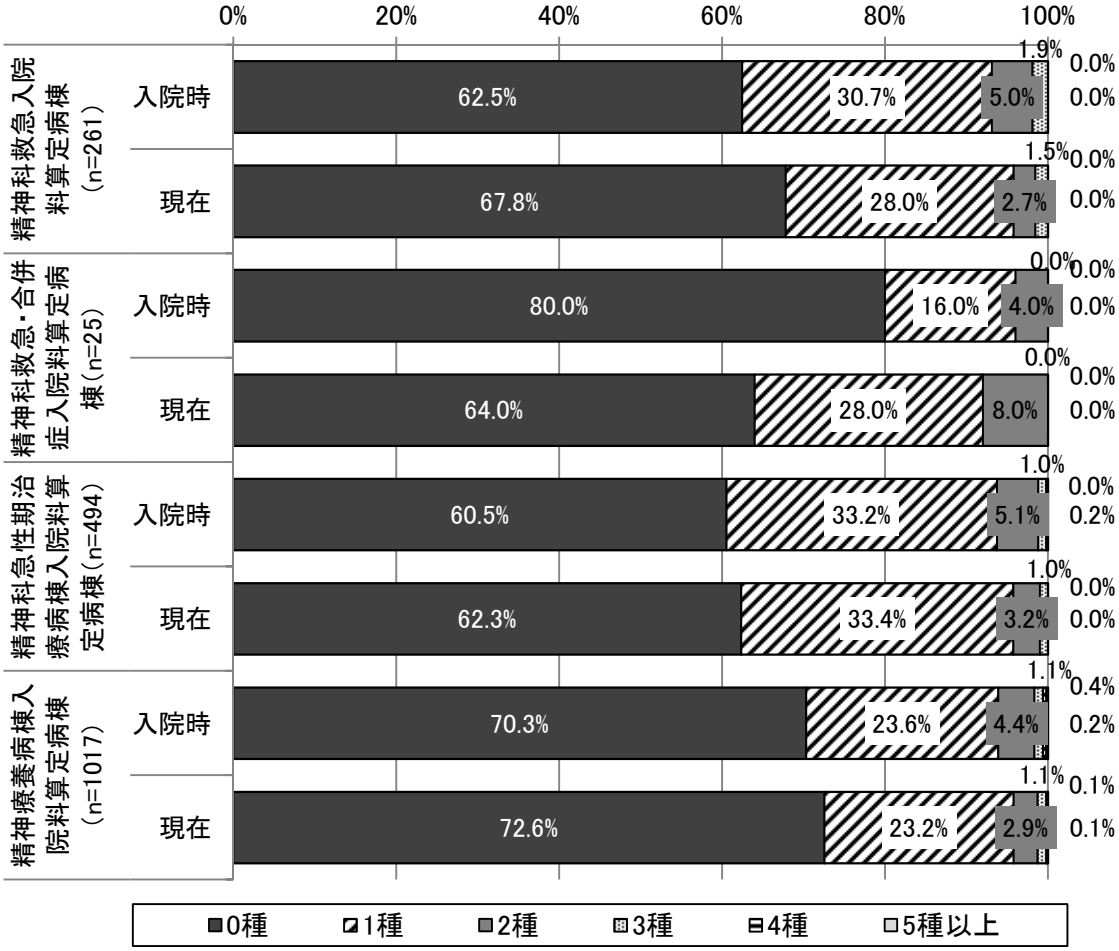
図表 250　薬物療法で使用している向精神薬の使用数（入院時、現在）
（主傷病に対して薬物療法を行っている患者）

（単位：種類）

	入院時			現在		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
精神科救急入院料算定病棟（n=261）	2.93	1.59	3.00	2.89	1.54	3.00
精神科救急・合併症入院料算定病棟（n=25）	2.32	1.73	2.00	3.04	1.81	3.00
精神科急性期治療病棟入院料算定病棟（n=494）	3.22	2.15	3.00	3.24	2.04	3.00
精神療養病棟入院料算定病棟（n=1017）	3.35	1.95	3.00	3.14	1.83	3.00

（注）入院時、現在の両方に回答のあった人を対象とした。

図表 251　薬物療法で使用している抗不安薬使用数（入院時、現在）
（主傷病に対して薬物療法を行っている患者）



（注）入院時、現在の両方に回答のあった人を集計対象とした。

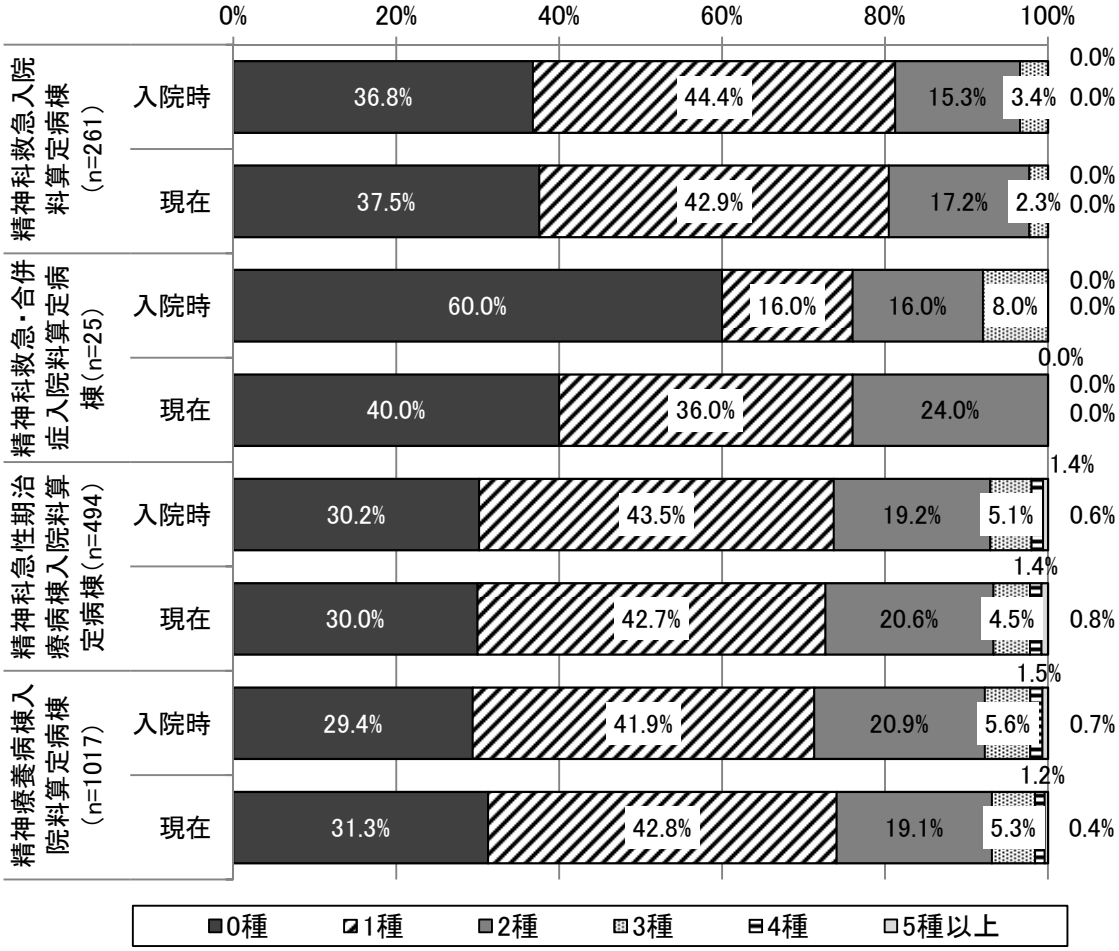
図表 252　薬物療法で使用している抗不安薬使用数（入院時、現在）
（主傷病に対して薬物療法を行っている患者）

（単位：種類）

	入院時			現在		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
精神科救急入院料算定病棟（n=261）	0.46	0.68	0.00	0.38	0.62	0.00
精神科救急・合併症入院料算定病棟（n=25）	0.24	0.52	0.00	0.44	0.65	0.00
精神科急性期治療病棟入院料算定病棟（n=494）	0.47	0.67	0.00	0.43	0.61	0.00
精神療養病棟入院料算定病棟（n=1017）	0.38	0.69	0.00	0.33	0.62	0.00

（注）入院時、現在の両方に回答のあった人を集計対象とした。

図表 253　薬物療法で使用している睡眠薬使用数（入院時、現在）
（主傷病に対して薬物療法を行っている患者）



（注）入院時、現在の両方に回答のあった人を集計対象とした。

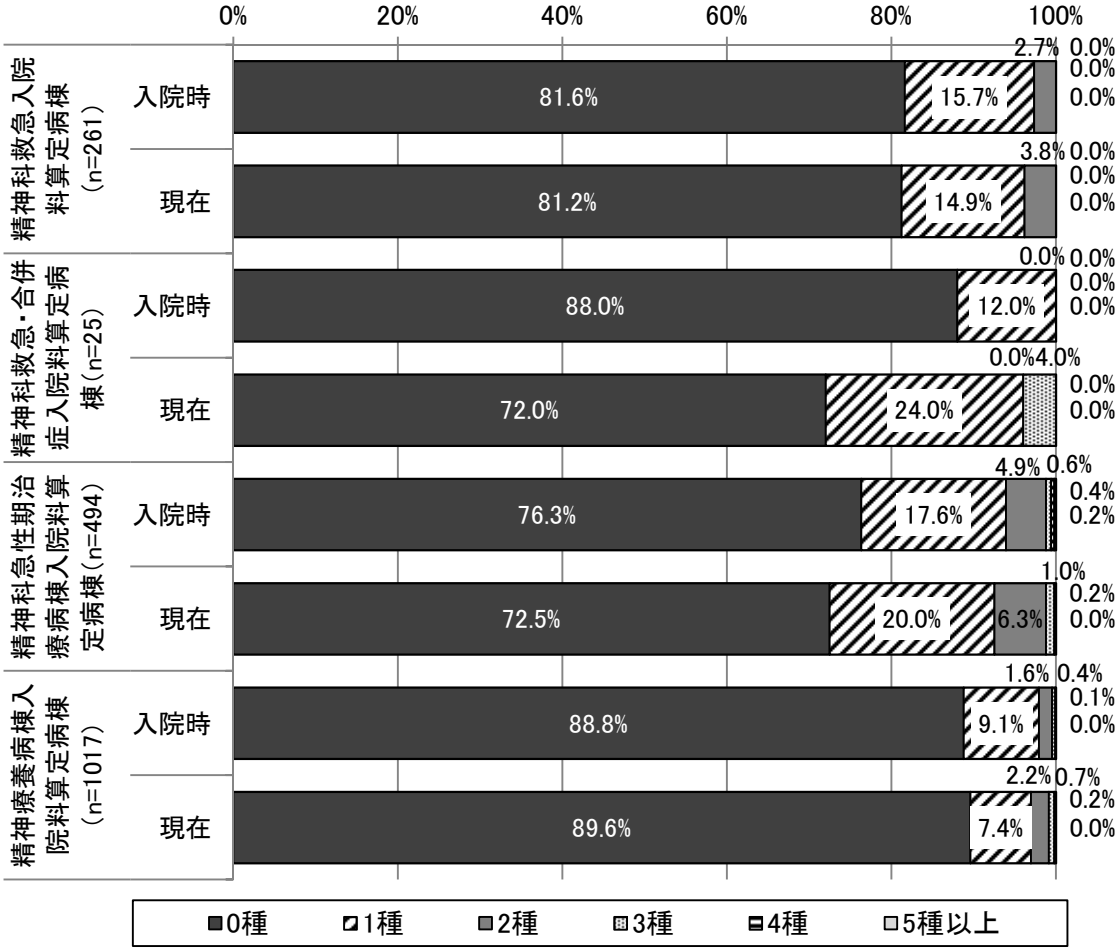
図表 254　薬物療法で使用している睡眠薬使用数（入院時、現在）
（主傷病に対して薬物療法を行っている患者）

（単位：種類）

	入院時			現在		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
精神科救急入院料算定病棟（n=261）	0.85	0.80	1.00	0.84	0.79	1.00
精神科救急・合併症入院料算定病棟（n=25）	0.72	1.02	0.00	0.84	0.80	1.00
精神科急性期治療病棟入院料算定病棟（n=494）	1.07	1.06	1.00	1.08	1.03	1.00
精神療養病棟入院料算定病棟（n=1017）	1.10	0.99	1.00	1.04	0.96	1.00

（注）入院時、現在の両方に回答のあった人を集計対象とした。

図表 255　薬物療法で使用している抗うつ薬使用数（入院時、現在）
（主傷病に対して薬物療法を行っている患者）



（注）入院時、現在の両方に回答のあった人を集計対象とした。

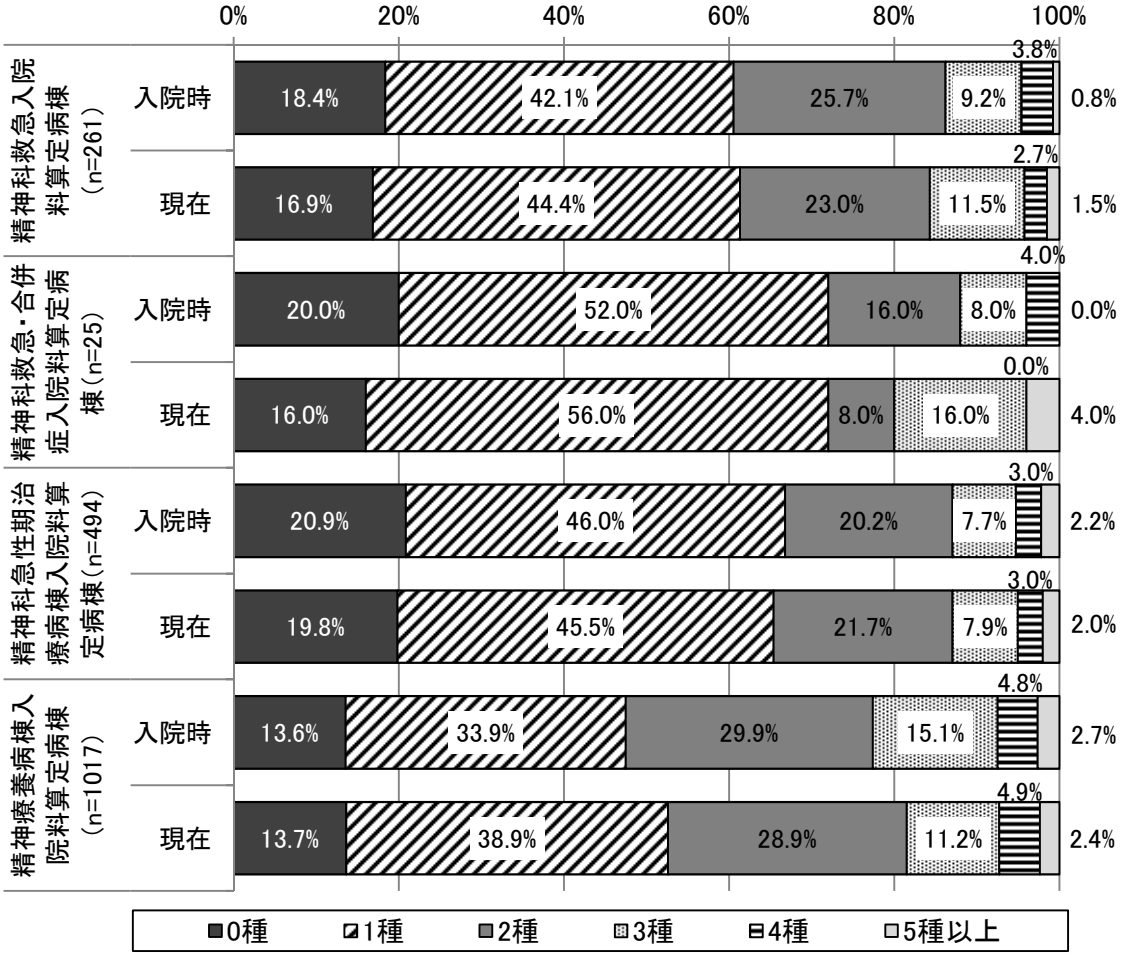
図表 256　薬物療法で使用している抗うつ薬使用数（入院時、現在）
（主傷病に対して薬物療法を行っている患者）

（単位：種類）

	入院時			現在		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
精神科救急入院料算定病棟（n=261）	0.21	0.47	0.00	0.23	0.50	0.00
精神科救急・合併症入院料算定病棟（n=25）	0.12	0.33	0.00	0.36	0.70	0.00
精神科急性期治療病棟入院料算定病棟（n=494）	0.32	0.66	0.00	0.36	0.67	0.00
精神療養病棟入院料算定病棟（n=1017）	0.14	0.43	0.00	0.15	0.48	0.00

（注）入院時、現在の両方に回答のあった人を集計対象とした。

図表 257　薬物療法で使用している抗精神病薬使用数（入院時、現在）
（主傷病に対して薬物療法を行っている患者）



（注）入院時、現在の両方に回答のあった人を集計対象とした。

図表 258　薬物療法で使用している抗精神病薬使用数（入院時、現在）
（主傷病に対して薬物療法を行っている患者）

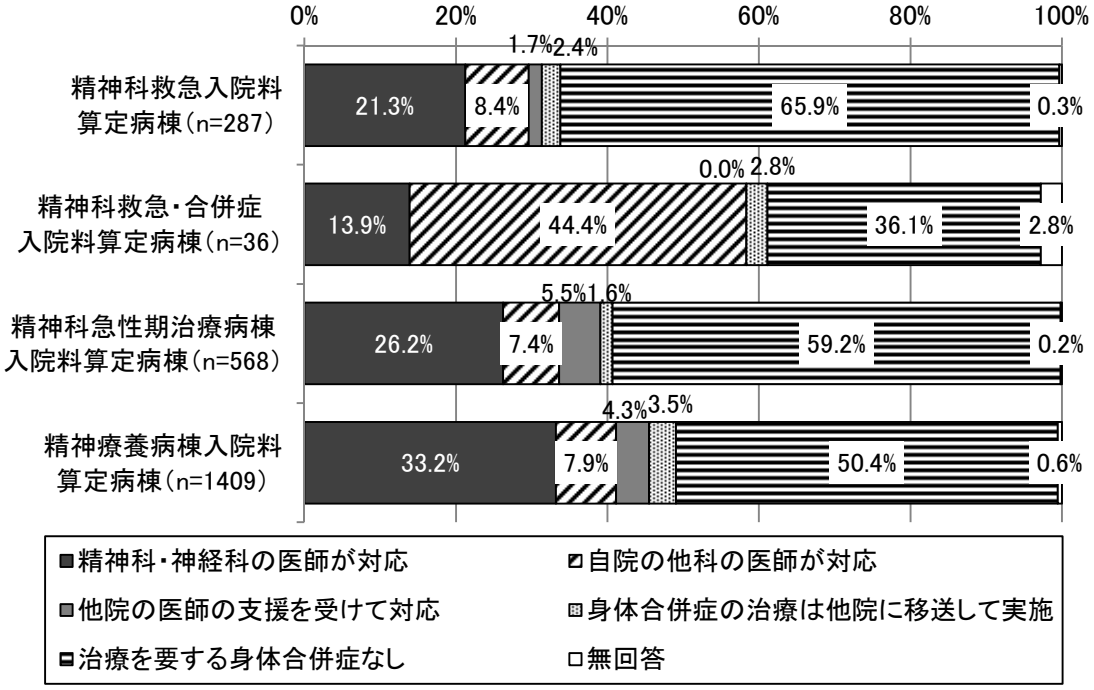
（単位：種類）

	入院時			現在		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
精神科救急入院料算定病棟（n=261）	1.40	1.06	1.00	1.44	1.09	1.00
精神科救急・合併症入院料算定病棟（n=25）	1.24	1.01	1.00	1.40	1.19	1.00
精神科急性期治療病棟入院料算定病棟（n=494）	1.35	1.21	1.00	1.37	1.21	1.00
精神療養病棟入院料算定病棟（n=1017）	1.73	1.21	2.00	1.62	1.16	1.00

（注）入院時、現在の両方に回答のあった人を集計対象とした。

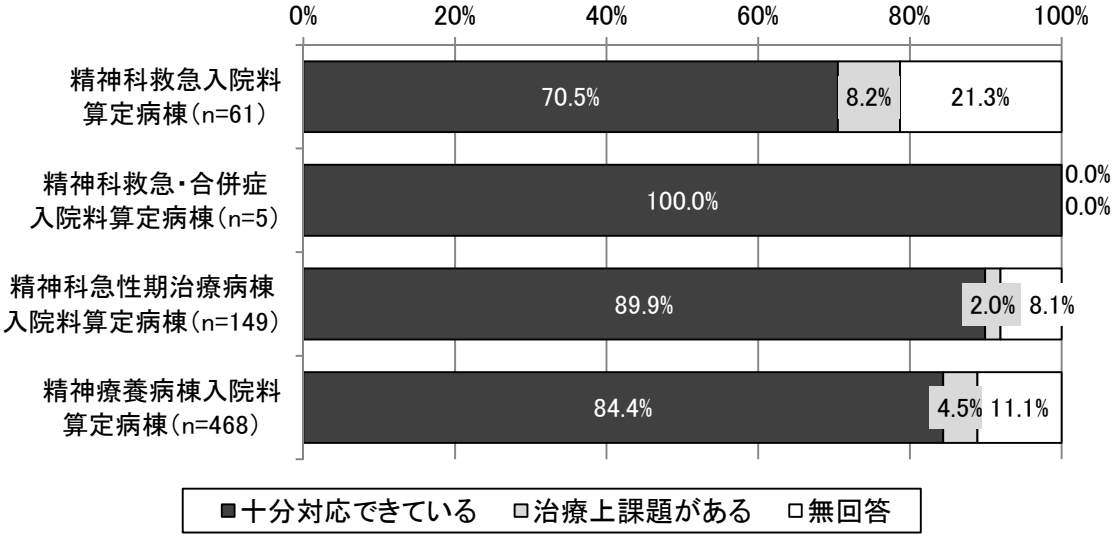
3）身体合併症に対する対応状況

図表 259　身体合併症に対する対応状況（単数回答）

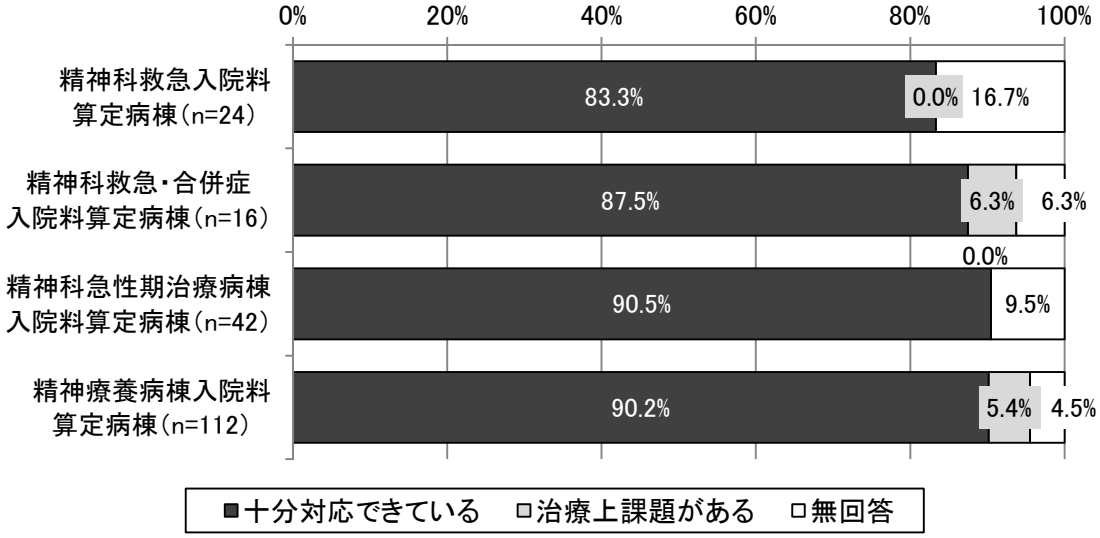


図表 260　身体合併症に対する対応状況の評価

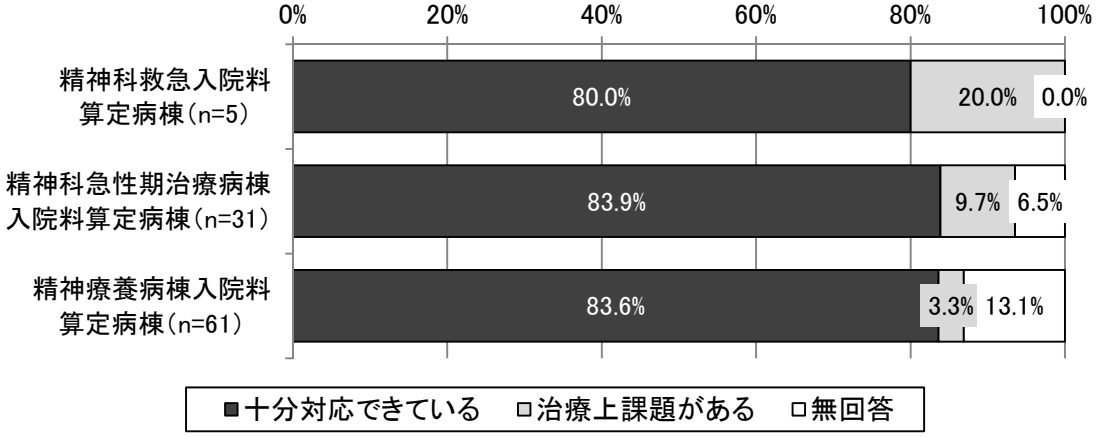
～精神科・神経科の医師が対応～（精神科・神経科の医師が対応した患者）



図表 261　身体合併症に対する対応状況の評価
～自院の他科の医師が対応～（自院の他科の医師が対応した患者）

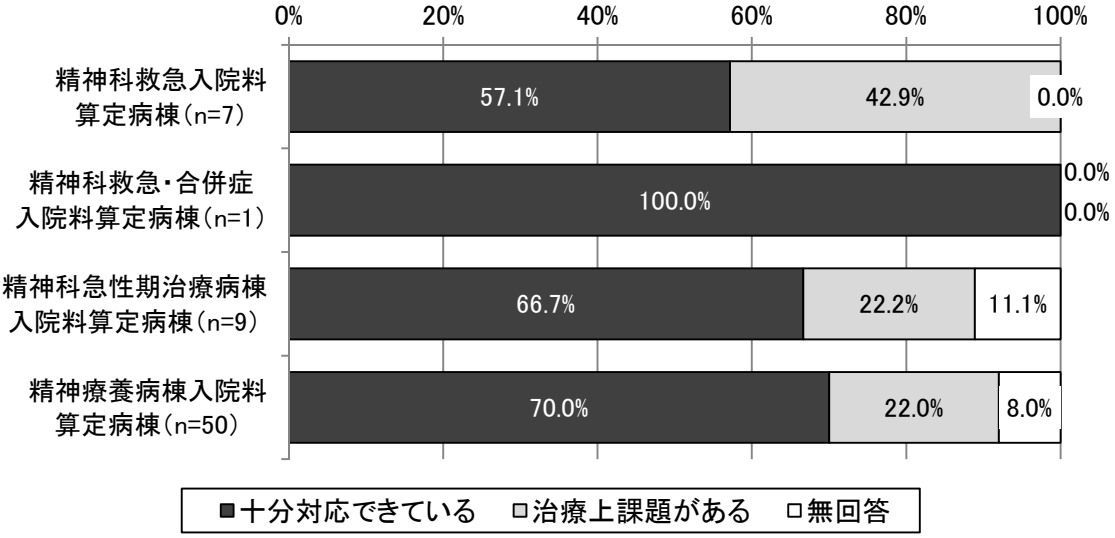


図表 262　身体合併症に対する対応状況の評価
～他院の医師の支援を受けて対応～（他院の医師の支援を受けて対応した患者）



（注）精神科救急・合併症入院料算定病棟は他院の医師の支援を受けて対応した患者は 0 人であった。

図表 263　身体合併症に対する対応状況の評価
～身体合併症の治療は他院に移送して実施～
（身体合併症の治療は他院に移送して実施した患者）

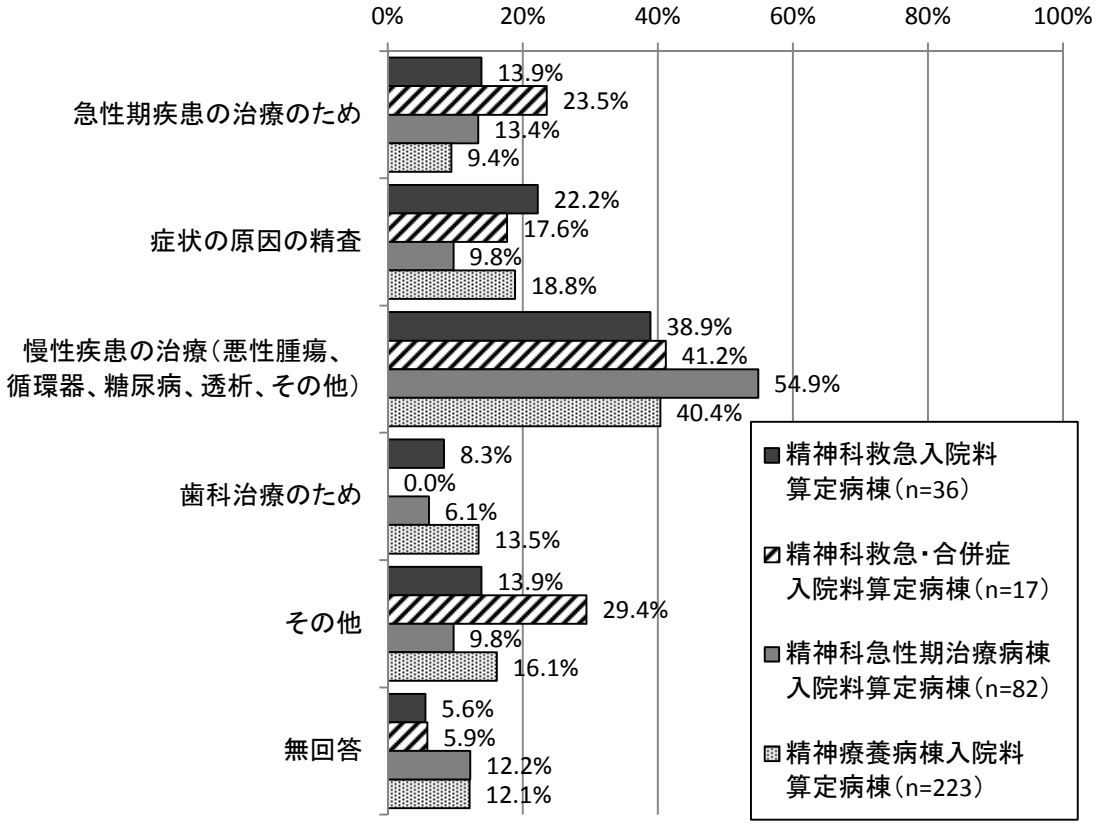


図表 264　身体合併症について他の科が診療した回数
（身体合併症の治療に精神科・神経科の医師以外が対応した患者）

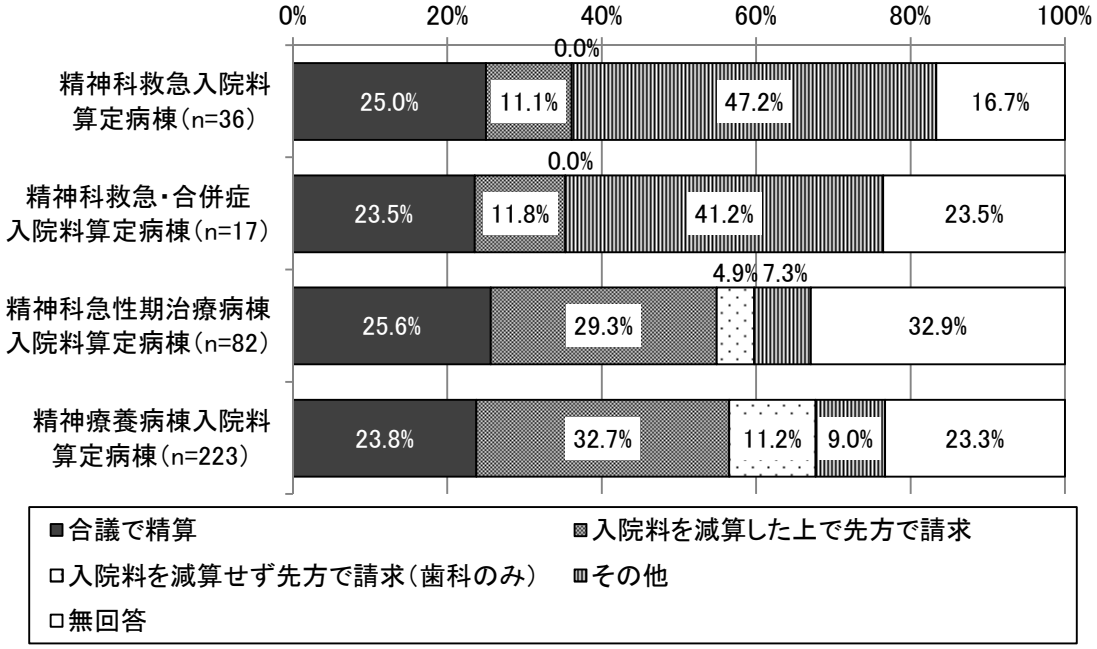
（回）

	人数（人）	平均値	標準偏差	中央値
精神科救急入院料算定病棟	31	2.4	2.5	2.0
精神科救急・合併症入院料算定病棟	17	2.0	1.5	1.0
精神科急性期治療病棟入院料算定病棟	65	2.0	2.3	1.0
精神療養病棟入院料算定病棟	191	1.5	1.6	1.0

図表 265　身体合併症について他の科が診療した目的
（身体合併症の治療に精神科・神経科の医師以外が対応した患者）



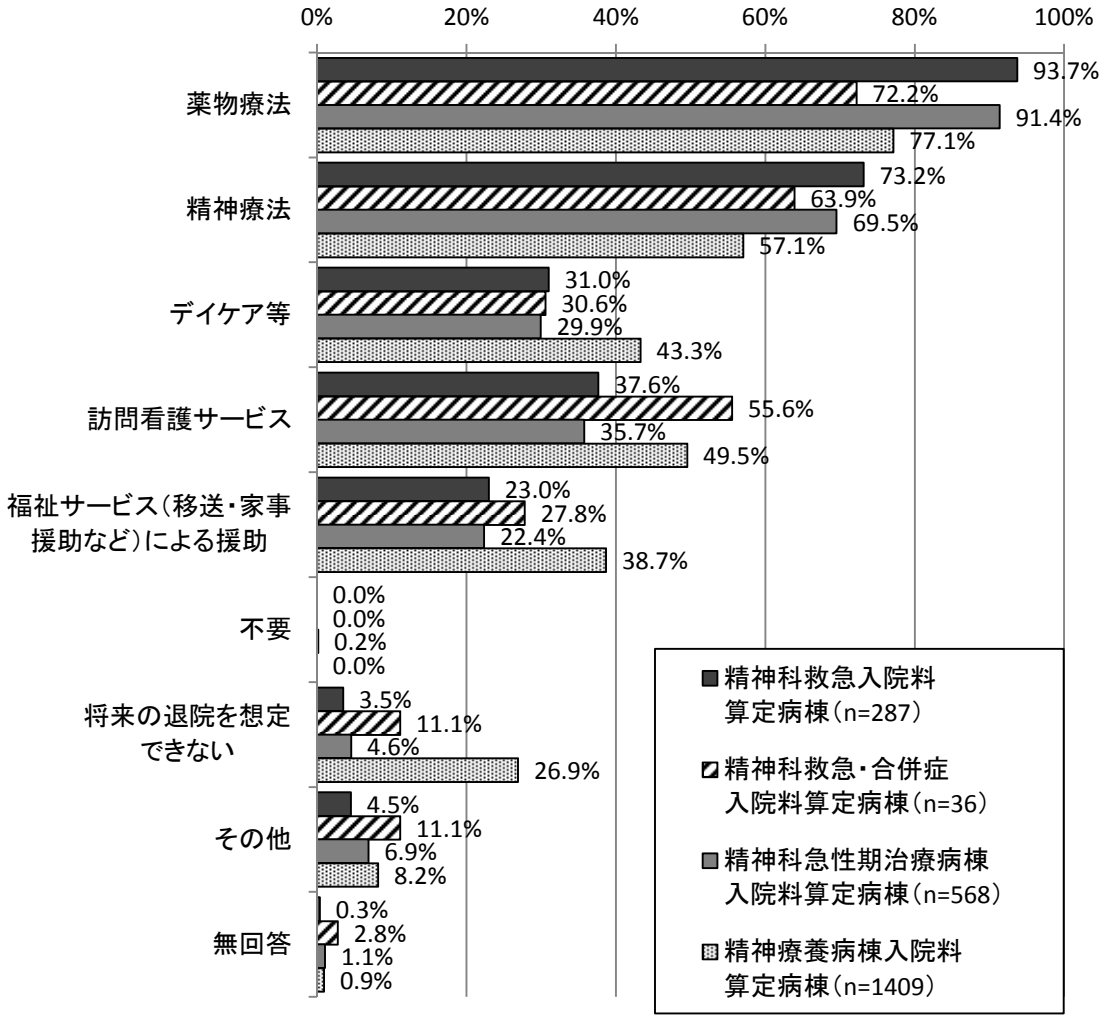
図表 266　身体合併症について費用の請求方法
（身体合併症の治療に精神科・神経科の医師以外が対応した患者）



⑤患者の社会的状況と退院の見通し

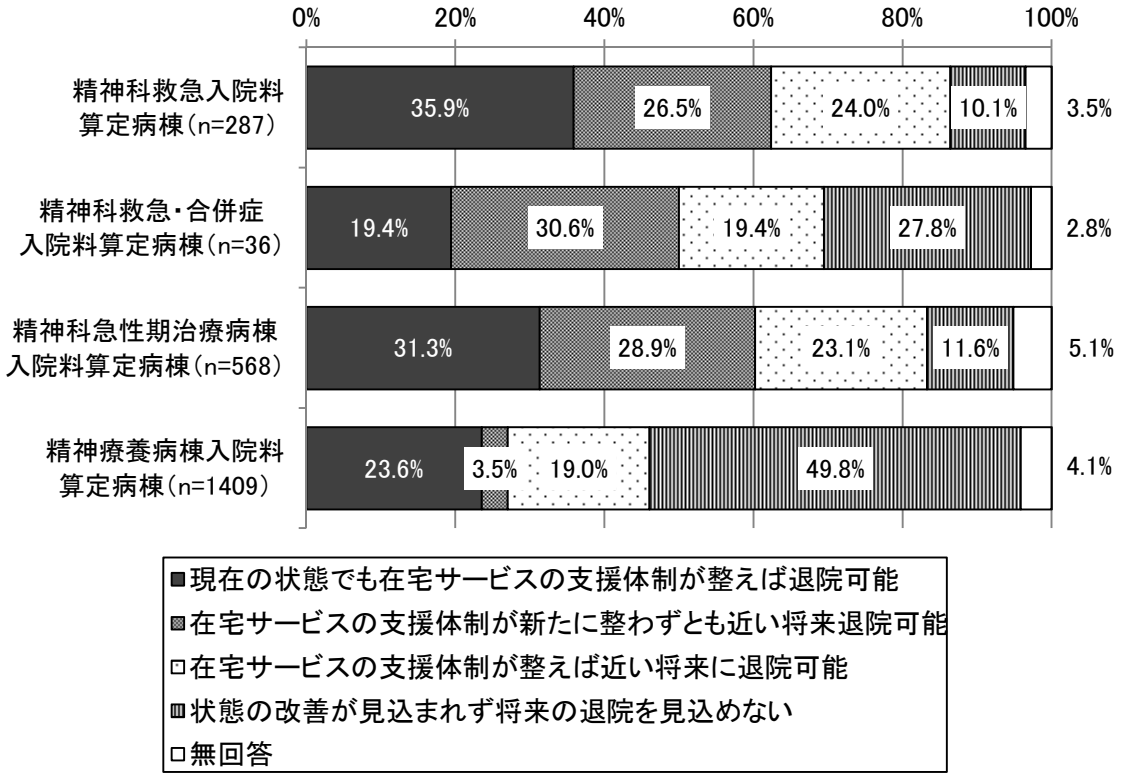
1）退院後に生活を継続するために必要な支援

図表 267　退院後に生活を継続するために必要な支援（複数回答）



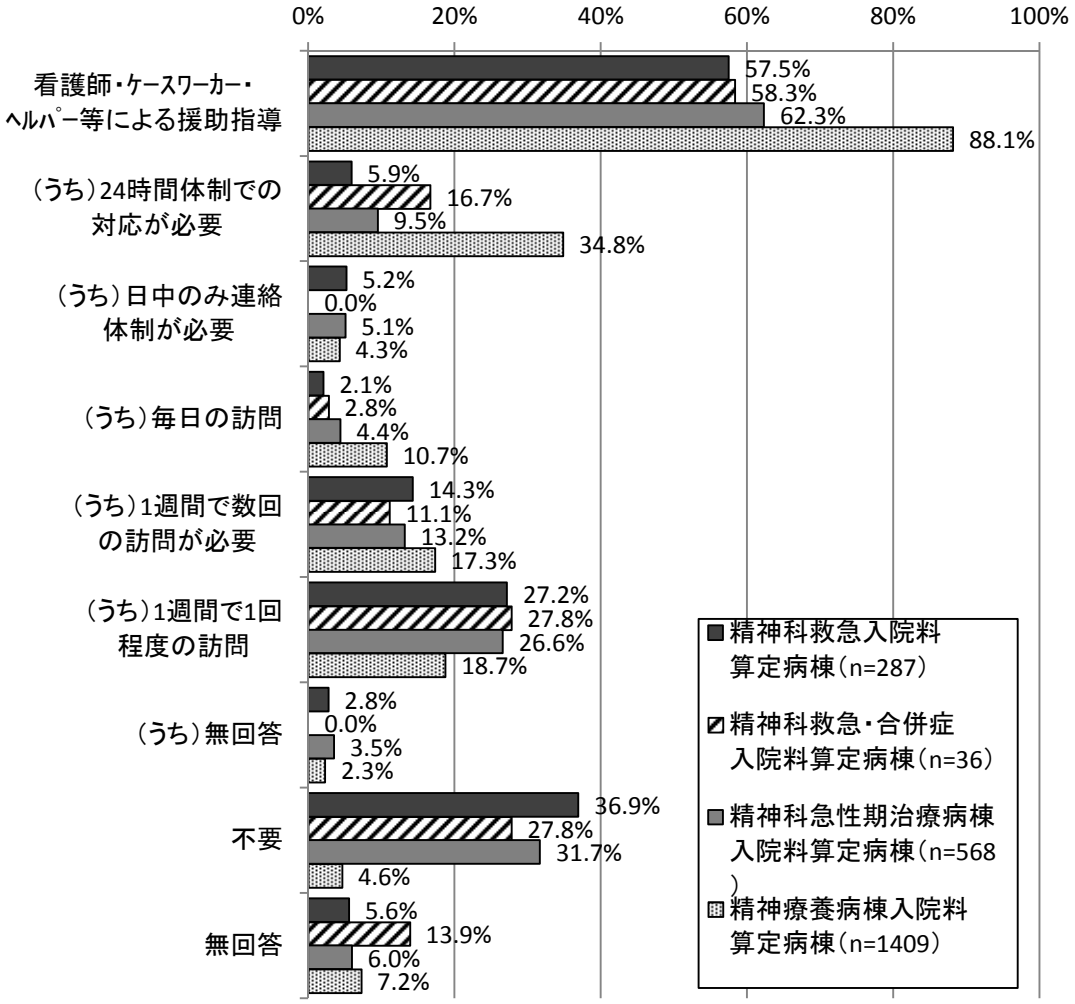
2）退院の見通し

図表 268　退院の見通し



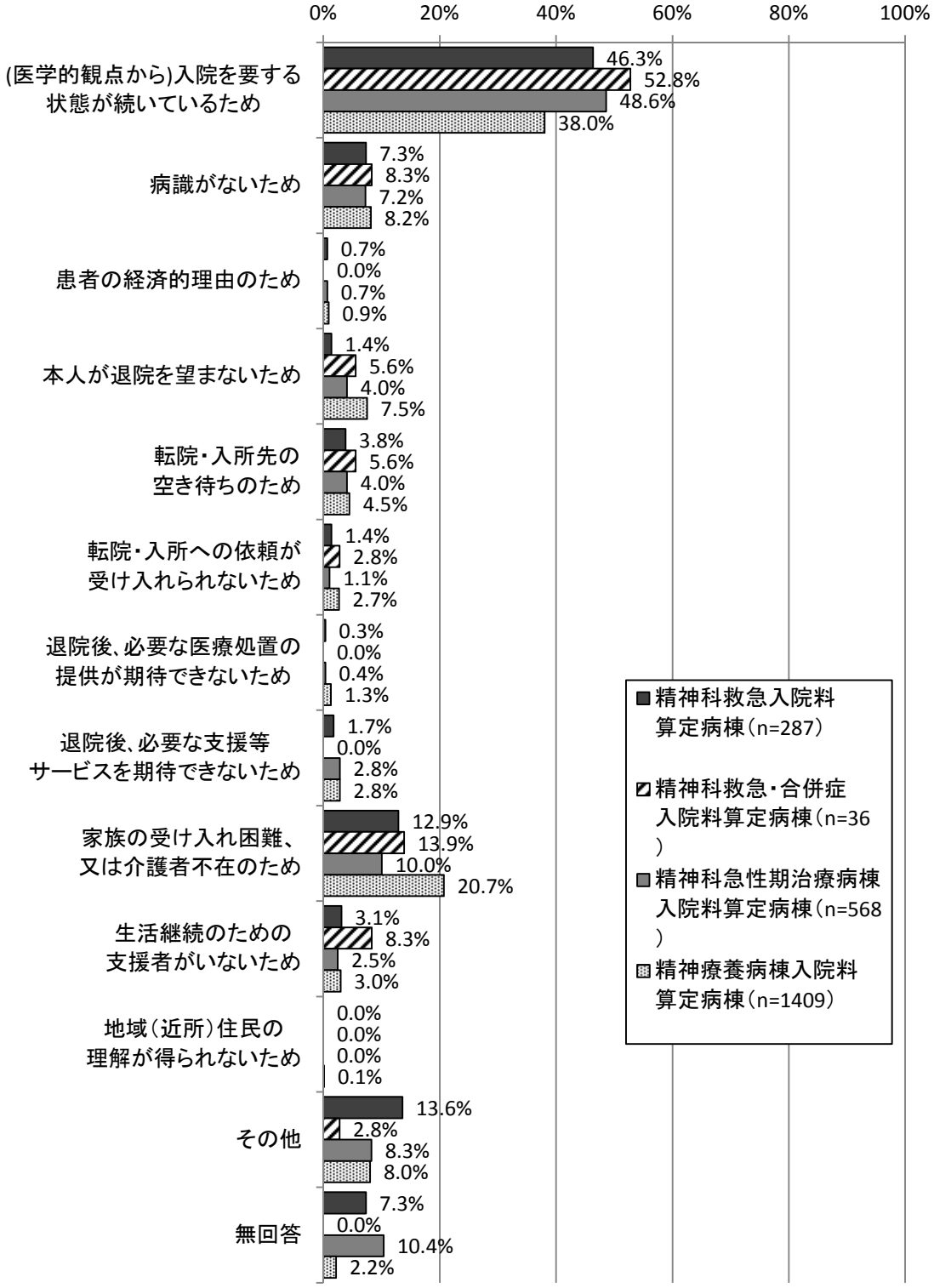
3）退院した場合の支援として重要なもの

図表 269　退院した場合の支援として重要なもの（単数回答）



4）現在退院できない場合の理由

図表 270　現在退院できない最大の理由（単数回答）

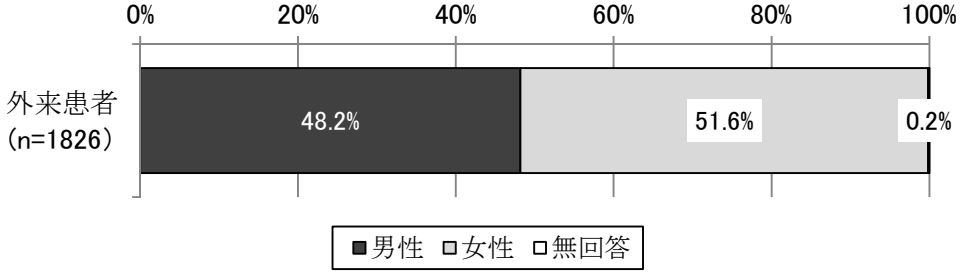


（２）外来患者

①患者の基本的事項

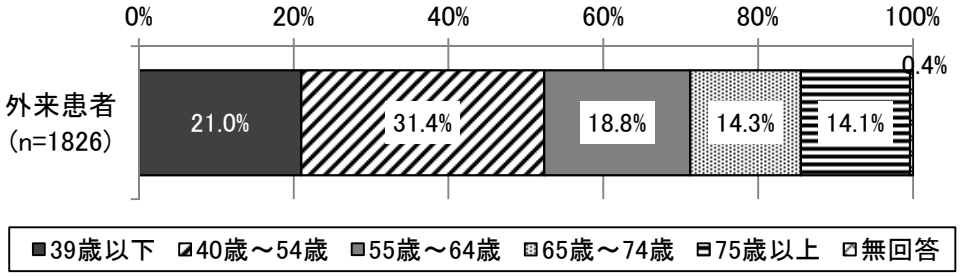
1）性別

図表 271　性別



2）年齢

図表 272　年齢階級別分布

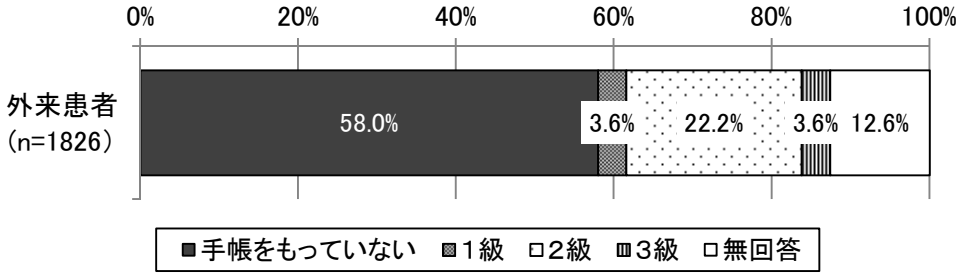


図表 273　年齢

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
年齢(歳)	1819	54.0	17.4	53.0

3）精神障害者福祉手帳

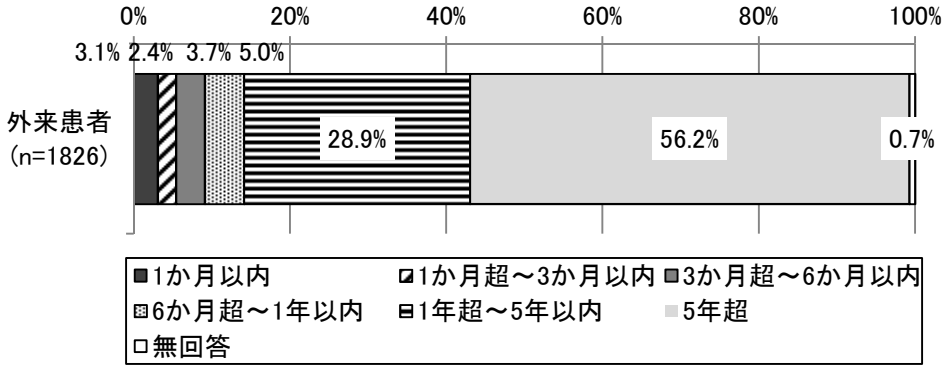
図表 274　精神障害者福祉手帳



②精神療法開始前後の状況

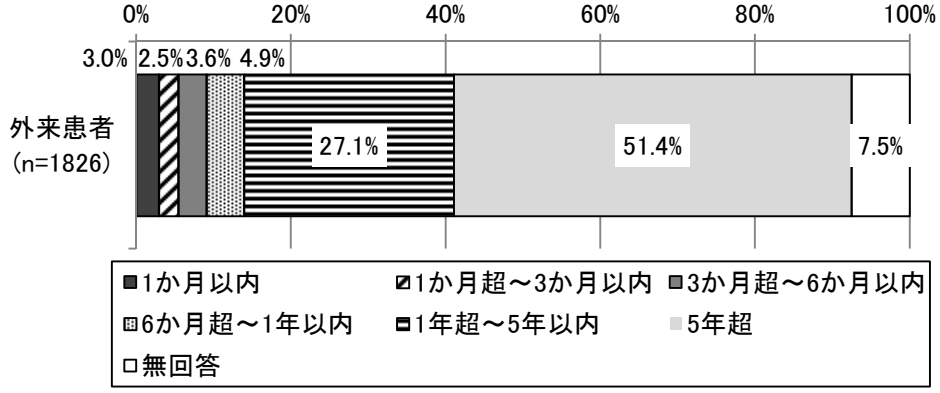
1）通院開始日からの期間

図表 275　通院開始日からの期間



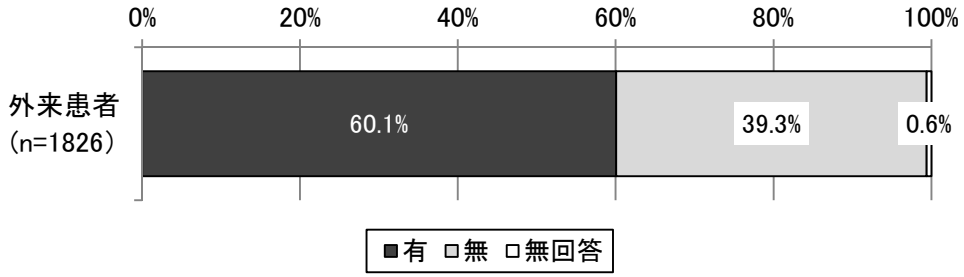
2）精神療法開始日からの期間

図表 276　精神療法開始日からの期間



3）精神科での入院

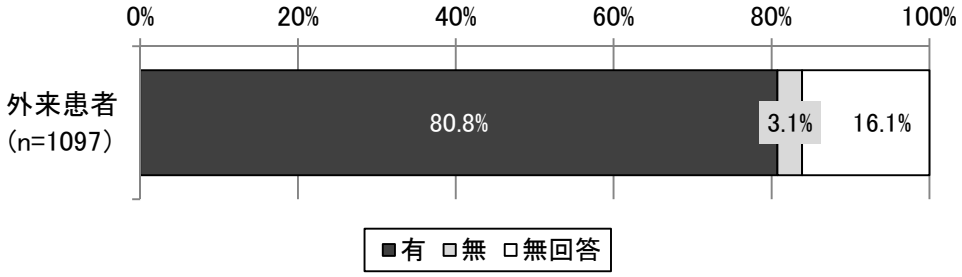
図表 277　精神科での入院の有無



図表 278　過去 2 年間における通算入院回数（n=1053）

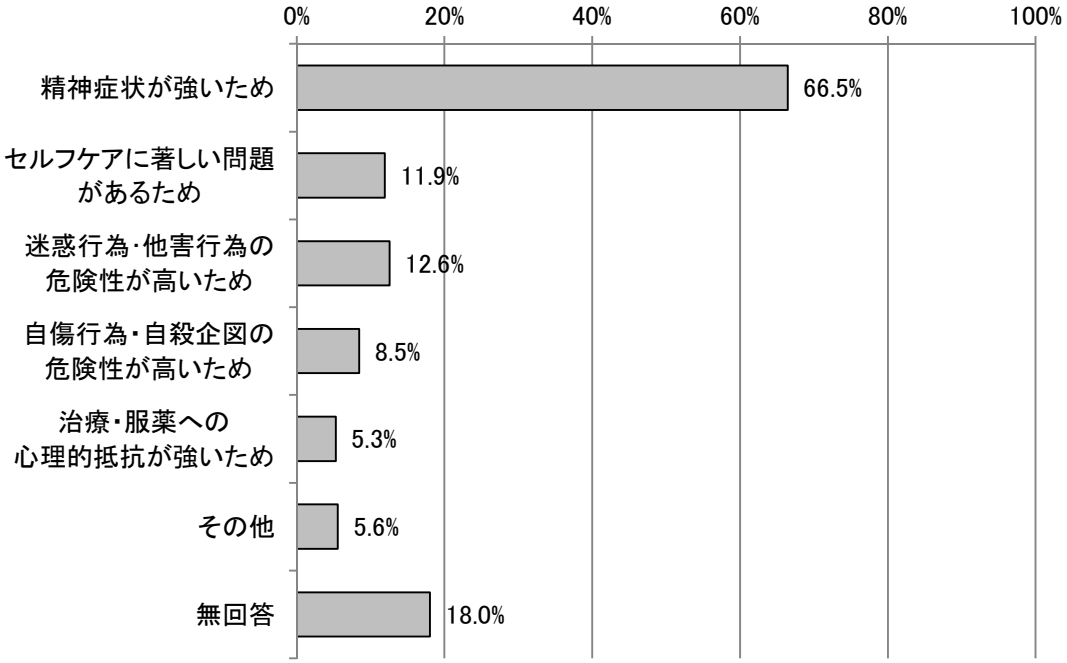
	平均値	標準偏差	中央値
過去 2 年間における通算入院回数（回）	0.89	1.85	1.00

図表 279　入院中の精神療法等実施の有無



4）直近の入院の理由

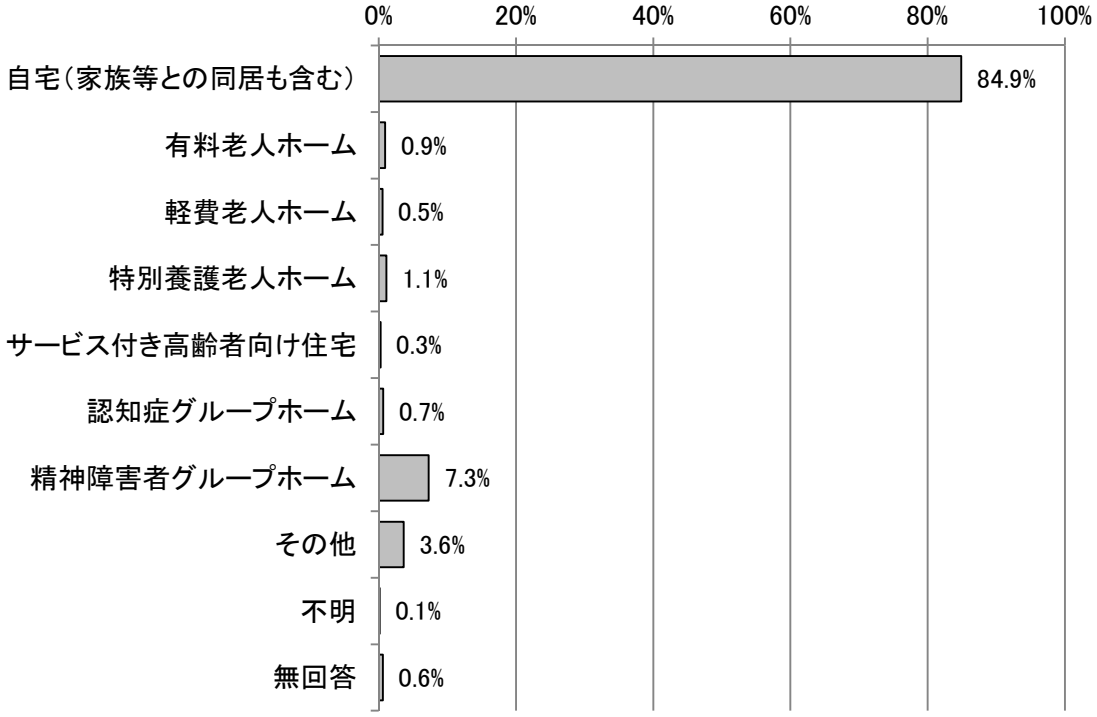
図表 280　直近の入院の理由（複数回答、n=1097）



③患者の現況

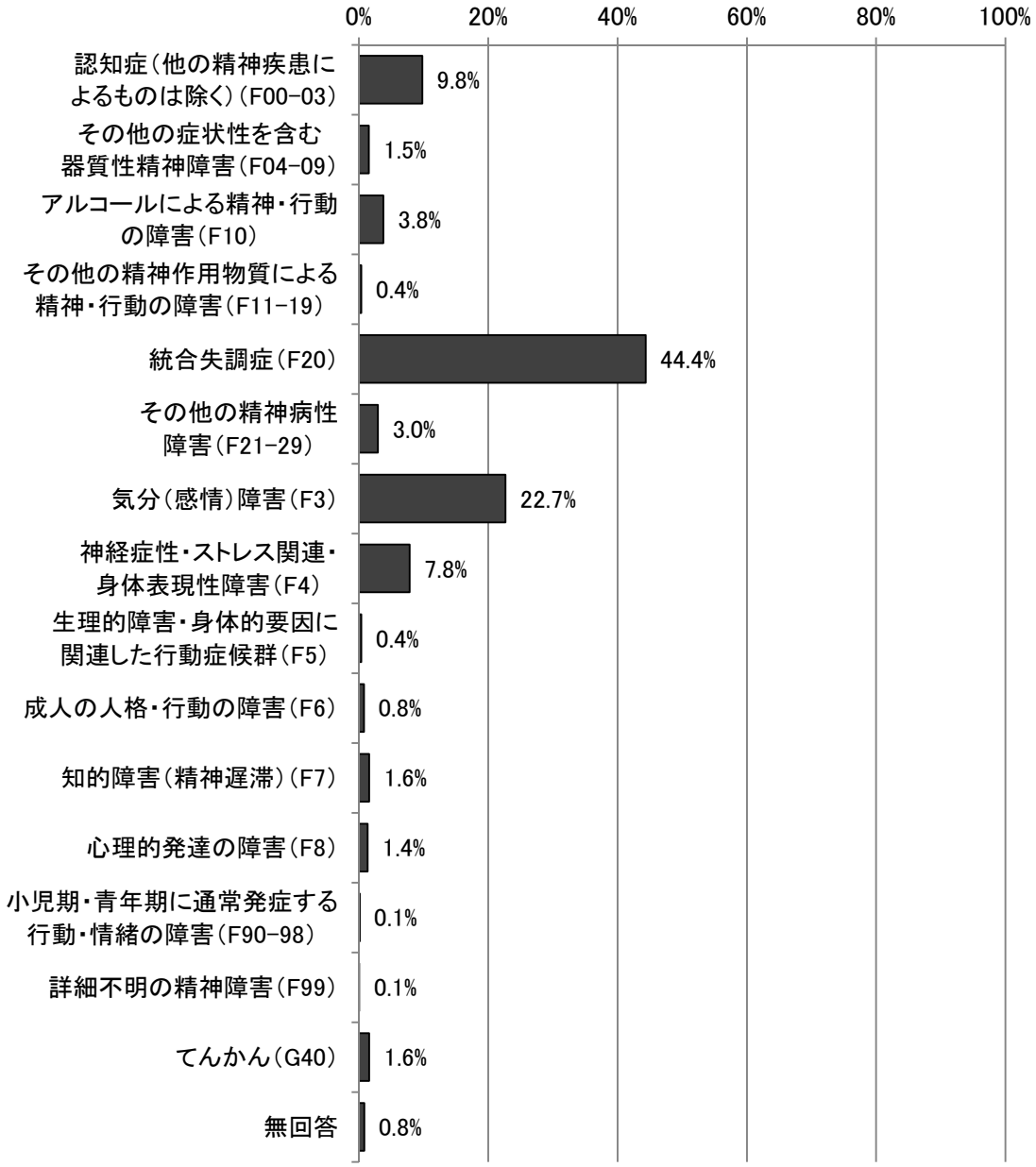
1）現在の居場所

図表 281　現在の居場所（単数回答、n=1826）

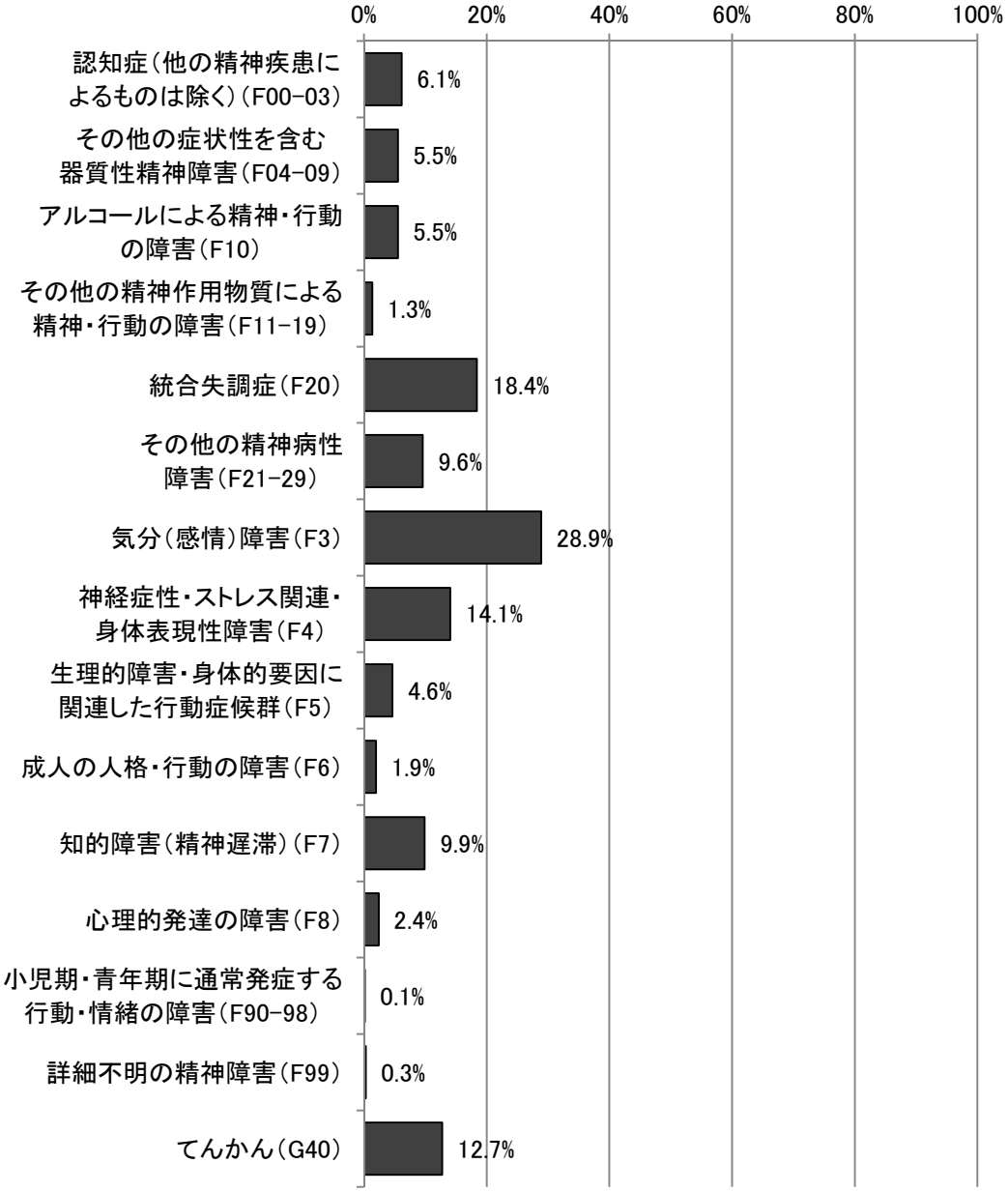


2）主傷病、その他の傷病（精神疾患）

図表 282　主傷病（単数回答、n=1826）

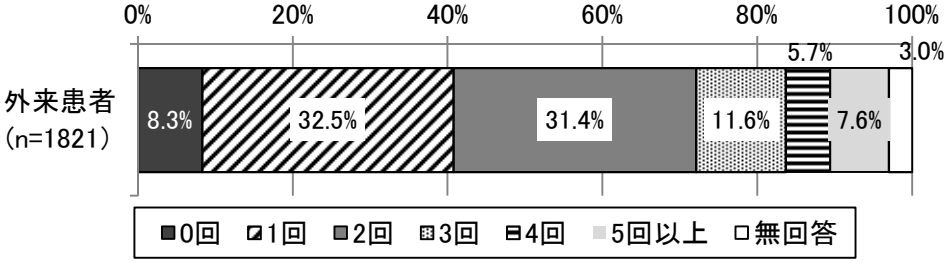


図表 283　その他の傷病（精神疾患）（複数回答、無回答者を除く、n=668）



3）精神療法の実施回数

図表 284　精神療法の実施回数（平成 26 年 10 月 1 か月間）



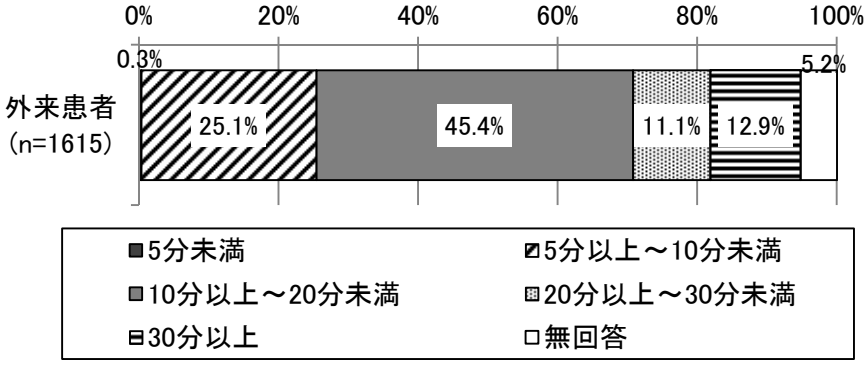
図表 285　精神療法の実施回数（平成 26 年 10 月 1 か月間）（n=1766）

	平均値	標準偏差	中央値
精神療法の実施回数(回)	2.3	3.1	2.0

4）精神療法の平均実施時間

図表 286　精神療法の平均実施時間（平成 26 年 10 月 1 か月間）

（平成 26 年 10 月 1 か月間で精神療法の実施があった患者）



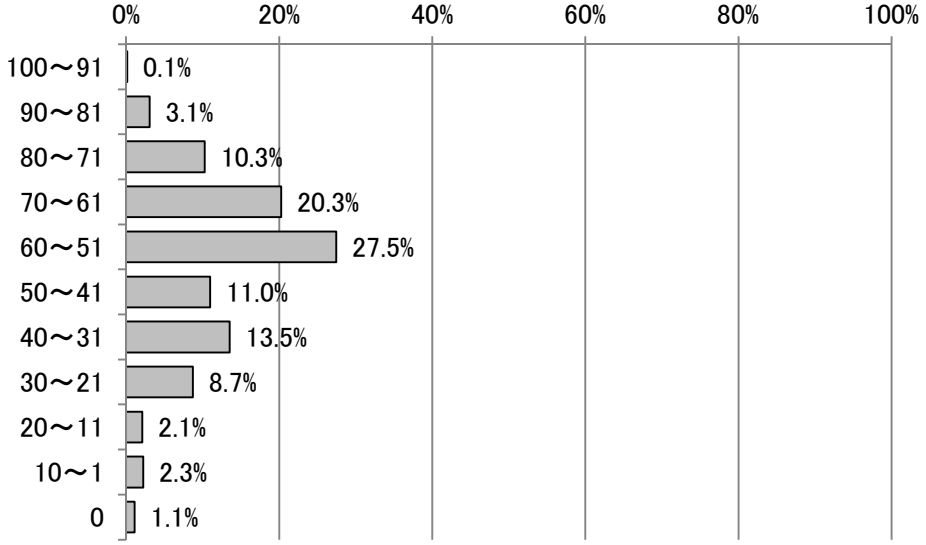
図表 287　精神療法の平均実施時間（平成 26 年 10 月 1 か月間）

（平成 26 年 10 月 1 か月間で精神療法の実施があった患者、n=1531）

	平均値	標準偏差	中央値
精神療法の平均実施時間(分)	15.0	13.2	10.0

5）GAF スコア

図表 288　GAF スコア（単数回答、n=710）



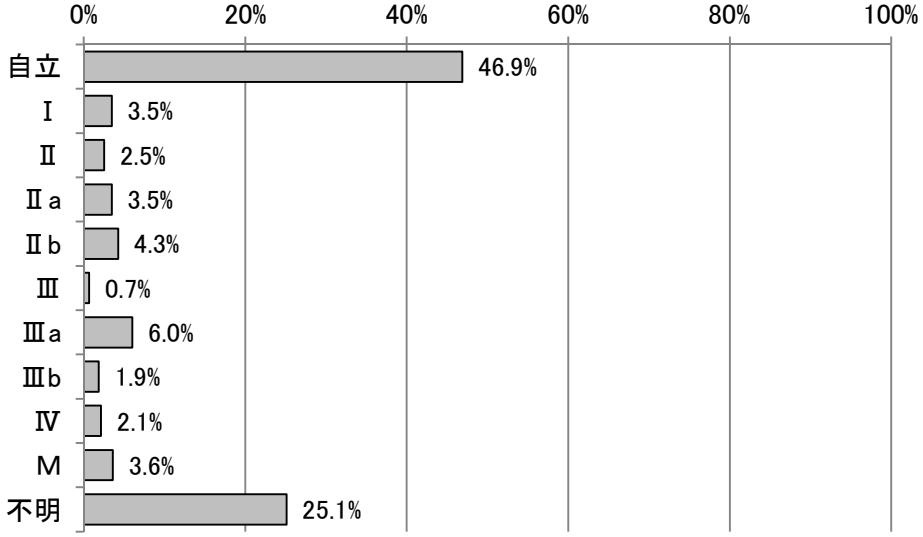
6）改訂長谷川式簡易知能評価スケール（HDS-R）

図表 289　改訂長谷川式簡易知能評価スケール（HDS-R）（n=167）

	平均値	標準偏差	中央値
改訂長谷川式簡易知能評価ｽｹｰﾙ(点)	17.0	8.4	18.0

7）認知症高齢者の日常生活自立度

図表 290　認知症高齢者の日常生活自立度（単数回答、n=749）

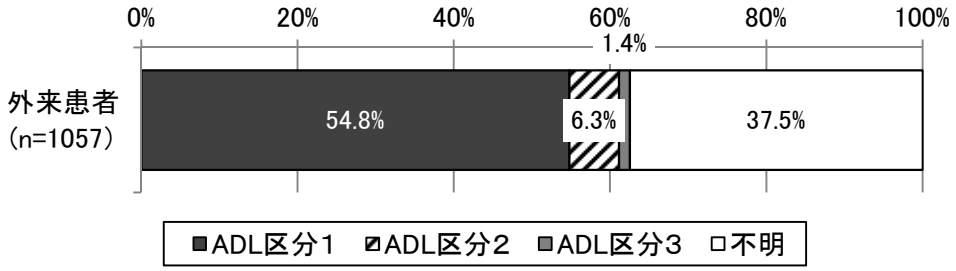


（注）認知症高齢者の日常生活自立度の判断基準は以下のとおり。

ランク	判 断 基 準	見られる症状・行動の例
Ⅰ	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	
Ⅱ	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	
Ⅱa	家庭外で上記Ⅱの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等
Ⅱb	家庭内でも上記Ⅱの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の応答や訪問者との対応など一人で留守番ができない等
Ⅲ	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。	
Ⅲa	日中を中心として上記Ⅲの状態が見られる。	着替え、食事、排便、排尿が上手にできない・時間がかかる。やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声をあげる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等
Ⅲb	夜間を中心として上記Ⅲの状態が見られる。	ランクⅢaに同じ
Ⅳ	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクⅢに同じ
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等

8）ADL 区分

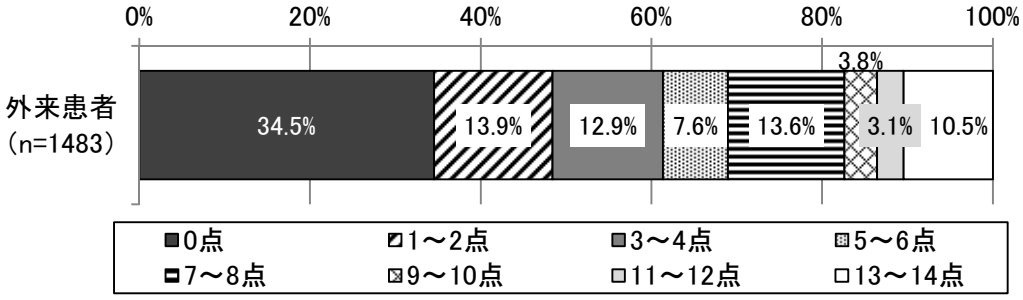
図表 291　ADL 区分（無回答者を除く）



（注）診療報酬点数表の「別紙様式 2」に基づき、ADL 得点 0～10 点を ADL 区分 1、ADL 得点 11～22 点を ADL 区分 2、ADL 得点 23～24 点を ADL 区分 3 とした。

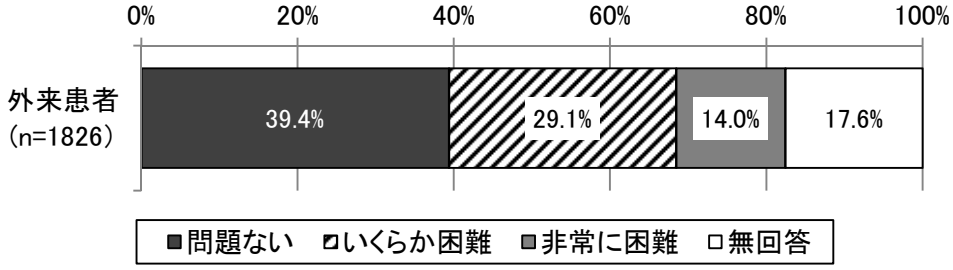
9）IADL の困難度

図表 292　IADL の困難度（点数化）

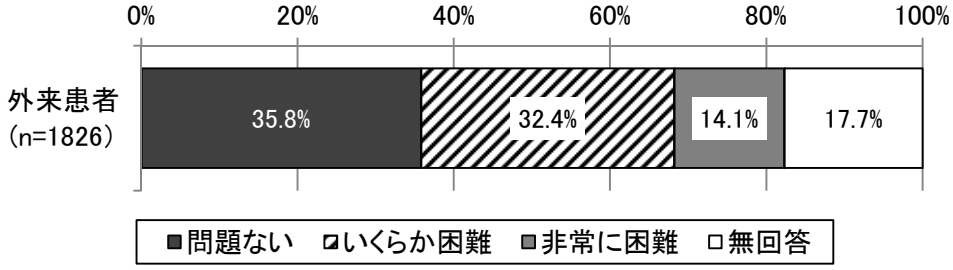


（注）・食事の用意、家事一般、金銭管理、薬の管理、電話の利用、買い物、交通手段の利用の 7 項目について、問題ない（0 点）～非常に困難（2 点）として 0 点～14 点で点数化した。
・全 7 項目で回答のあった 1483 人を集計対象とした。

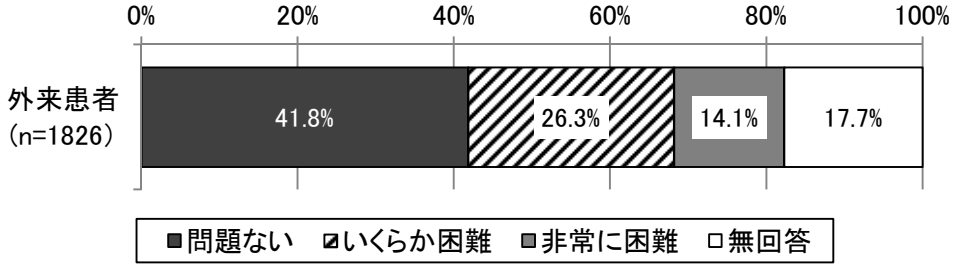
図表 293　IADL の困難度～a. 食事の用意～



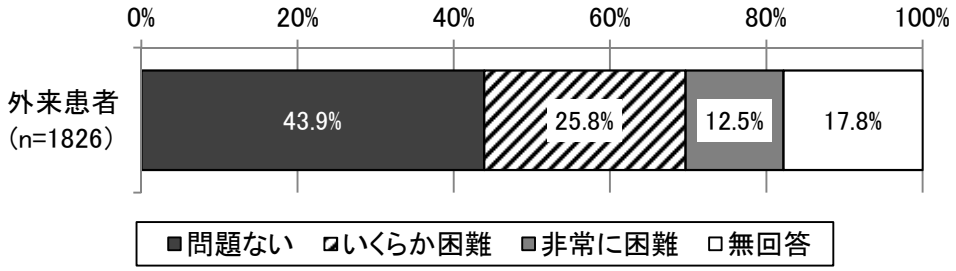
図表 294　IADL の困難度～b. 家事一般～



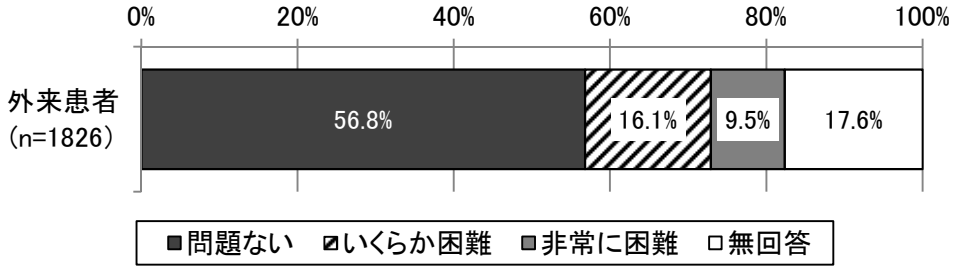
図表 295　IADL の困難度～c. 金銭管理～



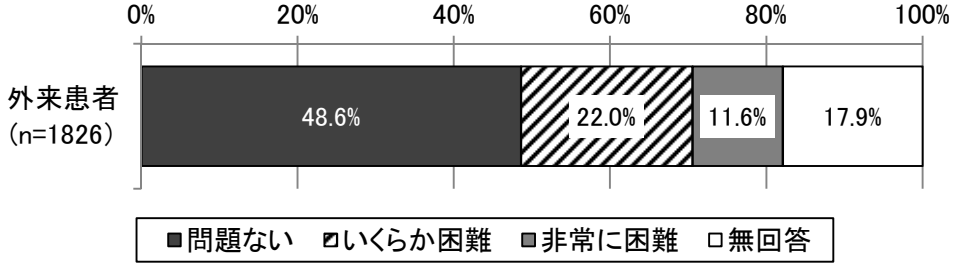
図表 296　IADL の困難度～d. 薬の管理～



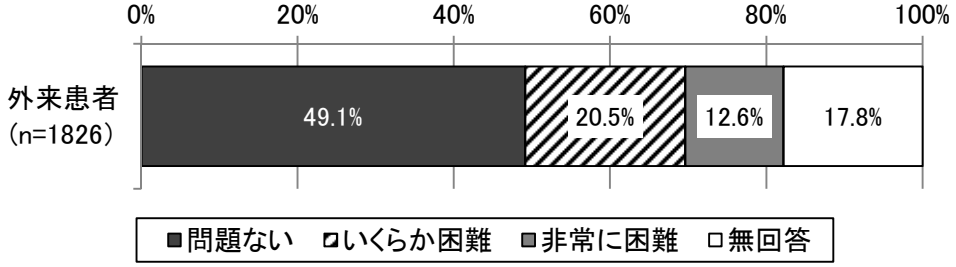
図表 297　IADL の困難度～e. 電話の利用～



図表 298　IADL の困難度～f. 買い物～

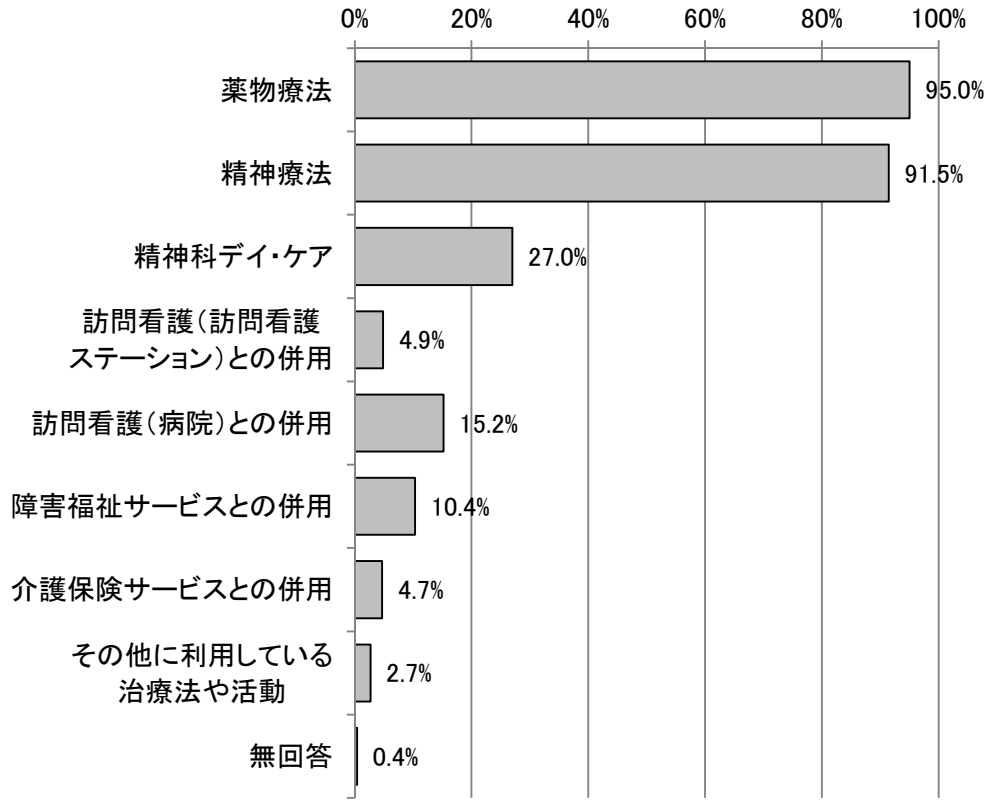


図表 299　IADL の困難度～g. 交通手段の利用～



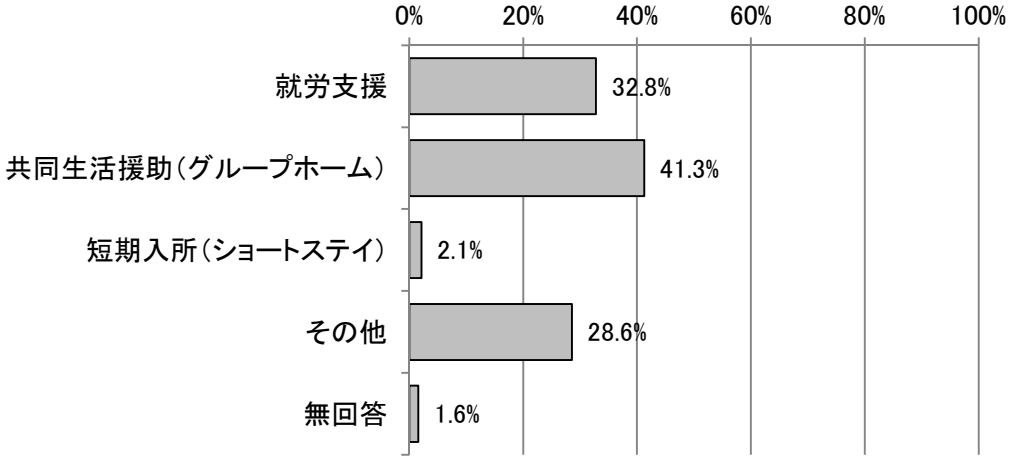
10）利用している診療内容等

図表 300　利用している診療内容等（複数回答、n=1826）

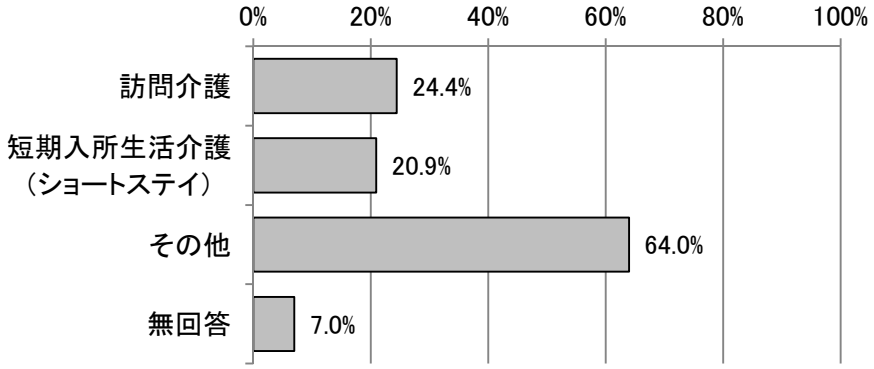


図表 301　障害福祉サービスとの併用内容

（障害福祉サービスとの併用をしている患者、複数回答、n=189）

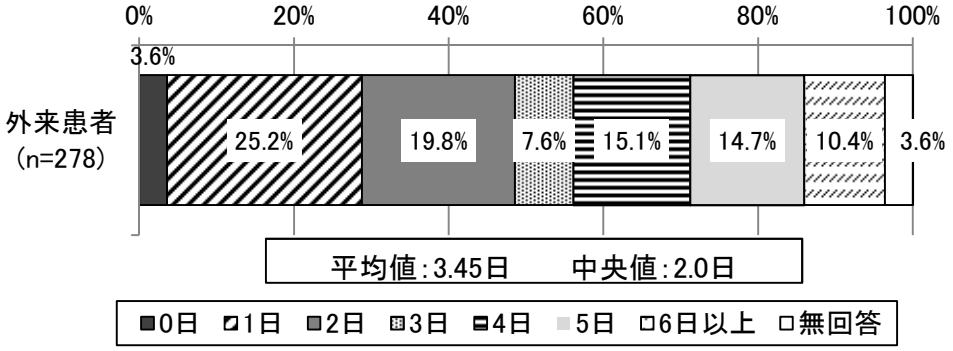


図表 302　介護保険サービスとの併用内容
（介護保険サービスとの併用をしている患者、複数回答、n=86）

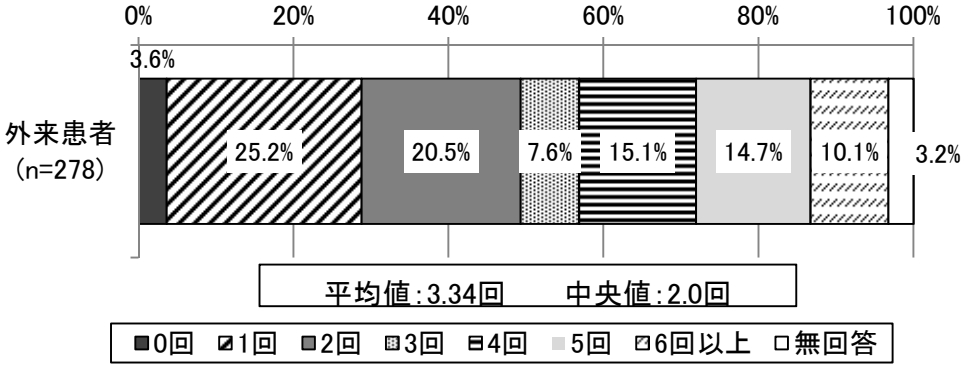


11）訪問看護の利用状況（平成 26 年 10 月 1 か月間）

図表 303　訪問した日数（訪問看護（病院）との併用をしている患者、n=278）



図表 304　訪問した回数（訪問看護（病院）との併用をしている患者、n=278）



図表 305　長時間精神科訪問看護・指導加算を算定した回数

（訪問看護（病院）との併用をしている患者、n= 155）

	平均値	標準偏差	中央値
長時間精神科訪問看護･指導加算を算定した回数（回）	0.21	0.85	0.0

図表 306　夜間・早朝訪問看護加算を算定した回数

（訪問看護（病院）との併用をしている患者、n= 156）

	平均値	標準偏差	中央値
夜間･早朝訪問看護加算を算定した回数（回）	0.00	0.00	0.0

図表 307　深夜訪問看護加算を算定した回数

（訪問看護（病院）との併用をしている患者、n= 156）

	平均値	標準偏差	中央値
深夜訪問看護加算を算定した回数（回）	0.00	0.00	0.0

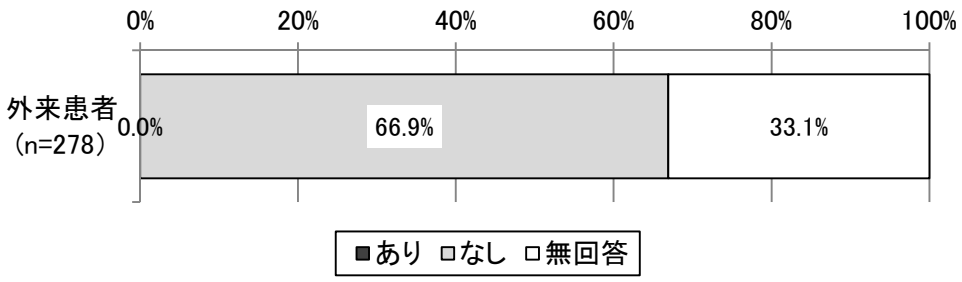
図表 308　精神科緊急訪問看護加算を算定した回数

（訪問看護（病院）との併用をしている患者、n= 156）

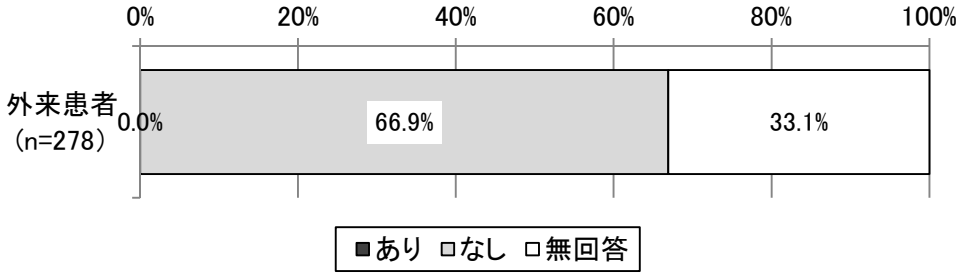
	平均値	標準偏差	中央値
精神科緊急訪問看護加算を算定した回数（回）	0.00	0.00	0.0

図表 309　精神科重症患者早期集中支援管理料の算定の有無

（訪問看護（病院）との併用をしている患者、n= 278）

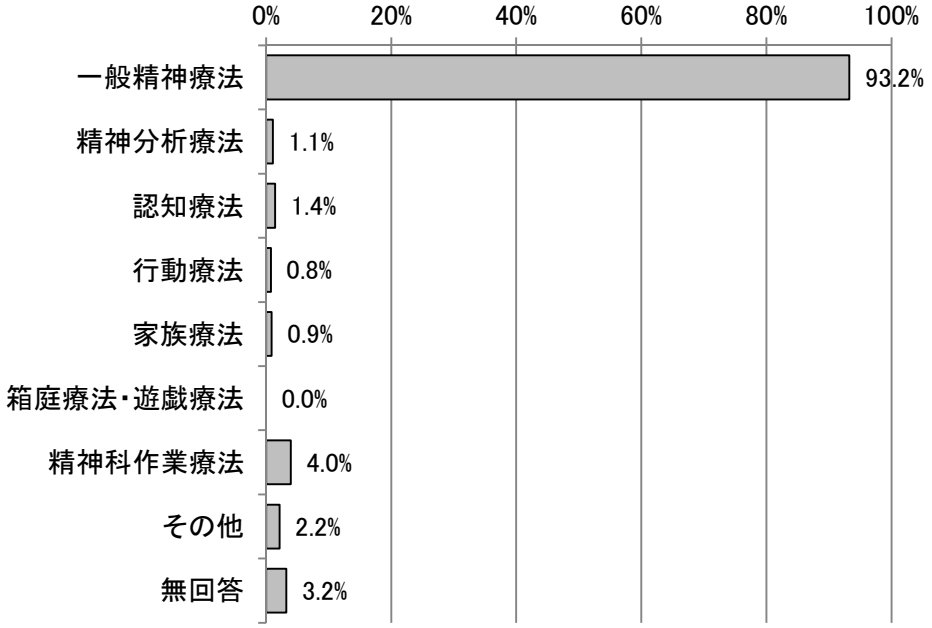


図表 310　急性増悪による週 4 回以上の訪問看護の実施の有無
（訪問看護（病院）との併用をしている患者、n= 278）



12）精神療法の内容

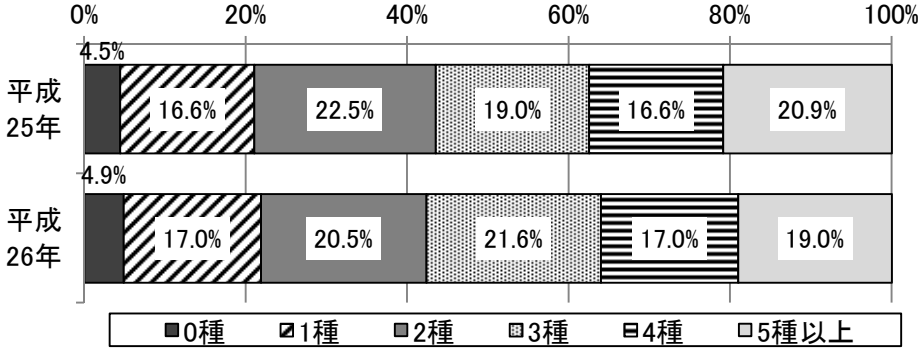
図表 311　精神療法の内容（精神療法を行っている患者、複数回答、n=1670）



13）向精神薬の処方内容

図表 312　薬物療法で使用している向精神薬の使用数

（平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月）（薬物療法を行っている患者、n=1393）



（注）平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月の両方に回答のあった 1393 人を集計対象とした。

図表 313　薬物療法で使用している向精神薬の使用数

（平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月）（薬物療法を行っている患者、n=1393）

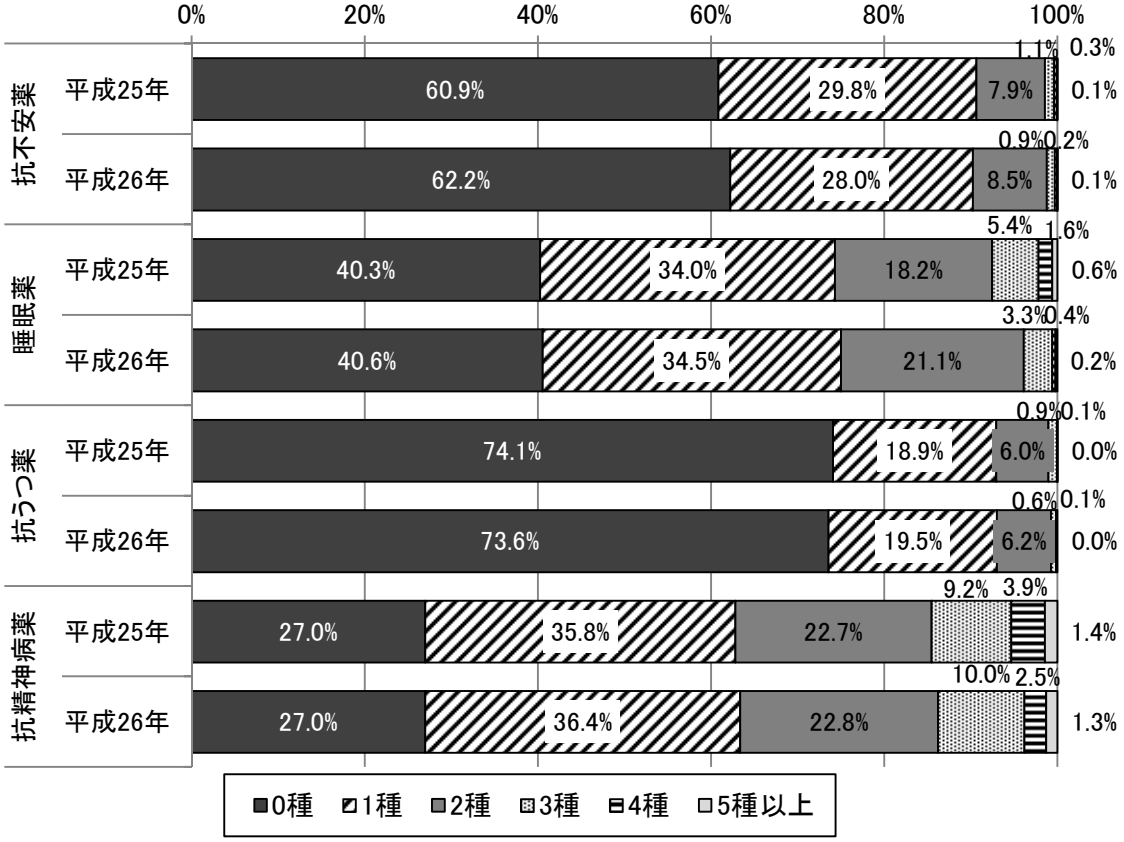
（単位：種類）

	平成 25 年 10 月			平成 26 年 10 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
向精神薬の使用数	3.12	1.97	3.00	3.02	1.81	3.00

（注）平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月の両方に回答のあった 1393 人を集計対象とした。

図表 314　薬物療法で使用している向精神薬の種類別使用数

（平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月）（薬物療法を行っている患者、n=1393）



（注）平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月の両方に回答のあった 1393 人を集計対象とした。

図表 315　薬物療法で使用している向精神薬の種類別使用数

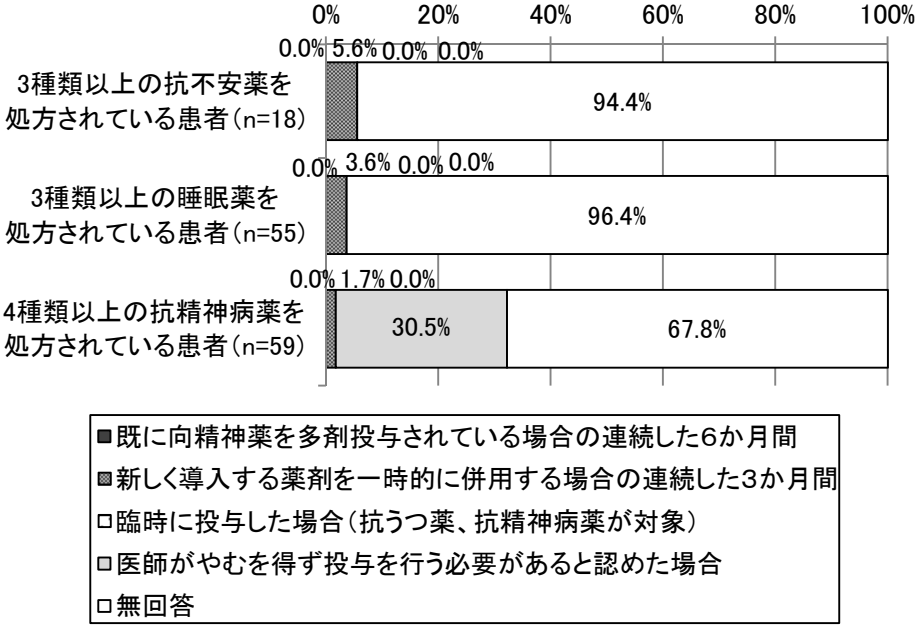
（平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月）（薬物療法を行っている患者、n=1393）

（単位：種類）

	平成 25 年 10 月			平成 26 年 10 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
抗不安薬の使用数	0.50	0.72	0.00	0.49	0.72	0.00
睡眠薬の使用数	0.96	1.03	1.00	0.89	0.90	1.00
抗うつ薬の使用数	0.34	0.64	0.00	0.34	0.63	0.00
抗精神病薬の使用数	1.32	1.18	1.00	1.29	1.13	1.00

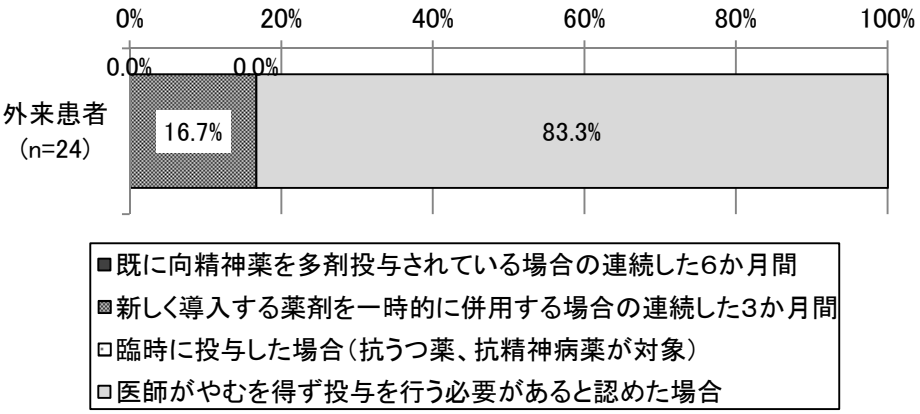
（注）平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月の両方に回答のあった 1393 人を集計対象とした。

図表 316　向精神薬の多剤投与の除外規定対象となる場合の内容
（多剤投与の可能性のある患者）



（注）・3 種類以上の抗不安薬、3 種類以上の睡眠薬、4 種類以上の抗うつ薬又は 4 種類以上の抗精神病薬を処方されている患者を集計対象とした。向精神薬の多剤投与の除外規定対象となるかは不明である。
・3 種類以上の抗不安薬、3 種類以上の睡眠薬を処方されている患者については、「臨時に投与した場合（抗うつ薬、抗精神病薬が対象）」「医師がやむを得ず投与を行う必要があると認めた場合」を選択した患者は除いた。
・4 種類以上の抗うつ薬を処方されている患者は 4 名で全て「無回答」であった。

図表 317　向精神薬の多剤投与の除外規定対象となる場合の内容
（多剤投与の可能性がある患者、無回答者を除く、n=24）

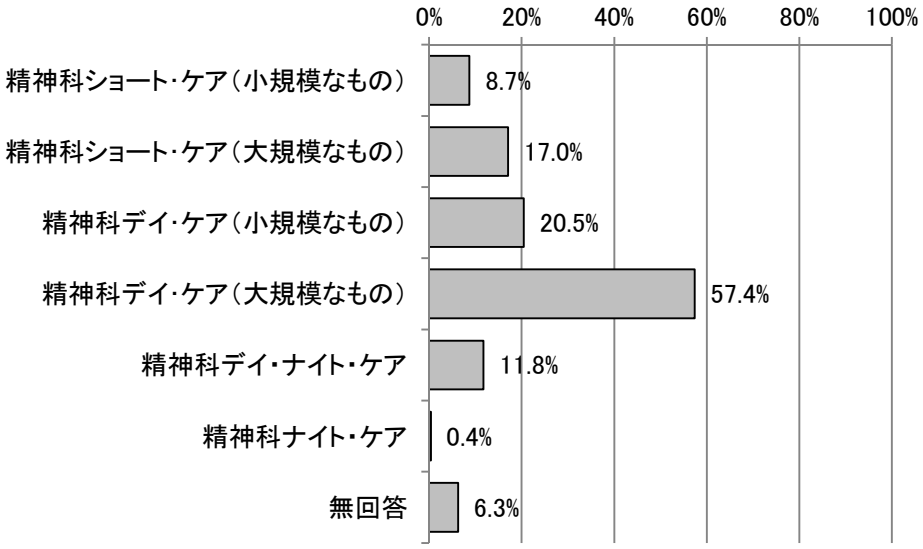


（注）3 種類以上の抗不安薬、3 種類以上の睡眠薬、4 種類以上の抗うつ薬又は 4 種類以上の抗精神病薬を処方されている患者で、回答のあった 24 人を集計対象とした。

14）現在利用している精神科デイケア等

図表 318　現在利用している精神科デイケア等

（精神科デイ・ケアを利用している患者、複数回答、n=493）



平成２６年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成２６年度調査）

精神医療の実施状況調査　施設票

※　以下のラベルに、電話番号をご記入ください。また、施設名と施設の所在地をご確認の上、記載内容に不備等がございましたら、赤書きで修正してください。

※この施設票は、医療機関の開設者・管理者の方に、貴施設における精神医療の診療体制や精神医療の実施状況等についてお伺いするものです。

※ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（　　）内には具体的な数値、用語等をご記入ください。（　　）内に数値を記入する設問で、該当なしは「０（ゼロ）」を、わからない場合は「－」をご記入ください。

※特に断りのない質問については、平成 26 年 10 月 31 日時点の状況についてご記入ください。

※「平成 25 年 10 月」と記載の質問については平成 25 年 10 月 31 日時点または平成 25 年 10 月 1 か月間の状況を、「平成 26 年 10 月」と記載の質問については平成 26 年 10 月 31 日時点または平成 26 年 10 月 1 か月間の状況をご記入ください。

１．貴施設の概要についてお伺いします。

①開設者 ※○は１つだけ	1. 国　2. 公立　3. 公的　4. 社会保険関係団体 5. 医療法人　6. 個人　7. 学校法人　8. その他の法人
②同一法人または関連法人が運営する施設・事業所 ※○は１つだけ	1. 該当なし　2. 介護老人保健施設　3. 介護老人福祉施設 4. 訪問看護ステーション　5. 居宅介護支援事業所　6. 地域包括支援センター 7. 訪問介護事業所　8. 小規模多機能事業所　9. 通所介護事業所 10. その他（具体的に　　）
③病院種別　※○は１つだけ	1. 精神科病院（単科）　2. 精神科病院（内科等併設あり） 3. 精神科を有する特定機能病院　4. 精神科を有する一般病院
④貴施設の救急医療体制についてお答えください。	
1）救急告示の有無　※○は１つだけ	1. あり　2. なし
2）救急医療体制 ※○は１つだけ	1. 三次救急（高次救命救急センター）　2. 三次救急（救命救急センター） 3. 二次救急（入院を要する救急医療施設）　4. 該当なし
⑤精神医療に関する指定等の状況 ※あてはまる番号すべてに○	1. 措置入院指定病院　2. 応急入院指定病院 3. 精神科救急医療施設注1　4. 認知症疾患医療センター 5. いずれも該当しない

注 1. 精神科救急医療体制整備事業に参加している医療機関

⑥貴施設では、精神科救急医療体制整備事業に参加していますか。※○は１つだけ また、参加していない場合はその理由をお書きください。
1. 常時対応型の基幹的病院として参加　2. 輪番病院として参加 3. その他の形で参加（具体的に　　） 4. 参加していない（参加していない理由：　　）→２ページの質問⑦へ
⑥-1 貴施設では、平成 26 年 10 月 1 か月間に精神科救急医療体制整備事業の当番日は何日ありましたか。また、その診療実績をご記入ください。
当番日：（　　）日／月　→ 1）入院：（　　）件　2）外来診療のみ：（　　）件

⑥-2 精神科救急医療体制整備事業の当番日における医師当直体制はどのようになっていますか。※○は１つだけ

1. 精神保健指定医が常に当直
2. 精神科医師が常に当直（精神保健指定医がオンコールになることがある）
3. 精神科以外の医師が当直することあり（精神保健指定医はオンコール対応）
4. その他（具体的に　　）

⑦貴施設では、平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月までの 1 年間に、以下の対応件数は何件ありましたか。

1）時間外、休日又は深夜の入院件数（精神疾患にかかるもの）:（　　）件

2）時間外、休日又は深夜の診療（電話再診を除く）件数（精神疾患にかかるもの）:（　　）件

⑧貴施設では、**特定入院料（例：精神療養病棟入院料等）**に含まれて評価されている診療行為や検査等を実施した場合に、その診療行為等の項目・回数などの情報（いわゆる「出来高情報」）を記録・保管していますか。　※○は１つだけ

1. 記録・保管している　　2. 記録・保管していない　　3. わからない

⑨平成 25 年 10 月及び平成 26 年 10 月における、1）病棟数、2）許可病床数、3）病床利用率[注2]、4）平均在院日数[注3]をそれぞれご記入ください。
「精神科救急入院料」「精神科急性期治療病棟入院料」「認知症治療病棟入院料」については（１・２）のどちらか該当する番号を○で囲んでください。
※該当病床がない場合は、病棟数と許可病床数には「0」、病床利用率と平均在院日数には「／」をご記入ください。

	平成 25 年 10 月				平成 26 年 10 月			
	1）病棟数	2）許可病床数	3）病床利用率[注2]	4）平均在院日数[注3]	1）病棟数	2）許可病床数	3）病床利用率	4）平均在院日数
精神病床	棟	床	%	日	棟	床	%	日
精神病棟入院基本料 特定機能病院入院基本料（精神病棟）	棟	床	%	日	棟	床	%	日
精神科救急入院料 （１・２）※どちらかに○	棟	床	%	日	棟	床	%	日
精神科救急・合併症入院料	棟	床	%	日	棟	床	%	日
精神科急性期治療病棟入院料 （１・２）※どちらかに○	棟	床	%	日	棟	床	%	日
児童・思春期精神科入院医療管理料	棟	床	%	日	棟	床	%	日
精神療養病棟入院料	棟	床	%	日	棟	床	%	日
認知症治療病棟入院料 （１・２）※どちらかに○	棟	床	%	日	棟	床	%	日
その他の精神科病棟	棟	床			棟	床		
一般病床	棟	床	%	日	棟	床	%	日
療養病床	棟	床			棟	床		
結核病床	棟	床			棟	床		
感染症病床	棟	床			棟	床		
病院全体	棟	床	%	日	棟	床	%	日

注 2. 病床利用率は平成 25 年 8 月～10 月、平成 26 年 8 月～10 月のそれぞれ 3 か月の病床利用率をご記入ください。なお、精神病床の内訳については、当該特定入院料の届出病床に入院した全ての患者（算定要件に該当しない患者を含む）をもとに算出してください。
病床利用率＝（8 月～10 月の在院患者延べ数）÷｛(月間日数×月末病床数）の 8 月～10 月の合計｝

注 3. 平均在院日数は平成 25 年 8 月～10 月、平成 26 年 8 月～10 月のそれぞれ 3 か月の平均在院日数をご記入ください。平均在院日数の計算式は、以下の通りです。
平均在院日数=（8 月～10 月の在院患者延べ在院日数）÷（8 月～10 月の在院患者延べ数）
また、転棟患者についても、在院患者数に含めて算出してください。
なお、精神病床の内訳については、当該特定入院料の届出病床に入院した全ての患者（算定要件に該当しない患者を含む）をもとに算出してください。　平均在院日数＝（8 月～10 月の在院患者延べ数）÷｛(8～10 月の新入院患者数＋8～10 月の退院患者数）×0.5)｝

2．貴施設の精神科の診療体制等についてお伺いします。

①**精神科の外来**を担当している医師数（常勤換算※）をご記入ください。　※平成 25 年 10 月末時点と平成 26 年 10 月末時点

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
1）外来を担当している医師数	人	人	人	人
2）上記 1）のうち、外来専従の医師数	人	人	人	人

※常勤換算については以下の方法で算出してください。常勤換算後の職員数は、小数点以下第 1 位までお答えください。

■1 週間に数回勤務の場合：(非常勤職員の 1 週間の勤務時間）÷（貴施設が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間）

■1 か月に数回勤務の場合：(非常勤職員の 1 か月の勤務時間）÷（貴施設が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間×4)

②**精神科の外来**を担当している医師が実際に**外来診療に従事**した時間[注1]の 1 週間の総合計時間をご記入ください。

	常勤	非常勤
平成 26 年 10 月 19 日～10 月 25 日	（　　）時間（　　）分／週	（　　）時間（　　）分／週

注 1．外来診療に従事した時間とは、実際に患者の診療を行った時間です。**精神科の外来を担当した医師全員の、外来患者の診療を行った時間の総合計時間**をご記入ください。

③精神科の外来を受診した患者数（初診＋再診延べ患者数）[注2]をご記入ください。 ※平成 26 年 10 月 19 日～10 月 25 日	人／週

注 2．1 週間における、精神科の標榜診療時間に外来受診した患者の延べ人数をご記入ください。

④**精神科病棟**に従事している職員数（常勤換算※）をお書きください。精神科病院の場合、**病棟勤務の職員数**をご記入ください。※平成 25 年 10 月末時点と平成 26 年 10 月末時点

	平成 25 年 10 月	平成 26 年 10 月
1）医師	人	人
（うち）精神保健指定医	人	人
（うち）精神科特定医師	人	人
（うち）上記以外の精神科医	人	人
（うち）内科医	人	人
（うち）外科医	人	人
2）看護師（保健師を含む）	人	人
（うち）精神看護専門看護師＊	人	人
（うち）認知症看護認定看護師＊	人	人
（うち）精神科認定看護師＊＊	人	人
3）准看護師	人	人
4）看護補助者	人	人
5）薬剤師	人	人
6）作業療法士	人	人
7）臨床心理技術者	人	人
8）精神保健福祉士	人	人
9）社会福祉士（上記 8）を除く）	人	人
10）事務職員（精神科病棟専従者に限る）	人	人
11）その他の職員（精神科病棟専従者に限る）	人	人
12）精神科病棟職員数合計	人	人

※常勤換算については以下の方法で算出してください。常勤換算後の職員数は、小数点以下第 1 位までお答えください。

■1 週間に数回勤務の場合：(非常勤職員の 1 週間の勤務時間）÷（貴施設が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間）

■1 か月に数回勤務の場合：(非常勤職員の 1 か月の勤務時間）÷（貴施設が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間×4)

＊日本看護協会の認定した者　　＊＊日本精神科看護協会の認定した者

⑤貴施設が平成 25 年 10 月末時点と平成 26 年 10 月末時点に届出を行っている**精神病棟の入院基本料**としてあてはまる番号に〇をつけてください。		
	平成 25 年 10 月	平成 26 年 10 月
1）精神病棟入院基本料	1. １０対１　2. １３対１ 3. １５対１　4. １８対１ 5. ２０対１　6. 特別 7. 届出なし	1. １０対１　2. １３対１ 3. １５対１　4. １８対１ 5. ２０対１　6. 特別 7. 届出なし
2）【特定機能病院のみ】 特定機能病院入院基本料 （精神病棟）	1. ７対１　2. １０対１ 3. １３対１　4. １５対１ 5. 届出なし	1. ７対１　2. １０対１ 3. １３対１　4. １５対１ 5. 届出なし

３．精神医療・認知症医療の実施状況等についてお伺いします。

①次の施設基準等について「届出があるもの」の該当数字を〇で囲んでください。また、届出がある場合、「届出時期」についてお答えください。

	届出のあるもの	届出時期　※初回の届出
1）精神病棟入院時医学管理加算	1	平成（　　）年（　　）月
2）精神科地域移行実施加算	2	平成（　　）年（　　）月
3）精神科身体合併症管理加算	3	平成（　　）年（　　）月
4）精神科リエゾンチーム加算	4	平成（　　）年（　　）月
5）精神科救急搬送患者地域連携紹介加算	5	平成（　　）年（　　）月
6）精神科救急搬送患者地域連携受入加算	6	平成（　　）年（　　）月
7）精神科救急入院料 1	7	平成（　　）年（　　）月
8）精神科救急入院料 2	8	平成（　　）年（　　）月
9）精神科急性期治療病棟入院料 1	9	平成（　　）年（　　）月
10）精神科急性期治療病棟入院料 2	10	平成（　　）年（　　）月
11）精神科救急・合併症入院料	11	平成（　　）年（　　）月
12）児童・思春期精神科入院医療管理料	12	平成（　　）年（　　）月
13）精神療養病棟入院料	13	平成（　　）年（　　）月
14）精神療養病棟入院料　重症者加算 1	14	平成（　　）年（　　）月
15）精神療養病棟入院料　退院調整加算	15	平成（　　）年（　　）月
16）認知症治療病棟入院料 1	16	平成（　　）年（　　）月
17）認知症治療病棟入院料 2	17	平成（　　）年（　　）月
18）認知症治療病棟入院料　退院調整加算	18	平成（　　）年（　　）月
19）認知症治療病棟入院料　認知症夜間対応加算	19	平成（　　）年（　　）月
20）認知症患者リハビリテーション料	20	平成２６年（　　）月
21）精神病棟入院基本料　重度認知症加算 ※特定機能病院入院基本料（精神病棟）	21	平成（　　）年（　　）月
22）精神科ショート・ケア　小規模なもの	22	平成（　　）年（　　）月
23）精神科ショート・ケア　大規模なもの	23	平成（　　）年（　　）月
24）精神科デイ・ケア　小規模なもの	24	平成（　　）年（　　）月
25）精神科デイ・ケア　大規模なもの	25	平成（　　）年（　　）月
26）精神科ナイト・ケア	26	平成（　　）年（　　）月
27）精神科デイ・ナイト・ケア	27	平成（　　）年（　　）月
28）重度認知症患者デイ・ケア料	28	平成（　　）年（　　）月
29）重度認知症患者デイ・ケア料夜間加算	29	平成（　　）年（　　）月

【4 ページ ①の 4)「精神科リエゾンチーム加算」の届出をしていない施設の方】
②貴施設では、精神科リエゾンチーム加算の施設基準の届出をしないのはなぜですか。※あてはまる番号すべてに○

1. 対象となる患者がいないため（一般病床がない場合も含む）
2. 「５年以上の勤務経験を有する専任の精神科の医師」を確保することができないため
3. 「精神科等の経験を５年以上有する、所定の研修を修了した専任の常勤看護師」を確保することができないため
4. 医師、看護師以外のチームを構成する専門職（薬剤師・作業療法士・精神保健福祉士・臨床心理技術者）を確保することができないため
5. 経営上のインセンティブがないため
6. その他（具体的に　　）

②-1　上記②でお選びになった理由のうち、最も大きな理由としてあてはまる番号を１つだけご記入ください。	

【全ての施設の方】
③貴施設には、**「精神科救急入院料」、「精神科救急・合併症入院料」、「精神科急性期治療病棟入院料」**のいずれか 1 つでも施設基準の届出をしている病棟がありますか。　※○は１つだけ

1. ある　→質問③-1 へ
2. ない　→質問④へ

③－1 施設基準の中で、貴施設にとって最も厳しいと考える要件は何ですか。　※○は１つだけ

1. 病棟配置の医師に関わる要件（具体的に　　）
2. 日勤帯以外の時間帯における看護職員数
3. 常勤の精神保健福祉士の配置
4. 個室の占める割合及び隔離室の確保
5. 必要な検査及びＣＴ撮影が必要に応じて速やかに実施できる体制であること
6. 延べ入院日数のうち４割以上が新規患者であること
7. 新規入院患者のうち３か月以内に在宅へ移行する割合
8. 全ての入院形式の患者の受入
9. 精神疾患に係る時間外・休日・深夜における診療件数
10. 精神疾患に係る時間外・休日・深夜における入院件数
11. 新規患者における措置入院、緊急措置入院、医療保護入院、応急入院、医療観察法入院の割合
12. その他（具体的に　　）

【4 ページ①の 12)「児童・思春期精神科入院医療管理料」の届出をしている施設の方】
④「児童・思春期精神科入院医療管理料」の施設基準の中で、改善が必要と思われる要件がありますか。※○は１つだけ

1. ある　　2. ない→６ページの質問⑤へ

④－1 最も改善が必要な要件は何ですか。※○は１つだけ

1. 児童・思春期精神医療の経験を有する常勤医師２名以上（うち１名は精神保健指定医）
2. 保護者、学校関係者等に対する面接相談等
3. 直近１か月間の入院患者数の概ね８割以上が２０歳未満の精神疾患患者
4. その他（具体的に　　）

【4 ページ①の 20)「認知症患者リハビリテーション料」の**届出をしている**施設の方】
⑤「認知症患者リハビリテーション料」を実施している職員の体制について職種別の実人数をご記入ください。

	常　勤		非常勤	
	専　従注	専　任注	専　従	専　任
1）医師	人	人	人	人
認知症患者の診療の経験を 5 年以上有する医師	人	人	人	人
認知症患者のリハビリテーションに関し適切な研修を修了した医師	人	人	人	人
2）理学療法士	人	人	人	人
3）作業療法士	人	人	人	人
4）言語聴覚士	人	人	人	人
5）その他	人	人	人	人

注．専従とは、原則として当該部署の業務のみに従事することをいいます。
　　専任とは、当該部署での業務とその他の部署等での業務を兼務していることをいいます。

【認知症治療病棟入院料の届出をしている、または認知症疾患医療センターの指定を受けている施設であるが、「認知症患者リハビリテーション料」の届出をしていない施設の方】
⑥今後、貴施設では、「認知症患者リハビリテーション料」の施設基準の届出を行う意向がありますか。※○は１つだけ

1．ない　　2．ある→質問⑦へ

⑥－1 届出をしないのはなぜですか。具体的にお書きください。

⑦次の精神医療に関する各診療報酬項目の算定患者数と算定回数をご記入ください。

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	算定患者数	算定回数	算定患者数	算定回数
1）精神科身体合併症管理加算１　７日以内（450 点）	人		人	
2）精神科身体合併症管理加算２　８日以上１０日以内（225 点）			人	
3）精神病棟入院基本料・特定機能病院入院基本料（精神病棟）　重度認知症加算（300 点）	人		人	
4）認知症患者リハビリテーション料（240 点）			人	
5）通院精神療法　イ　（600 点）	人	回	人	回
6）通院精神療法　ロ (1)30 分以上の場合（400 点）	人	回	人	回
7）通院精神療法　ロ (2)30 分未満の場合（330 点）	人	回	人	回
8）通院精神療法　20 歳未満加算（350 点）	人	回	人	回
9）通院精神療法　特定薬剤副作用評価加算（25 点）	人	回	人	回
10）在宅精神療法　イ　（600 点）	人	回	人	回
11）在宅精神療法　ロ　（540 点）			人	回
12）在宅精神療法　ハ (1)30 分以上の場合（400 点）	人	回	人	回
13）在宅精神療法　ハ (2)30 分未満の場合（330 点）	人	回	人	回
14）在宅精神療法　20 歳未満加算（350 点）	人	回	人	回
15）在宅精神療法　特定薬剤副作用評価加算（25 点）	人	回	人	回

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	算定患者数	算定回数	算定患者数	算定回数
16）心身医学療法　入院中の患者（150 点）	人	回	人	回
20 歳未満加算	人	回	人	回
17）心身医学療法　イ 初診時（110 点）	人	回	人	回
20 歳未満加算	人	回	人	回
18）心身医学療法　ロ 再診時（80 点）	人	回	人	回
20 歳未満加算	人	回	人	回
19）精神科継続外来支援・指導料（55 点）	人	回	人	回
療養生活環境整備支援加算（40 点）	人	回	人	回
特定薬剤副作用評価加算（25 点）	人	回	人	回
20）精神科ショート・ケア　小規模なもの	人	回	人	回
21）精神科ショート・ケア　大規模なもの	人	回	人	回
22）精神科デイ・ケア　小規模なもの	人	回	人	回
23）精神科デイ・ケア　大規模なもの	人	回	人	回
24）精神科ナイト・ケア	人	回	人	回
25）精神科デイ・ナイト・ケア	人	回	人	回
26）精神科退院指導料	人		人	
27）精神科退院前訪問指導料	人	回	人	回
28）精神科訪問看護指示料	人		人	

（　）の診療報酬点数は平成 26 年度

⑧貴施設における精神科の外来患者数についてご記入ください。※平成 26 年 10 月 1 か月間	
1）外来患者数（初診＋再診延べ患者数）	人
2）上記 1）のうち、精神科薬物療法を行った患者数（延べ患者数）	人
3）上記 2）のうち、処方せん料（30 点）・処方料（20 点）を算定した患者数（延べ患者数）	人

⑨適切な向精神薬の使用推進を図る上での課題があれば、できるだけ具体的にお書きください。

４．精神疾患をもつ患者の地域移行と地域定着に向けた取組についてお伺いします。

（１）精神科訪問看護の状況についてお伺いします。

①貴施設では精神科訪問看護を行っていますか。	1. 行っている　　2. 行っていない→9ページの（2）へ
②精神科訪問看護を開始した時期	平成（　　）年（　　）月

③精神科訪問看護に携わる職員数（常勤換算*）をお答えください。

	保健師・看護師	准看護師	作業療法士	精神保健福祉士	看護補助者
平成 25 年 10 月	.	.	.	.	.
平成 26 年 10 月	.	.	.	.	.

＊非常勤職員・兼務職員の「常勤換算」は以下の方法で計算してください。（小数点以下第１位まで）

■1 週間に数回勤務の場合：(非常勤職員の 1 週間の勤務時間）÷（貴施設が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間）

■1 か月に数回勤務の場合：(非常勤職員の 1 か月の勤務時間）÷（貴施設が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間×4）

④24 時間対応体制加算・連絡体制加算の届出（医療保険）の有無　※○は１つ	1. 24 時間対応体制加算　2. 24 時間連絡体制加算　3. なし
⑤平成 26 年 10 月 1 か月間の精神科訪問看護利用者数（実人数）	人
⑥上記⑤のうち、新規の利用者数（実人数）	人
⑦上記⑥のうち、退院当日に訪問看護を実施した利用者数（実人数）	人

⑧上記⑤の精神科訪問看護利用者数について、平成 26 年 10 月 1 か月間に訪問した日数別に利用者数（実人数）をお答えください。

５日以内	６～１２日	１３～１５日	１６～２０日	２１～２５日	２６日以上
人	人	人	人	人	人

		30 分未満	30 分以上	合計
⑨平成 26 年 10 月 1 か月間の精神科訪問看護の時間区分ごとの**算定利用者数（人）**と**算定回数（回）**	精神科訪問看護・指導料（Ⅰ）	人 回	人 回	人 回
	精神科訪問看護・指導料（Ⅲ）（同一建物居住者）	人 回	人 回	人 回

⑩精神科訪問看護・指導料（Ⅱ）について、1）施設への訪問延べ日数、2）対象としている利用者数（対象人員）、3）算定回数（合計）をご記入ください。　※平成 26 年 10 月 1 か月間

1）施設への訪問延べ日数	2）対象人員	3）算定回数（合計）
日	人	回

⑪精神科訪問看護・指導料の加算を算定した利用者数と算定回数をご記入ください。※平成 26 年 10 月 1 か月間

	1）長時間精神科訪問看護・指導加算	2）夜間・早朝訪問看護加算	3）深夜訪問看護加算	4）精神科緊急訪問看護加算
算定利用者数	人	人	人	人
算定回数	回	回	回	回

⑫精神科訪問看護の利用者のうち、1 日に複数回の訪問看護を行った利用者数（実人数）※加算の有無は問いません	平成 25 年 10 月	人
	平成 26 年 10 月	人

		1）算定利用者数	2）算定回数
⑬平成 26 年 10 月における精神科訪問看護の利用者（上記⑤の利用者数）のうち、精神科複数回訪問加算を算定した利用者数と算定回数	１日に２回	人	回
	１日３回以上	人	回

（２）精神科重症患者早期集中支援管理料についてお伺いします。

①貴施設では、「精神科重症患者早期集中支援管理料」の施設基準の届出を行っていますか。※○は１つだけ

1. 届出あり　　2. 届出なし→質問⑤へ

②「精神科重症患者早期集中支援管理料」を実施する上で、連携する訪問看護ステーションがありますか。※○は１つだけ

1. ある→連携事業所（a. 特別の関係[注1]にあるもの　b.それ以外）　　2. ない

注 1.「特別の関係」とは、①開設者が同一、②代表者が同一、③代表者同士が親族等、④役員等のうち他の保険医療機関の役員等の親族等が 3 割超、⑤人事、資金等の関係により互いに重要な影響を与えうる場合をいいます。

③「精神科重症患者早期集中支援管理料」を実施している職員の体制（貴施設のみ）について職種別の実人数をご記入ください。

	常勤		非常勤	
	専　従[注2]	専　任[注2]	専　従	専　任
1）医師	人	人	人	人
【再掲】精神保健指定医	人	人	人	人
2）看護師（保健師含む）	人	人	人	人
3）作業療法士	人	人	人	人
4）精神保健福祉士	人	人	人	人
5）その他	人	人	人	人

注 2. 専従とは、原則として当該部署の業務のみに従事することをいいます。
専任とは、当該部署での業務とその他の部署等での業務を兼務していることをいいます。

④「精神科重症患者早期集中支援管理料」を算定した患者数をご記入ください。　※平成 26 年 10 月 1 か月間

	同一建物居住者以外	同一建物居住者	
		特定施設等	特定施設以外
1）精神科重症患者早期集中支援管理料１	人	人	人
2）精神科重症患者早期集中支援管理料２	人	人	人

→１０ページの質問５．へ

【届出のない施設の方】
⑤貴施設が「精神科重症患者早期集中支援管理料」の施設基準の届出を行っていないのはなぜですか。
※あてはまる番号すべてに○

1. 専任のチームを構成する人員が不足しているため
　→不足している人材：（a. 精神保健指定医　b. 看護師・保健師　c. 精神保健福祉士　d. 作業療法士）
2. 専従者１人を配置することが経営上難しいため
3. 多職種会議を週１回以上開催することが難しいため
4. 月１回以上保健所または精神保健福祉センター等と多職種会議を開催することが難しいため
5. 訪問診療を実施していないため
6. 訪問診療を実施しているが、２４時間往診体制を確保できないため
7. ２４時間連絡対応が可能な体制を確保できないため
8. ２４時間の看護師・保健師による精神科訪問看護が可能な体制を確保できないため（連携も含めて）
9. 地域の精神科救急医療体制整備事業に参加していないため
10. 算定可能な対象患者が少ないため
11. 経営上のインセンティブがないため
12. その他（具体的に　　）

⑤-1　上記⑤でお選びになった理由のうち、最も大きな理由としてあてはまる番号を１つだけご記入ください。

【届出のない施設の方】
⑥貴施設では、「精神科重症患者早期集中支援管理料」の施設基準の届出意向がありますか。※○は１つだけ

1. ある	2. ない

５．精神疾患を有する患者の地域移行と地域定着を推進するため、今後、どのような取組が必要とお考えになりますか。

施設票の質問は以上です。ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

平成２６年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成２６年度調査）

精神医療の実施状況調査　精神病棟入院基本料病棟票

※本調査票は、精神病棟入院基本料を算定している施設の方にお伺いするものです。当該病棟のない施設の方は本調査票にご回答いただく必要はございません。

１．精神病棟入院基本料病棟（精神病棟入院基本料のみを算定している病棟）の患者についてお伺いします。

① 平成 25 年 10 月末、平成 26 年 10 月末時点に貴施設の**精神病棟入院基本料病棟に在院している全ての患者**について、年齢階級、主たる疾患、ＧＡＦ尺度のスコア、向精神薬使用数、在院期間別にそれぞれ該当する人数をご記入ください。なお、年齢階級別①～⑤の合計、主たる疾患別①～⑫の合計、ＧＡＦ尺度のスコア別①～⑫の合計、在院期間別①～⑧の合計は、「3）精神病棟入院基本料病棟の在院患者数」と同じ数値になるようにしてください。

			平成 25 年 10 月	平成 26 年 10 月
1）精神病棟入院基本料病棟数			棟	棟
2）精神病棟入院基本料病床数			床	床
3）精神病棟入院基本料病棟の在院患者数			人	人
	年齢階級別	① 20 歳未満	人	人
		② 20 歳以上 40 歳未満	人	人
		③ 40 歳以上 65 歳未満	人	人
		④ 65 歳以上 75 歳未満	人	人
		⑤ 75 歳以上	人	人
	主たる疾患別注1	① 症状性を含む器質性精神障害	人	人
		② 精神作用物質による精神及び行動の障害	人	人
		③ 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	人	人
		④ 気分［感情］障害	人	人
		⑤ 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	人	人
		⑥ 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	人	人
		⑦ 成人の人格及び行動の障害	人	人
		⑧ 知的障害（精神遅滞）	人	人
		⑨ 心理的発達の障害	人	人
		⑩ 小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害	人	人
		⑪ 詳細不明の精神障害	人	人
		⑫ その他	人	人
	ＧＡＦ尺度のスコア別	① 91～100	人	人
		② 81～90	人	人
		③ 71～80	人	人
		④ 61～70	人	人
		⑤ 51～60	人	人
		⑥ 41～50	人	人
		⑦ 31～40	人	人
		⑧ 21～30	人	人
		⑨ 11～20	人	人
		⑩ 1～10	人	人
		⑪ 0	人	人
		⑫ 不明	人	人
	向精神薬使用数	主傷病に対して薬物療法を受けている患者数	人	人
		① 1 種	人	人
		② 2 種	人	人
		③ 3 種	人	人
		④ 4 種	人	人
		⑤ 5 種以上	人	人

在院期間別注2	① 1か月未満	人	人
	② 1か月以上3か月未満	人	人
	③ 3か月以上6か月未満	人	人
	④ 6か月以上1年未満	人	人
	⑤ 1年以上5年未満	人	人
	⑥ 5年以上10年未満	人	人
	⑦ 10年以上20年未満	人	人
	⑧ 20年以上	人	人
	【再掲】平成26年4月1日移行に当該病棟に入院した患者数		人

注1．主たる疾患が複数の疾患に該当する場合には主たる1つに計上してご記入ください。また、ICD10 国際疾病分類第10版（2003年改訂）の「精神および行動の障害」によるものとします。

注2．在院期間は、過去に入院形態の変更があったとしても、入院が継続している場合は1回の在院期間として扱うものとします。

②平成26年10月1か月間に**精神病棟入院基本料病棟**に入院した患者数をご記入ください。

1）精神病棟入院基本料算定病床における新規入院患者数	人
2）上記1）のうち、救急搬送・警察搬送患者数	人
3）上記1）のうち、緊急措置入院患者数	人
4）上記1）のうち、措置入院患者数	人
5）上記1）のうち、応急入院患者数	人
6）上記1）のうち、任意入院患者数	人

③平成26年10月1か月間に**精神病棟入院基本料病棟から**退院・転院した患者（転棟患者除く）についてそれぞれご記入ください。

	退院患者数	転院患者数
1）1か月間における精神病棟入院基本料病棟からの退院患者数と転院患者数（※転棟患者除く）	人	人
2）上記1）のうち、入院期間が1年以内の患者数	人	人
3）上記1）のうち、主たる疾患が「症状性を含む器質性精神障害」の患者数	人	人
4）上記1）のうち、主たる疾患が「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」の患者数	人	人

2．精神病棟入院基本料病棟（精神病棟入院基本料のみを算定している病棟）の体制等についてお伺いします。

①**精神病棟入院基本料病棟**に配置されている職員数（常勤換算※）をお書きください。

	平成25年10月		平成26年10月	
	専従	専任	専従	専任
1）医師	人	人	人	人
（うち）精神科医	人	人	人	人
2）看護師（保健師を含む）	人	人	人	人
3）准看護師	人	人	人	人
4）看護補助者	人	人	人	人
5）薬剤師	人	人	人	人
6）作業療法士	人	人	人	人
7）臨床心理技術者	人	人	人	人
8）精神保健福祉士	人	人	人	人
9）社会福祉士（上記8）を除く）	人	人	人	人
10）事務職員（精神療養病棟専従者に限る）	人	人	人	人
11）その他の職員	人	人	人	人

※常勤換算については以下の方法で算出してください。常勤換算後の職員数は、小数点以下第1位までお答えください。

■1週間に数回勤務の場合：（非常勤職員の1週間の勤務時間）÷（貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間）

■1か月に数回勤務の場合：（非常勤職員の1か月の勤務時間）÷（貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間×4）

②貴施設では、「**精神保健福祉士配置加算**」の施設基準の届出がありますか。※○は１つ

1. ある→**届出時期**：平成２６年（　　）月
2. ない

②-1「精神保健福祉士配置加算」の施設基準の届出をしていない最大の理由は何ですか。　※○は１つ

1. 在宅移行率の要件が満たせないため
2. 病棟に専従の常勤精神保健福祉士を確保することが困難であるため
3. 退院支援部署・地域移行推進室に常勤精神保健福祉士を配置することが困難であるため
4. その他（具体的に　　）

③精神病棟入院基本料病棟の入院患者が、地域へ移行する上で重要となる事業・サービス等は何ですか。※あてはまる番号すべてに○

1. 精神科外来
2. 精神科デイ・ケア
3. 訪問診療・往診
4. 訪問看護
5. グループホーム
6. 訪問介護
7. 包括型地域生活支援プログラム（ＡＣＴ）
8. ショートステイ
9. その他（具体的に　　）

④精神病棟入院基本料病棟に長期入院している患者を地域に移行させる上でどのような取組が有効と考えますか。

平成２６年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成２６年度調査）

精神医療の実施状況調査　精神療養病棟票

※本調査票は、精神療養病棟入院料を算定している施設の方にお伺いするものです。当該病棟のない施設の方は本調査票にご回答いただく必要はございません。

１．精神療養病棟（精神療養病棟入院料を算定している病棟）の患者についてお伺いします。

① 平成 25 年 10 月末、平成 26 年 10 月末時点に貴施設の**精神療養病棟に在院している全ての患者**について、年齢階級、主たる疾患、ＧＡＦ尺度のスコア、向精神薬使用数、在院期間別にそれぞれ該当する人数をご記入ください。
なお、年齢階級別①～⑤の合計、主たる疾患別①～⑫の合計、ＧＡＦ尺度のスコア別①～⑫の合計、在院期間別①～⑧の合計は、「3）精神療養病棟の在院患者数」と同じ数値になるようにしてください。

			平成 25 年 10 月	平成 26 年 10 月
1）精神療養病棟数			棟	棟
2）精神療養病床数			床	床
3）精神療養病棟の在院患者数			人	人
	年齢階級別	① 20 歳未満	人	人
		② 20 歳以上 40 歳未満	人	人
		③ 40 歳以上 65 歳未満	人	人
		④ 65 歳以上 75 歳未満	人	人
		⑤ 75 歳以上	人	人
	主たる疾患別注1	① 症状性を含む器質性精神障害	人	人
		② 精神作用物質による精神及び行動の障害	人	人
		③ 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	人	人
		④ 気分［感情］障害	人	人
		⑤ 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	人	人
		⑥ 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	人	人
		⑦ 成人の人格及び行動の障害	人	人
		⑧ 知的障害（精神遅滞）	人	人
		⑨ 心理的発達の障害	人	人
		⑩ 小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害	人	人
		⑪ 詳細不明の精神障害	人	人
		⑫ その他	人	人
	ＧＡＦ尺度のスコア別	① 91～100	人	人
		② 81～90	人	人
		③ 71～80	人	人
		④ 61～70	人	人
		⑤ 51～60	人	人
		⑥ 41～50	人	人
		⑦ 31～40	人	人
		⑧ 21～30	人	人
		⑨ 11～20	人	人
		⑩ 1～10	人	人
		⑪ 0	人	人
		⑫ 不明	人	人
	向精神薬使用数	主傷病に対して薬物療法を受けている患者数	人	人
		① 1 種	人	人
		② 2 種	人	人
		③ 3 種	人	人
		④ 4 種	人	人
		⑤ 5 種以上	人	人

	在院期間別注2	① 1か月未満	人	人
		② 1か月以上3か月未満	人	人
		③ 3か月以上6か月未満	人	人
		④ 6か月以上1年未満	人	人
		⑤ 1年以上5年未満	人	人
		⑥ 5年以上10年未満	人	人
		⑦ 10年以上20年未満	人	人
		⑧ 20年以上	人	人
		【再掲】平成26年4月1日移行に当該病棟に入院した患者数		人

注1．主たる疾患が複数の疾患に該当する場合には主たる1つに計上してご記入ください。また、ICD10 国際疾病分類第10版（2003年改訂）の「精神および行動の障害」によるものとします。

注2．在院期間は、過去に入院形態の変更があったとしても、入院が継続している場合は1回の在院期間として扱うものとします。

②平成26年10月1か月間に**精神療養病棟**に入院した患者数をご記入ください。	
1）精神療養病棟入院料算定病床における新規入院患者数	人
2）上記1）のうち、救急搬送・警察搬送患者数	人
3）上記1）のうち、緊急措置入院患者数	人
4）上記1）のうち、措置入院患者数	人
5）上記1）のうち、応急入院患者数	人
6）上記1）のうち、任意入院患者数	人

③平成26年10月1か月間に**精神療養病棟から**退院・転院した患者（転棟患者除く）についてそれぞれご記入ください。	退院患者数	転院患者数
1）1か月間における精神療養病棟からの退院患者数と転院患者数（※転棟患者除く）	人	人
2）上記1）のうち、入院期間が1年以内の患者数	人	人
3）上記1）のうち、主たる疾患が「症状性を含む器質性精神障害」の患者数	人	人
4）上記1）のうち、主たる疾患が「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」の患者数	人	人

2．精神療養病棟（精神療養病棟入院料を算定している病棟）の体制等についてお伺いします。

①**精神療養病棟**に配置されている職員数（常勤換算※）をお書きください。	平成25年10月		平成26年10月	
	専従	専任	専従	専任
1）医師	人	人	人	人
（うち）精神科医	人	人	人	人
2）看護師（保健師を含む）	人	人	人	人
3）准看護師	人	人	人	人
4）看護補助者	人	人	人	人
5）薬剤師	人	人	人	人
6）作業療法士	人	人	人	人
7）臨床心理技術者	人	人	人	人
8）精神保健福祉士	人	人	人	人
9）社会福祉士（上記8）を除く）	人	人	人	人
10）事務職員（精神療養病棟専従者に限る）	人	人	人	人
11）その他の職員	人	人	人	人

※常勤換算については以下の方法で算出してください。常勤換算後の職員数は、小数点以下第1位までお答えください。

■1週間に数回勤務の場合：（非常勤職員の1週間の勤務時間）÷（貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間）

■1か月に数回勤務の場合：（非常勤職員の1か月の勤務時間）÷（貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間×4）

②**精神療養病棟**における**退院支援相談員数**（実人数）をご記入ください。

	専従	専任
1）精神保健福祉士	人	人
2）その他の職員	人	人
3）合計	人	人

③患者１人あたりの１か月間における退院支援委員会の平均開催数	回／月

④貴施設では、「**精神保健福祉士配置加算**」の施設基準の届出がありますか。※○は１つ

1. ある→届出時期：平成２６年（　　）月
2. ない

④-1「精神保健福祉士配置加算」の施設基準の届出をしていない最大の理由は何ですか。　※○は１つ

1. 在宅移行率の要件が満たせないため
2. 病棟に専従の常勤精神保健福祉士を確保することが困難であるため
3. 退院支援部署・地域移行推進室に常勤精神保健福祉士を配置することが困難であるため
4. その他（具体的に　　）

⑤精神療養病棟入院患者が地域へ移行する上で重要となる事業・サービス等は何ですか。※あてはまる番号すべてに○

1. 精神科外来
2. 精神科デイ・ケア
3. 訪問診療・往診
4. 訪問看護
5. グループホーム
6. 訪問介護
7. 包括型地域生活支援プログラム（ＡＣＴ）
8. ショートステイ
9. その他（具体的に　　）

⑥精神療養病棟に長期入院している患者を地域に移行させる上でどのような取組が有効と考えますか。

平成２６年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成２６年度調査）

精神医療の実施状況調査 精神科救急入院料病棟票

※本調査票は、精神科救急入院料を算定している施設の方にお伺いするものです。当該病棟のない施設の方は本調査票にご回答いただく必要はございません。

１．精神科救急入院料算定病棟の患者についてお伺いします。

①平成 25 年 10 月末、平成 26 年 10 月末時点に貴施設の**精神科救急入院料算定病棟に在院している全ての患者**について、年齢階級、主たる疾患、在院期間、ＧＡＦ尺度のスコア、向精神薬使用数別にそれぞれ該当する人数をご記入ください。なお、年齢階級別①～⑤の合計、主たる疾患別①～⑫の合計、在院期間別①～⑧の合計、ＧＡＦ尺度のスコア別①～⑫の合計は、「3）精神科救急入院料算定病棟の在院患者数」と同じ数値になるようにしてください。

			平成 25 年 10 月	平成 26 年 10 月
1）精神科救急入院料算定病棟数			棟	棟
2）精神科救急入院料算定病床数			床	床
3）精神科救急入院料算定病棟の在院患者数			人	人
	年齢階級別	① 20 歳未満	人	人
		② 20 歳以上 40 歳未満	人	人
		③ 40 歳以上 65 歳未満	人	人
		④ 65 歳以上 75 歳未満	人	人
		⑤ 75 歳以上	人	人
	主たる疾患別注1	① 症状性を含む器質性精神障害	人	人
		② 精神作用物質による精神及び行動の障害	人	人
		③ 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	人	人
		④ 気分［感情］障害	人	人
		⑤ 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	人	人
		⑥ 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	人	人
		⑦ 成人の人格及び行動の障害	人	人
		⑧ 知的障害（精神遅滞）	人	人
		⑨ 心理的発達の障害	人	人
		⑩ 小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害	人	人
		⑪ 詳細不明の精神障害	人	人
		⑫ その他	人	人
	在院期間別注2	① 1 か月未満	人	人
		② 1 か月以上 3 か月未満	人	人
		③ 3 か月以上 6 か月未満	人	人
		④ 6 か月以上 1 年未満	人	人
		⑤ 1 年以上 5 年未満	人	人
		⑥ 5 年以上 10 年未満	人	人
		⑦ 10 年以上 20 年未満	人	人
		⑧ 20 年以上	人	人
	ＧＡＦ尺度のスコア別	① 91～100	人	人
		② 81～90	人	人
		③ 71～80	人	人
		④ 61～70	人	人
		⑤ 51～60	人	人
		⑥ 41～50	人	人
		⑦ 31～40	人	人
		⑧ 21～30	人	人
		⑨ 11～20	人	人
		⑩ 1～10	人	人
		⑪ 0 点	人	人
		⑫ 不明	人	人

	向精神薬使用数	主傷病に対して薬物療法を受けている患者数	人	人
		① 1種	人	人
		② 2種	人	人
		③ 3種	人	人
		④ 4種	人	人
		⑤ 5種以上	人	人

注１．主たる疾患が複数の疾患に該当する場合には主たる１つに計上してご記入ください。また、ICD10 国際疾病分類第 10 版（2003 年改訂）の「精神および行動の障害」によるものとします。
注２．在院期間は、過去に入院形態の変更があったとしても、入院が継続している場合は１回の在院期間として扱うものとします。

②平成 25 年 10 月及び平成 26 年 10 月の各 1 か月間について、次の患者数等をご記入ください。		
	平成 25 年 10 月	平成 26 年 10 月
1）精神科救急入院料算定病床における新規入院患者数	人	人
（うち）救急搬送・警察搬送患者数	人	人
（うち）緊急措置入院患者数	人	人
（うち）措置入院患者数	人	人
（うち）応急入院患者数	人	人
（うち）他の精神科病院からの転院患者数	人	人
（うち）他の一般病院からの転院患者数	人	人
（うち）身体合併症の治療のために、救命救急センター等の他院の一般病床に入院していたが、治療を終えて、貴施設に再入院となった患者数	人	人
（うち）自院の一般病床からの転棟患者数	人	人
（うち）院内標準診療計画書を策定した患者数		人
2）各１か月間に当該病床から退院・転院・転棟した患者数	人	人
（うち）自宅退院患者数（障害者施設等含む）	人	人
（うち）自院の他の精神病床に転棟した患者数	人	人
（うち）自院の他の一般病床に転棟した患者数	人	人
（うち）他院の精神病床に転院した患者数	人	人
（うち）連携の取り決めのある医療機関への転院患者数	人	人
（うち）他院の一般病床に転院した患者数	人	人
（うち）入院期間が１年以内の患者数	人	人
（うち）認知症の患者数	人	人
（うち）統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害の患者数	人	人
（うち）気分［感情］障害の患者数	人	人
（うち）院内標準診療計画加算を算定した患者数		人
（うち）精神科身体合併症管理加算を算定したことがある患者数		人
精神科身体合併症管理加算を算定したことがある患者の平均在院日数		日

２．精神科救急入院料算定病棟の職員の体制についてお伺いします。

①精神科救急入院料算定病棟に配置されている職員数（常勤換算）をお書きください。※小数点以下第１位まで				
	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	専従	専任	専従	専任
1）医師	人	人	人	人
（うち）精神科医	人	人	人	人
2）看護師（保健師を含む）	人	人	人	人
3）准看護師	人	人	人	人
4）看護補助者	人	人	人	人
5）薬剤師	人	人	人	人
6）作業療法士	人	人	人	人
7）臨床心理技術者	人	人	人	人
8）精神保健福祉士	人	人	人	人
9）社会福祉士（上記 8）を除く）	人	人	人	人
10）事務職員（精神科救急入院料算定病棟専従者に限る）	人	人	人	人
11）その他の職員	人	人	人	人

平成２６年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成２６年度調査）

精神医療の実施状況調査 精神科救急・合併症入院料病棟票

※本調査票は、精神科救急・合併症入院料を算定している施設の方にお伺いするものです。当該病棟のない施設の方は本調査票にご回答いただく必要はございません。

１．精神科救急・合併症入院料算定病棟の患者についてお伺いします。

①平成 25 年 10 月末、平成 26 年 10 月末時点に貴施設の**精神科救急・合併症入院料算定病棟に在院している全ての患者**について、年齢階級、主たる疾患、在院期間、ＧＡＦ尺度のスコア、向精神薬使用数別にそれぞれ該当する人数をご記入ください。なお、年齢階級別①～⑤の合計、主たる疾患別①～⑫の合計、在院期間別①～⑧の合計、ＧＡＦ尺度のスコア別①～⑫の合計は、「3）精神科救急・合併症入院料算定病棟の在院患者数」と同じ数値になるようにしてください。

			平成 25 年 10 月	平成 26 年 10 月
1）精神科救急・合併症入院料算定病棟数			棟	棟
2）精神科救急・合併症入院料算定病床数			床	床
3）精神科救急・合併症入院料算定病棟の在院患者数			人	人
	年齢階級別	① 20 歳未満	人	人
		② 20 歳以上 40 歳未満	人	人
		③ 40 歳以上 65 歳未満	人	人
		④ 65 歳以上 75 歳未満	人	人
		⑤ 75 歳以上	人	人
	主たる疾患別注1	① 症状性を含む器質性精神障害	人	人
		② 精神作用物質による精神及び行動の障害	人	人
		③ 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	人	人
		④ 気分［感情］障害	人	人
		⑤ 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	人	人
		⑥ 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	人	人
		⑦ 成人の人格及び行動の障害	人	人
		⑧ 知的障害（精神遅滞）	人	人
		⑨ 心理的発達の障害	人	人
		⑩ 小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害	人	人
		⑪ 詳細不明の精神障害	人	人
		⑫ その他	人	人
	在院期間別注2	① 1 か月未満	人	人
		② 1 か月以上 3 か月未満	人	人
		③ 3 か月以上 6 か月未満	人	人
		④ 6 か月以上 1 年未満	人	人
		⑤ 1 年以上 5 年未満	人	人
		⑥ 5 年以上 10 年未満	人	人
		⑦ 10 年以上 20 年未満	人	人
		⑧ 20 年以上	人	人
	ＧＡＦ尺度のスコア別	① 91～100	人	人
		② 81～90	人	人
		③ 71～80	人	人
		④ 61～70	人	人
		⑤ 51～60	人	人
		⑥ 41～50	人	人
		⑦ 31～40	人	人
		⑧ 21～30	人	人
		⑨ 11～20	人	人
		⑩ 1～10	人	人
		⑪ 0 点	人	人
		⑫ 不明	人	人

	向精神薬使用数	主傷病に対して薬物療法を受けている患者数	人	人
		① 1種	人	人
		② 2種	人	人
		③ 3種	人	人
		④ 4種	人	人
		⑤ 5種以上	人	人

注１．主たる疾患が複数の疾患に該当する場合には主たる１つに計上してご記入ください。また、ICD10 国際疾病分類第 10 版（2003 年改訂）の「精神および行動の障害」によるものとします。

注２．在院期間は、過去に入院形態の変更があったとしても、入院が継続している場合は１回の在院期間として扱うものとします。

②平成 25 年 10 月及び平成 26 年 10 月の各 1 か月間について、次の患者数をご記入ください。

	平成 25 年 10 月	平成 26 年 10 月
1）精神科救急・合併症入院料算定病床における新規入院患者数	人	人
（うち）救急搬送・警察搬送患者数	人	人
（うち）緊急措置入院患者数	人	人
（うち）措置入院患者数	人	人
（うち）応急入院患者数	人	人
（うち）精神科単科病院からの転院してきた身体合併症患者数	人	人
（うち）精神科救急・合併症入院料を算定した後に、手術等により一時期 ICU 等で治療を受け、再入棟した患者数	人	人
（うち）特定集中治療室管理料算定病床から再入院した患者数	人	人
（うち）ハイケアユニット入院医療管理料算定病床から再入院した患者数	人	人
（うち）脳卒中ケアユニット入院医療管理料算定病床から再入院した患者数	人	人
（うち）小児特定集中治療管理料算定病床から再入院した患者数	人	人
（うち）総合周産期特定集中治療室管理料算定病床から再入院した患者数	人	人
（うち）自院の一般病床からの転棟患者数	人	人
（うち）院内標準診療計画書を策定した患者数		人
2）各１か月間に当該病床から退院・転院・転棟した患者数	人	人
（うち）自宅退院患者数（障害者施設等含む）	人	人
（うち）自院の他の精神病床に転棟した患者数	人	人
（うち）自院の他の一般病床に転棟した患者数	人	人
（うち）他院の精神病床に転院した患者数	人	人
（うち）連携の取り決めのある医療機関への転院患者数	人	人
（うち）他院の一般病床に転院した患者数	人	人
（うち）入院期間が 1 年以内の患者数	人	人
（うち）認知症の患者数	人	人
（うち）統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害の患者数	人	人
（うち）気分［感情］障害の患者数	人	人
（うち）院内標準診療計画加算を算定した患者数		人

２．精神科救急・合併症入院料算定病棟の職員の体制についてお伺いします。

①**精神科救急・合併症入院料算定病棟**に配置されている職員数（常勤換算）をお書きください。※小数点以下第 1 位まで

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	専従	専任	専従	専任
1）医師	人	人	人	人
（うち）精神科医	人	人	人	人
2）看護師（保健師を含む）	人	人	人	人
3）准看護師	人	人	人	人
4）看護補助者	人	人	人	人
5）薬剤師	人	人	人	人
6）作業療法士	人	人	人	人
7）臨床心理技術者	人	人	人	人
8）精神保健福祉士	人	人	人	人
9）社会福祉士（上記 8）を除く）	人	人	人	人
10）事務職員（精神科救急・合併症入院料算定病棟専従者に限る）	人	人	人	人
11）その他の職員	人	人	人	人

平成２６年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成２６年度調査）

精神医療の実施状況調査 精神科急性期治療病棟入院料病棟票

※本調査票は、精神科急性期治療病棟入院料を算定している施設の方にお伺いするものです。当該病棟のない施設の方は本調査票にご回答いただく必要はございません。

１．精神科急性期治療病棟入院料算定病棟の患者についてお伺いします。

①平成 25 年 10 月末、平成 26 年 10 月末時点に貴施設の**精神科急性期治療病棟入院料算定病棟に在院している全ての患者**について、年齢階級、主たる疾患、在院期間、ＧＡＦ尺度のスコア、向精神薬使用数別にそれぞれ該当する人数をご記入ください。なお、年齢階級別①～⑤の合計、主たる疾患別①～⑫の合計、在院期間別①～⑧の合計、ＧＡＦ尺度のスコア別①～⑫の合計は、「3）精神科急性期治療病棟入院料算定病棟の在院患者数」と同じ数値になるようにしてください。

		平成 25 年 10 月	平成 26 年 10 月
1）精神科急性期治療病棟入院料算定病棟数		棟	棟
2）精神科急性期治療病棟入院料算定病床数		床	床
3）精神科急性期治療病棟入院料算定病棟の在院患者数		人	人
年齢階級別	① 20 歳未満	人	人
	② 20 歳以上 40 歳未満	人	人
	③ 40 歳以上 65 歳未満	人	人
	④ 65 歳以上 75 歳未満	人	人
	⑤ 75 歳以上	人	人
主たる疾患別注1	① 症状性を含む器質性精神障害	人	人
	② 精神作用物質による精神及び行動の障害	人	人
	③ 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	人	人
	④ 気分［感情］障害	人	人
	⑤ 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	人	人
	⑥ 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	人	人
	⑦ 成人の人格及び行動の障害	人	人
	⑧ 知的障害（精神遅滞）	人	人
	⑨ 心理的発達の障害	人	人
	⑩ 小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害	人	人
	⑪ 詳細不明の精神障害	人	人
	⑫ その他	人	人
在院期間別注2	① 1 か月未満	人	人
	② 1 か月以上 3 か月未満	人	人
	③ 3 か月以上 6 か月未満	人	人
	④ 6 か月以上 1 年未満	人	人
	⑤ 1 年以上 5 年未満	人	人
	⑥ 5 年以上 10 年未満	人	人
	⑦ 10 年以上 20 年未満	人	人
	⑧20 年以上	人	人
ＧＡＦ尺度のスコア別	① 91～100	人	人
	② 81～90	人	人
	③ 71～80	人	人
	④ 61～70	人	人
	⑤ 51～60	人	人
	⑥ 41～50	人	人
	⑦ 31～40	人	人
	⑧ 21～30	人	人
	⑨ 11～20	人	人
	⑩ 1～10	人	人
	⑪ 0	人	人
	⑫ 不明	人	人

向精神薬使用数	主傷病に対して薬物療法を受けている患者数	人	人
	① 1種	人	人
	② 2種	人	人
	③ 3種	人	人
	④ 4種	人	人
	⑤ 5種以上	人	人

注１．主たる疾患が複数の疾患に該当する場合には主たる１つに計上してご記入ください。また、ICD10 国際疾病分類第 10 版（2003 年改訂）の「精神および行動の障害」によるものとします。

注２．在院期間は、過去に入院形態の変更があったとしても、入院が継続している場合は１回の在院期間として扱うものとします。

②平成 25 年 10 月及び平成 26 年 10 月の各 1 か月間について、次の患者数をご記入ください。

	平成 25 年 10 月	平成 26 年 10 月
1）精神科急性期治療病棟入院料算定病床における新規入院患者数	人	人
（うち）救急搬送・警察搬送患者数	人	人
（うち）緊急措置入院患者数	人	人
（うち）措置入院患者数	人	人
（うち）応急入院患者数	人	人
（うち）他の精神科病院からの転院患者数	人	人
（うち）他の一般病院からの転院患者数	人	人
（うち）身体合併症の治療のために、救命救急センター等の他院の一般病床に入院していたが、治療を終えて、貴施設に再入院となった患者数	人	人
（うち）自院の一般病床からの転棟患者数	人	人
（うち）院内標準診療計画書を策定した患者数		人
2）各１か月間に当該病床から退院・転院・転棟した患者数	人	人
（うち）自宅退院患者数（障害者施設等含む）	人	人
（うち）自院の他の精神病床に転棟した患者数	人	人
（うち）自院の他の一般病床に転棟した患者数	人	人
（うち）他院の精神病床に転院した患者数	人	人
（うち）連携の取り決めのある医療機関への転院患者数	人	人
（うち）他院の一般病床に転院した患者数	人	人
（うち）入院期間が１年以内の患者数	人	人
（うち）認知症の患者数	人	人
（うち）統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害の患者数	人	人
（うち）気分［感情］障害の患者数	人	人
（うち）院内標準診療計画加算を算定した患者数		人
（うち）精神科身体合併症管理加算を算定したことがある患者数		人
精神科身体合併症管理加算を算定したことがある患者の平均在院日数		日

２．精神科急性期治療病棟入院料算定病棟の職員の体制についてお伺いします。

①**精神科急性期治療病棟入院料算定病棟**に配置されている職員数（常勤換算）をお書きください。
※小数点以下第１位まで

	平成 25 年 10 月		平成 26 年 10 月	
	専従	専任	専従	専任
1）医師	人	人	人	人
（うち）精神科医	人	人	人	人
2）看護師（保健師を含む）	人	人	人	人
3）准看護師	人	人	人	人
4）看護補助者	人	人	人	人
5）薬剤師	人	人	人	人
6）作業療法士	人	人	人	人
7）臨床心理技術者	人	人	人	人
8）精神保健福祉士	人	人	人	人
9）社会福祉士（上記 8）を除く）	人	人	人	人
10）事務職員（精神科急性期治療病棟入院料算定病棟専従者に限る）	人	人	人	人
11）その他の職員	人	人	人	人

②貴施設では、「精神科急性期医師配置加算」の施設基準の届出がありますか。※○は１つ

1. ある→**届出時期**：平成２６年（　　）月
2. ないが、具体的な届出の予定がある→**届出予定時期**：平成（　　）年（　　）月頃
3. ないが、今後、届出をしたい
4. ない

【精神科急性期医師配置加算の届出のない施設の方】
②-1 貴施設では、「精神科急性期医師配置加算」の施設基準の届出をしていない理由は何ですか。
※あてはまる番号すべてに○

1. 在宅移行率の要件が満たせないため
2. 時間外・休日・深夜の入院件数の要件が満たせないため
3. 時間外・休日・深夜の外来対応件数の要件が満たせないため
4. 医師が不足しており、確保が困難なため
5. 人件費がかかるなど、経営上のインセンティブがないため
6. その他（具体的に　　）

平成２６年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成２６年度調査）

精神医療の実施状況調査　入院患者票

●平成 26 年 10 月 31 日に調査対象の**精神科病棟**に入院中の患者の状況について、患者１人につき本調査票１部を使ってご記入ください。

1. 患者の基本的事項

①性　　別	01. 男性　　02. 女性	②年　　齢	(10 月 31 日現在)　＿＿＿歳
③精神障害者福祉手帳	01. 手帳をもっていない　02. １級　03. ２級　04. ３級		

2. 入院の状況

①入院日（年号に○）	平成・昭和 ＿＿年＿＿月＿＿日頃	③精神科・神経科への通算入院回数	＿＿回目・不明
②初診日(他の医療機関を含む)	平成・昭和 ＿＿年＿＿月＿＿日頃	④精神科・神経科への通算入院期間	＿＿年＿＿か月・不明
⑤直近の退院日	平成・昭和 ＿＿年＿＿月＿＿日頃		
⑥現在入院している病棟（○は１つ）	01. 精神科救急入院料算定病棟 02. 精神科救急・合併症入院料算定病棟	03. 精神科急性期治療病棟入院料算定病棟 04. 精神療養病棟入院料算定病棟	
⑦入棟前の居場所（○は１つ）	01. 自宅、賃貸住宅など（家族と同居） 02. 自宅、賃貸住宅など（一人暮らし） 03. 自院の他の病棟 04. 他の医療機関の精神科病棟 05. 他の医療機関の精神科病棟以外の病棟 06. 介護老人保健施設 07. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	08. グループホーム 09. 有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ｹｱﾊｳｽ） 10. 生活訓練施設 11. 入所授産施設 12. その他（　　） 13. 不明	
⑧直近の在宅療養期間における、精神科訪問看護の利用の有無（○は１つ）	01. あり　02. なし		
⑨入院の理由（○はいくつでも）	01. 精神症状が強いため 02. セルフケアに著しい問題があるため 03. 迷惑行為・他害行為の危険性が高いため	04. 自傷行為・自殺企図の危険性が高いため 05. 治療・服薬への心理的抵抗が強いため 06. その他（　　）	
⑩入院形態（○は１つ）	01. 任意入院 02. 医療保護入院	03. 措置入院・緊急措置入院 04. 応急入院	
⑪処遇（○は１つ）	01. 開放処遇	02. 閉鎖処遇	
⑫主傷病（○は１つ）	01. 認知症（他の精神疾患によるものは除く）（F00-03） 02. その他の症状性を含む器質性精神障害（F04-09） 03. アルコールによる精神・行動の障害（F10） 04. その他の精神作用物質による精神・行動の障害（F11-19） 05. 統合失調症（F20） 06. その他の精神病性障害（F21-29） 07. 気分（感情）障害（F3） 08. 神経症性・ストレス関連・身体表現性障害（F4）	09. 生理的障害・身体的要因に関連した行動症候群（F5） 10. 成人の人格・行動の障害（F6） 11. 知的障害（精神遅滞）（F7） 12. 心理的発達の障害（F8） 13. 小児期・青年期に通常発症する行動・情緒の障害（F90-98） 14. 詳細不明の精神障害（F99） 15. てんかん（G40）	
⑬その他の精神疾患の傷病（○はいくつでも）	01. 認知症（他の精神疾患によるものは除く）（F00-03） 02. その他の症状性を含む器質性精神障害（F04-09） 03. アルコールによる精神・行動の障害（F10） 04. その他の精神作用物質による精神・行動の障害（F11-19） 05. 統合失調症（F20） 06. その他の精神病性障害（F21-29） 07. 気分（感情）障害（F3） 08. 神経症性・ストレス関連・身体表現性障害（F4）	09. 生理的障害・身体的要因に関連した行動症候群（F5） 10. 成人の人格・行動の障害（F6） 11. 知的障害（精神遅滞）（F7） 12. 心理的発達の障害（F8） 13. 小児期・青年期に通常発症する行動・情緒の障害（F90-98） 14. 詳細不明の精神障害（F99） 15. てんかん（G40）	
⑭身体合併症（○はいくつでも）	01. 呼吸器系疾患（肺炎、喘息発作、肺気腫） 02. 心疾患（虚血性心疾患など） 03. 手術又は直達・介達牽引を要する骨折 04. 重篤な内分泌・代謝性疾患 05. 重篤な栄養障害(Body Mass Index 13 未満の摂食障害) 06. 意識障害（急性薬物中毒、アルコール精神障害等） 07. 全身感染症（結核、梅毒、敗血症等） 08. 急性腹症（消化管出血、イレウス等） 09. 悪性症候群	10. 横紋筋融解症 11. 広範囲（半肢以上）熱傷 12. 手術、化学療法又は放射線療法を要する悪性腫瘍 13. 腎不全（透析を必要とする状態） 14. 手術室での手術を必要とする状態 15. 合併症妊娠・出産 16. 膠原病（専門医による管理を必要とする状態） 17. 歯科疾患 18. その他（　　）	

裏面につづきます

3. 患者の状態等

①症状の程度 （○は１つ）	01. 生命の危険がある 02. 生命の危険は少ないが入院治療を要する 03. 受け入れ条件が整えば退院可能		04. 近日中に退院予定 05. 検査入院 06. その他（　　）	
②患者の GAF スコア	1）入棟時		2）現在	
③改訂長谷川式簡易知能評価スケール（HDS-R）（現在）				点
④認知症高齢者の 日常生活自立度	01. 自立　02. Ⅰ　03. Ⅱ　04. Ⅱa　05. Ⅱb 06. Ⅲ　07. Ⅲa　08. Ⅲb　09. Ⅳ　10. M 11. 不明			
⑤ADL 区分（○は1つ）	01. ADL 区分１　02. ADL 区分２　03. ADL 区分３　04. 不明			
⑥重症度･看護必要度 B．患者の状況等 （○は各１つ）	a. 寝返り	01. できる	02. 何かにつかまればできる	03. できない
	b. 起き上がり	01. できる	02. できない	
	c. 座位保持	01. できる	02. 支えがあればできる	03. できない
	d. 移乗	01. できる	02. 見守り・一部介助が必要	03. できない
	e. 口腔清潔	01. できる	02. できない	
	f. 食事摂取	01. 介助なし	02. 一部介助	03. 全介助
	g. 衣服の着脱	01. 介助なし	02. 一部介助	03. 全介助
⑦患者の状態 （○は各１つ）	a. 他者への意思伝達	01. できる	02. できる時とできない時がある	03. できない
	b. 診療･療養上の指示が通じる	01. 通じる	02. 通じない	
	c. 危険行動への対応(過去1か月)	01. なし	02. あり	

〈参考〉

a. 特定の看護師や家族にしか意思の伝達ができない場合は「できる時とできない時がある」。昏迷、緘黙の場合は「できない」。
b. 隔離中の場合は、療養上の指示が「通じない」。拒薬も同様。認知症、幻覚妄想状態の患者は指示については「通じない」。
c. 他害や器物破損で二次的に自他の安全を損なう行為、水中毒患者の多飲水も危険行為に含む。

4. 治療の状況(平成 26 年 10 月1か月間)

①主傷病に対して実施している診療内容 （○はいくつでも） ※主治医にご確認ください	01. 薬物療法 02. 精神療法　→　a. 一般精神療法　b. 認知療法　c. 行動療法　d. 精神分析療法 e. 家族療法　f. 箱庭療法・遊戯療法　g. 作業療法 h. その他（具体的に　　） 03. その他に利用している治療法や活動（　　）
②向精神薬の処方内容 （該当するものすべて種類数を記入） ※主治医にご確認ください	1）入院時の処方薬数 抗不安薬（　　）種類　睡眠薬（　　）種類　抗うつ薬（　　）種類 抗精神病薬（　　）種類 2）現在の処方薬数 抗不安薬（　　）種類　睡眠薬（　　）種類　抗うつ薬（　　）種類 抗精神病薬（　　）種類
③身体合併症に対する対応状況 （○は１つ）	01. 精神科・神経科の医師が対応　→（a. 十分対応できている　b. 治療上課題がある） 02. 自院の他科の医師が対応　→（a. 十分対応できている　b. 治療上課題がある） 03. 他院の医師の支援を受けて対応　→（a. 十分対応できている　b. 治療上課題がある） 04. 身体合併症の治療は他院に移送して実施　→（a. 十分対応できている　b. 治療上課題がある） 05. 治療を要する身体合併症なし　→３ページの質問５．①へ
④【上記③で 02、03、04 に○がついた方】 身体合併症について他の診療科を受診した回数（自院・他院の合計）	（　　）回／月
⑤【上記③で 02、03、04 に○がついた方】 身体合併症について他の診療科を受診した目的（○はいくつでも）	
01. 急性期疾患の治療のため 03. 慢性疾患の治療（悪性腫瘍、循環器、糖尿病、透析、その他） 04. 歯科治療のため	02. 症状の原因の精査 05. その他（　　）

⑥【上記③で 02、03、04 に○がついた方】 身体合併症について費用の請求はどのような形でしましたか（○は１つ）	
01. 合議で精算	02. 入院料を減算した上で先方で請求
03. 入院料を減算せず先方で請求（歯科のみ）	
04. その他（　　）	

5. 患者の社会的状況と退院の見通し

①退院後に生活を継続するために必要な支援（○はいくつでも）	01. 薬物療法 02. 精神療法 03. デイケア等 04. 訪問看護サービス	05. 福祉サービス（移送・家事援助など）による援助 06. 不要 07. 将来の退院を想定できない 08. その他（具体的に　　）
②退院の見通し（○は１つ）	01. 現在の状態でも在宅サービスの支援体制が整えば退院可能 02. 状態の改善が見込まれるので、在宅サービスの支援体制が新たに整わずとも近い将来（6か月以内）に退院可能となる	03. 状態の改善が見込まれるので、在宅サービスの支援体制が整えば近い将来（6か月以内）に退院可能となる 04. 状態の改善が見込まれず、在宅サービスの支援体制の状況に関わらず将来の退院を見込めない
③退院した場合の支援として重要なもの（○は各１つ）	01. 看護師・ｹｰｽﾜｰｶｰ・ヘルパー等による援助指導 → 01. 24 時間体制での対応が必要　02. 日中のみ連絡体制が必要　03. 毎日の訪問 04. 1 週間で数回の訪問が必要　05. 1 週間で 1 回程度の訪問	02. 不要
④現在退院できない場合の最大の理由（○は１つ）	01. (医学的観点から)入院を要する状態が続いているため 02. 病識がないため 03. 患者の経済的理由のため 04. 本人が退院を望まないため 05. 転院・入所先の空き待ちのため 06. 転院・入所への依頼が受け入れられないため	07. 退院後、必要な医療処置の提供が期待できないため 08. 退院後、必要な支援等サービスを期待できないため 09. 家族の受け入れ困難、又は介護者不在のため 10. 生活継続のための支援者がいないため 11. 地域（近所）住民の理解が得られないため 12. その他（　　）

設問は以上です。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

平成２６年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成２６年度調査）

精神医療の実施状況調査　外来患者票

●平成 26 年 10 月 31 日時点において貴施設の精神科外来を受診した患者の状況について、患者 1 人につき本調査票 1 部を可能な範囲でご記入ください。

1. 患者の基本的事項

①性　　別	01. 男性　　02. 女性	②年　　齢	(10 月 31 日現在)　＿＿＿＿歳
③精神障害者福祉手帳	01. 手帳をもっていない　02. １級　03. ２級　04. ３級		

2. 精神療法開始前後の状況

①通院開始日	平成・昭和＿＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日	
②精神療法開始日	平成・昭和＿＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日	
③精神科での入院の有無	01. 有　02. 無	
④過去 2 年間における通算入院回数（平成 24 年 11 月～平成 26 年 10 月）	＿＿＿＿回	
⑤入院中の精神療法等実施の有無	01. 有　02. 無	
⑥直近の入院の理由（○はいくつでも）	01. 精神症状が強いため 02. セルフケアに著しい問題があるため 03. 迷惑行為・他害行為の危険性が高いため 04. 自傷行為・自殺企図の危険性が高いため 05. 治療・服薬への心理的抵抗が強いため 06. その他（　　）	

3. 患者の現況

①現在の居場所（○は１つ）	01. 自宅（家族等との同居も含む） 02. 有料老人ホーム 03. 軽費老人ホーム 04. 特別養護老人ホーム 05. サービス付き高齢者向け住宅 06. 認知症グループホーム 07. 精神障害者グループホーム 08. その他（　　） 09. 不明	
②主傷病（○は１つ）	01. 認知症（他の精神疾患によるものは除く）（F00-03） 02. その他の症状性を含む器質性精神障害（F04-09） 03. アルコールによる精神・行動の障害（F10） 04. その他の精神作用物質による精神・行動の障害（F11-19） 05. 統合失調症（F20） 06. その他の精神病性障害（F21-29） 07. 気分（感情）障害（F3） 08. 神経症性・ストレス関連・身体表現性障害（F4） 09. 生理的障害・身体的要因に関連した行動症候群（F5） 10. 成人の人格・行動の障害（F6） 11. 知的障害（精神遅滞）（F7） 12. 心理的発達の障害（F8） 13. 小児期・青年期に通常発症する行動・情緒の障害（F90-98） 14. 詳細不明の精神障害（F99） 15. てんかん（G40）	
③その他の傷病（精神疾患）（○はいくつでも）	01. 認知症（他の精神疾患によるものは除く）（F00-03） 02. その他の症状性を含む器質性精神障害（F04-09） 03. アルコールによる精神・行動の障害（F10） 04. その他の精神作用物質による精神・行動の障害（F11-19） 05. 統合失調症（F20） 06. その他の精神病性障害（F21-29） 07. 気分（感情）障害（F3） 08. 神経症性・ストレス関連・身体表現性障害（F4） 09. 生理的障害・身体的要因に関連した行動症候群（F5） 10. 成人の人格・行動の障害（F6） 11. 知的障害（精神遅滞）（F7） 12. 心理的発達の障害（F8） 13. 小児期・青年期に通常発症する行動・情緒の障害（F90-98） 14. 詳細不明の精神障害（F99） 15. てんかん（G40）	
④精神療法の実施回数（平成 26 年 10 月 1 か月間）	＿＿＿＿回	
⑤精神療法の平均実施時間（平成 26 年 10 月 1 か月間）	1 回あたり＿＿＿＿分	
⑥患者の状態	1）GAF 尺度	2）改訂長谷川式簡易知能評価スケール（HDS-R）　点
⑦認知症高齢者の日常生活自立度	01. 自立　02. Ⅰ　03. Ⅱ　04. Ⅱa　05. Ⅱb 06. Ⅲ　07. Ⅲa　08. Ⅲb　09. Ⅳ　10. M 11. 不明	
⑧ADL 区分（○は1つ）	01. ADL 区分１　02. ADL 区分２　03. ADL 区分３　04. 不明	

裏面につづきます

⑨IADL の困難度 （○は各１つ）	a. 食事の用意	01. 問題ない	02. いくらか困難	03. 非常に困難
	b. 家事一般	01. 問題ない	02. いくらか困難	03. 非常に困難
	c. 金銭管理	01. 問題ない	02. いくらか困難	03. 非常に困難
	d. 薬の管理	01. 問題ない	02. いくらか困難	03. 非常に困難
	e. 電話の利用	01. 問題ない	02. いくらか困難	03. 非常に困難
	f. 買い物	01. 問題ない	02. いくらか困難	03. 非常に困難
	g. 交通手段の利用	01. 問題ない	02. いくらか困難	03. 非常に困難

⑩利用している診療内容等
（○はいくつでも）
（平成 26 年 10 月）
※主治医にご確認ください

01. 薬物療法
02. 精神療法
03. 精神科デイ・ケア（ショート・ケア、ナイト・ケア、デイ・ナイト・ケアを含む）
04. 訪問看護（訪問看護ステーション）との併用
05. 訪問看護（病院）との併用
06. 障害福祉サービスとの併用
→具体的に a. 就労支援　b. 共同生活援助（グループホーム）
c. 短期入所（ショートステイ）　d. その他（　　）
07. 介護保険サービスとの併用
→具体的に a. 訪問介護　b. 短期入所生活介護（ショートステイ）
c. その他（　　）
08. その他に利用している治療法や活動（　　）

⑪訪問看護の利用状況
（平成 26 年 10 月）
※貴院が直接実施した場合のみお書きください。訪問看護ステーションに指示した場合はご回答いただく必要はございません。

1）訪問した日数　（　　）日
2）訪問した回数　（　　）回
3）長時間精神科訪問看護・指導加算を算定した回数（　　）回
4）夜間・早朝訪問看護加算を算定した回数（　　）回
5）深夜訪問看護加算を算定した回数（　　）回
6）精神科緊急訪問看護加算を算定した回数（　　）回
7）精神科重症患者早期集中支援管理料の算定の有無→（ 01 あり　02 なし ）
8）急性増悪による週 4 回以上の訪問看護の実施の有無→（ 01 あり　02 なし ）

⑫精神療法の内容
（平成 26 年 10 月）

01. 一般精神療法
02. 精神分析療法
03. 認知療法
04. 行動療法
05. 家族療法
06. 箱庭療法・遊戯療法
07. 精神科作業療法
08. その他（　　）

⑬向精神薬の処方内容
（該当するものすべて種類を記入）
※主治医にご確認ください

	平成 25 年 10 月	平成 26 年 10 月
抗不安薬	（　　）種類	（　　）種類
睡眠薬	（　　）種類	（　　）種類
抗うつ薬	（　　）種類	（　　）種類
抗精神病薬	（　　）種類	（　　）種類

⑭向精神薬多剤投与の除外規定対象となる場合はその内容
（○はいくつでも）
※主治医にご確認ください

01. 他の保険医療機関で既に向精神薬を多剤投与されている場合の連続した６か月間
02. 既に投与されている薬剤と新しく導入する薬剤を一時的に併用する場合の連続した３か月間
03. 臨時に投与した場合（抗うつ薬、抗精神病薬が対象）
（臨時で投与した理由を具体的にお書きください。）
04. 精神科の診療に係る経験を十分に有する医師として届出した医師がやむを得ず投与を行う必要があると認めた場合（抗うつ薬、抗精神病薬のみが対象）
（やむを得ず投与を行った理由を具体的にお書きください。）

⑮現在利用している精神科デイケア等

01. 精神科ショート･ケア（小規模なもの）
02. 精神科ショート･ケア（大規模なもの）
03. 精神科デイ･ケア（小規模なもの）
04. 精神科デイ･ケア（大規模なもの）
05. 精神科デイ・ナイト・ケア
06. 精神科ナイト・ケア

設問は以上です。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

中医協　検－１－２
２７．３．１８

平成２６年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成２６年度調査）の速報案について

○救急医療管理加算等の見直しによる影響や精神疾患患者の救急受入を含む救急医療の実施状況調査

（右下頁）

・ 調査の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５頁

・ 病院調査　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７頁

・ 調査票　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９８頁

平成 26 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 26 年度調査）

救急医療管理加算等の見直しによる影響や
精神疾患患者の救急受入を含む救急医療の実施状況調査

結果概要（速報）（案）

◇◆目　　次◇◆

Ⅰ．調査の概要 1
１．目的 1
２．調査対象 1
３．調査方法 1
４．調査項目 1
５．その他 2
Ⅱ．調査の結果 3
１．回収結果 3
２．病院調査の結果 3
（１）施設の概況（平成 26 年 10 月末現在） 3
①開設者 3
②救急医療体制 4
③承認等の状況 5
④DPC 対応 5
⑤各診療科の標榜状況 6
⑥軽症患者等を対象とした時間外選定療養費 6
⑦平成 25 年 10 月及び平成 26 年 10 月の許可病床数、新規入院患者数、病床利用率、平均在院日数 8
⑧平成 26 年 10 月末時点に届出を行っている一般病床の入院基本料 16
（２）救急医療体制の状況 18
①平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日までの年間当番日数（二次救急医療機関） 18
②該当する二次救急医療体制（二次救急医療機関） 18
③平成 26 年 10 月 1 か月間に救急搬送患者の受け入れが可能な体制を整えていた日数（二次救急・三次救急医療機関以外の医療機関） 19
④救急医療に従事する実人数 19
⑤ＤＭＡＴ指定の状況 25
⑥夜間（準夜・深夜・早朝）の救急対応 25
⑦夜間（準夜・深夜・早朝）の救急外来の初期対応 27
⑧救急医療に従事する医師・看護職員の常勤換算人数（平成 26 年 10 月末時点） ... 28
⑨施設に従事する医師数（平成 26 年 10 月末時点　常勤換算人数） 32
⑩臨床工学技士（外来透析担当を除く）の当直の有無 33
⑪退院調整を行う部門（部署）の有無 33

⑫退院調整の実施体制 34
（３）救急医療に関する施設基準及びその算定状況等 35
①各施設基準等の届出状況 35
②各施設基準等の届出時期 36
③各施設基準等の算定件数 49
④医師事務作業補助体制加算の現在の届出の種類 50
⑤「救命救急入院料の精神保健指定医等診断治療等加算」における精神科医の確保方法 50
⑥「特定集中治療室管理料１・２」の届出をしていない理由 51
⑦「ハイケアユニット入院医療管理料１」の届出をしていない理由 52
⑧各施設基準等の届出状況 53
⑨各施設基準等の届出時期 54
⑩各施設基準等の算定件数 61
⑪パリビズマブを用い薬剤費等を出来高で算定した患者数 62
（４）救急医療の取組状況等 63
①消防法に基づいて都道府県が定める受入実施基準に対する参加状況 63
②１か月間の外来延べ患者数、救急用の自動車等により搬送された延べ患者数 63
③１か月間の救急対応患者数 66
④救急患者の受入対応方針 73
⑤受入を断る理由（「原則的に受入を断っていない」以外の回答を行った施設） 77
⑥新生児特定集中治療室・新生児集中治療室の患者数 85
⑦自宅退院患者が少ない理由 86
（５）救急医療管理加算２の算定状況 87
①算定患者数等 87
②疾病別算定患者数 89

Ⅰ．調査の概要

１．目的

平成 26 年度診療報酬改定において、救急医療管理加算の算定基準の明確化や新生児の退院調整についての評価、精神疾患等を有する救急患者の受入の評価等が行われた。

これらを踏まえ、保険医療機関における診療体制、診療内容、患者の状況等について調査を行い、これらの評価が救急医療の充実・強化に与えた影響を把握する。

＜主な目的＞

・救急医療体制、関連診療報酬の施設基準の届出、算定状況の把握

・救命救急医療、小児医療の実施状況の把握

・精神疾患患者等の救急医療の実施状況の把握

２．調査対象

調査の対象は、次のとおりである。

1）救命救急入院料、新生児特定集中治療室管理料、小児特定集中治療室管理料、総合周産期特定集中治療室管理料、総合入院体制加算のいずれかの施設基準の届出を行っている病院（悉皆、533 施設）。

2）救急医療管理加算、夜間休日救急搬送医学管理料の届出を行っている病院（上記 1）を除く、無作為抽出、467 施設）。

上記 1）と 2）を合計した 1,000 施設を調査対象とした。

３．調査方法

・対象施設が記入する自記式調査票の郵送配布・回収とした。

・施設属性や救急医療の体制、取組状況等を尋ねる「様式 1」と、救急医療管理加算 2 の算定患者数を疾病別に尋ねる「様式 2」の 2 種類の調査票を配布した。

・調査実施時期は平成 26 年 11 月 4 日～平成 26 年 12 月 18 日。

４．調査項目

区分	主な調査項目
様式 1	○施設の概況 ・ 開設者、救急告示の有無、救急医療体制、承認等の状況、DPC 対応状況、標榜診療科、時間外選定療養費の導入状況・金額・徴収件数 ・ 許可病床数、新規入院患者数、病床利用率、平均在院日数の変化 ・ 一般病床における入院基本料の届出状況

	○救急医療体制の状況等 ・　二次救急医療機関における年間当番日数、二次救急医療体制 ・　救急搬送患者の受入可能日数 ・　時間帯別の救急医療従事者数、DMAT 指定状況 ・　夜間の診療科別救急対応状況、救急外来の初期対応 ・　部署別の医師数・看護職員数、臨床工学技士の当直の有無等 ・　退院調整部門の有無、体制等 ○救急医療に関する施設基準・算定状況等 ・　施設基準等の届出状況、届出時期、算定件数の変化 ・　精神保健指定医等診断治療等加算に関する精神科医の確保状況 ・　特定集中治療室管理料・ハイケアユニット入院医療管理料の届出のない場合の理由 ・　パリビズマブを用い薬剤費等を出来高で算定した小児患者数 ○救急医療の取組状況等 ・　消防法に基づいて都道府県が定める受入実施基準の参加状況等 ・　外来延べ患者数に対する救急搬送受入患者数、救急対応患者数等の変化 ・　救急患者の受入対応方針、受入ができない場合の理由 ・　新生児特定集中治療室・新生児集中治療室の患者数の変化、自宅退院患者数が他院転院患者数よりも少ない場合の理由、新生児の退院を進める上で必要な取組等 ○高齢者の救急医療に関する課題等 ・　高齢者の救急医療に関する課題等
様式２	○救急医療管理加算の算定状況の変化 ・　救急医療管理加算１・２の合計算定患者数 ・　救急医療管理加算２の算定患者数、割合 ・　救急医療管理加算２の疾病コード別患者数

５．その他

本調査の集計結果は速報値であり、数値が変わることがありうる。

Ⅱ．調査の結果

１．回収結果

図表 1　回収の状況

発送数	有効回答数	有効回答率
1,000	601	60.1%

２．病院調査の結果

【調査対象等】

調査対象：1）救命救急入院料、新生児特定集中治療室管理料、小児特定集中治療室管理料、総合周産期特定集中治療室管理料、総合入院体制加算の届出を行っている病院（悉皆、533 施設）。

2）救急医療管理加算、夜間休日救急搬送医学管理料の届出を行っている病院（上記 1）を除く、無作為抽出 467 施設）。

上記 1）と 2）を合計した 1,000 施設を調査対象とした。

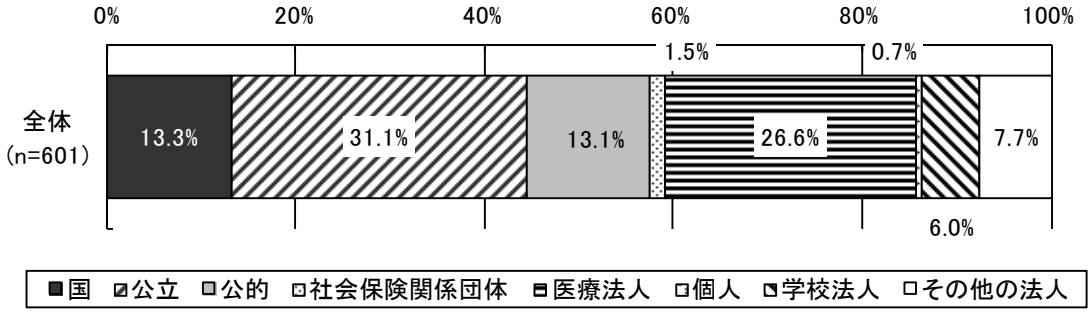
回 答 数：601 施設

回 答 者：管理者

（１）施設の概況（平成 26 年 10 月末現在）

①開設者

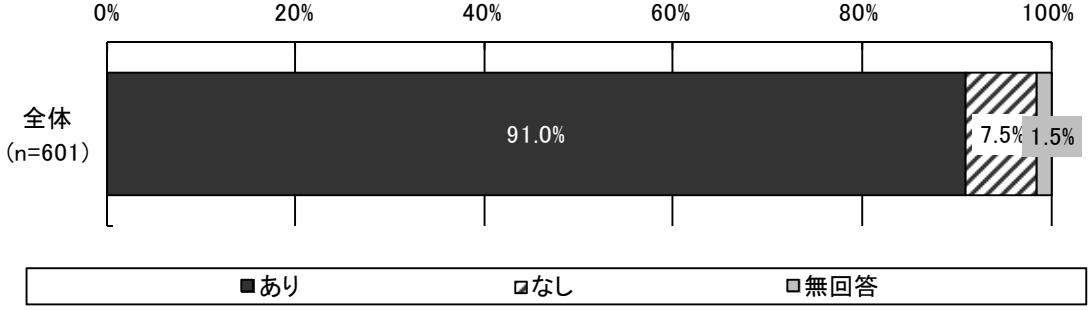
図表 2　開設者



②救急医療体制

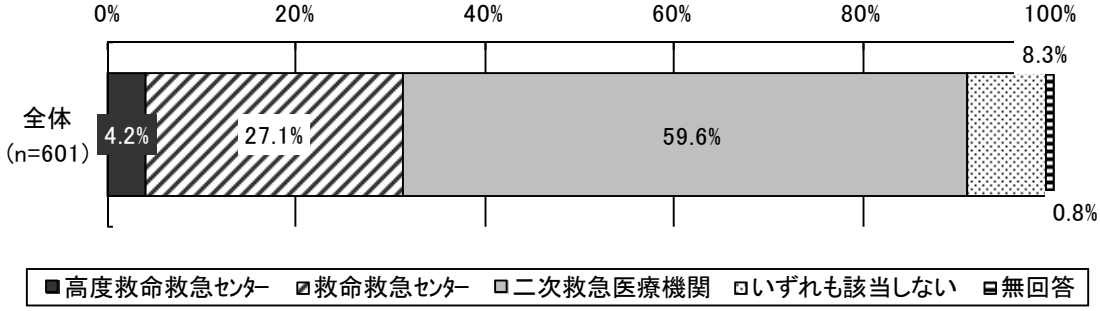
1）救急告示の有無

図表 3　救急告示の有無



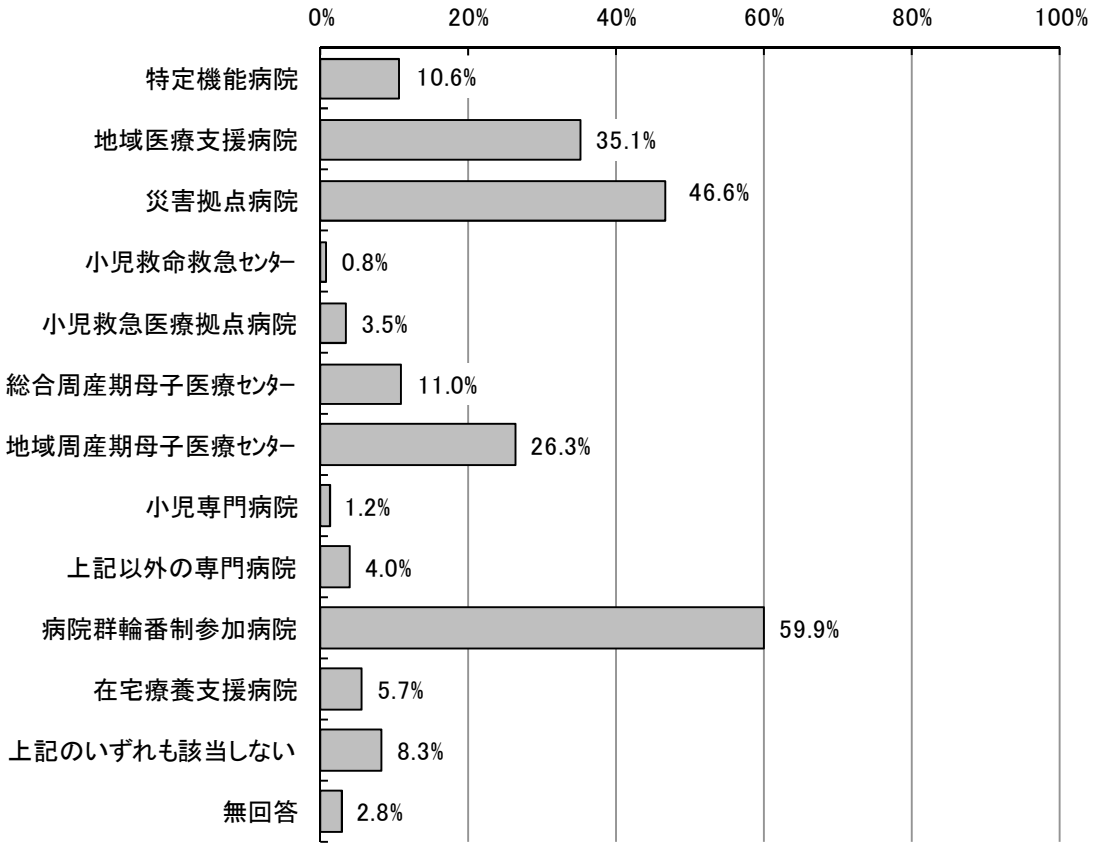
2）救急医療体制

図表 4　救急医療体制



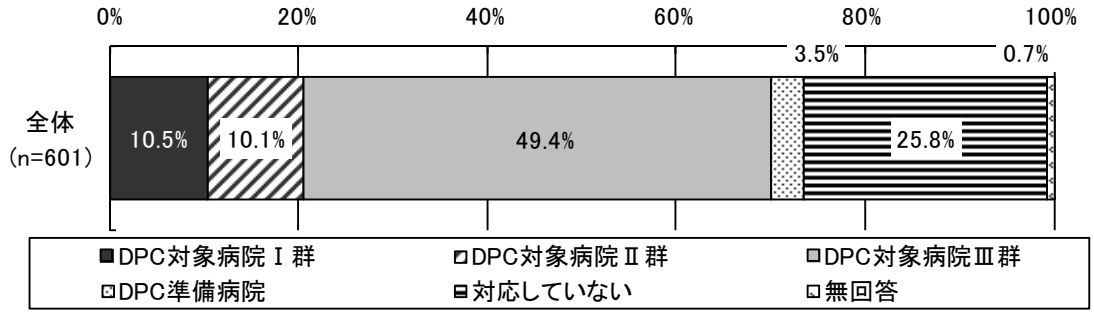
③承認等の状況

図表 5　承認等の状況（複数回答　n=601）



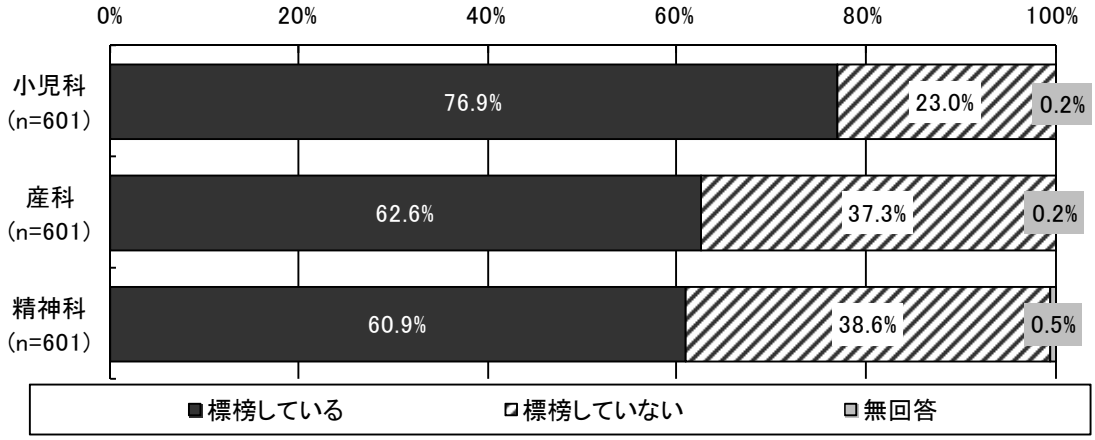
④DPC 対応

図表 6　DPC 対応



⑤各診療科の標榜状況

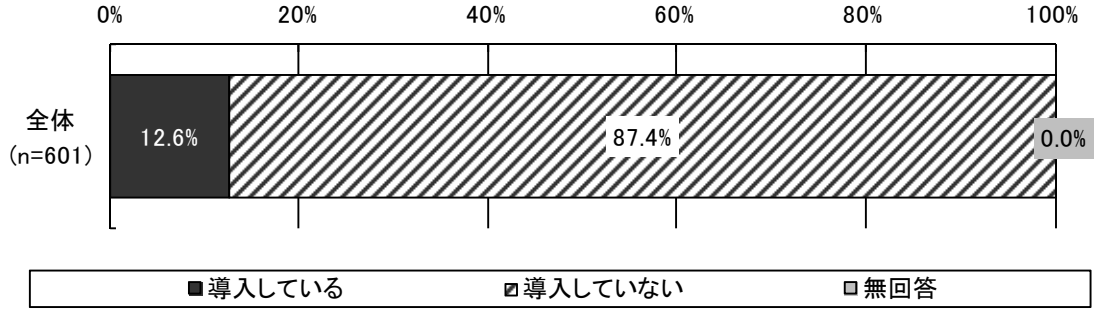
図表 7　各診療科の標榜状況



⑥軽症患者等を対象とした時間外選定療養費

1）時間外選定療養費の導入状況

図表 8　軽症患者等を対象とした時間外選定療養費の導入状況



2）時間外選定療養費の導入時期

図表 9　軽症患者等を対象とした時間外選定療養費の導入時期

	施設数	割合
平成20年3月以前	13	17.1%
平成20年4月～平成21年3月	9	11.8%
平成21年4月～平成22年3月	5	6.6%
平成22年4月～平成23年3月	5	6.6%
平成23年4月～平成24年3月	8	10.5%
平成24年4月～平成25年3月	8	10.5%
平成25年4月～平成26年3月	9	11.8%
平成26年4月以降	10	13.2%
不明	9	11.8%
合計	76	100.0%

3）時間外選定療養費の金額及び件数

図表 10　軽症患者等を対象とした時間外選定療養費の金額及び件数

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
時間外選定療養費の金額（円）	75	4572.1	2023.0	4800.0
時間外選定療養費を徴収した件数（件）	74	189.6	321.2	70.0

（注）・時間外選定療養費の金額については、価格が複数の場合は初診時に最高額を記載していただいた。
・時間外選定療養費を徴収した件数は平成 26 年 10 月 1 か月分である。

⑦平成 25 年 10 月及び平成 26 年 10 月の許可病床数、新規入院患者数、病床利用率、平均在院日数

1）許可病床数

図表 11　許可病床数（n=595）

（単位：床）

	平成25年10月			平成26年10月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
一般病床	370.5	271.2	350.0	369.9	270.8	350.0
（うち）救命救急入院料	7.2	12.8	0.0	7.4	12.8	0.0
（うち）特定集中治療室管理料	4.5	6.9	0.0	4.6	7.0	0.0
上記のうち、小児専用病床	0.2	1.2	0.0	0.2	1.2	0.0
（うち）ハイケアユニット入院医療管理料	1.8	5.0	0.0	2.1	5.2	0.0
（うち）脳卒中ケアユニット入院医療管理料	0.5	1.9	0.0	0.6	2.3	0.0
（うち）小児特定集中治療室管理料	0.0	0.4	0.0	0.1	1.0	0.0
（うち）新生児特定集中治療室管理料	1.6	3.4	0.0	1.7	3.5	0.0
（うち）総合周産期特定集中治療室管理料/母体・胎児集中治療室管理料	0.9	2.5	0.0	0.9	2.5	0.0
（うち）総合周産期特定集中治療室管理料/新生児集中治療室管理料	1.7	4.9	0.0	1.8	5.2	0.0
（うち）新生児治療回復室入院医療管理料	2.8	6.6	0.0	2.8	6.6	0.0
（うち）小児入院医療管理料	21.3	34.4	0.0	20.9	32.6	10.0
療養病床	8.6	25.2	0.0	8.8	25.4	0.0
精神病床	27.5	73.2	0.0	26.9	72.6	0.0
結核病床	1.8	6.6	0.0	1.7	6.3	0.0
感染症病床	1.1	2.8	0.0	1.2	2.8	0.0
病院全体	409.5	266.2	376.0	408.4	265.1	373.0

（注）平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに病床数の記載のあった施設を集計対象とした。

図表 12　許可病床数（平成 26 年 10 月）

（単位：床）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
一般病床	(n=597)	369.5	270.6	350
（うち）救命救急入院料	(n=597)	7.4	12.8	0
（うち）特定集中治療室管理料	(n=597)	4.6	7.0	0
上記のうち、小児専用病床	(n=597)	0.2	1.2	0
（うち）ハイケアユニット入院医療管理料	(n=597)	2.1	5.2	0
（うち）脳卒中ケアユニット入院医療管理料	(n=597)	0.6	2.3	0
（うち）小児特定集中治療室管理料	(n=597)	0.1	1.0	0
（うち）新生児特定集中治療室管理料	(n=597)	1.7	3.5	0
（うち）総合周産期特定集中治療室管理料/母体・胎児集中治療室管理料	(n=597)	0.9	2.5	0
（うち）総合周産期特定集中治療室管理料/新生児集中治療室管理料	(n=597)	1.8	5.2	0
（うち）新生児治療回復室入院医療管理料	(n=597)	2.8	6.6	0
（うち）小児入院医療管理料	(n=597)	20.9	32.6	10
療養病床	(n=597)	8.8	25.4	0
精神病床	(n=597)	26.8	72.5	0
結核病床	(n=597)	1.7	6.3	0
感染症病床	(n=597)	1.2	2.8	0
病院全体	(n=597)	408.0	265.0	373

（注）平成 26 年 10 月の病床数に記載のあった施設を集計対象とした。

2）新規入院患者数

図表 13　新規入院患者数

（単位：人）

	施設数	平成25年10月			平成26年10月		
		平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
一般病床	(n=536)	771.9	994.8	677.5	783.8	987.2	690.0
（うち）救命救急入院料	(n=168)	135.0	91.8	110.5	145.6	119.7	120.0
（うち）特定集中治療室管理料	(n=257)	37.2	42.2	23.0	39.6	46.3	26.0
上記のうち、小児専用病床	(n=13)	14.9	11.5	13.0	16.2	12.5	16.0
（うち）ハイケアユニット入院医療管理料	(n=91)	46.6	46.8	31.0	45.5	45.9	30.0
（うち）脳卒中ケアユニット入院医療管理料	(n=36)	22.2	14.5	21.0	24.1	15.6	24.0
（うち）小児特定集中治療室管理料	(n=2)	6.0	2.8	6.0	2.0	1.4	2.0
（うち）新生児特定集中治療室管理料	(n=123)	14.1	16.9	11.0	14.4	14.9	12.0
（うち）総合周産期特定集中治療室管理料/母体・胎児集中治療室管理料	(n=75)	17.0	11.3	14.0	18.0	11.7	14.0
（うち）総合周産期特定集中治療室管理料/新生児集中治療室管理料	(n=73)	19.4	10.0	17.0	19.7	10.5	18.0
（うち）新生児治療回復室入院医療管理料	(n=109)	12.2	12.3	9.0	11.8	12.0	9.0
（うち）小児入院医療管理料	(n=283)	118.7	150.7	91.0	110.7	104.2	93.0
療養病床	(n=77)	9.2	13.6	5.0	9.3	13.1	5.0
精神病床	(n=152)	26.0	42.1	19.5	24.6	35.6	19.0
結核病床	(n=58)	3.5	4.2	2.0	3.9	6.4	2.0
病院全体	(n=568)	738.8	999.3	612.5	750.0	989.8	639.0

（注）・各特定入院料等の許可病床があり、かつ平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記載のあった施設を集計対象とした。
・数値には、特定入院料等の算定対象とならなかった患者数も含まれている。

図表 14　新規入院患者数（平成 26 年 10 月）

（単位：人）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
一般病床	(n=538)	783.2	985.7	690
（うち）救命救急入院料	(n=178)	142.7	118.0	115.5
（うち）特定集中治療室管理料	(n=263)	39.4	45.9	26
上記のうち、小児専用病床	(n=14)	15.6	12.2	15.5
（うち）ハイケアユニット入院医療管理料	(n=115)	42.7	42.8	30
（うち）脳卒中ケアユニット入院医療管理料	(n=42)	23.8	16.1	24
（うち）小児特定集中治療室管理料	(n=8)	16.5	17.1	13.5
（うち）新生児特定集中治療室管理料	(n=134)	14.3	14.5	12
（うち）総合周産期特定集中治療室管理料/母体・胎児集中治療室管理料	(n=80)	17.7	11.5	14
（うち）総合周産期特定集中治療室管理料/新生児集中治療室管理料	(n=76)	19.3	10.6	17.5
（うち）新生児治療回復室入院医療管理料	(n=119)	11.9	11.7	9
（うち）小児入院医療管理料	(n=289)	109.6	103.4	91
療養病床	(n=79)	9.7	13.1	6
精神病床	(n=153)	24.5	35.5	19
結核病床	(n=58)	3.9	6.4	2
病院全体	(n=570)	749.6	988.3	639

（注）・平成 26 年 10 月に各特定入院料等の許可病床があり、かつ新規入院患者数の記載があった施設を集計対象とした。
・数値には、特定入院料等の算定対象とならなかった患者数も含まれている。

3）病床利用率

図表 15　病床利用率

（単位：%）

	施設数	平成25年10月			平成26年10月		
		平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
一般病床	(n=532)	79.5	11.5	81.4	78.7	11.6	80.3
（うち）救命救急入院料	(n=167)	71.1	16.0	73.7	69.8	16.0	71.9
（うち）特定集中治療室管理料	(n=259)	74.0	16.9	75.0	72.4	16.5	73.8
上記のうち、小児専用病床	(n=13)	80.8	12.6	76.6	73.1	18.1	66.3
（うち）ハイケアユニット入院医療管理料	(n=91)	76.5	18.8	77.3	72.0	19.9	75.9
（うち）脳卒中ケアユニット入院医療管理料	(n=37)	87.5	13.7	91.4	90.4	13.1	93.3
（うち）小児特定集中治療室管理料	(n=2)	79.3	26.4	79.3	82.5	24.8	82.5
（うち）新生児特定集中治療室管理料	(n=124)	81.3	21.2	86.8	82.1	19.4	85.9
（うち）総合周産期特定集中治療室管理料/母体・胎児集中治療室管理料	(n=75)	83.6	15.9	87.8	85.8	13.7	89.5
（うち）総合周産期特定集中治療室管理料/新生児集中治療室管理料	(n=73)	93.9	10.7	98.2	91.2	11.5	94.6
（うち）新生児治療回復室入院医療管理料	(n=109)	69.2	19.7	72.0	66.2	22.6	68.9
（うち）小児入院医療管理料	(n=282)	66.2	18.0	67.2	64.6	17.5	66.6
療養病床	(n=73)	83.8	17.8	90.5	82.8	18.1	89.9
精神病床	(n=153)	74.6	20.1	80.2	74.0	19.0	76.2
結核病床	(n=38)	41.8	25.7	42.1	42.4	25.2	34.8
病院全体	(n=544)	80.2	11.6	82.0	79.5	11.6	81.1

（注）・各特定入院料等の許可病床があり、かつ平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記載のあった施設を集計対象とした。

・数値には、特定入院料等の算定対象とならなかった患者数も含まれている。

図表 16　病床利用率（平成 26 年 10 月）

（単位：%）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
一般病床	(n=534)	78.7	11.6	80.3
（うち）救命救急入院料	(n=177)	69.4	15.8	71.4
（うち）特定集中治療室管理料	(n=264)	72.2	16.5	73.795
上記のうち、小児専用病床	(n=14)	75.3	19.3	68.65
（うち）ハイケアユニット入院医療管理料	(n=116)	71.6	19.1	74.95
（うち）脳卒中ケアユニット入院医療管理料	(n=44)	90.9	12.7	93.7
（うち）小児特定集中治療室管理料	(n=8)	68.9	34.4	76.8
（うち）新生児特定集中治療室管理料	(n=135)	82.0	19.5	85.2
（うち）総合周産期特定集中治療室管理料/母体・胎児集中治療室管理料	(n=80)	85.3	13.6	89.225
（うち）総合周産期特定集中治療室管理料/新生児集中治療室管理料	(n=76)	91.3	11.3	94.6
（うち）新生児治療回復室入院医療管理料	(n=119)	65.4	22.9	67.1
（うち）小児入院医療管理料	(n=288)	64.3	17.5	66
療養病床	(n=76)	82.4	18.2	89.75
精神病床	(n=154)	73.8	19.0	75.8
結核病床	(n=39)	43.1	25.3	37.1
病院全体	(n=549)	79.6	11.6	81.13

（注）・平成 26 年 10 月に各特定入院料等の許可病床があり、かつ病床利用率の記載があった施設を集計対象とした。
・数値には、特定入院料等の算定対象とならなかった患者数も含まれている。

4）平均在院日数

図表 17　平均在院日数

（単位：日）

	施設数	平成25年10月			平成26年10月		
		平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
一般病床	(n=534)	16.2	11.1	13.7	16.1	9.9	13.5
（うち）救命救急入院料	(n=167)	5.9	3.7	5.0	5.6	3.6	4.6
（うち）特定集中治療室管理料	(n=253)	12.5	17.6	5.3	15.0	41.0	5.3
上記のうち、小児専用病床	(n=13)	19.0	23.8	8.8	23.8	49.0	8.0
（うち）ハイケアユニット入院医療管理料	(n=88)	9.6	10.2	6.2	9.2	10.3	5.4
（うち）脳卒中ケアユニット入院医療管理料	(n=35)	10.7	5.9	9.7	11.1	7.2	8.8
（うち）小児特定集中治療室管理料	(n=2)	43.9	29.8	43.9	50.0	17.0	50.0
（うち）新生児特定集中治療室管理料	(n=122)	26.2	42.8	17.8	21.7	16.0	17.3
（うち）総合周産期特定集中治療室管理料/母体・胎児集中治療室管理料	(n=75)	21.2	46.4	12.3	19.3	30.8	12.3
（うち）総合周産期特定集中治療室管理料/新生児集中治療室管理料	(n=73)	28.6	20.5	23.0	31.3	31.3	22.5
（うち）新生児治療回復室入院医療管理料	(n=106)	20.7	12.3	17.8	20.4	14.7	17.0
（うち）小児入院医療管理料	(n=279)	8.0	4.5	6.7	7.7	4.0	6.6
療養病床	(n=68)	184.3	208.2	96.4	174.7	178.4	104.3
病院全体	(n=515)	23.5	45.9	14.0	22.6	38.2	13.7

（注）・各特定入院料等の許可病床があり、かつ平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記載のあった施設を集計対象とした。
・数値には、特定入院料等の算定対象とならなかった患者数も含まれている。

図表 18　平均在院日数（平成 26 年 10 月）

（単位：日）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
一般病床	(n=536)	16.0	9.9	13.5
（うち）救命救急入院料	(n=177)	5.5	3.6	4.5
（うち）特定集中治療室管理料	(n=260)	15.1	40.7	5.205
上記のうち、小児専用病床	(n=14)	22.5	47.3	7.75
（うち）ハイケアユニット入院医療管理料	(n=113)	8.9	9.9	5.4
（うち）脳卒中ケアユニット入院医療管理料	(n=41)	13.9	19.0	8.8
（うち）小児特定集中治療室管理料	(n=7)	25.9	19.9	21.5
（うち）新生児特定集中治療室管理料	(n=133)	21.6	16.3	16.2
（うち）総合周産期特定集中治療室管理料/母体・胎児集中治療室管理料	(n=80)	18.7	29.9	11.5
（うち）総合周産期特定集中治療室管理料/新生児集中治療室管理料	(n=76)	32.5	31.9	22.6
（うち）新生児治療回復室入院医療管理料	(n=117)	19.9	14.4	16
（うち）小児入院医療管理料	(n=287)	7.7	3.9	6.56
療養病床	(n=72)	168.8	175.4	103
病院全体	(n=518)	22.5	38.1	13.7

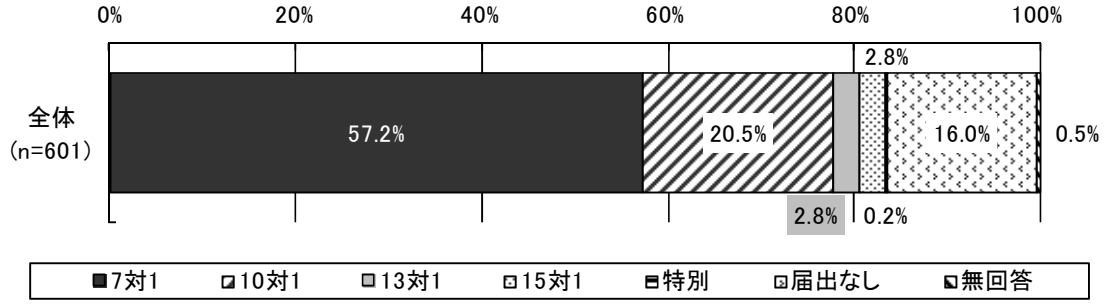
（注）・平成 26 年 10 月に各特定入院料等の許可病床があり、かつ平均在院日数の記載があった施設を集計対象とした。

・数値には、特定入院料等の算定対象とならなかった患者数も含まれている。

⑧平成 26 年 10 月末時点に届出を行っている一般病床の入院基本料

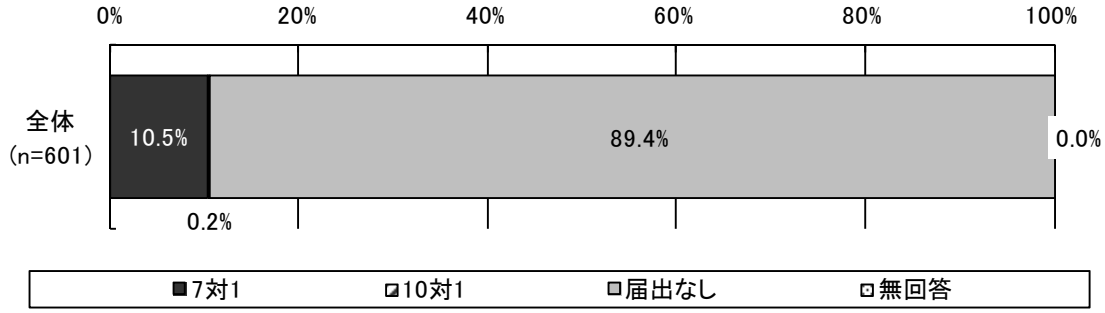
1）一般病棟入院基本料

図表 19　一般病棟入院基本料



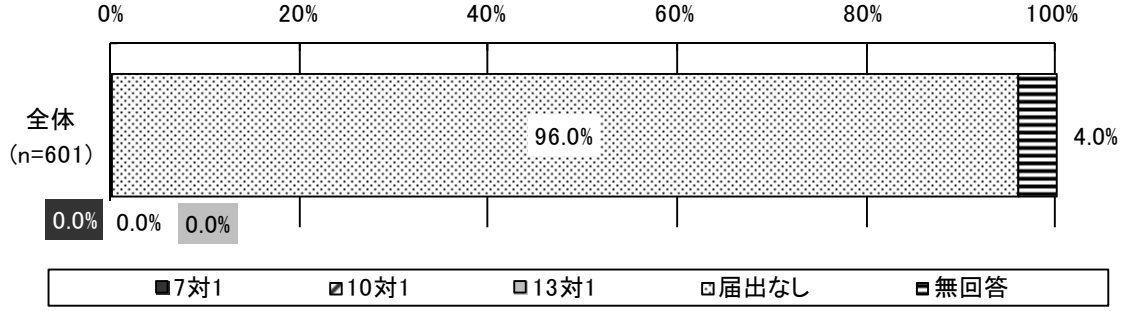
2）特定機能病院入院基本料

図表 20　特定機能病院入院基本料



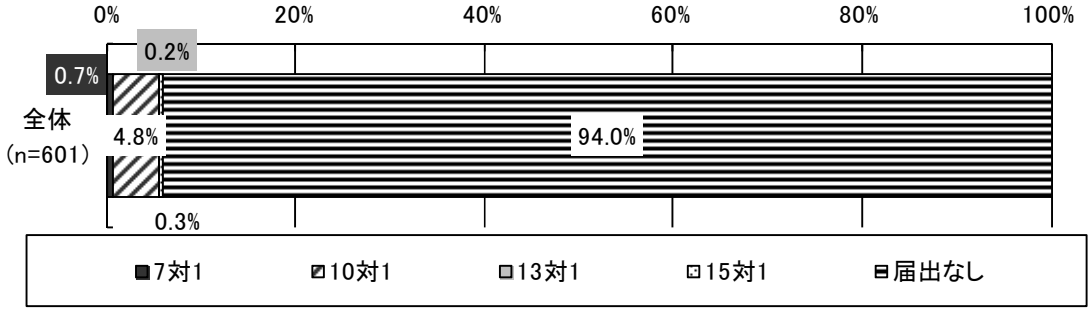
3）専門病院入院基本料

図表 21　専門病院入院基本料



4）障害者施設等入院基本料

図表 22　障害者施設等入院基本料



（２）救急医療体制の状況

①平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日までの年間当番日数（二次救急医療機関）

図表 23　平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日までの年間当番日数

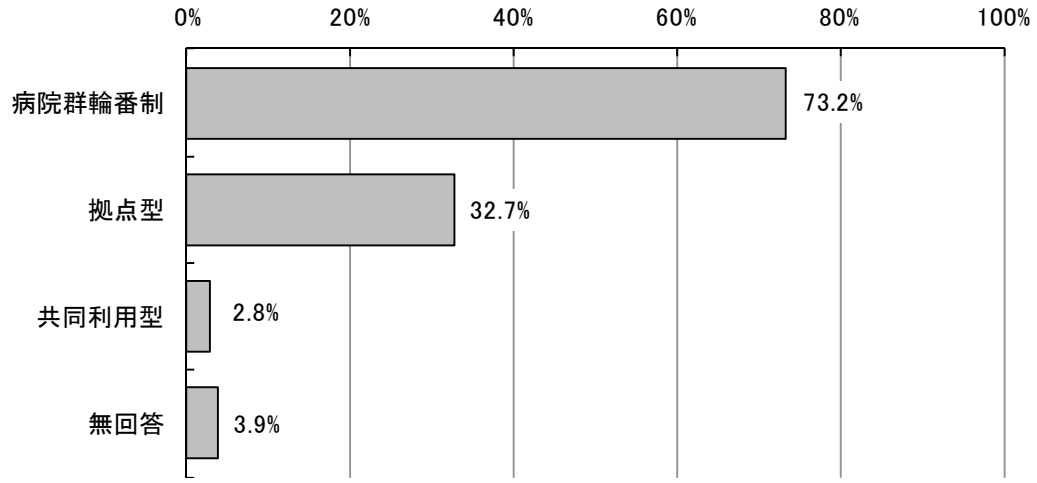
（単位：日）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
年間当番日数（日）	(n=344)	200.6	175.5	132.5

（注）・二次救急医療機関にのみ尋ねている。
・日数の記載のあったものを集計対象とした。
・当番日数は、平日・休日の夕方から翌朝までで 1 日、休日の朝から夕方までで 1 日としている。
（休日の午前 8:00～翌日の午前 8:00 まで当番だった場合は 2 日となる。）

②該当する二次救急医療体制（二次救急医療機関）

図表 24　該当する二次救急医療体制（複数回答、n=358）



（注）・二次救急医療機関にのみ尋ねている。
・病院群輪番制　：地域内の病院群が共同連帯して、輪番方式により救急患者の受け入れ態勢を整えている場合をいう
・拠点型　：病院群輪番制の一つで、365 日に入院を要する救急患者の受け入れ態勢を整えている場合をいう（いわゆる「固定輪番制」や「固定通年制」等も含む）。
・共同利用型　：医師会立病院等が休日夜間に病院の一部を開放し、地域医師会の協力により実施する者をいう。

③平成 26 年 10 月 1 か月間に救急搬送患者の受け入れが可能な体制を整えていた日数
（二次救急・三次救急医療機関以外の医療機関）

図表 25　平成 26 年 10 月 1 か月間に救急搬送患者の受け入れが可能な体制を整えていた日数

（単位：日）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
救急搬送患者の受入可能日数（日）	(n=66)	24.5	12.3	31.0

（注）　・二次救急・三次救急医療機関以外の医療機関にのみ尋ねている。
・日数の記載のあったものを集計対象とした。

④救急医療に従事する実人数

1）平日準夜帯

図表 26　平日準夜帯に救急医療に従事する実人数（n=542）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
救急担当専従の医師	1.8	3.3	1.0
病棟業務と救急業務の兼務の医師	3.9	15.9	1.0
ｵﾝｺｰﾙの医師	7.5	20.0	2.0
救急担当専従の看護職員	3.6	15.4	2.0
病棟業務と救急業務の兼務の看護職員	1.9	7.9	0.0
救急担当専従の薬剤師	0.2	0.4	0.0
病棟業務と救急業務の兼務の薬剤師	0.7	2.2	0.0
ｵﾝｺｰﾙの薬剤師	0.3	0.5	0.0
救急担当専従の診療放射線技師	0.7	1.2	1.0
ｵﾝｺｰﾙの診療放射線技師	0.5	0.8	0.0
救急担当専従の臨床検査技師	0.7	1.3	0.0
ｵﾝｺｰﾙの臨床検査技師	0.5	0.7	0.0

（注）・すべての職種について人数の記載のあった施設を集計対象とした。
・二次救急医療機関には、当番日の状況を尋ねている。

図表 27　平日準夜帯に救急医療に従事する実人数（0 を除いた集計値）

（単位：人）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
救急担当専従の医師	(n=286)	3.4	3.8	2.0
病棟業務と救急業務の兼務の医師	(n=403)	5.2	18.3	2.0
ｵﾝｺｰﾙの医師	(n=369)	11.0	23.4	7.0
救急担当専従の看護職員	(n=416)	4.7	17.4	3.0
病棟業務と救急業務の兼務の看護職員	(n=210)	4.9	12.1	1.5
救急担当専従の薬剤師	(n=86)	1.1	0.4	1.0
病棟業務と救急業務の兼務の薬剤師	(n=245)	1.5	3.1	1.0
ｵﾝｺｰﾙの薬剤師	(n=143)	1.1	0.4	1.0
救急担当専従の診療放射線技師	(n=308)	1.3	1.3	1.0
ｵﾝｺｰﾙの診療放射線技師	(n=244)	1.2	0.8	1.0
救急担当専従の臨床検査技師	(n=265)	1.4	1.5	1.0
ｵﾝｺｰﾙの臨床検査技師	(n=226)	1.2	0.6	1.0

（注）・すべての職種について人数の記載があり、かつ記載人数が 0 人でないものを集計対象とした。
・二次救急医療機関には、当番日の状況を尋ねている。

図表 28　平日準夜帯に救急医療に従事する実人数（施設種別）

（単位：人）

	(高度)救命救急センターを有する医療機関(n=171)			二次救急医療機関 (n=328)			その他の医療機関 (n=40)		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
救急担当専従の医師	3.8	4.7	2.5	1.0	1.7	0.0	0.3	0.8	0.0
病棟業務と救急業務の兼務の医師	7.8	27.4	3.0	2.1	3.8	1.0	1.4	2.1	1.0
ｵﾝｺｰﾙの医師	12.6	27.1	8.0	5.6	16.0	1.0	1.5	4.1	0.0
救急担当専従の看護職員	7.7	26.7	4.0	1.9	2.9	2.0	0.5	0.7	0.0
病棟業務と救急業務の兼務の看護職員	3.3	12.1	0.0	1.2	5.0	0.0	1.3	2.2	1.0
救急担当専従の薬剤師	0.3	0.5	0.0	0.1	0.4	0.0	0.0	0.2	0.0
病棟業務と救急業務の兼務の薬剤師	1.2	3.4	1.0	0.5	1.3	0.0	0.1	0.3	0.0
ｵﾝｺｰﾙの薬剤師	0.1	0.4	0.0	0.4	0.6	0.0	0.3	0.5	0.0
救急担当専従の診療放射線技師	1.0	0.9	1.0	0.7	1.3	1.0	0.1	0.3	0.0
ｵﾝｺｰﾙの診療放射線技師	0.5	0.7	0.0	0.5	0.9	0.0	0.5	0.5	1.0
救急担当専従の臨床検査技師	1.0	1.2	1.0	0.6	1.3	0.0	0.2	0.5	0.0
ｵﾝｺｰﾙの臨床検査技師	0.4	0.7	0.0	0.5	0.7	0.0	0.5	0.6	0.5

（注）・すべての職種について人数の記載のあった施設を集計対象とした。
・二次救急医療機関には、当番日の状況を尋ねている。

2）平日深夜帯

図表 29　平日深夜帯に救急医療に従事する実人数（n=545）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
救急担当専従の医師	1.7	3.2	1.0
病棟業務と救急業務の兼務の医師	3.8	15.9	1.0
ｵﾝｺｰﾙの医師	7.5	19.9	2.0
救急担当専従の看護職員	3.2	10.7	2.0
病棟業務と救急業務の兼務の看護職員	1.7	6.4	0.0
救急担当専従の薬剤師	0.2	0.4	0.0
病棟業務と救急業務の兼務の薬剤師	0.7	2.2	0.0
ｵﾝｺｰﾙの薬剤師	0.3	0.5	0.0
救急担当専従の診療放射線技師	0.7	1.2	1.0
ｵﾝｺｰﾙの診療放射線技師	0.5	0.8	0.0
救急担当専従の臨床検査技師	0.6	1.2	0.0
ｵﾝｺｰﾙの臨床検査技師	0.5	0.7	0.0

（注）・すべての職種について人数の記載のあった施設を集計対象とした。
・二次救急医療機関には、当番日の状況を尋ねている。

図表 30　平日深夜帯に救急医療に従事する実人数（0 を除いた集計値）

（単位：人）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
救急担当専従の医師	(n=284)	3.3	3.7	2.0
病棟業務と救急業務の兼務の医師	(n=405)	5.1	18.2	2.0
ｵﾝｺｰﾙの医師	(n=372)	11.0	23.3	7.0
救急担当専従の看護職員	(n=412)	4.2	12.2	2.0
病棟業務と救急業務の兼務の看護職員	(n=211)	4.3	9.7	1.0
救急担当専従の薬剤師	(n=85)	1.0	0.2	1.0
病棟業務と救急業務の兼務の薬剤師	(n=246)	1.5	3.1	1.0
ｵﾝｺｰﾙの薬剤師	(n=147)	1.1	0.4	1.0
救急担当専従の診療放射線技師	(n=307)	1.3	1.3	1.0
ｵﾝｺｰﾙの診療放射線技師	(n=250)	1.2	0.8	1.0
救急担当専従の臨床検査技師	(n=265)	1.3	1.4	1.0
ｵﾝｺｰﾙの臨床検査技師	(n=226)	1.2	0.6	1.0

（注）・すべての職種について人数の記載があり、かつ記載人数が 0 人でないものを集計対象とした。
・二次救急医療機関には、当番日の状況を尋ねている。

図表 31　平日深夜帯に救急医療に従事する実人数（施設種別）

（単位：人）

	(高度)救命救急センターを有する医療機関(n=171)			二次救急医療機関(n=331)			その他の医療機関(n=40)		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
救急担当専従の医師	3.5	4.7	2.0	0.9	1.6	0.0	0.3	0.8	0.0
病棟業務と救急業務の兼務の医師	7.7	27.4	3.0	2.1	3.8	1.0	1.4	2.1	1.0
ｵﾝｺｰﾙの医師	12.6	27.1	8.0	5.6	15.9	1.0	1.5	4.1	0.0
救急担当専従の看護職員	6.5	18.2	3.0	1.8	3.4	1.0	0.5	0.6	0.0
病棟業務と救急業務の兼務の看護職員	2.6	9.0	0.0	1.2	4.9	0.0	1.3	2.2	1.0
救急担当専従の薬剤師	0.2	0.5	0.0	0.1	0.3	0.0	0.0	0.2	0.0
病棟業務と救急業務の兼務の薬剤師	1.2	3.4	1.0	0.5	1.3	0.0	0.1	0.3	0.0
ｵﾝｺｰﾙの薬剤師	0.1	0.4	0.0	0.4	0.6	0.0	0.3	0.5	0.0
救急担当専従の診療放射線技師	1.0	0.8	1.0	0.7	1.3	1.0	0.1	0.3	0.0
ｵﾝｺｰﾙの診療放射線技師	0.5	0.7	0.0	0.6	0.9	0.0	0.5	0.5	1.0
救急担当専従の臨床検査技師	0.9	0.9	1.0	0.6	1.3	0.0	0.2	0.5	0.0
ｵﾝｺｰﾙの臨床検査技師	0.4	0.7	0.0	0.5	0.7	0.0	0.5	0.6	0.5

（注）・すべての職種について人数の記載のあった施設を集計対象とした。
・二次救急医療機関には、当番日の状況を尋ねている。

3）休日日勤帯

図表 32　休日日勤帯に救急医療に従事する実人数（n=546）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
救急担当専従の医師	1.9	3.2	1.0
病棟業務と救急業務の兼務の医師	3.5	8.5	1.0
ｵﾝｺｰﾙの医師	6.7	10.5	2.0
救急担当専従の看護職員	3.9	8.4	2.0
病棟業務と救急業務の兼務の看護職員	2.4	12.5	0.0
救急担当専従の薬剤師	0.2	0.6	0.0
病棟業務と救急業務の兼務の薬剤師	0.8	2.0	0.0
ｵﾝｺｰﾙの薬剤師	0.3	0.5	0.0
救急担当専従の診療放射線技師	0.8	0.9	1.0
ｵﾝｺｰﾙの診療放射線技師	0.5	0.9	0.0
救急担当専従の臨床検査技師	0.7	0.9	0.8
ｵﾝｺｰﾙの臨床検査技師	0.5	0.8	0.0

（注）・すべての職種について人数の記載のあった施設を集計対象とした。
・二次救急医療機関には、当番日の状況を尋ねている。

図表 33　休日日勤帯に救急医療に従事する実人数（0 を除いた集計値）

（単位：人）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
救急担当専従の医師	(n=285)	3.6	3.7	3.0
病棟業務と救急業務の兼務の医師	(n=405)	4.7	9.6	2.0
ｵﾝｺｰﾙの医師	(n=370)	9.9	11.5	7.0
救急担当専従の看護職員	(n=411)	5.2	9.4	3.0
病棟業務と救急業務の兼務の看護職員	(n=211)	6.3	19.6	2.0
救急担当専従の薬剤師	(n=91)	1.3	0.6	1.0
病棟業務と救急業務の兼務の薬剤師	(n=260)	1.7	2.7	1.0
ｵﾝｺｰﾙの薬剤師	(n=140)	1.1	0.4	1.0
救急担当専従の診療放射線技師	(n=313)	1.4	0.8	1.0
ｵﾝｺｰﾙの診療放射線技師	(n=239)	1.2	1.0	1.0
救急担当専従の臨床検査技師	(n=274)	1.4	0.8	1.0
ｵﾝｺｰﾙの臨床検査技師	(n=222)	1.2	0.8	1.0

（注）・すべての職種について人数の記載があり、かつ記載人数が 0 人でないものを集計対象とした。
・二次救急医療機関には、当番日の状況を尋ねている。

図表 34　休日日勤帯に救急医療に従事する実人数（施設種別）

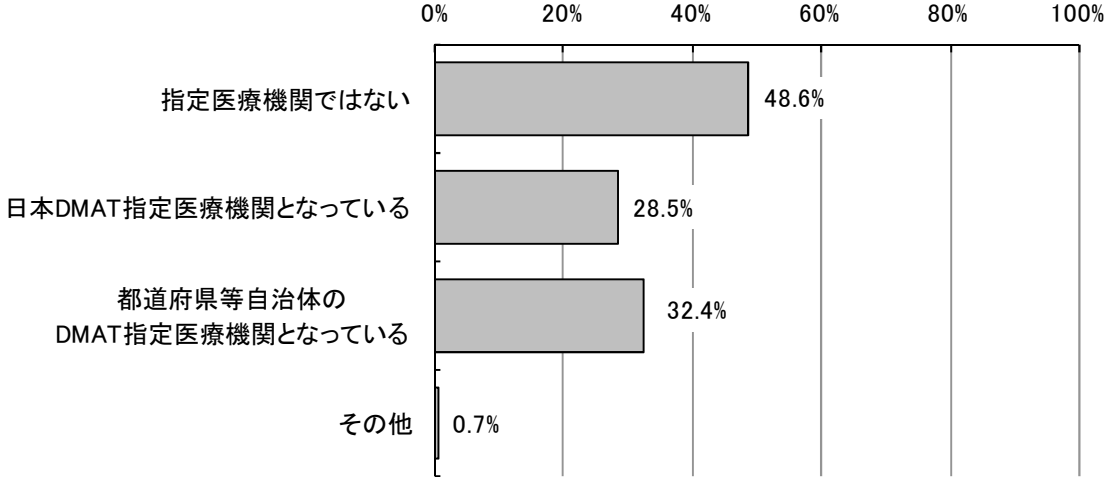
（単位：人）

	(高度)救命救急センターを有する医療機関(n=170)			二次救急医療機関(n=333)			その他の医療機関(n=40)		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
救急担当専従の医師	3.9	4.7	3.0	1.1	1.8	0.0	0.3	0.8	0.0
病棟業務と救急業務の兼務の医師	6.5	13.7	3.0	2.2	4.1	1.0	1.4	2.3	1.0
ｵﾝｺｰﾙの医師	11.3	13.2	8.0	5.0	8.6	1.0	1.6	4.4	0.0
救急担当専従の看護職員	8.0	13.7	5.0	2.2	2.8	2.0	0.5	0.8	0.0
病棟業務と救急業務の兼務の看護職員	4.4	20.1	0.0	1.4	6.5	0.0	2.7	8.2	1.0
救急担当専従の薬剤師	0.3	0.7	0.0	0.2	0.5	0.0	0.1	0.2	0.0
病棟業務と救急業務の兼務の薬剤師	1.6	3.3	1.0	0.5	0.8	0.0	0.2	0.4	0.0
ｵﾝｺｰﾙの薬剤師	0.1	0.4	0.0	0.4	0.6	0.0	0.3	0.5	0.0
救急担当専従の診療放射線技師	1.2	1.1	1.0	0.7	0.8	1.0	0.2	0.4	0.0
ｵﾝｺｰﾙの診療放射線技師	0.5	0.8	0.0	0.6	1.0	0.0	0.5	0.5	1.0
救急担当専従の臨床検査技師	1.1	1.1	1.0	0.6	0.8	0.0	0.3	0.6	0.0
ｵﾝｺｰﾙの臨床検査技師	0.4	0.7	0.0	0.5	0.8	0.0	0.5	0.6	0.5

（注）・すべての職種について人数の記載のあった施設を集計対象とした。
・二次救急医療機関には、当番日の状況を尋ねている。

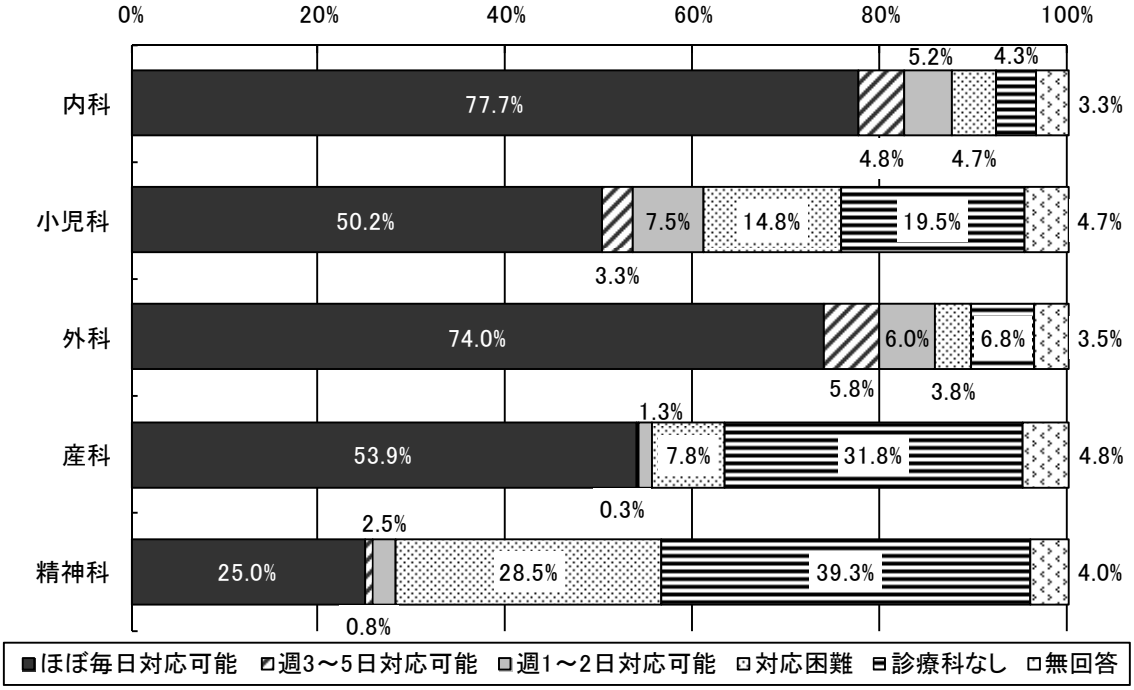
⑤ＤＭＡＴ指定の状況

図表 35　ＤＭＡＴ指定の状況（複数回答、n=601）



⑥夜間（準夜・深夜・早朝）の救急対応

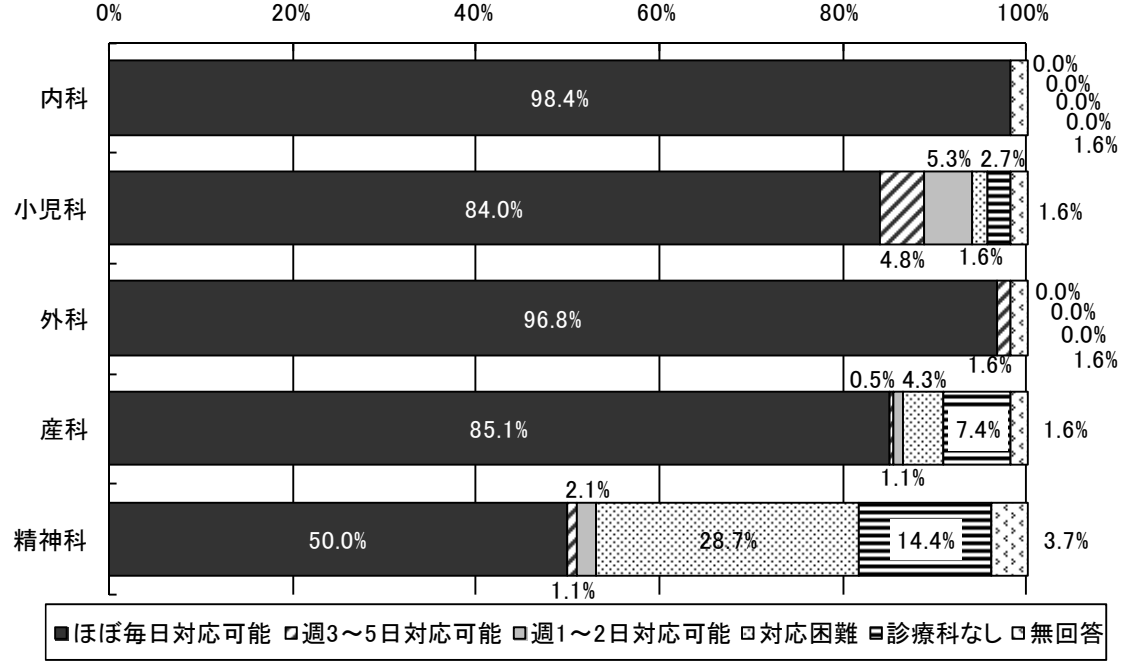
図表 36　夜間（準夜・深夜・早朝）の救急対応（n=601）



（注）「内科」は内科系一般の診療科における救急対応、「外科」は外科系一般の診療科における救急対応について尋ねている。

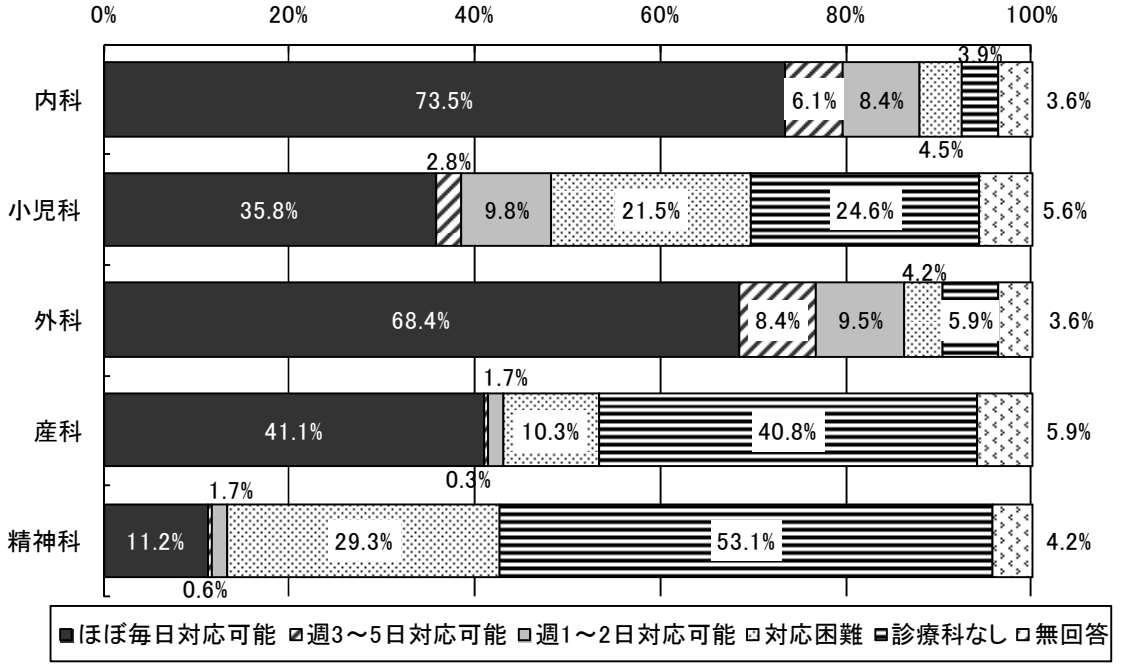
図表 37　夜間（準夜・深夜・早朝）の救急対応

（（高度）救命救急センターを有する医療機関、n=188）



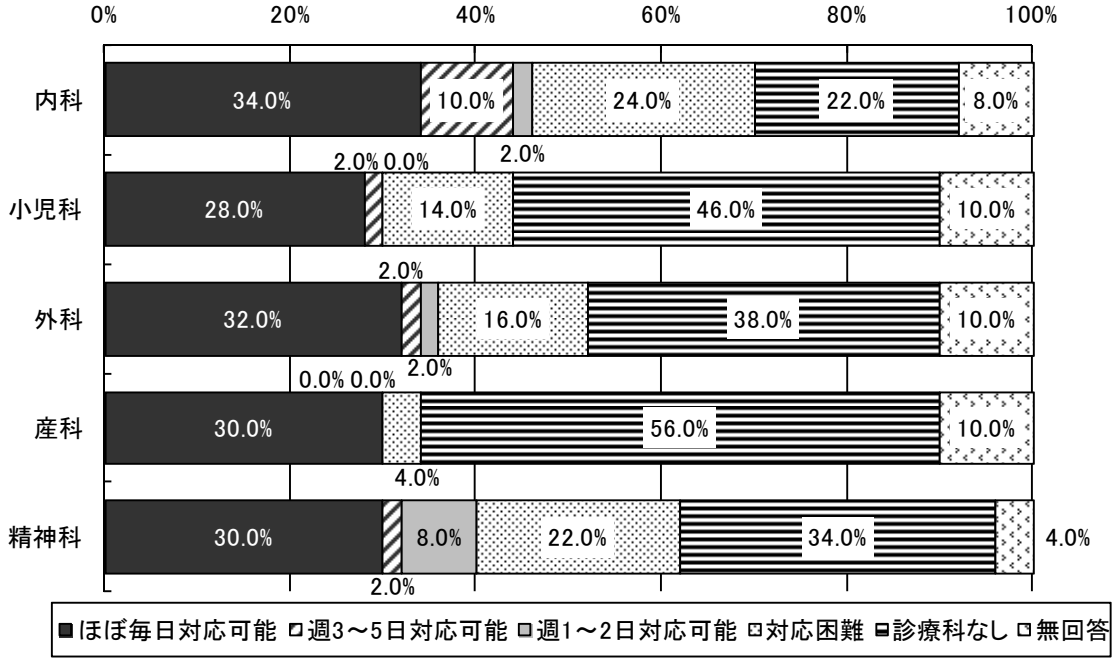
（注）「内科」は内科系一般の診療科における救急対応、「外科」は外科系一般の診療科における救急対応について尋ねている。

図表 38　夜間（準夜・深夜・早朝）の救急対応（二次救急医療機関、n=358）



（注）「内科」は内科系一般の診療科における救急対応、「外科」は外科系一般の診療科における救急対応について尋ねている。

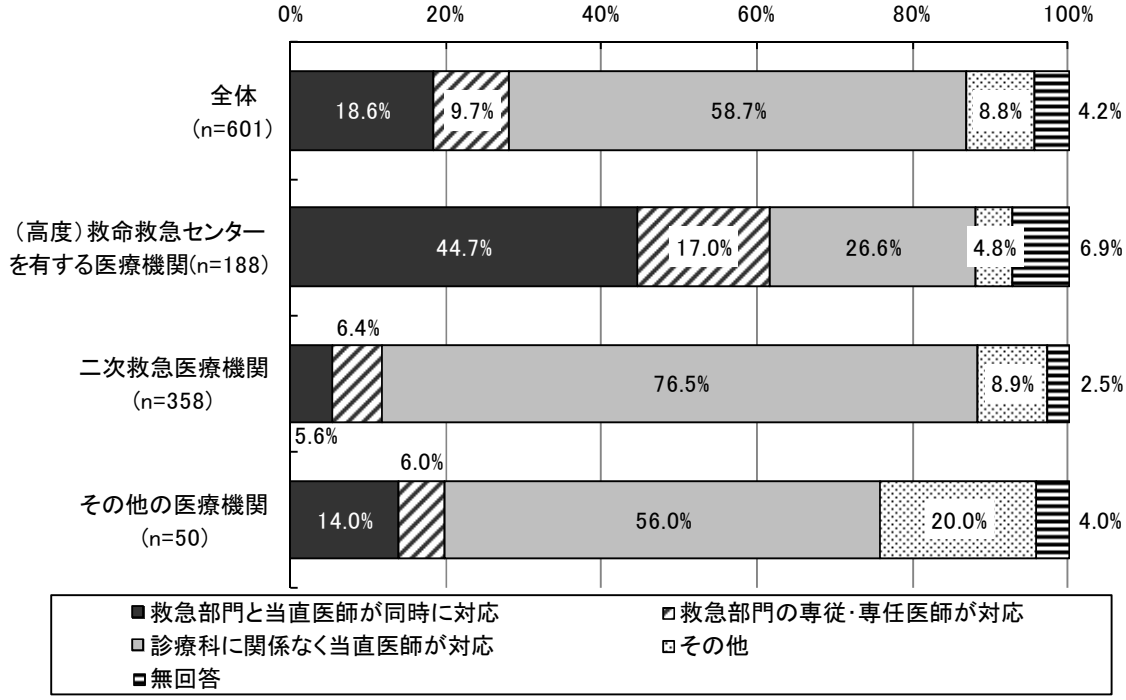
図表 39　夜間（準夜・深夜・早朝）の救急対応（その他の医療機関、n=50）



（注）「内科」は内科系一般の診療科における救急対応、「外科」は外科系一般の診療科における救急対応について尋ねている。

⑦夜間（準夜・深夜・早朝）の救急外来の初期対応

図表 40　夜間（準夜・深夜・早朝）の救急外来の初期対応



⑧救急医療に従事する医師・看護職員の常勤換算人数（平成 26 年 10 月末時点）

1）医師数

図表 41　救急医療に従事する専従・専任の医師数（１施設あたり平均）

（単位：人）

			施設数	平均値	標準偏差	中央値
救急医療に従事する専従・専任の医師数			(n=336)	26.4	36.3	9.2
従事部署別	救命救急センター外来	専従	(n=174)	5.7	40.6	0.0
		専任（兼任）	(n=174)	12.5	24.0	5.0
	救命救急センター病棟	専従	(n=174)	3.4	6.9	0.0
		専任（兼任）	(n=174)	13.9	25.4	5.0
	特定集中治療室	専従	(n=240)	1.8	4.0	0.0
		専任（兼任）	(n=240)	12.2	16.8	7.0
	ハイケアユニット	専従	(n=102)	0.6	2.3	0.0
		専任（兼任）	(n=102)	15.8	21.2	8.0
	小児特定集中治療室	専従	(n=4)	2.3	3.9	0.5
		専任（兼任）	(n=4)	12.7	12.8	11.9
	新生児特定集中治療室	専従	(n=129)	1.0	2.9	0.0
		専任（兼任）	(n=129)	6.5	5.9	5.5
	総合周産期特定集中治療室	専従	(n=74)	3.1	6.2	0.0
		専任（兼任）	(n=71)	12.6	11.4	10.5
	新生児治療回復室	専従	(n=106)	0.8	3.1	0.0
		専任（兼任）	(n=106)	7.4	6.2	6.0

（注）・各許可病床を持つ施設を集計対象とした。
・数値は常勤換算人数である。

図表 42　救急医療に従事する専従・専任の医師数（１施設あたり平均　0 を除いた集計値）

（単位：人）

			施設数	平均値	標準偏差	中央値
救急医療に従事する専従・専任の医師数			(n=280)	31.7	37.6	17.0
従事部署別	救命救急センター外来	専従	(n=74)	13.5	61.6	4.5
		専任（兼任）	(n=120)	18.2	27.1	9.0
	救命救急センター病棟	専従	(n=66)	8.9	8.8	5.6
		専任（兼任）	(n=127)	19.0	28.1	8.9
	特定集中治療室	専従	(n=92)	4.6	5.5	2.0
		専任（兼任）	(n=190)	15.4	17.5	10.0
	ハイケアユニット	専従	(n=16)	3.6	5.1	1.0
		専任（兼任）	(n=85)	18.9	21.9	12.0
	小児特定集中治療室	専従	(n=2)	4.5	4.9	4.5
		専任（兼任）	(n=3)	16.9	11.8	19.7
	新生児特定集中治療室	専従	(n=34)	3.8	4.7	2.5
		専任（兼任）	(n=111)	7.6	5.7	6.0
	総合周産期特定集中治療室	専従	(n=24)	9.7	7.6	7.5
		専任（兼任）	(n=62)	14.4	11.1	13.0
	新生児治療回復室	専従	(n=16)	5.6	6.2	4.0
		専任（兼任）	(n=93)	8.4	5.9	7.0

（注）・各許可病床を持ち、かつ記入人数が 0 でない施設を集計対象とした。
・数値は常勤換算人数である。

図表 43　救急医療に従事する専従・専任の医師数（10 床あたり平均）

（単位：人）

			施設数	平均値	標準偏差	中央値
従事部署別	救命救急センター病棟	専従	(n=174)	1.6	3.2	0.0
		専任（兼任）	(n=174)	6.7	13.0	2.0
	特定集中治療室	専従	(n=240)	1.7	3.4	0.0
		専任（兼任）	(n=240)	17.1	46.5	8.2
	ハイケアユニット	専従	(n=102)	0.5	1.7	0.0
		専任（兼任）	(n=102)	19.6	29.2	11.9
	小児特定集中治療室	専従	(n=4)	2.9	4.8	0.8
		専任（兼任）	(n=4)	15.1	15.3	13.8
	新生児特定集中治療室	専従	(n=129)	1.3	3.3	0.0
		専任（兼任）	(n=129)	10.2	9.3	7.8
	総合周産期特定集中治療室	専従	(n=74)	1.7	3.2	0.0
		専任（兼任）	(n=71)	7.4	7.9	5.6
	新生児治療回復室	専従	(n=106)	0.9	4.4	0.0
		専任（兼任）	(n=106)	6.4	5.8	4.8

（注）・各許可病床を持つ施設を集計対象とした。
・数値は常勤換算人数である。

図表 44　救急医療に従事する専従・専任の医師数（10 床あたり平均　0 を除いた集計値）

（単位：人）

			施設数	平均値	標準偏差	中央値
従事部署別	救命救急センター病棟	専従	(n=66)	4.1	4.0	3.1
		専任（兼任）	(n=127)	9.1	14.4	3.8
	特定集中治療室	専従	(n=92)	4.3	4.3	2.5
		専任（兼任）	(n=190)	21.6	51.3	11.6
	ハイケアユニット	専従	(n=16)	3.0	3.3	1.5
		専任（兼任）	(n=85)	23.5	30.5	16.0
	小児特定集中治療室	専従	(n=2)	5.8	5.9	5.8
		専任（兼任）	(n=3)	20.1	14.1	22.5
	新生児特定集中治療室	専従	(n=34)	5.0	4.8	3.3
		専任（兼任）	(n=111)	11.9	9.0	10.0
	総合周産期特定集中治療室	専従	(n=24)	5.2	3.6	4.2
		専任（兼任）	(n=62)	8.4	7.9	6.5
	新生児治療回復室	専従	(n=16)	5.9	10.3	2.8
		専任（兼任）	(n=93)	7.3	5.6	5.0

（注）・各許可病床を持ち、かつ記入人数が 0 でない施設を集計対象とした。
・数値は常勤換算人数である。

2）看護職員数

図表 45　救急医療に従事する専従・専任の看護職員数（１施設あたり平均）

（単位：人）

			施設数	平均値	標準偏差	中央値
救急医療に従事する専従･専任の看護職員数			(n=337)	62.3	66.9	38.0
従事部署別	救命救急センター外来	専従	(n=174)	12.8	14.8	9.8
		専任（兼任）	(n=174)	6.6	13.2	0.0
	救命救急センター病棟	専従	(n=174)	37.0	28.9	35.0
		専任（兼任）	(n=174)	9.2	18.3	0.0
	特定集中治療室	専従	(n=255)	27.0	22.2	24.7
		専任（兼任）	(n=255)	6.1	17.2	0.0
	ハイケアユニット	専従	(n=112)	15.4	13.3	14.0
		専任（兼任）	(n=112)	5.6	13.1	0.0
	小児特定集中治療室	専従	(n=5)	15.3	17.2	10.0
		専任（兼任）	(n=5)	3.4	7.6	0.0
	新生児特定集中治療室	専従	(n=133)	13.7	9.5	15.0
		専任（兼任）	(n=133)	3.7	8.9	0.0
	総合周産期特定集中治療室	専従	(n=74)	24.8	24.9	17.5
		専任（兼任）	(n=74)	8.8	19.5	0.0
	新生児治療回復室	専従	(n=110)	13.7	9.8	13.0
		専任（兼任）	(n=110)	3.6	9.3	0.0

（注）・各許可病床を持つ施設を集計対象とした。
・数値は常勤換算人数である。

図表 46　救急医療に従事する専従・専任の看護職員数
（１施設あたり平均　0 を除いた集計値）

（単位：人）

			施設数	平均値	標準偏差	中央値
救急医療に従事する専従･専任の看護職員数			(n=285)	73.7	66.8	63.0
従事部署別	救命救急センター外来	専従	(n=108)	20.6	13.8	19.1
		専任（兼任）	(n=62)	18.4	16.6	14.4
	救命救急センター病棟	専従	(n=139)	46.4	24.8	43.6
		専任（兼任）	(n=49)	32.6	20.7	32.0
	特定集中治療室	専従	(n=212)	32.5	20.4	29.0
		専任（兼任）	(n=57)	27.5	27.4	26.0
	ハイケアユニット	専従	(n=87)	19.8	11.8	18.0
		専任（兼任）	(n=33)	19.1	18.2	16.0
	小児特定集中治療室	専従	(n=3)	25.5	14.2	28.6
		専任（兼任）	(n=1)	17.0	0.0	17.0
	新生児特定集中治療室	専従	(n=108)	16.9	7.6	16.0
		専任（兼任）	(n=33)	15.0	12.3	13.0
	総合周産期特定集中治療室	専従	(n=59)	31.1	24.1	22.0
		専任（兼任）	(n=18)	36.2	24.1	31.0
	新生児治療回復室	専従	(n=92)	16.4	8.4	15.2
		専任（兼任）	(n=24)	16.5	13.6	15.5

（注）・各許可病床を持ち、かつ記入人数が 0 でない施設を集計対象とした。
・数値は常勤換算人数である。

図表 47　救急医療に従事する専従・専任の看護職員数（10 床あたり平均）

（単位：人）

			施設数	平均値	標準偏差	中央値
従事部署別	救命救急センター病棟	専従	(n=174)	15.9	11.8	16.7
		専任（兼任）	(n=174)	4.6	9.4	0.0
	特定集中治療室	専従	(n=255)	27.6	15.2	31.7
		専任（兼任）	(n=255)	6.9	17.4	0.0
	ハイケアユニット	専従	(n=112)	15.2	10.6	17.1
		専任（兼任）	(n=112)	8.1	19.9	0.0
	小児特定集中治療室	専従	(n=5)	16.8	16.9	16.7
		専任（兼任）	(n=5)	5.7	12.7	0.0
	新生児特定集中治療室	専従	(n=133)	19.1	11.3	22.5
		専任（兼任）	(n=133)	5.8	14.3	0.0
	総合周産期特定集中治療室	専従	(n=74)	12.6	9.5	10.1
		専任（兼任）	(n=74)	6.6	19.6	0.0
	新生児治療回復室	専従	(n=110)	10.3	5.5	11.5
		専任（兼任）	(n=110)	3.3	9.9	0.0

（注）・各許可病床を持つ施設を集計対象とした。
・数値は常勤換算人数である。

図表 48　救急医療に従事する専従・専任の看護職員数
（10 床あたり平均　0 を除いた集計値）

（単位：人）

			施設数	平均値	標準偏差	中央値
従事部署別	救命救急センター病棟	専従	(n=139)	19.9	9.8	19.0
		専任（兼任）	(n=49)	16.4	11.1	15.0
	特定集中治療室	専従	(n=212)	33.2	9.5	33.3
		専任（兼任）	(n=57)	30.9	24.7	32.0
	ハイケアユニット	専従	(n=87)	19.5	7.7	18.8
		専任（兼任）	(n=33)	27.5	28.6	17.5
	小児特定集中治療室	専従	(n=3)	28.0	10.0	31.7
		専任（兼任）	(n=1)	28.3	0.0	28.3
	新生児特定集中治療室	専従	(n=108)	23.6	7.3	24.4
		専任（兼任）	(n=33)	23.3	20.6	20.0
	総合周産期特定集中治療室	専従	(n=59)	15.8	7.9	15.8
		専任（兼任）	(n=18)	27.2	32.6	20.7
	新生児治療回復室	専従	(n=92)	12.3	3.4	12.1
		専任（兼任）	(n=24)	15.2	16.8	9.7

（注）・各許可病床を持ち、かつ記入人数が 0 でない施設を集計対象とした。
・数値は常勤換算人数である。

⑨施設に従事する医師数（平成 26 年 10 月末時点　常勤換算人数）

図表 49　施設に従事する医師数（n=544）

（単位：人）

	常勤			非常勤(常勤換算)		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
精神科の医師	2.9	5.0	1.0	0.7	1.9	0.0
(うち)精神保健指定医	1.9	3.3	0.0	0.2	0.7	0.0
(うち)上記以外の精神科医	0.9	2.2	0.0	0.3	1.4	0.0
小児科の医師	7.1	9.2	5.0	1.0	2.5	0.1
産科の医師	5.0	6.0	4.0	0.7	1.9	0.0
メディカルコントロールの業務に携わる医師	2.7	9.1	0.0	0.1	0.5	0.0

図表 50　施設に従事する医師数

（(高度)救命救急センターを有する医療機関、n=181）

（単位：人）

	常勤			非常勤(常勤換算)		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
精神科の医師	4.7	5.8	2.0	1.1	2.5	0.1
(うち)精神保健指定医	2.9	3.6	1.0	0.3	0.9	0.0
(うち)上記以外の精神科医	1.6	2.8	0.0	0.6	1.9	0.0
小児科の医師	11.4	9.9	9.0	1.6	3.2	0.3
産科の医師	8.4	6.0	7.0	1.1	2.5	0.2
メディカルコントロールの業務に携わる医師	5.1	10.9	1.0	0.1	0.5	0.0

図表 51　施設に従事する医師数（二次救急医療機関、n=313）

（単位：人）

	常勤			非常勤(常勤換算)		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
精神科の医師	1.6	4.0	0.0	0.4	1.2	0.0
(うち)精神保健指定医	1.1	2.7	0.0	0.1	0.4	0.0
(うち)上記以外の精神科医	0.5	1.7	0.0	0.1	0.7	0.0
小児科の医師	4.7	7.0	2.0	0.7	1.9	0.0
産科の医師	3.3	5.4	2.0	0.5	1.5	0.0
メディカルコントロールの業務に携わる医師	1.6	8.2	0.0	0.0	0.6	0.0

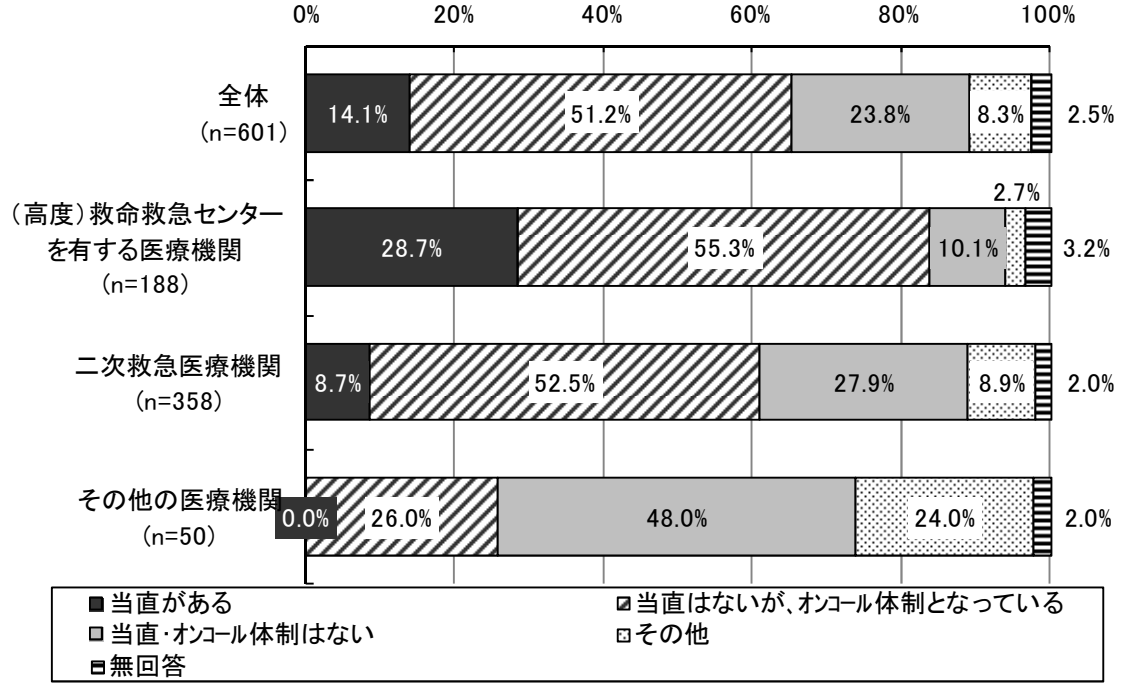
図表 52　施設に従事する医師数（その他の医療機関、n=45）

（単位：人）

	常勤			非常勤(常勤換算)		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
精神科の医師	5.0	5.3	3.0	1.6	2.7	0.4
(うち)精神保健指定医	3.7	4.1	2.0	0.5	0.8	0.2
(うち)上記以外の精神科医	1.2	1.8	0.0	0.8	2.1	0.0
小児科の医師	6.4	12.3	0.0	1.1	2.5	0.0
産科の医師	2.6	4.5	0.0	0.7	1.8	0.0
メディカルコントロールの業務に携わる医師	0.3	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0

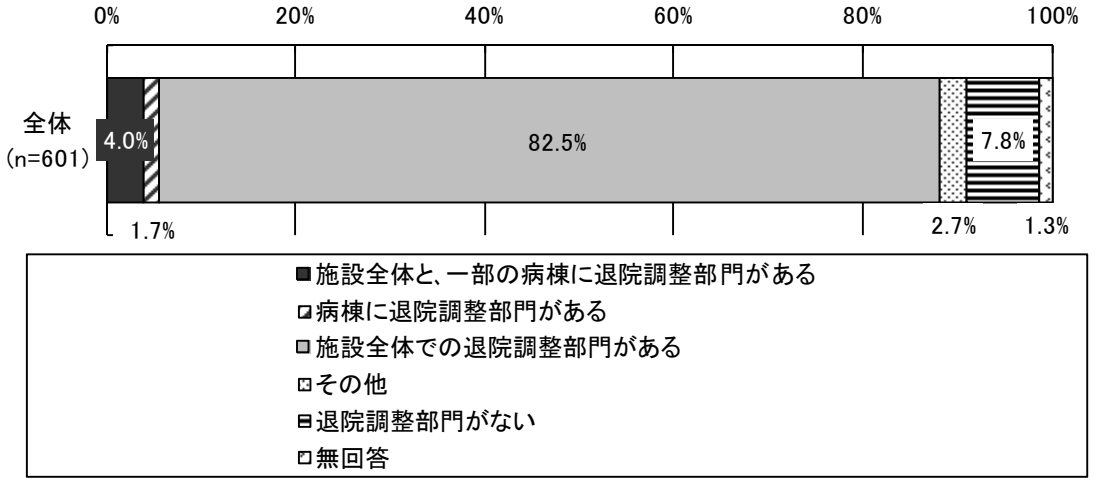
⑩臨床工学技士（外来透析担当を除く）の当直の有無

図表 53　臨床工学技士（外来透析担当を除く）の当直の有無



⑪退院調整を行う部門（部署）の有無

図表 54　退院調整を行う部門（部署）の有無



⑫退院調整の実施体制

1）退院調整を行う部門（部署）の職員数

図表 55　退院調整を行う部門（部署）の職員数（n=517）

（単位：人）

	専従			専任（兼任）		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
医師	0.0	0.1	0.0	0.3	0.6	0.0
看護師（保健師、助産師を含む）	1.3	1.9	1.0	0.7	1.2	0.0
准看護師	0.0	0.1	0.0	0.0	0.3	0.0
社会福祉士	1.8	2.4	1.0	1.3	2.1	0.0
精神保健福祉士	0.2	0.8	0.0	0.2	0.8	0.0
その他の相談員	0.1	0.4	0.0	0.1	0.4	0.0
事務職員	0.6	1.6	0.0	0.3	0.9	0.0
その他	0.0	0.2	0.0	0.0	0.3	0.0
合計	4.1	5.0	2.0	3.0	3.5	2.0

（注）・「施設全体での退院調整部門と、一部の病棟に退院調整部門がある」または「施設全体での退院調整部門がある」施設を集計対象とした。
・「専従」は退院調整担当者が、病棟内の患者に対し、退院調整業務のみに従事している場合を指す。
・「専任（兼任）」は、退院調整担当者が、受け持ち患者の看護等以外に、病棟内の患者に対する退院調整業務に従事している場合を指す。

2）病棟に配置されている退院調整担当者数

図表 56　病棟に配置されている退院調整担当者数（n=33）

（単位：人）

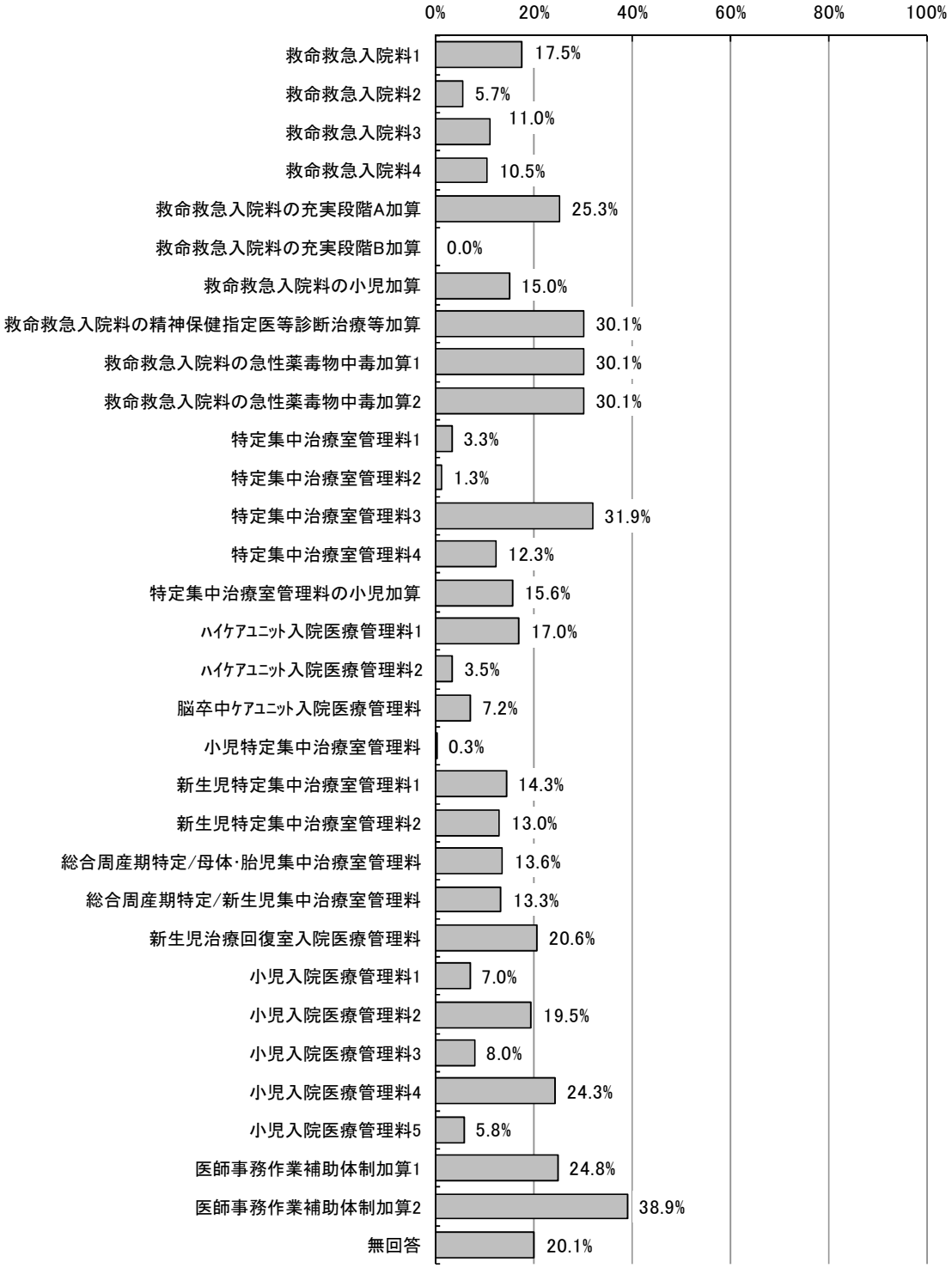
	専従			専任（兼任）		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
医師				0.0	0.2	0.0
看護師（保健師、助産師を含む）	0.2	0.4	0.0	3.3	5.1	1.0
准看護師	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	0.0
社会福祉士	0.2	0.4	0.0	0.1	0.4	0.0
精神保健福祉士	0.2	0.6	0.0	0.1	0.3	0.0
その他の相談員	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0
事務職員	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	0.5	0.8	0.0	3.6	4.9	1.0

（注）・「施設全体での退院調整部門と、一部の病棟に退院調整部門がある」または「病棟に退院調整部門がある」施設を集計対象とした。
・「専従」は退院調整担当者が、病棟内の患者に対し、退院調整業務のみに従事している場合を指す。
・「専任（兼任）」は、退院調整担当者が、受け持ち患者の看護等以外に、病棟内の患者に対する退院調整業務に従事している場合を指す。

（３）救急医療に関する施設基準及びその算定状況等

①各施設基準等の届出状況

図表 57　届出があるもの（複数回答、n=601）



②各施設基準等の届出時期

1）救命救急入院料１

図表 58　救命救急入院料１の届出時期

	施設数	割合
～平成14年3月	14	13.3%
平成14年4月～平成15年3月	7	6.7%
平成15年4月～平成16年3月	0	0.0%
平成16年4月～平成17年3月	1	1.0%
平成17年4月～平成18年3月	3	2.9%
平成18年4月～平成19年3月	5	4.8%
平成19年4月～平成20年3月	3	2.9%
平成20年4月～平成21年3月	3	2.9%
平成21年4月～平成22年3月	2	1.9%
平成22年4月～平成23年3月	17	16.2%
平成23年4月～平成24年3月	10	9.5%
平成24年4月～平成25年3月	11	10.5%
平成25年4月～平成26年3月	14	13.3%
平成26年4月～	10	9.5%
不明	5	4.8%
合計	105	100.0%

2）救命救急入院料２

図表 59　救命救急入院料２の届出時期

	施設数	割合
～平成14年3月	5	14.7%
平成14年4月～平成15年3月	2	5.9%
平成15年4月～平成16年3月	0	0.0%
平成16年4月～平成17年3月	0	0.0%
平成17年4月～平成18年3月	1	2.9%
平成18年4月～平成19年3月	2	5.9%
平成19年4月～平成20年3月	1	2.9%
平成20年4月～平成21年3月	1	2.9%
平成21年4月～平成22年3月	0	0.0%
平成22年4月～平成23年3月	12	35.3%
平成23年4月～平成24年3月	2	5.9%
平成24年4月～平成25年3月	4	11.8%
平成25年4月～平成26年3月	0	0.0%
平成26年4月～	2	5.9%
不明	2	5.9%
合計	34	100.0%

3）救命救急入院料３

図表 60　救命救急入院料３の届出時期

	施設数	割合
～平成14年3月	3	4.5%
平成14年4月～平成15年3月	1	1.5%
平成15年4月～平成16年3月	1	1.5%
平成16年4月～平成17年3月	0	0.0%
平成17年4月～平成18年3月	0	0.0%
平成18年4月～平成19年3月	0	0.0%
平成19年4月～平成20年3月	1	1.5%
平成20年4月～平成21年3月	2	3.0%
平成21年4月～平成22年3月	1	1.5%
平成22年4月～平成23年3月	30	45.5%
平成23年4月～平成24年3月	1	1.5%
平成24年4月～平成25年3月	12	18.2%
平成25年4月～平成26年3月	8	12.1%
平成26年4月～	3	4.5%
不明	3	4.5%
合計	66	100.0%

4）救命救急入院料４

図表 61　救命救急入院料４の届出時期

	施設数	割合
～平成14年3月	2	3.2%
平成14年4月～平成15年3月	1	1.6%
平成15年4月～平成16年3月	0	0.0%
平成16年4月～平成17年3月	0	0.0%
平成17年4月～平成18年3月	0	0.0%
平成18年4月～平成19年3月	2	3.2%
平成19年4月～平成20年3月	1	1.6%
平成20年4月～平成21年3月	1	1.6%
平成21年4月～平成22年3月	0	0.0%
平成22年4月～平成23年3月	38	60.3%
平成23年4月～平成24年3月	4	6.3%
平成24年4月～平成25年3月	2	3.2%
平成25年4月～平成26年3月	7	11.1%
平成26年4月～	2	3.2%
不明	3	4.8%
合計	63	100.0%

5）救命救急入院料の充実段階 A 加算

図表 62　救命救急入院料の充実段階 A 加算の届出時期

	施設数	割合
～平成14年3月	4	2.6%
平成14年4月～平成15年3月	6	4.0%
平成15年4月～平成16年3月	0	0.0%
平成16年4月～平成17年3月	0	0.0%
平成17年4月～平成18年3月	2	1.3%
平成18年4月～平成19年3月	9	6.0%
平成19年4月～平成20年3月	6	4.0%
平成20年4月～平成21年3月	3	2.0%
平成21年4月～平成22年3月	4	2.6%
平成22年4月～平成23年3月	66	43.7%
平成23年4月～平成24年3月	10	6.6%
平成24年4月～平成25年3月	18	11.9%
平成25年4月～平成26年3月	11	7.3%
平成26年4月～	5	3.3%
不明	7	4.6%
合計	151	100.0%

6）救命救急入院料の充実段階 B 加算

図表 63　救命救急入院料の充実段階 B 加算の届出時期

	施設数	割合
～平成14年3月	0	－
平成14年4月～平成15年3月	0	－
平成15年4月～平成16年3月	0	－
平成16年4月～平成17年3月	0	－
平成17年4月～平成18年3月	0	－
平成18年4月～平成19年3月	0	－
平成19年4月～平成20年3月	0	－
平成20年4月～平成21年3月	0	－
平成21年4月～平成22年3月	0	－
平成22年4月～平成23年3月	0	－
平成23年4月～平成24年3月	0	－
平成24年4月～平成25年3月	0	－
平成25年4月～平成26年3月	0	－
平成26年4月～	0	－
不明	0	－
合計	0	－

7）救命救急入院料の小児加算

図表 64　救命救急入院料の小児加算の届出時期

	施設数	割合
～平成14年3月	1	1.1%
平成14年4月～平成15年3月	1	1.1%
平成15年4月～平成16年3月	0	0.0%
平成16年4月～平成17年3月	0	0.0%
平成17年4月～平成18年3月	1	1.1%
平成18年4月～平成19年3月	0	0.0%
平成19年4月～平成20年3月	1	1.1%
平成20年4月～平成21年3月	1	1.1%
平成21年4月～平成22年3月	1	1.1%
平成22年4月～平成23年3月	57	63.3%
平成23年4月～平成24年3月	5	5.6%
平成24年4月～平成25年3月	6	6.7%
平成25年4月～平成26年3月	5	5.6%
平成26年4月～	5	5.6%
不明	6	6.7%
合計	90	100.0%

8）救命救急入院料の精神保健指定医等診断治療等加算

図表 65　救命救急入院料の精神保健指定医等診断治療等加算の届出時期

	施設数	割合
～平成14年3月	0	0.0%
平成14年4月～平成15年3月	1	3.4%
平成15年4月～平成16年3月	0	0.0%
平成16年4月～平成17年3月	0	0.0%
平成17年4月～平成18年3月	0	0.0%
平成18年4月～平成19年3月	2	6.9%
平成19年4月～平成20年3月	0	0.0%
平成20年4月～平成21年3月	8	27.6%
平成21年4月～平成22年3月	0	0.0%
平成22年4月～平成23年3月	8	27.6%
平成23年4月～平成24年3月	2	6.9%
平成24年4月～平成25年3月	3	10.3%
平成25年4月～平成26年3月	3	10.3%
平成26年4月～	2	6.9%
不明	0	0.0%
合計	29	100.0%

9）特定集中治療室管理料１

図表 66　特定集中治療室管理料１の届出時期

	施設数	割合
平成26年1月	0	0.0%
平成26年2月	0	0.0%
平成26年3月	0	0.0%
平成26年4月	5	25.0%
平成26年5月	4	20.0%
平成26年6月	2	10.0%
平成26年7月	5	25.0%
平成26年8月	0	0.0%
平成26年9月	2	10.0%
平成26年10月	2	10.0%
平成26年11月	0	0.0%
平成26年12月	0	0.0%
不明	0	0.0%
合計	20	100.0%

10）特定集中治療室管理料２

図表 67　特定集中治療室管理料２の届出時期

	施設数	割合
平成26年1月	0	0.0%
平成26年2月	0	0.0%
平成26年3月	0	0.0%
平成26年4月	1	12.5%
平成26年5月	2	25.0%
平成26年6月	2	25.0%
平成26年7月	1	12.5%
平成26年8月	0	0.0%
平成26年9月	1	12.5%
平成26年10月	1	12.5%
平成26年11月	0	0.0%
平成26年12月	0	0.0%
不明	0	0.0%
合計	8	100.0%

11）特定集中治療室管理料３

図表 68　特定集中治療室管理料３の届出時期

	施設数	割合
～平成14年3月	24	12.6%
平成14年4月～平成15年3月	6	3.1%
平成15年4月～平成16年3月	17	8.9%
平成16年4月～平成17年3月	4	2.1%
平成17年4月～平成18年3月	3	1.6%
平成18年4月～平成19年3月	22	11.5%
平成19年4月～平成20年3月	8	4.2%
平成20年4月～平成21年3月	6	3.1%
平成21年4月～平成22年3月	12	6.3%
平成22年4月～平成23年3月	36	18.8%
平成23年4月～平成24年3月	4	2.1%
平成24年4月～平成25年3月	11	5.8%
平成25年4月～平成26年3月	10	5.2%
平成26年4月～	18	9.4%
不明	10	5.2%
合計	191	100.0%

12）特定集中治療室管理料４

図表 69　特定集中治療室管理料４

	施設数	割合
～平成14年3月	4	5.5%
平成14年4月～平成15年3月	1	1.4%
平成15年4月～平成16年3月	3	4.1%
平成16年4月～平成17年3月	0	0.0%
平成17年4月～平成18年3月	2	2.7%
平成18年4月～平成19年3月	2	2.7%
平成19年4月～平成20年3月	0	0.0%
平成20年4月～平成21年3月	0	0.0%
平成21年4月～平成22年3月	2	2.7%
平成22年4月～平成23年3月	28	38.4%
平成23年4月～平成24年3月	3	4.1%
平成24年4月～平成25年3月	8	11.0%
平成25年4月～平成26年3月	8	11.0%
平成26年4月～	6	8.2%
不明	6	8.2%
合計	73	100.0%

13）特定集中治療室管理料の小児加算

図表 70　特定集中治療室管理料の小児加算の届出時期

	施設数	割合
～平成14年3月	1	1.1%
平成14年4月～平成15年3月	0	0.0%
平成15年4月～平成16年3月	0	0.0%
平成16年4月～平成17年3月	0	0.0%
平成17年4月～平成18年3月	0	0.0%
平成18年4月～平成19年3月	1	1.1%
平成19年4月～平成20年3月	0	0.0%
平成20年4月～平成21年3月	0	0.0%
平成21年4月～平成22年3月	0	0.0%
平成22年4月～平成23年3月	60	63.8%
平成23年4月～平成24年3月	5	5.3%
平成24年4月～平成25年3月	10	10.6%
平成25年4月～平成26年3月	5	5.3%
平成26年4月～	4	4.3%
不明	8	8.5%
合計	94	100.0%

14）ハイケアユニット入院医療管理料１

図表 71　ハイケアユニット入院医療管理料１の届出時期

	施設数	割合
～平成14年3月	0	0.0%
平成14年4月～平成15年3月	0	0.0%
平成15年4月～平成16年3月	0	0.0%
平成16年4月～平成17年3月	3	2.9%
平成17年4月～平成18年3月	1	1.0%
平成18年4月～平成19年3月	0	0.0%
平成19年4月～平成20年3月	3	2.9%
平成20年4月～平成21年3月	4	3.9%
平成21年4月～平成22年3月	2	2.0%
平成22年4月～平成23年3月	15	14.7%
平成23年4月～平成24年3月	7	6.9%
平成24年4月～平成25年3月	12	11.8%
平成25年4月～平成26年3月	6	5.9%
平成26年4月～	49	48.0%
不明	0	0.0%
合計	102	100.0%

15）ハイケアユニット入院医療管理料２

図表 72　ハイケアユニット入院医療管理料２の届出時期

	施設数	割合
～平成14年3月	0	0.0%
平成14年4月～平成15年3月	0	0.0%
平成15年4月～平成16年3月	0	0.0%
平成16年4月～平成17年3月	1	4.8%
平成17年4月～平成18年3月	0	0.0%
平成18年4月～平成19年3月	1	4.8%
平成19年4月～平成20年3月	0	0.0%
平成20年4月～平成21年3月	0	0.0%
平成21年4月～平成22年3月	0	0.0%
平成22年4月～平成23年3月	2	9.5%
平成23年4月～平成24年3月	3	14.3%
平成24年4月～平成25年3月	6	28.6%
平成25年4月～平成26年3月	2	9.5%
平成26年4月～	6	28.6%
不明	0	0.0%
合計	21	100.0%

16）脳卒中ケアユニット入院医療管理料

図表 73　脳卒中ケアユニット入院医療管理料の届出時期

	施設数	割合
～平成14年3月	0	0.0%
平成14年4月～平成15年3月	0	0.0%
平成15年4月～平成16年3月	0	0.0%
平成16年4月～平成17年3月	0	0.0%
平成17年4月～平成18年3月	0	0.0%
平成18年4月～平成19年3月	5	11.6%
平成19年4月～平成20年3月	3	7.0%
平成20年4月～平成21年3月	5	11.6%
平成21年4月～平成22年3月	4	9.3%
平成22年4月～平成23年3月	4	9.3%
平成23年4月～平成24年3月	5	11.6%
平成24年4月～平成25年3月	7	16.3%
平成25年4月～平成26年3月	5	11.6%
平成26年4月～	4	9.3%
不明	1	2.3%
合計	43	100.0%

17）小児特定集中治療室管理料

図表 74　小児特定集中治療室管理料の届出時期

	施設数	割合
～平成14年3月	0	0.0%
平成14年4月～平成15年3月	0	0.0%
平成15年4月～平成16年3月	0	0.0%
平成16年4月～平成17年3月	0	0.0%
平成17年4月～平成18年3月	0	0.0%
平成18年4月～平成19年3月	0	0.0%
平成19年4月～平成20年3月	0	0.0%
平成20年4月～平成21年3月	0	0.0%
平成21年4月～平成22年3月	0	0.0%
平成22年4月～平成23年3月	0	0.0%
平成23年4月～平成24年3月	0	0.0%
平成24年4月～平成25年3月	0	0.0%
平成25年4月～平成26年3月	0	0.0%
平成26年4月～	2	100.0%
不明	0	0.0%
合計	2	100.0%

18）新生児特定集中治療室管理料１

図表 75　新生児特定集中治療室管理料１の届出時期

	施設数	割合
～平成14年3月	17	19.8%
平成14年4月～平成15年3月	2	2.3%
平成15年4月～平成16年3月	5	5.8%
平成16年4月～平成17年3月	3	3.5%
平成17年4月～平成18年3月	5	5.8%
平成18年4月～平成19年3月	6	7.0%
平成19年4月～平成20年3月	7	8.1%
平成20年4月～平成21年3月	5	5.8%
平成21年4月～平成22年3月	7	8.1%
平成22年4月～平成23年3月	9	10.5%
平成23年4月～平成24年3月	2	2.3%
平成24年4月～平成25年3月	8	9.3%
平成25年4月～平成26年3月	3	3.5%
平成26年4月～	5	5.8%
不明	2	2.3%
合計	86	100.0%

19）新生児特定集中治療室管理料２

図表 76　新生児特定集中治療室管理料２の届出時期

	施設数	割合
～平成14年3月	2	2.6%
平成14年4月～平成15年3月	0	0.0%
平成15年4月～平成16年3月	0	0.0%
平成16年4月～平成17年3月	0	0.0%
平成17年4月～平成18年3月	0	0.0%
平成18年4月～平成19年3月	0	0.0%
平成19年4月～平成20年3月	0	0.0%
平成20年4月～平成21年3月	0	0.0%
平成21年4月～平成22年3月	1	1.3%
平成22年4月～平成23年3月	15	19.2%
平成23年4月～平成24年3月	5	6.4%
平成24年4月～平成25年3月	8	10.3%
平成25年4月～平成26年3月	9	11.5%
平成26年4月～	36	46.2%
不明	2	2.6%
合計	78	100.0%

20）総合周産期特定集中治療室管理料　母体･胎児集中治療室管理料

図表 77　総合周産期特定集中治療室管理料　母体･胎児集中治療室管理料の届出時期

	施設数	割合
～平成14年3月	8	9.8%
平成14年4月～平成15年3月	1	1.2%
平成15年4月～平成16年3月	2	2.4%
平成16年4月～平成17年3月	5	6.1%
平成17年4月～平成18年3月	8	9.8%
平成18年4月～平成19年3月	4	4.9%
平成19年4月～平成20年3月	3	3.7%
平成20年4月～平成21年3月	3	3.7%
平成21年4月～平成22年3月	3	3.7%
平成22年4月～平成23年3月	9	11.0%
平成23年4月～平成24年3月	8	9.8%
平成24年4月～平成25年3月	13	15.9%
平成25年4月～平成26年3月	4	4.9%
平成26年4月～	5	6.1%
不明	6	7.3%
合計	82	100.0%

21）総合周産期特定集中治療室管理料　新生児集中治療室管理料

図表 78　総合周産期特定集中治療室管理料　新生児集中治療室管理料の届出時期

	施設数	割合
～平成14年3月	8	10.1%
平成14年4月～平成15年3月	1	1.3%
平成15年4月～平成16年3月	2	2.5%
平成16年4月～平成17年3月	5	6.3%
平成17年4月～平成18年3月	6	7.6%
平成18年4月～平成19年3月	3	3.8%
平成19年4月～平成20年3月	3	3.8%
平成20年4月～平成21年3月	2	2.5%
平成21年4月～平成22年3月	3	3.8%
平成22年4月～平成23年3月	8	10.1%
平成23年4月～平成24年3月	9	11.4%
平成24年4月～平成25年3月	15	19.0%
平成25年4月～平成26年3月	3	3.8%
平成26年4月～	4	5.1%
不明	7	8.9%
合計	79	100.0%

22）新生児治療回復室入院医療管理料

図表 79　新生児治療回復室入院医療管理料の届出時期

	施設数	割合
～平成14年3月	0	0.0%
平成14年4月～平成15年3月	0	0.0%
平成15年4月～平成16年3月	0	0.0%
平成16年4月～平成17年3月	0	0.0%
平成17年4月～平成18年3月	1	0.8%
平成18年4月～平成19年3月	0	0.0%
平成19年4月～平成20年3月	0	0.0%
平成20年4月～平成21年3月	0	0.0%
平成21年4月～平成22年3月	0	0.0%
平成22年4月～平成23年3月	74	59.7%
平成23年4月～平成24年3月	15	12.1%
平成24年4月～平成25年3月	9	7.3%
平成25年4月～平成26年3月	9	7.3%
平成26年4月～	11	8.9%
不明	5	4.0%
合計	124	100.0%

23）小児入院医療管理料１

図表 80　小児入院医療管理料１の届出時期

	施設数	割合
～平成14年3月	0	0.0%
平成14年4月～平成15年3月	2	4.8%
平成15年4月～平成16年3月	2	4.8%
平成16年4月～平成17年3月	1	2.4%
平成17年4月～平成18年3月	1	2.4%
平成18年4月～平成19年3月	2	4.8%
平成19年4月～平成20年3月	0	0.0%
平成20年4月～平成21年3月	5	11.9%
平成21年4月～平成22年3月	0	0.0%
平成22年4月～平成23年3月	14	33.3%
平成23年4月～平成24年3月	3	7.1%
平成24年4月～平成25年3月	5	11.9%
平成25年4月～平成26年3月	3	7.1%
平成26年4月～	3	7.1%
不明	1	2.4%
合計	42	100.0%

24）小児入院医療管理料２

図表 81　小児入院医療管理料２の届出時期

	施設数	割合
～平成14年3月	0	0.0%
平成14年4月～平成15年3月	2	1.7%
平成15年4月～平成16年3月	1	0.9%
平成16年4月～平成17年3月	4	3.4%
平成17年4月～平成18年3月	0	0.0%
平成18年4月～平成19年3月	2	1.7%
平成19年4月～平成20年3月	4	3.4%
平成20年4月～平成21年3月	7	6.0%
平成21年4月～平成22年3月	1	0.9%
平成22年4月～平成23年3月	54	46.2%
平成23年4月～平成24年3月	12	10.3%
平成24年4月～平成25年3月	14	12.0%
平成25年4月～平成26年3月	8	6.8%
平成26年4月～	2	1.7%
不明	6	5.1%
合計	117	100.0%

25）小児入院医療管理料３

図表 82　小児入院医療管理料３の届出時期

	施設数	割合
～平成14年3月	0	0.0%
平成14年4月～平成15年3月	0	0.0%
平成15年4月～平成16年3月	0	0.0%
平成16年4月～平成17年3月	2	4.2%
平成17年4月～平成18年3月	4	8.3%
平成18年4月～平成19年3月	2	4.2%
平成19年4月～平成20年3月	5	10.4%
平成20年4月～平成21年3月	0	0.0%
平成21年4月～平成22年3月	7	14.6%
平成22年4月～平成23年3月	6	12.5%
平成23年4月～平成24年3月	3	6.3%
平成24年4月～平成25年3月	4	8.3%
平成25年4月～平成26年3月	5	10.4%
平成26年4月～	6	12.5%
不明	4	8.3%
合計	48	100.0%

26）小児入院医療管理料４

図表 83　小児入院医療管理料４の届出時期

	施設数	割合
～平成14年3月	0	0.0%
平成14年4月～平成15年3月	10	6.8%
平成15年4月～平成16年3月	1	0.7%
平成16年4月～平成17年3月	1	0.7%
平成17年4月～平成18年3月	4	2.7%
平成18年4月～平成19年3月	20	13.7%
平成19年4月～平成20年3月	5	3.4%
平成20年4月～平成21年3月	18	12.3%
平成21年4月～平成22年3月	10	6.8%
平成22年4月～平成23年3月	27	18.5%
平成23年4月～平成24年3月	14	9.6%
平成24年4月～平成25年3月	11	7.5%
平成25年4月～平成26年3月	17	11.6%
平成26年4月～	4	2.7%
不明	4	2.7%
合計	146	100.0%

③各施設基準等の算定件数

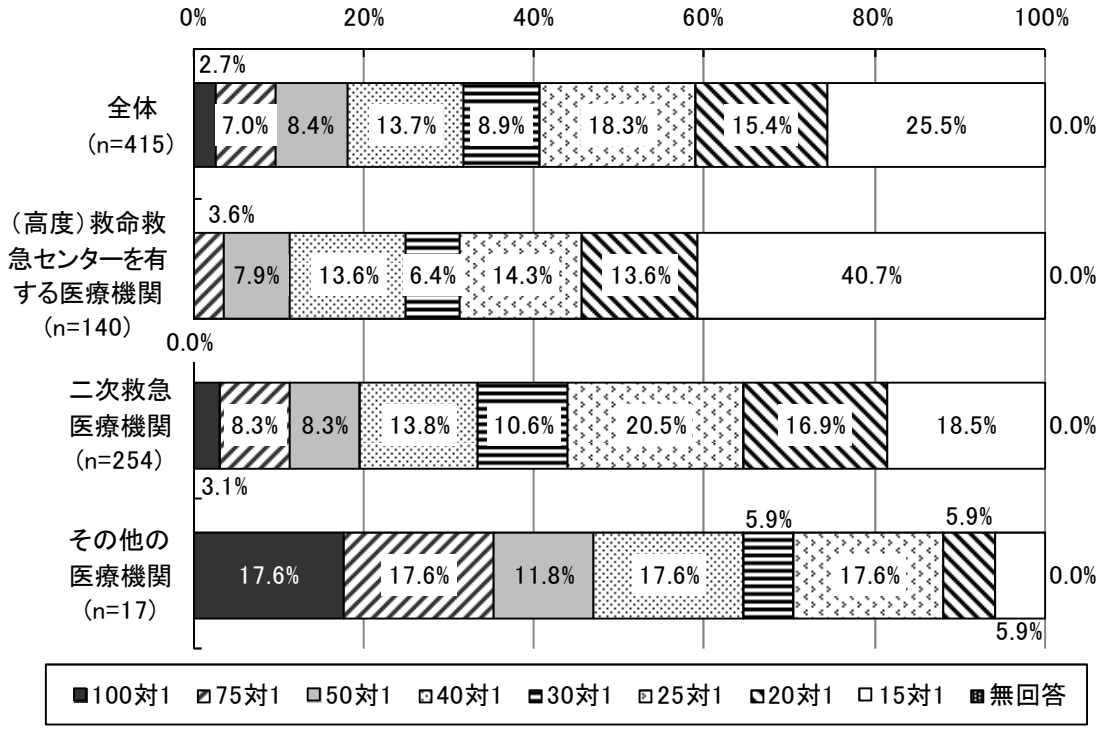
図表 84　各施設基準等の算定件数

	平成25年10月				平成26年10月			
	施設数	平均値	標準偏差	中央値	施設数	平均値	標準偏差	中央値
救命救急入院料1	(n=94)	143.1	128.1	104.0	(n=94)	160.5	129.6	113.0
救命救急入院料2	(n=31)	89.9	85.1	62.0	(n=31)	82.3	73.5	57.0
救命救急入院料3	(n=65)	127.5	92.3	101.0	(n=65)	114.9	90.5	90.0
【再掲】広範囲熱傷特定集中治療管理料	(n=30)	0.5	1.4	0.0	(n=30)	0.2	0.8	0.0
救命救急入院料4	(n=62)	89.1	111.0	59.0	(n=62)	92.8	113.4	66.5
【再掲】広範囲熱傷特定集中治療管理料	(n=33)	1.4	6.4	0.0	(n=33)	2.6	12.1	0.0
救命救急入院料の充実段階A加算	(n=147)	171.7	165.9	126.0	(n=147)	174.8	161.6	117.0
救命救急入院料の充実段階B加算	(n=0)	－	－	－	(n=0)	－	－	－
救命救急入院料の小児加算	(n=83)	2.5	5.3	1.0	(n=83)	2.3	5.6	1.0
救命救急入院料の精神保健指定医等診断治療等加算	(n=61)	2.5	3.7	1.0	(n=61)	2.8	3.8	1.0
救命救急入院料の急性薬毒物中毒加算1	(n=47)	0.2	0.7	0.0	(n=47)	0.3	1.0	0.0
救命救急入院料の急性薬毒物中毒加算2					(n=59)	1.2	1.8	0.0
特定集中治療室管理料1					(n=20)	116.4	95.6	83.0
特定集中治療室管理料2					(n=8)	73.9	44.7	70.0
【再掲】広範囲熱傷特定集中治療管理料					(n=5)	0.4	0.9	0.0
特定集中治療室管理料3	(n=183)	100.4	128.2	72.0	(n=183)	103.6	112.2	78.0
特定集中治療室管理料4	(n=70)	107.2	111.9	84.0	(n=70)	107.6	105.2	84.0
【再掲】広範囲熱傷特定集中治療管理料	(n=39)	0.2	0.9	0.0	(n=39)	0.4	1.6	0.0
特定集中治療室管理料の小児加算	(n=89)	10.4	24.9	2.0	(n=89)	10.0	24.5	2.0
ﾊｲｹｱﾕﾆｯﾄ入院医療管理料1	(n=91)	104.2	107.6	64.0	(n=91)	108.5	89.2	78.0
ﾊｲｹｱﾕﾆｯﾄ入院医療管理料2	(n=16)	103.4	153.2	41.5	(n=16)	144.2	183.7	83.5
脳卒中ｹｱﾕﾆｯﾄ入院医療管理料	(n=40)	84.6	86.6	45.5	(n=40)	90.4	84.5	46.0
小児特定集中治療室管理料	(n=2)	0.0	0.0	0.0	(n=2)	77.5	33.2	77.5
新生児特定集中治療室管理料1	(n=78)	77.9	101.1	24.5	(n=78)	77.4	116.1	22.0
新生児特定集中治療室管理料2	(n=62)	36.7	55.8	11.0	(n=62)	56.0	65.2	21.0
総合周産期特定/母体･胎児集中治療室管理料	(n=77)	47.3	63.6	22.0	(n=77)	53.2	72.0	23.0
総合周産期特定/新生児集中治療室管理料	(n=76)	109.5	170.2	31.5	(n=76)	113.6	182.2	34.5
新生児治療回復室入院医療管理料	(n=116)	77.9	111.2	27.0	(n=116)	85.3	151.4	29.5
小児入院医療管理料1	(n=39)	767.2	1091.4	303.0	(n=39)	763.7	1090.4	302.0
小児入院医療管理料2	(n=110)	339.4	423.9	132.0	(n=110)	334.1	407.8	127.0
小児入院医療管理料3	(n=43)	325.3	334.6	142.0	(n=43)	338.8	349.2	139.0
小児入院医療管理料4	(n=133)	220.1	307.7	78.0	(n=133)	197.1	272.3	82.0
小児入院医療管理料5	(n=35)	20.6	39.7	0.0	(n=35)	20.0	40.0	0.0

（注）「救命救急入院料の急性薬毒物中毒加算 2」「特定集中治療室管理料 1」「特定集中治療室管理料 2」「【再掲】広範囲熱傷特定集中治療管理料」以外の施設基準等については、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記載のあった施設を集計対象とした。

④医師事務作業補助体制加算の現在の届出の種類

図表 85　医師事務作業補助体制加算の現在の届出の種類

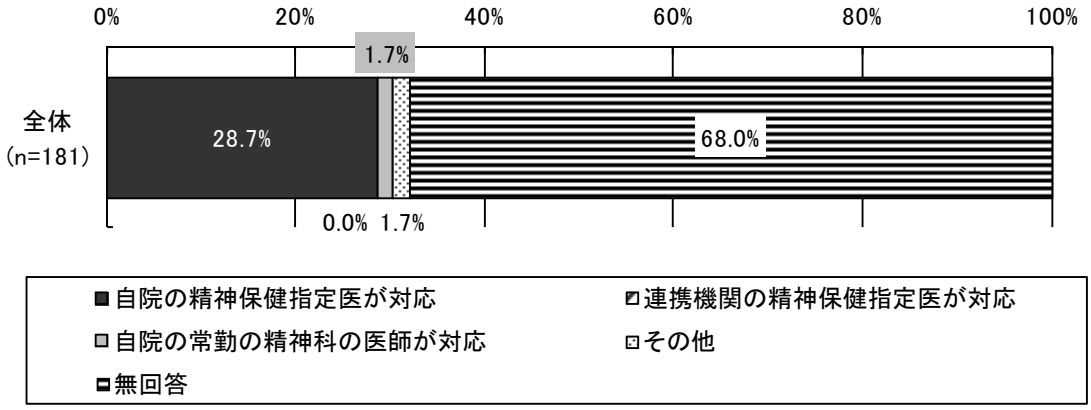


(注)・「医師事務作業補助体制加算１」または「医師事務作業補助体制加算２」の届出があった施設を集計対象とした。

・「全体」には「救急医療体制」で無回答だった４施設を含む。

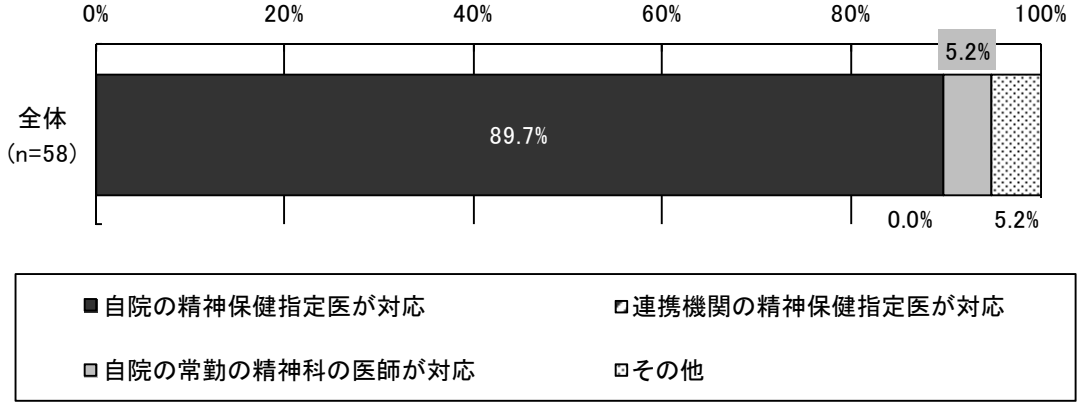
⑤「救命救急入院料の精神保健指定医等診断治療等加算」における精神科医の確保方法

図表 86　「救命救急入院料の精神保健指定医等診断治療等加算」における精神科医の確保方法（加算の届出施設）



(注)「救命救急入院料の精神保健指定医等診断治療等加算」の届出があった施設を集計対象とした。

（参考：無回答を除外した集計結果）

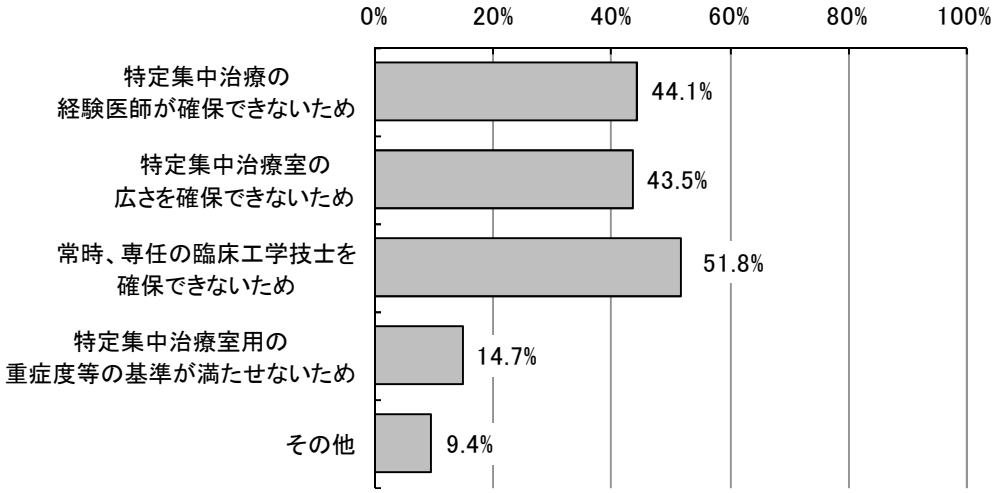


（注）「救命救急入院料の精神保健指定医等診断治療等加算」の届出があり、かつ有効回答のあった施設を集計対象とした。

⑥「特定集中治療室管理料１・２」の届出をしていない理由

図表 87　「特定集中治療室管理料１・２」の届出をしていない理由

（複数回答　届出をしていない施設　n=170）

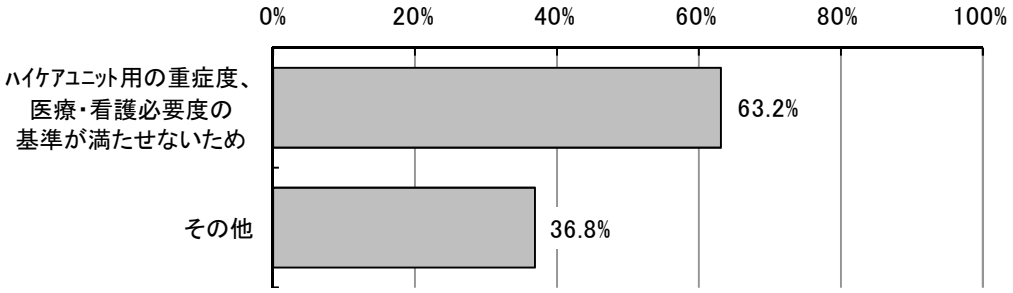


（注）平成 25 年度以前に「特定集中治療室管理料１・２」の届出があり、現在は届出をしていない施設に尋ねた。

⑦「ハイケアユニット入院医療管理料１」の届出をしていない理由

図表 88　「ハイケアユニット入院医療管理料１」の届出をしていない理由

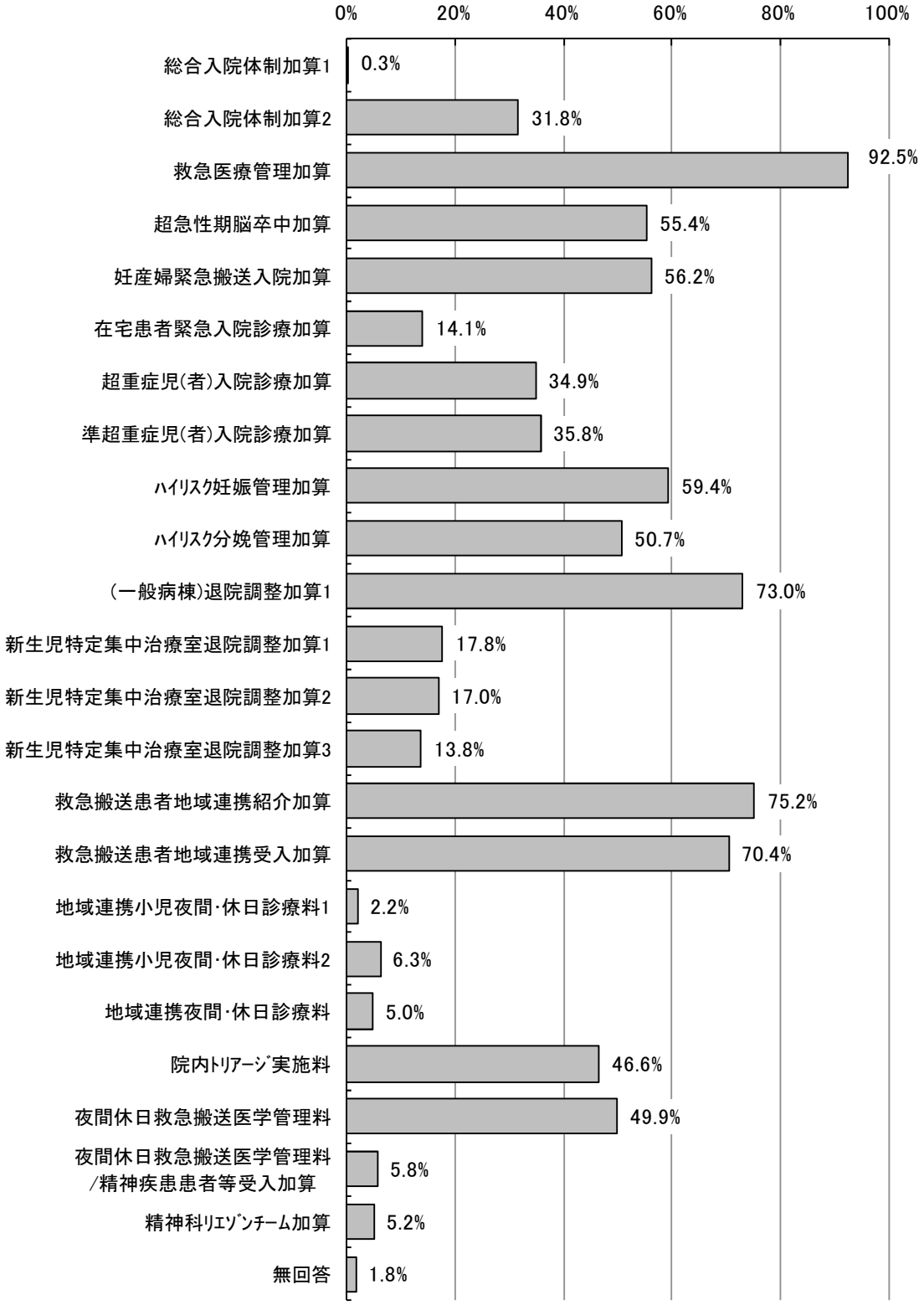
（複数回答　届出をしていない施設　n=19）



（注）平成 25 年度以前に「ハイケアユニット入院医療管理料」の届出があり、現在は「ハイケアユニット入院医療管理料１」の届出をしていない施設に尋ねた。

⑧各施設基準等の届出状況

図表 89　届出があるもの（複数回答、n=601）



⑨各施設基準等の届出時期

1）総合入院体制加算１

図表 90　総合入院体制加算１の届出時期

	施設数	割合
平成26年4月	2	100.0%
合計	2	100.0%

2）総合入院体制加算２

図表 91　総合入院体制加算２の届出時期

	施設数	割合
平成21年3月以前	32	36.4%
平成21年4月～平成22年3月	11	12.5%
平成22年4月～平成23年3月	13	14.8%
平成23年4月～平成24年3月	8	9.1%
平成24年4月～平成25年3月	7	8.0%
平成25年4月～平成26年3月	3	3.4%
平成26年4月～	12	13.6%
不明	2	2.3%
合計	88	100.0%

3）救急医療管理加算

図表 92　救急医療管理加算の届出時期

	施設数	割合
平成19年3月以前	79	14.2%
平成19年4月～平成20年3月	10	1.8%
平成20年4月～平成21年3月	3	0.5%
平成21年4月～平成22年3月	1	0.2%
平成22年4月～平成23年3月	378	68.0%
平成23年4月～平成24年3月	13	2.3%
平成24年4月～平成25年3月	21	3.8%
平成25年4月～平成26年3月	11	2.0%
平成26年4月～	6	1.1%
不明	34	6.1%
合計	556	100.0%

4）超急性期脳卒中加算

図表 93　超急性期脳卒中加算の届出時期

	施設数	割合
平成21年3月以前	254	76.3%
平成21年4月～平成22年3月	8	2.4%
平成22年4月～平成23年3月	21	6.3%
平成23年4月～平成24年3月	9	2.7%
平成24年4月～平成25年3月	13	3.9%
平成25年4月～平成26年3月	12	3.6%
平成26年4月～	9	2.7%
不明	7	2.1%
合計	333	100.0%

5）妊産婦緊急搬送入院加算

図表 94　妊産婦緊急搬送入院加算の届出時期

	施設数	割合
平成21年3月以前	293	86.7%
平成21年4月～平成22年3月	3	0.9%
平成22年4月～平成23年3月	13	3.8%
平成23年4月～平成24年3月	5	1.5%
平成24年4月～平成25年3月	10	3.0%
平成25年4月～平成26年3月	3	0.9%
平成26年4月～	2	0.6%
不明	9	2.7%
合計	338	100.0%

6）ハイリスク妊娠管理加算

図表 95　ハイリスク妊娠管理加算の届出時期

	施設数	割合
平成21年3月以前	245	68.6%
平成21年4月～平成22年3月	74	20.7%
平成22年4月～平成23年3月	9	2.5%
平成23年4月～平成24年3月	3	0.8%
平成24年4月～平成25年3月	10	2.8%
平成25年4月～平成26年3月	4	1.1%
平成26年4月～	5	1.4%
不明	7	2.0%
合計	357	100.0%

7）ハイリスク分娩管理加算

図表 96　ハイリスク分娩管理加算の届出時期

	施設数	割合
平成19年3月以前	89	29.2%
平成19年4月～平成20年3月	3	1.0%
平成20年4月～平成21年3月	89	29.2%
平成21年4月～平成22年3月	58	19.0%
平成22年4月～平成23年3月	27	8.9%
平成23年4月～平成24年3月	10	3.3%
平成24年4月～平成25年3月	14	4.6%
平成25年4月～平成26年3月	6	2.0%
平成26年4月～	4	1.3%
不明	5	1.6%
合計	305	100.0%

8）（一般病棟）退院調整加算 1

図表 97　（一般病棟）退院調整加算 1 の届出時期

	施設数	割合
平成21年3月以前	65	14.8%
平成21年4月～平成22年3月	5	1.1%
平成22年4月～平成23年3月	106	24.1%
平成23年4月～平成24年3月	8	1.8%
平成24年4月～平成25年3月	215	49.0%
平成25年4月～平成26年3月	17	3.9%
平成26年4月～	15	3.4%
不明	8	1.8%
合計	439	100.0%

9）新生児特定集中治療室退院調整加算 1

図表 98　新生児特定集中治療室退院調整加算 1 の届出時期

	施設数	割合
平成23年3月以前	42	39.3%
平成23年4月～平成24年3月	4	3.7%
平成24年4月～平成25年3月	41	38.3%
平成25年4月～平成26年3月	5	4.7%
平成26年4月～	10	9.3%
不明	5	4.7%
合計	107	100.0%

10）新生児特定集中治療室退院調整加算 2

図表 99　新生児特定集中治療室退院調整加算 2 の届出時期

	施設数	割合
平成23年3月以前	33	32.4%
平成23年4月～平成24年3月	3	2.9%
平成24年4月～平成25年3月	42	41.2%
平成25年4月～平成26年3月	5	4.9%
平成26年4月～	14	13.7%
不明	5	4.9%
合計	102	100.0%

11）新生児特定集中治療室退院調整加算 3

図表 100　新生児特定集中治療室退院調整加算 3 の届出時期

	施設数	割合
平成26年4月	71	85.5%
平成26年5月	3	3.6%
平成26年6月	2	2.4%
平成26年7月	2	2.4%
平成26年8月	2	2.4%
平成26年9月	3	3.6%
平成26年10月	0	0.0%
平成26年11月	0	0.0%
平成26年12月	0	0.0%
不明	0	0.0%
合計	83	100.0%

12）救急搬送患者地域連携紹介加算

図表 101　救急搬送患者地域連携紹介加算の届出時期

	施設数	割合
平成23年3月以前	155	34.3%
平成23年4月～平成24年3月	10	2.2%
平成24年4月～平成25年3月	246	54.4%
平成25年4月～平成26年3月	19	4.2%
平成26年4月～	11	2.4%
不明	11	2.4%
合計	452	100.0%

13）救急搬送患者地域連携受入加算

図表 102　救急搬送患者地域連携受入加算の届出時期

	施設数	割合
平成23年3月以前	80	18.9%
平成23年4月～平成24年3月	9	2.1%
平成24年4月～平成25年3月	305	72.1%
平成25年4月～平成26年3月	13	3.1%
平成26年4月～	8	1.9%
不明	8	1.9%
合計	423	100.0%

14）地域連携小児夜間･休日診療料１

図表 103　地域連携小児夜間･休日診療料１の届出時期

	施設数	割合
平成21年3月以前	7	53.8%
平成21年4月～平成22年3月	1	7.7%
平成22年4月～平成23年3月	3	23.1%
平成23年4月～平成24年3月	1	7.7%
平成24年4月～平成25年3月	1	7.7%
平成25年4月～平成26年3月	0	0.0%
平成26年4月～	0	0.0%
不明	0	0.0%
合計	13	100.0%

15）地域連携小児夜間･休日診療料２

図表 104　地域連携小児夜間･休日診療料２の届出時期

	施設数	割合
平成21年3月以前	16	42.1%
平成21年4月～平成22年3月	0	0.0%
平成22年4月～平成23年3月	9	23.7%
平成23年4月～平成24年3月	1	2.6%
平成24年4月～平成25年3月	4	10.5%
平成25年4月～平成26年3月	5	13.2%
平成26年4月～	1	2.6%
不明	2	5.3%
合計	38	100.0%

16）地域連携夜間･休日診療料

図表 105　地域連携夜間･休日診療料の届出時期

	施設数	割合
平成23年3月以前	22	73.3%
平成23年4月～平成24年3月	2	6.7%
平成24年4月～平成25年3月	4	13.3%
平成25年4月～平成26年3月	1	3.3%
平成26年4月～	1	3.3%
不明	0	0.0%
合計	30	100.0%

17）院内トリアージ実施料

図表 106　院内トリアージ実施料の届出時期

	施設数	割合
平成25年3月以前	233	83.2%
平成25年4月～平成26年3月	29	10.4%
平成26年4月～	14	5.0%
不明	4	1.4%
合計	280	100.0%

18）夜間休日救急搬送医学管理料

図表 107　夜間休日救急搬送医学管理料の届出時期

	施設数	割合
平成25年3月以前	277	92.3%
平成25年4月～平成26年3月	8	2.7%
平成26年4月～	5	1.7%
不明	10	3.3%
合計	300	100.0%

19）夜間休日救急搬送医学管理料/精神疾患患者等受入加算

図表 108　夜間休日救急搬送医学管理料/精神疾患患者等受入加算の届出時期

	施設数	割合
平成26年4月	26	96.3%
平成26年5月	0	0.0%
平成26年6月	0	0.0%
平成26年7月	1	3.7%
平成26年8月	0	0.0%
平成26年9月	0	0.0%
平成26年10月	0	0.0%
平成26年11月	0	0.0%
平成26年12月	0	0.0%
不明	0	0.0%
合計	27	100.0%

20）精神科リエゾンチーム加算

図表 109　精神科リエゾンチーム加算の届出時期

	施設数	割合
平成25年3月以前	20	64.5%
平成25年4月～平成26年3月	4	12.9%
平成26年4月～	5	16.1%
不明	2	6.5%
合計	31	100.0%

⑩各施設基準等の算定件数

図表 110　各施設基準等の算定件数

	平成25年10月				平成26年10月			
	施設数	平均値	標準偏差	中央値	施設数	平均値	標準偏差	中央値
救急医療管理加算1(800点)	(n=475)	381.4	518.3	183.0	(n=475)	284.0	397.6	142.0
【再掲】乳幼児加算	(n=475)	9.7	41.7	0.0	(n=475)	8.0	34.5	0.0
【再掲】小児加算	(n=475)	4.7	16.1	0.0	(n=475)	4.3	16.2	0.0
救急医療管理加算2(400点)					(n=413)	95.1	180.2	27.0
【再掲】乳幼児加算					(n=415)	1.0	4.5	0.0
【再掲】小児加算					(n=416)	0.8	4.2	0.0
超急性期脳卒中加算	(n=316)	0.9	1.3	0.0	(n=316)	1.1	1.3	1.0
妊産婦緊急搬送入院加算	(n=328)	4.4	5.1	3.0	(n=328)	4.5	5.2	3.0
在宅患者緊急入院診療加算	(n=80)	0.7	1.4	0.0	(n=80)	1.0	2.1	0.0
超重症児(者)入院診療加算								
【再掲】6歳未満の場合	(n=203)	10.8	36.7	0.0	(n=203)	9.9	32.3	0.0
【再掲】6歳以上の場合	(n=203)	26.8	118.9	1.0	(n=203)	28.0	128.7	1.0
【再掲】救急･在宅重症児(者)受入加算	(n=203)	0.5	2.4	0.0	(n=203)	0.6	3.3	0.0
準超重症児(者)入院診療加算								
【再掲】6歳未満の場合	(n=207)	10.0	38.1	0.0	(n=207)	7.5	38.1	0.0
【再掲】6歳以上の場合	(n=207)	32.1	113.4	1.0	(n=207)	40.8	153.3	1.0
【再掲】救急･在宅重症児(者)受入加算	(n=207)	0.6	2.7	0.0	(n=207)	0.6	2.9	0.0
ﾊｲﾘｽｸ妊娠管理加算	(n=350)	23.8	40.8	9.0	(n=350)	24.4	44.6	9.0
ﾊｲﾘｽｸ分娩管理加算	(n=300)	19.9	29.1	9.0	(n=300)	21.3	34.2	9.0
(一般病棟)退院調整加算1	(n=414)	64.8	102.1	30.5	(n=414)	81.6	119.7	44.5
【再掲】14日以内の期間(340点)					(n=369)	32.9	70.5	9.0
【再掲】15日以上30日以内の期間(150点)					(n=369)	26.6	34.1	16.0
【再掲】31日以上の期間(50点)					(n=369)	20.9	20.8	16.0
新生児特定集中治療室退院調整加算1	(n=102)	8.5	28.3	2.5	(n=102)	10.3	39.4	3.0
新生児特定集中治療室退院調整加算2								
【再掲】退院支援計画作成加算	(n=77)	1.9	2.8	1.0	(n=77)	2.2	3.3	1.0
【再掲】退院加算	(n=77)	1.5	2.2	0.0	(n=77)	1.7	2.3	1.0
新生児特定集中治療室退院調整加算3								
【再掲】退院支援計画作成加算					(n=54)	0.0	0.2	0.0
【再掲】退院加算					(n=55)	0.2	1.2	0.0

(注) 平成 25 年から存在する施設基準等については、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記載のあった施設を集計対象とした。

図表 111　各施設基準等の算定件数（つづき）

	平成25年10月				平成26年10月			
	施設数	平均値	標準偏差	中央値	施設数	平均値	標準偏差	中央値
救急搬送患者地域連携紹介加算	(n=429)	1.2	3.5	0.0	(n=429)	1.2	3.3	0.0
救急搬送患者地域連携受入加算	(n=402)	0.4	1.0	0.0	(n=402)	0.3	1.8	0.0
地域連携小児夜間･休日診療料1	(n=13)	44.0	43.4	27.0	(n=13)	44.5	45.5	27.0
地域連携小児夜間･休日診療料2	(n=35)	466.6	311.6	435.0	(n=35)	446.6	268.3	426.0
地域連携夜間･休日診療料	(n=29)	540.4	509.3	466.0	(n=29)	508.6	405.8	386.0
院内ﾄﾘｱｰｼﾞ実施料	(n=268)	230.2	322.6	126.0	(n=268)	214.5	302.4	104.0
夜間休日救急搬送医学管理料	(n=289)	41.5	48.6	27.0	(n=289)	43.8	47.8	30.0
夜間休日救急搬送医学管理料/精神疾患患者等受入加算					(n=34)	1.1	1.7	0.0
救急搬送診療料	(n=258)	6.7	15.6	1.0	(n=258)	7.7	18.0	1.0
救急搬送診療料 新生児加算	(n=161)	1.2	3.4	0.0	(n=161)	1.2	3.5	0.0
救急搬送診療料 乳幼児加算	(n=159)	0.2	1.2	0.0	(n=159)	0.3	1.0	0.0
救急搬送診療料 長時間加算	(n=158)	1.3	4.2	0.0	(n=158)	1.3	3.8	0.0
精神科ﾘｴｿﾞﾝﾁｰﾑ加算	(n=29)	22.8	24.9	16.0	(n=29)	32.8	30.8	24.0
小児科外来診療料	(n=169)	113.9	257.3	0.0	(n=169)	122.3	261.7	0.0

（注）平成 25 年から存在する施設基準等については、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに記載のあった施設を集計対象とした。

⑪パリビズマブを用い薬剤費等を出来高で算定した患者数

図表 112　パリビズマブを用い薬剤費等を出来高で算定した患者数（平成 26 年 10 月 1 か月）

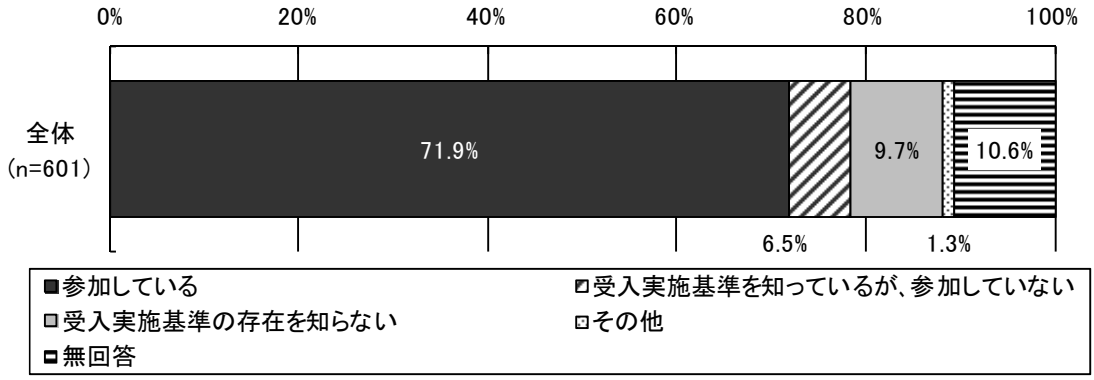
	施設数	平均値	標準偏差	中央値
ﾊﾟﾘﾋﾞｽﾞﾏﾌﾞを用い、薬剤費等を出来高で算定した患者数	(n=272)	10.8	26.0	0.0

（注）小児科を標榜している施設に尋ねた。

（４）救急医療の取組状況等

①消防法に基づいて都道府県が定める受入実施基準に対する参加状況

図表 113　消防法に基づいて都道府県が定める受入実施基準に対する参加状況



②１か月間の外来延べ患者数、救急用の自動車等により搬送された延べ患者数

図表 114　１か月間の外来延べ患者数、救急用の自動車等により搬送された延べ患者数

	平成25年10月				平成26年10月			
	施設数	平均値	標準偏差	中央値	施設数	平均値	標準偏差	中央値
外来延べ患者数	(n=553)	15245.7	14761.5	11615.0	(n=553)	15230.7	14605.0	11610.0
救急搬送受入患者数	(n=559)	231.0	210.9	182.0	(n=559)	238.3	215.5	186.0
上記のうち夜間休日救急搬送医学管理料を算定した患者数	(n=504)	25.9	48.0	1.0	(n=512)	26.8	48.0	3.0
上記のうち急性薬毒物中毒の患者数					(n=471)	2.1	8.0	0.0
上記のうち精神疾患患者等受入加算を算定した患者数					(n=466)	0.2	1.1	0.0
上記のうち認知症の患者数					(n=407)	5.7	16.5	0.0
時間外･休日･深夜に上記以外の方法で来院した患者数	(n=559)	500.5	551.7	312.0	(n=559)	482.2	539.5	310.0

（注）うち数を除き、各患者数について平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに人数の記載のあった施設を集計対象とした。

図表 115　１か月間の外来延べ患者数、救急用の自動車等により搬送された延べ患者数
（（高度）救命救急センターを有する医療機関）

	平成25年10月				平成26年10月			
	施設数	平均値	標準偏差	中央値	施設数	平均値	標準偏差	中央値
外来延べ患者数	(n=179)	22299.1	17539.5	21220.0	(n=179)	22164.2	17192.9	21549.0
救急搬送受入患者数	(n=181)	377.7	200.4	359.0	(n=181)	388.9	200.2	360.0
上記のうち夜間休日救急搬送医学管理料を算定した患者数	(n=155)	6.1	24.3	0.0	(n=155)	4.3	19.3	0.0
上記のうち急性薬毒物中毒の患者数					(n=158)	4.7	13.2	3.0
上記のうち精神疾患患者等受入加算を算定した患者数					(n=150)	0.1	0.7	0.0
上記のうち認知症の患者数					(n=126)	8.4	18.3	1.0
時間外･休日･深夜に上記以外の方法で来院した患者数	(n=181)	883.1	648.3	710.0	(n=181)	847.2	624.0	660.0

図表 116　１か月間の外来延べ患者数、救急用の自動車等により搬送された延べ患者数
（二次救急医療機関）

	平成25年10月				平成26年10月			
	施設数	平均値	標準偏差	中央値	施設数	平均値	標準偏差	中央値
外来延べ患者数	(n=327)	12472.1	11995.6	9428.0	(n=327)	12507.4	11996.1	9587.0
救急搬送受入患者数	(n=330)	177.1	179.6	127.0	(n=330)	183.1	185.3	134.0
上記のうち夜間休日救急搬送医学管理料を算定した患者数	(n=309)	38.7	54.9	20.0	(n=315)	41.0	55.1	23.0
上記のうち急性薬毒物中毒の患者数					(n=272)	0.8	2.0	0.0
上記のうち精神疾患患者等受入加算を算定した患者数					(n=275)	0.2	1.3	0.0
上記のうち認知症の患者数					(n=239)	5.1	16.7	0.0
時間外･休日･深夜に上記以外の方法で来院した患者数	(n=330)	340.1	377.3	233.5	(n=330)	326.9	370.3	213.5

（注）うち数を除き、各患者数について平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに人数の記載のあった施設を集計対象とした。

図表 117　１か月間の外来延べ患者数、救急用の自動車等により搬送された延べ患者数
（その他の医療機関）

	平成25年10月				平成26年10月			
	施設数	平均値	標準偏差	中央値	施設数	平均値	標準偏差	中央値
外来延べ患者数	(n=44)	7450.1	9887.1	3442.5	(n=44)	7582.2	10002.8	3404.5
救急搬送受入患者数	(n=45)	36.5	53.9	19.0	(n=45)	38.0	59.3	15.0
上記のうち夜間休日救急搬送医学管理料を算定した患者数	(n=37)	3.8	13.9	0.0	(n=39)	3.4	9.9	0.0
上記のうち急性薬毒物中毒の患者数					(n=40)	0.2	0.8	0.0
上記のうち精神疾患患者等受入加算を算定した患者数					(n=40)	0.0	0.2	0.0
上記のうち認知症の患者数					(n=41)	0.6	2.1	0.0
時間外･休日･深夜に上記以外の方法で来院した患者数	(n=45)	152.7	382.1	38.0	(n=45)	168.7	482.1	29.0

（注）うち数を除き、各患者数について平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに人数の記載のあった施設を集計対象とした。

③１か月間の救急対応患者数

図表 118　１か月間の救急対応患者数

	平成25年10月				平成26年10月			
	施設数	平均値	標準偏差	中央値	施設数	平均値	標準偏差	中央値
軽症の患者数	(n=442)	537.9	589.5	338.5	(n=442)	520.8	572.2	330.0
緊急入院となった患者数	(n=442)	172.1	149.1	141.0	(n=442)	176.7	154.2	149.0
うち、生命の危険の可能性がある患者数					(n=386)	39.3	52.7	16.0
うち、精神疾患を有する患者数					(n=374)	7.1	16.3	1.0
うち、一般病床の病棟に入院した、精神疾患を有する患者数					(n=371)	6.2	15.9	0.0
うち、精神病床の病棟に入院した、精神疾患を有する患者数					(n=374)	0.8	2.9	0.0
うち、認知症を有する患者数					(n=350)	7.1	17.0	1.0
貴施設では対応できず、転送した患者数	(n=442)	3.4	8.9	1.0	(n=442)	3.5	8.7	1.0
うち、高度救命救急ｾﾝﾀｰ・救命救急ｾﾝﾀｰに転送した患者数	(n=432)	0.8	1.8	0.0	(n=428)	0.8	1.6	0.0
うち、精神科救急医療を担う医療機関に転送した患者数	(n=432)	0.1	0.6	0.0	(n=428)	0.1	0.5	0.0
その他の理由により転送した患者数	(n=432)	2.3	8.6	0.0	(n=428)	2.5	8.3	0.0
初診時死亡が確認された患者数	(n=442)	4.9	6.6	3.0	(n=442)	5.0	7.0	3.0

（注）うち数を除き、各患者数について平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに人数の記載のあった施設を集計対象とした。

図表 119　１か月間の救急対応患者数

（（高度）救命救急センターを有する医療機関）

	平成25年10月				平成26年10月			
	施設数	平均値	標準偏差	中央値	施設数	平均値	標準偏差	中央値
軽症の患者数	(n=143)	962.8	719.8	763.0	(n=143)	930.9	695.3	763.0
緊急入院となった患者数	(n=143)	299.0	145.6	286.0	(n=143)	308.9	150.0	291.0
うち、生命の危険の可能性がある患者数					(n=127)	76.9	55.0	67.0
うち、精神疾患を有する患者数					(n=117)	14.4	24.1	6.0
うち、一般病床の病棟に入院した、精神疾患を有する患者数					(n=117)	11.8	22.7	2.0
うち、精神病床の病棟に入院した、精神疾患を有する患者数					(n=117)	1.4	3.9	0.0
うち、認知症を有する患者数					(n=110)	10.6	19.8	2.0
貴施設では対応できず、転送した患者数	(n=143)	5.3	14.0	2.0	(n=143)	5.7	13.7	2.0
うち、高度救命救急ｾﾝﾀｰ・救命救急ｾﾝﾀｰに転送した患者数	(n=139)	0.8	1.9	0.0	(n=136)	0.8	1.5	0.0
うち、精神科救急医療を担う医療機関に転送した患者数	(n=139)	0.2	1.0	0.0	(n=136)	0.2	0.7	0.0
その他の理由により転送した患者数	(n=139)	4.1	13.7	1.0	(n=136)	4.4	13.6	1.0
初診時死亡が確認された患者数	(n=143)	10.4	8.4	8.0	(n=143)	10.5	9.1	8.0

（注）うち数を除き、各患者数について平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに人数の記載のあった施設を集計対象とした。

図表 120　１か月間の救急対応患者数

（二次救急医療機関）

	平成25年10月				平成26年10月			
	施設数	平均値	標準偏差	中央値	施設数	平均値	標準偏差	中央値
軽症の患者数	(n=264)	364.0	378.8	257.0	(n=264)	352.8	372.8	247.0
緊急入院となった患者数	(n=264)	119.1	107.1	95.0	(n=264)	121.5	110.9	94.0
うち、生命の危険の可能性がある患者数					(n=224)	23.2	42.7	7.0
うち、精神疾患を有する患者数					(n=223)	3.8	9.4	0.0
うち、一般病床の病棟に入院した、精神疾患を有する患者数					(n=220)	3.9	10.7	0.0
うち、精神病床の病棟に入院した、精神疾患を有する患者数					(n=223)	0.3	1.1	0.0
うち、認知症を有する患者数					(n=206)	6.3	16.3	1.0
貴施設では対応できず、転送した患者数	(n=264)	2.7	5.0	1.0	(n=264)	2.8	4.5	1.0
うち、高度救命救急ｾﾝﾀｰ・救命救急ｾﾝﾀｰに転送した患者数	(n=258)	0.9	1.8	0.0	(n=257)	0.9	1.7	0.0
うち、精神科救急医療を担う医療機関に転送した患者数	(n=258)	0.0	0.2	0.0	(n=257)	0.1	0.3	0.0
その他の理由により転送した患者数	(n=258)	1.7	4.6	0.0	(n=257)	1.7	3.9	0.0
初診時死亡が確認された患者数	(n=264)	2.4	2.8	2.0	(n=264)	2.5	3.3	1.0

（注）うち数を除き、各患者数について平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに人数の記載のあった施設を集計対象とした。

図表 121　１か月間の救急対応患者数

（その他の医療機関）

	平成25年10月				平成26年10月			
	施設数	平均値	標準偏差	中央値	施設数	平均値	標準偏差	中央値
軽症の患者数	(n=33)	87.8	178.1	29.0	(n=33)	87.1	173.9	25.0
緊急入院となった患者数	(n=33)	43.9	58.3	15.0	(n=33)	44.5	56.9	19.0
うち、生命の危険の可能性がある患者数					(n=33)	4.7	9.6	0.0
うち、精神疾患を有する患者数					(n=32)	2.1	5.6	0.0
うち、一般病床の病棟に入院した、精神疾患を有する患者数					(n=32)	0.0	0.2	0.0
うち、精神病床の病棟に入院した、精神疾患を有する患者数					(n=32)	2.1	5.6	0.0
うち、認知症を有する患者数					(n=32)	0.7	2.5	0.0
貴施設では対応できず、転送した患者数	(n=33)	0.6	1.1	0.0	(n=33)	0.6	0.9	0.0
うち、高度救命救急ｾﾝﾀｰ・救命救急ｾﾝﾀｰに転送した患者数	(n=33)	0.2	0.6	0.0	(n=33)	0.2	0.6	0.0
うち、精神科救急医療を担う医療機関に転送した患者数	(n=33)	0.0	0.2	0.0	(n=33)	0.0	0.0	0.0
その他の理由により転送した患者数	(n=33)	0.4	0.9	0.0	(n=33)	0.4	0.8	0.0
初診時死亡が確認された患者数	(n=33)	0.5	1.2	0.0	(n=33)	0.5	1.3	0.0

（注）うち数を除き、各患者数について平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに人数の記載のあった施設を集計対象とした。

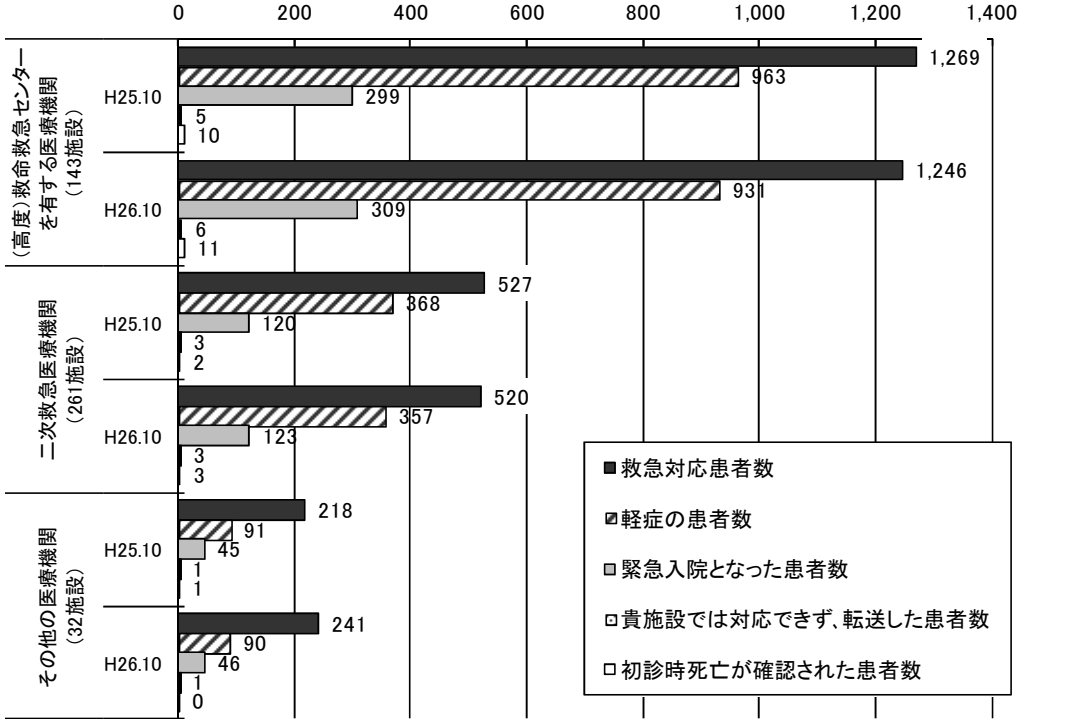
図表 122　救急対応患者の概要

		1施設あたり患者数（人）			内訳比率		
		（高度）救命救急センターを有する医療機関（143施設）	二次救急医療機関（261施設）	その他の医療機関（32施設）	（高度）救命救急センターを有する医療機関（143施設）	二次救急医療機関（261施設）	その他の医療機関（32施設）
H25.10	救急対応患者数	1269.1	526.7	217.8	100.0%	100.0%	100.0%
	軽症の患者数	962.8	368.2	90.6	75.9%	69.9%	41.6%
	緊急入院となった患者数	299.0	120.4	45.3	23.6%	22.9%	20.8%
	貴施設では対応できず転送した患者数	5.3	2.8	0.7	0.4%	0.5%	0.3%
	初診時死亡が確認された患者数	10.4	2.4	0.5	0.8%	0.5%	0.2%
H26.10	救急対応患者数	1246.4	519.9	241.3	100.0%	100.0%	100.0%
	軽症の患者数	930.9	356.9	89.8	74.7%	68.6%	37.2%
	緊急入院となった患者数	308.9	122.8	45.9	24.8%	23.6%	19.0%
	貴施設では対応できず転送した患者数	5.7	2.8	0.6	0.5%	0.5%	0.2%
	初診時死亡が確認された患者数	10.5	2.6	0.5	0.8%	0.5%	0.2%

（注）・救急対応患者数＝救急搬送受入患者数＋それ以外の方法で時間外・休日・夜間に来院した患者（以下、同様）。
・平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともにすべての人数の記載のあった施設を集計対象とした。

図表 123　救急対応患者の概要（１施設あたり患者数）

（単位：人）



図表 124　対応できず転送した患者の概要

		1施設あたり患者数（人）			内訳比率		
		（高度）救命救急センターを有する医療機関（136施設）	二次救急医療機関（254施設）	その他の医療機関（32施設）	（高度）救命救急センターを有する医療機関（136施設）	二次救急医療機関（254施設）	その他の医療機関（32施設）
H25.10	貴施設では対応できず転送した患者数	5.1	2.7	0.7	100.0%	100.0%	100.0%
	うち、高度救命救急ｾﾝﾀｰ・救命救急ｾﾝﾀｰに転送した患者数	0.8	0.9	0.2	15.7%	35.2%	28.6%
	うち、精神科救急医療を担う医療機関に転送した患者数	0.2	0.0	0.0	4.2%	1.8%	4.8%
	その他の理由により転送した患者数	4.1	1.7	0.4	80.1%	63.0%	66.7%
H26.10	貴施設では対応できず転送した患者数	5.4	2.7	0.6	100.0%	100.0%	100.0%
	うち、高度救命救急ｾﾝﾀｰ・救命救急ｾﾝﾀｰに転送した患者数	0.8	0.9	0.2	14.3%	33.1%	26.3%
	うち、精神科救急医療を担う医療機関に転送した患者数	0.2	0.1	0.0	3.7%	3.2%	0.0%
	その他の理由により転送した患者数	4.4	1.7	0.4	82.0%	63.7%	73.7%

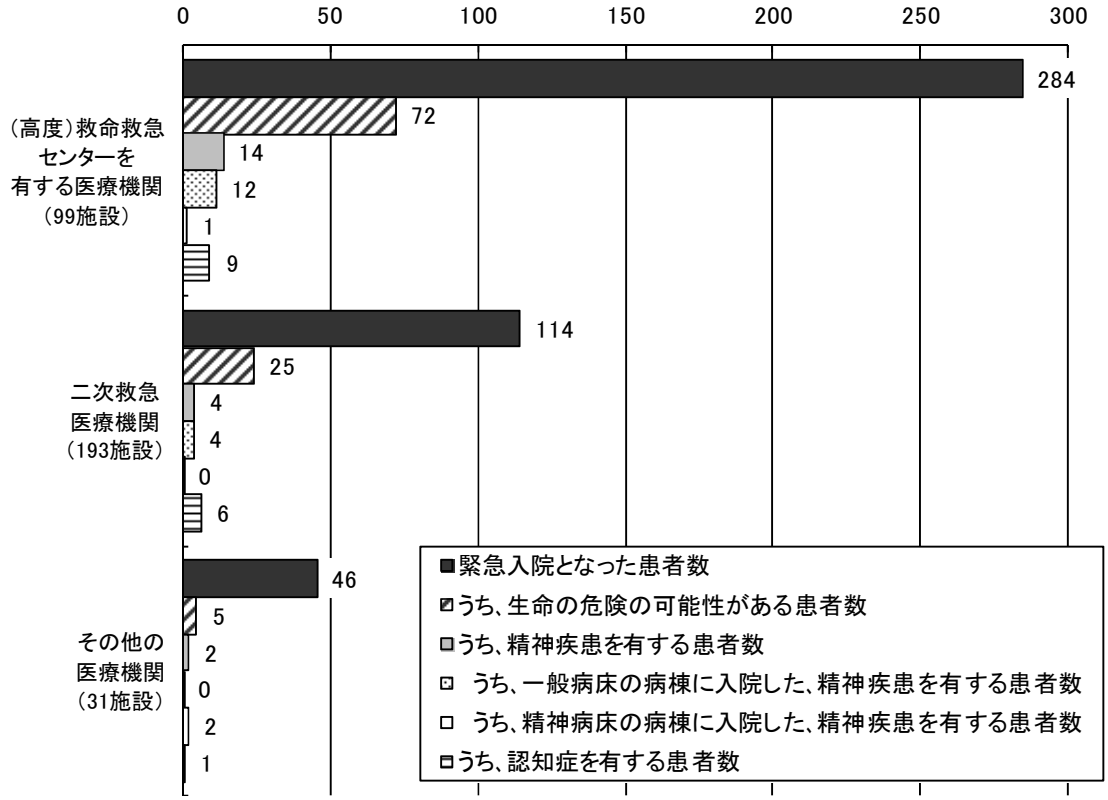
（注）平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともにすべての人数の記載のあった施設を集計対象とした。

図表 125　緊急入院患者の概要（平成 26 年 10 月）

		1施設あたり患者数（人）			内訳比率		
		（高度）救命救急センターを有する医療機関（99施設）	二次救急医療機関（193施設）	その他の医療機関（31施設）	（高度）救命救急センターを有する医療機関（99施設）	二次救急医療機関（193施設）	その他の医療機関（31施設）
緊急入院となった患者数		284.5	114.4	45.6	100.0%	100.0%	100.0%
	うち、生命の危険の可能性がある患者数	72.4	24.6	4.9	25.4%	21.5%	10.8%
	うち、精神疾患を有する患者数	14.1	4.0	2.2	4.9%	3.5%	4.8%
	うち、一般病床の病棟に入院した精神疾患を有する患者数	11.7	3.8	0.0	4.1%	3.3%	0.1%
	うち、精神病床の病棟に入院した精神疾患を有する患者数	1.4	0.2	2.2	0.5%	0.2%	4.7%
	うち、認知症を有する患者数	9.5	6.4	0.7	3.3%	5.6%	1.5%

（注）平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともにすべての人数の記載のあった施設を集計対象とした。

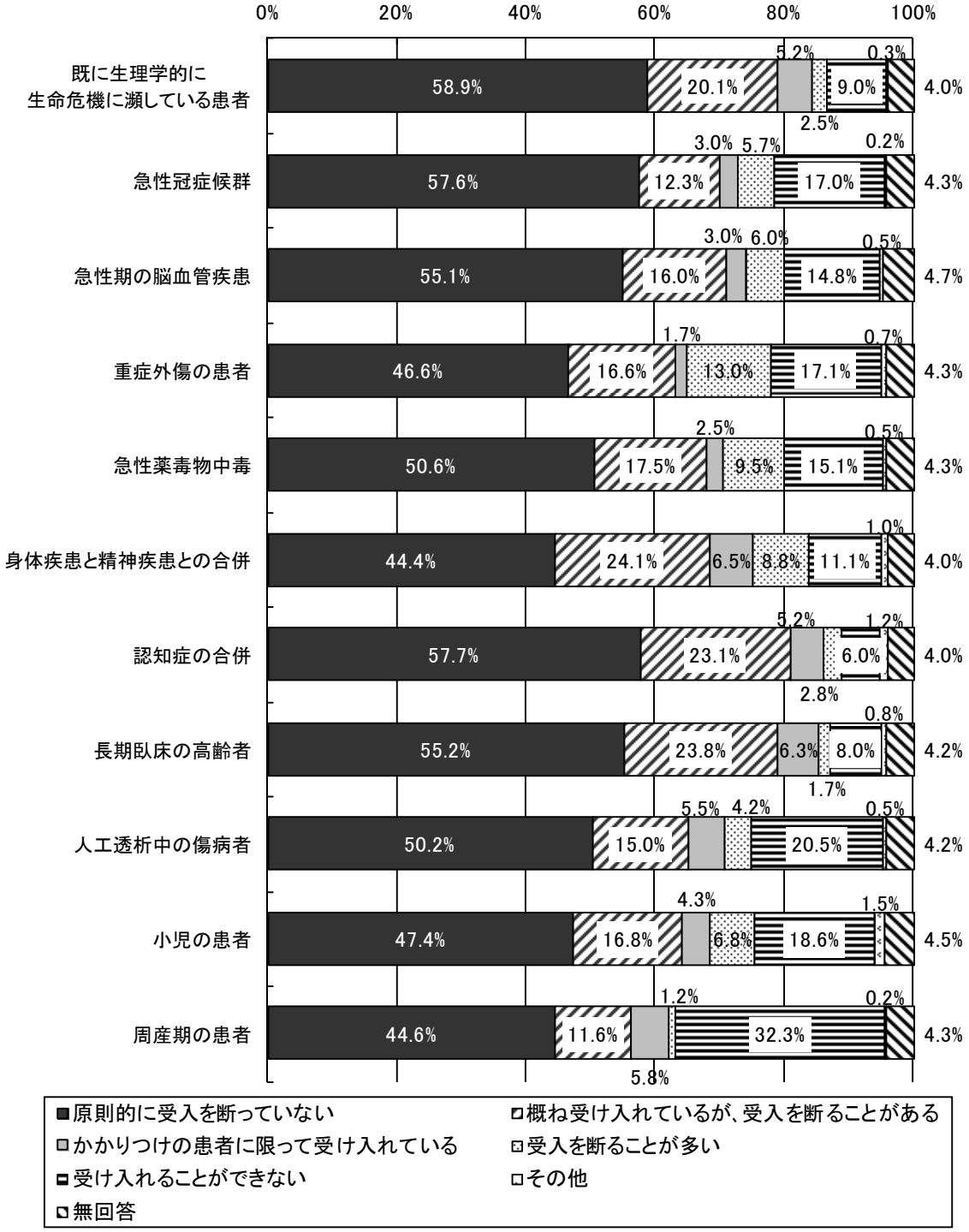
図表 126　緊急入院患者の概要（平成 26 年 10 月）



（注）平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともにすべての人数の記載のあった施設を集計対象とした。

④救急患者の受入対応方針

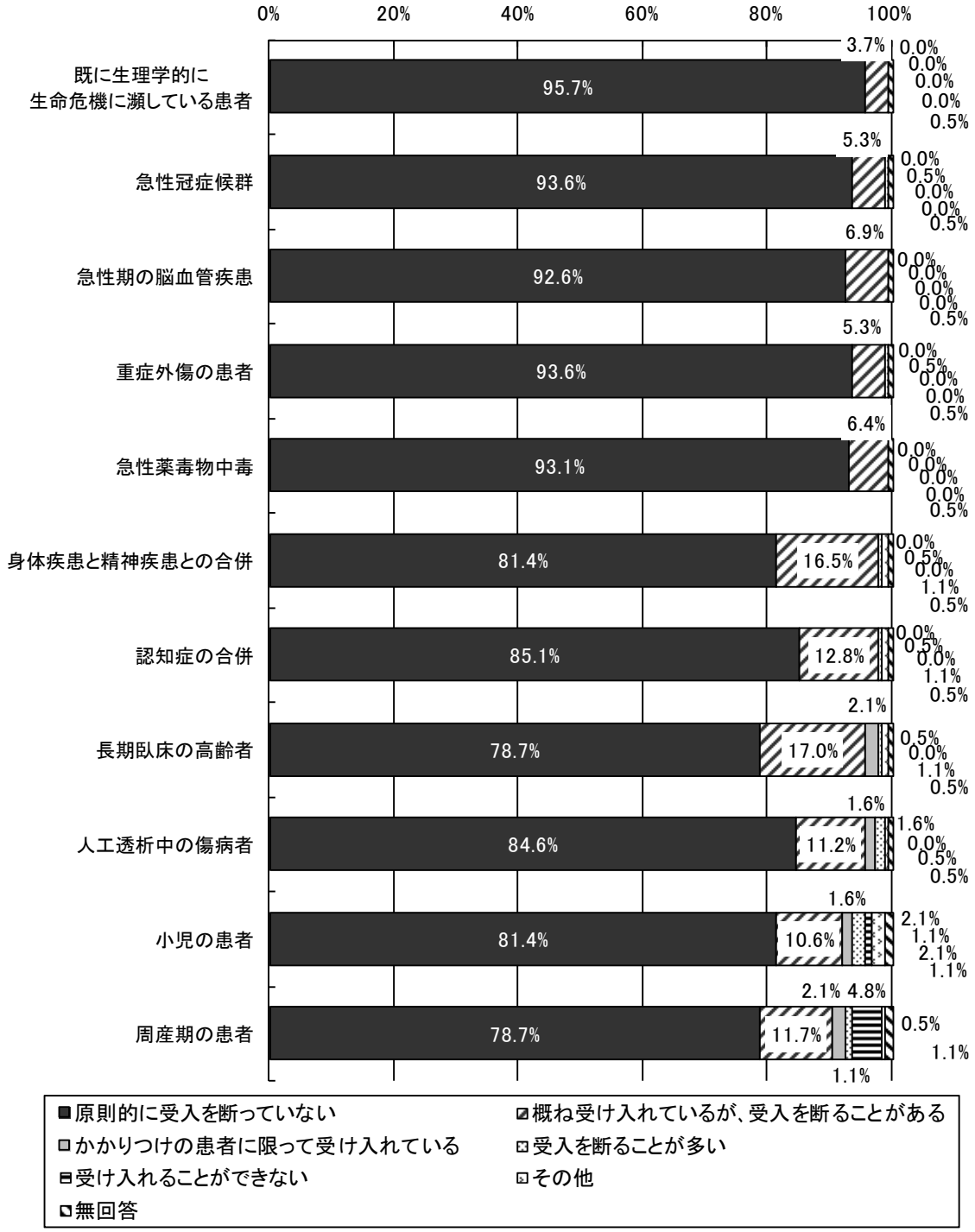
図表 127　救急患者の受入対応方針（n=601）



（注）　・「既に生理学的に生命危機に瀕している患者」は、「緊急度判定プロトコル ver1」（消防庁）の「赤 1」または院内トリアージ（JTAS）の重症（青）に準じる。
・「重症外傷の患者」は、「緊急度判定プロトコル ver1」（消防庁）の「赤 1、2」または JPTEC における「ロードアンドゴー」に準じる。

図表 128　救急患者の受入対応方針

（（高度）救命救急センターを有する医療機関、n=188）

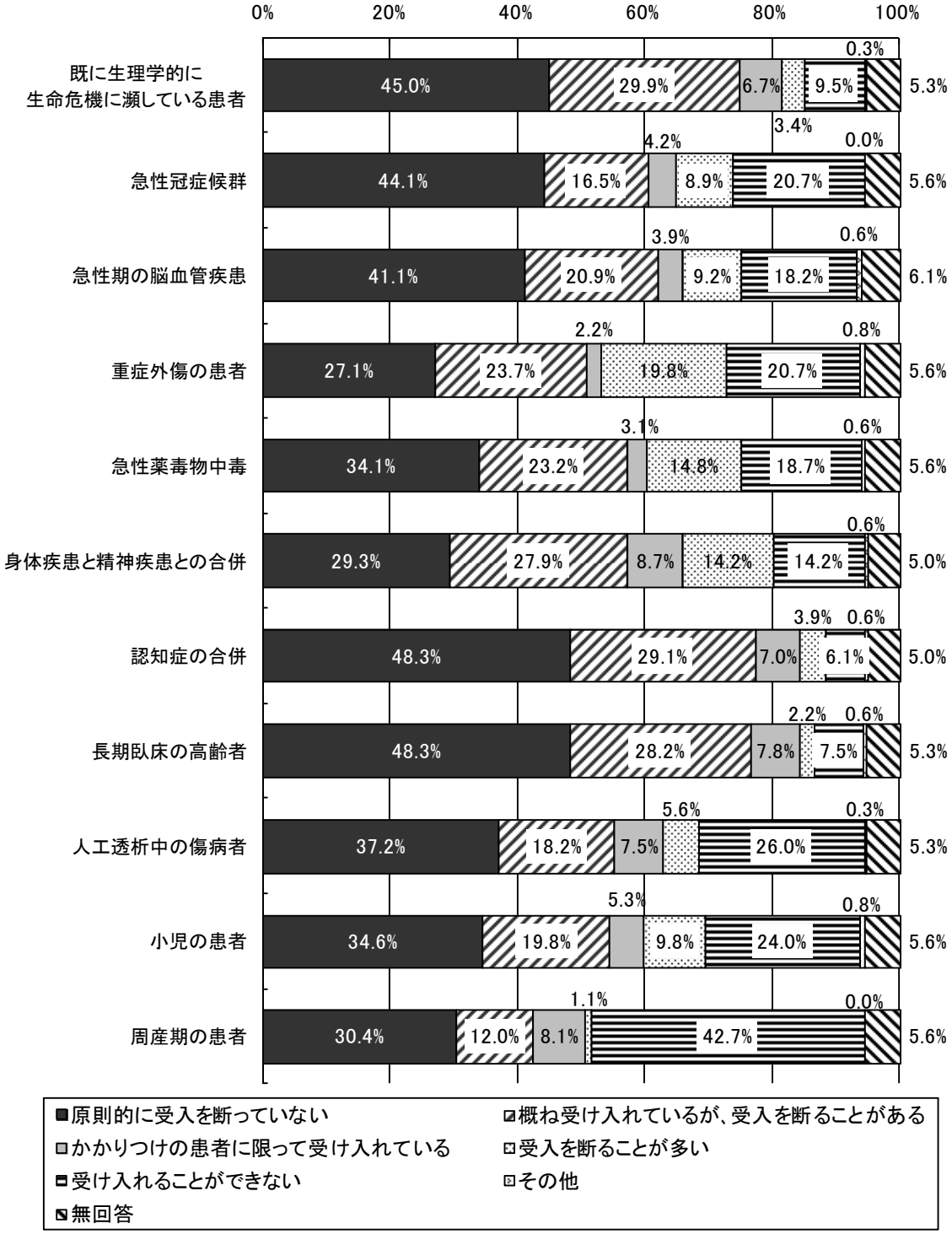


（注）　・「既に生理学的に生命危機に瀕している患者」は、「緊急度判定プロトコル ver1」（消防庁）の「赤 1」または院内トリアージ（JTAS）の重症（青）に準じる。

・「重症外傷の患者」は、「緊急度判定プロトコル ver1」（消防庁）の「赤 1、2」または JPTEC における「ロードアンドゴー」に準じる。

図表 129　救急患者の受入対応方針

（二次救急医療機関、n=358）

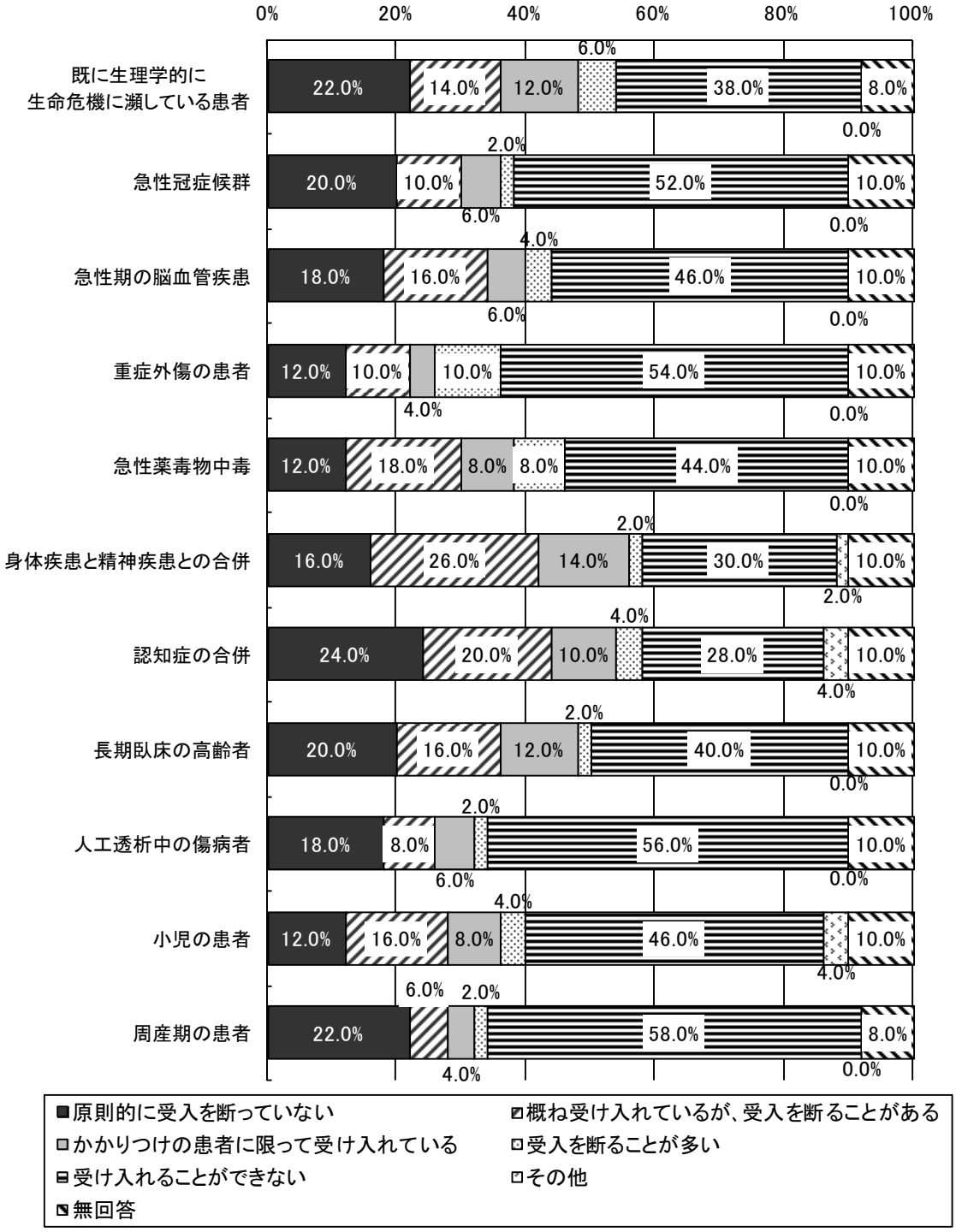


（注）　・「既に生理学的に生命危機に瀕している患者」は、「緊急度判定プロトコル ver1」（消防庁）の「赤 1」または院内トリアージ（JTAS）の重症（青）に準じる。

・「重症外傷の患者」は、「緊急度判定プロトコル ver1」（消防庁）の「赤 1、2」または JPTEC における「ロードアンドゴー」に準じる。

図表 130　救急患者の受入対応方針

（その他の医療機関、n=58）

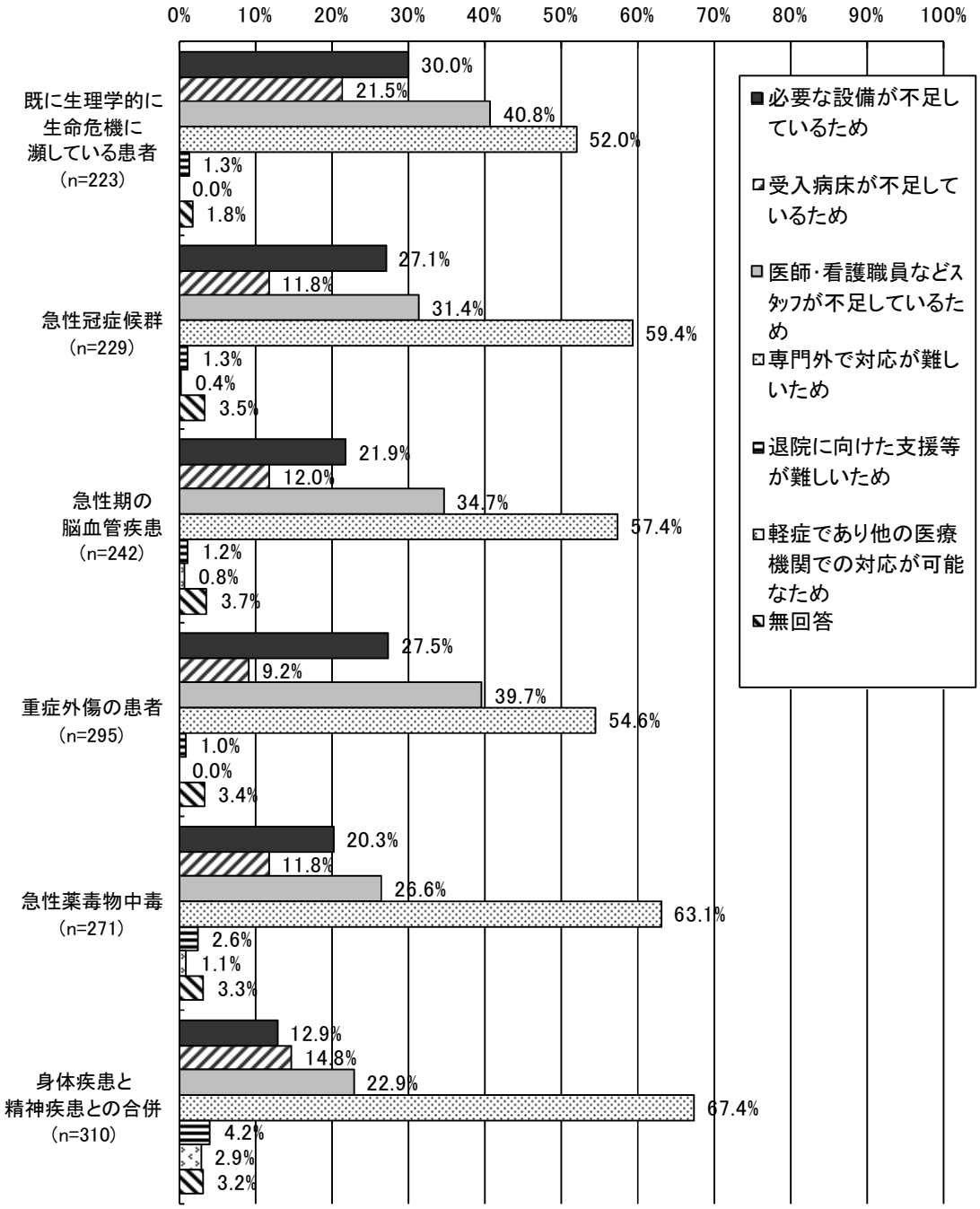


（注）　・「既に生理学的に生命危機に瀕している患者」は、「緊急度判定プロトコル ver1」（消防庁）の「赤 1」または院内トリアージ（JTAS）の重症（青）に準じる。

・「重症外傷の患者」は、「緊急度判定プロトコル ver1」（消防庁）の「赤 1、2」または JPTEC における「ロードアンドゴー」に準じる。

⑤受入を断る理由（「原則的に受入を断っていない」以外の回答を行った施設）

図表 131　受入を断る理由（複数回答）

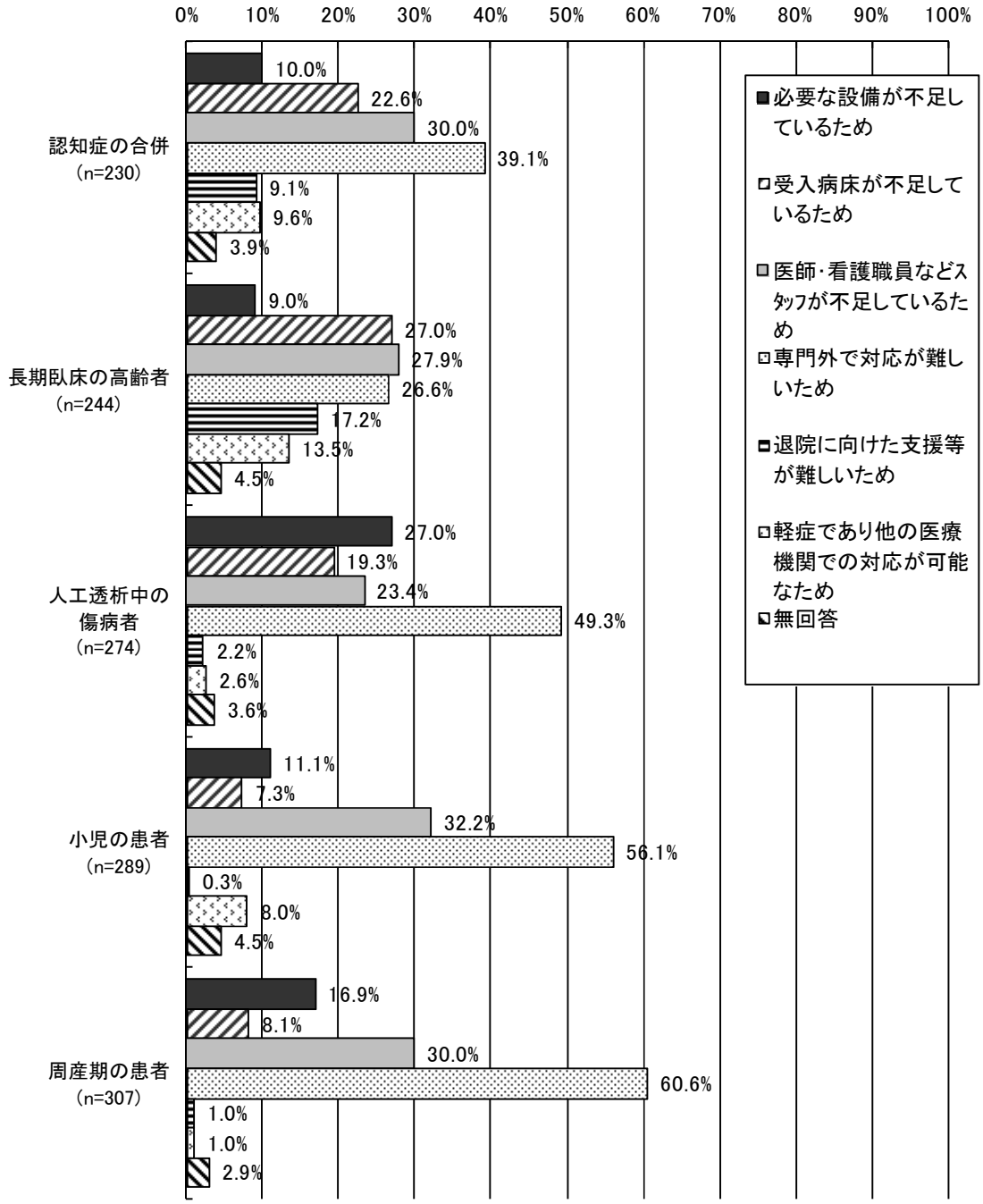


（注）　・各状態の患者の受入対応方針として、「原則的に受入を断っていない」以外の回答を行った施設に尋ねている。

・「既に生理学的に生命危機に瀕している患者」は、「緊急度判定プロトコル ver1」（消防庁）の「赤 1」または院内トリアージ（JTAS）の重症（青）に準じる。

・「重症外傷の患者」は、「緊急度判定プロトコル ver1」（消防庁）の「赤 1、2」または JPTEC における「ロードアンドゴー」に準じる。

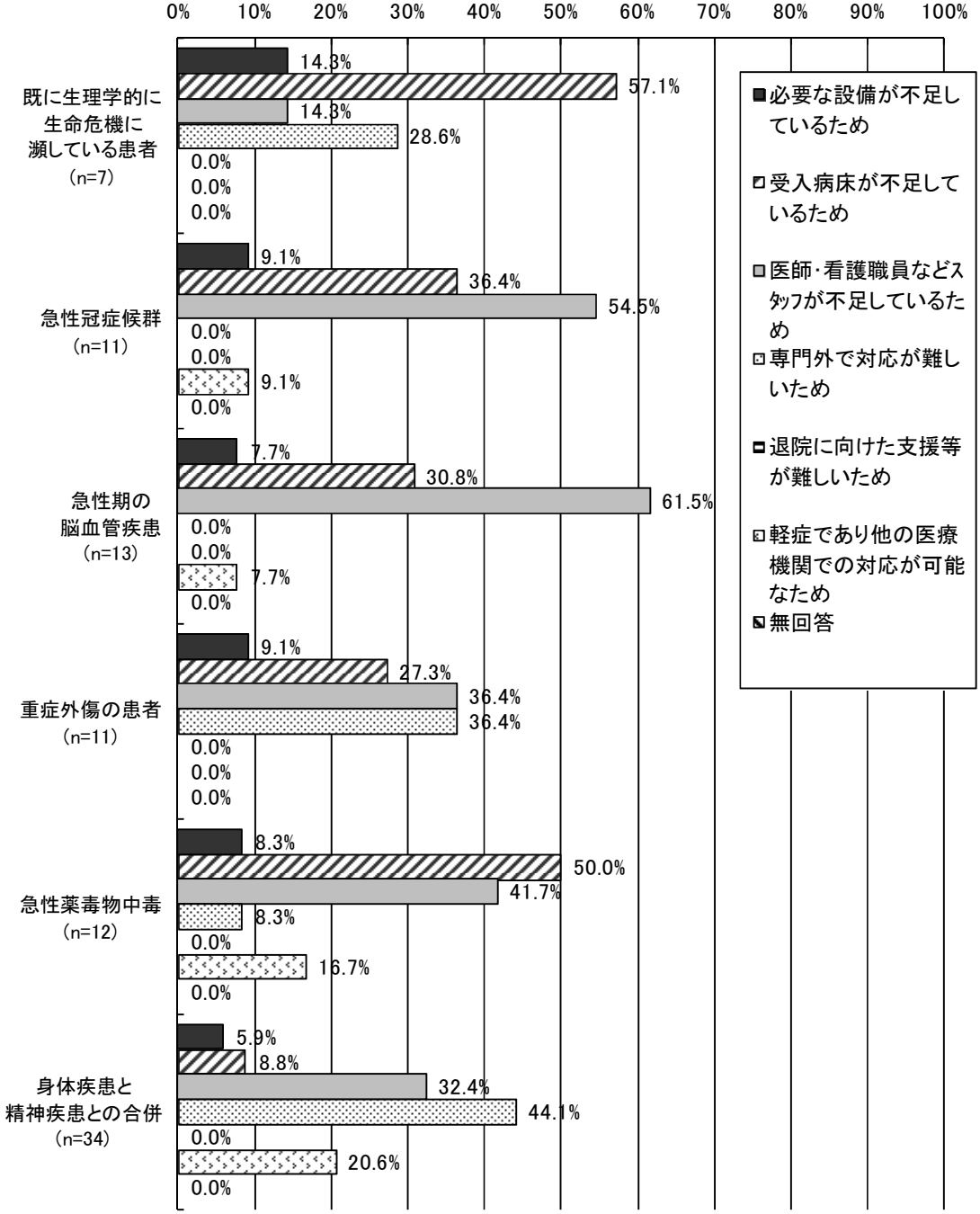
図表 132　受入を断る理由（つづき、複数回答）



（注）　・各状態の患者の受入対応方針として、「原則的に受入を断っていない」以外の回答を行った施設に尋ねている。

図表 133　受入を断る理由

（（高度）救命救急センターを有する医療機関、複数回答）



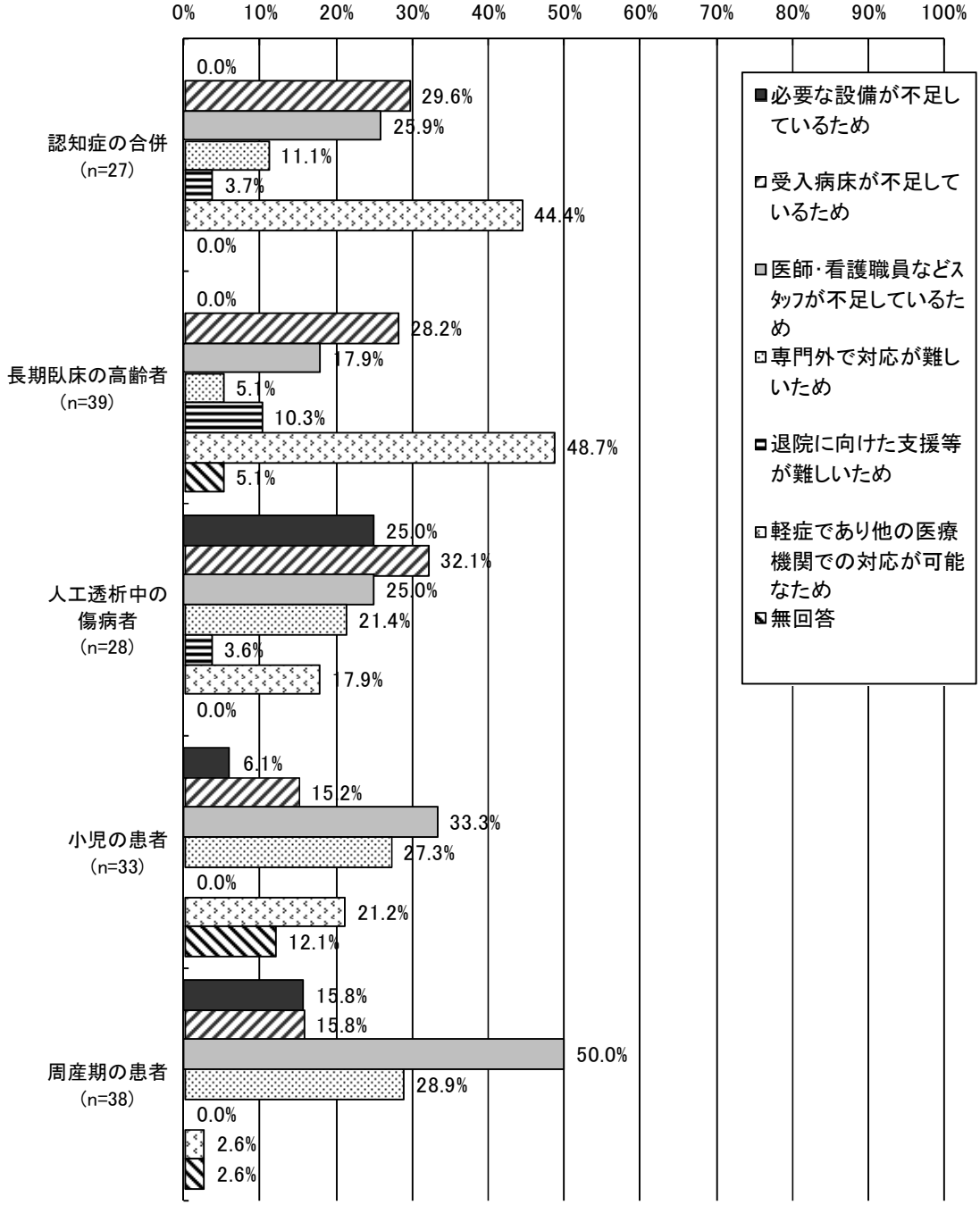
（注）　・各状態の患者の受入対応方針として、「原則的に受入を断っていない」以外の回答を行った施設に尋ねている。

・「既に生理学的に生命危機に瀕している患者」は、「緊急度判定プロトコル ver1」（消防庁）の「赤 1」または院内トリアージ（JTAS）の重症（青）に準じる。

・「重症外傷の患者」は、「緊急度判定プロトコル ver1」（消防庁）の「赤 1、2」または JPTEC における「ロードアンドゴー」に準じる。

図表 134　受入を断る理由（つづき）

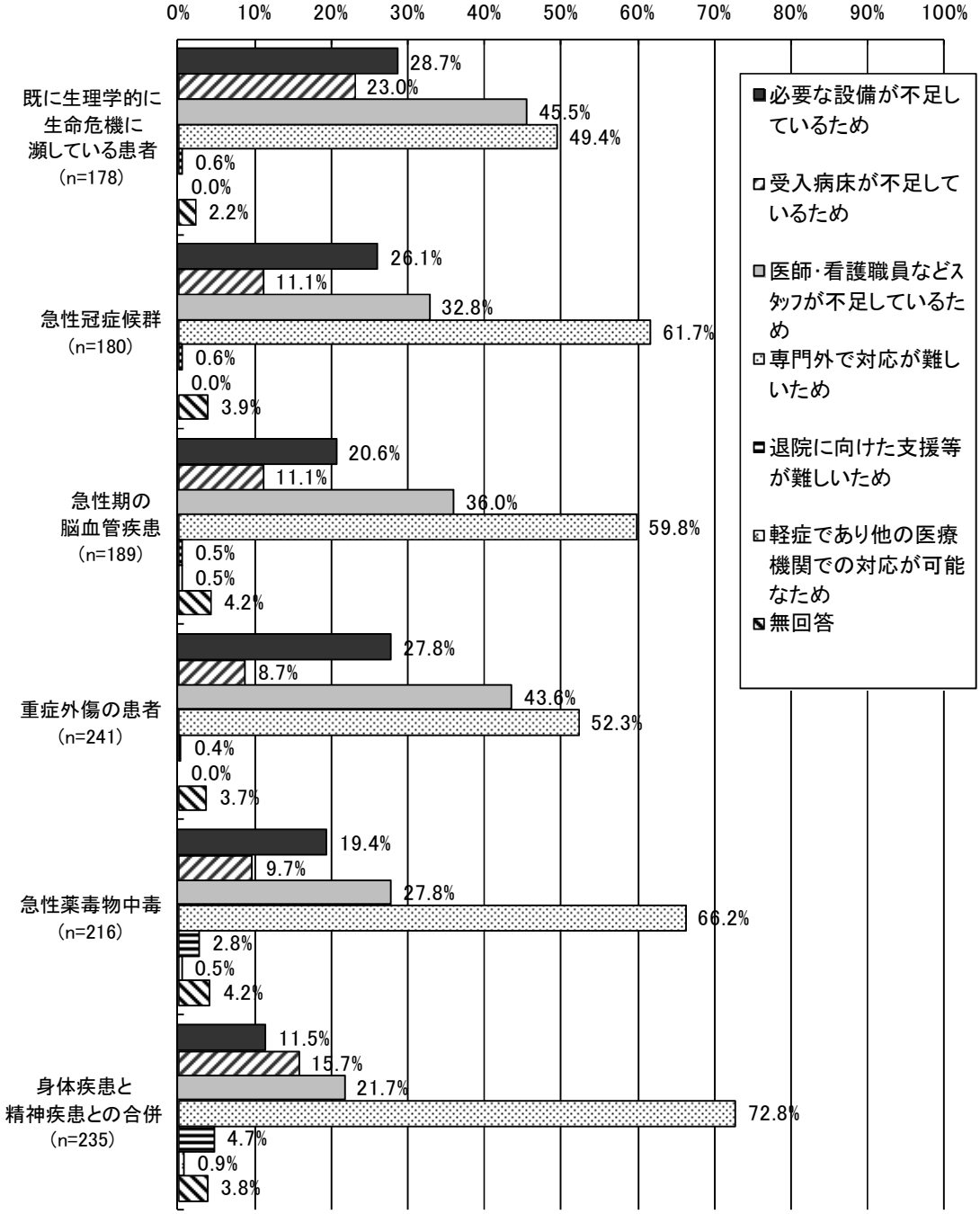
（（高度）救命救急センターを有する医療機関、複数回答）



（注）　・各状態の患者の受入対応方針として、「原則的に受入を断っていない」以外の回答を行った施設に尋ねている。

図表 135　受入を断る理由

（二次救急医療機関、複数回答）



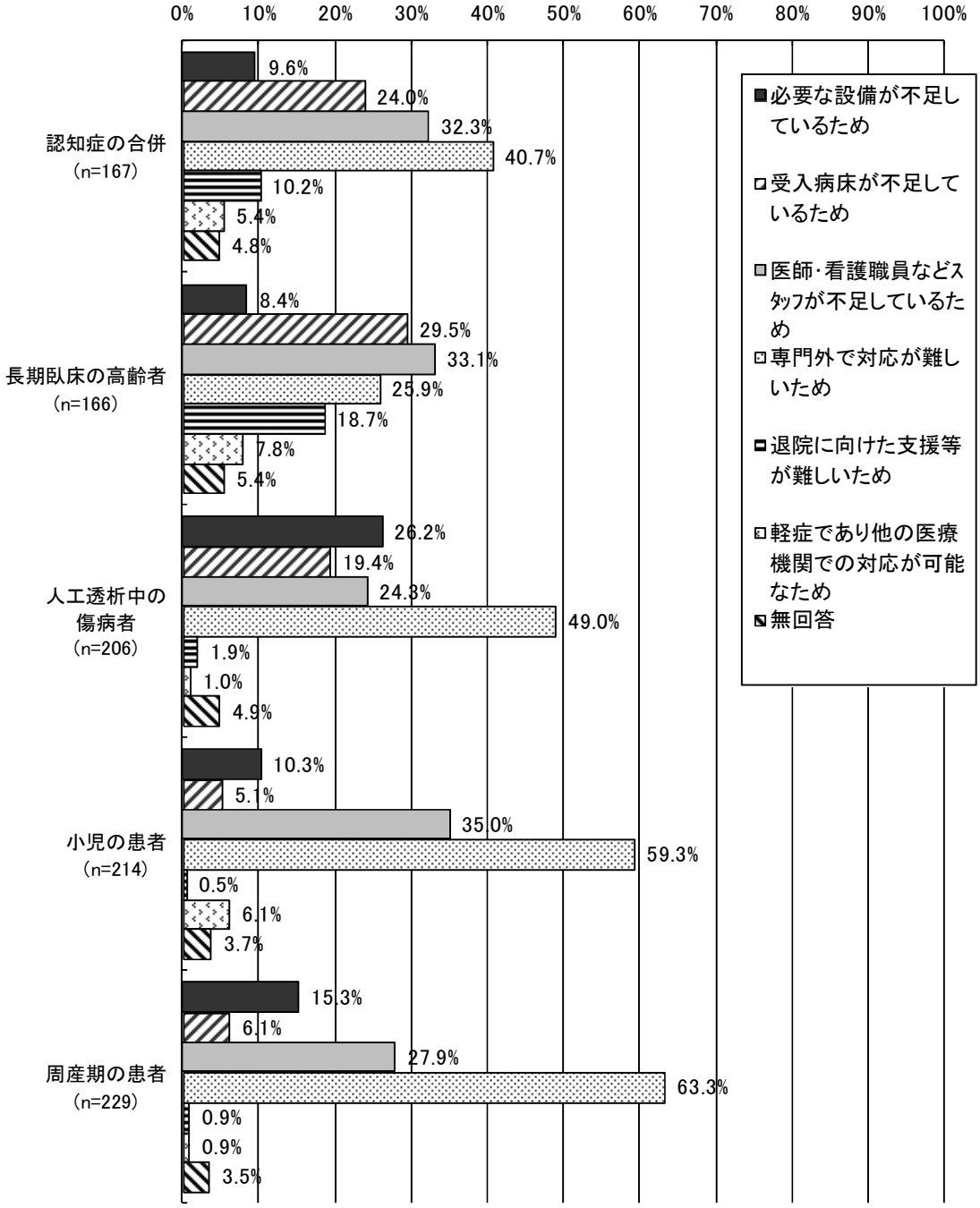
（注）　・各状態の患者の受入対応方針として、「原則的に受入を断っていない」以外の回答を行った施設に尋ねている。

・「既に生理学的に生命危機に瀕している患者」は、「緊急度判定プロトコル ver1」（消防庁）の「赤 1」または院内トリアージ（JTAS）の重症（青）に準じる。

・「重症外傷の患者」は、「緊急度判定プロトコル ver1」（消防庁）の「赤 1、2」または JPTEC における「ロードアンドゴー」に準じる。

図表 136　受入を断る理由（つづき）

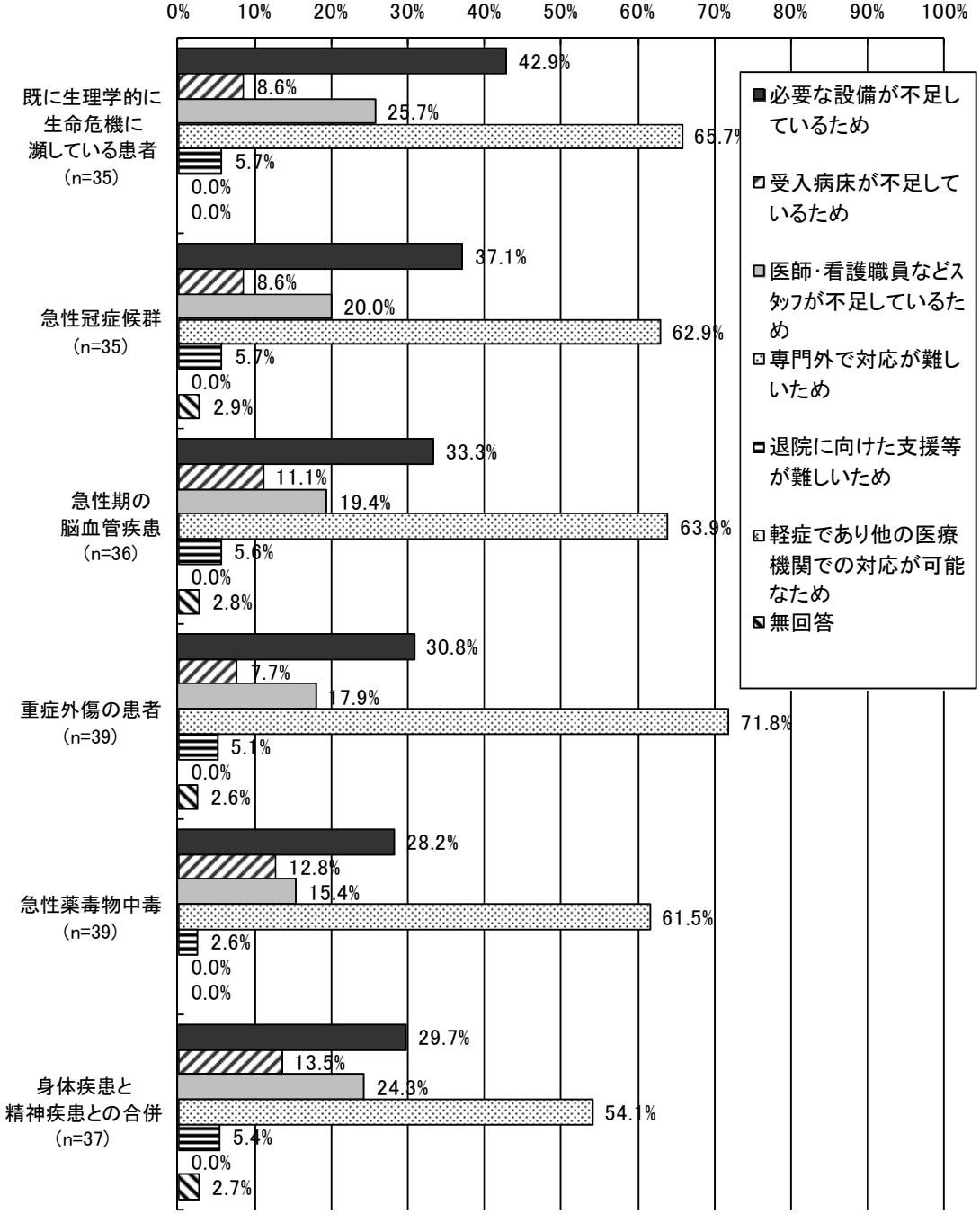
（二次救急医療機関、複数回答）



（注）　・各状態の患者の受入対応方針として、「原則的に受入を断っていない」以外の回答を行った施設に尋ねている。

図表 137　受入を断る理由

（その他の医療機関、複数回答）

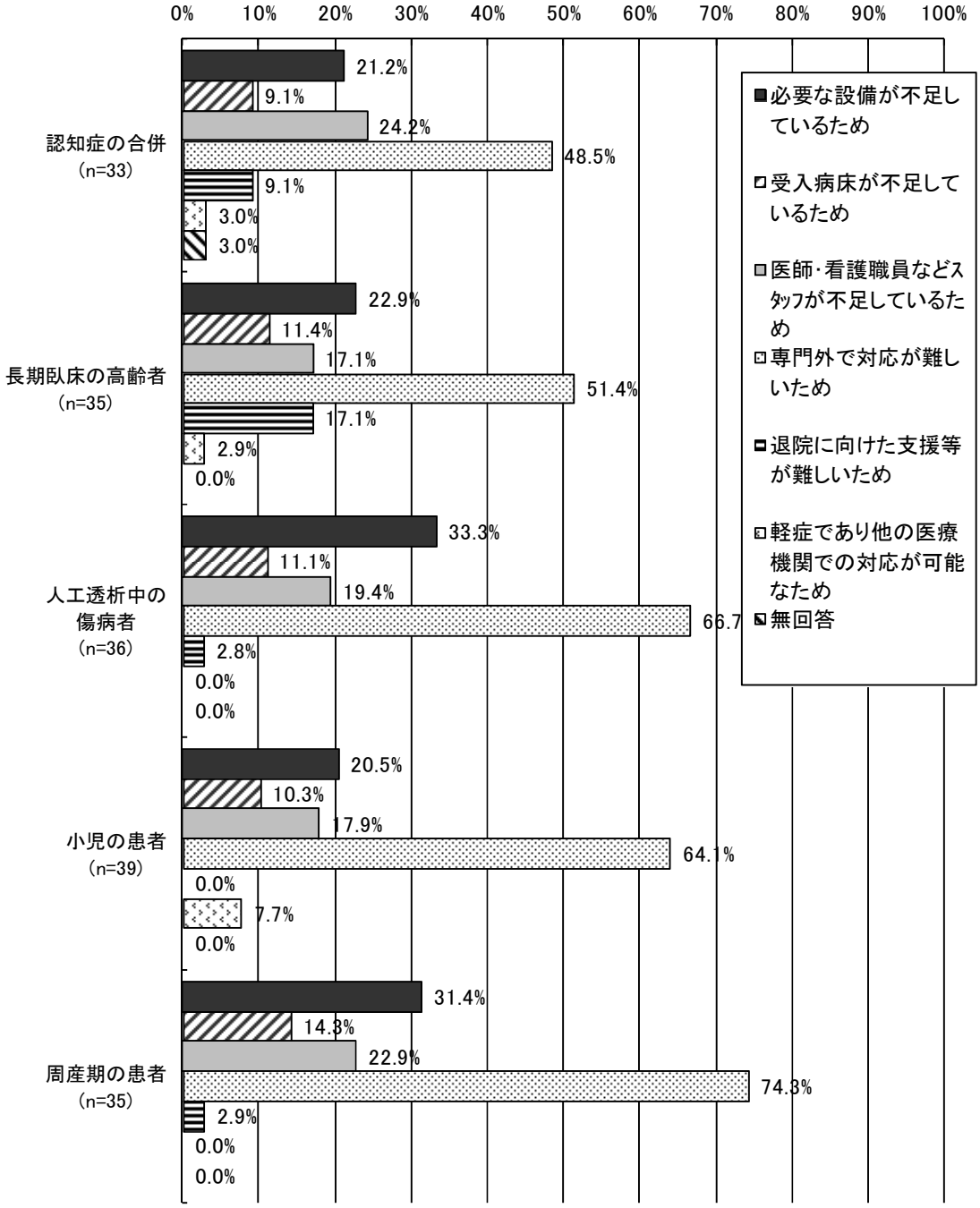


（注）　・各状態の患者の受入対応方針として、「原則的に受入を断っていない」以外の回答を行った施設に尋ねている。

・「既に生理学的に生命危機に瀕している患者」は、「緊急度判定プロトコル ver1」（消防庁）の「赤 1」または院内トリアージ（JTAS）の重症（青）に準じる。

・「重症外傷の患者」は、「緊急度判定プロトコル ver1」（消防庁）の「赤 1、2」または JPTEC における「ロードアンドゴー」に準じる。

図表 138　受入を断る理由（つづき）
（その他の医療機関、複数回答）



（注）　・各状態の患者の受入対応方針として、「原則的に受入を断っていない」以外の回答を行った施設に尋ねている。

⑥新生児特定集中治療室・新生児集中治療室の患者数

図表 139　新生児特定集中治療室・新生児集中治療室の患者数

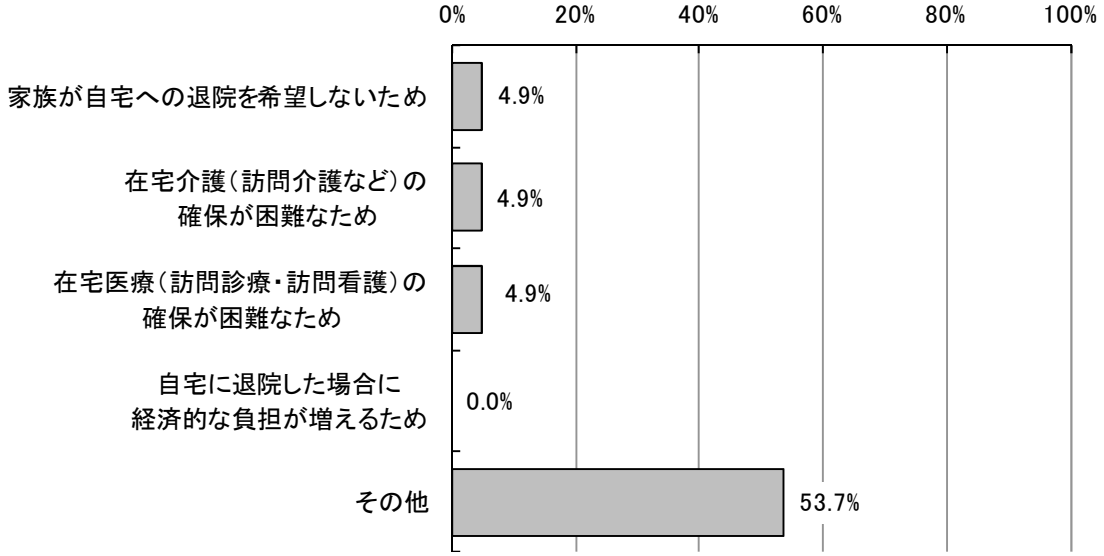
（単位：人）

	平成25年10月				平成26年10月			
	施設数	平均値	標準偏差	中央値	施設数	平均値	標準偏差	中央値
1か月間に当該治療室に入室した患者数	(n=175)	17.4	11.4	15.0	(n=175)	18.4	12.8	15.0
うち、他院から転入した患者数	(n=175)	2.9	3.2	2.0	(n=175)	3.4	3.7	2.0
うち、受入後、退院支援計画を策定した患者数					(n=175)	1.2	2.9	0.0
うち、「退院支援計画策定加算」(600点)を算定した患者数	(n=175)	0.8	2.0	0.0	(n=175)	0.2	0.8	0.0
1か月間に当該治療室から退室した患者数	(n=167)	16.6	10.5	15.0	(n=167)	16.8	10.5	15.0
うち、自宅（直接退院）の患者数	(n=167)	3.6	6.2	1.0	(n=167)	3.6	5.7	1.0
うち、訪問看護利用者	(n=167)	0.0	0.2	0.0	(n=167)	0.0	0.2	0.0
うち、自院の他病棟に転棟した患者数	(n=167)	11.9	10.1	10.0	(n=167)	12.1	10.1	10.0
うち、他院に転院した患者数	(n=167)	0.8	1.2	0.0	(n=167)	0.8	1.3	0.0
うち、重症化したために転院した患者数					(n=165)	0.2	0.5	0.0
うち、容体が安定したために転院した患者数					(n=165)	0.5	1.1	0.0
うち、障害者施設に入所した患者数	(n=167)	0.0	0.0	0.0	(n=167)	0.0	0.0	0.0
うち、死亡した患者数	(n=167)	0.3	0.5	0.0	(n=167)	0.2	0.6	0.0
うち、その他の転帰の患者数	(n=167)	0.1	0.7	0.0	(n=167)	0.1	0.6	0.0
うち、新生児特定集中治療室退院調整加算1を算定した患者数	(n=148)	1.8	5.4	0.0	(n=148)	2.1	5.7	0.0
うち、新生児特定集中治療室退院調整加算2を算定した患者数	(n=148)	0.8	2.2	0.0	(n=148)	1.0	2.4	0.0
上記の患者の平均在室日数	(n=157)	20.5	14.6	16.8	(n=157)	17.9	10.7	15.5

（注）・各患者数、及び平均在室日数について、平成 25 年 10 月、平成 26 年 10 月ともに数値の記載のあった施設を集計対象とした。

⑦自宅退院患者が少ない理由

図表 140　自宅退院患者が少ない理由（複数回答、n=41）



（注）平成 26 年 10 月において、自宅退院患者数が退院転院患者数よりも少ない施設に尋ねている。

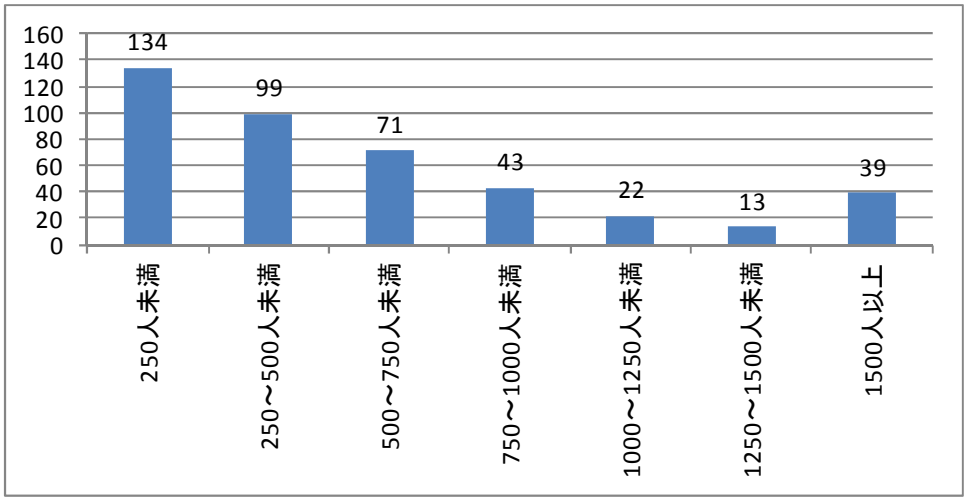
（５）救急医療管理加算２の算定状況

①算定患者数等

図表 141　算定患者数等（平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 6 月 30 日、n=421）

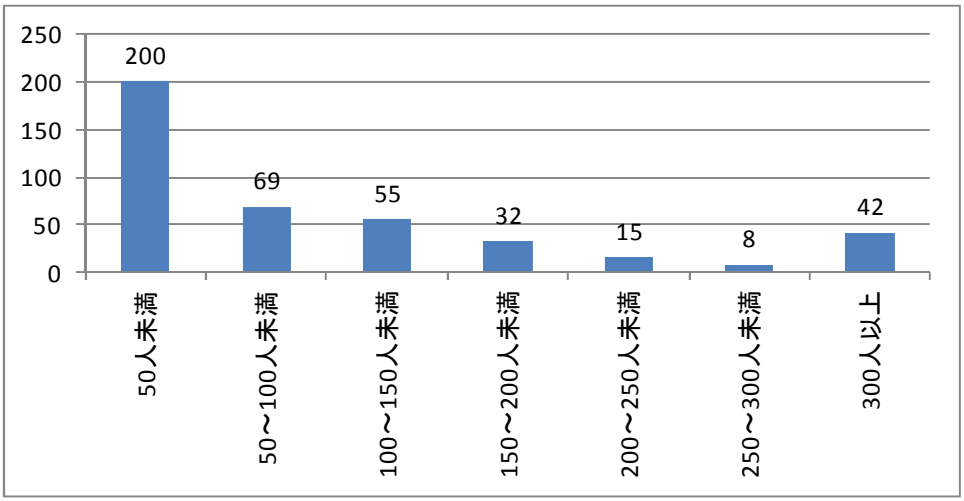
	平均値	標準偏差	中央値
① 対象期間の救急医療管理加算1･2の合計算定患者数（人）	703.1	1123.1	435.0
② 上記①のうち、救急医療管理加算2の算定患者数（人）	123.2	221.8	54.0
③ 救急医療管理加算2の割合:②/①（%）	20.8	19.9	15.7

図表 142　救急医療管理加算 1･2 の合計算定患者数別　施設数



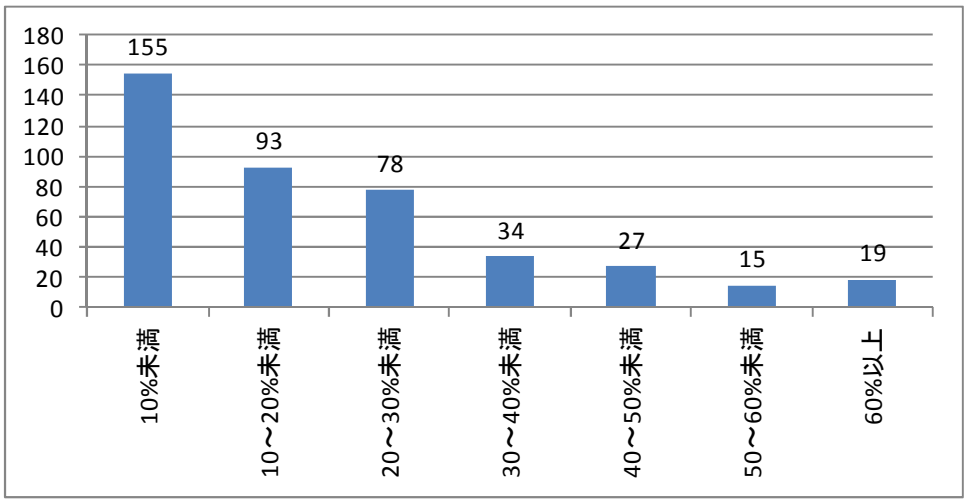
（注）平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 6 月 30 日の算定患者数

図表 143　救急医療管理加算 2 の算定患者数別　施設数



（注）平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 6 月 30 日の算定患者数

図表 144　救急医療管理加算 2 の割合別　施設数



（注）「救急医療管理加算 2 の割合」＝
「救急医療管理加算 2 の算定患者数÷救急医療管理加算 1･2 の合計算定患者数」
（いずれも平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 6 月 30 日における患者数）

②疾病別算定患者数

図表 145　疾病別算定患者数（上位 100 位）

患者数順位	疾病コード	名称	施設数	1施設あたり平均患者数	各施設患者数の標準偏差	各施設患者数の中央値	全施設の患者数合計	全疾患・全施設患者数合計に占める割合
1	010060	脳梗塞	282	17.3	27.3	10.0	4881	9.5%
2	040080	肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎	236	11.3	23.6	5.0	2678	5.2%
3	060210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	239	8.7	14.1	5.0	2071	4.0%
4	060340	胆管（肝内外）結石、胆管炎	215	6.7	8.9	4.0	1451	2.8%
5	110310	腎臓または尿路の感染症	221	6.2	10.3	3.0	1377	2.7%
6	050050	狭心症、慢性虚血性心疾患	181	6.6	13.5	3.0	1199	2.3%
7	120170	早産、切迫早産	111	9.8	12.3	6.0	1083	2.1%
8	060130	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症（その他良性疾患）	203	4.9	6.3	3.0	994	1.9%
9	060102	穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾患	185	5.1	6.4	3.0	947	1.8%
10	040081	誤嚥性肺炎	153	5.6	13.0	2.0	851	1.7%
11	080011	急性膿皮症	173	4.8	8.4	3.0	826	1.6%
12	010040	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）	189	4.1	5.3	2.0	768	1.5%
13	160800	股関節大腿近位骨折	100	7.6	14.9	3.0	763	1.5%
14	060150	虫垂炎	151	5.0	9.0	3.0	759	1.5%
15	060335	胆嚢水腫、胆嚢炎等	170	4.4	5.8	3.0	752	1.5%
16	150010	ウイルス性腸炎	146	5.0	8.8	2.0	727	1.4%
17	060350	急性膵炎	172	3.8	4.1	2.0	650	1.3%
18	030240	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	117	5.3	5.7	3.0	620	1.2%
19	040200	気胸	136	4.2	5.1	2.0	566	1.1%
20	040100	喘息	83	6.5	17.1	2.0	537	1.0%
21	060035	大腸（上行結腸からS状結腸）の悪性腫瘍	144	3.7	5.3	2.0	537	1.0%
22	130090	貧血（その他）	179	2.8	3.6	2.0	506	1.0%
23	030400	前庭機能障害	117	4.3	4.5	3.0	505	1.0%
24	040040	肺の悪性腫瘍	118	4.1	5.1	2.0	484	0.9%
25	180010	敗血症	165	2.9	3.6	2.0	480	0.9%
26	060020	胃の悪性腫瘍	140	3.3	4.4	2.0	463	0.9%
27	060190	虚血性腸炎	132	3.4	4.3	2.0	446	0.9%
28	140010	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害	41	10.3	23.9	3.0	424	0.8%
29	060370	腹膜炎、腹腔内膿瘍（女性器臓器を除く。）	147	2.8	4.3	2.0	417	0.8%
30	160100	頭蓋・頭蓋内損傷	133	3.1	3.7	2.0	413	0.8%
31	050210	徐脈性不整脈	120	3.4	5.8	2.0	407	0.8%
32	080020	帯状疱疹	85	4.8	11.5	2.0	406	0.8%
33	060140	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄（穿孔を伴わないもの）	127	2.9	3.6	2.0	365	0.7%
34	050161	解離性大動脈瘤	125	2.8	3.1	2.0	351	0.7%
35	050070	頻脈性不整脈	129	2.7	2.6	2.0	345	0.7%
36	180040	手術・処置等の合併症	123	2.8	3.3	1.0	340	0.7%
37	06007X	膵臓、脾臓の腫瘍	91	3.5	3.6	2.0	318	0.6%
38	130070	白血球疾患（その他）	107	3.0	6.6	1.0	317	0.6%
39	010061	一過性脳虚血発作	100	3.1	3.2	2.0	311	0.6%
40	160690	胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰髄損傷を含む。）	101	3.0	3.3	2.0	304	0.6%
41	060040	直腸肛門（直腸・S状結腸から肛門）の悪性腫瘍	107	2.7	3.7	1.0	284	0.6%
42	120180	胎児及び胎児付属物の異常	77	3.6	3.3	3.0	280	0.5%
43	060050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。）	106	2.6	3.0	2.0	275	0.5%
44	010230	てんかん	113	2.4	2.3	1.0	270	0.5%
45	060060	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	115	2.3	2.4	1.0	261	0.5%
46	050030	急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞	107	2.3	2.1	2.0	248	0.5%
47	110280	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	92	2.6	3.6	1.0	242	0.5%
48	010010	脳腫瘍	100	2.4	2.8	1.0	239	0.5%
49	070560	全身性臓器障害を伴う自己免疫性疾患	95	2.5	2.5	1.0	236	0.5%
50	030270	上気道炎	75	3.1	4.5	2.0	234	0.5%

（注）・様式 2 の回答を得られた 421 施設について、疾病コード別の救急医療管理加算 2 の算定患者数合計の多い順に上位 100 位までを掲載した（いずれも平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 6 月 30 日における患者数）。

・「平均」「標準偏差」「中央値」は該当患者があった施設の 1 施設あたりの算定患者数である。

・「患者数に占める割合」は救急医療管理加算 2 を算定した患者総数（回答施設の算定患者数の総合計）に占める当該疾病コードに該当する患者の割合。

図表 146　疾病別算定患者数（上位 100 位、つづき）

患者数順位	疾病コード	名称	施設数	1施設あたり平均患者数	各施設患者数の標準偏差	各施設患者数の中央値	全施設の患者数合計	全疾患・全施設患者数合計に占める割合
51	130030	非ホジキンリンパ腫	92	2.5	3.3	1.0	232	0.5%
52	150020	細菌性腸炎	76	2.9	5.5	1.0	219	0.4%
53	070040	骨の悪性腫瘍（脊椎を除く。）	82	2.6	3.6	1.0	217	0.4%
54	050130	心不全	97	2.2	2.5	1.0	212	0.4%
55	010080	脳脊髄の感染を伴う炎症	95	2.2	1.9	1.0	206	0.4%
56	150070	川崎病	38	5.4	6.3	3.5	205	0.4%
57	180030	その他の感染症（真菌を除く）	89	2.2	2.8	1.0	198	0.4%
58	11012X	上部尿路疾患	81	2.4	3.0	1.0	197	0.4%
59	130010	急性白血病	76	2.6	2.0	2.0	197	0.4%
60	120110	子宮・子宮附属器の炎症性疾患	88	2.2	1.7	1.5	196	0.4%
61	120150	妊娠早期の出血	65	3.0	3.1	2.0	193	0.4%
62	110050	後腹膜疾患	73	2.6	2.9	2.0	189	0.4%
63	120160	妊娠高血圧症候群関連疾患	66	2.8	3.5	1.5	185	0.4%
64	030428	突発性難聴	49	3.5	3.4	2.0	171	0.3%
65	060570	その他の消化管の障害	80	2.1	2.0	1.0	166	0.3%
66	020160	網膜剥離	18	9.2	20.0	1.0	165	0.3%
67	11022X	男性生殖器疾患	61	2.6	2.6	2.0	161	0.3%
68	130110	出血性疾患（その他）	85	1.9	1.9	1.0	161	0.3%
69	040110	間質性肺炎	63	2.5	3.0	2.0	158	0.3%
70	040150	肺・縦隔の感染、膿瘍形成	74	2.1	2.2	1.0	154	0.3%
71	050170	閉塞性動脈疾患	81	1.9	1.5	1.0	153	0.3%
72	110080	前立腺の悪性腫瘍	64	2.3	2.3	1.0	146	0.3%
73	060300	肝硬変（胆汁性肝硬変を含む。）	79	1.8	1.8	1.0	145	0.3%
74	070350	椎間板変性、ヘルニア	61	2.3	2.1	2.0	142	0.3%
75	120260	分娩の異常	56	2.5	2.4	2.0	142	0.3%
76	080100	薬疹、中毒疹	54	2.6	5.2	1.0	140	0.3%
77	170030	統合失調症，統合失調症型障害および妄想性障害	25	5.6	5.5	4.0	140	0.3%
78	110070	膀胱腫瘍	63	2.2	3.1	1.0	138	0.3%
79	12002X	子宮頸・体部の悪性腫瘍	60	2.3	2.2	1.0	137	0.3%
80	060185	潰瘍性大腸炎	60	2.2	2.0	1.0	133	0.3%
81	050180	静脈・リンパ管疾患	81	1.6	1.7	1.0	131	0.3%
82	050190	肺塞栓症	65	2.0	2.1	1.0	131	0.3%
83	040190	胸水、胸膜の疾患（その他）	72	1.8	1.9	1.0	130	0.3%
84	040070	インフルエンザ、ウイルス性肺炎	37	3.5	8.4	1.0	129	0.3%
85	100380	体液量減少症	56	2.3	3.5	1.0	126	0.2%
86	071030	その他の筋骨格系・結合組織の疾患	65	1.9	1.4	1.0	123	0.2%
87	060010	食道の悪性腫瘍（頸部を含む。）	50	2.4	2.6	1.0	122	0.2%
88	161060	詳細不明の損傷等	67	1.8	1.6	1.0	122	0.2%
89	120010	卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍	53	2.3	2.0	1.0	121	0.2%
90	160980	骨盤損傷	51	2.3	2.7	1.0	119	0.2%
91	050163	非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤	58	2.0	3.2	1.0	117	0.2%
92	130100	播種性血管内凝固症候群	56	2.0	2.4	1.0	111	0.2%
93	170040	気分[感情]障害	29	3.8	4.3	2.0	110	0.2%
94	060270	劇症肝炎、急性肝不全、急性肝炎	61	1.8	1.4	1.0	108	0.2%
95	060310	肝膿瘍（細菌性・寄生虫性疾患を含む。）	62	1.7	1.3	1.0	108	0.2%
96	120165	妊娠合併症等	46	2.3	3.1	1.0	107	0.2%
97	150040	熱性けいれん	28	3.8	4.8	2.0	106	0.2%
98	070343	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。） 腰部骨盤、不安定椎	56	1.9	1.6	1.0	105	0.2%
99	070330	脊椎感染（感染を含む。）	43	2.4	2.9	1.0	104	0.2%
100	090010	乳房の悪性腫瘍	52	1.9	1.5	1.0	101	0.2%

（注）・様式 2 の回答を得られた 421 施設について、疾病コード別の救急医療管理加算 2 の算定患者数合計の多い順に上位 100 位までを掲載した（いずれも平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 6 月 30 日における患者数）。

・「平均」「標準偏差」「中央値」は該当患者があった施設の 1 施設あたりの算定患者数である。

・「患者数に占める割合」は救急医療管理加算 2 を算定した患者総数（回答施設の算定患者数の総合計）に占める当該疾病コードに該当する患者の割合。

図表 147　疾病別算定患者数

（（高度）救命救急センターを有する医療機関　施設数：156　患者数合計：25,106 人）

	疾病コード	名称	施設数	１施設あたり平均患者数（人）	全疾患・全施設患者数合計に占める割合
1	010060	脳梗塞	117	22.5	10.5%
2	040080	肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎	91	12.5	4.5%
3	060210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	100	10.6	4.2%
4	060340	胆管（肝内外）結石、胆管炎	96	8.1	3.1%
5	050050	狭心症、慢性虚血性心疾患	90	7.6	2.7%
6	110310	腎臓または尿路の感染症	86	6.9	2.4%
7	120170	早産、切迫早産	46	10.9	2.0%
8	060130	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症（その他良性疾患）	92	5.3	2.0%
9	010040	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）	91	5.0	1.8%
10	060102	穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾患	84	5.0	1.7%
11	040081	誤嚥性肺炎	59	7.1	1.7%
12	080011	急性膿皮症	74	5.4	1.6%
13	060150	虫垂炎	62	6.0	1.5%
14	060335	胆嚢水腫、胆嚢炎等	73	4.9	1.4%
15	040200	気胸	62	5.2	1.3%
16	060350	急性膵炎	73	4.4	1.3%
17	150010	ウイルス性腸炎	57	5.6	1.3%
18	030240	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	56	5.6	1.2%
19	160800	股関節大腿近位骨折	43	6.9	1.2%
20	140010	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害	23	12.7	1.2%
21	040040	肺の悪性腫瘍	61	4.4	1.1%
22	060035	大腸（上行結腸からＳ状結腸）の悪性腫瘍	63	4.2	1.1%
23	040100	喘息	28	9.1	1.0%
24	160100	頭蓋・頭蓋内損傷	69	3.7	1.0%
25	130090	貧血（その他）	72	3.4	1.0%
26	060020	胃の悪性腫瘍	63	3.6	0.9%
27	180010	敗血症	69	3.3	0.9%
28	050161	解離性大動脈瘤	75	3.0	0.9%
29	060190	虚血性腸炎	55	4.0	0.9%
30	030400	前庭機能障害	47	4.7	0.9%
31	060370	腹膜炎、腹腔内膿瘍（女性器臓器を除く。）	63	3.4	0.8%
32	050070	頻脈性不整脈	66	3.2	0.8%
33	050210	徐脈性不整脈	61	3.3	0.8%
34	180040	手術・処置等の合併症	60	3.0	0.7%
35	060040	直腸肛門（直腸・Ｓ状結腸から肛門）の悪性腫瘍	54	3.0	0.7%
36	010061	一過性脳虚血発作	52	3.0	0.6%
37	06007X	膵臓、脾臓の腫瘍	37	4.2	0.6%
38	060140	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄（穿孔を伴わないもの）	49	3.2	0.6%
39	010230	てんかん	57	2.5	0.6%
40	010010	脳腫瘍	52	2.6	0.5%
41	060060	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	52	2.5	0.5%
42	130070	白血球疾患（その他）	49	2.7	0.5%
43	020160	網膜剥離	9	13.7	0.5%
44	120180	胎児及び胎児付属物の異常	38	3.2	0.5%
45	050030	急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞	49	2.4	0.5%
46	110280	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	39	3.1	0.5%
47	010080	脳脊髄の感染を伴う炎症	54	2.2	0.5%
48	060050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。）	47	2.5	0.5%
49	130030	非ホジキンリンパ腫	43	2.7	0.5%
50	080020	帯状疱疹	36	3.2	0.5%

図表 148　疾病別算定患者数

（二次救急医療機関　施設数：237　患者数合計：24,595）

	疾病コード	名称	施設数	１施設あたり平均患者数（人）	全疾患・全施設患者数合計に占める割合
1	010060	脳梗塞	158	13.6	8.7%
2	040080	肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎	136	11.1	6.2%
3	060210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	129	7.5	3.9%
4	110310	腎臓または尿路の感染症	129	5.7	3.0%
5	060340	胆管（肝内外）結石、胆管炎	111	5.6	2.5%
6	060102	穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾患	97	5.3	2.1%
7	050050	狭心症、慢性虚血性心疾患	89	5.7	2.1%
8	060130	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症（その他良性疾患）	105	4.7	2.0%
9	120170	早産、切迫早産	60	7.8	1.9%
10	160800	股関節大腿近位骨折	56	8.3	1.9%
11	040081	誤嚥性肺炎	93	4.7	1.8%
12	080011	急性膿皮症	93	4.3	1.6%
13	060335	胆嚢水腫、胆嚢炎等	95	4.1	1.6%
14	150010	ウイルス性腸炎	83	4.7	1.6%
15	060150	虫垂炎	83	4.4	1.5%
16	010040	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）	93	3.3	1.3%
17	030240	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	58	5.1	1.2%
18	060350	急性膵炎	92	3.2	1.2%
19	080020	帯状疱疹	47	6.2	1.2%
20	040100	喘息	53	5.3	1.1%
21	030400	前庭機能障害	65	4.2	1.1%
22	060035	大腸（上行結腸からＳ状結腸）の悪性腫瘍	78	3.4	1.1%
23	130090	貧血（その他）	100	2.5	1.0%
24	040200	気胸	72	3.2	0.9%
25	180010	敗血症	90	2.5	0.9%
26	060020	胃の悪性腫瘍	75	3.0	0.9%
27	160690	胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰髄損傷を含む。）	62	3.6	0.9%
28	060190	虚血性腸炎	74	2.9	0.9%
29	040040	肺の悪性腫瘍	55	3.8	0.8%
30	060140	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄（穿孔を伴わないもの）	75	2.7	0.8%
31	060370	腹膜炎、腹腔内膿瘍（女性器臓器を除く。）	82	2.4	0.8%
32	050210	徐脈性不整脈	58	3.4	0.8%
33	130070	白血球疾患（その他）	57	3.2	0.7%
34	06007X	膵臓、脾臓の腫瘍	53	2.9	0.6%
35	060050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。）	57	2.7	0.6%
36	010061	一過性脳虚血発作	47	3.3	0.6%
37	160100	頭蓋・頭蓋内損傷	60	2.5	0.6%
38	150020	細菌性腸炎	46	3.1	0.6%
39	180040	手術・処置等の合併症	58	2.4	0.6%
40	050070	頻脈性不整脈	61	2.2	0.5%
41	030270	上気道炎	38	3.4	0.5%
42	140010	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害	17	7.7	0.5%
43	070560	全身性臓器障害を伴う自己免疫性疾患	46	2.7	0.5%
44	050030	急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞	55	2.2	0.5%
45	120180	胎児及び胎児付属物の異常	33	3.7	0.5%
46	010230	てんかん	55	2.2	0.5%
47	060060	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	59	2.1	0.5%
48	060040	直腸肛門（直腸・Ｓ状結腸から肛門）の悪性腫瘍	53	2.3	0.5%
49	050130	心不全	50	2.4	0.5%
50	050161	解離性大動脈瘤	49	2.4	0.5%

図表 149　疾病別算定患者数

（その他の医療機関　施設数：18　患者数合計：1,277 人）

	疾病コード	名称	施設数	1施設あたり平均患者数（人）	全疾患・全施設患者数合計に占める割合
1	010060	脳梗塞	5	18.6	7.3%
2	120170	早産、切迫早産	4	20.5	6.4%
3	060340	胆管（肝内外）結石、胆管炎	6	8.0	3.8%
4	060210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	8	5.1	3.2%
5	110310	腎臓または尿路の感染症	5	7.8	3.1%
6	070040	骨の悪性腫瘍（脊椎を除く。）	3	11.0	2.6%
7	120180	胎児及び胎児付属物の異常	5	6.0	2.3%
8	060350	急性膵炎	6	4.8	2.3%
9	080011	急性膿皮症	4	7.0	2.2%
10	11001X	腎腫瘍	2	14.0	2.2%
11	040080	肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎	7	3.7	2.0%
12	020160	網膜剥離	1	24.0	1.9%
13	180010	敗血症	6	4.0	1.9%
14	010010	脳腫瘍	4	5.5	1.7%
15	180040	手術・処置等の合併症	4	5.0	1.6%
16	120160	妊娠高血圧症候群関連疾患	4	4.5	1.4%
17	170030	統合失調症，統合失調症型障害および妄想性障害	5	3.6	1.4%
18	150010	ウイルス性腸炎	5	3.0	1.2%
19	010110	免疫介在性・炎症性ニューロパチー	2	7.0	1.1%
20	020150	斜視（外傷性・癒着性を除く。）	1	14.0	1.1%
21	020280	角膜の障害	2	6.5	1.0%
22	020350	脈絡膜の疾患	2	6.5	1.0%
23	060150	虫垂炎	5	2.6	1.0%
24	010090	多発性硬化症	1	12.0	0.9%
25	130090	貧血（その他）	4	3.0	0.9%
26	12002X	子宮頸・体部の悪性腫瘍	2	5.5	0.9%
27	150070	川崎病	1	11.0	0.9%
28	160100	頭蓋・頭蓋内損傷	3	3.7	0.9%
29	030400	前庭機能障害	4	2.5	0.8%
30	100100	糖尿病足病変	1	10.0	0.8%
31	110070	膀胱腫瘍	3	3.3	0.8%
32	130110	出血性疾患（その他）	3	3.3	0.8%
33	040200	気胸	2	4.5	0.7%
34	050161	解離性大動脈瘤	1	9.0	0.7%
35	060060	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	3	3.0	0.7%
36	110080	前立腺の悪性腫瘍	3	3.0	0.7%
37	110280	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	3	3.0	0.7%
38	170060	その他の精神及び行動の障害	6	1.5	0.7%
39	010130	重症筋無力症、その他の神経筋障害	2	4.0	0.6%
40	050190	肺塞栓症	2	4.0	0.6%
41	050210	徐脈性不整脈	1	8.0	0.6%
42	060035	大腸（上行結腸からＳ状結腸）の悪性腫瘍	2	4.0	0.6%
43	060140	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄（穿孔を伴わないもの）	2	4.0	0.6%
44	060185	潰瘍性大腸炎	2	4.0	0.6%
45	060190	虚血性腸炎	2	4.0	0.6%
46	060200	腸重積	1	8.0	0.6%
47	120182	前置胎盤および低置胎盤	2	4.0	0.6%
48	010160	パーキンソン病	1	7.0	0.5%
49	020130	原田病	1	7.0	0.5%
50	040050	胸壁腫瘍、胸膜腫瘍	1	7.0	0.5%

様式１

平成26年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成26年度調査）

救急医療の実施状況調査　調査票

※　以下のラベルに、電話番号とご回答者名をご記入ください。また、施設名と施設の所在地をご確認の上、記載内容に不備等がございましたら、赤書きで修正してください。

※この調査票は、医療機関の開設者・管理者の方に、貴施設における救急医療に係る診療体制や取組状況、今後の課題等についてお伺いするものです。

※ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（　　）内には具体的な数値、用語等をご記入ください。（　　）内に数値を記入する設問で、該当なしは「０（ゼロ）」を、わからない場合は「－」をご記入ください。

※特に断りのない質問については、平成 26 年 10 月 31 日時点の状況についてご記入ください。

※「平成 25 年 10 月」と記載の質問については**平成 25 年 10 月 31 日時点または平成 25 年 10 月 1 か月間**の状況を、「平成 26 年 10 月」と記載の質問については**平成 26 年 10 月 31 日時点または平成 26 年 10 月 1 か月間**の状況をご記入ください。

１．貴施設の概況についてお伺いします。

①開設者 ※○は１つだけ	1. 国　2. 公立　3. 公的　4. 社会保険関係団体 5. 医療法人　6. 個人　7. 学校法人　8. その他の法人
②貴施設の救急医療体制についてお答えください。	
1）救急告示の有無　※○は１つだけ	1. あり　2. なし
2）救急医療体制 ※○は１つだけ	1. 高度救命救急センター　2. 救命救急センター 3. 二次救急医療機関　4. いずれも該当しない
③承認等の状況 ※あてはまる番号すべてに○	1. 特定機能病院　2. 地域医療支援病院 3. 災害拠点病院　4. 小児救命救急センター 5. 小児救急医療拠点病院　6. 総合周産期母子医療センター 7. 地域周産期母子医療センター　8. 小児専門病院 9. 上記以外の専門病院（主として悪性腫瘍、循環器疾患等の患者を入院させる保険医療機関であって高度かつ専門的な医療を行っているものとして地方厚生（支）局長に届け出たもの） 10. 病院群輪番制参加病院（輪番ではなく固定制の場合も含む） 11. 在宅療養支援病院　12. 上記のいずれも該当しない
④ＤＰＣ対応 ※○は１つだけ	1. ＤＰＣ対象病院Ⅰ群　2. ＤＰＣ対象病院Ⅱ群 3. ＤＰＣ対象病院Ⅲ群　4. ＤＰＣ準備病院 5. 対応していない
⑤以下の診療科について標榜していますか。	
1）小児科	1. 標榜している　2. 標榜していない
2）産科	1. 標榜している　2. 標榜していない
3）精神科	1. 標榜している　2. 標榜していない
⑥貴施設では、軽症患者等を対象とした時間外選定療養費を導入していますか。※○は１つだけ	
1. 導入している→**導入時期**：平成（　　）年（　　）月　2. 導入していない→**質問⑦へ**	

⑥-1 時間外選定療養費の金額	（　　）円　※価格が複数の場合は初診時の最高額
⑥-2 時間外選定療養費を徴収した件数	（　　）件　※平成 26 年 10 月

⑦平成 25 年 10 月及び平成 26 年 10 月の各 1 か月間の 1）許可病床数（各 10 月末時点）、2）新規入院患者数、3）病床利用率、4）平均在院日数（一般病床の内訳の算定病床については、当該病室における平均在室期間）をお答えください。該当の病床がない場合は「1）許可病床数」欄に必ず「0」とお書きください（この場合、2）～4）の回答欄の記入は結構です）。2）～4）は該当の特定入院料等の算定対象とならなかった患者数も含めた数値をご記入ください。

	平成 25 年 10 月			
	1）許可病床数	2）新規入院患者数	3）病床利用率	4）平均在院日数
一般病床	床	人	%	日
（うち）救命救急入院料	床	人	%	日
（うち）特定集中治療室管理料	床	人	%	日
上記のうち、小児専用病床	床	人	%	日
（うち）ハイケアユニット入院医療管理料	床	人	%	日
（うち）脳卒中ケアユニット入院医療管理料	床	人	%	日
（うち）小児特定集中治療室管理料	床	人	%	日
（うち）新生児特定集中治療室管理料	床	人	%	日
（うち）総合周産期特定集中治療室管理料 母体・胎児集中治療室管理料	床	人	%	日
（うち）総合周産期特定集中治療室管理料 新生児集中治療室管理料	床	人	%	日
（うち）新生児治療回復室入院医療管理料	床	人	%	日
（うち）小児入院医療管理料	床	人	%	日
療養病床	床	人	%	日
精神病床	床	人	%	
結核病床	床	人	%	
感染症病床	床			
病院全体	床	人	%	日

	平成 26 年 10 月			
	1）許可病床数	2）新規入院患者数	3）病床利用率	4）平均在院日数
一般病床	床	人	%	日
（うち）救命救急入院料	床	人	%	日
（うち）特定集中治療室管理料	床	人	%	日
上記のうち、小児専用病床	床	人	%	日
（うち）ハイケアユニット入院医療管理料	床	人	%	日
（うち）脳卒中ケアユニット入院医療管理料	床	人	%	日
（うち）小児特定集中治療室管理料	床	人	%	日
（うち）新生児特定集中治療室管理料	床	人	%	日
（うち）総合周産期特定集中治療室管理料 母体・胎児集中治療室管理料	床	人	%	日
（うち）総合周産期特定集中治療室管理料 新生児集中治療室管理料	床	人	%	日
（うち）新生児治療回復室入院医療管理料	床	人	%	日
（うち）小児入院医療管理料	床	人	%	日
療養病床	床	人	%	日
精神病床	床	人	%	
結核病床	床	人	%	
感染症病床	床			
病院全体	床	人	%	日

⑧平成 26 年 10 月末時点に届出を行っている一般病床の入院基本料について○をつけてください。

1）一般病棟入院基本料	1. ７対１　2. １０対１　3. １３対１　4. １５対１　5. 特別
2）特定機能病院入院基本料	1. ７対１　2. １０対１　3. 届出なし
3）専門病院入院基本料	1. ７対１　2. １０対１　3. １３対１　4. 届出なし
4）障害者施設等入院基本料	1. ７対１　2. １０対１　3. １３対１　4. １５対１　5. 届出なし

２．貴施設における救急医療体制の状況等についてお伺いします。

【二次救急医療機関の方】
①年間当番日数は何日ですか。平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日までの 1 年間についてご記入ください。
※当番日数の数え方は、平日・休日の夕方から翌朝までで 1 日、休日の朝から夕方までで 1 日とする（例：休日の午前 8：00～翌日の午前 8：00 まで当番だった場合、「2 日」と数えます）。

（　　）日

【二次救急医療機関の方】
②該当する二次救急医療体制はどのようになっていますか。　※あてはまる番号すべてに○

1. 病院群輪番制　　2. 拠点型　　3. 共同利用型

※病院群輪番制：地域内の病院群が共同連帯して、輪番方式により救急患者の受入体制を整えている場合をいう。
拠点型：病院群輪番制の一つで、365 日に入院を要する救急患者の受入体制を整えている場合をいう（いわゆる「固定輪番制」や「固定通年制」等も含む）。
共同利用型：医師会立病院等が休日夜間に病院の一部を開放し、地域医師会の協力により実施するものをいう。

【二次救急・三次救急医療機関<u>以外</u>の方】
③貴施設では、平成 26 年 10 月 1 か月間に救急搬送患者の受入が可能な体制を整えていた日数は何日ありましたか。

（　　）日

④以下の時間帯における救急医療に従事する実人数をご記入ください。二次救急医療機関は当番日の状況についてご記入ください。

	平日準夜帯	平日深夜帯	休日日勤帯
1）救急担当専従の医師	人	人	人
2）病棟業務と救急業務の兼務の医師	人	人	人
3）オンコールの医師	人	人	人
4）救急担当専従の看護職員	人	人	人
5）病棟業務と救急業務の兼務の看護職員	人	人	人
6）救急担当専従の薬剤師	人	人	人
7）病棟業務と救急業務の兼務の薬剤師	人	人	人
8）オンコールの薬剤師	人	人	人
9）救急担当専従の診療放射線技師	人	人	人
10）オンコールの診療放射線技師	人	人	人
11）救急担当専従の臨床検査技師	人	人	人
12）オンコールの臨床検査技師	人	人	人

⑤貴施設は、ＤＭＡＴ指定医療機関ですか。※あてはまる番号すべてに○

1. 指定医療機関ではない　　2. 日本 DMAT 指定医療機関となっている
3. 都道府県等自治体の DMAT 指定医療機関となっている
4. その他（具体的に　　）

⑥夜間（準夜・深夜・早朝）の救急対応はどのようになっていますか。1）～5）の診療科ごとに対応状況としてあてはまる番号 1 つに○をつけてください。（例：内科では休日も含めて毎日対応可能であれば、太線枠の中の 1）内科の行で「5」を○で囲んでください）※○は 1 つだけ

	ほぼ毎日対応可能	週 3～5 日対応可能	週 1～2 日対応可能	対応困難	診療科なし
1）内　科※	5	4	3	2	1
2）小児科	5	4	3	2	1
3）外　科※	5	4	3	2	1
4）産　科	5	4	3	2	1
5）精神科	5	4	3	2	1

※「内科」は内科系一般の診療科における救急対応について、「外科」は外科系一般の診療科における救急対応についてお答えください。

⑦夜間（準夜・深夜・早朝）の救急外来の**初期対応**について、貴施設ではどのように対応していますか。※○は１つだけ

1. 救急部門の専従・専任医師と救急部門以外の診療科の当直医師が同時に対応
2. 救急部門の専従・専任医師が対応
3. 診療科に関係なく当直医師が対応
4. その他（具体的に　　）

⑧平成 26 年 10 月末時点の救急医療に従事する医師・看護職員の常勤換算人数（専従・専任別）をお答えください。

			医師	看護職員
1）救急医療に従事する**専従・専任の**医師数・看護職員数（常勤換算）			人	人
従事部署別	2）救命救急センター外来	専　従	人	人
		専任（兼任）	人	人
	3）救命救急センター病棟	専　従	人	人
		専任（兼任）	人	人
	4）特定集中治療室	専　従	人	人
		専任（兼任）	人	人
	5）ハイケアユニット	専　従	人	人
		専任（兼任）	人	人
	6）小児特定集中治療室	専　従	人	人
		専任（兼任）	人	人
	7）新生児特定集中治療室	専　従	人	人
		専任（兼任）	人	人
	8）総合周産期特定集中治療室	専　従	人	人
		専任（兼任）	人	人
	9）新生児治療回復室	専　従	人	人
		専任（兼任）	人	人

⑨貴施設の医師数（常勤換算）をお書きください。※平成 26 年 10 月末時点

	常勤	非常勤（常勤換算）
1）精神科の医師	人	人
2）（うち）精神保健指定医	人	人
3）（うち）上記以外の精神科医	人	人
4）小児科の医師	人	人
5）産科の医師	人	人
6）メディカルコントロールの業務に携わる医師	人	人

⑩貴施設では、臨床工学技士（外来透析担当を除く）の当直がありますか。※○は１つだけ

1. 当直がある
2. 当直はないが、オンコール体制となっている
3. 当直・オンコール体制はない
4. その他（具体的に　　）

⑪貴施設には、退院調整を行う部門（部署）がありますか。※○は１つだけ

1. 施設全体での退院調整部門と、一部の病棟に退院調整部門がある
2. 病棟に退院調整部門がある
3. 施設全体での退院調整部門がある
4. その他（具体的に　　）
5. 退院調整部門がない→５ページの質問３．①へ

【退院調整部門（部署）がある施設の方にお伺いします】

⑫貴施設では、退院調整をどのような体制で実施していますか。平成 26 年 10 月末における、退院調整を行う部門（部署）と病棟に配置されている退院調整担当者の職員数（従事している人数）を専従※1・専任（兼任）※2 別にお書きください。

	退院調整を行う部門（部署）		病棟	
	専　従	専任（兼任）	専　従	専任（兼任）
1）医師	人	人		人
2）看護師（保健師、助産師を含む）	人	人	人	人
3）准看護師	人	人	人	人
4）社会福祉士	人	人	人	人
5）精神保健福祉士	人	人	人	人
6）その他の相談員	人	人	人	人
7）事務職員	人	人	人	人
8)その他（　　）	人	人	人	人
9）合計	人	人	人	人

※1：退院調整担当者が病棟内の患者に対し、退院調整業務のみに従事している場合を指します。

※2：退院調整担当者（退院調整リンクナース等の病棟において退院調整役として位置づけられている者）が、受け持ち患者の看護等以外に、病棟内の患者に対する退院調整業務に従事している場合を指します。

３．貴施設における救急医療に関する施設基準及びその算定状況等についてお伺いします。

①次の施設基準等について「届出があるもの」の該当数字を○で囲んでください。届出がある場合、「届出時期」（初回の届出）、平成 25 年 10 月及び平成 26 年 10 月の各 1 か月間の算定件数をお答えください。算定件数は患者 1 人につき 1 件と数えてください。

施設基準等	届出の状況		算定件数	
	届出があるもの	届出時期（初回の届出）	平成 25 年 10 月	平成 26 年 10 月
1）救命救急入院料１	1	平成（　）年（　）月	件	件
2）救命救急入院料２	2	平成（　）年（　）月	件	件
3）救命救急入院料３	3	平成（　）年（　）月	件	件
【再掲】広範囲熱傷特定集中治療管理料			件	件
4）救命救急入院料４	4	平成（　）年（　）月	件	件
【再掲】広範囲熱傷特定集中治療管理料			件	件
5）救命救急入院料の充実段階Ａ加算	5	平成（　）年（　）月	件	件
6）救命救急入院料の充実段階Ｂ加算	6	平成（　）年（　）月	件	件
7）救命救急入院料の小児加算	7	平成（　）年（　）月	件	件
8)救命救急入院料の精神保健指定医等診断治療等加算	8	平成（　）年（　）月	件	件
9）救命救急入院料の急性薬毒物中毒加算 1（機器分析）			件	件
10）救命救急入院料の急性薬毒物中毒加算 2（その他）				件
11）特定集中治療室管理料１	11	平成２６年（　）月		件
12）特定集中治療室管理料２	12	平成２６年（　）月		件
【再掲】広範囲熱傷特定集中治療管理料				件
13）特定集中治療室管理料３ ※平成 25 年 10 月は特定集中治療室管理料 1	13	平成（　）年（　）月	件	件
14）特定集中治療室管理料４ ※平成 25 年 10 月は特定集中治療室管理料 2	14	平成（　）年（　）月	件	件
【再掲】広範囲熱傷特定集中治療管理料			件	件
15）特定集中治療室管理料の小児加算	15	平成（　）年（　）月	件	件

施設基準等	届出の状況		算定件数	
	届出があるもの	届出時期（初回の届出）	平成 25 年 10 月	平成 26 年 10 月
16）ハイケアユニット入院医療管理料１ ※平成 25 年 10 月はハイケアユニット入院管理料	16	平成（　　）年（　　）月	件	件
17）ハイケアユニット入院医療管理料２ ※平成 25 年 10 月はハイケアユニット入院管理料	17	平成（　　）年（　　）月	件	件
18）脳卒中ケアユニット入院医療管理料	18	平成（　　）年（　　）月	件	件
19）小児特定集中治療室管理料	19	平成（　　）年（　　）月	件	件
20）新生児特定集中治療室管理料１	20	平成（　　）年（　　）月	件	件
21）新生児特定集中治療室管理料２	21	平成（　　）年（　　）月	件	件
22）総合周産期特定集中治療室管理料 母体・胎児集中治療室管理料	22	平成（　　）年（　　）月	件	件
23）総合周産期特定集中治療室管理料 新生児集中治療室管理料	23	平成（　　）年（　　）月	件	件
24）新生児治療回復室入院医療管理料	24	平成（　　）年（　　）月	件	件
25）小児入院医療管理料１	25	平成（　　）年（　　）月	件	件
26）小児入院医療管理料２	26	平成（　　）年（　　）月	件	件
27）小児入院医療管理料３	27	平成（　　）年（　　）月	件	件
28）小児入院医療管理料４	28	平成（　　）年（　　）月	件	件
29）小児入院医療管理料５			件	件
30）医師事務作業補助体制加算１ ※届出時期は、「医師事務作業補助体制加算」の届出時期をご回答ください	30	平成（　　）年（　　）月		
31）医師事務作業補助体制加算２ ※旧　医師事務作業補助体制加算	31			

32）現在の届出の種類 ※○は１つだけ	1. １００対１	2. ７５対１	3. ５０対１	4. ４０対１
	5. ３０対１	6. ２５対１	7. ２０対１	8. １５対１

【上記①の「8）救命救急入院料の精神保健指定医等診断治療等加算」の届出をしている施設の方にお伺いします】

①-1 上記①の「8）救命救急入院料の精神保健指定医等診断治療等加算」について、主として、どのように精神科医を確保していますか。　※○は１つだけ

1. 自院の精神保健指定医が対応
2. 連携している保険医療機関の精神保健指定医が対応
3. 自院の常勤の精神科の医師（精神保健指定医以外）が対応
4. その他（具体的に　　）

【平成 25 年度以前に「特定集中治療室管理料１・２」を届け出ていたが、現在は届出をしていない施設の方にお伺いします】

①-2　現在、特定集中治療室管理料１・２の届出をしていない理由は何ですか。　※あてはまる番号すべてに○

1. 特定集中治療の経験を５年以上有する医師２名以上が確保できないため
2. 特定集中治療室の広さが１床当たり２０平方メートル以上を確保できないため
3. 常時、院内に勤務する専任の臨床工学技士を確保できないため
4. 特定集中治療室用の重症度、医療・看護必要度の基準が満たせないため
5. その他（具体的に　　）

【平成 25 年度以前に「ハイケアユニット入院医療管理料」を届け出ていたが、現在、「ハイケアユニット入院医療管理料１」の届出をしていない施設の方にお伺いします】

①-3　ハイケアユニット入院医療管理料１の届出をしていない理由は何ですか。　※あてはまる番号すべてに○

1. ハイケアユニット用の重症度、医療・看護必要度の基準が満たせないため
2. その他（具体的に　　）

②次の施設基準等について「届出があるもの」の該当数字を〇で囲んでください。届出がある場合、「届出時期」（初回の届出）、平成 25 年 10 月及び平成 26 年 10 月の各 1 か月間の算定件数をお答えください。算定件数は患者 1 人につき 1 件と数えてください。

施設基準等	届出の状況		算定件数	
	届出があるもの	届出時期（初回の届出）	平成 25 年 10 月	平成 26 年 10 月
1）総合入院体制加算１	1	平成２６年（　　）月		
2）総合入院体制加算２	2	平成（　　）年（　　）月		
3）救急医療管理加算	3	平成（　　）年（　　）月		
救急医療管理加算１（800 点）			件	件
【再掲】乳幼児加算			件	件
【再掲】小児加算			件	件
救急医療管理加算２（400 点）				件
【再掲】乳幼児加算				件
【再掲】小児加算				件
4）超急性期脳卒中加算	4	平成（　　）年（　　）月	件	件
5）妊産婦緊急搬送入院加算	5	平成（　　）年（　　）月	件	件
6）在宅患者緊急入院診療加算	6		件	件
7）超重症児（者）入院診療加算	7	平成（　　）年（　　）月		
【再掲】6 歳未満の場合			件	件
【再掲】6 歳以上の場合			件	件
【再掲】救急・在宅重症児（者）受入加算			件	件
8）準超重症児（者）入院診療加算	8	平成（　　）年（　　）月		
【再掲】6 歳未満の場合			件	件
【再掲】6 歳以上の場合			件	件
【再掲】救急・在宅重症児（者）受入加算			件	件
9）ハイリスク妊娠管理加算	9	平成（　　）年（　　）月	件	件
10）ハイリスク分娩管理加算	10	平成（　　）年（　　）月	件	件
11）（一般病棟）退院調整加算１	11	平成（　　）年（　　）月	件	件
【再掲】14 日以内の期間（340 点）				件
【再掲】15 日以上 30 日以内の期間（150 点）				件
【再掲】31 日以上の期間（50 点）				件
12）新生児特定集中治療室退院調整加算１	12	平成（　　）年（　　）月	件	件
13）新生児特定集中治療室退院調整加算２	13	平成（　　）年（　　）月		
【再掲】退院支援計画作成加算			件	件
【再掲】退院加算			件	件
14）新生児特定集中治療室退院調整加算３	14	平成２６年（　　）月		
【再掲】退院支援計画作成加算				件
【再掲】退院加算				件
15）救急搬送患者地域連携紹介加算	15	平成（　　）年（　　）月	件	件
16）救急搬送患者地域連携受入加算	16	平成（　　）年（　　）月	件	件
17）地域連携小児夜間・休日診療料１	17	平成（　　）年（　　）月	件	件
18）地域連携小児夜間・休日診療料２	18	平成（　　）年（　　）月	件	件
19）地域連携夜間・休日診療料	19	平成（　　）年（　　）月	件	件
20）院内トリアージ実施料	20	平成（　　）年（　　）月	件	件
21）夜間休日救急搬送医学管理料	21	平成（　　）年（　　）月	件	件
22）夜間休日救急搬送医学管理料 精神疾患患者等受入加算	22	平成２６年（　　）月		件
23）救急搬送診療料			件	件

施設基準等	届出の状況		算定件数	
	届出があるもの	届出時期（初回の届出）	平成 25 年 10 月	平成 26 年 10 月
24）救急搬送診療料　新生児加算			件	件
25）救急搬送診療料　乳幼児加算			件	件
26）救急搬送診療料　長時間加算			件	件
27）精神科リエゾンチーム加算	27	平成（　　）年（　　）月	件	件
28）小児科外来診療料			件	件

【小児科を標榜している施設の方】
②-1 小児科外来診療料についてパリビズマブを用い、薬剤費等を出来高で算定した患者数は何人いましたか。

（　　）人　※平成 26 年 10 月 1 か月間

４．救急医療の取組状況等についてお伺いします。

①消防法に基づいて都道府県が定める受入実施基準に対する参加状況等はどのようになっていますか。※○は 1 つだけ

1. 参加している
2. 受入実施基準を知っているが、参加していない
3. 受入実施基準の存在を知らない
4. その他（具体的に　　）

②平成 25 年 10 月及び平成 26 年 10 月のそれぞれ 1 か月間の**外来延べ患者数**、救急用の自動車等により搬送された**延べ患者数**をご記入ください。

	平成 25 年 10 月	平成 26 年 10 月
1）外来延べ患者数（初診＋再診）	人	人
2）救急搬送受入患者数（時間内・時間外）	人	人
3）上記 2）のうち夜間休日救急搬送医学管理料を算定した患者数	人	人
4）上記 2）のうち急性薬毒物中毒の患者数		人
5）上記 2）のうち精神疾患患者等受入加算を算定した患者数		人
6）上記 2）のうち認知症の患者数		人
7）時間外・休日・深夜に上記 2）以外の方法で来院した患者数（いわゆる「ウォークイン」患者数）	人	人

②-1 平成 25 年 10 月及び平成 26 年 10 月のそれぞれ 1 か月間に救急対応（救急搬送受入、自身で救急外来に来院含む）した患者数（上記②の 2）+7）の延べ患者数）について、以下の延べ患者数をご記入ください。

	平成 25 年 10 月	平成 26 年 10 月
1）軽症（入院を要しないもの）の患者数（延べ患者数）	人	人
2）緊急入院となった患者数	人	人
3）上記 2）のうち、生命の危険の可能性がある患者数		人
4）上記 2）のうち、精神疾患を有する患者数（認知症のみを除く）		人
5）上記 4）のうち、一般病床の病棟に入院した、精神疾患を有する患者数		人
6）上記 4）のうち、精神病床の病棟に入院した、精神疾患を有する患者数		人
7）上記 2）のうち、認知症を有する患者数		人
8）貴施設では対応できず、転送した患者数	人	人
9）上記 8）のうち、高度救命救急センター・救命救急センターに転送した患者数	人	人
10）上記 8）のうち、精神科救急医療を担う医療機関に転送した患者数	人	人
11）その他の理由により転送した患者数	人	人
12）初診時死亡が確認された患者数	人	人

③下記に該当する救急患者について、貴施設の受入対応方針（原則）としてあてはまる番号を1～6の中から1つだけ選び、〇で囲んでください。※それぞれ〇は1つだけ

患者の状態	原則的に受入を断っていない	概ね受け入れているが、受入を断ることがある	かかりつけの患者に限って受け入れている	受入を断ることが多い	受け入れることができない	その他
緊急度の高い傷病者						
1）既に生理学的に生命危機に瀕している患者（バイタルサインの異常、ひどい痛み、病態の増悪傾向等を総合的に判断）※1	1	2	3	4	5	6
緊急度の高い特定病態						
2）急性冠症候群	1	2	3	4	5	6
3）急性期の脳血管疾患	1	2	3	4	5	6
4）重症外傷の患者※2	1	2	3	4	5	6
5）急性薬毒物中毒	1	2	3	4	5	6
特定の合併症を有する傷病者						
6）身体疾患と精神疾患との合併	1	2	3	4	5	6
7）認知症の合併	1	2	3	4	5	6
8）長期臥床の高齢者	1	2	3	4	5	6
9）人工透析中の傷病者	1	2	3	4	5	6
その他						
10）小児の患者	1	2	3	4	5	6
11）周産期の患者	1	2	3	4	5	6

※1：「緊急度判定プロトコル ver1」（消防庁）の「赤１」または院内トリアージ（JTAS）の重症（青）に準じる。
概ね次の基準による。SpO_2 90%以下、ショック、JCS30 以上（GCS8 以下）。
※2：「緊急度判定プロトコル ver1」（消防庁）の「赤１、２」または、JPTEC における「ロードアンドゴー」。

2.~6.に〇がついたものがある場合

③-1　上記質問③で「1. 原則的に受入を断っていない」**以外**を回答した場合、その理由として、あてはまるものをそれぞれお選びください。※あてはまる番号すべてに〇

患者の状態	必要な設備が不足しているため	受入病床が不足しているため	医師・看護職員などスタッフが不足しているため	専門外で対応が難しいため	退院に向けた支援等が難しいため	軽症であり他の医療機関で対応が可能なため
緊急度の高い傷病者						
1）既に生理学的に生命危機に瀕している患者（バイタルサインの異常、ひどい痛み、病態の増悪傾向等を総合的に判断）※1	1	2	3	4	5	6
緊急度の高い特定病態						
2）急性冠症候群	1	2	3	4	5	6
3）急性期の脳血管疾患	1	2	3	4	5	6
4）重症外傷の患者※2	1	2	3	4	5	6
5）急性薬毒物中毒	1	2	3	4	5	6
特定の合併症を有する傷病者						
6）身体疾患と精神疾患との合併	1	2	3	4	5	6
7）認知症の合併	1	2	3	4	5	6
8）長期臥床の高齢者	1	2	3	4	5	6
9）人工透析中の傷病者	1	2	3	4	5	6
その他						
10）小児の患者	1	2	3	4	5	6
11）周産期の患者	1	2	3	4	5	6

④新生児特定集中治療室・新生児集中治療室の患者数についてご記入ください。当該治療室のない施設の方はご回答いただく必要はございません。

	平成 25 年 10 月	平成 26 年 10 月
1）１か月間に当該治療室に入室した患者数	人	人
2）上記 1）のうち、他院から転入した患者数	人	人
3）上記 2）のうち、受入後、退院支援計画を策定した患者数	人	人
4）上記 3）のうち、「退院支援計画策定加算」（600 点）を算定した患者数		人
5）１か月間に当該治療室から退室した患者数	人	人
6）上記 5）のうち、**自宅（直接退院）**の患者数	人	人
7）上記 6）のうち、訪問看護利用者	人	人
8）上記 5）のうち、**自院の他病棟に転棟**した患者数	人	人
9）上記 5）のうち、**他院に転院**した患者数	人	人
10）上記 9）のうち、重症化したために転院した患者数		人
11）上記 9）のうち、容体が安定したために転院した患者数		人
12）上記 5）のうち、**障害者施設に入所**した患者数	人	人
13）上記 5）のうち、**死亡**した患者数	人	人
14）上記 5）のうち、**その他の転帰**の患者数	人	人
15）上記 5）のうち、**新生児特定集中治療室退院調整加算１**を算定した患者数	人	人
16）上記 5）のうち、**新生児特定集中治療室退院調整加算２**を算定した患者数	人	人
17）上記 5）の患者の平均在室日数　※小数点以下第１位まで	．　日	．　日

【平成 26 年 10 月において、上記④の「6）自宅退院患者数」が「9）他院転院患者数」よりも少ない施設の方】

④-1 自宅退院患者が少ないのはなぜですか。※あてはまる番号すべてに○

1. 家族が自宅への退院を希望しないため
2. 在宅介護（訪問介護など）の確保が困難なため
3. 在宅医療（訪問診療・訪問看護）の確保が困難なため
4. 自宅に退院した場合に経済的な負担が増えるため
5. その他（具体的に　　）

④-2 新生児の退院を進める上でどのような取組・サービスが必要ですか。

５．高齢者の救急医療に関する課題等についてご意見がございましたら具体的にお書きください。

様式１は以上です。引き続き、様式２につきましてもご協力の程お願い申し上げます。

様式２

平成26年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成26年度調査）

救急医療の実施状況調査　調査票

■「**救急医療管理加算２**」を算定した患者数等をご記入ください。

■今年（平成２６年７月）、地方厚生（支）局に提出した「救急医療管理加算２に係る報告書（７月報告、様式 14 の 3)」の内容から転記してご記入ください。**様式のコピーの提出でも結構です。**

集計対象期間：平成２６年４月１日～平成２６年６月３０日

■「救急医療管理加算２の算定患者の内訳」については、上記集計対象期間に**「救急医療管理加算２」を算定したすべての患者**についてご記入ください。

■「疾病コード」欄については、診断群分類点数表を参考にして、入院の契機となった病名をＤＰＣコードで分類し、当該ＤＰＣコードの上６桁をご記入ください。

■「名称」欄については、疾病コードごとに当該ＤＰＣコード上６桁の名称をご記入ください。

①対象期間の救急医療管理加算１・２の合計算定患者数	人
②上記①のうち、救急医療管理加算２の算定患者数	人
③救急医療管理加算２の割合：②／①	％

④救急医療管理加算２の算定患者の内訳

NO.	疾病コード（※ＤＰＣコードの上６桁を用いる）	名称	患者数
1			人
2			人
3			人
4			人
5			人
6			人
7			人
8			人
9			人
10			人
11			人
12			人
13			人
14			人
15			人
16			人
17			人
18			人
19			人
20			人

※回答用紙が足りない場合には、大変恐縮ですが、裏面用紙をコピーしてお使いください。

回答用紙		枚中		枚

※記入例（全３枚のうち１枚目の場合）

回答用紙	3	枚中	1	枚

NO.	疾病コード （※ＤＰＣコードの上６桁を用いる）	名称	患者数
21			人
22			人
23			人
24			人
25			人
26			人
27			人
28			人
29			人
30			人
31			人
32			人
33			人
34			人
35			人
36			人
37			人
38			人
39			人
40			人
41			人
42			人
43			人
44			人
45			人
46			人
47			人
48			人
49			人
50			人
51			人
52			人
53			人
54			人
55			人
56			人
57			人
58			人
59			人
60			人

※回答用紙が足りない場合には、大変恐縮ですが、本用紙をコピーしてお使いください。

回答用紙		枚中		枚

※記入例（全３枚のうち１枚目の場合）

回答用紙	３	枚中	１	枚

中医協　検－１－３
２７．３．１８

平成２６年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成２６年度調査）の速報案について

〇後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査

（右下頁）

・ 調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７頁

・ 保険薬局調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４頁

・ 診療所、病院、医師調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４８頁

・ 患者調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０２頁

・ 調査票 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５０頁

平成 26 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 26 年度調査）

後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査

結果概要（速報）（案）

※数値は暫定値であり、一部、変わる可能性があります。

◇◆目　　次◇◆

Ⅰ．調査の概要 1
１．目的 1
２．調査対象 1
３．調査方法 1
４．調査項目 2
Ⅱ．調査の結果 7
１．回収結果 7
２．保険薬局調査の結果 8
（１）薬局の属性 8
①組織形態 8
②同一法人による薬局店舗数 8
③チェーン薬局の状況 9
④売上高に占める保険調剤売上の割合 10
⑤処方せんの応需状況 10
⑥職員数 11
（２）調剤の状況等 12
①調剤基本料 12
②基準調剤加算 15
③後発医薬品調剤体制加算 15
④後発医薬品調剤割合（新指標） 17
⑤新指標のカットオフ値 18
⑥新指標で算出する際の問題点の有無 19
（３）取り扱い処方せんの状況 20
①１週間の取り扱い処方せん枚数の状況 20
②１週間の取り扱い処方せん枚数の内訳 20
③後発医薬品への変更割合等（品目ベース） 22
④変更不可の後発医薬品が処方されることによる、調剤を行う上での問題等 26
⑤一般名処方の処方せんを持参した患者のうち、後発医薬品を調剤しなかったケースについての最も多い理由 27
（４）後発医薬品の備蓄状況・廃棄額等 28
①医薬品の備蓄品目数 28
②医薬品の在庫金額・購入金額・廃棄額 29
（５）後発医薬品への対応状況 30
①後発医薬品の採用基準 30

②後発医薬品の調剤に関する考え 31
③後発医薬品使用に関する患者の意向を把握する手段 35
④後発医薬品への変更・選択において患者の理解を最も得られやすい処方方法 35
⑤処方医への情報提供等 36
（６）後発医薬品使用にあたっての問題点・課題・要望等 38
①薬局の開設者・管理者の立場として後発医薬品の調剤を積極的に進める上で必要な対応 38
②後発医薬品の望ましい価格体系 39
③後発医薬品の望ましい薬価水準 39
④後発医薬品の使用を進める上で医師に望むこと 40
（７）後発医薬品に変更して調剤した処方せん等に係る薬剤料の状況 41
３．診療所・病院・医師調査の結果 42
（１）施設の概要等 42
①診療所の施設属性 42
②病院の施設属性 44
③オーダリングシステムの導入状況等 47
（２）医師の属性等 48
①医師の性別 48
②医師の年齢 49
③医師の主たる担当診療科 49
（３）診療所・病院の診療体制 50
①診療所の診療体制 50
②病院の診療体制 50
（４）診療所・病院における医薬品の備蓄状況等 51
①医薬品の備蓄状況等 51
②後発医薬品の採用状況 57
③後発医薬品を採用する際に重視すること 58
④病院における後発医薬品使用割合 60
（５）入院患者に対する後発医薬品の使用状況等 62
①入院患者に対する後発医薬品の使用状況 62
②後発医薬品使用体制加算の状況 63
③今後どのような対応が進めば施設として入院患者に後発医薬品の使用を進めてもよいか 64
（６）外来患者に対する後発医薬品の使用状況等（施設ベース） 66
①処方せん料・一般名処方加算の算定回数（平成 26 年 9 月 1 か月間） 66
②病院における、外来患者に対する後発医薬品使用に係る施設としての方針等 66
③病院における一般名処方による処方せん発行への対応状況等 70
（７）外来診療における院外処方せん発行時や後発医薬品の処方に関する医師の考え等

（医師ベース） 72
①外来診療における後発医薬品の処方に関する考え 72
②外来診療における後発医薬品の処方数の変化（１年前と比較して） 77
③後発医薬品への「変更不可」欄にチェックした処方せんの発行経験等（平成 26 年 4 月以降） 78
④医師における一般名処方による処方せん発行の状況等 82
（８）保険薬局・患者との関係 84
①調剤時の保険薬局からの情報提供に関する意向 84
②患者から後発医薬品の処方を求められた経験の有無と対応 85
（９）医療機関・医師における後発医薬品使用に関する意識等 90
①医療機関・医師における、後発医薬品が薬事法に基づく厚生労働大臣の承認を得るために必要なデータの内容に関する認知状況 90
②医療機関・医師における、『ジェネリック医薬品への疑問に答えます～ジェネリック医薬品Ｑ＆Ａ～』に関する認知状況 91
③医療機関・医師における、『後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ』に関する認知状況 92
④今現在の後発医薬品に対する不信感 92
⑤後発医薬品の処方を進めるための環境 94
４．患者調査の結果 96
（０）記入者の属性等 96
①記入者と患者の関係 96
（１）患者の属性等 96
①患者の基本属性 96
②公的医療保険の種類 98
③自己負担額の有無 100
④過去３か月間の薬局訪問回数（処方せん持参に限る） 101
⑤お薬手帳の利用 102
（２）調査日における受診・調剤状況等 103
①薬局を選んだ理由 103
②処方の状況等 105
（３）ジェネリック使用に関する経験等 113
①ジェネリック医薬品に対する関心の有無 113
②ジェネリック医薬品に対する認知度 114
③ジェネリック医薬品の使用経験の有無 115
④ジェネリック医薬品について医師から説明を受けた経験の有無 116
⑤ジェネリック医薬品の処方を医師に頼んだ経験の有無 117
⑥ジェネリック医薬品について薬剤師から説明を受けた経験の有無 118
⑦ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだ経験等 119

⑧今までに先発医薬品からジェネリック医薬品に変更した薬の有無等..... 123
（４）ジェネリック使用に関する経験・意向等..... 127
①ジェネリック医薬品に関する使用意向等 127
②ジェネリック医薬品に関する文書等に関する経験・意向等 133
③一般名処方に関する認知度・意向等..... 141

Ⅰ．調査の概要

１．目的

・保険薬局における後発医薬品の調剤状況の変化等の把握
・医療機関における後発医薬品の使用状況や医師の処方に関する意識等の把握
・患者における後発医薬品に関する意識等の把握
・一般名処方に関する医師・薬剤師及び患者の意識等の把握

２．調査対象

本調査では、「保険薬局調査」「病院調査」「診療所調査」「医師調査」「患者調査」の 5 つの調査を実施した。各調査の対象は、次のとおりである。

・保険薬局調査：全国の保険薬局の中から無作為抽出した 1,500 施設
・診 療 所 調 査：全国の一般診療所の中から無作為抽出した 2,000 施設。
・病　院　調　査：全国の病院の中から無作為抽出した 1,500 施設。
・医　師　調　査：上記「病院調査」の対象施設に勤務する、診療科の異なる 2 名の外来診療担当医師。
・患　者　調　査：上記「保険薬局調査」の対象施設に調査日に来局した患者。ただし、1 施設につき最大 2 名の患者とした。

３．調査方法

・対象施設・医師・患者が記入する自記式調査票の郵送配布・回収とした。
・保険薬局調査については、施設属性、後発医薬品の調剤状況等を尋ねる「様式 1」と、薬剤料を尋ねる「様式 2」の 2 種類の調査票を配布した。
・診療所調査については、施設の概況、院外処方せんや一般名処方による処方せんの発行状況、後発医薬品の使用状況や使用に関する意識、後発医薬品を使用する上での課題等を尋ねる「診療所票」を配布した。
・病院調査については、施設の概況、院外処方せんの発行状況、入院患者に対する後発医薬品の使用状況、後発医薬品を使用する上での課題等を尋ねる「病院票」を配布した。
・医師調査については、後発医薬品の使用状況と使用に関する意識等を尋ねる「医師票」を配布した。配布に際しては、上記の「病院調査」の対象施設を通じて行った。
・患者調査については、後発医薬品の使用に対する意識等を尋ねる「患者票」を配布した。配布に際しては、上記の「保険薬局調査」の対象施設を通じて行った。
・医師調査及び患者調査の回収は、各医師及び患者から、事務局宛の返信用専用封筒にて直接回収した。
・調査実施時期は、以下の通り。

診療所調査、病院調査、医師調査：平成 26 年 10 月 21 日～平成 26 年 12 月 3 日

保険薬局調査、患者調査：平成 26 年 10 月 27 日～平成 26 年 12 月 18 日

４．調査項目

区分	主な調査項目
(1)保険薬局調査	○回答者の属性等 ・　性別、年齢、開設者・管理者の別 ○薬局の概要 ・　開設者、同一法人による薬局店舗数、開設年、チェーン薬局、処方せんの応需状況、売上高に占める保険調剤売上の割合、職員数 ・　調剤基本料の種類、全処方せんの受付回数、主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数の割合、妥結率、基準調剤加算の算定状況、後発医薬品調剤体制加算の算定状況、後発医薬品調剤割合、新指標のカットオフ値、新指標算出にあたっての問題点等 ○処方せんへの対応状況（平成 26 年 11 月 6 日～11 月 12 日 1 週間） ・　取り扱い処方せん枚数、このうち先発医薬品名で処方され変更不可となっている医薬品がある処方せん枚数、このうち後発医薬品名で処方され変更不可となっている医薬品がある処方せん枚数 ・　一般名で処方された医薬品の品目数、このうち後発医薬品を選択した医薬品の品目数、このうち先発医薬品を選択した医薬品の品目数 ・　先発医薬品名で処方された医薬品の品目数、このうち「変更不可」となっていない医薬品の品目数、先発医薬品を後発医薬品に変更した医薬品の品目数、このうち先発医薬品を調剤した医薬品の品目数、薬価収載されておらず後発医薬品に変更できなかった医薬品の品目数、患者が希望しなかったために後発医薬品に変更できなかった医薬品の品目数、外用剤が処方され同一剤形の後発医薬品がなかったため変更できなかった医薬品の品目数 ・　後発医薬品名で処方された医薬品の品目数、このうち「変更不可」となっている医薬品の品目数 ・　その他の品目名で処方された医薬品の品目数 ○後発医薬品への対応等 ・　変更不可の後発医薬品が処方されることによる調剤上の問題の有無と問題点 ・　一般名処方の処方せんを持参した患者のうち後発医薬品を調剤しなかったケースについての最も多い理由 ○後発医薬品への対応状況等 ・　医薬品・後発医薬品の備蓄品目数、在庫金額、購入金額、廃棄額の変化、先発医薬品に対する後発医薬品の平均備蓄品目数

	・　後発医薬品の採用基準、後発医薬品の調剤に関する考え、後発医薬品の調剤に積極的に取り組んでいない場合の理由、後発医薬品を積極的に調剤していない医薬品の種類、後発医薬品を積極的に調剤していない患者の特徴 ・　後発医薬品使用に関する患者の意向把握の手段、後発医薬品への変更・選択で患者の理解を得られやすい処方方法 ・　医療機関に対する後発医薬品への変更調剤・一般名処方の調剤に関する情報提供のタイミング、医療機関との予め合意した方法による情報提供の有無とその方法 ○後発医薬品使用についての考えや今後の課題等 ・　後発医薬品使用を進める上で望むこと、同一成分・同一剤形の後発医薬品の価格体系、後発医薬品の薬価水準、医師に望むこと ○薬剤料の変化 ・　処方せんの記載銘柄に基づき調剤した場合の薬剤料及び実際に調剤した薬剤料等
⑵診療所調査	○医師の属性等 ・　性別、年齢、開設者・管理者の別、主たる担当診療科 ○施設の概要 ・　医療機関名、所在地、開設者、開設年、種別、標榜診療科、医師数・薬剤師数 ・　オーダリングシステムの導入状況 ・　院内処方・院外処方の割合 ○後発医薬品の使用状況等 ・　医薬品・後発医薬品の備蓄品目数、購入額、廃棄額 ・　後発医薬品の採用状況、採用に際して重視すること ○入院患者に対する後発医薬品の使用状況等 ・　後発医薬品使用体制加算の状況 ・　入院患者に対する後発医薬品の使用状況 ・　後発医薬品の使用を進める上で必要な対応 ○外来患者に対する後発医薬品の使用状況等（院外処方せんを発行している施設） ・　処方せん料・一般名処方加算の算定回数 ・　後発医薬品の処方に関する意識、積極的に処方しない場合の理由 ・　1 年前と比較した後発医薬品の処方状況 ・　平成 26 年 4 月以降、後発医薬品への変更不可欄にチェックした処方せん発行の有無、割合、そのケース、銘柄指定をする理由等 ・　平成 26 年 4 月以降の一般名処方による処方せん発行の経験、それに対する事務的な負担の変化等

	・　調剤した医薬品（変更調剤や一般名処方についての調剤）に関する保険薬局からの情報提供として望ましい方法・タイミング ・　患者から後発医薬品の処方を求められた経験の有無、その時の対応等 ○外来患者に対する後発医薬品の使用状況等（院外処方せんを発行していない施設） ・　後発医薬品の処方に関する意識、積極的に処方しない場合の理由 ・　患者から後発医薬品の処方を求められた経験の有無、その時の対応等 ○後発医薬品の使用にあたっての課題等 ・　後発医薬品の薬事承認に必要なデータ、『ジェネリック医薬品Ｑ＆Ａ』、『後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ』の認知度 ・　後発医薬品に関する不信感の有無、不信感がある場合の理由 ・　後発医薬品の処方を進める上で必要な環境 ・　後発医薬品使用にあたっての課題等
(3)病院調査	○回答者の属性等 ・　性別、年齢、開設者・管理者の別 ○施設の概要 ・　開設者、開設年、標榜診療科、DPC の対応状況 ・　オーダリングシステムの導入状況、院内処方・院外処方の割合、特定入院料の状況、許可病床数、医師数・薬剤師数 ・　後発医薬品使用体制加算の状況、処方せん料・一般名処方加算の算定回数 ○後発医薬品の使用状況等 ・　後発医薬品の採用状況、採用に際して重視すること ・　医薬品・後発医薬品の備蓄品目数、購入額、廃棄額 ・　後発医薬品使用割合 ○外来患者に対する後発医薬品の使用状況等（院外処方せんを発行している施設） ・　後発医薬品の処方に関する施設としての方針、積極的に処方しない場合の理由 ・　平成 26 年 4 月以降の一般名処方による処方せん発行の経験、それに対する事務的な負担の変化等 ・　調剤した医薬品（変更調剤や一般名処方についての調剤）に関する保険薬局からの情報提供として望ましい方法・タイミング ○外来患者に対する後発医薬品の使用状況等（院外処方せんを発行していない施設）

	・　後発医薬品の処方に関する意識、積極的に処方しない場合の理由 ○入院患者に対する後発医薬品の使用状況等 ・　後発医薬品の使用状況 ・　後発医薬品の使用を進める上で必要な対応 ○後発医薬品の使用にあたっての課題等 ・　後発医薬品の薬事承認に必要なデータ、『ジェネリック医薬品Ｑ＆Ａ』、『後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ』の認知度 ・　後発医薬品に関する不信感の有無、不信感がある場合の理由 ・　後発医薬品使用にあたっての課題等
(4)医師調査	○属性等 ・　性別、年齢、主たる担当診療科、1 日あたり平均外来診察患者数 ○外来患者に対する後発医薬品の使用状況等（院外処方せんを発行している施設の医師） ・　後発医薬品の処方に関する意識、積極的に処方しない場合の理由 ・　平成 26 年 4 月以降、後発医薬品への変更不可欄にチェックした処方せん発行の有無、割合、そのケース、銘柄指定をする理由 ・　平成 26 年 4 月以降の一般名処方による処方せん発行の経験、それに対する事務的な負担の変化等 ・　調剤した医薬品（変更調剤や一般名処方についての調剤）に関する保険薬局からの情報提供として望ましい方法・タイミング ・　患者から後発医薬品の処方を求められた経験の有無、その時の対応 ○外来患者に対する後発医薬品の使用状況等（院外処方せんを発行していない施設） ・　後発医薬品の処方に関する意識、積極的に処方しない場合の理由 ・　患者から後発医薬品の処方を求められた経験の有無、その時の対応 ○後発医薬品の使用にあたっての課題等 ・　後発医薬品の薬事承認に必要なデータ、『ジェネリック医薬品Ｑ＆Ａ』、『後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ』の認知度 ・　後発医薬品の処方を進める上で必要な環境 ・　後発医薬品使用にあたっての課題等
(5)患者調査	○記入者の属性 ・記入者と患者との関係 ○属性等 ・　性別、年齢、都道府県 ・　加入している公的医療保険の種類、自己負担額、過去 3 か月間の薬

	局訪問回数、お薬手帳の利用状況 〇調査日における後発医薬品の使用状況等 ・ 薬局の利用理由 ・ 調査日の自己負担額、自己負担額との関係でみた後発医薬品の使用意向、使用してもよいと思える差額、いくら安くなっても後発医薬品を使用したくない理由とそのきっかけ ・ 薬局での先発医薬品から後発医薬品への変更の有無、変更した場合の経済的負担感等 〇後発医薬品の使用に関する経験等 ・ 後発医薬品に対する関心の有無、認知度、使用経験の有無 ・ 医師・薬剤師から後発医薬品について説明を受けた経験の有無 ・ 医師に後発医薬品の処方をお願いした経験の有無 ・ 薬剤師に後発医薬品の調剤をお願いした経験の有無、頼みやすさ、平成 26 年 4 月以降で調剤してもらえなかった経験の有無、その時の薬局から受けた説明 ・ 先発医薬品から後発医薬品に変更した薬の有無、そのきっかけ、変更時における体調不良の経験の有無等 〇後発医薬品の使用促進の取組に関する経験・考え等 ・ 後発医薬品の使用意向、使用にあたって重要な点 ・ ジェネリック医薬品希望カード・ジェネリック医薬品軽減額通知・薬剤情報提供文書の受取経験、受取後の活用経験、今後の活用意向 ・ 一般名処方の認知状況等 ・ 望ましい処方せん発行形式 ・ 後発医薬品を使用する上で重要なこと等

Ⅱ．調査の結果

１．回収結果

図表 1　回収の状況

	発送数	有効回答数	有効回答率
①保険薬局調査			
保険薬局数(様式 1)	1,500	690	46.0%
様式 2 に記載された処方せん枚数(563 薬局分)	－	11,175	－
②診療所調査			
一般診療所数	2,000	932	46.6%
③病院調査			
病院数	1,500	574	38.3%
④医師調査			
医師数	－	863	－
⑤患者調査			
患者数	－	992	－

２．保険薬局調査の結果

【調査対象等】

○調査票　様式 1

調査対象：全国の保険薬局の中から無作為抽出した保険薬局 1,500 施設

回 答 数：690 施設

回 答 者：開設者・管理者

○調査票　様式 2

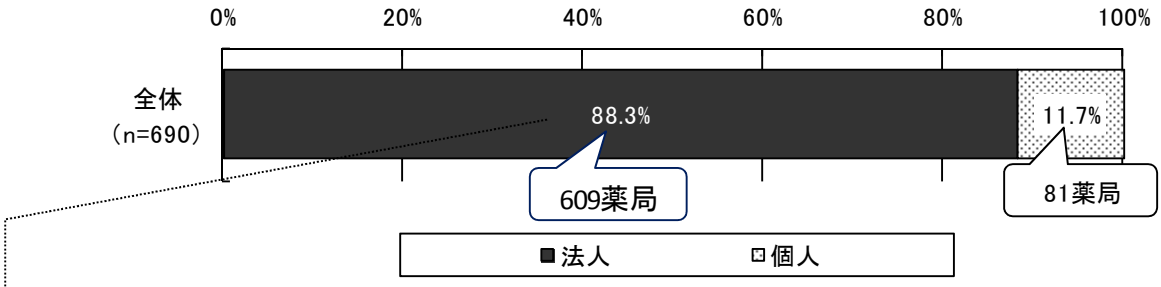
処方せん枚数：11,175 枚（563 薬局分）

回 答 者：開設者・管理者

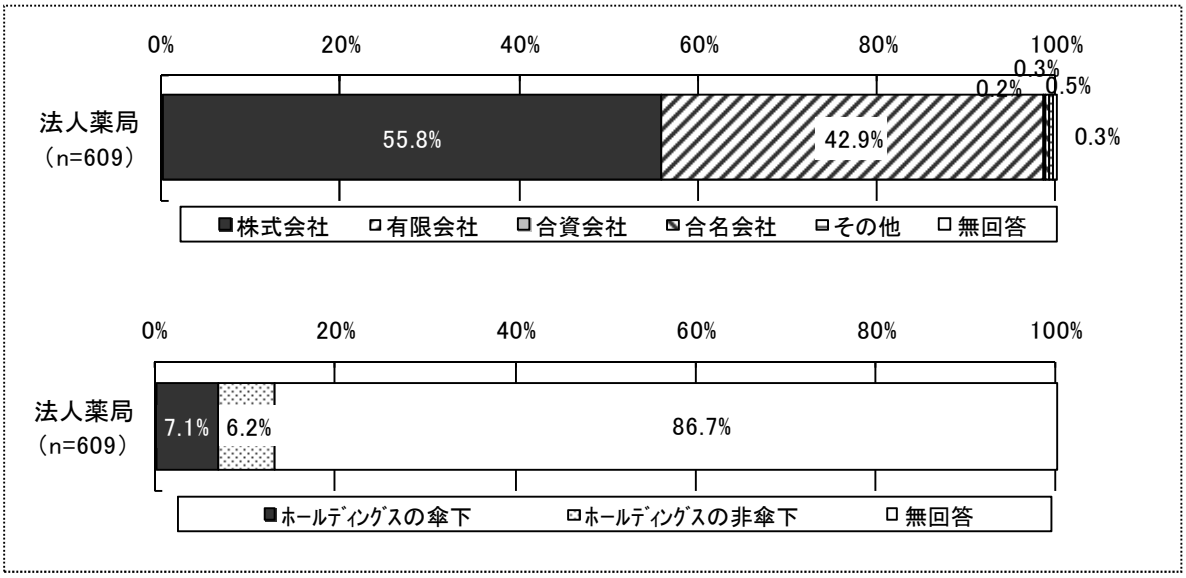
（１）薬局の属性

①組織形態

図表 2　組織形態（法人・個人別）

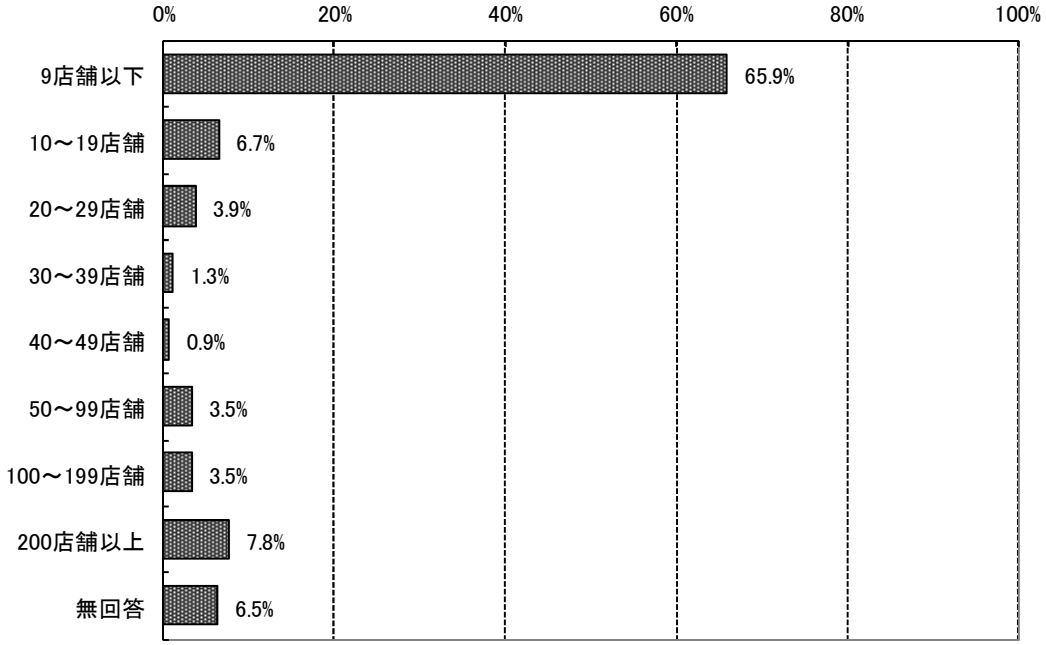


図表 3　法人薬局の内訳



②同一法人による薬局店舗数

図表 4　同一法人による薬局店舗数分布（単数回答、n=690）



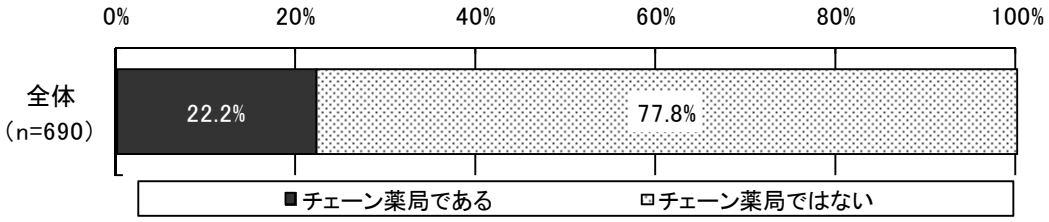
図表 5　同一法人による薬局店舗数（n=645）

	平均値	標準偏差	中央値
同一法人による薬局店舗数（店舗）	50.5	134.9	3.0

（注）無回答を除く 645 施設を集計対象とした。

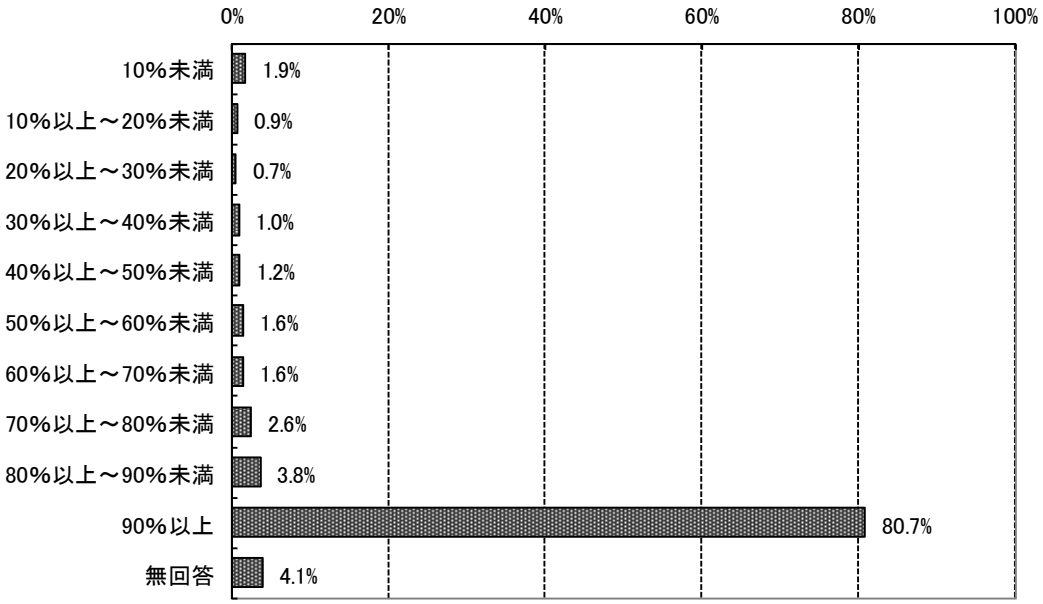
③チェーン薬局の状況

図表 6　チェーン薬局の状況



④売上高に占める保険調剤売上の割合

図表 7　売上高に占める保険調剤売上の割合（n=690）



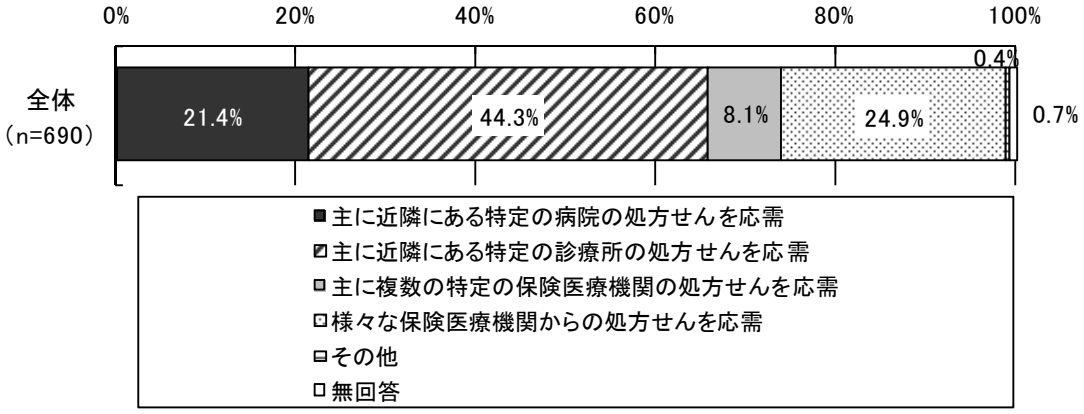
図表 8　売上高に占める保険調剤売上の割合（n=662）

	平均値	標準偏差	中央値
売上高に占める保険調剤売上の割合（%）	90.6	20.3	99.0

（注）無回答を除く 662 施設を集計対象とした。

⑤処方せんの応需状況

図表 9　処方せんの応需状況



⑥職員数

図表 10　1 施設あたりの職員数（実人数、n=682）

（単位：人）

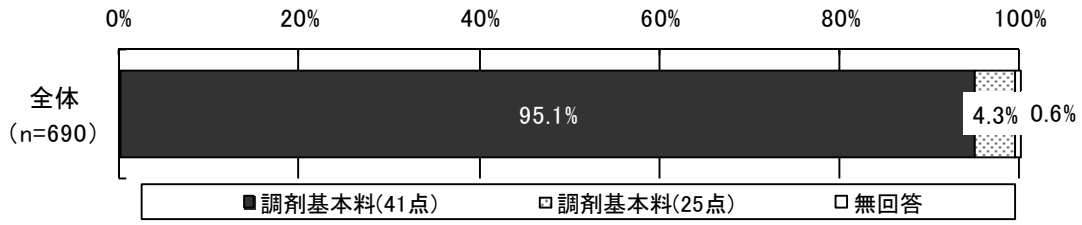
	常勤			非常勤		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
薬剤師	2.1	1.4	2.0	1.6	2.1	1.0
その他（事務職員等）	1.7	1.4	1.5	0.9	1.6	0.0
全職員	3.8	2.4	3.0	2.5	2.8	2.0

（注）無回答を除く 682 施設を集計対象とした。

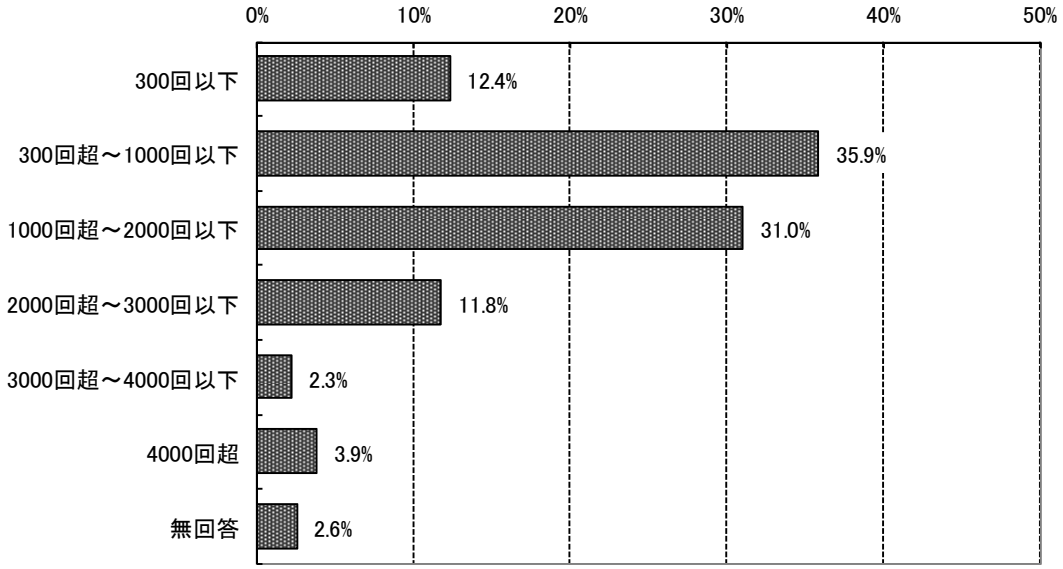
（２）調剤の状況等

①調剤基本料

図表 11　調剤基本料



図表 12　全処方せんの受付回数（1 か月あたり、n=686）



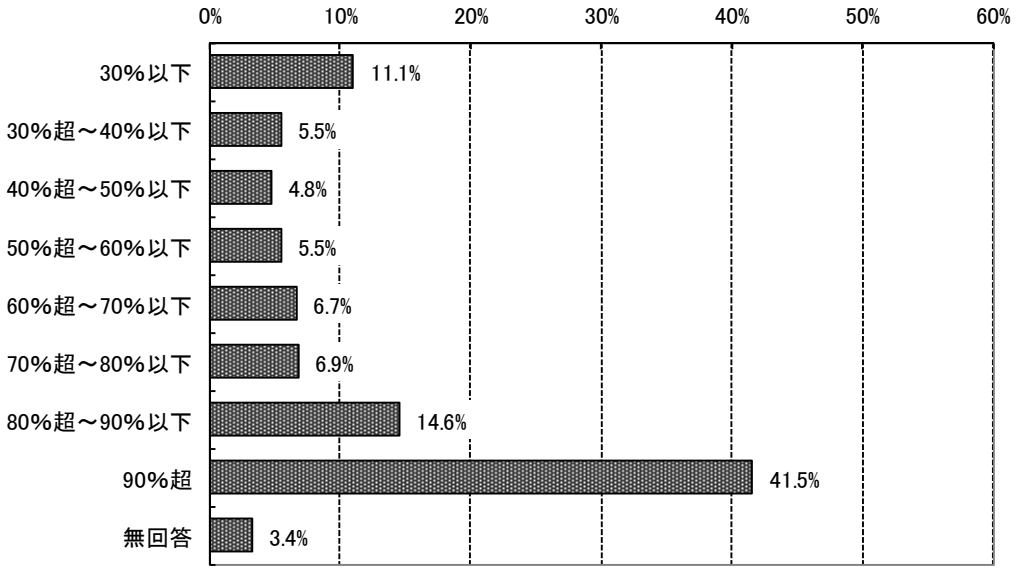
（注）・調剤基本料の根拠となる「全処方せんの受付回数（回／月）」
・調剤基本料が無回答であった 4 施設を除いた 686 施設を集計対象とした。

図表 13　全処方せんの受付回数（1 か月あたり、n=668）

	平均値	標準偏差	中央値
全処方せんの受付回数（回）	1,666.7	3,341.5	1,011.5

（注）・調剤基本料の根拠となる「全処方せんの受付回数（回／月）」
・無回答を除く 668 施設を集計対象とした。

図表 14　主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数の割合（n=686）



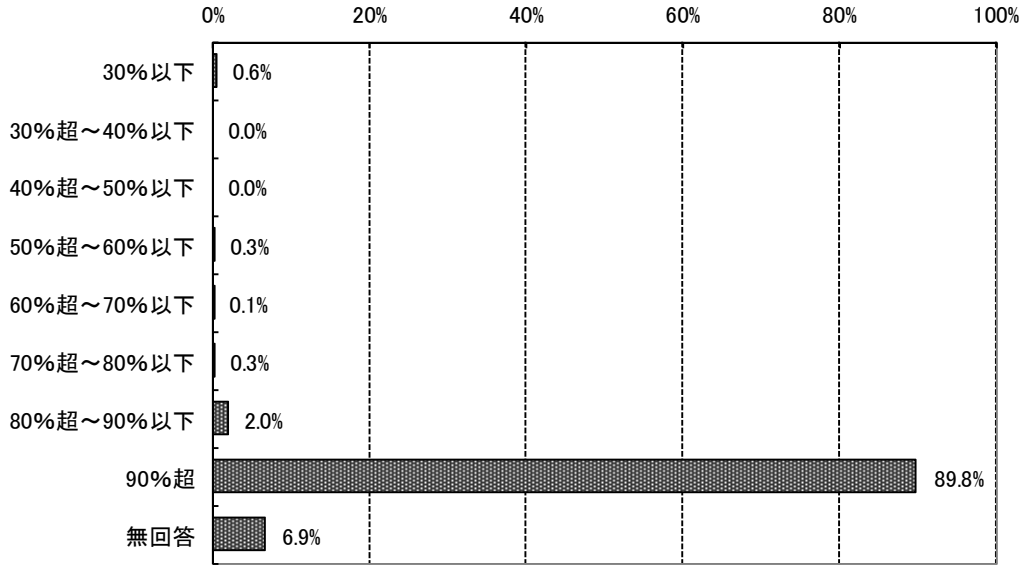
（注）・調剤基本料の根拠となる「主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数の割合（%）」
・調剤基本料が無回答であった 4 施設を除いた 686 施設を集計対象とした。

図表 15　主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数の割合（n=663）

	平均値	標準偏差	中央値
主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数の割合（%）	78.9	136.0	86.5

（注）・調剤基本料の根拠となる「主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数の割合（%）」
・無回答を除く 663 施設を集計対象とした。

図表 16　妥結率（n=686）



（注）調剤基本料が無回答であった 4 施設を除いた 686 施設を集計対象とした。

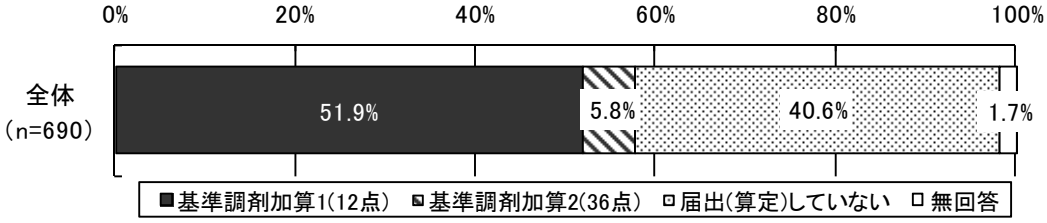
図表 17　妥結率（n=639）

	平均値	標準偏差	中央値
妥結率（%）	98.7	7.8	100.0

（注）無回答を除く 639 施設を集計対象とした。

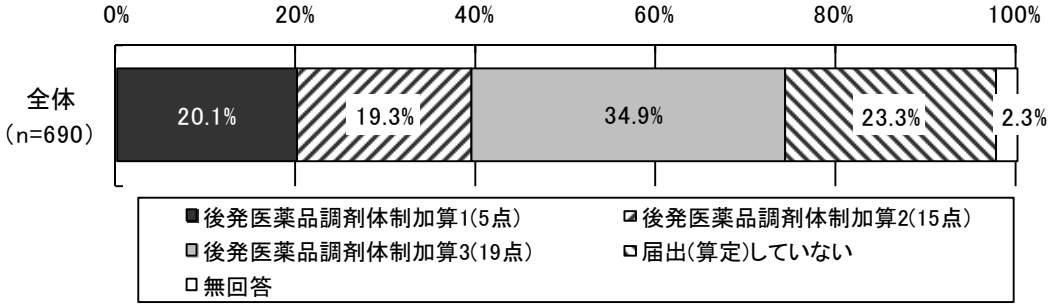
②基準調剤加算

図表 18　基準調剤加算

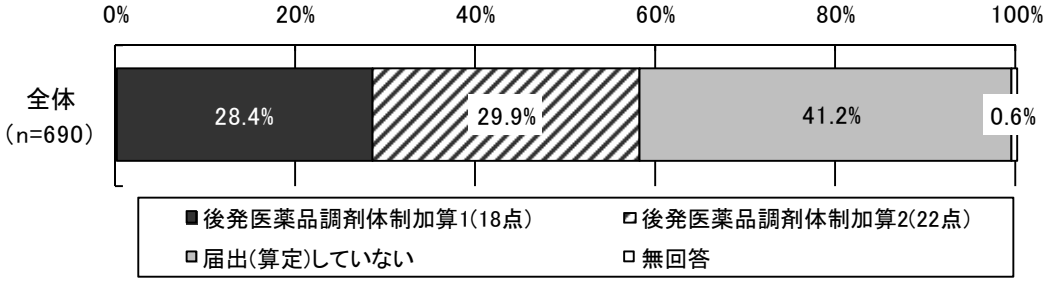


③後発医薬品調剤体制加算

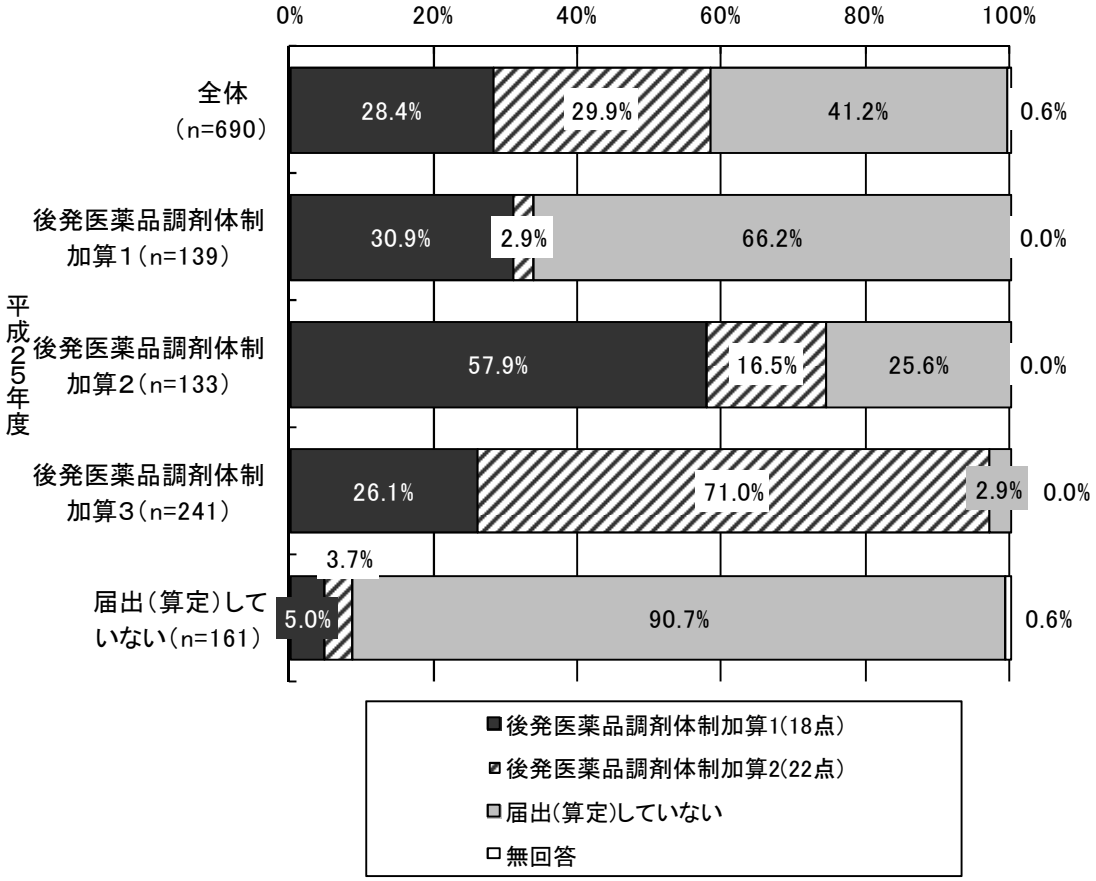
図表 19　後発医薬品調剤体制加算の算定状況（平成 25 年度）



図表 20　後発医薬品調剤体制加算の算定状況（平成 26 年度）

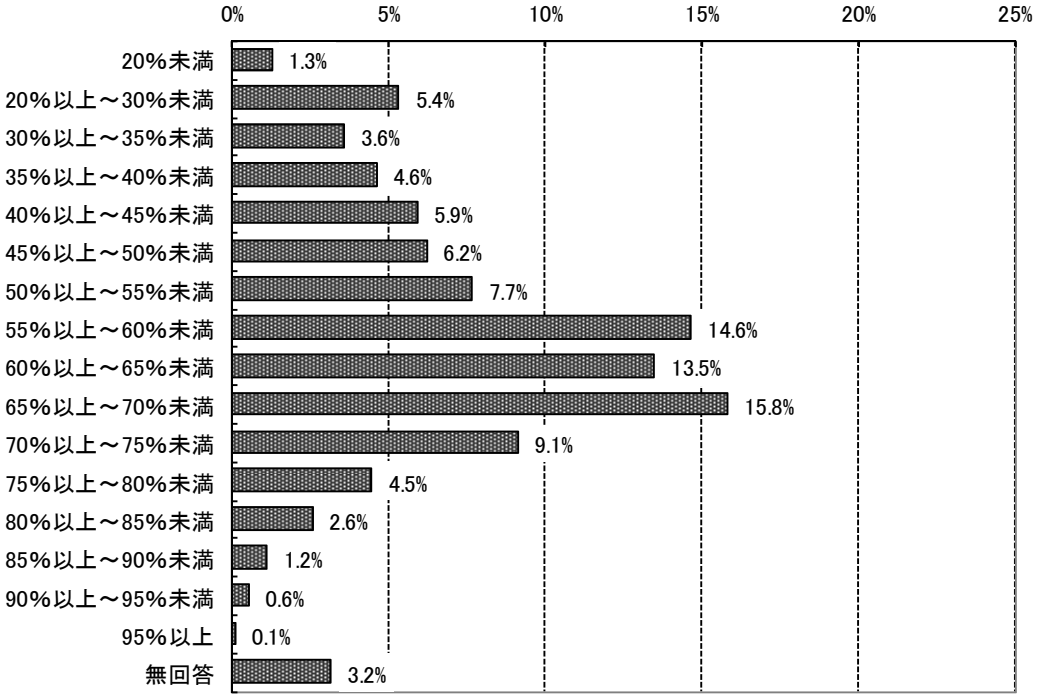


図表 21　平成 26 年度の後発医薬品調剤体制加算の算定状況
（平成 25 年度時点の算定状況別）



④後発医薬品調剤割合（新指標）

図表 22　後発医薬品調剤割合（新指標）（平成 26 年 9 月 1 か月間、n=690）



（注）・新指標算出式＝後発医薬品／（後発医薬品ありの先発医薬品＋後発医薬品）（%）
・平成 26 年 9 月 1 か月間について算出。

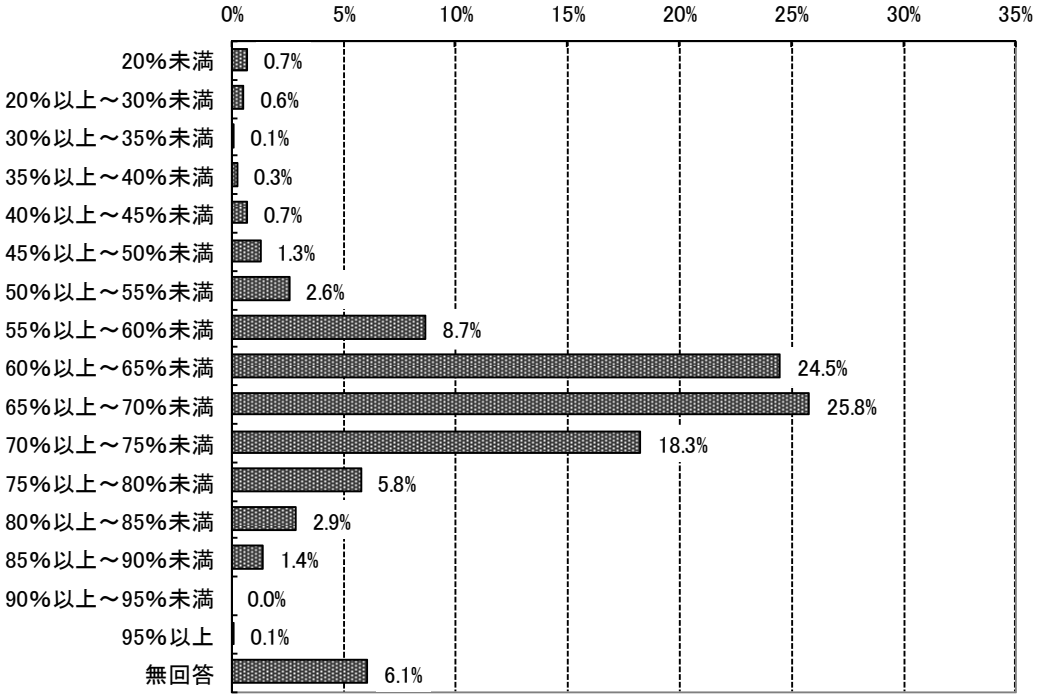
図表 23　後発医薬品調剤割合（新指標）（n=668）

	平均値	標準偏差	中央値
後発医薬品調剤割合(新指標)(%)	57.2	15.8	59.5

（注）・新指標算出式＝後発医薬品／（後発医薬品ありの先発医薬品＋後発医薬品）（%）
・平成 26 年 9 月 1 か月間について算出。
・無回答を除く 668 施設を集計対象とした。

⑤新指標のカットオフ値

図表 24　新指標のカットオフ値（n=690）



（注）・カットオフ値算出式＝（後発医薬品ありの先発医薬品＋後発医薬品）／全医薬品（%）
・平成 26 年 9 月 1 か月間について算出。

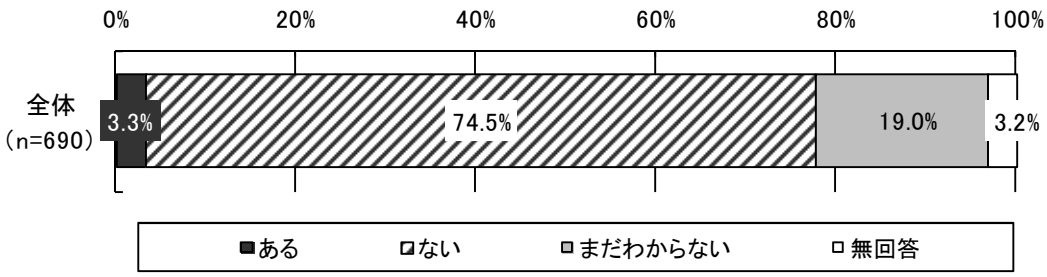
図表 25　新指標のカットオフ値（n=648）

	平均値	標準偏差	中央値
新指標のカットオフ値（%）	65.8	10.1	66.3

（注）・カットオフ値算出式＝（後発医薬品ありの先発医薬品＋後発医薬品）／全医薬品（%）
・平成 26 年 9 月 1 か月間について算出。
・無回答を除く 648 施設を集計対象とした。

⑥新指標で算出する際の問題点の有無

図表 26　新指標で算出する際の問題点の有無



（３）取り扱い処方せんの状況

①１週間の取り扱い処方せん枚数の状況

図表 27　１週間の取り扱い処方せん枚数（n=646）

	平均値	標準偏差	中央値
①受け付けた処方せん枚数（枚）	311.4	249.5	251.0
②先発医薬品（準先発品）名で処方され、変更不可となっている医薬品が１品目でもある処方せんの枚数（枚）	60.2	124.3	7.0
③後発医薬品名で処方され、変更不可となっている医薬品が１品目でもある処方せんの枚数（枚）	19.8	68.3	1.0
②／①（%）	19.3%		
③／①（%）	6.4%		

（注）平成 26 年 11 月 6 日（木）～11 月 12 日（水）の取り扱い処方せん枚数について回答があった 646 施設を集計対象とした。

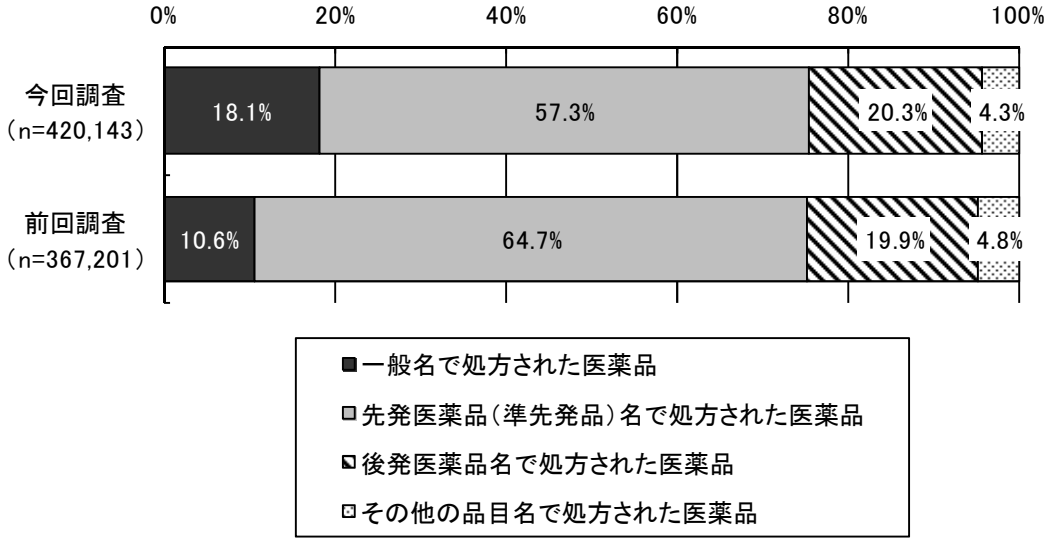
②１週間の取り扱い処方せん枚数の内訳

図表 28　１週間の取り扱い処方せんに記載された医薬品の品目数と対応状況別品目数
（546 薬局、総処方せん 164,393 枚に記載された 420,143 品目数）

	（今回調査）		（参考）前回調査
	品目数	割合	
①一般名で処方された医薬品の品目数	76,253	18.1%	10.6%
②後発医薬品を選択した医薬品の品目数	53,959	12.8%	6.3%
③先発医薬品（準先発品を含む）を選択した医薬品の品目数	22,294	5.3%	4.3%
④先発医薬品（準先発品）名で処方された医薬品の品目数	240,561	57.3%	64.7%
⑤「変更不可」となっていない医薬品の品目数	175,961	41.9%	42.4%
⑥先発医薬品を後発医薬品に変更した医薬品の品目数	31,917	7.6%	6.1%
⑦先発医薬品を調剤した医薬品の品目数	144,044	34.3%	36.3%
⑧後発医薬品が薬価収載されていないため、後発医薬品に変更できなかった医薬品の品目数	62,172	14.8%	14.3%
⑨外用剤が処方され、同一剤形の後発医薬品がなかったため変更できなかった医薬品の品目数	3,848	0.9%	1.0%
⑩患者が希望しなかったため、後発医薬品に変更できなかった医薬品の品目数（過去に確認済みの場合を含む）	48,597	11.6%	9.5%
⑪後発医薬品名で処方された医薬品の品目数	85,367	20.3%	19.9%
⑫「変更不可」となっている医薬品の品目数	38,279	9.1%	4.5%
⑬その他（漢方製剤など、先発医薬品・準先発品・後発医薬品のいずれにも該当しない医薬品）の品目名で処方された医薬品の品目数	17,962	4.3%	4.8%
⑬処方せんに記載された医薬品の品目数の合計	420,143	100.0%	100.0%

（注）平成 26 年 11 月 6 日（木）～11 月 12 日（水）に取り扱った処方せん枚数及び品目数内訳について回答があった 546 施設を集計対象とした。

図表 29　1 週間の取り扱い処方せんに記載された医薬品の内訳



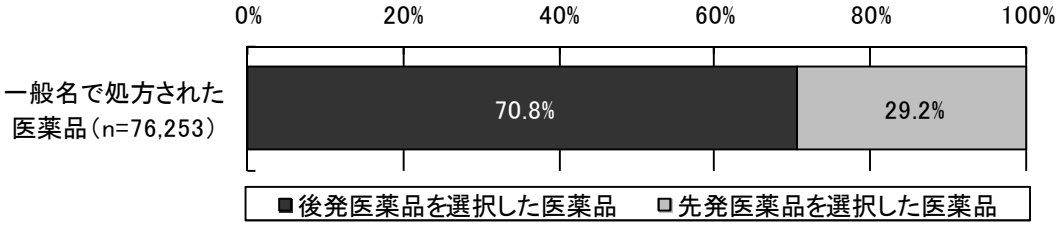
（注）・今回調査では、546 施設の 1 週間に取り扱った処方せん枚数の合計は 164,393 枚であり、処方せん記載の医薬品品目数の総数は 420,143 品目であった。また、前回調査では、324 施設の 1 週間に取り扱った処方せん枚数の合計は 101,928 枚であり、処方せん記載の医薬品品目数の総数は 367,201 品目であった。

・「その他」とは、漢方製剤など、先発医薬品・準先発品・後発医薬品のいずれにも該当しない医薬品。

③後発医薬品への変更割合等（品目ベース）

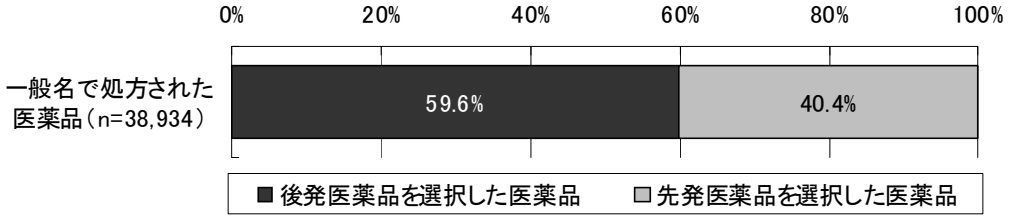
1）一般名で処方された医薬品における後発医薬品を選択した割合

図表 30　一般名で処方された医薬品（n=76,253）における、後発医薬品の調剤状況
（平成 26 年 11 月 6 日～11 月 12 日 1 週間分の品目ベース、546 薬局分）



（注）「先発医薬品」には、準先発品も含まれる。

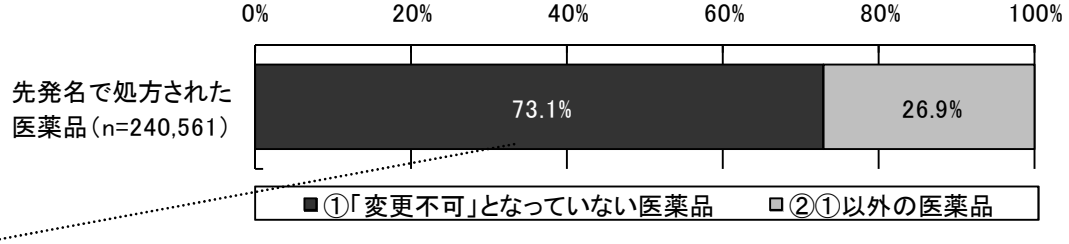
（前回調査）



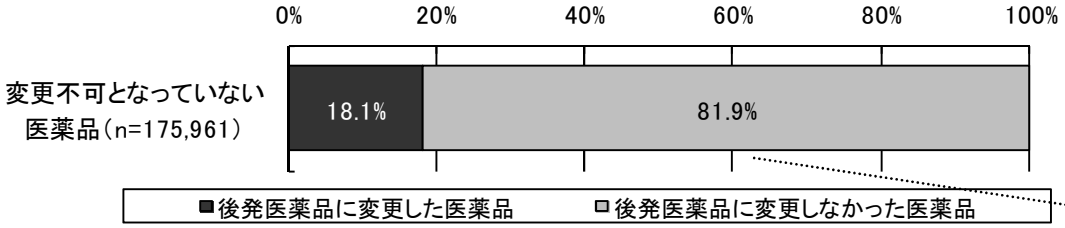
（注）・平成 25 年 8 月 21 日～8 月 27 日 1 週間分、324 薬局分。
・「先発医薬品」には、準先発品も含まれる。

2）先発医薬品（準先発品）名で処方された医薬品における、「変更不可」のチェックの状況

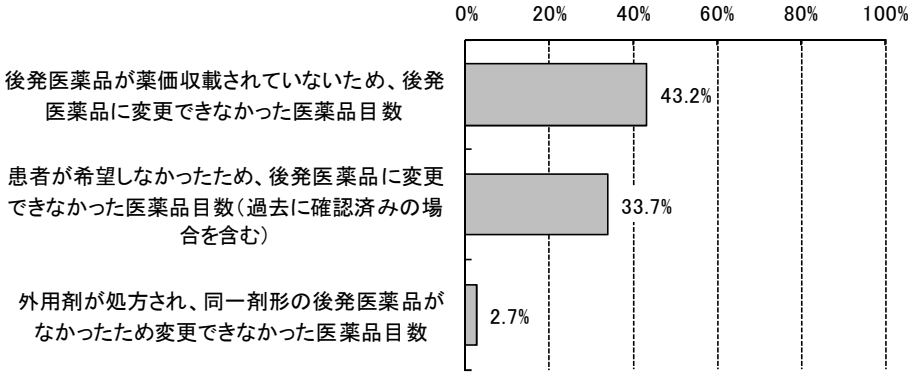
図表 31　先発医薬品（準先発品）名で処方された医薬品（n=240,561）における、「変更不可」の状況（平成 26 年 11 月 6 日～11 月 12 日 1 週間分の品目ベース、546 薬局分）



図表 32　先発医薬品（準先発品）名で処方された医薬品で「変更不可」となっていない医薬品（n=175,961）における、後発医薬品に変更した医薬品の割合（平成 26 年 11 月 6 日～11 月 12 日 1 週間分の品目ベース、546 薬局分）

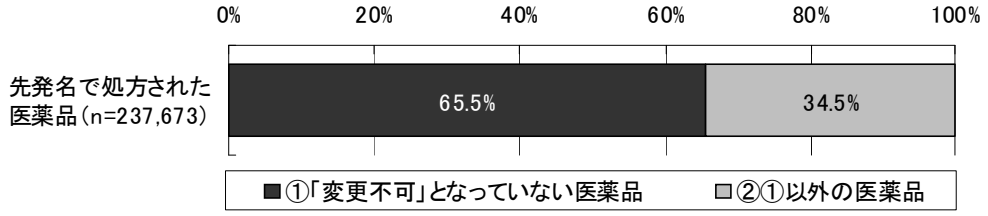


図表 33　先発医薬品名で処方され「変更不可」となっていない医薬品のうち、先発医薬品を調剤した医薬品（n=144,044）について、後発医薬品を調剤しなかった理由別分布（平成 26 年 11 月 6 日～11 月 12 日 1 週間分の品目ベース、複数回答）

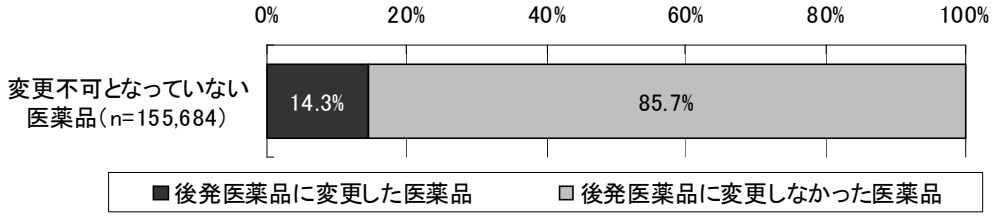


（前回調査）

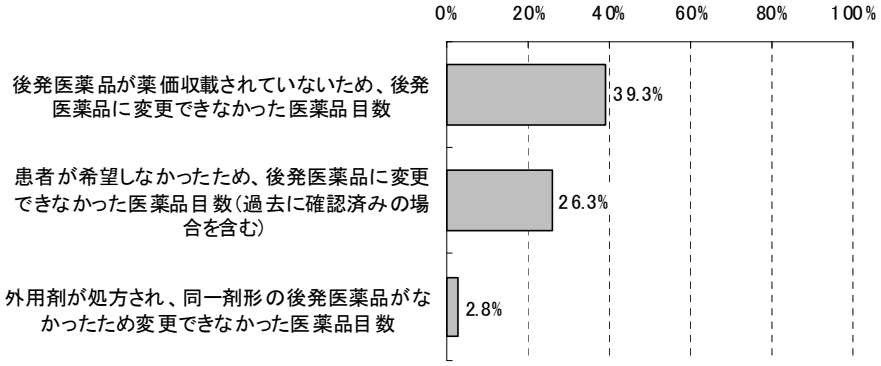
図表　先発医薬品（準先発品）名で処方された医薬品における、
「変更不可」の状況



図表　先発医薬品（準先発品）名で処方された医薬品で「変更不可」となっていない医薬品における、後発医薬品に変更した医薬品の割合

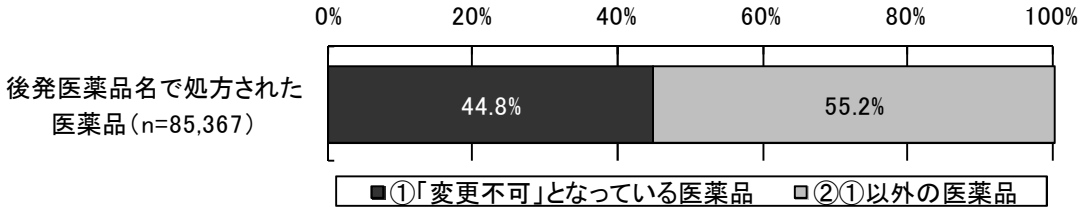


図表　先発医薬品名で処方され「変更不可」となっていない医薬品のうち、
後発医薬品に変更しなかった医薬品について、
後発医薬品を調剤しなかった理由別分布（複数回答、n=133,373）

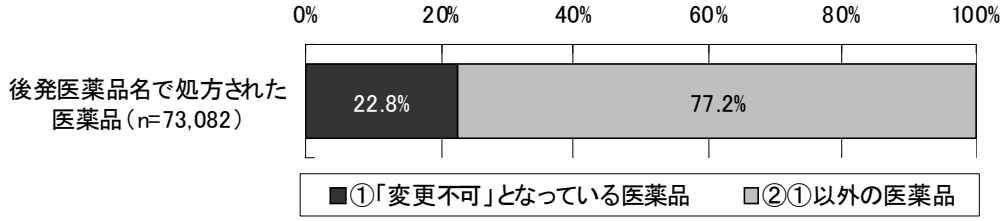


3）後発医薬品名で処方された医薬品における、「変更不可」のチェックの状況

図表 34　後発医薬品名で処方された医薬品（n=85,367）における、「変更不可」の状況
（平成 26 年 11 月 6 日～11 月 12 日 1 週間分の品目ベース、546 薬局分）

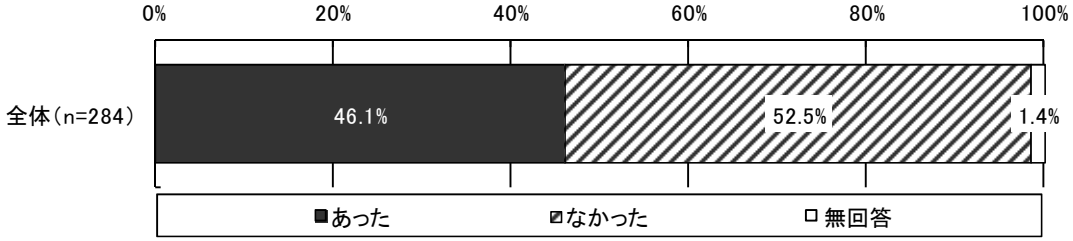


（前回調査）

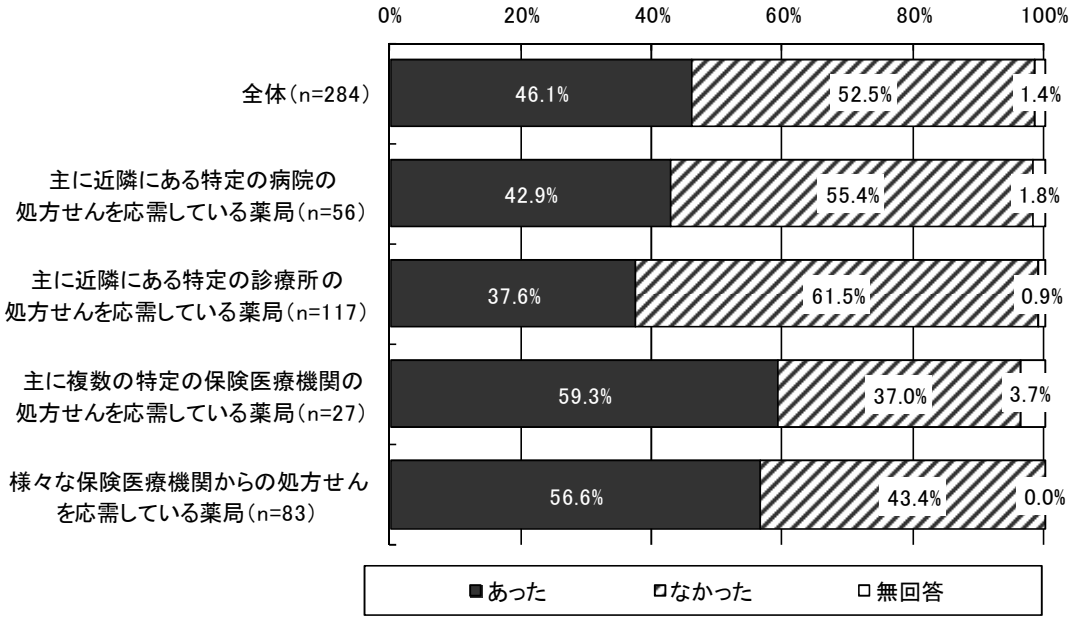


④変更不可の後発医薬品が処方されることによる、調剤を行う上での問題等

図表 35　変更不可の後発医薬品が処方されることによる、調剤を行う上での問題の有無
（平成 26 年 11 月 6 日～11 月 12 日 1 週間に取り扱った処方せんに 1 品目でも他の後発医薬品への変更不可となっている医薬品があった薬局、n=284）

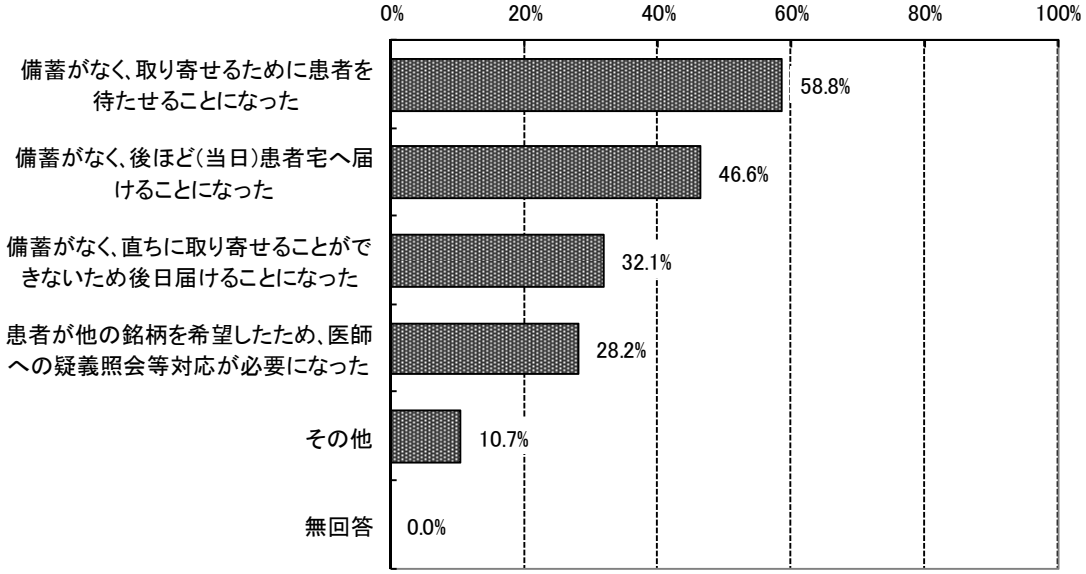


図表 36　変更不可の後発医薬品が処方されることによる、調剤を行う上での問題の有無
（処方せんの応需状況別）
（平成 26 年 11 月 6 日～11 月 12 日 1 週間に取り扱った処方せんに 1 品目でも他の後発医薬品への変更不可となっている医薬品があった薬局、n=284）



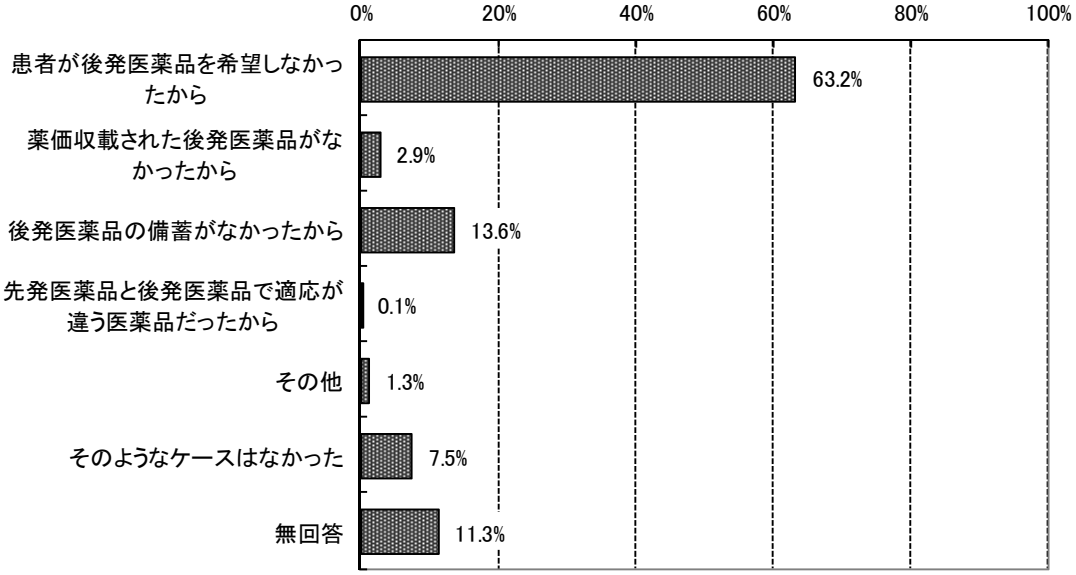
（注）「全体」には、処方せんの応需状況が無回答であった 1 施設が含まれる。

図表 37　変更不可の後発医薬品が処方されることによる、調剤を行う上での問題
（問題があったと回答した薬局、複数回答、n=131）



⑤一般名処方の処方せんを持参した患者のうち、後発医薬品を調剤しなかったケースについての最も多い理由

図表 38　一般名処方の処方せんを持参した患者のうち、後発医薬品を調剤しなかったケースについての最も多い理由（平成26年11月6日～11月12日の1週間、単数回答、n=690）



（４）後発医薬品の備蓄状況・廃棄額等

①医薬品の備蓄品目数

図表 39　医薬品の備蓄品目数（n=370）

		平成 25 年 9 月または把握可能な 25 年度の末日時点	平成 26 年 9 月または把握可能な直近の末日時点	増加率
医薬品全品目数（A）	平均値	916.5	968.9	5.7%
	標準偏差	412.8	431.7	
	中央値	836.0	892.5	
うち、後発医薬品の品目数（B）	平均値	187.1	228.6	22.2%
	標準偏差	126.0	138.9	
	中央値	167.5	203.0	
（B）／（A）	平均値	20.4%	23.6%	
	中央値	20.0%	22.7%	

（注）医薬品の備蓄品目数、在庫金額、購入金額、廃棄額の全ての項目について回答のあった 370 施設を集計対象とした。

図表 40　1 つの先発医薬品（同一規格）に対する後発医薬品の平均備蓄品目数（n=532）

	平均値	標準偏差	中央値
1 つの先発医薬品に対して備蓄している後発医薬品の品目数（品目）	1.1	0.5	1.0

（注）1 つの先発医薬品に対する後発医薬品の平均備蓄品目数について回答のあった 532 施設を集計対象とした。

②医薬品の在庫金額・購入金額・廃棄額

図表 41　医薬品の在庫金額及び廃棄額（末日時点または 1 か月分、n=370）

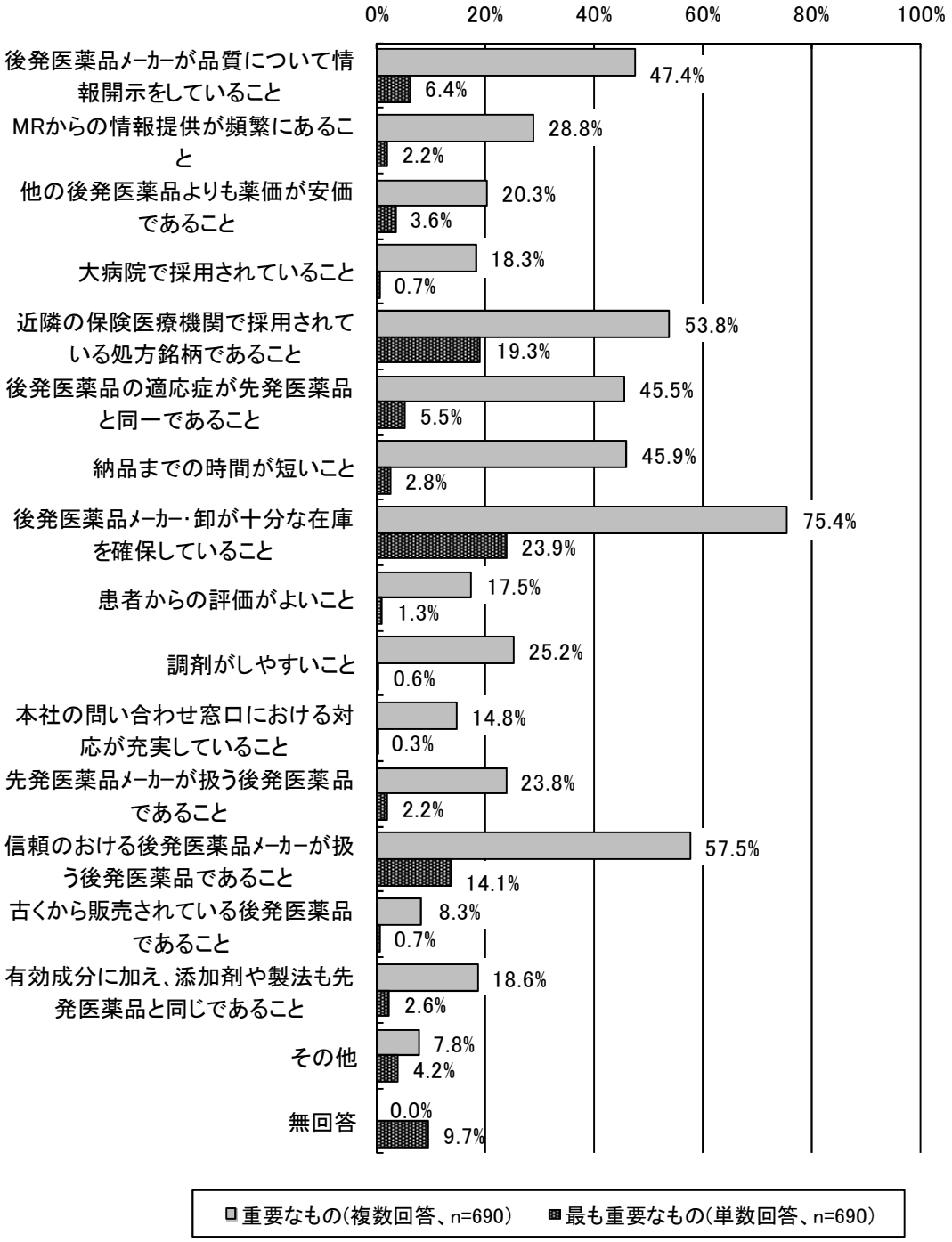
			平成 25 年 9 月または把握可能な 25 年度の末日時点	平成 26 年 9 月または把握可能な直近の末日時点	増加率
在庫金額（円）	医薬品全品目	平均値	8,084,036.8	8,412,517.7	4.1%
		標準偏差	7,704,155.7	8,293,353.7	
		中央値	5,597,000.0	5,980,000.0	
	うち、後発医薬品	平均値	968,707.6	1,180,919.2	21.9%
		標準偏差	1,079,204.8	1,288,025.9	
		中央値	640,430.5	826,402.5	
購入金額（円）	医薬品全品目	平均値	7,630,834.1	7,723,666.0	1.2%
		標準偏差	8,392,346.4	8,689,885.7	
		中央値	5,197,900.0	5,214,000.0	
	うち、後発医薬品	平均値	909,647.8	1,121,253.8	23.3%
		標準偏差	983,051.6	1,179,635.7	
		中央値	556,098.5	721,613.5	
廃棄額（円）	医薬品全品目	平均値	29,556.2	32,362.1	9.5%
		標準偏差	67,389.3	67,780.5	
		中央値	9,578.0	10,000.0	
	うち、後発医薬品	平均値	3,915.5	4,563.7	16.6%
		標準偏差	9,039.2	13,353.3	
		中央値	301.0	579.0	

（注）医薬品の備蓄品目数、在庫金額、購入金額、廃棄額の全ての項目について回答のあった 370 施設を集計対象とした。

（５）後発医薬品への対応状況

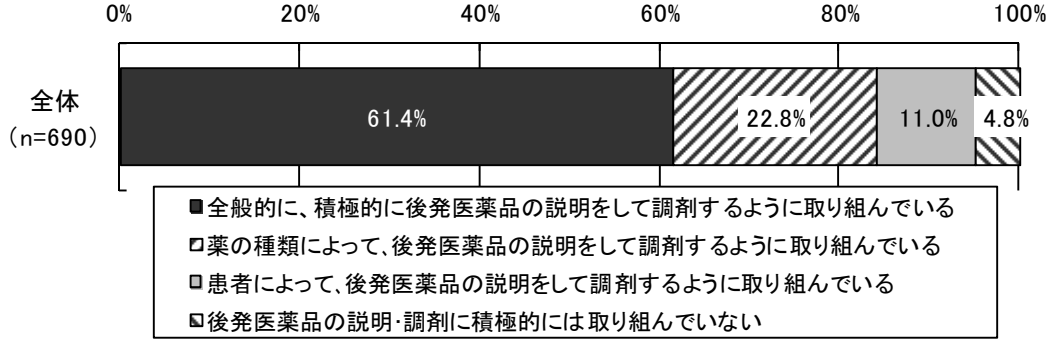
①後発医薬品の採用基準

図表 42　後発医薬品の採用基準

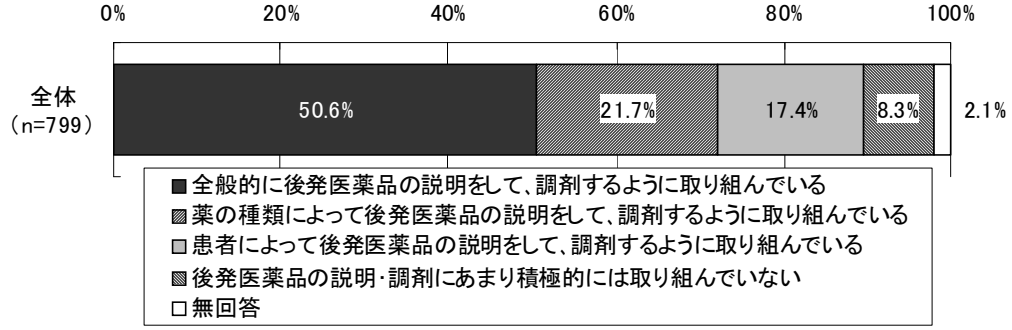


②後発医薬品の調剤に関する考え

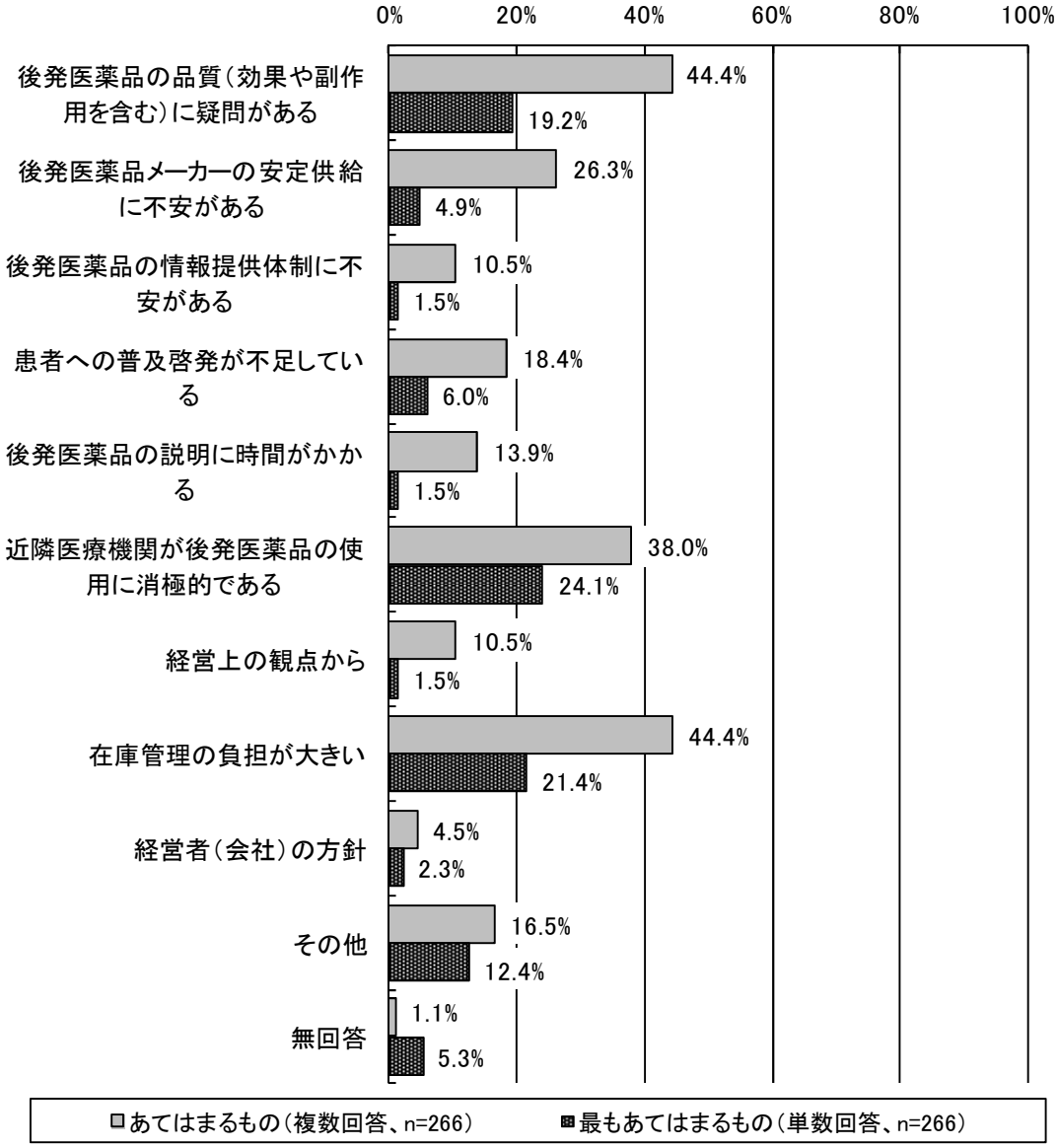
図表 43　後発医薬品の調剤に関する考え



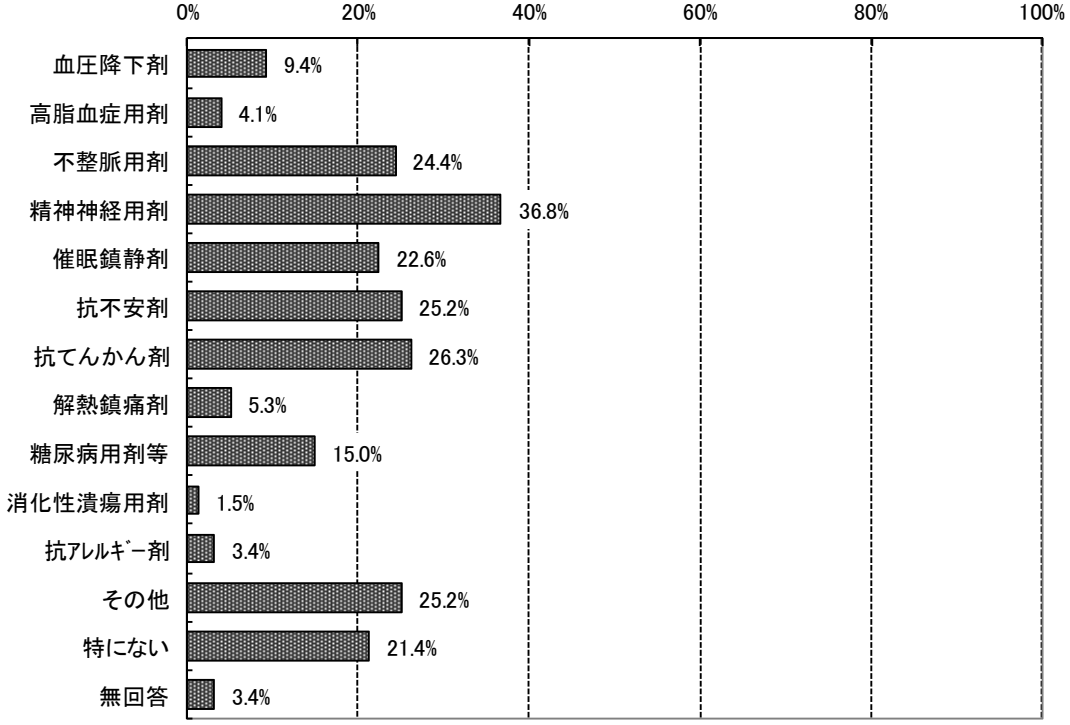
（前回調査）



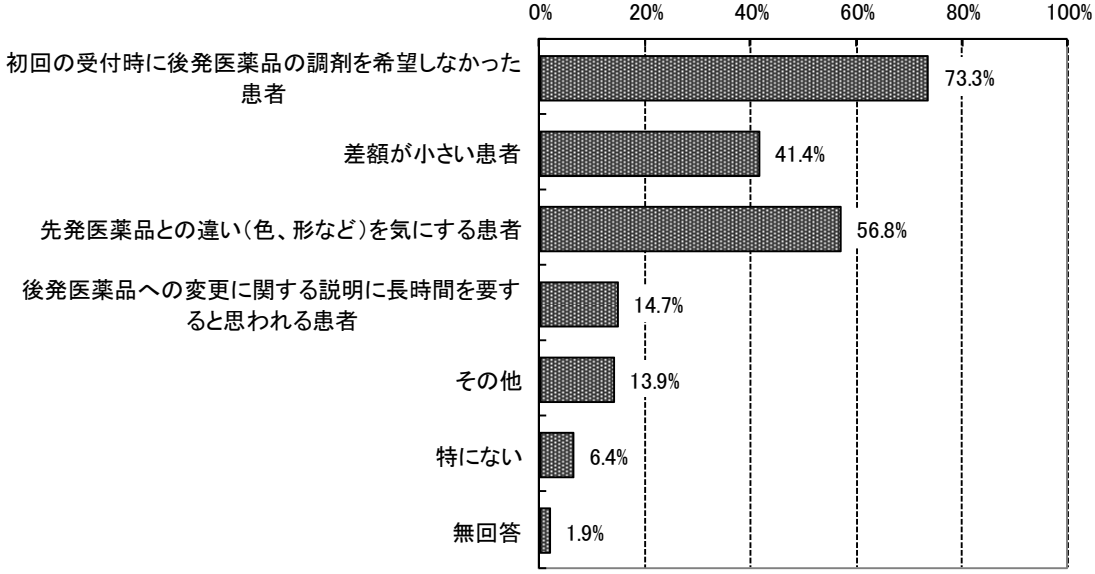
図表 44　あまり積極的には取り組んでいない理由
（「全般的に、後発医薬品の説明をして、調剤するように取り組んでいる」と
回答した薬局以外の薬局、n=266）



図表 45　後発医薬品を積極的に調剤していない医薬品の種類
（「全般的に、後発医薬品の説明をして、調剤するように取り組んでいる」と
回答した薬局以外の薬局、複数回答、n=266）

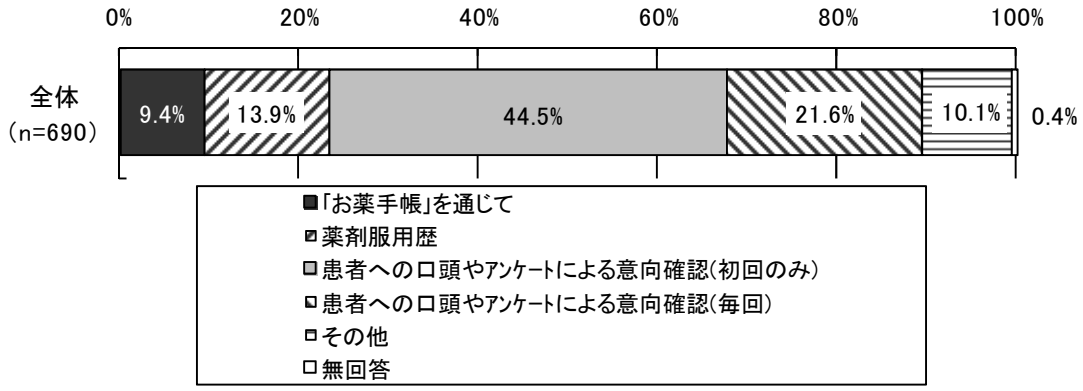


図表 46　後発医薬品を積極的に調剤していない患者の特徴
（「全般的に、後発医薬品の説明をして、調剤するように取り組んでいる」と
回答した薬局以外の薬局、複数回答、n=266）



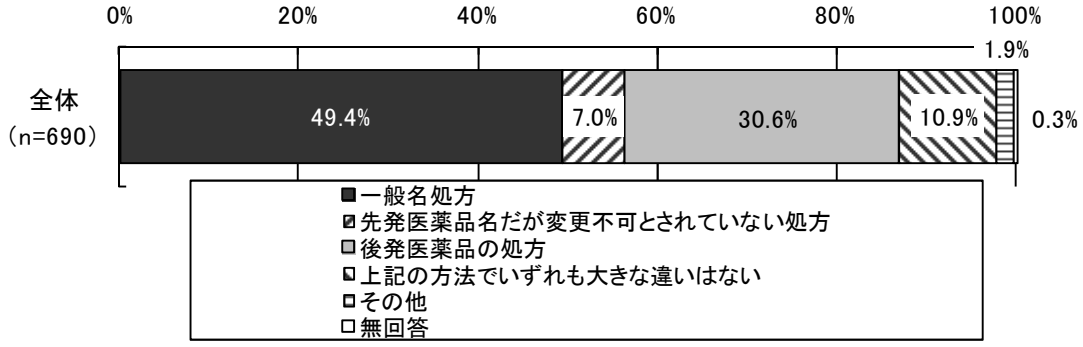
③後発医薬品使用に関する患者の意向を把握する手段

図表 47　後発医薬品使用に関する患者の意向を把握する手段



④後発医薬品への変更・選択において患者の理解を最も得られやすい処方方法

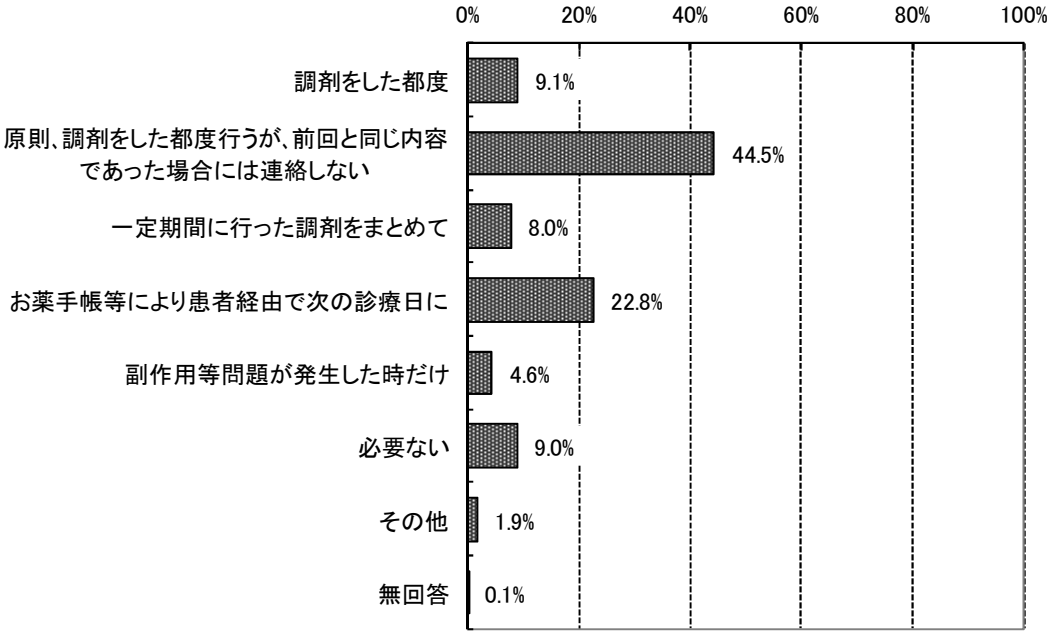
図表 48　後発医薬品への変更・選択において患者の理解を最も得られやすい処方方法



⑤処方医への情報提供等

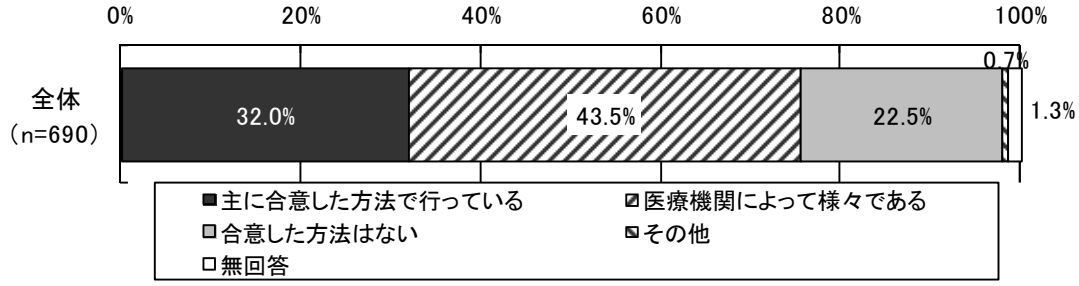
1）一般名処方の調剤・後発医薬品への変更調剤に関する、処方医への情報提供のタイミング

図表 49　一般名処方の調剤・後発医薬品への変更調剤に関する、処方医への情報提供のタイミング（単数回答、n=690）

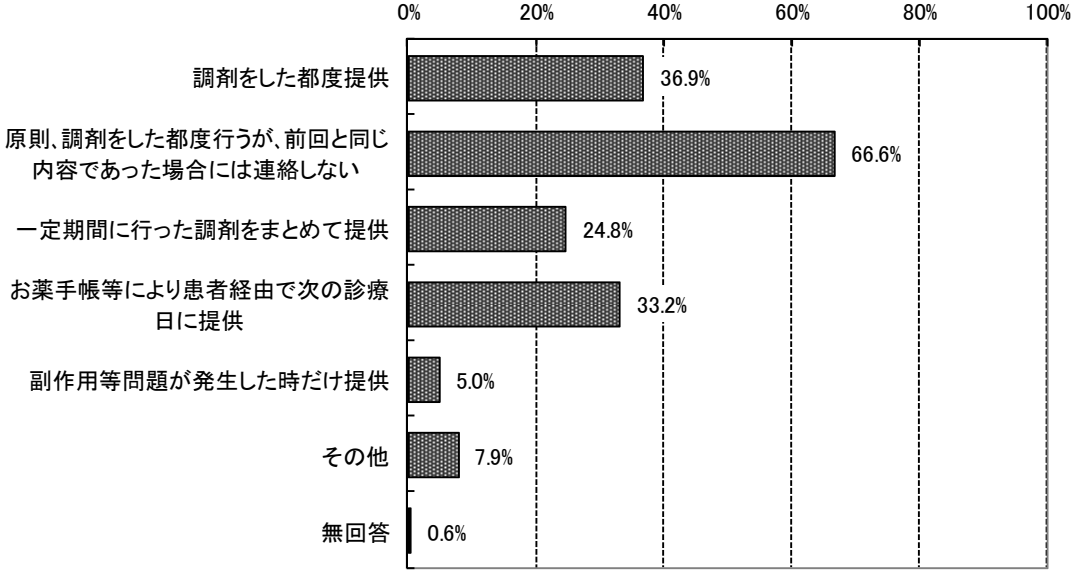


2）一般名処方の調剤・後発医薬品への変更調剤に関する情報提供の頻度等について、医療機関と予め合意した方法で行っているか

図表 50　一般名処方の調剤・後発医薬品への変更調剤に関する情報提供の頻度等について、医療機関と予め合意した方法で行っているか



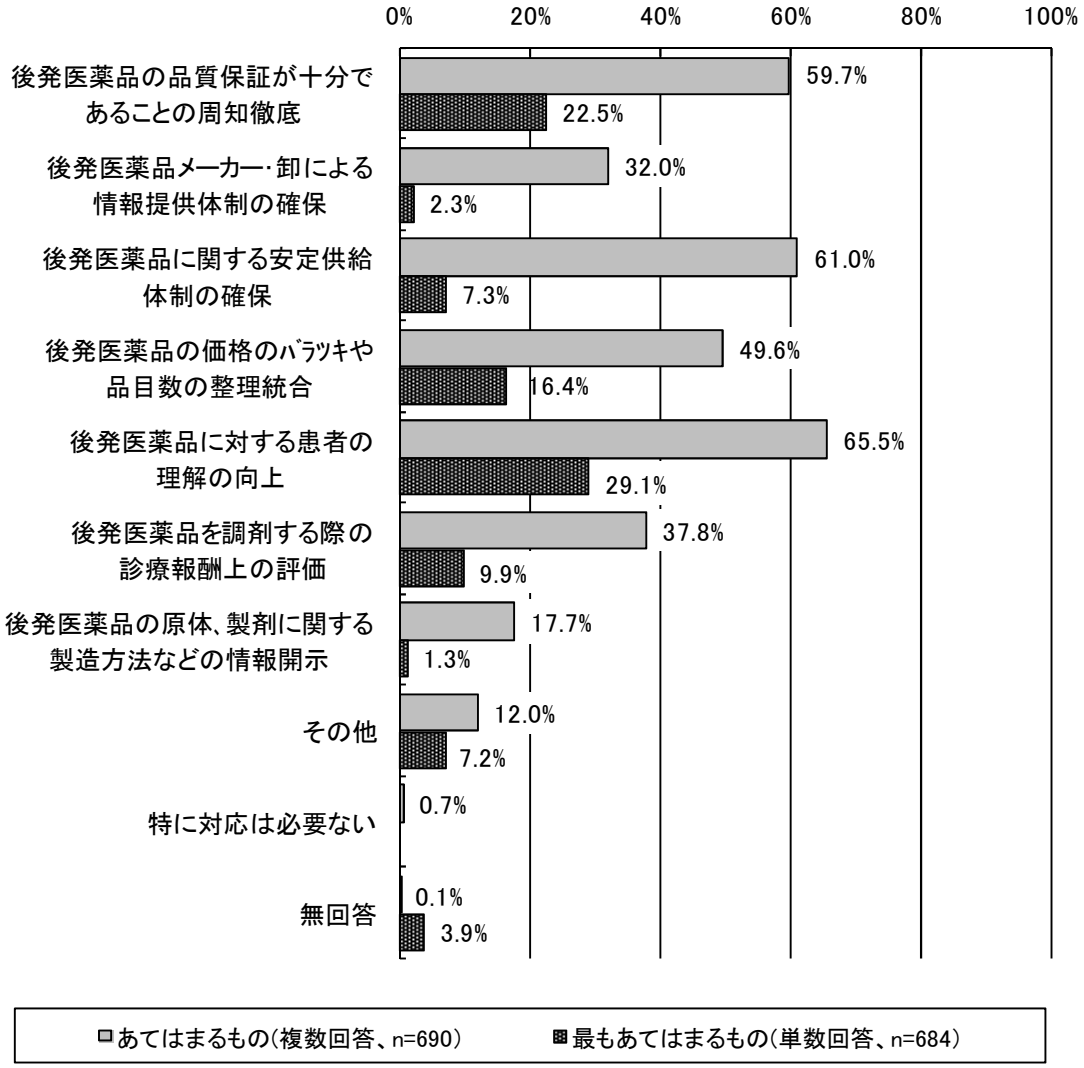
図表 51　医療機関と合意した方法
（「主に合意した方法で行っている」「医療機関によって様々である」と回答した薬局、複数回答、n=521）



（６）後発医薬品使用にあたっての問題点・課題・要望等

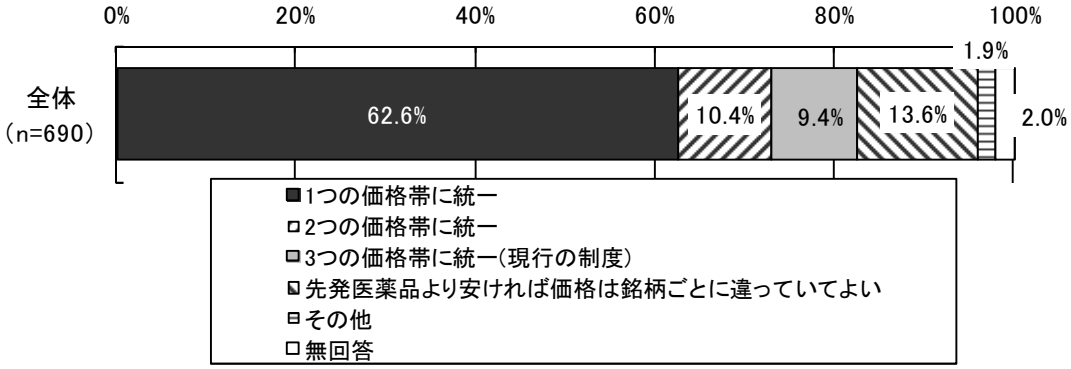
①薬局の開設者・管理者の立場として後発医薬品の調剤を積極的に進める上で必要な対応

図表 52　薬局の開設者・管理者の立場として後発医薬品の調剤を積極的に進める上で必要な対応



②後発医薬品の望ましい価格体系

図表 53　後発医薬品の望ましい価格体系



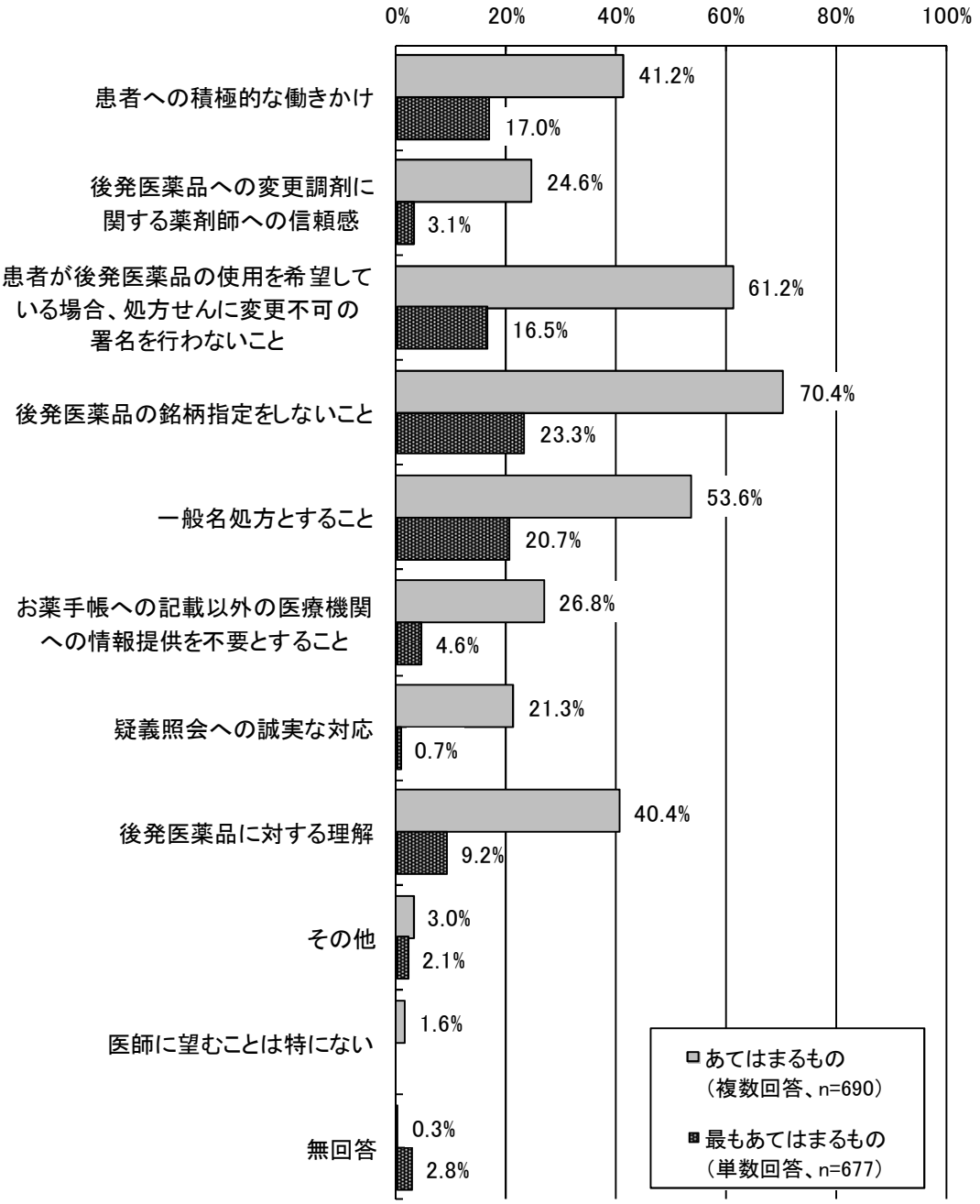
③後発医薬品の望ましい薬価水準

図表 54　後発医薬品の望ましい薬価水準（先発医薬品と比較した場合の水準、n=628）

	平均値	標準偏差	中央値
先発医薬品と比較した時の後発医薬品の薬価の適切な水準(%)	52.7	11.0	50.0

④後発医薬品の使用を進める上で医師に望むこと

図表 55　後発医薬品の使用を進める上で医師に望むこと



（７）後発医薬品に変更して調剤した処方せん等に係る薬剤料の状況

図表 56　11/6～11/12 のうちの平均的な開局時間である 1 日に先発医薬品から後発医薬品に変更して調剤または一般名処方の医薬品を後発医薬品で調剤した処方せん（11,175 枚）の状況

	（今回調査）			（前回調査）		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
記載銘柄により調剤した場合の薬剤料（A）（点）	762.4	1,767.5	348.0	872.4	1,862.8	420.0
実際に調剤した薬剤料（B）（点）	634.5	1,675.6	270.0	727.6	1,628.8	336.0
記載銘柄により調剤した場合の薬剤料に占める、実際に調剤した薬剤料の割合（B／A）（%）	83.2%		77.6%	83.4%		80.0%

（注）「前回調査」の処方せん枚数は 9,722 枚（平成 25 年 8 月 21 日から 8 月 27 日までの 1 週間分の処方せん）。

図表 57　11/6～11/12 のうちの平均的な開局時間である 1 日に先発医薬品から後発医薬品に変更して調剤または一般名処方の医薬品を後発医薬品で調剤した処方せん（11,175 枚）の状況（患者一部負担金割合別）

	患者一部負担金割合					
	全体	0 割	1 割	2 割	3 割	10 割
処方せん枚数（枚）	11,175	1,787	3,562	298	5,499	17
記載銘柄により調剤した場合の薬剤料（A）（点）	762.4	591.8	1,010.9	405.3	677.6	332.1
実際に調剤した薬剤料（B）（点）	634.5	524.4	845.8	325.8	551.1	284.4
記載銘柄により調剤した場合の薬剤料に占める、実際に調剤した薬剤料の割合（B／A）（%）	83.2%	88.6%	83.7%	80.4%	81.3%	85.6%

（注）患者一部負担金割合の「全体」には、患者一部負担金割合が不明だった処方せん 12 枚が含まれる。

図表 58　11/6～11/12 のうちの平均的な開局時間である 1 日に先発医薬品から後発医薬品に変更して調剤した処方せん（5,257 枚）の状況（患者一部負担金割合別）

	患者一部負担金割合					
	全体	0 割	1 割	2 割	3 割	10 割
処方せん枚数（枚）	5,257	842	1,565	146	2,691	7
記載銘柄により調剤した場合の薬剤料（A）（点）	895.0	613.7	1,265.7	450.5	792.1	531.4
実際に調剤した薬剤料（B）（点）	713.6	525.2	1,021.7	329.6	614.5	460.3
記載銘柄により調剤した場合の薬剤料に占める、実際に調剤した薬剤料の割合（B／A）（%）	79.7%	85.6%	80.7%	73.2%	77.6%	86.6%

（注）患者一部負担金割合の「全体」には、患者一部負担金割合が不明だった処方せん 6 枚が含まれる。

３．診療所・病院・医師調査の結果

【調査対象等】

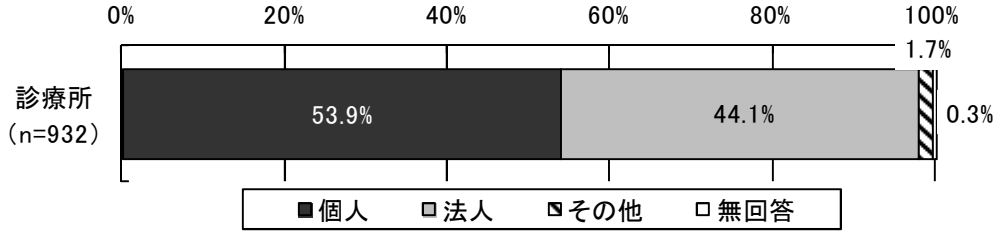
○診療所調査
調査対象：全国の一般診療所の中から無作為に抽出した一般診療所
回 答 数：932 施設
回 答 者：開設者・管理者
○病院調査
調査対象：全国の病院の中から無作為に抽出した病院
回 答 数：574 施設
回 答 者：開設者・管理者
○医師調査
調査対象：上記「病院調査」の対象施設で外来診療を担当する医師
1 施設につき、診療科の異なる医師 2 名
回 答 数：863 人

（１）施設の概要等

①診療所の施設属性

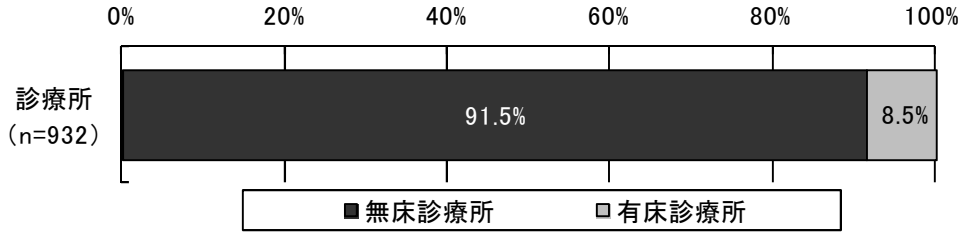
1）診療所の開設者

図表 59　診療所の開設者

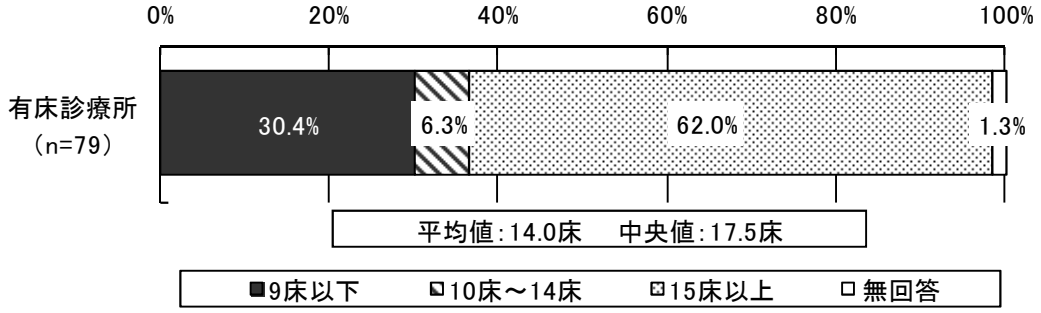


2）診療所の種別

図表 60　診療所の種別

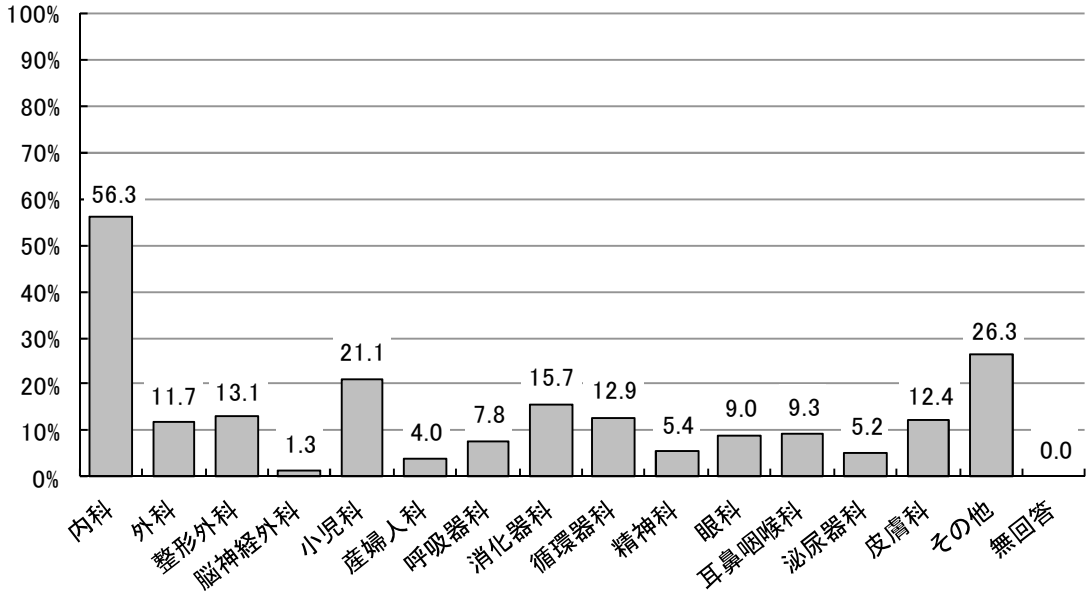


図表 61　有床診療所の病床規模



3）診療所の標榜診療科

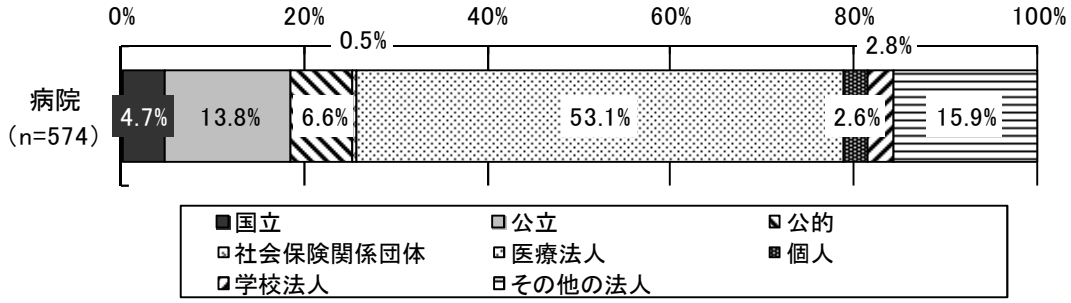
図表 62　診療所の標榜診療科（複数回答、n=932）



②病院の施設属性

1）病院の開設者

図表 63　病院の開設者



（注）開設者は以下の通り。

国　立：厚生労働省、独立行政法人国立病院機構、国立大学法人、独立行政法人労働者健康福祉機構、その他（国、独立行政法人）

公　立：都道府県、市町村、地方独立行政法人

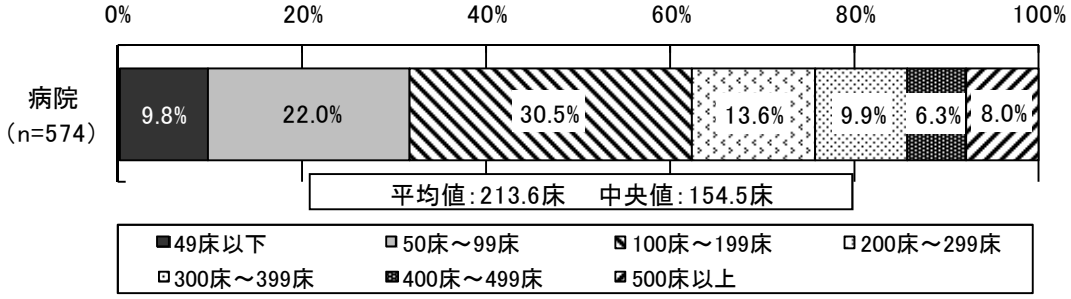
公　的：日本赤十字社、済生会、北海道社会事業協会、全国厚生農業協同組合連合会、国民健康保険団体連合会

社会保険関係団体：全国社会保険協会連合会、厚生年金事業振興団、船員保険会、健康保険組合及びその連合会、共済組合及びその連合会、国民健康保険組合

その他の法人：公益法人、社会福祉法人、医療生協、会社、その他の法人

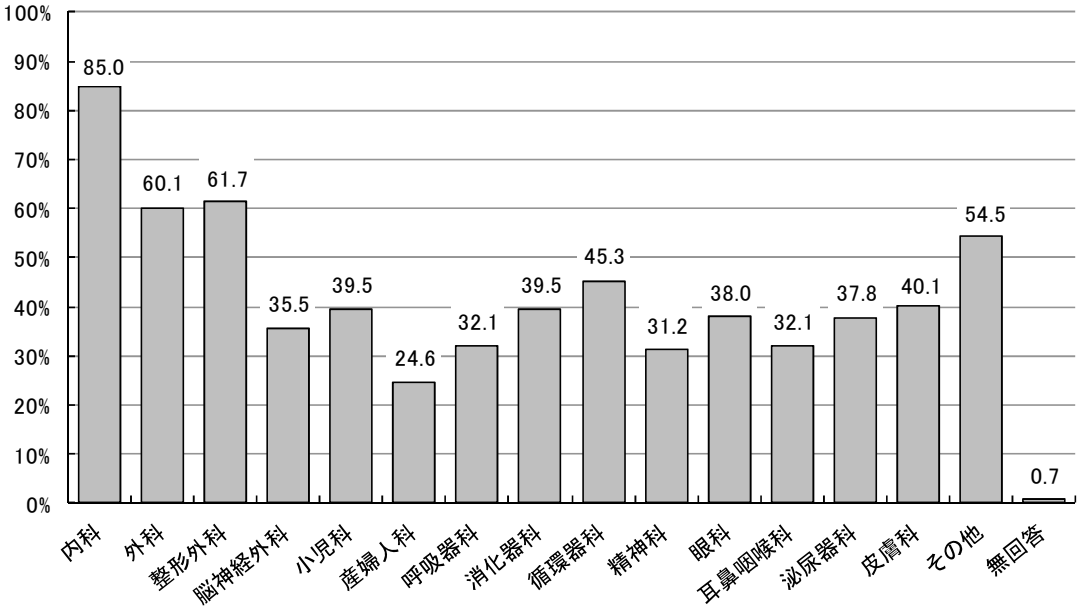
2）病院の病床規模

図表 64　病院の病床規模



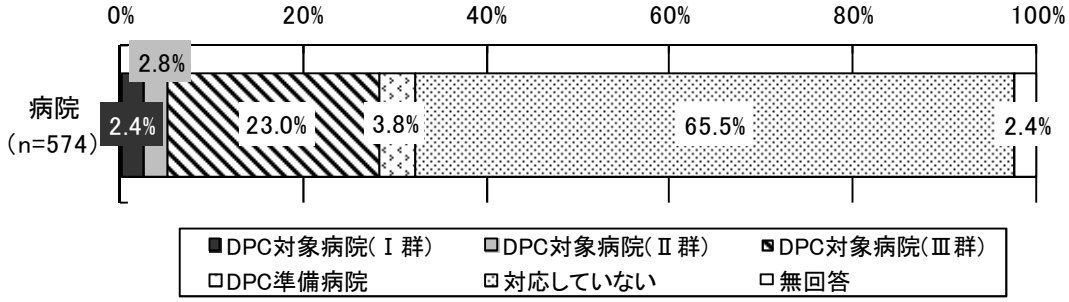
3）病院の標榜診療科

図表 65　病院の標榜診療科（複数回答、n=574）



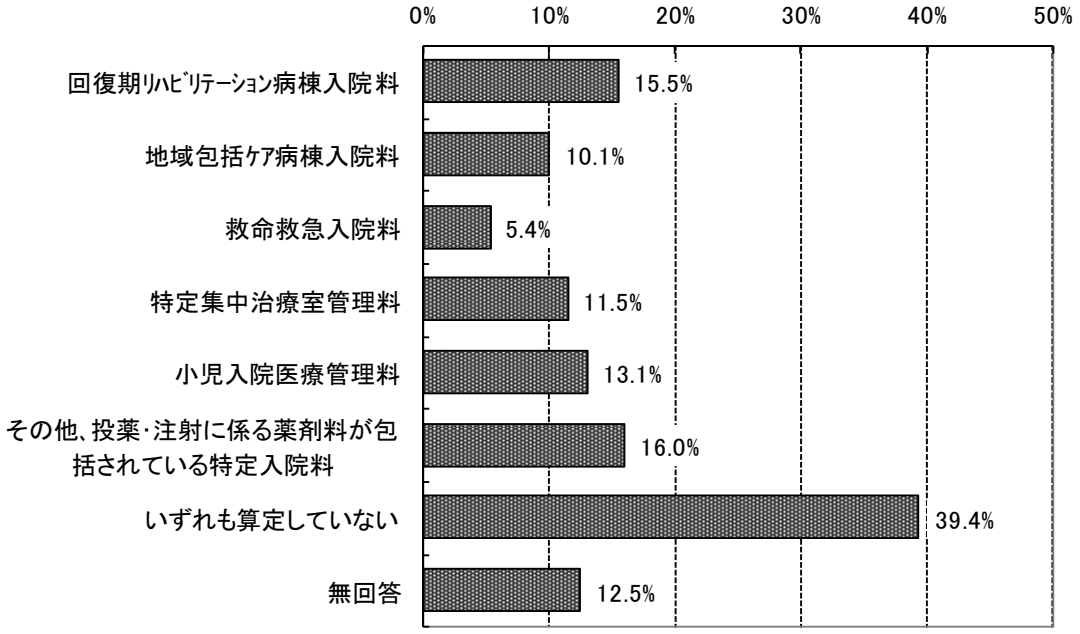
4）ＤＰＣの対応状況

図表 66　ＤＰＣの対応状況



5）特定入院料の状況

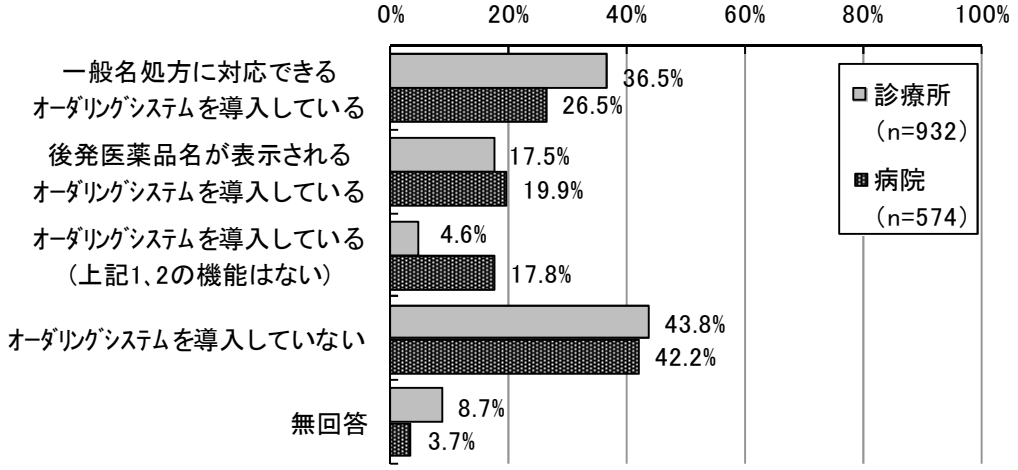
図表 67　特定入院料の状況（複数回答、n=574）



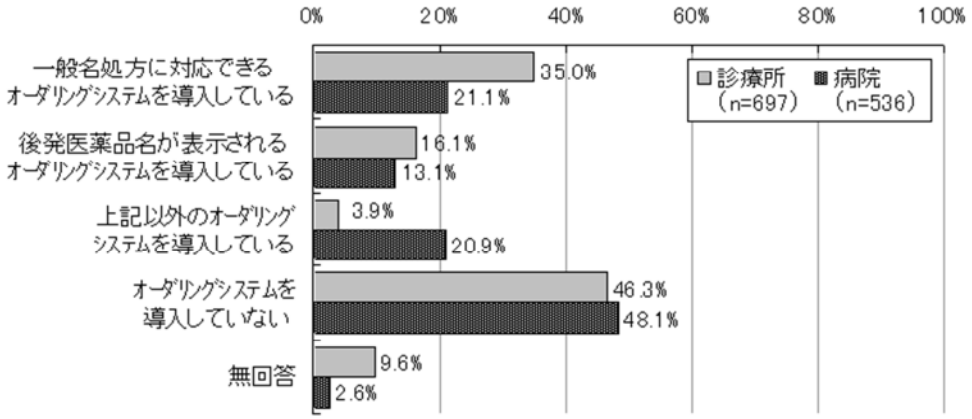
③オーダリングシステムの導入状況等

1）オーダリングシステムの導入状況

図表 68　オーダリングシステムの導入状況（複数回答）

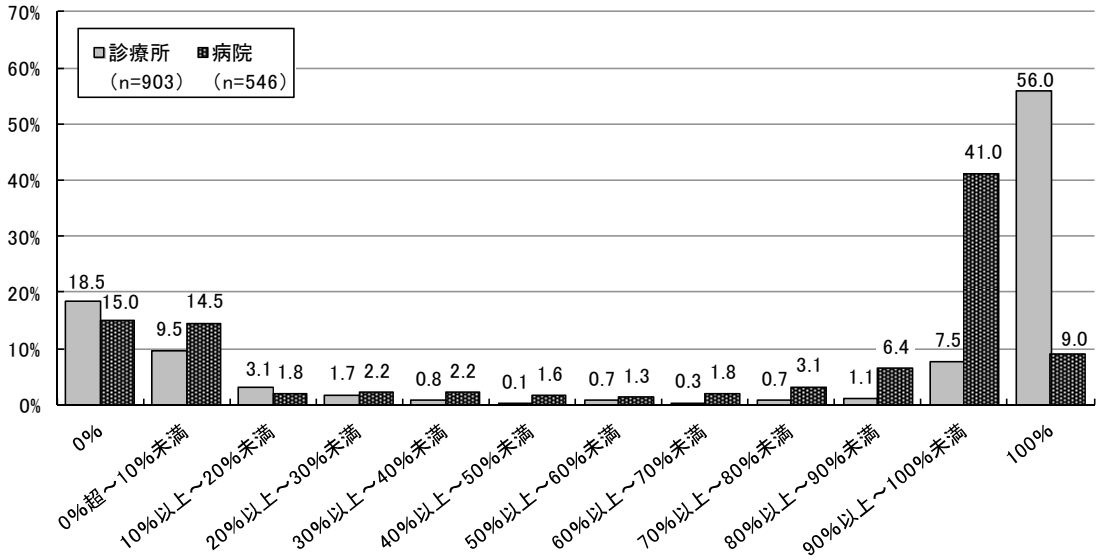


（前回調査）



2）院外処方の割合

図表 69　院外処方の割合別　施設分布

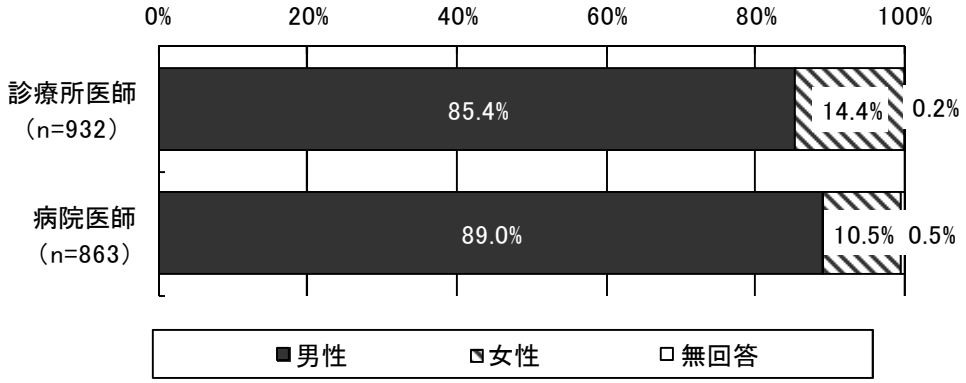


（注）院外処方割合について記載のあった施設（診療所 903 施設、病院 546 施設）を集計対象とした。

（２）医師の属性等

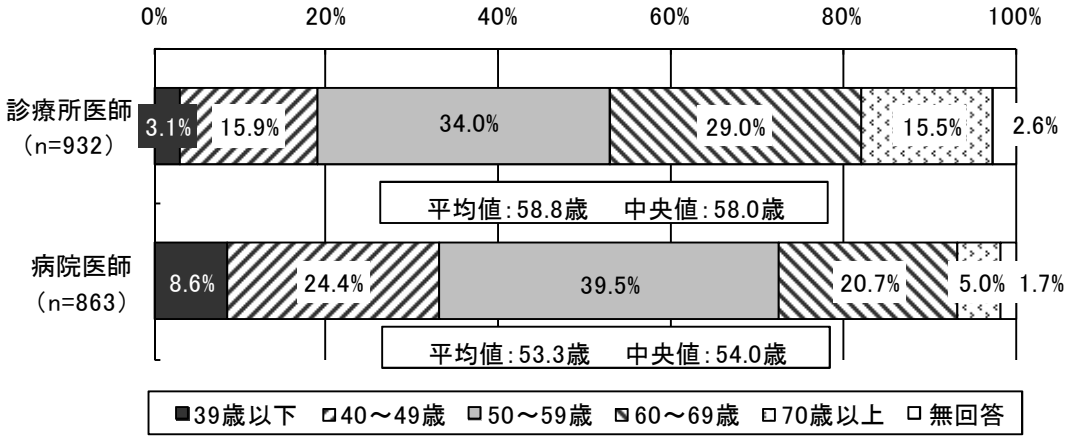
①医師の性別

図表 70　医師の性別



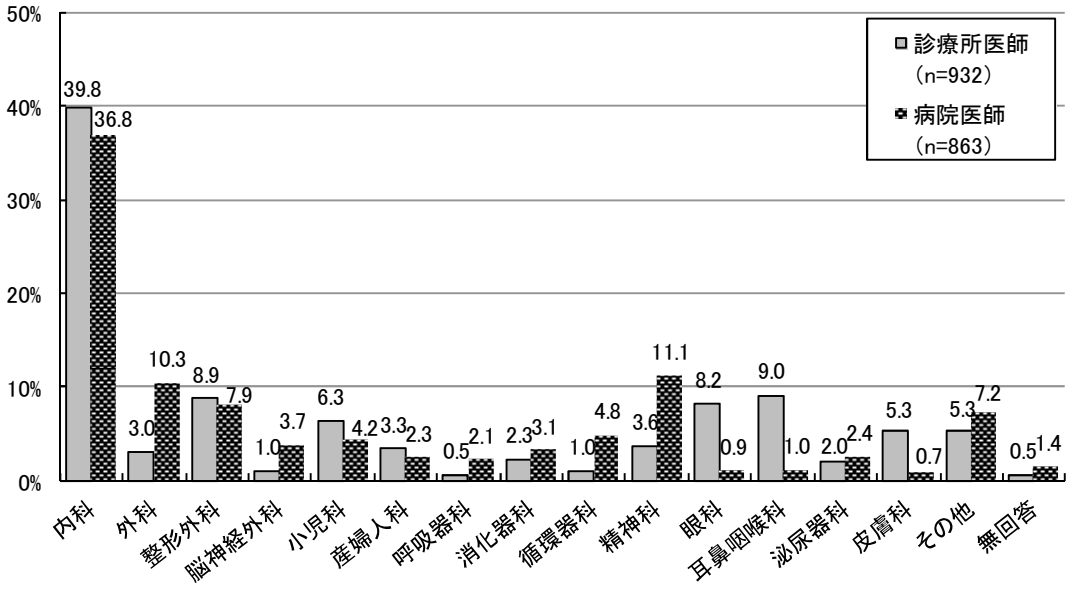
②医師の年齢

図表 71　医師の年齢



③医師の主たる担当診療科

図表 72　医師の主たる担当診療科



（３）診療所・病院の診療体制

①診療所の診療体制

図表 73　診療所における１施設あたりの常勤の医師数・薬剤師数

	施設数（件）	平均値	標準偏差	中央値
医師数（人）	929	1.2	0.7	1.0
薬剤師数（人）	925	0.1	0.3	0.0

②病院の診療体制

図表 74　病院における１施設あたりの医師数・薬剤師数（常勤換算）

	施設数（件）	平均値	標準偏差	中央値
医師数（人）	543	39.5	94.4	11.0
薬剤師数（人）	558	7.6	10.7	3.6

（４）診療所・病院における医薬品の備蓄状況等

①医薬品の備蓄状況等

1）診療所における医薬品の備蓄状況

図表 75　診療所における医薬品の備蓄状況等（平成 26 年 9 月末）

	診療所全体（n=228）			【無床診療所】院外処方率 50%未満（n=157）		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
1. 医薬品備蓄品目数（品目）						
①全医薬品	172.8	136.1	140.0	185.0	132.7	150.0
②①のうち、後発医薬品	42.4	52.0	26.0	48.6	55.3	30.0
③後発医薬品割合（②／①）	24.6%		18.6%	26.3%		20.0%
2. 調剤用医薬品購入額（円）						
①全医薬品	2,778,368	5,905,030	1,425,000	2,765,212	5,330,365	1,700,000
②①のうち、後発医薬品	415,551	669,970	160,000	458,230	675,967	200,901
③後発医薬品割合（②／①）	15.0%		11.2%	16.6%		11.8%
3. 調剤用医薬品廃棄額（円）						
①全医薬品	10,143	41,445	0	12,078	48,915	0
②①のうち、後発医薬品	2,441	14,250	0	2,801	16,696	0
③後発医薬品割合（②／①）	24.1%		－	23.2%		－

	【無床診療所】院外処方率 50%以上（n=29）			【有床診療所】（n=38）		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
1. 医薬品備蓄品目数（品目）						
①全医薬品	53.1	52.1	35.0	211.3	151.9	185.0
②①のうち、後発医薬品	14.0	28.2	5.0	37.8	44.8	28.0
③後発医薬品割合（②／①）	26.3%		14.3%	17.9%		15.1%
2. 調剤用医薬品購入額（円）						
①全医薬品	214,899	302,436	116,000	4,944,224	9,151,640	2,707,330
②①のうち、後発医薬品	79,283	210,096	2,500	521,136	821,972	165,000
③後発医薬品割合（②／①）	36.9%		2.2%	10.5%		6.1%
3. 調剤用医薬品廃棄額（円）						
①全医薬品	2,910	9,936	0	8,626	17,513	0
②①のうち、後発医薬品	414	1,881	0	2,650	7,962	0
③後発医薬品割合（②／①）	14.2%		－	30.7%		－

（注）・医薬品備蓄品目数、調剤用医薬品購入額、調剤用医薬品廃棄額について回答のあった施設を集計対象とした。
・診療所全体には、院外処方率が不明の 4 施設が含まれる。

2）病院における医薬品の備蓄品目数

図表 76　病院における医薬品の備蓄品目数（平成 26 年 9 月末、n=536）

		①全医薬品	②うち後発医薬品	②／①
内服薬	平均値	415.2	76.4	18.4%
	標準偏差	228.4	54.6	
	中央値	377.5	69.0	18.3%
外用薬	平均値	150.0	26.3	17.5%
	標準偏差	94.1	16.9	
	中央値	124.0	24.0	19.4%
注射薬	平均値	247.8	41.7	16.8%
	標準偏差	187.1	35.8	
	中央値	191.0	31.0	16.2%
合計	平均値	813.0	144.4	17.8%
	標準偏差	480.2	90.0	
	中央値	684.0	131.0	19.2%

（注）内服薬、外用薬、注射薬、合計品目について回答のあった 536 施設を集計対象とした。

（前回調査）

		①全医薬品	②うち後発医薬品	②／①
内服薬	平均値	419.5	67.9	16.2%
	標準偏差	226.0	48.7	
	中央値	370.0	59.5	16.1%
外用薬	平均値	149.6	24.5	16.4%
	標準偏差	98.2	15.8	
	中央値	118.0	22.0	18.6%
注射薬	平均値	251.1	38.7	15.4%
	標準偏差	196.8	34.0	
	中央値	185.5	29.0	15.6%
合計	平均値	820.2	131.1	16.0%
	標準偏差	493.3	79.3	
	中央値	663.5	122.5	18.5%

（注）すべての項目に回答のあった施設を集計対象とした。

図表 77　病院における医薬品の備蓄品目数（病院種別、平成 26 年 9 月末）

		病院全体(n=427)			DPC 対象病院(Ⅰ群)(n=9)		
		①全医薬品	②うち後発医薬品	②／①	①全医薬品	②うち後発医薬品	②／①
内服薬	平均値	417.5	76.2	18.3%	781.2	65.3	8.4%
	標準偏差	229.0	53.3		345.5	28.9	
	中央値	388.0	69.0	17.8%	793.0	74.0	9.3%
外用薬	平均値	152.2	27.1	17.8%	263.6	30.7	11.6%
	標準偏差	93.6	17.5		106.4	17.7	
	中央値	127.0	25.0	19.7%	292.0	30.0	10.3%
注射薬	平均値	255.3	44.2	17.3%	607.0	79.2	13.1%
	標準偏差	190.1	37.6		235.8	33.6	
	中央値	201.0	33.0	16.4%	672.0	90.0	13.4%
合計	平均値	825.0	147.5	17.9%	1,651.8	175.2	10.6%
	標準偏差	483.4	91.7		668.7	70.5	
	中央値	705.0	137.0	19.4%	1,713.0	186.0	10.9%

		DPC 対象病院(Ⅱ群)(n=14)			DPC 対象病院(Ⅲ群)(n=111)		
		①全医薬品	②うち後発医薬品	②／①	①全医薬品	②うち後発医薬品	②／①
内服薬	平均値	721.0	85.4	11.8%	585.4	91.4	15.6%
	標準偏差	132.5	35.1		212.5	50.7	
	中央値	703.5	91.0	12.9%	559.0	79.0	14.1%
外用薬	平均値	338.9	44.8	13.2%	222.3	35.9	16.2%
	標準偏差	145.0	15.4		72.1	17.1	
	中央値	326.0	42.5	13.0%	229.0	35.0	15.3%
注射薬	平均値	495.7	84.6	17.1%	443.5	81.1	18.3%
	標準偏差	142.2	33.3		159.0	37.4	
	中央値	475.5	89.0	18.7%	443.0	80.0	18.1%
合計	平均値	1,555.6	214.9	13.8%	1,251.2	208.5	16.7%
	標準偏差	271.6	56.8		407.7	84.7	
	中央値	1,573.5	215.5	13.7%	1,262.0	191.0	15.1%

		DPC 準備病院（n=17）			DPC 対応していない病院（n=266）		
		①全医薬品	②うち後発医薬品	②／①	①全医薬品	②うち後発医薬品	②／①
内服薬	平均値	495.6	76.1	15.3%	316.3	69.2	21.9%
	標準偏差	208.7	81.6		156.3	52.5	
	中央値	454.0	51.0	11.2%	321.5	59.5	18.5%
外用薬	平均値	184.4	31.9	17.3%	107.4	21.9	20.4%
	標準偏差	75.6	19.7		56.8	15.4	
	中央値	162.0	29.0	17.9%	97.5	20.0	20.5%
注射薬	平均値	330.9	48.2	14.6%	148.2	25.1	16.9%
	標準偏差	125.7	30.2		95.4	20.8	
	中央値	299.0	42.0	14.0%	132.0	21.0	15.9%
合計	平均値	1,010.9	156.2	15.5%	571.9	116.2	20.3%
	標準偏差	373.8	115.1		280.7	79.7	
	中央値	850.0	124.0	14.6%	549.5	104.5	19.0%

（注）・備蓄品目数の他、購入額と廃棄額のすべての項目に回答のあった 427 施設を集計対象とした。次表と同じ対象施設である。

・病院全体には、DPC 対応の状況が不明の 10 施設が含まれる

3）病院における医薬品の購入金額・廃棄額

図表 78　病院における医薬品購入額・廃棄額（病院種別、平成 26 年 9 月 1 か月間）

	病院全体(n=427)			DPC 対象病院(Ⅰ群)(n=9)		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
調剤用医薬品購入金額(円)						
①全医薬品	40,951,231	87,619,638	9,000,000	393,979,804	119,396,551	334,332,500
②後発医薬品	3,356,176	5,715,846	1,065,236	18,177,865	7,472,806	15,752,000
③後発医薬品割合(②／①)	8.2%		11.8%	4.6%		4.7%
調剤用医薬品廃棄額(円)						
①全医薬品	57,812	149,997	14,678	407,313	464,392	394,136
②後発医薬品	3,683	12,036	0	26,485	43,268	5,835
③後発医薬品割合(②／①)	6.4%		0.0%	6.5%		1.5%

	DPC 対象病院(Ⅱ群)(n=14)			DPC 対象病院(Ⅲ群)(n=111)		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
調剤用医薬品購入金額(円)						
①全医薬品	294,484,315	175,274,050	257,011,547	64,083,493	55,391,288	46,770,549
②後発医薬品	21,009,136	11,130,486	22,246,622	5,770,740	4,557,253	4,587,009
③後発医薬品割合(②／①)	7.1%		8.7%	9.0%		9.8%
調剤用医薬品廃棄額(円)						
①全医薬品	226,286	270,957	109,735	97,314	129,709	45,819
②後発医薬品	16,916	29,168	2,561	4,779	10,555	901
③後発医薬品割合(②／①)	7.5%		2.3%	4.9%		2.0%

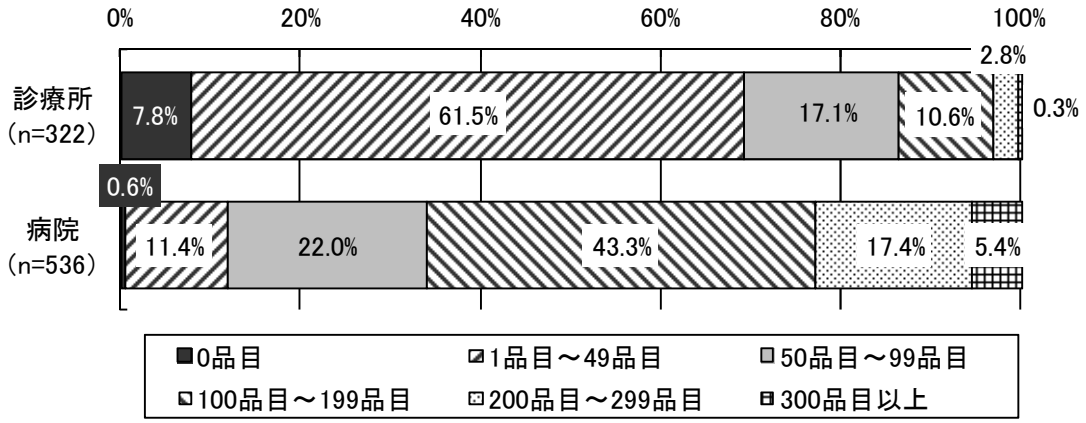
	DPC 準備病院(n=17)			DPC 対応していない病院(n=266)		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
調剤用医薬品購入金額(円)						
①全医薬品	18,800,240	11,802,816	14,985,000	7,849,834	8,572,134	5,000,000
②後発医薬品	1,681,018	1,319,632	1,482,458	1,065,095	1,966,102	582,116
③後発医薬品割合(②／①)	8.9%		9.9%	13.6%		11.6%
調剤用医薬品廃棄額(円)						
①全医薬品	24,663	22,560	22,630	23,492	106,788	5,133
②後発医薬品	1,306	3,084	0	1,883	7,341	0
③後発医薬品割合(②／①)	5.3%		0.0%	8.0%		0.0%

（注）・購入額と廃棄額の他、備蓄医薬品目数のすべての項目に回答のあった 427 施設を集計対象とした。前表と同じ対象施設である。

・病院全体には、DPC 対応の状況が不明の 10 施設が含まれる

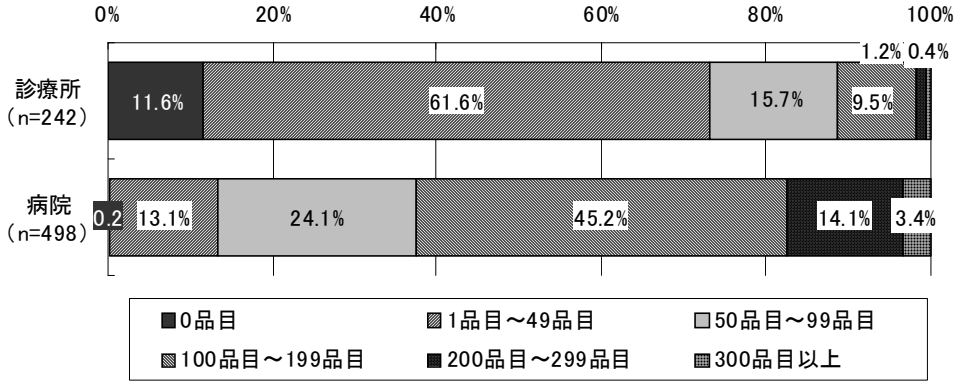
4）診療所・病院における後発医薬品の備蓄品目数

図表 79　後発医薬品の備蓄品目数



（注）後発医薬品の備蓄品目数について回答のあった施設を集計対象とした。

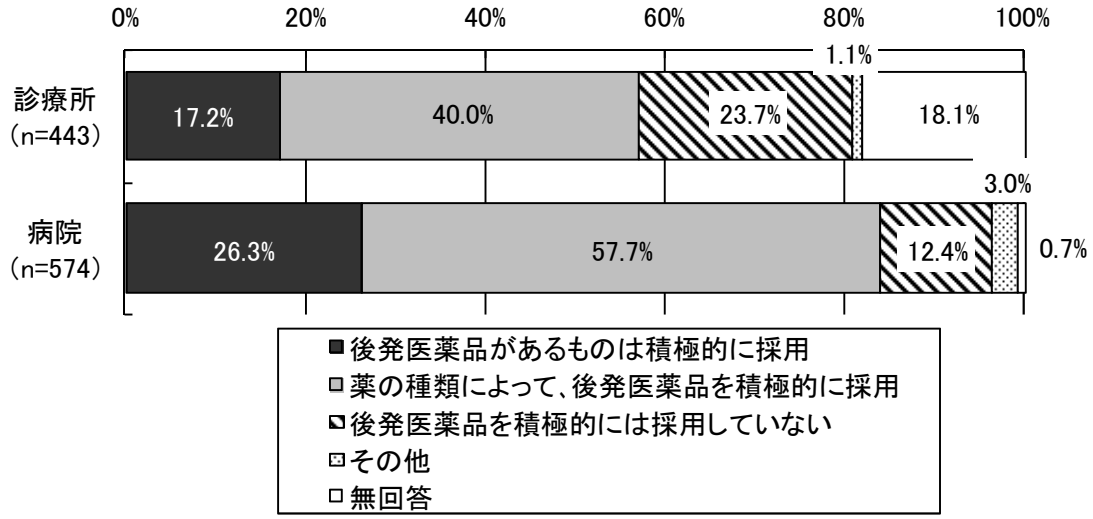
（前回調査）



（注）後発医薬品の備蓄品目数について回答のあった施設を集計対象とした。

②後発医薬品の採用状況

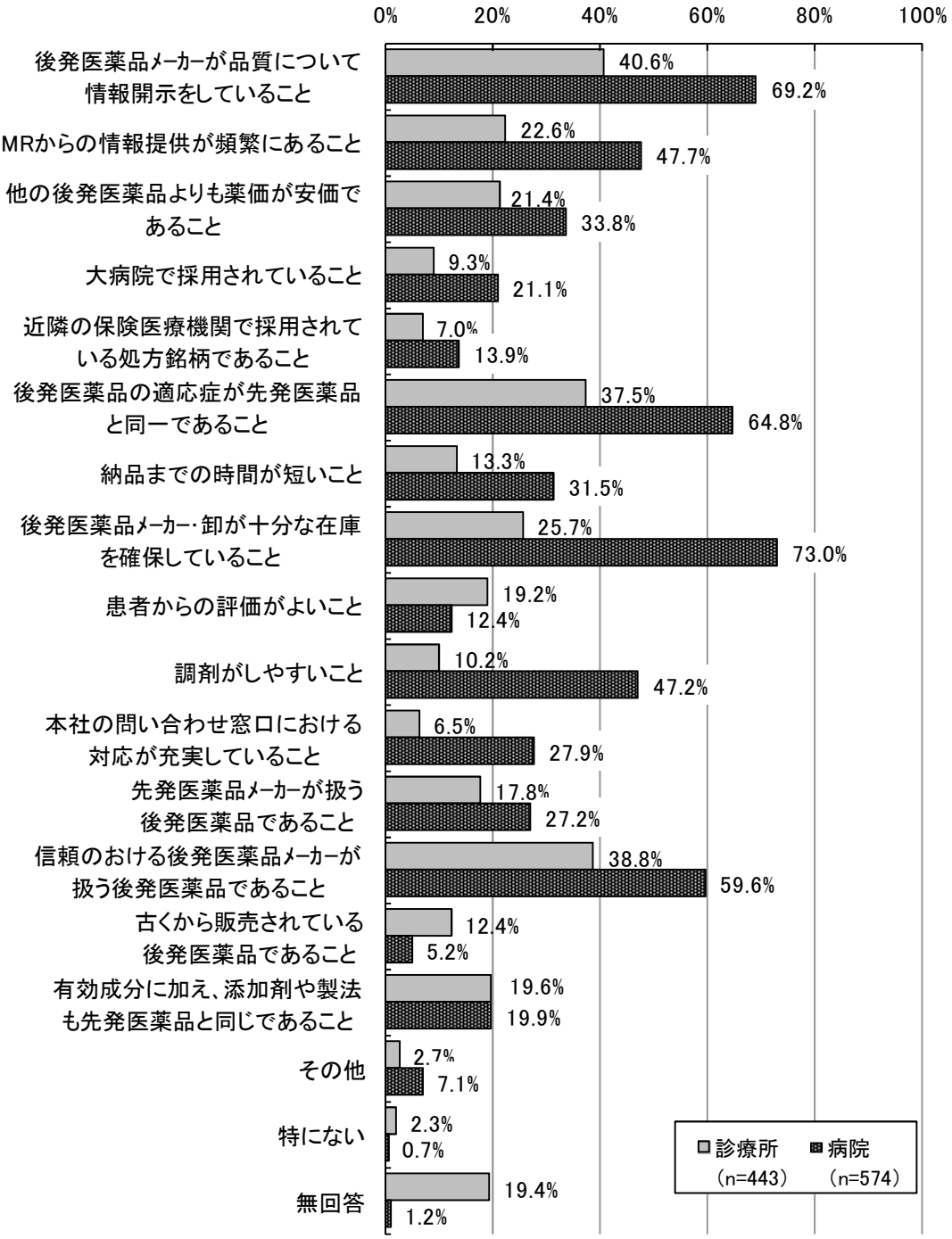
図表 80　後発医薬品の採用状況



（注）診療所は、有床診療所及び院内処方のある施設。

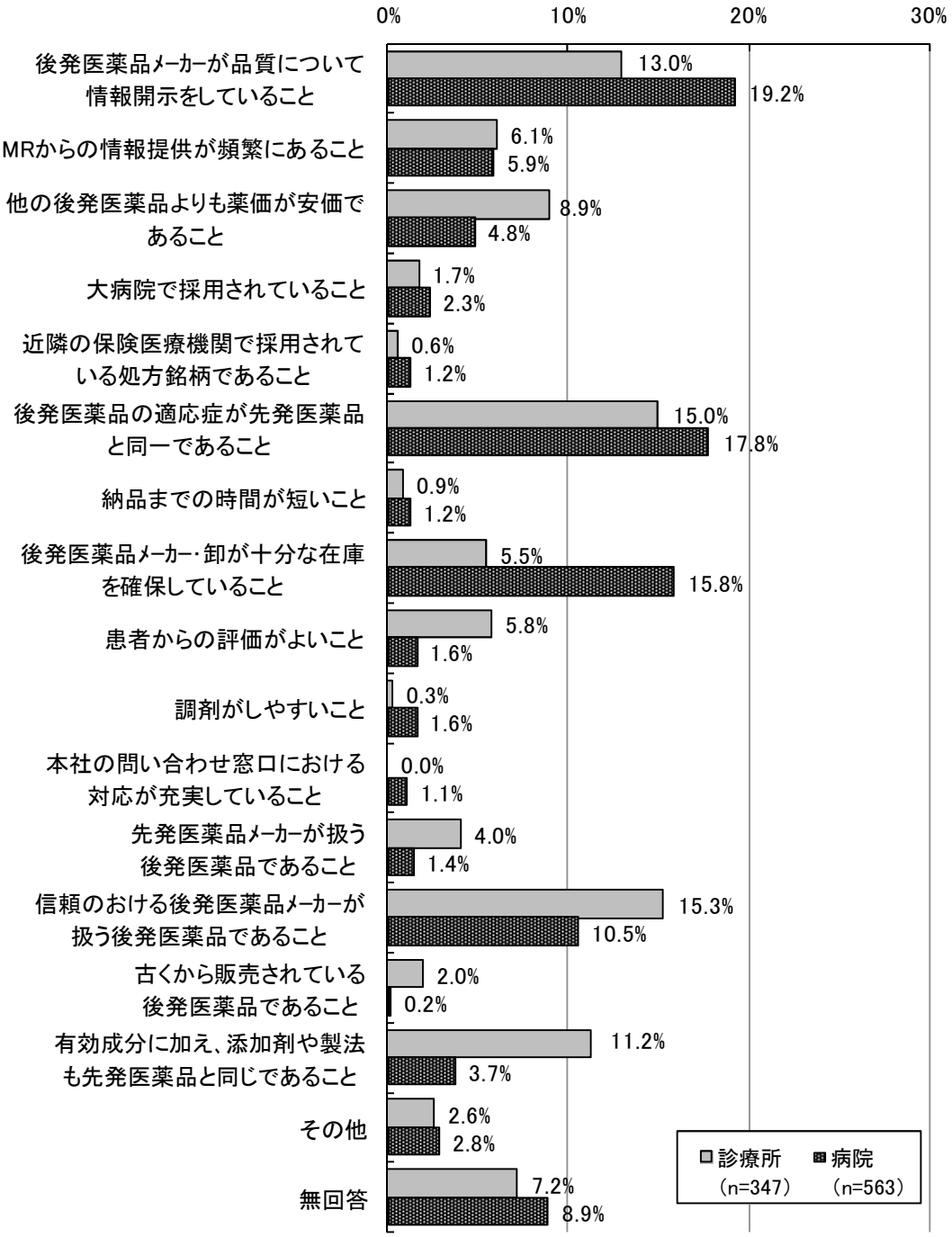
③後発医薬品を採用する際に重視すること

図表 81　後発医薬品を採用する際に重視すること（複数回答）



（注）診療所は、有床診療所及び院内処方のある施設。

図表 82　診療所・病院において、後発医薬品を採用する際に最も重視すること（単数回答）



（注）診療所は、有床診療所及び院内処方のある施設。

④病院における後発医薬品使用割合

図表 83　病院における後発医薬品使用割合（数量ベース、平成 26 年）

（単位：%）

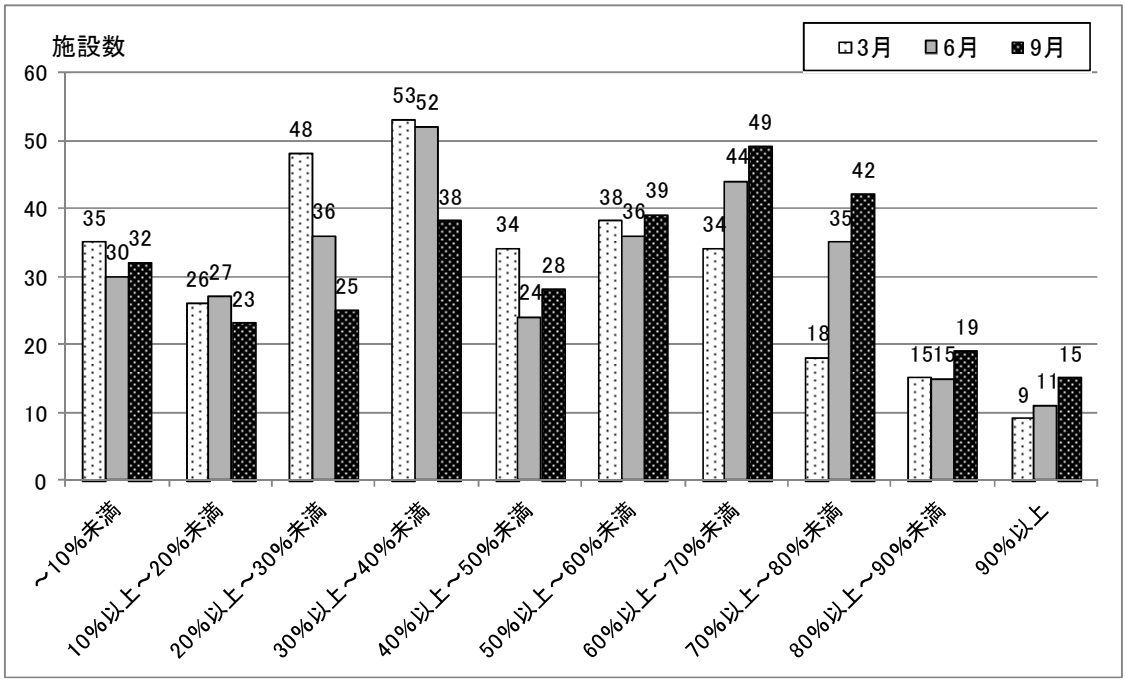
		1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
病院全体（n=310）	平均値	40.1	40.9	41.3	42.5	43.8	45.3	46.3	47.5	49.0
	標準偏差	23.9	24.3	24.4	24.7	24.8	25.3	25.8	26.0	26.1
	中央値	36.0	36.5	38.0	40.0	42.0	43.5	46.0	48.5	53.5
DPC 対象病院（Ⅰ群）(n=14)	平均値	29.4	32.2	33.6	34.9	36.2	38.4	41.4	45.2	47.9
	標準偏差	7.9	9.8	12.9	13.1	13.0	14.5	15.7	16.0	15.4
	中央値	27.5	31.5	31.5	32.0	34.0	36.0	36.5	43.0	48.5
DPC 対象病院（Ⅱ群）(n=11)	平均値	44.5	43.6	44.1	47.2	50.8	55.9	58.5	62.0	64.1
	標準偏差	12.8	13.9	14.7	13.0	14.7	12.9	11.0	8.8	6.2
	中央値	51.0	50.0	49.0	51.0	56.0	57.0	62.0	64.0	65.0
DPC 対象病院（Ⅲ群）(n=97)	平均値	43.2	44.2	45.6	47.4	51.4	54.6	56.7	59.2	61.0
	標準偏差	18.9	19.2	19.9	19.7	19.8	20.8	20.7	20.3	19.9
	中央値	41.0	45.0	46.0	50.0	56.0	60.0	61.0	64.0	65.0
DPC 準備病院（n=6）	平均値	22.0	22.2	22.3	23.3	22.5	22.3	22.3	27.7	29.3
	標準偏差	9.4	10.2	11.3	12.1	10.7	10.0	10.6	14.9	21.5
	中央値	22.5	23.0	21.5	24.0	23.5	24.5	22.0	29.5	25.0
DPC 対応していない病院（n=175）	平均値	39.3	40.1	39.9	40.5	40.2	40.5	40.6	40.6	41.8
	標準偏差	27.3	27.7	27.4	27.9	27.5	27.3	27.7	27.7	27.8
	中央値	35.0	36.0	37.0	36.0	37.0	37.0	38.0	38.0	39.0

（注）・1 か月間に調剤した後発医薬品について薬価基準上の規格単位ごとに数えた数量÷1 か月間に調剤した後発医薬品ありの先発医薬品と後発医薬品について薬価基準上の規格単位ごとに数えた数量の割合。

・各 1 月～9 月までの後発医薬品使用割合すべてについて記入のあった施設を集計対象とした。

図表 84　病院における後発医薬品使用割合別施設数の推移

（数量ベース、平成 26 年、n=310）



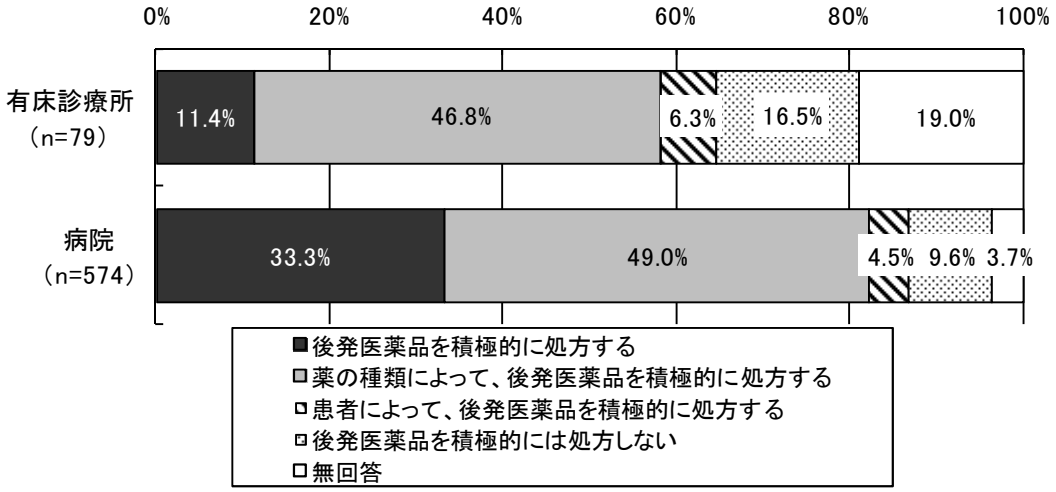
（注）・1 か月間に調剤した後発医薬品について薬価基準上の規格単位ごとに数えた数量÷1 か月間に調剤した後発医薬品ありの先発医薬品と後発医薬品について薬価基準上の規格単位ごとに数えた数量の割合。

・各 1 月～9 月までの後発医薬品使用割合すべてについて記入のあった施設を集計対象とした。

（５）入院患者に対する後発医薬品の使用状況等

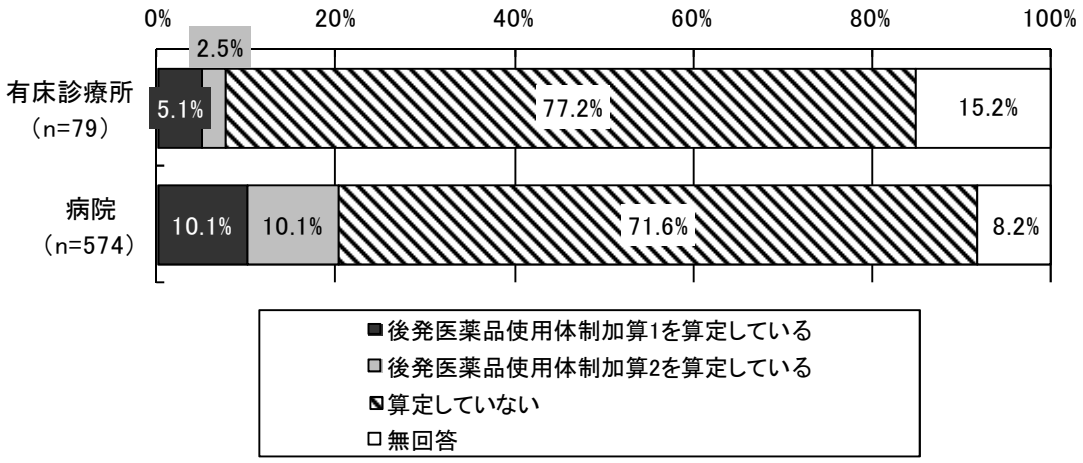
①入院患者に対する後発医薬品の使用状況

図表 85　入院患者に対する後発医薬品の使用状況

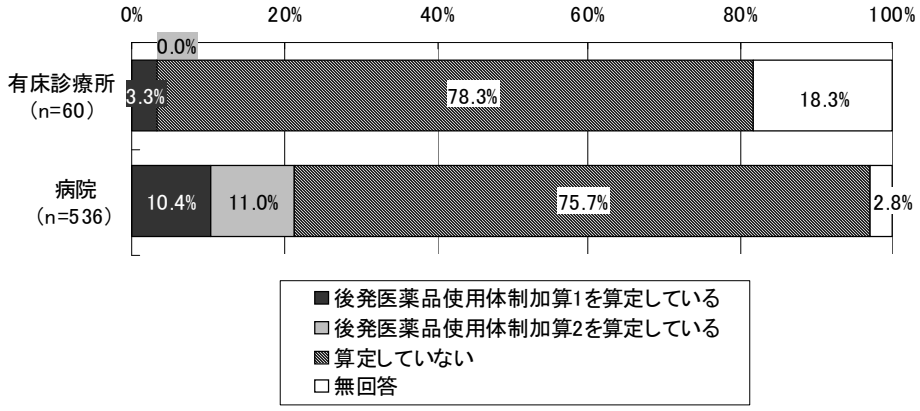


②後発医薬品使用体制加算の状況

図表 86　後発医薬品使用体制加算の状況

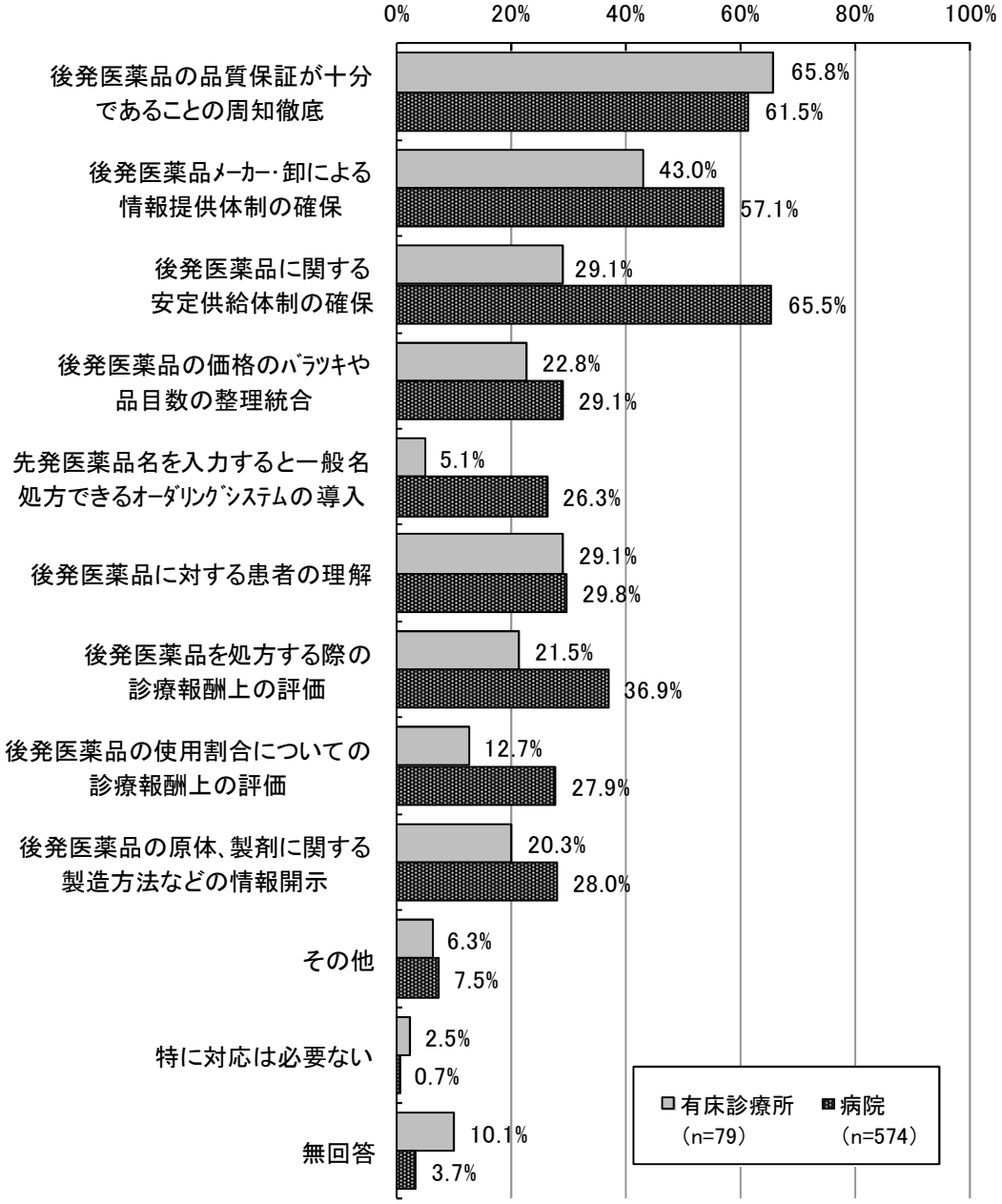


（前回調査）

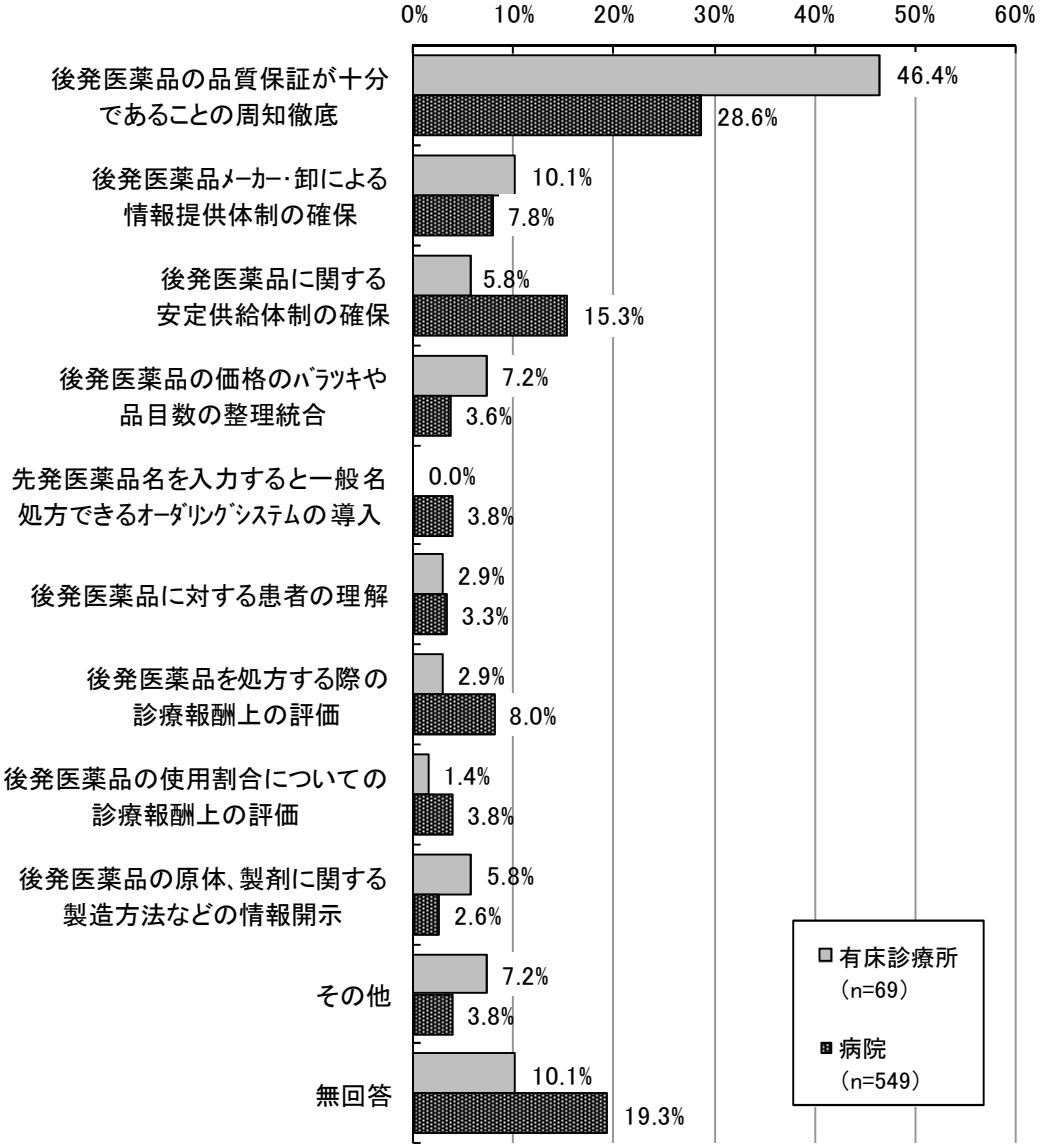


③今後どのような対応が進めば施設として入院患者に後発医薬品の使用を進めてもよいか

図表 87　今後どのような対応が進めば施設として入院患者等に後発医薬品の使用を進めてもよいか（複数回答）



図表 88　今後どのような対応が進めば施設として入院患者等に後発医薬品の使用を進めてもよいと思うか（最も重要なもの、単数回答）



（６）外来患者に対する後発医薬品の使用状況等（施設ベース）

①処方せん料・一般名処方加算の算定回数（平成 26 年 9 月 1 か月間）

図表 89　処方せん料・一般名処方加算の算定回数（平成 26 年 9 月 1 か月間）

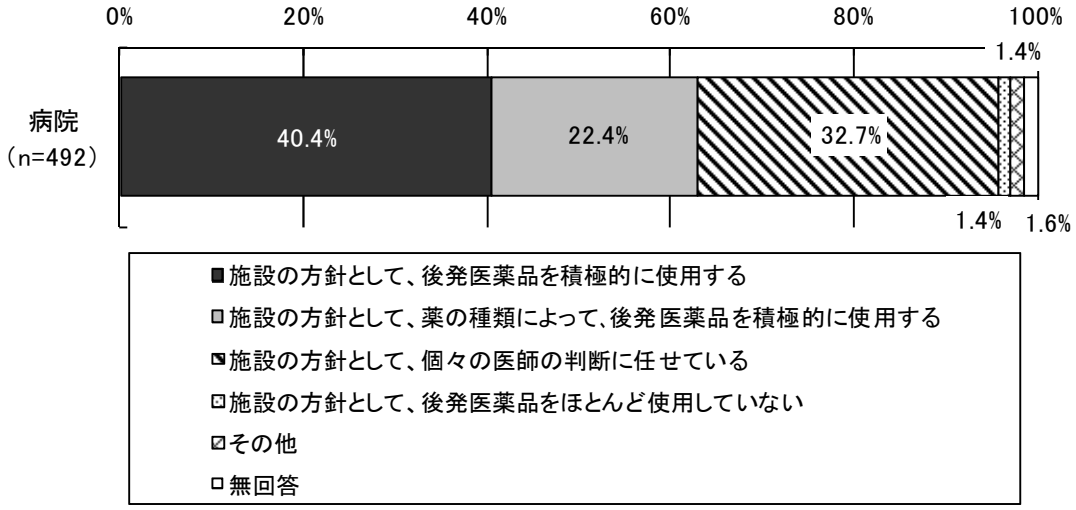
（単位：回）

		施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
診療所	処方せん料	652	736.0	654.8	618.5
	一般名処方加算	652	365.7	498.1	162.5
病院	処方せん料	506	2,985.7	4,070.6	1,593.5
	一般名処方加算	497	397.9	1,034.0	0.0

②病院における、外来患者に対する後発医薬品使用に係る施設としての方針等

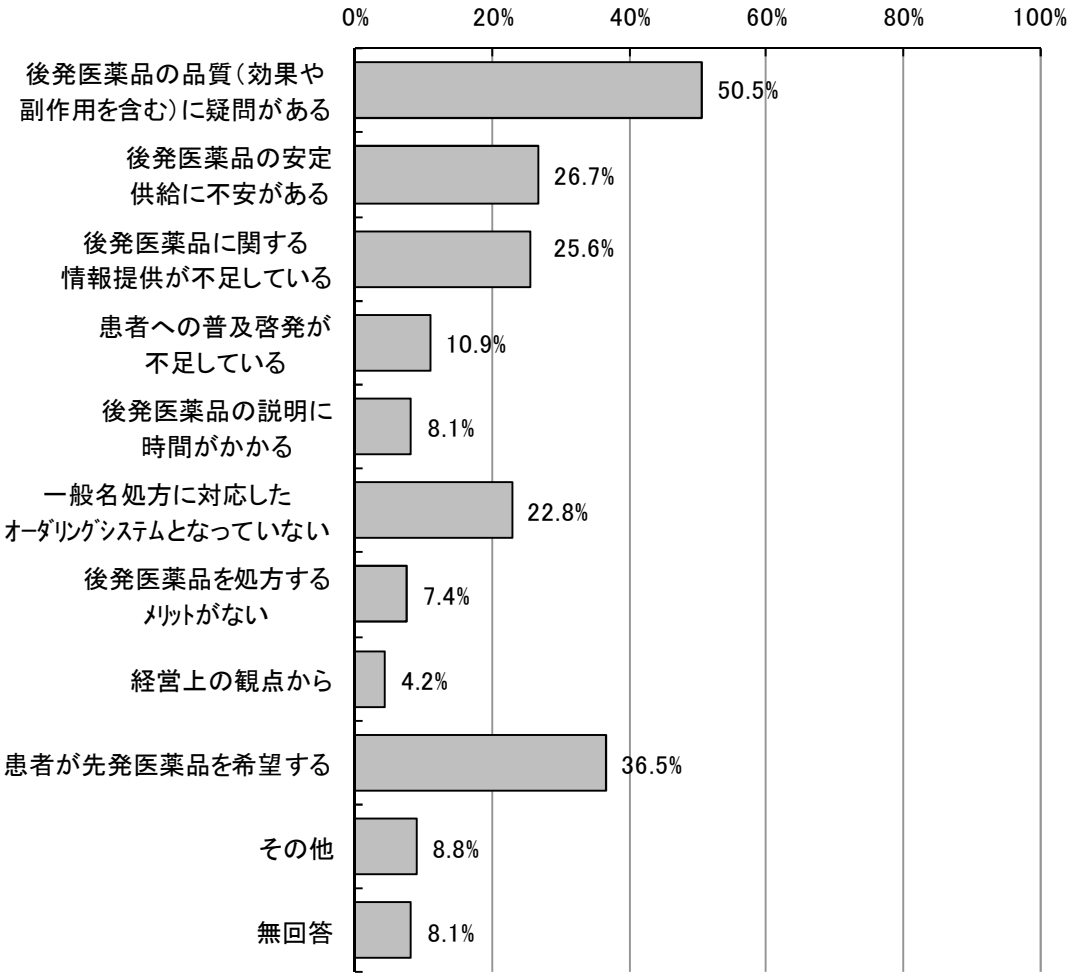
1）院外処方せんを発行している場合

図表 90　外来患者に対する後発医薬品使用に係る施設としての方針
（院外処方せんを発行している病院）



（注）・院外処方せんを発行している施設を対象とした。
・「後発医薬品を積極的に使用する」には、後発医薬品の銘柄処方のほか、一般名処方や院外処方せんの後発医薬品への「変更不可」欄にチェック等を行わない場合を含む。

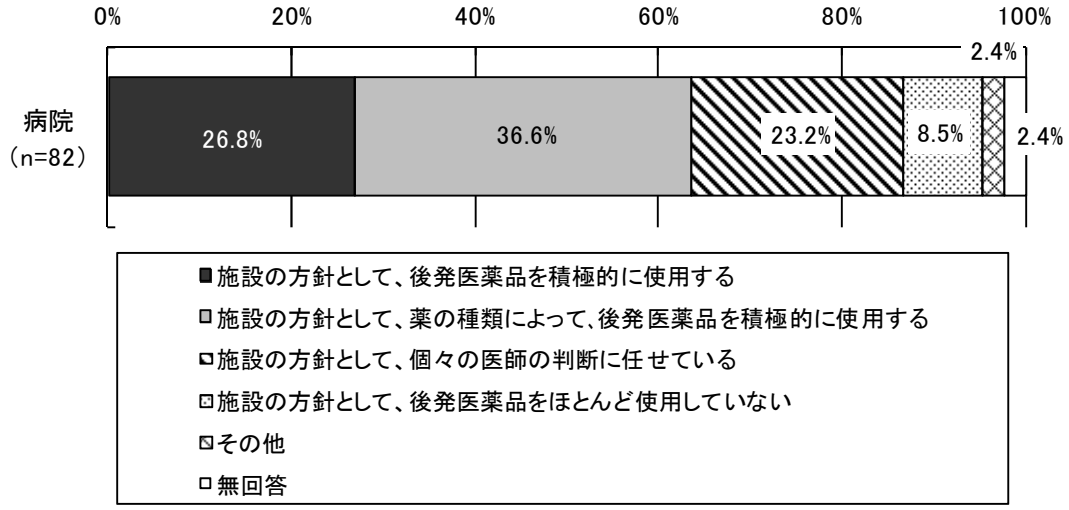
図表 91　外来患者に院外処方する場合に、施設として、後発医薬品を積極的には使用しない理由（「後発医薬品を積極的に使用する」以外の選択した病院、複数回答、n=285）



（注）院外処方せんを発行している施設のうち、「施設の方針として、後発医薬品を積極的に使用する」以外を選択した施設を対象としている。

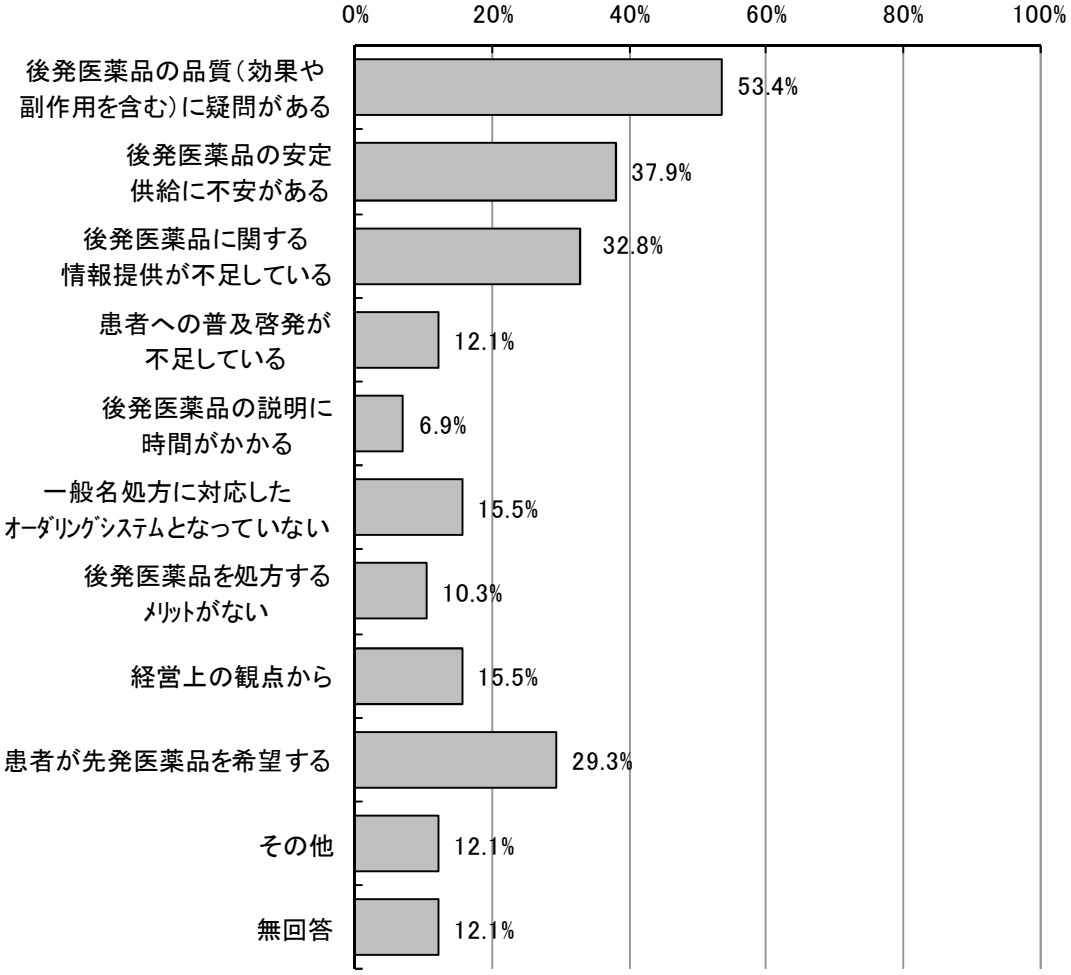
2）院外処方せんを発行していない場合

図表 92　外来患者に対する後発医薬品使用に係る施設としての方針
（院外処方せんを発行していない病院）



（注）・ここでは、外来診療時における院内投薬の状況を尋ねた。
・院外処方せんを発行していない施設を対象とした。

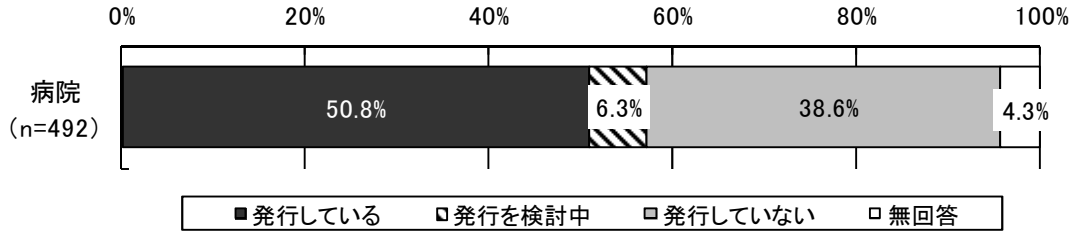
図表 93　外来患者に院内投薬の場合に、施設として、後発医薬品を積極的には使用しない理由（「後発医薬品を積極的に使用する」以外の選択した病院、複数回答、n=58）



③病院における一般名処方による処方せん発行への対応状況等

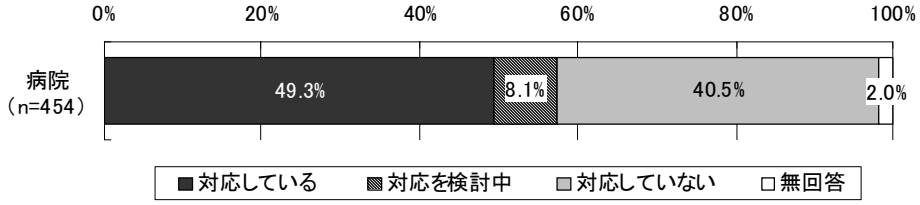
1）病院における一般名処方による処方せん発行への対応状況

図表 94　病院における一般名処方による処方せん発行への対応状況
（平成 26 年 4 月以降）



（注）院外処方せんを発行している施設を対象としている。

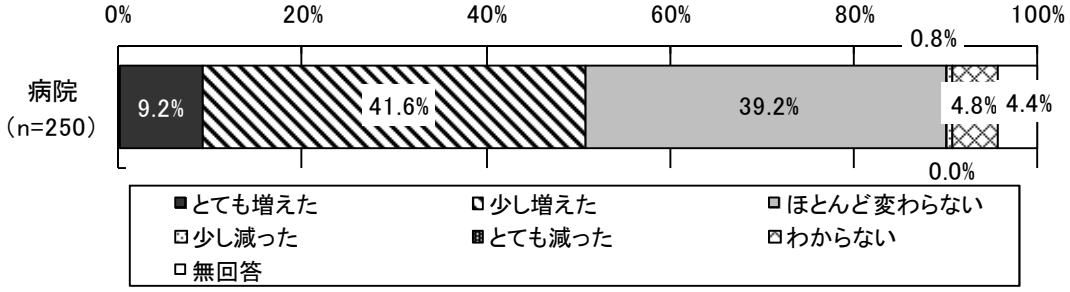
（前回調査）



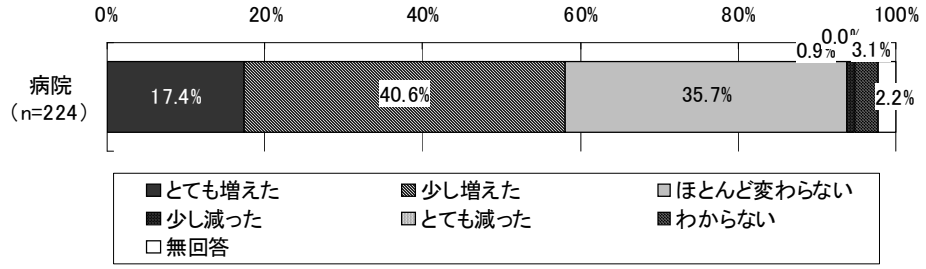
（注）・平成 25 年 4 月以降の状況
・院外処方を実施している施設を対象として集計した。

2）病院における一般名処方による処方せん発行による事務的な負担の変化

図表 95　一般名処方による処方せんの発行による事務的な負担の変化
（一般名処方による処方せん発行に対応している病院）



（前回調査）

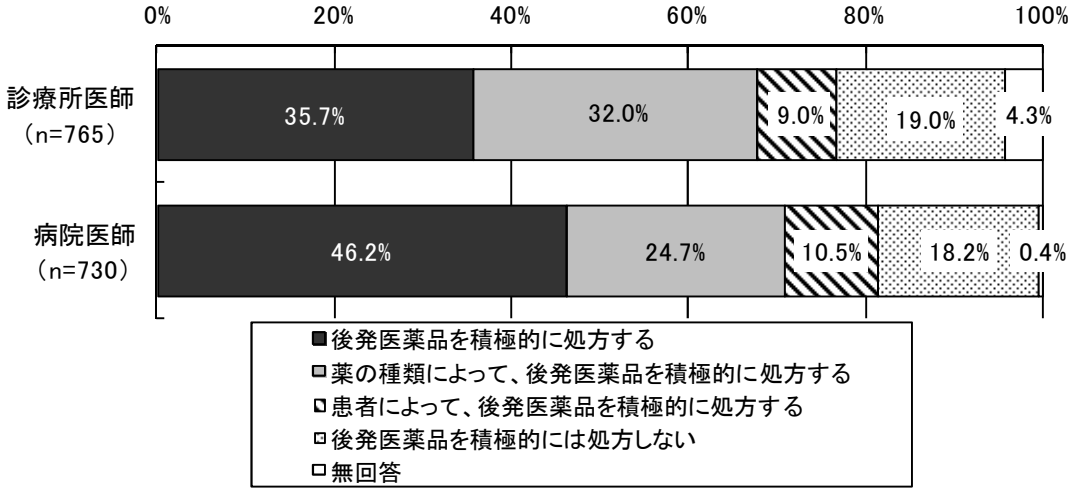


（７）外来診療における院外処方せん発行時や後発医薬品の処方に関する医師の考え等（医師ベース）

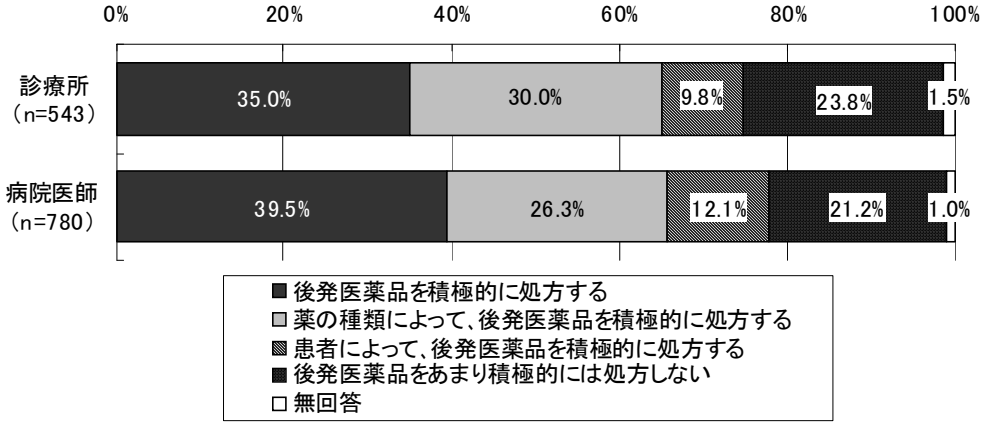
①外来診療における後発医薬品の処方に関する考え

1）院外処方せんを発行している場合

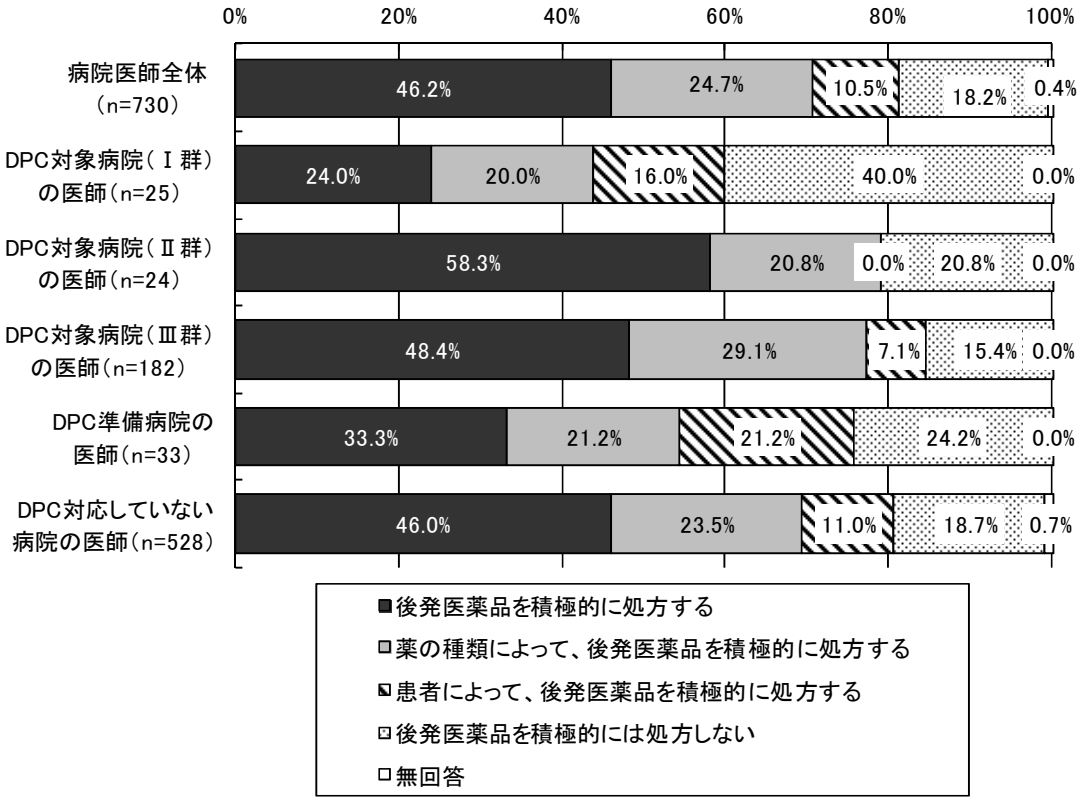
図表 96　外来診療における後発医薬品の処方に関する考え
（院外処方せんを発行している施設の医師、医師ベース）



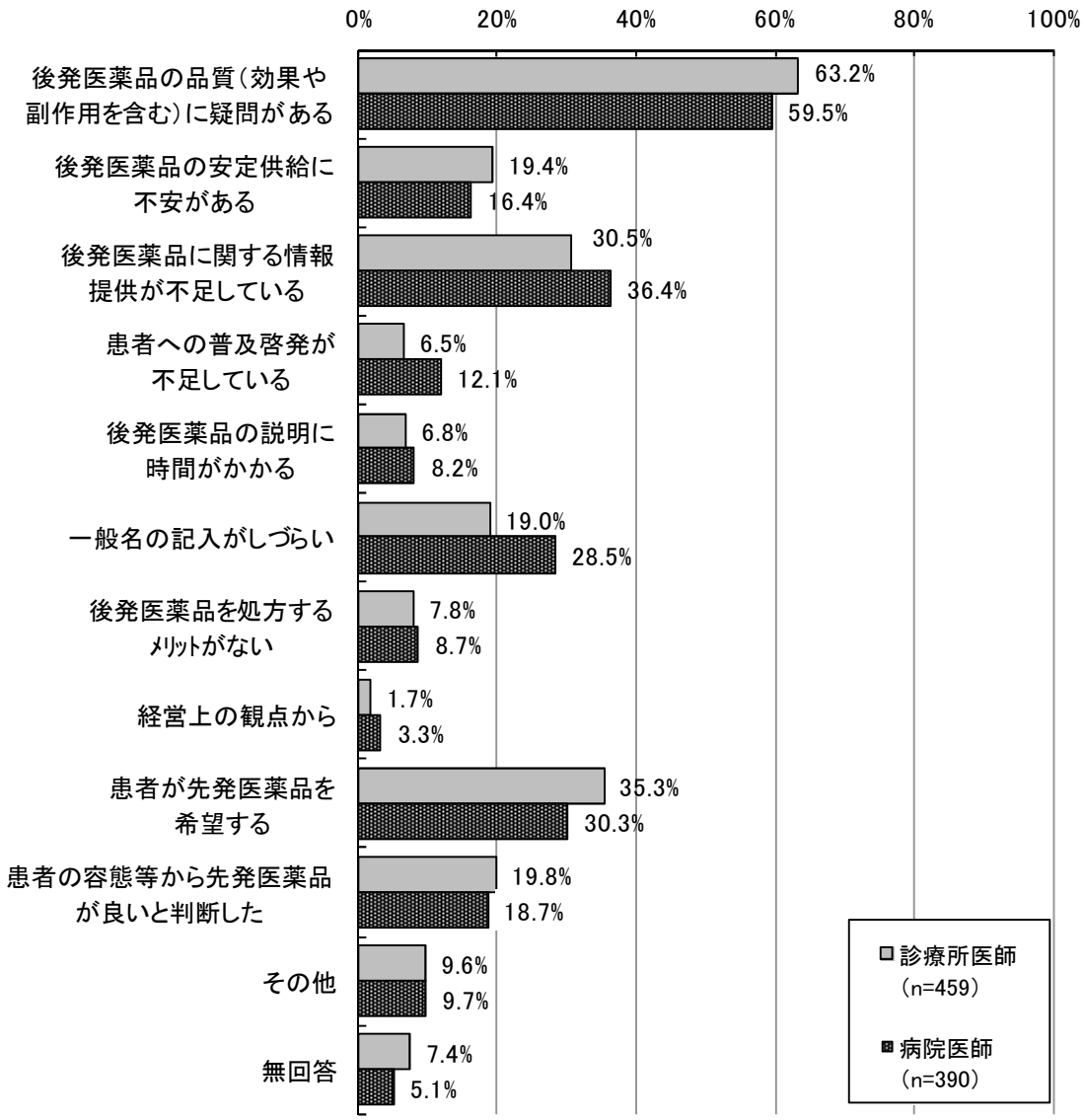
（前回調査）



図表 97　外来診療における後発医薬品の処方に関する考え
（院外処方せんを発行している病院の医師、DPC 対応状況別、医師ベース）

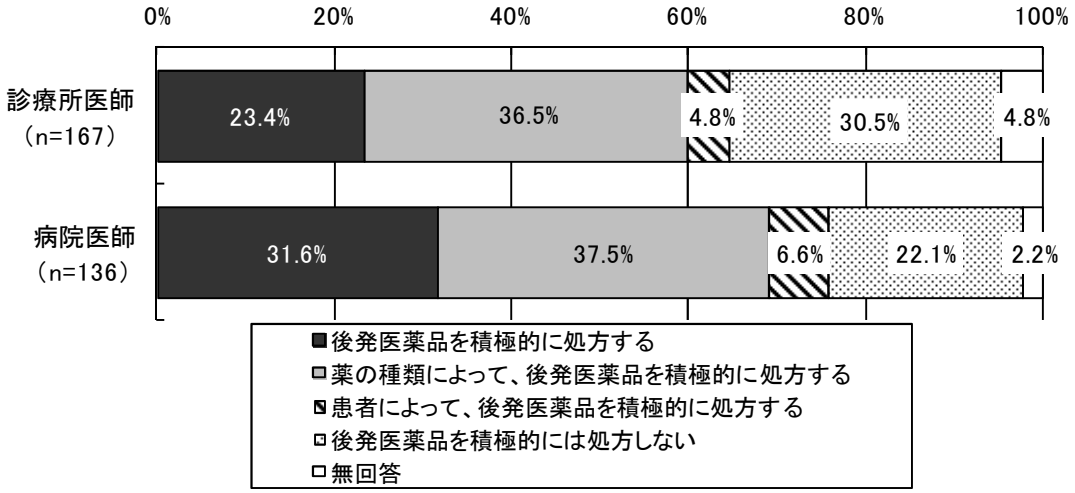


図表 98　外来診療において後発医薬品を基本的には処方しない理由
（院外処方せんを発行している施設、「後発医薬品を積極的に処方する」以外を選択した医師、複数回答、医師ベース）

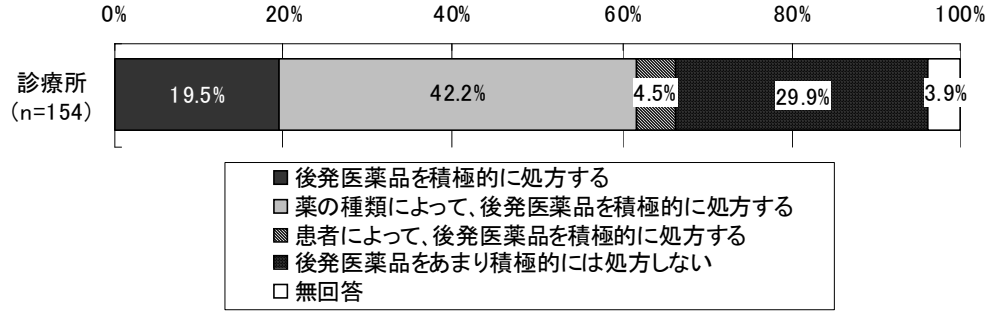


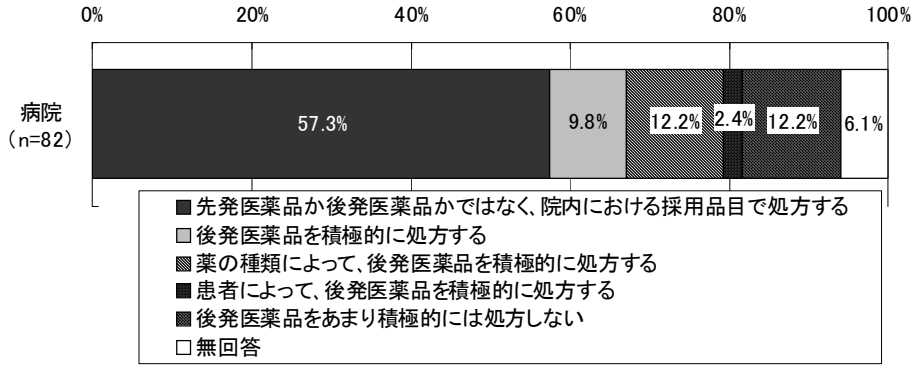
2）院外処方せんを発行していない場合

図表 99　外来診療における後発医薬品の処方に関する考え
（院外処方せんを発行していない施設の医師、医師ベース）

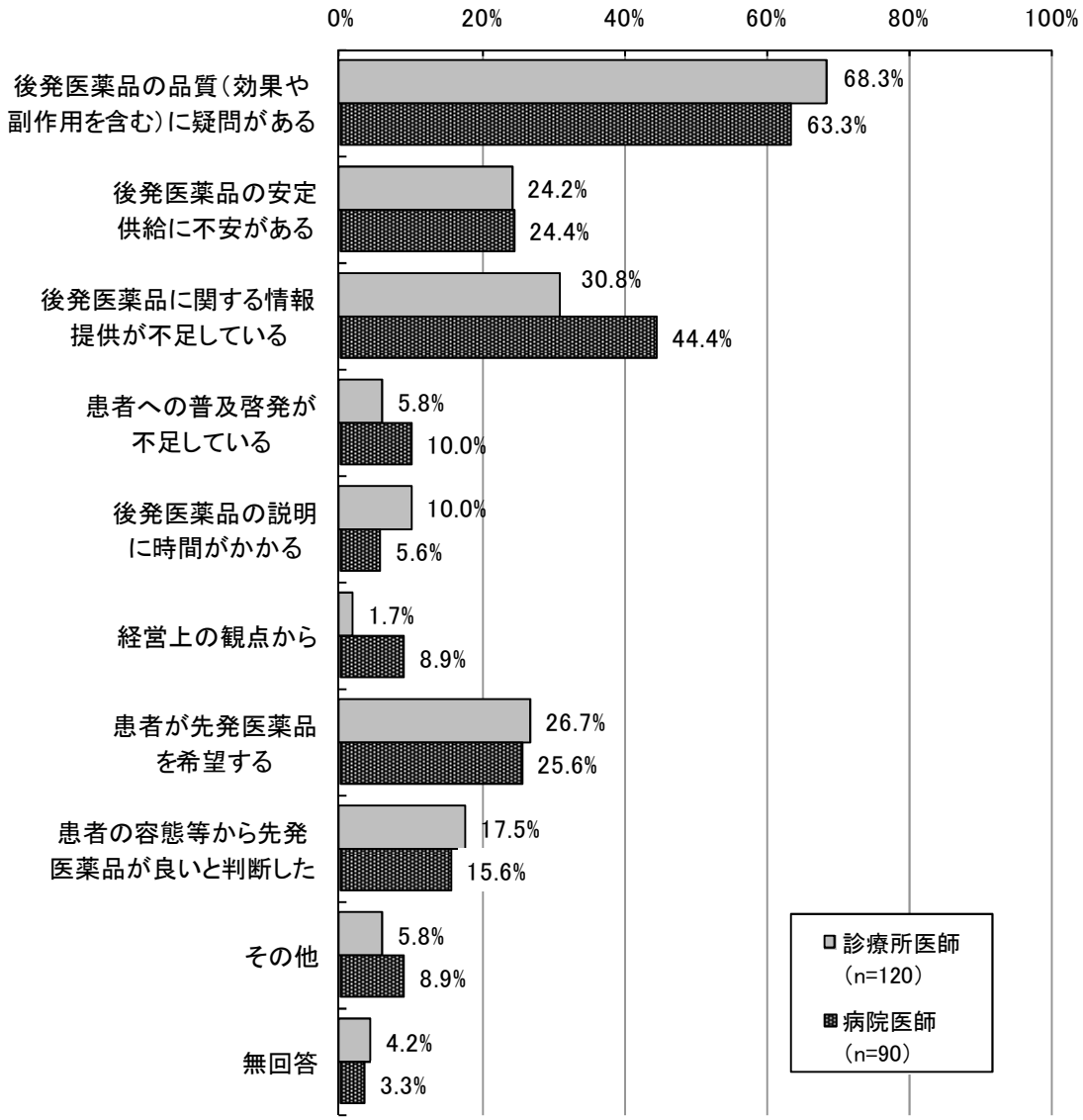


（前回調査）



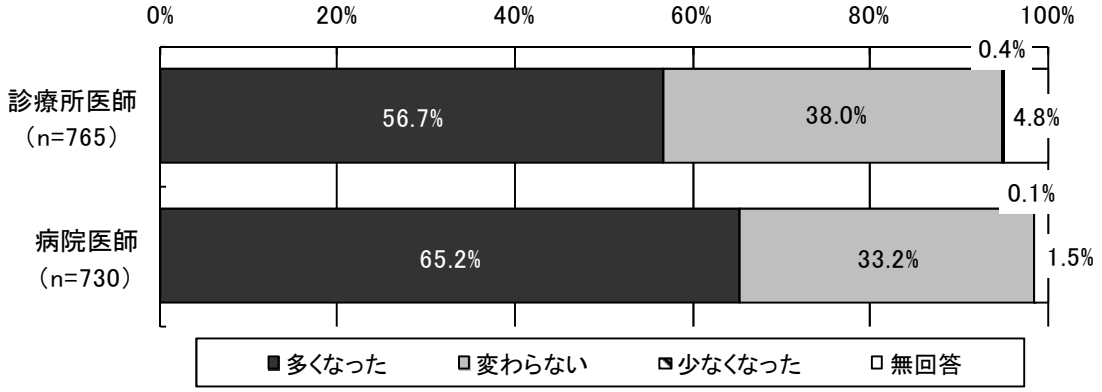


図表 100　外来診療において後発医薬品を基本的には処方しない理由
（院外処方せんを発行していない施設、「後発医薬品を積極的に処方する」以外を選択した医師、複数回答、医師ベース）

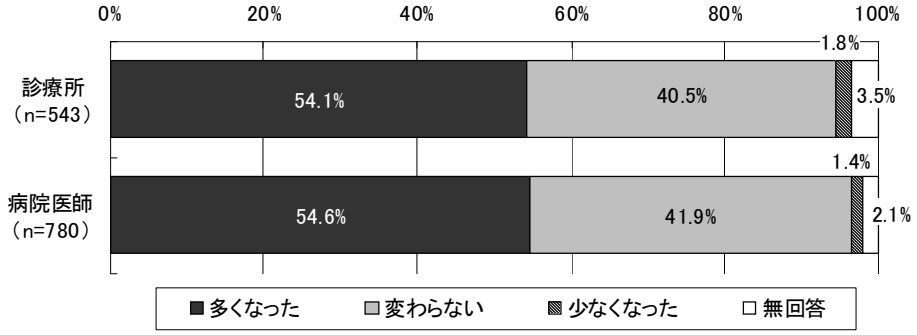


②外来診療における後発医薬品の処方数の変化（１年前と比較して）

図表 101　外来診療における後発医薬品の処方数の変化（１年前と比較して）（医師ベース）

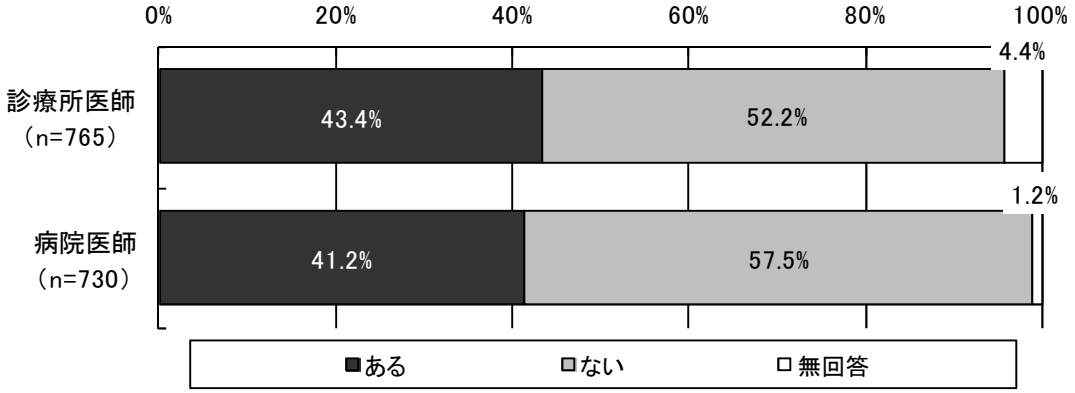


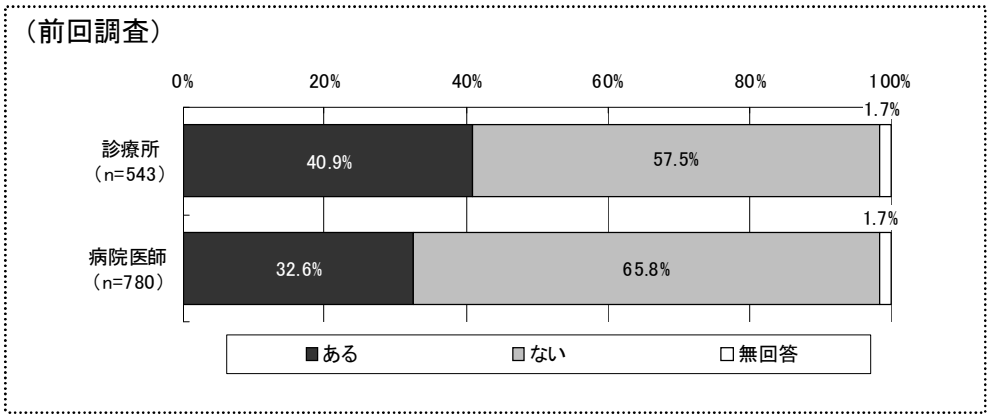
（前回調査）



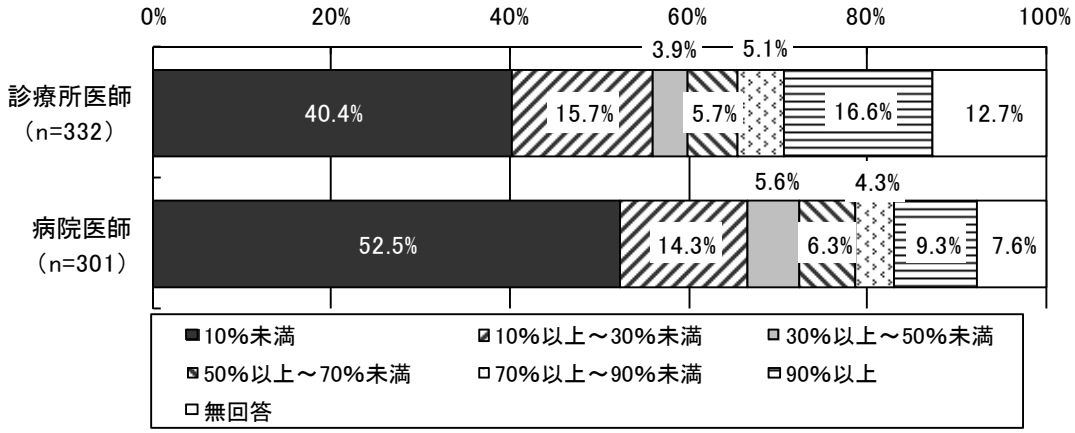
③後発医薬品への「変更不可」欄にチェックした処方せんの発行経験等（平成 26 年 4 月以降）

図表 102　後発医薬品への「変更不可」欄にチェックした処方せんの発行経験の有無
（平成 26 年 4 月以降、医師ベース）

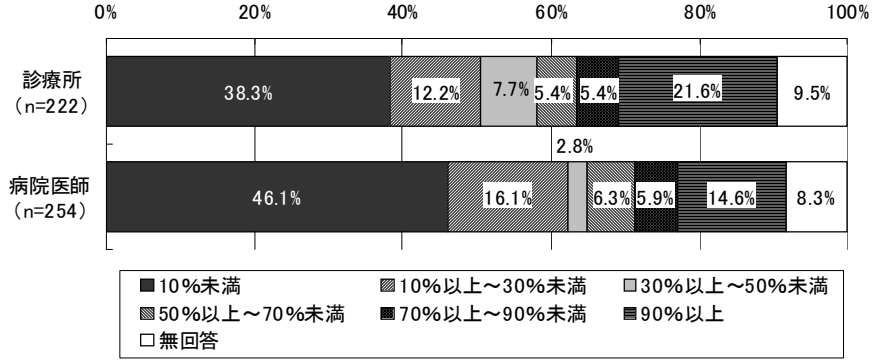




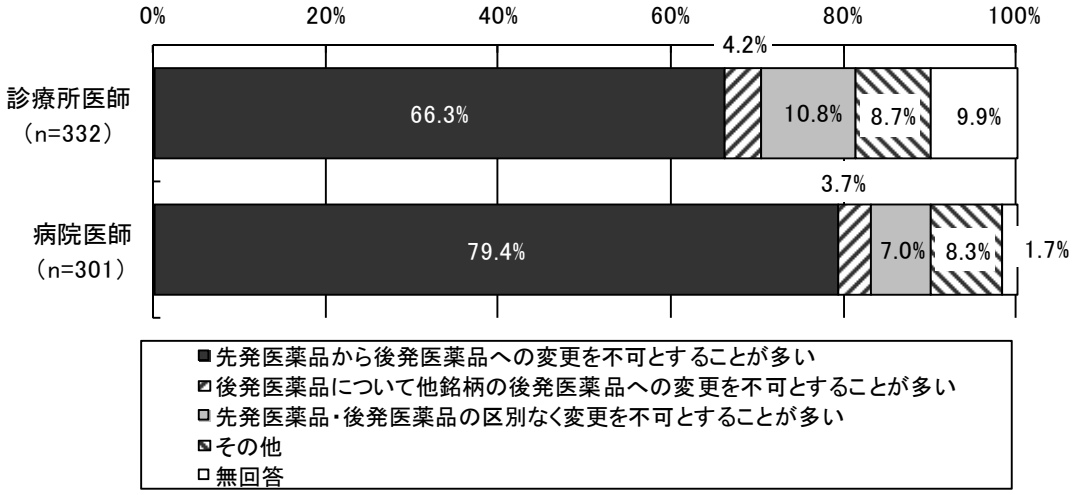
図表 103　院外処方せん枚数全体に占める、「変更不可」欄にチェックした処方せんの割合
（平成 26 年 4 月以降「変更不可」欄にチェックした経験のある医師、医師ベース）



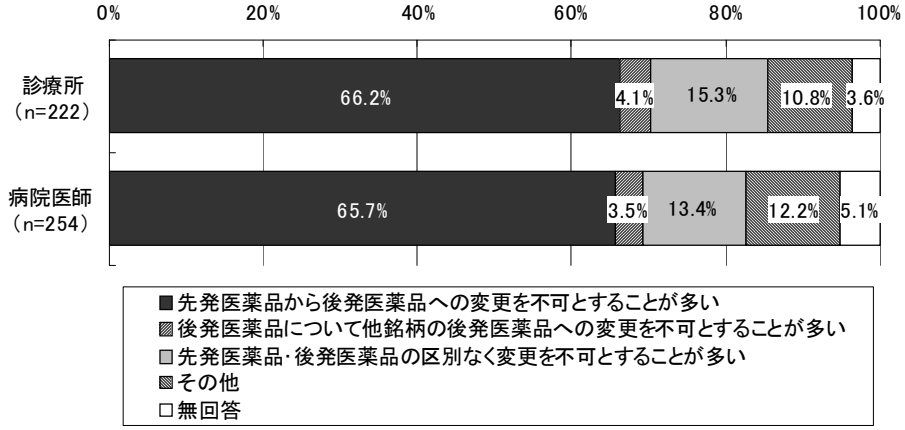
（前回調査）



図表 104　一部の医薬品について「変更不可」とするケースとして最も多いもの
（平成 26 年 4 月以降「変更不可」欄にチェックした経験のある医師、医師ベース）

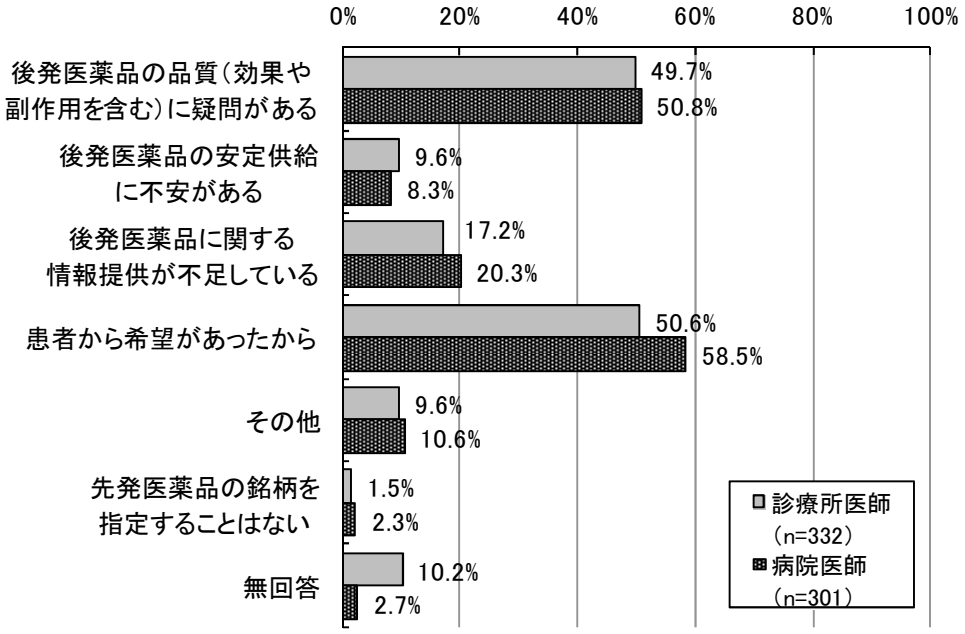


（前回調査）



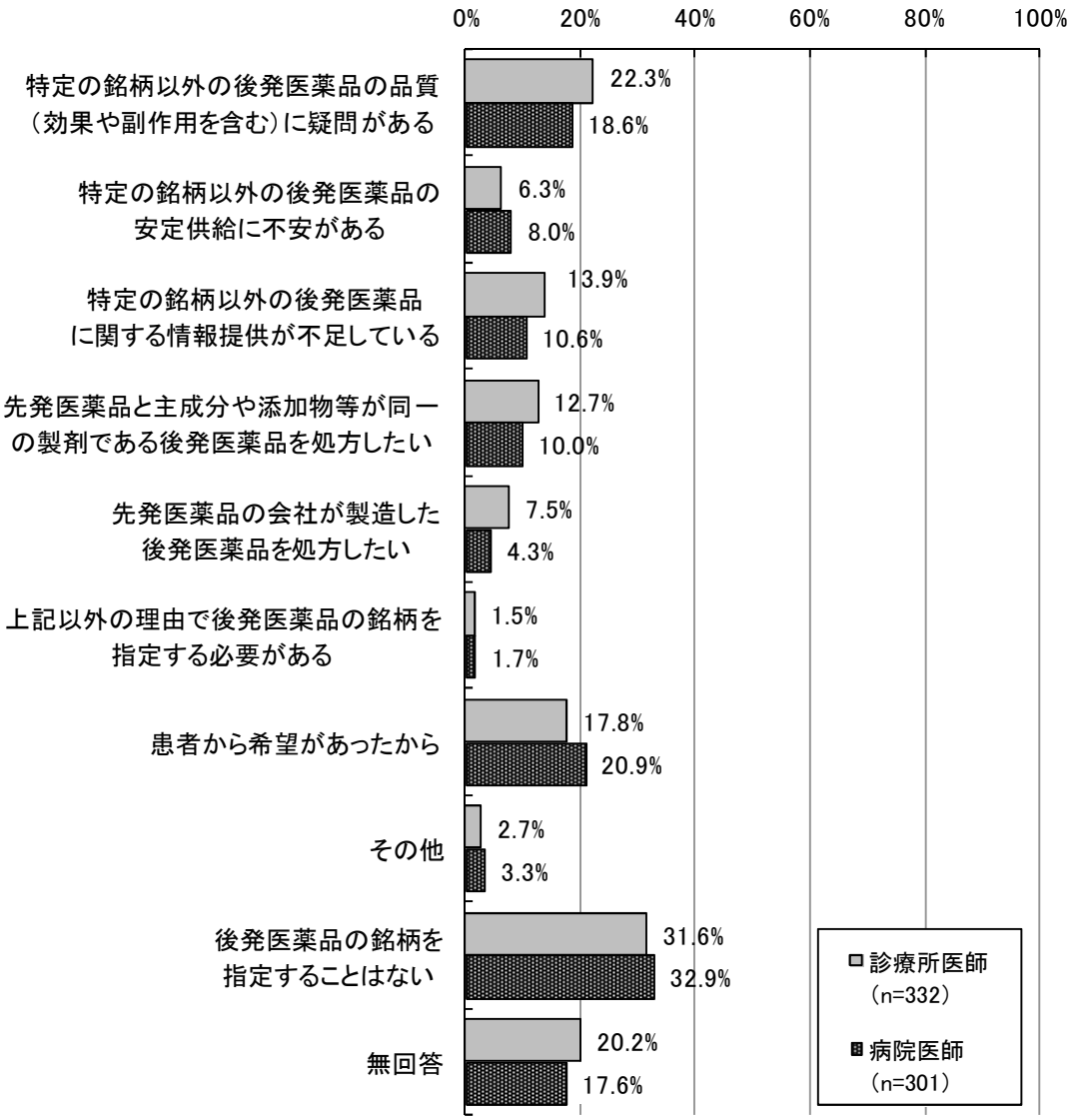
図表 105　先発医薬品の銘柄を指定する場合の理由

（平成 26 年 4 月以降「変更不可」欄にチェックした経験のある医師、医師ベース、複数回答）



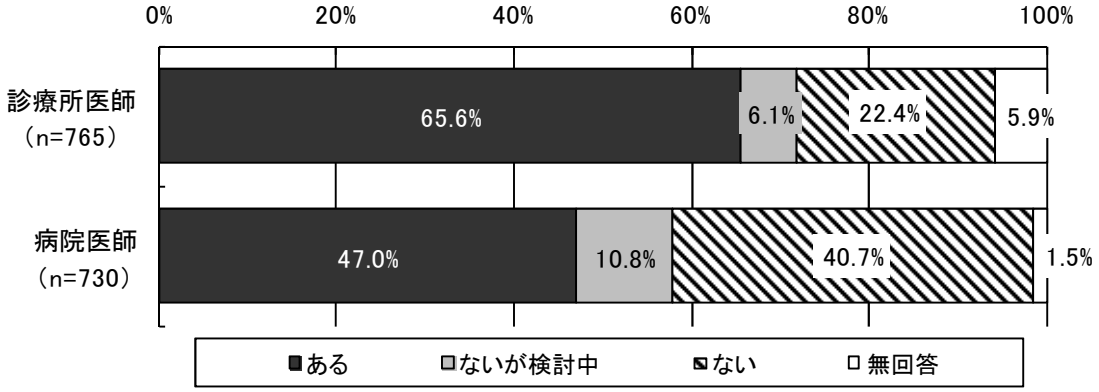
図表 106　後発医薬品の銘柄を指定する場合の理由

（平成 26 年 4 月以降「変更不可」欄にチェックした経験のある医師、医師ベース、複数回答）

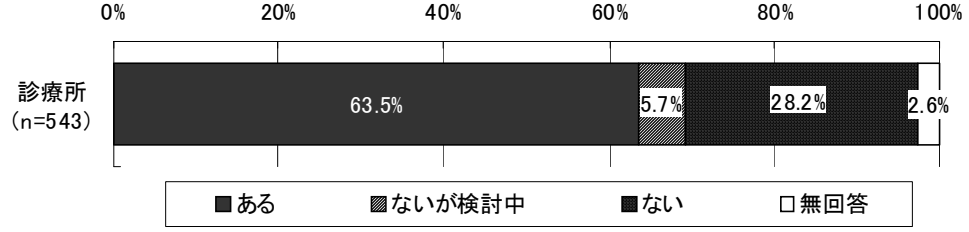


④医師における一般名処方による処方せん発行の状況等

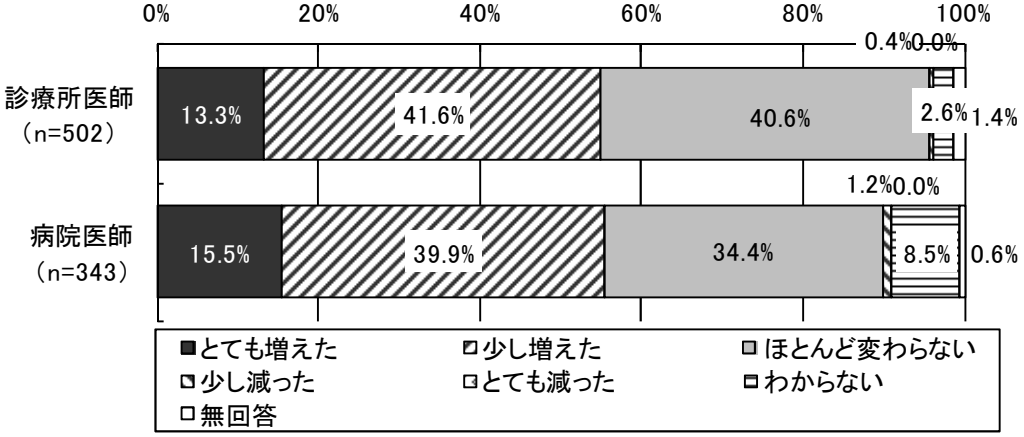
図表 107　一般名処方による処方せん発行の有無（平成 26 年 4 月以降、医師ベース）



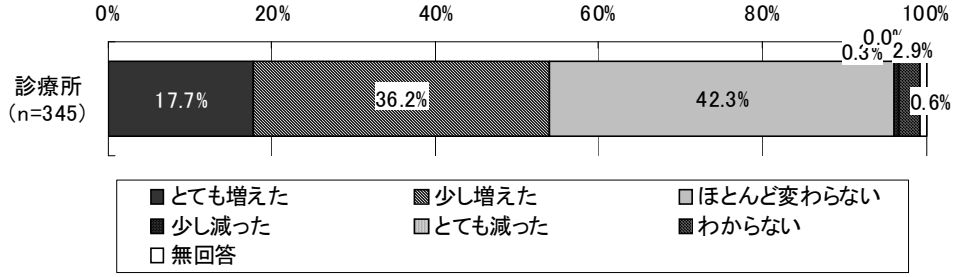
（前回調査）



図表 108　一般名処方による処方せんの発行による事務的な負担の変化
（一般名処方による処方せんを発行している医師、医師ベース）



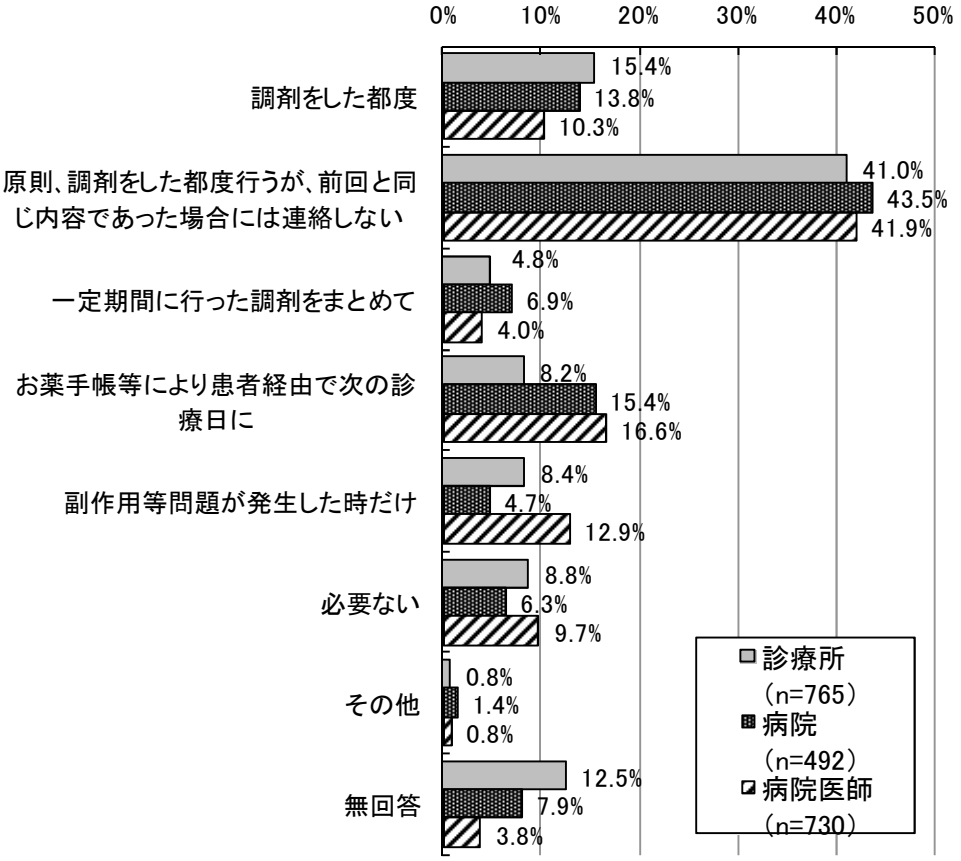
（前回調査）


0%
20%
40%
60%
80%
100%
診療所
（n=345）
17.7%
36.2%
42.3%
0.3%
0.0%
2.9%
0.6%
とても増えた
少し増えた
ほとんど変わらない
少し減った
とても減った
わからない
無回答

（８）保険薬局・患者との関係

①調剤時の保険薬局からの情報提供に関する意向

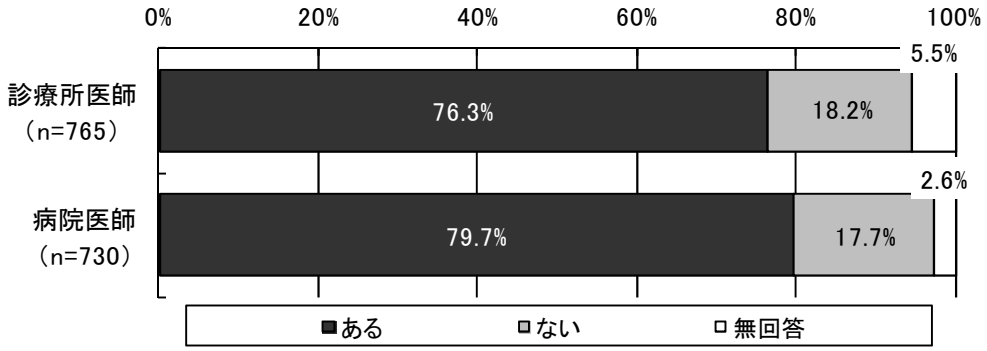
図表 109　保険薬局で実際に調剤した後発医薬品の銘柄等に関する情報提供の望ましい方法・タイミング（単数回答）



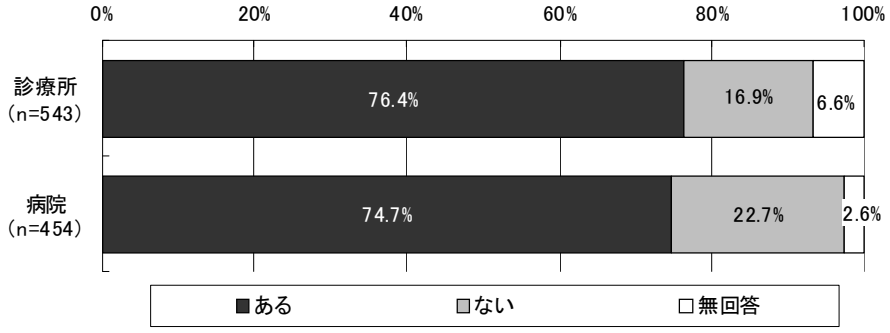
②患者から後発医薬品の処方を求められた経験の有無と対応

1）院外処方せんを発行している場合

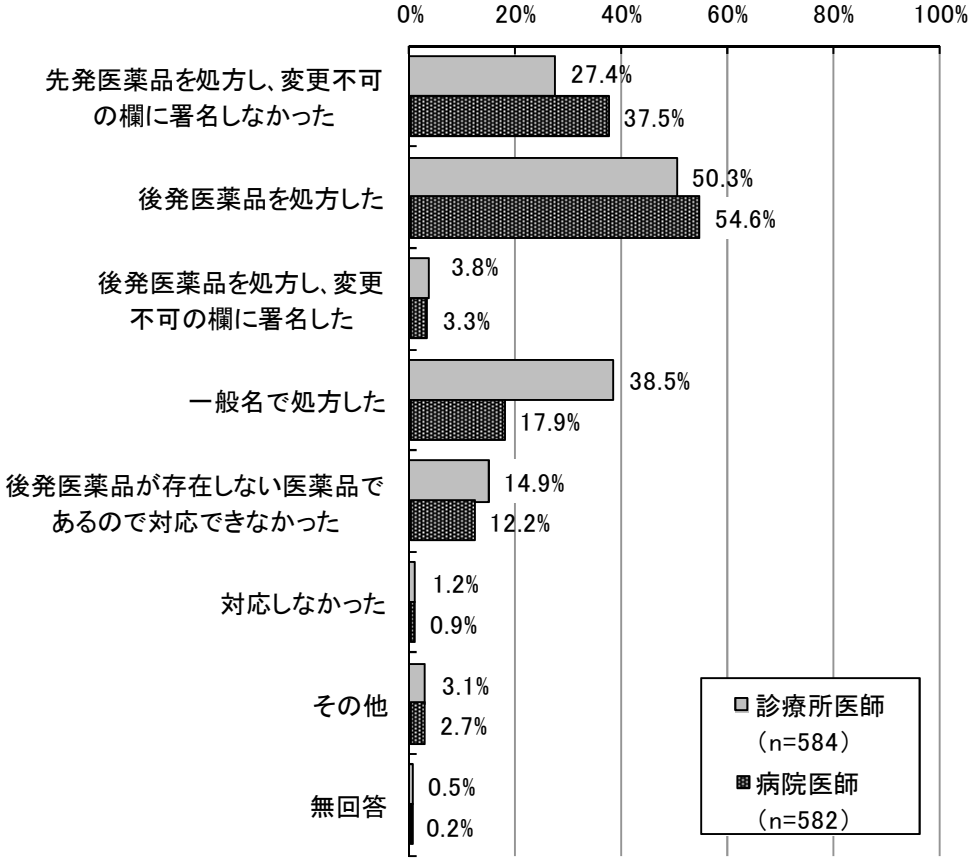
図表 110　患者から後発医薬品の処方を求められた経験の有無
（院外処方せんを発行している施設の医師、医師ベース）



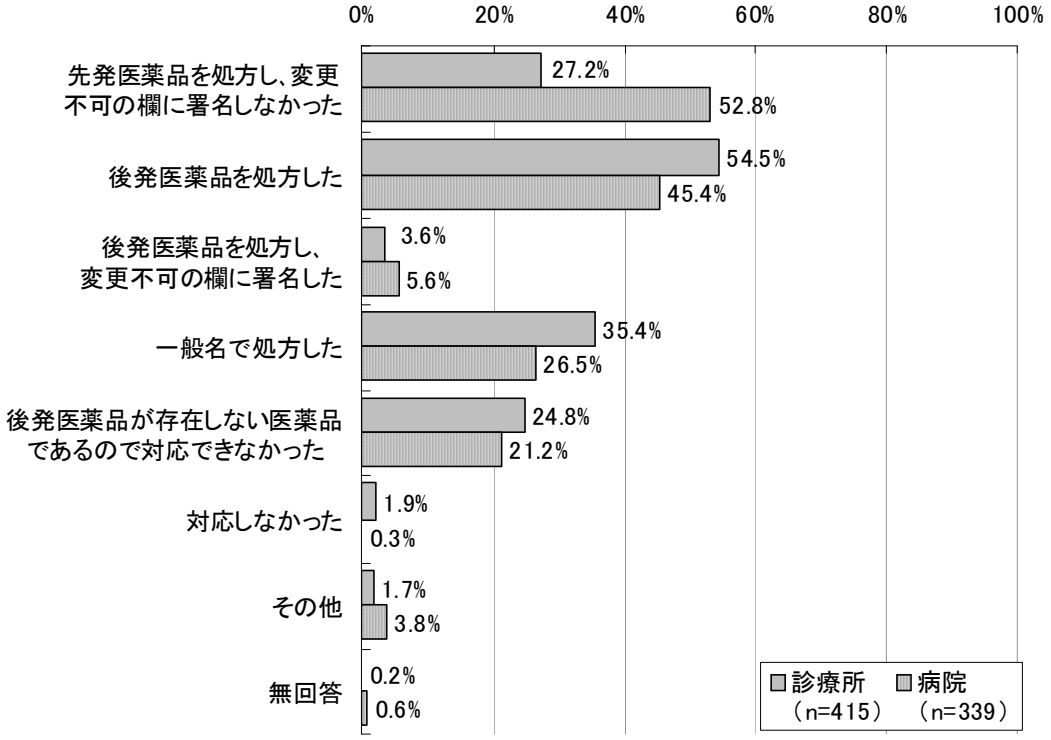
（前回調査）



図表 111　患者から後発医薬品の処方を求められた時の対応（患者から後発医薬品の処方を求められたことがあると回答した医師、複数回答、医師ベース）

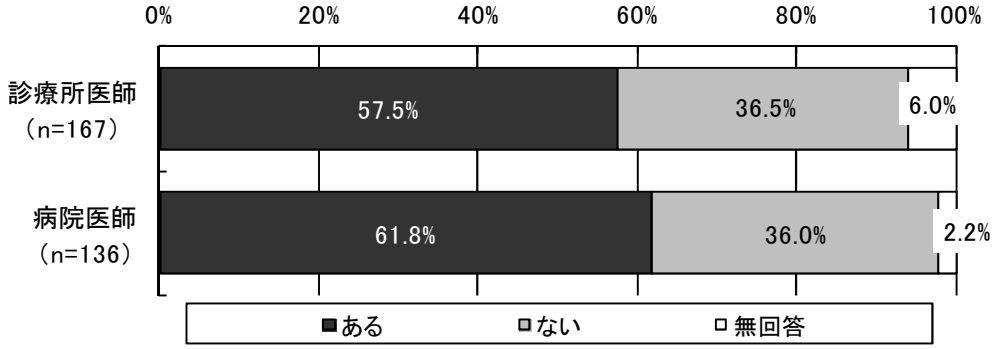


（前回調査）

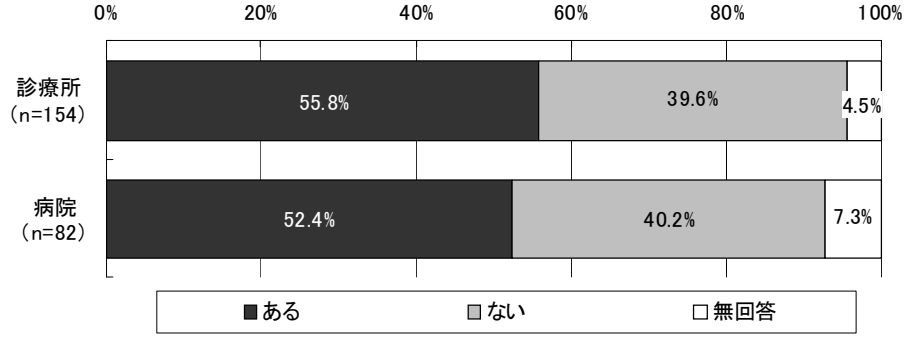

0%
20%
40%
60%
80%
100%
先発医薬品を処方し、変更不可の欄に署名しなかった
27.2%
52.8%
後発医薬品を処方した
54.5%
45.4%
後発医薬品を処方し、変更不可の欄に署名した
3.6%
5.6%
一般名で処方した
35.4%
26.5%
後発医薬品が存在しない医薬品であるので対応できなかった
24.8%
21.2%
対応しなかった
1.9%
0.3%
その他
1.7%
3.8%
無回答
0.2%
0.6%
診療所（n=415）
病院（n=339）

2）院外処方せんを発行していない場合

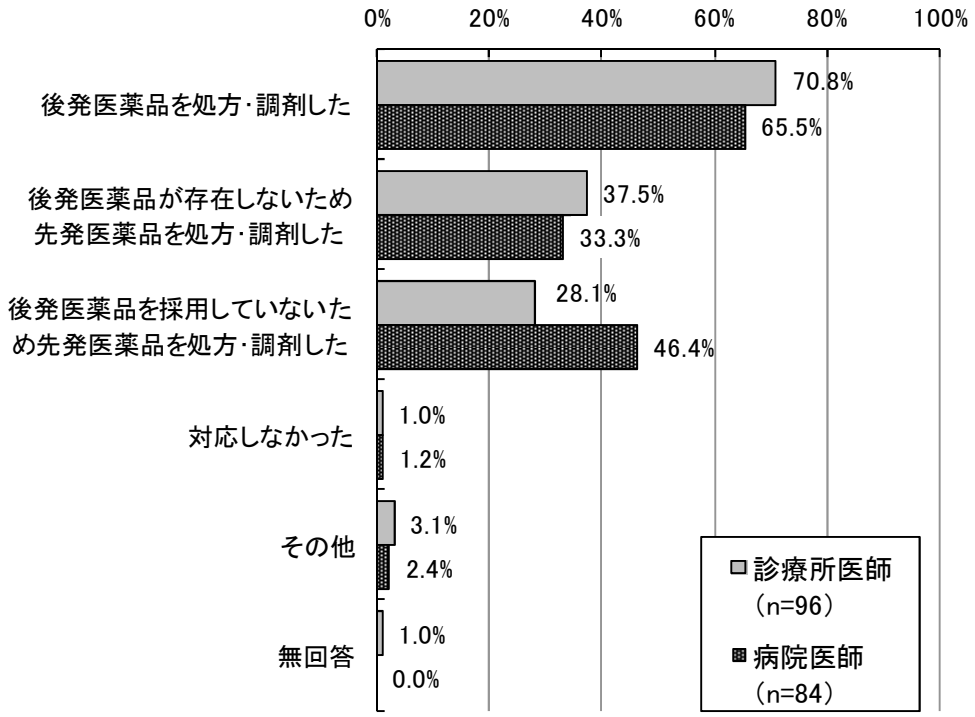
図表 112　患者から後発医薬品の処方を求められた経験の有無
（院外処方せんを発行していない施設の医師、医師ベース）



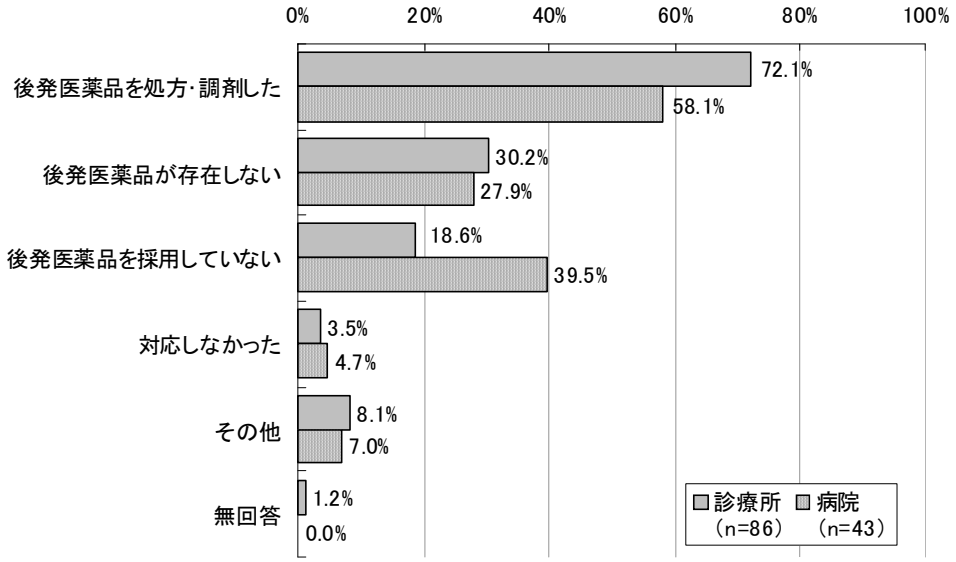
（前回調査）



図表 113　患者から後発医薬品の処方を求められた時の対応
（院外処方せんを発行していない施設、患者から後発医薬品の処方を求められたことがあると回答した医師、複数回答）



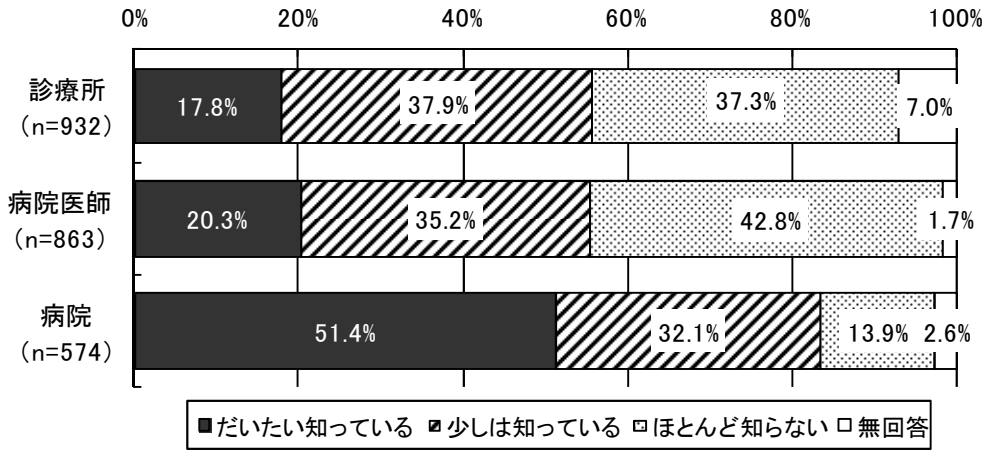
（前回調査）



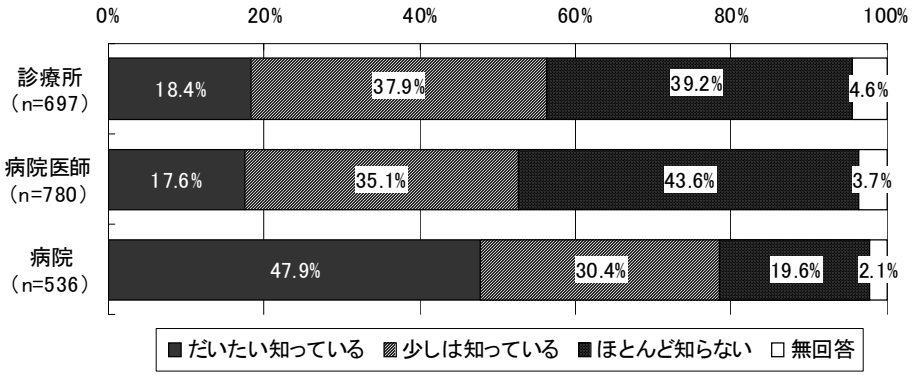
（９）医療機関・医師における後発医薬品使用に関する意識等

①医療機関・医師における、後発医薬品が薬事法に基づく厚生労働大臣の承認を得るために必要なデータの内容に関する認知状況

図表 114　医療機関・医師における、後発医薬品が薬事法に基づく厚生労働大臣の承認を得るために必要なデータの内容に関する認知状況

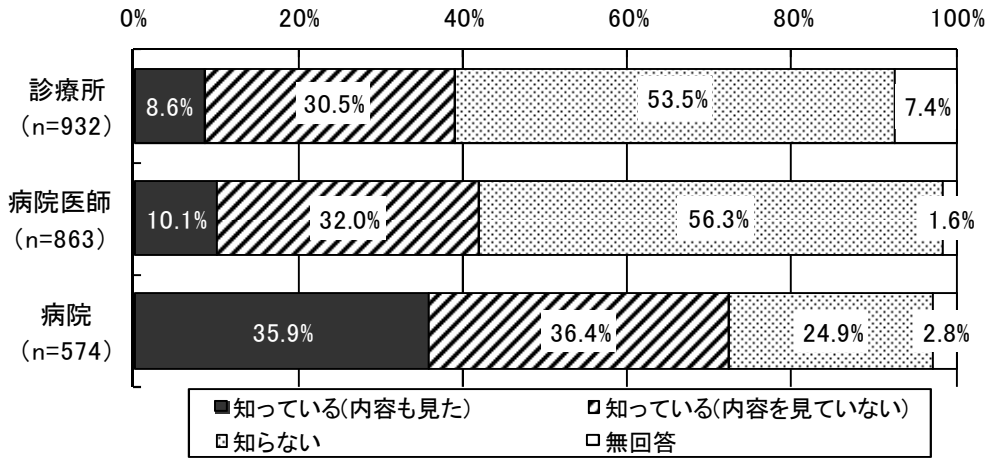


（前回調査）

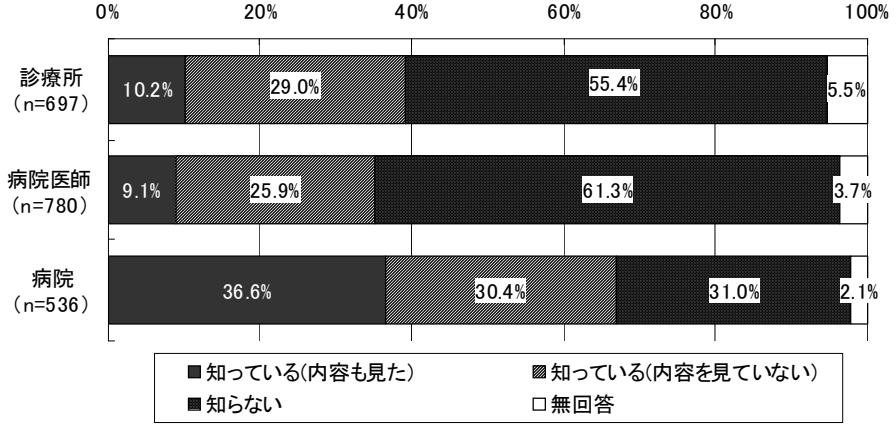


②医療機関・医師における、『ジェネリック医薬品への疑問に答えます～ジェネリック医薬品Ｑ＆Ａ～』に関する認知状況

図表 115　医療機関・医師における、『ジェネリック医薬品への疑問に答えます～ジェネリック医薬品Ｑ＆Ａ～』に関する認知状況

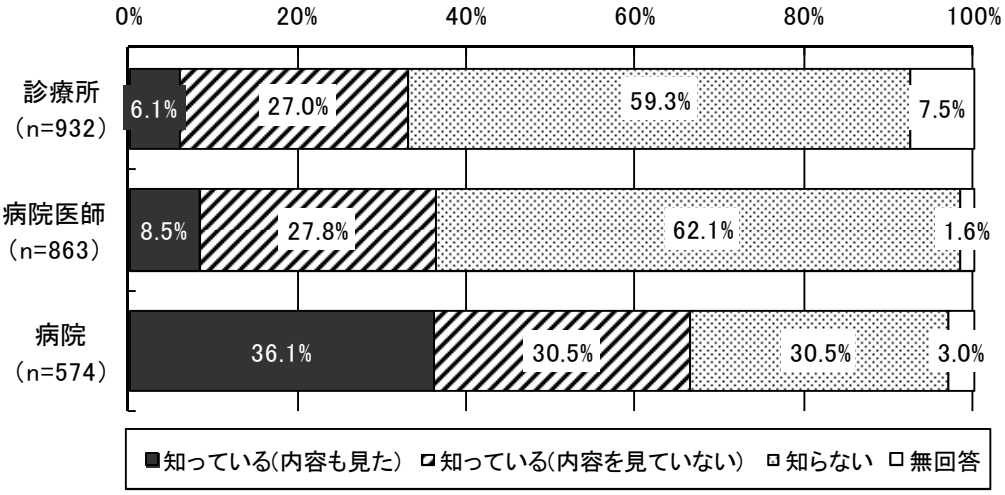


（前回調査）



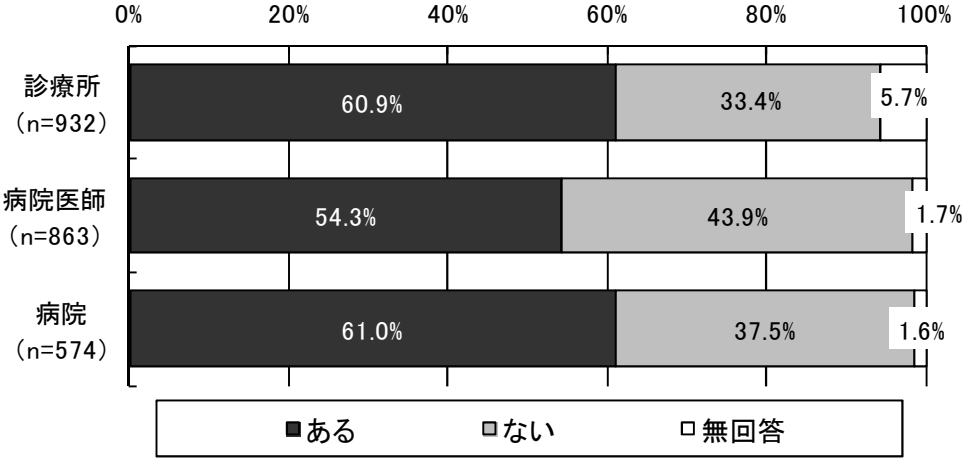
③医療機関・医師における、『後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ』に関する認知状況

図表 116　医療機関・医師における、『後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ』に関する認知状況

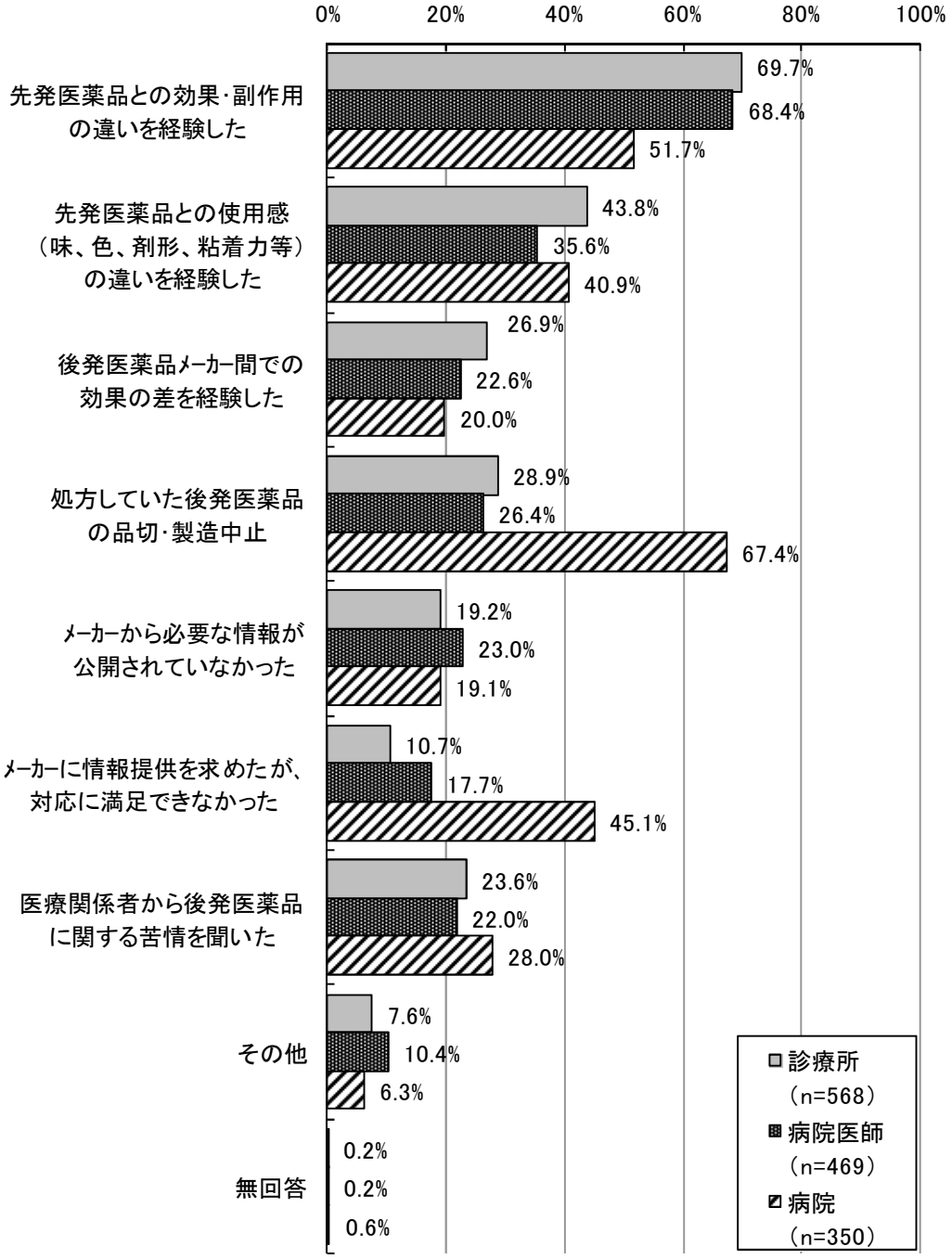


④今現在の後発医薬品に対する不信感

図表 117　今現在の後発医薬品に対する不信感の有無

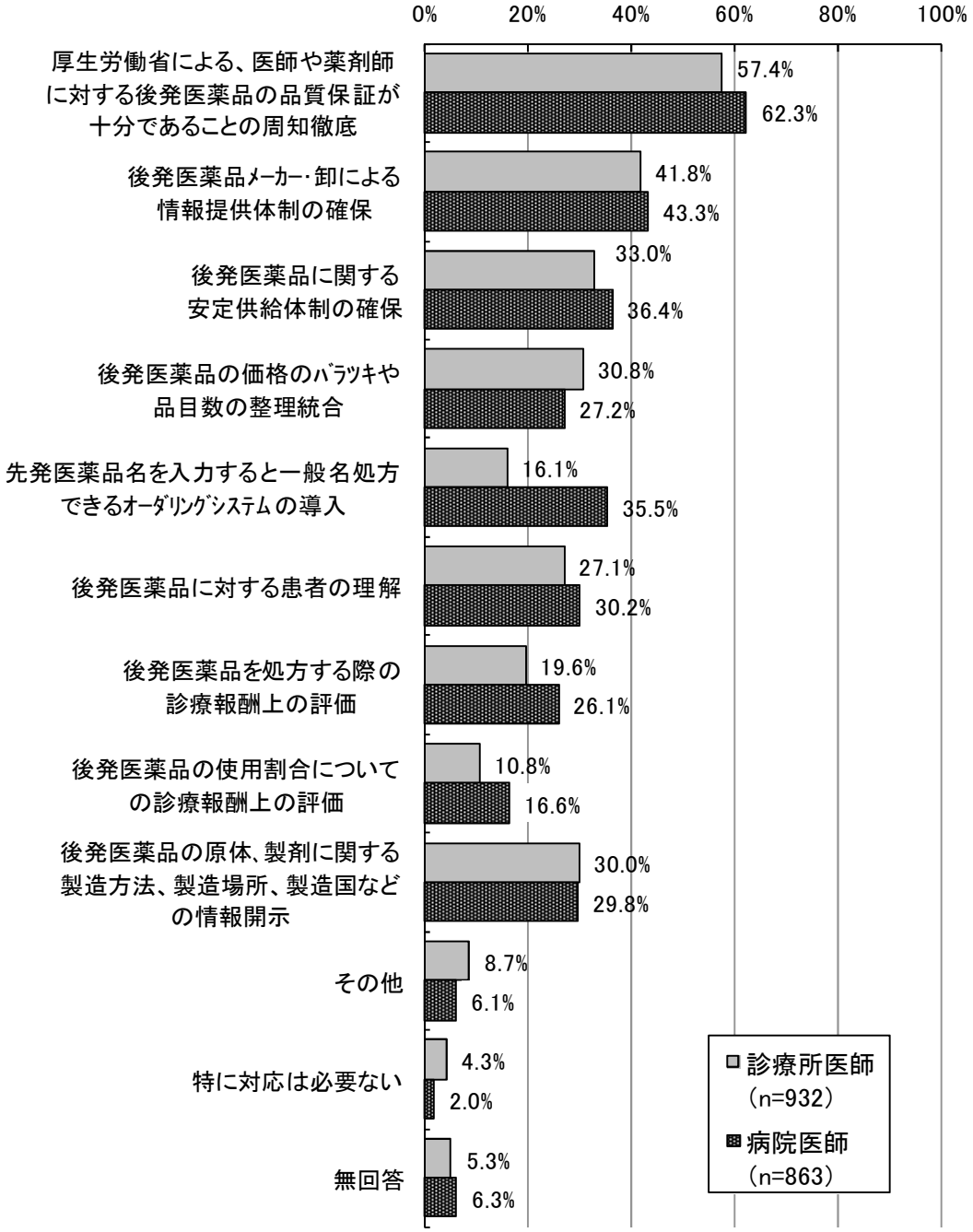


図表 118　後発医薬品に対する不信感を抱いたきっかけ
（不信感があると回答した施設・医師、複数回答）

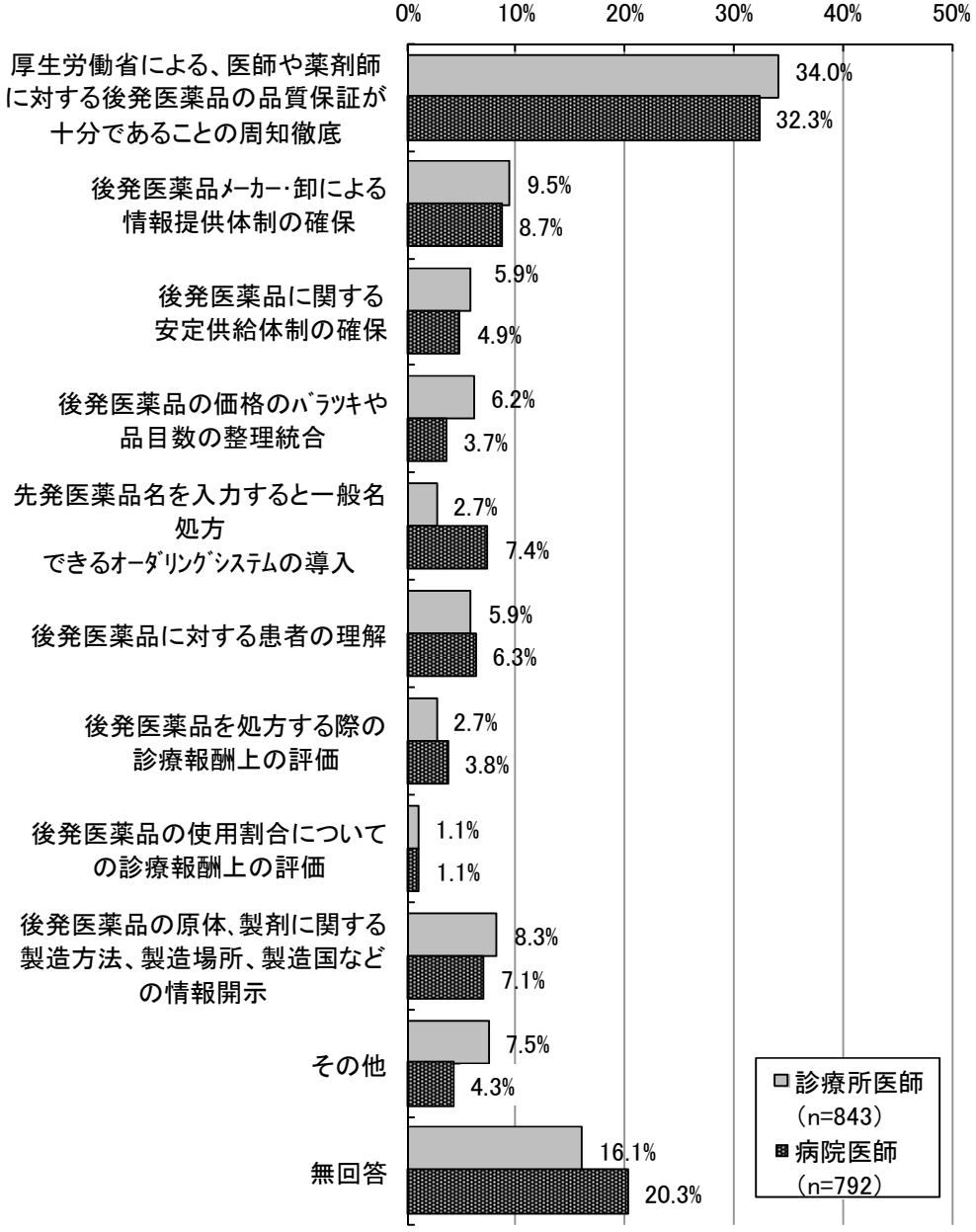


⑤後発医薬品の処方を進めるための環境

図表 119　どのような対応がなされれば、医師の立場として後発医薬品の処方を進めても良いか（医師ベース、複数回答）



図表 120　どのような対応がなされれば、医師の立場として後発医薬品の処方を進めても良いか（最も重要なもの、医師ベース、単数回答）



４．患者調査の結果

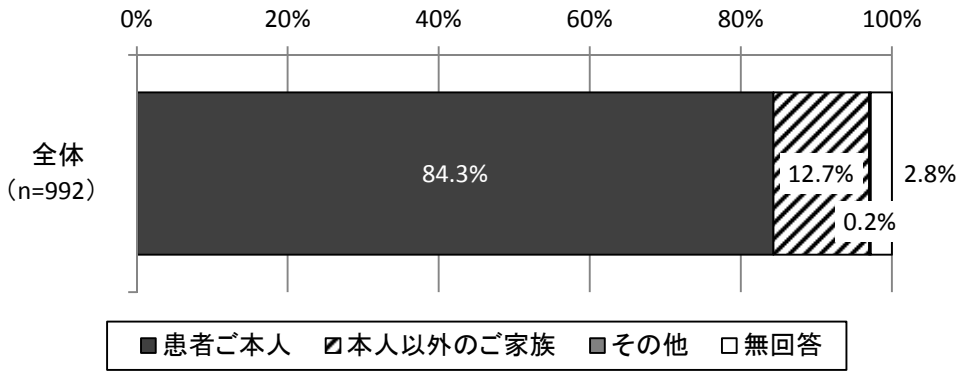
【調査対象等】

調査対象：「保険薬局調査」の対象施設に調査日に処方せんを持って来局した患者。
ただし、1 施設につき最大 2 名の患者を対象とした。
回 答 数：992 人
回 答 者：患者本人または家族
調査方法：調査対象薬局を通じて配布。回収は各患者から調査事務局宛の返信用封筒にて直接回収。

（０）記入者の属性等

①記入者と患者の関係

図表 121　記入者と患者の関係

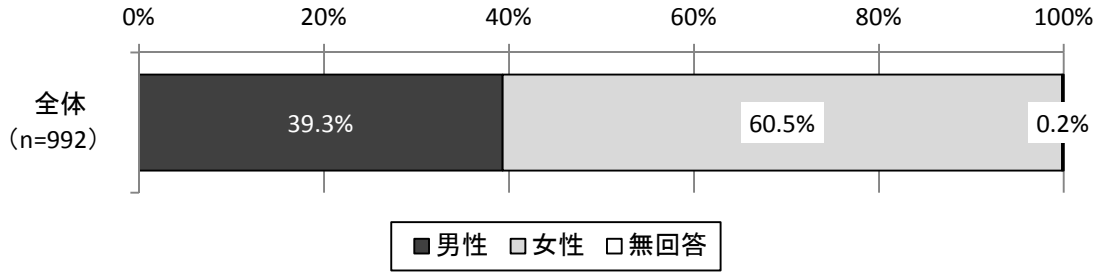


（１）患者の属性等

①患者の基本属性

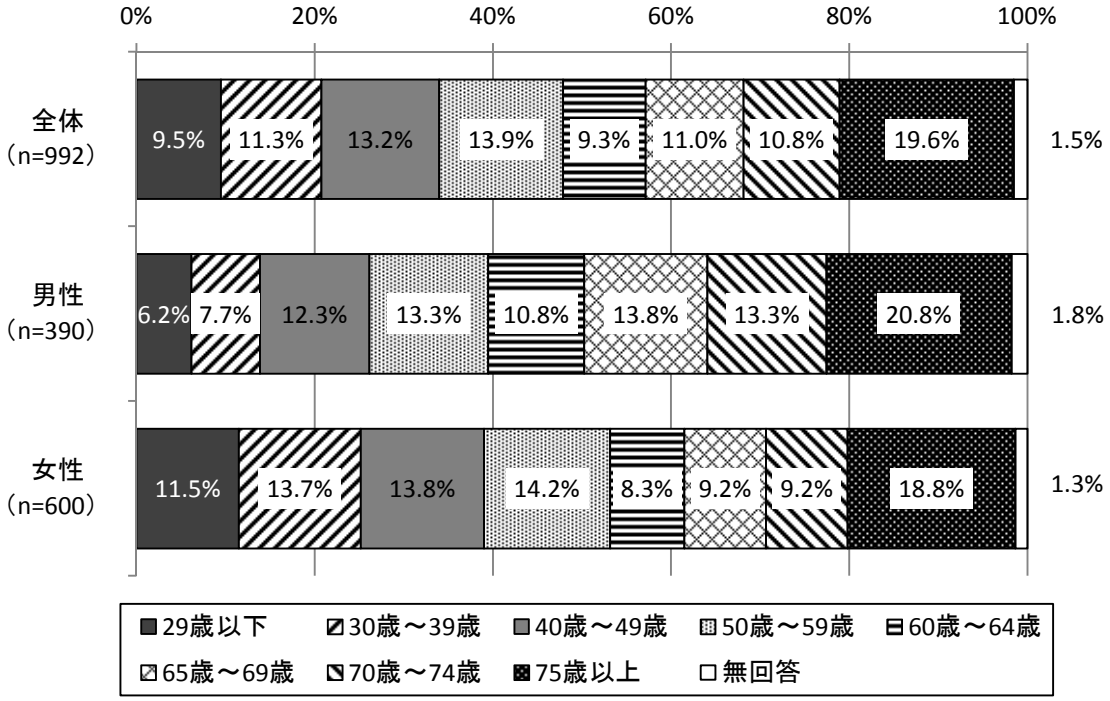
1）性別

図表 122　性別



2）年齢

図表 123　年齢分布（男女別）



（注）「全体」には、「性別」について無回答 2 人が含まれる。

図表 124　平均年齢（男女別）

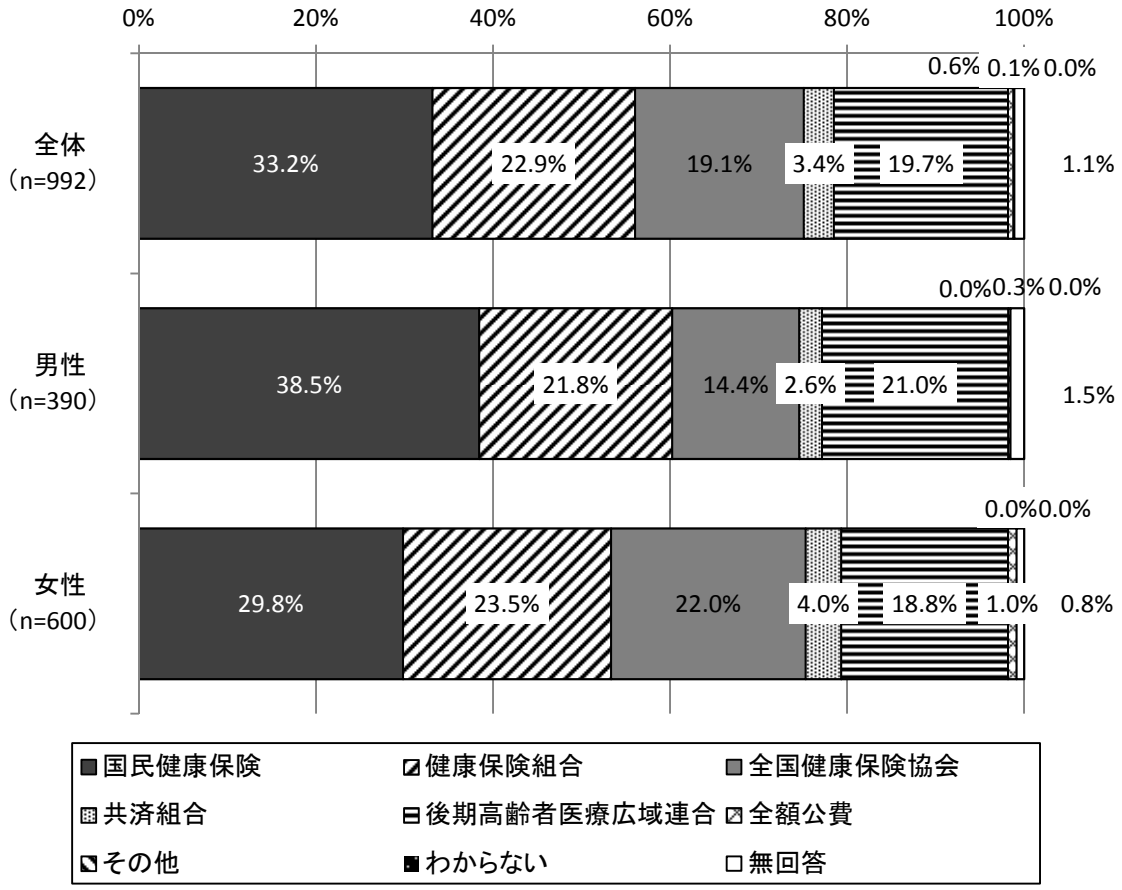
（単位：歳）

	人数（人）	平均	標準偏差	中央値
全体	977	56.5	20.1	60.0
男性	383	59.4	19.0	64.0
女性	592	54.7	20.6	56.0

（注）「全体」には、「性別」について無回答 2 人が含まれる。

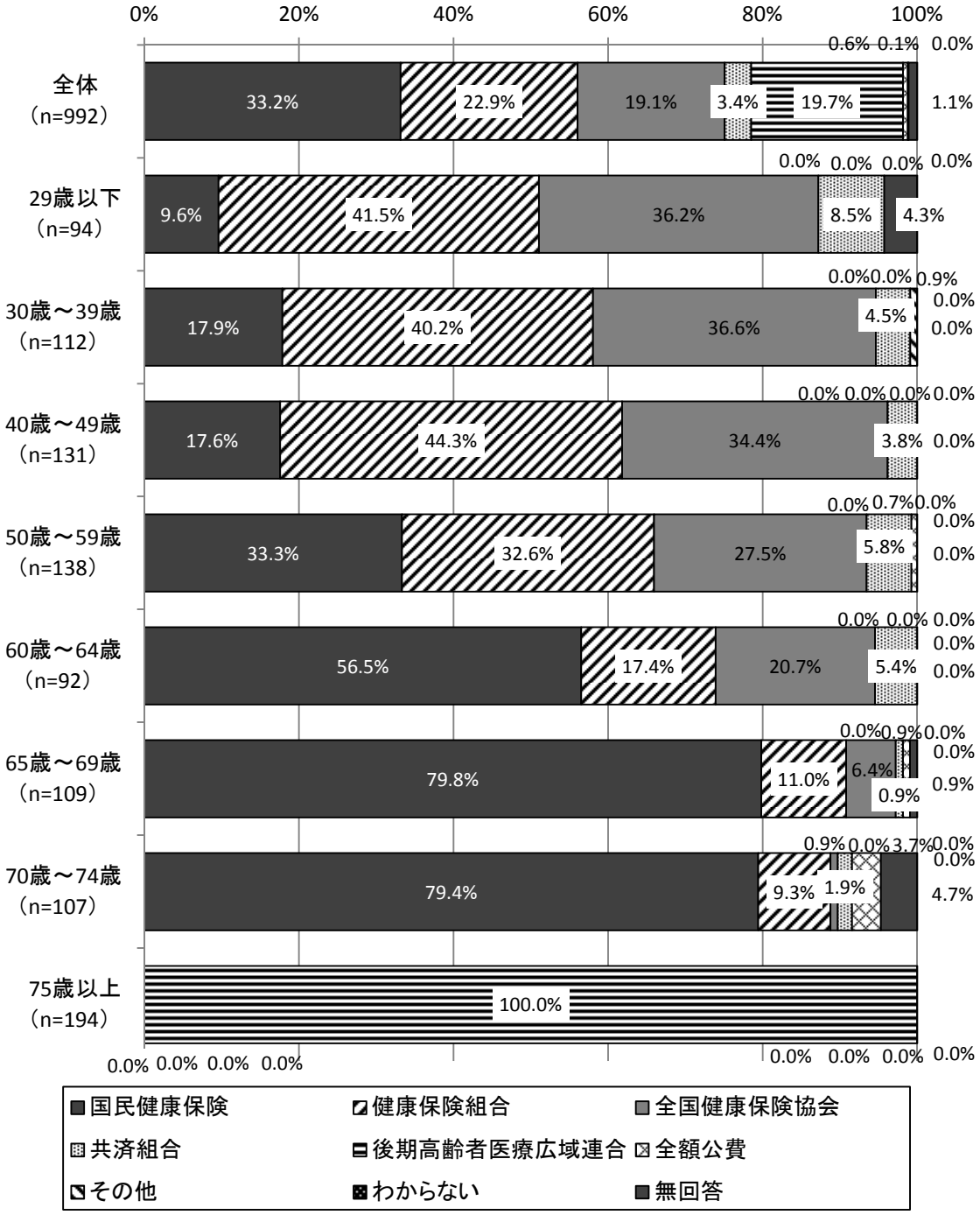
②公的医療保険の種類

図表 125　公的医療保険の種類（男女別）



（注）「全体」には、「性別」について無回答 2 人が含まれる。

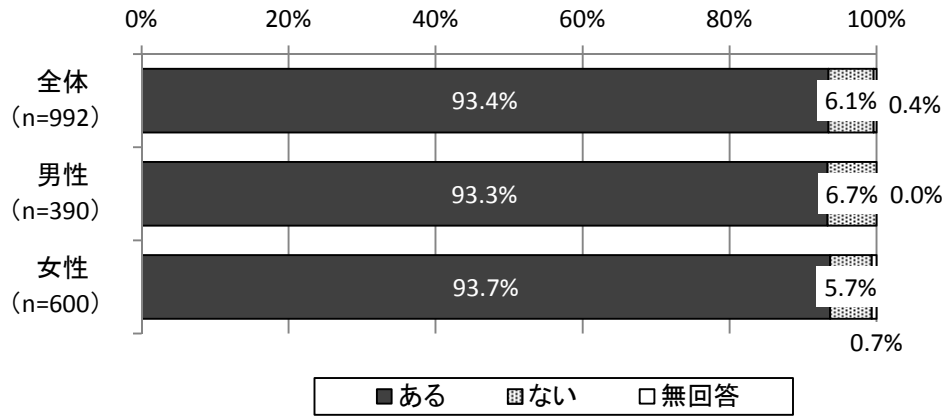
図表 126　公的医療保険の種類（年齢階級別）



（注）「全体」には、「年齢」について無回答 15 人が含まれる。

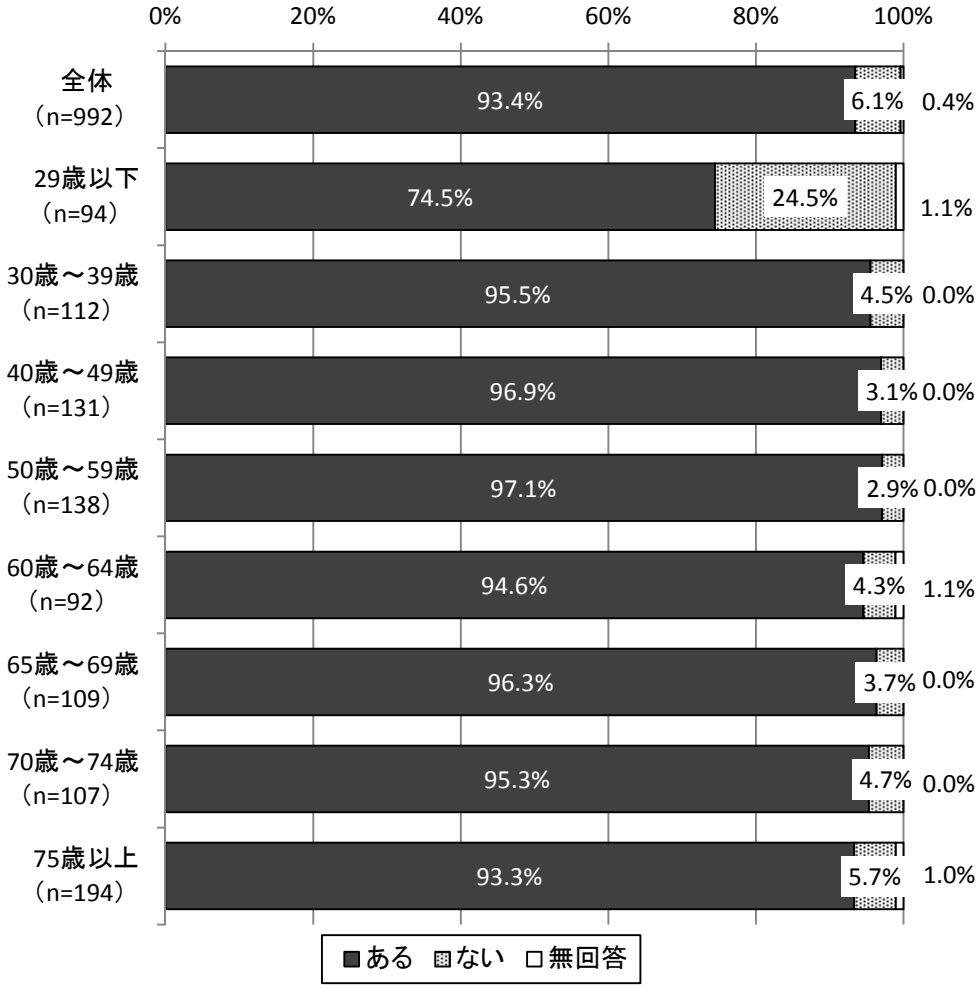
③自己負担額の有無

図表 127　自己負担額の有無（男女別）



（注）「全体」には、「性別」について無回答 2 人が含まれる。

図表 128　自己負担額の有無（年齢階級別）



（注）「全体」には、「年齢」について無回答 15 人が含まれる。

④過去３か月間の薬局訪問回数（処方せん持参に限る）

図表 129　過去３か月間の薬局訪問回数（男女別）

（単位：回）

	人数（人）	平均	標準偏差	中央値
全体	983	3.6	2.6	3.0
男性	386	3.7	2.6	3.0
女性	595	3.6	2.7	3.0

（注）「全体」には、「性別」について無回答 2 人が含まれる。

図表 130　過去３か月間の薬局訪問回数（年齢階級別）

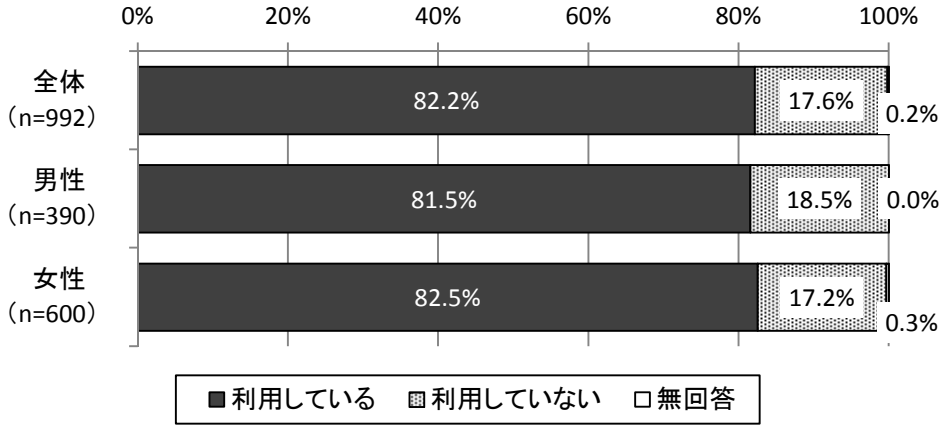
（単位：回）

	人数（人）	平均	標準偏差	中央値
全体	983	3.6	2.6	3.0
29 歳以下	94	2.7	2.2	2.0
30 歳～39 歳	112	2.9	2.3	2.0
40 歳～49 歳	129	3.0	2.4	3.0
50 歳～59 歳	136	3.2	2.0	3.0
60 歳～64 歳	90	3.9	2.5	3.0
65 歳～69 歳	108	3.8	2.2	3.0
70 歳～74 歳	107	4.5	3.6	3.0
75 歳以上	192	4.5	2.9	3.0

（注）「全体」には、「年齢」について無回答 15 人が含まれる。

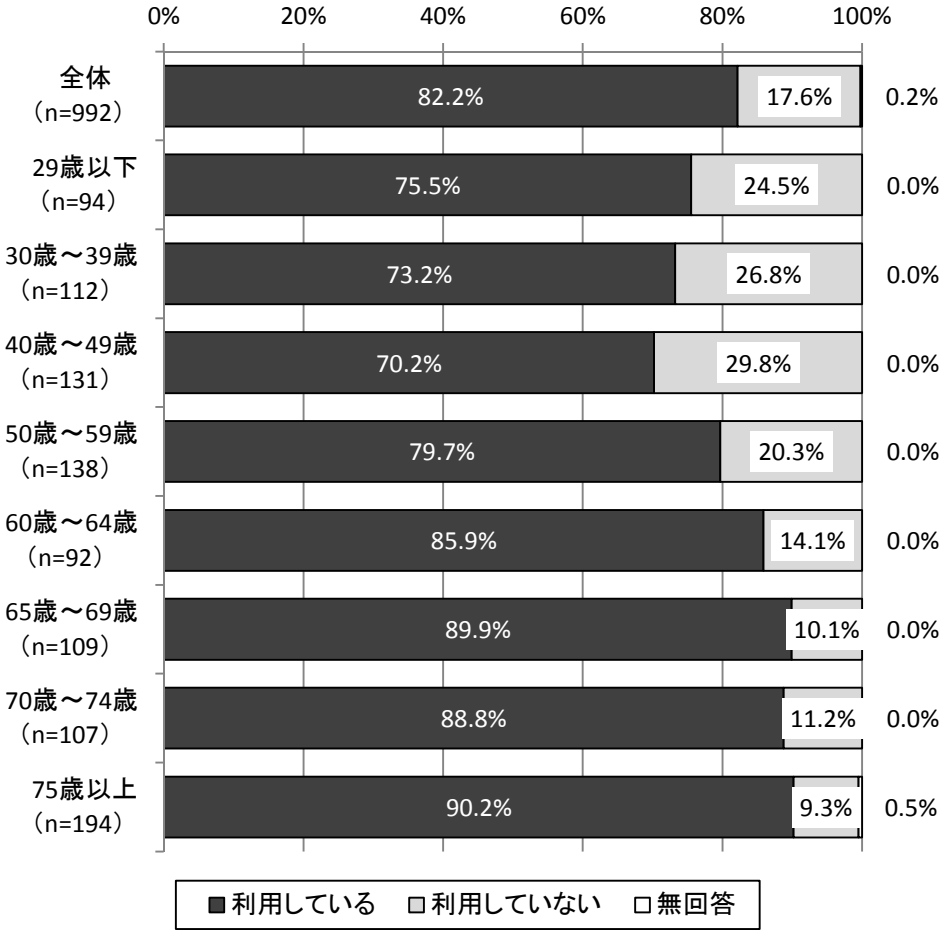
⑤お薬手帳の利用

図表 131　お薬手帳の利用（男女別）



（注）「全体」には、「性別」について無回答 2 人が含まれる。

図表 132　お薬手帳の利用（年齢階級別）

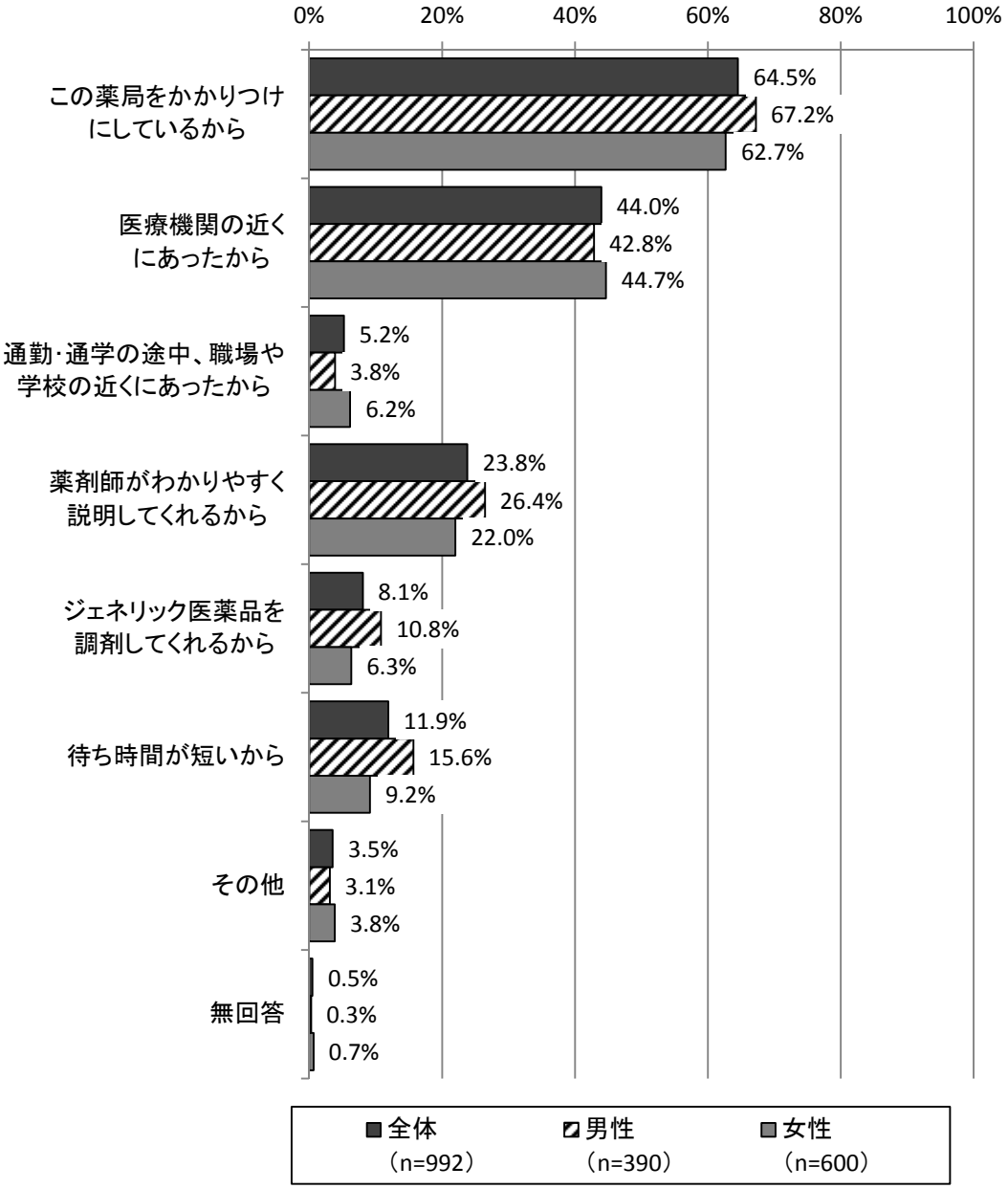


（注）「全体」には、「年齢」について無回答 15 人が含まれる。

（２）調査日における受診・調剤状況等

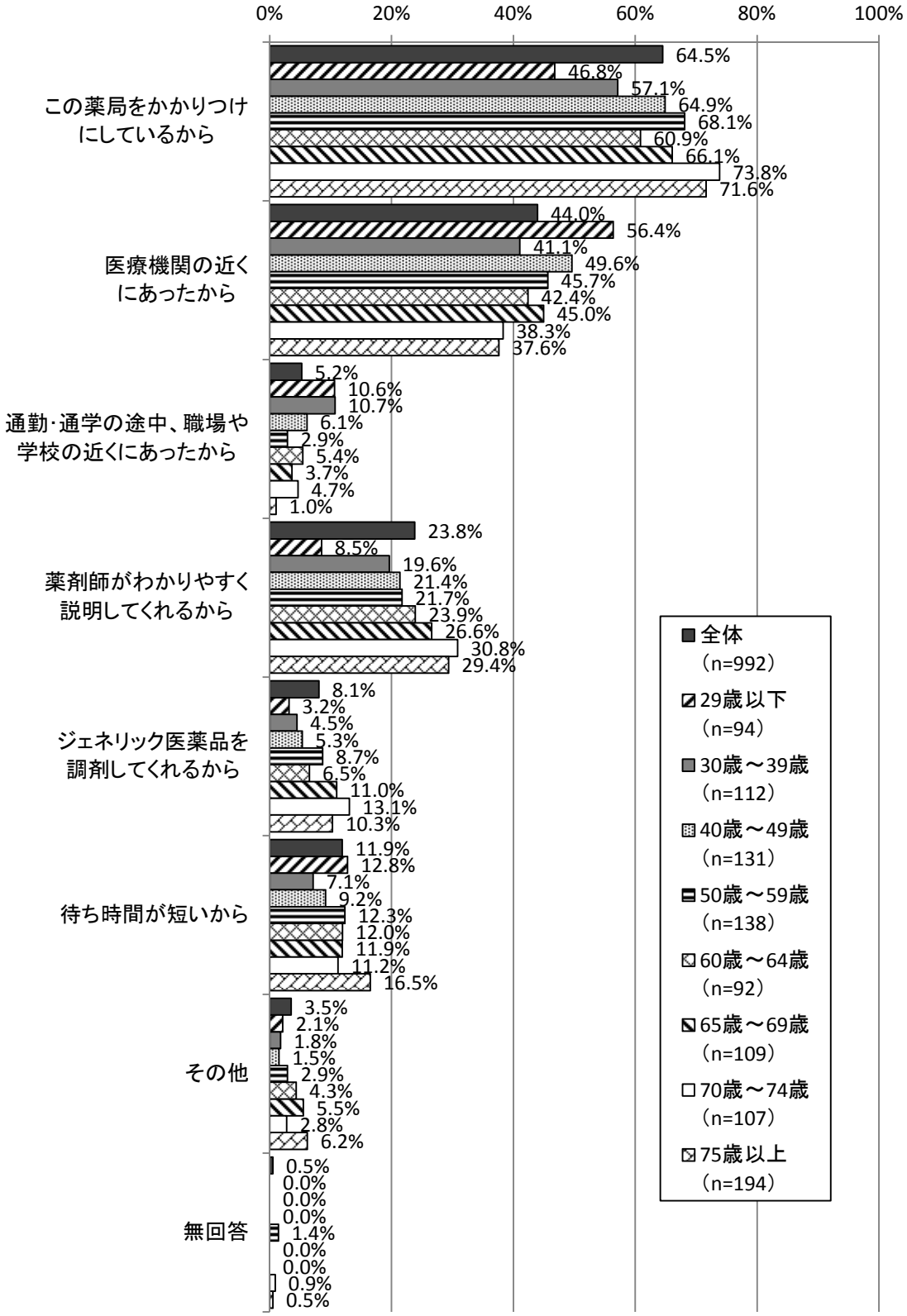
①薬局を選んだ理由

図表 133　薬局を選んだ理由（男女別、複数回答）



（注）「全体」には、「性別」について無回答 2 人が含まれる。

図表 134　薬局を選んだ理由（年齢階級別、複数回答）



（注）「全体」には、「年齢」について無回答の 15 人が含まれる。

②処方の状況等

1）薬局窓口での自己負担額

図表 135　薬局窓口での自己負担額（男女別）

（単位：円）

	人数（人）	平均	標準偏差	中央値
全体	922	2,226.5	2,576.8	1,465.0
男性	366	2,698.3	3,161.1	1,810.0
女性	554	1,917.1	2,051.7	1,310.0

（注）・「全体」には、「性別」について無回答の 2 人が含まれる。
・自己負担額について記入のあったものを集計対象とした。

図表 136　薬局窓口での自己負担額（年齢階級別）

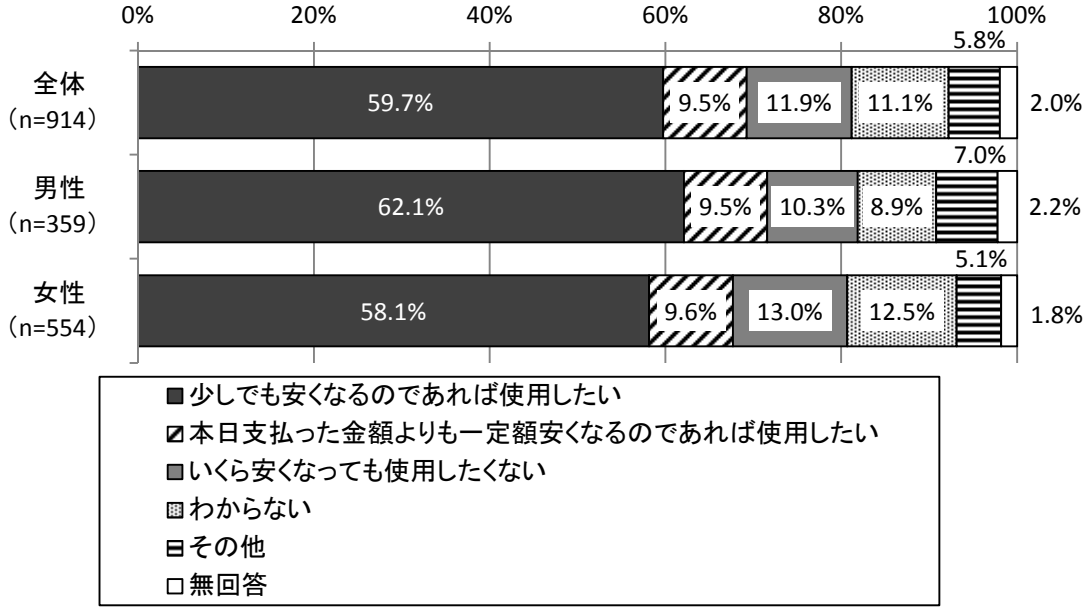
（単位：円）

	人数（人）	平均	標準偏差	中央値
全体	922	2,226.5	2,576.8	1,465.0
29 歳以下	85	955.2	1,471.8	570.0
30 歳～39 歳	106	1,599.8	1,621.7	1,070.0
40 歳～49 歳	124	2,308.2	2,791.6	1,590.0
50 歳～59 歳	129	2,762.1	2,004.2	2,280.0
60 歳～64 歳	85	3,333.3	4,312.0	1,950.0
65 歳～69 歳	104	3,314.1	3,025.2	2,645.0
70 歳～74 歳	101	1,636.9	1,782.4	1,050.0
75 歳以上	174	1,873.9	2,100.3	1,295.0

（注）・「全体」には、「年齢」について無回答の 14 人が含まれる。
・自己負担額について記入のあったものを集計対象とした。

2）ジェネリック医薬品に関する使用意向（自己負担との関係）

図表 137　ジェネリック医薬品に関する使用意向（自己負担との関係）
（医療費の自己負担があった人、男女別）



（注）「全体」には、「性別」について無回答の 1 人が含まれる。

図表 138　ジェネリック医薬品を使用してもよいと思う自己負担額上の差額
（「本日支払った金額よりも一定額安くなるのであれば使用したい」と回答した人、男女別）

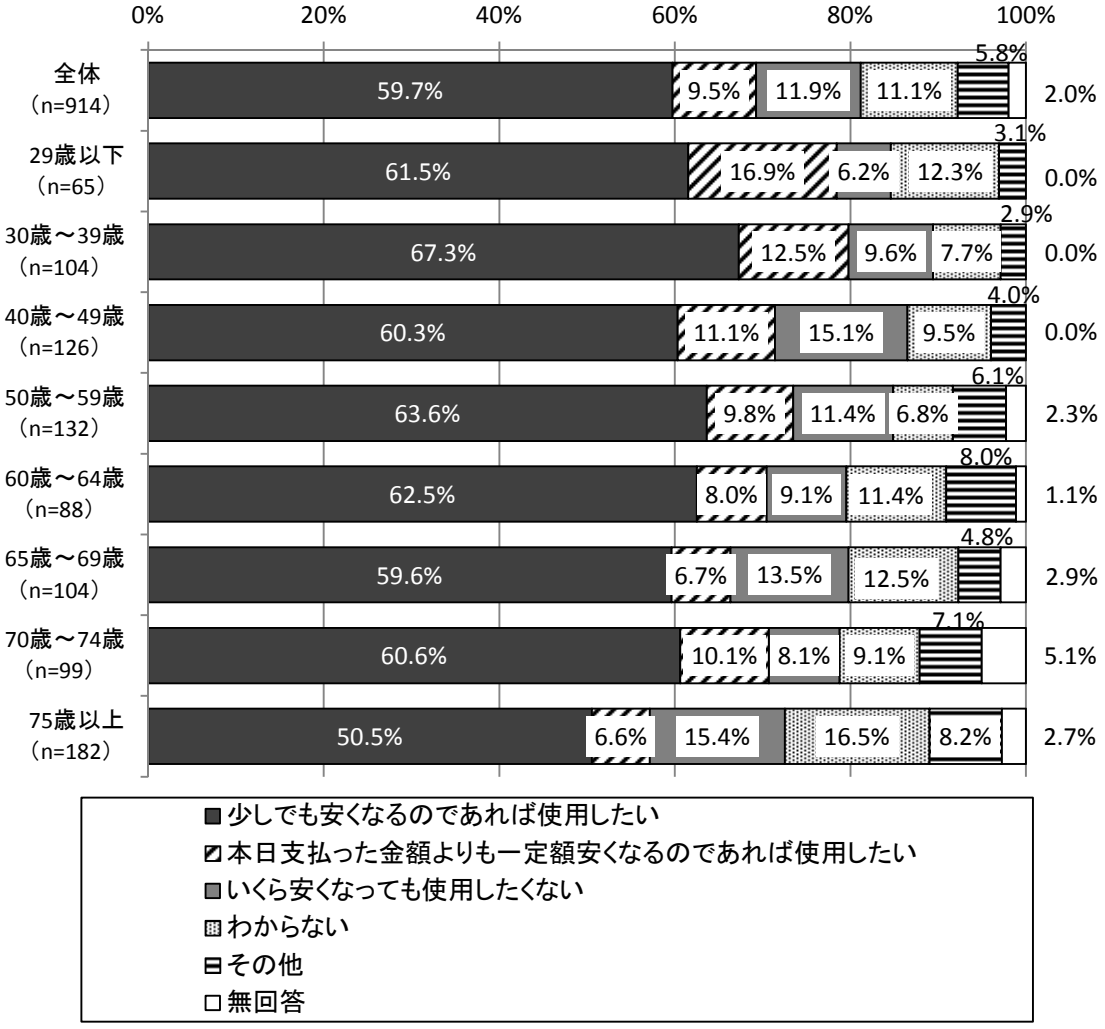
（単位：円）

	人数（人）	平均	標準偏差	中央値
全体	61	1,979.7	2,832.5	1,280.0
男性	25	3,046.4	4,112.8	1,930.0
女性	36	1,239.0	881.9	1,061.5

（注）具体的に安くなってほしい金額について記載のあった 61 人を集計対象とした。

図表 139　ジェネリック医薬品に関する使用意向（自己負担額との関係）

（医療費の自己負担があった人、年齢階級別）



（注）「全体」には、「年齢」について無回答の 14 人が含まれる。

図表 140　ジェネリック医薬品を使用してもよいと思う自己負担額上の差額
（「本日支払った金額よりも一定額安くなるのであれば使用したい」と回答した人、年齢階級別）

（単位：円）

	人数（人）	平均	標準偏差	中央値
全体	61	1,979.7	2,832.5	1,280.0
29 歳以下	8	1,411.3	2,038.0	795.0
30 歳～39 歳	11	1,463.6	1,116.3	1,200.0
40 歳～49 歳	11	3,352.7	5,943.0	1,510.0
50 歳～59 歳	9	1,754.4	1,474.1	1,220.0
60 歳～64 歳	6	1,925.0	165.6	2,000.0
65 歳～69 歳	4	2,615.0	1,234.8	2,415.0
70 歳～74 歳	5	1,418.0	1,638.3	950.0
75 歳以上	7	1,657.6	1,965.4	1,050.0

（注）具体的に安くなってほしい金額について記載のあった 61 人を集計対象とした。

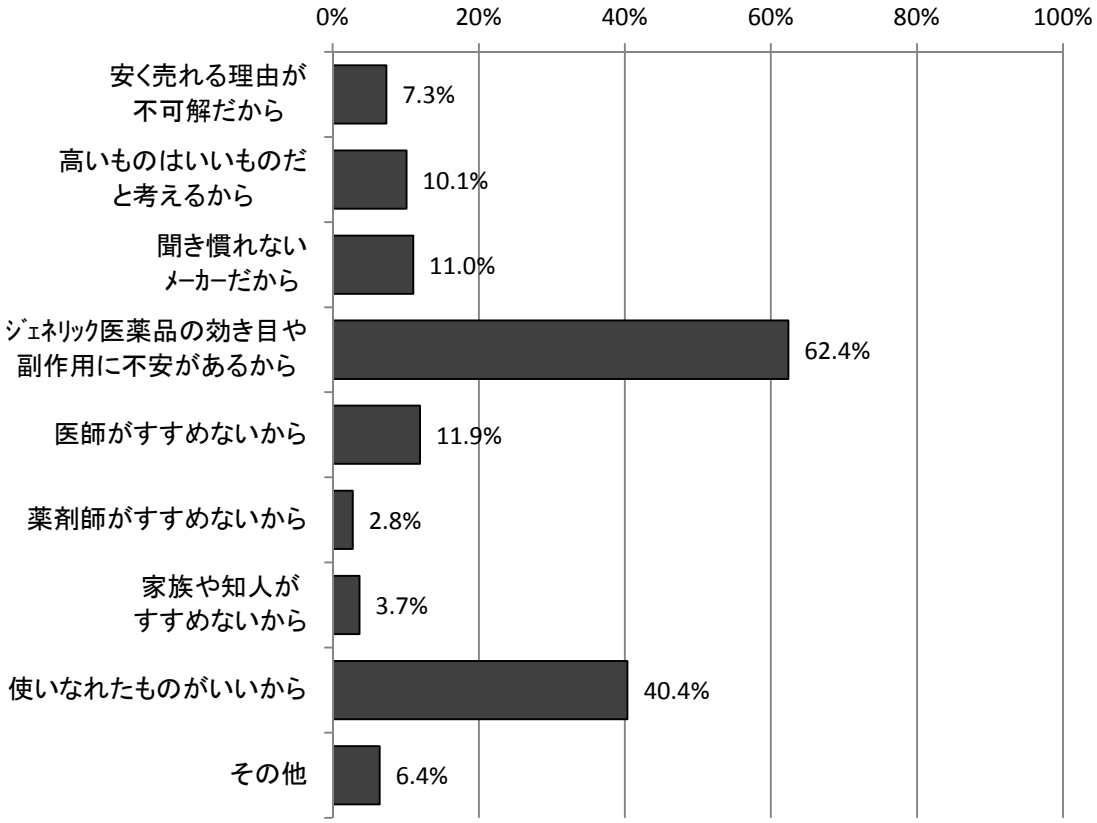
図表 141　ジェネリック医薬品を使用してもよいと思う自己負担額上の減額割合の分布
（「本日支払った金額よりも一定額安くなるのであれば使用したい」と回答した人）

（単位：上段「人」、下段「%」）

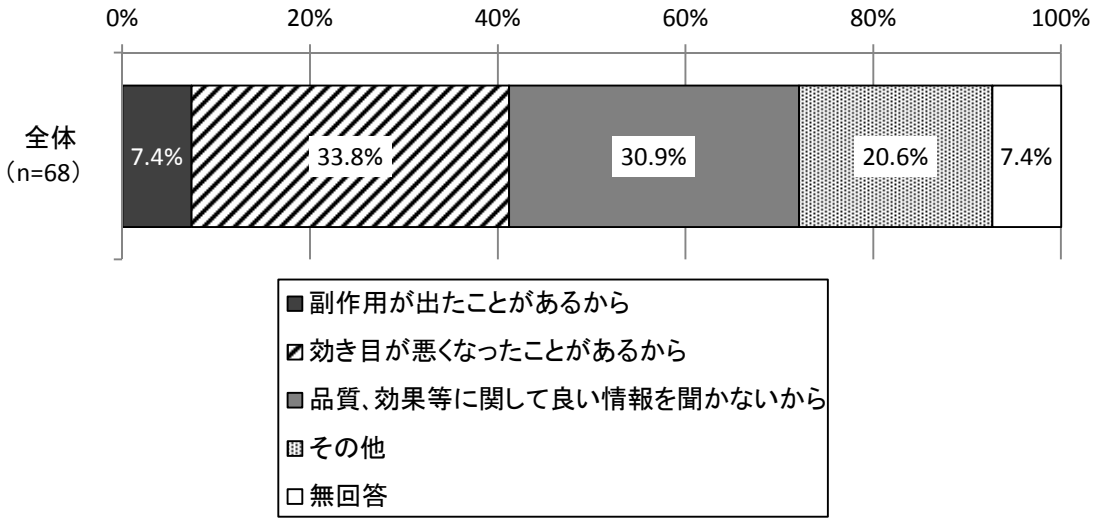
	人数（人）	20%未満	20%以上～40%未満	40%以上～60%未満	60%以上～80%未満	80%以上
全体	61	10	38	10	2	1
	100.0	16.4	62.3	16.4	3.3	1.6

（注）具体的に安くなってほしい金額について記載のあった 61 人を集計対象とした。

図表 142　ジェネリック医薬品がいくら安くなっても使用したくない理由
（「いくら安くなっても使用したくない」と回答した人、複数回答、n=109）

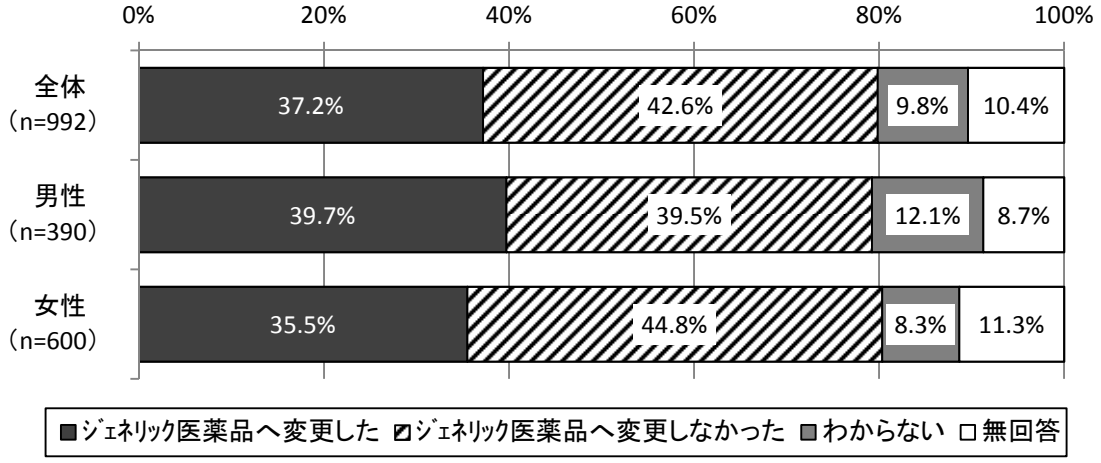


図表 143　ジェネリック医薬品の効き目や副作用に不安を感じたきっかけ
（「ジェネリック医薬品の効き目（効果）や副作用に不安があるから」と回答した人）



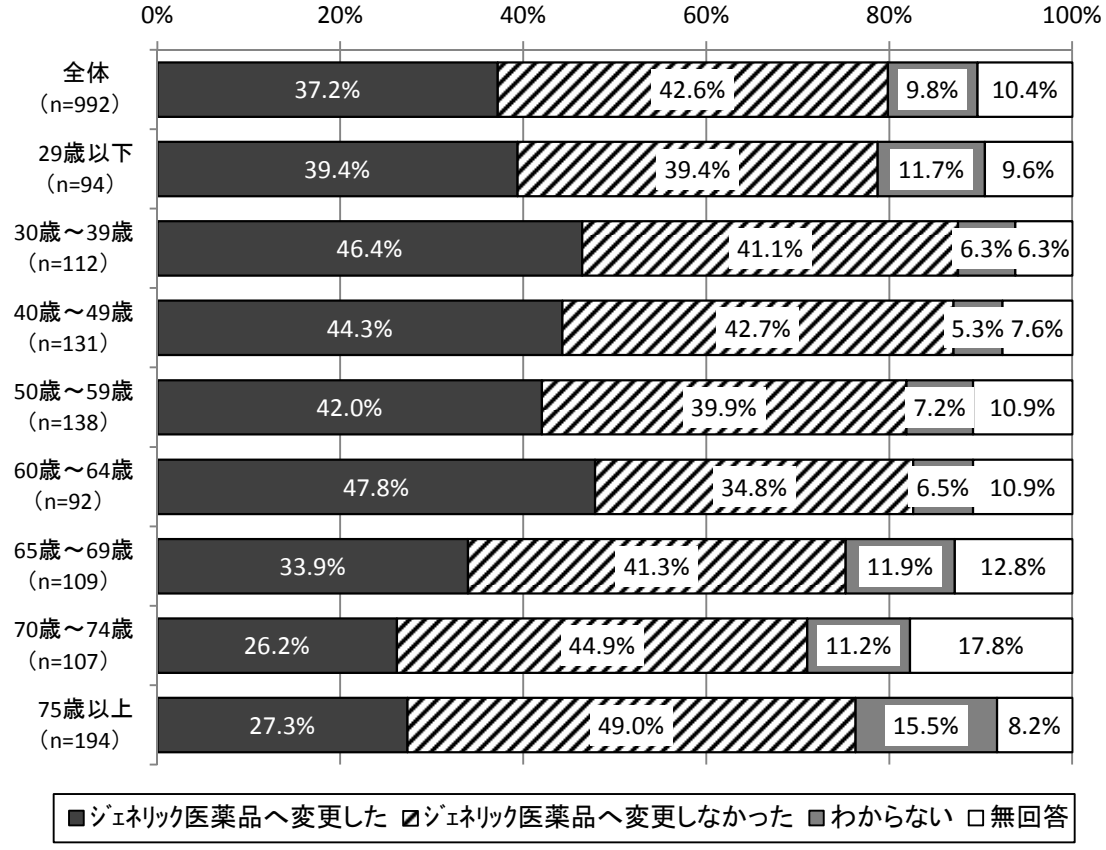
3）薬局における、先発医薬品からジェネリック医薬品への変更の有無

図表 144　薬局における、先発医薬品からジェネリック医薬品への変更の有無（男女別）



（注）「全体」には、「性別」について無回答の 2 人が含まれる。

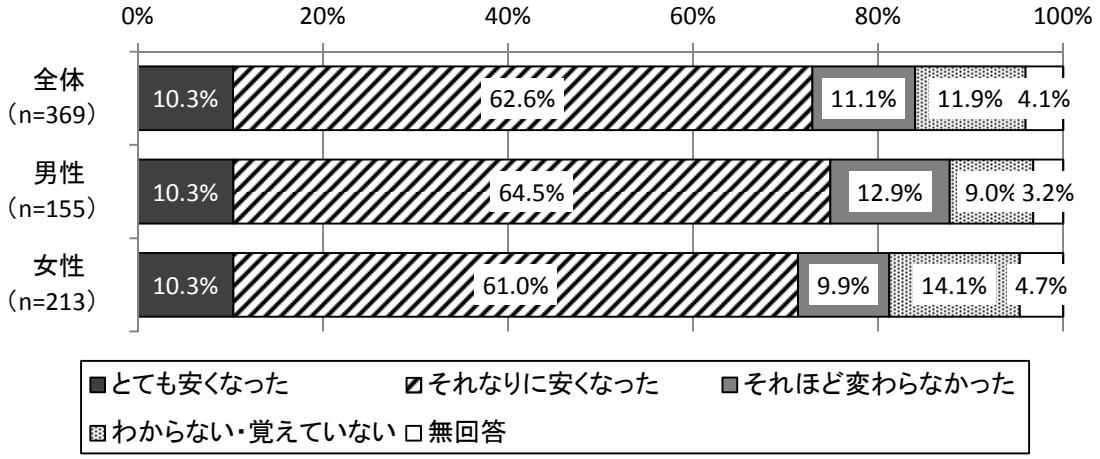
図表 145　薬局における、先発医薬品からジェネリック医薬品への変更の有無
（年齢階級別）



（注）「全体」には、「年齢」について無回答の 15 人が含まれる。

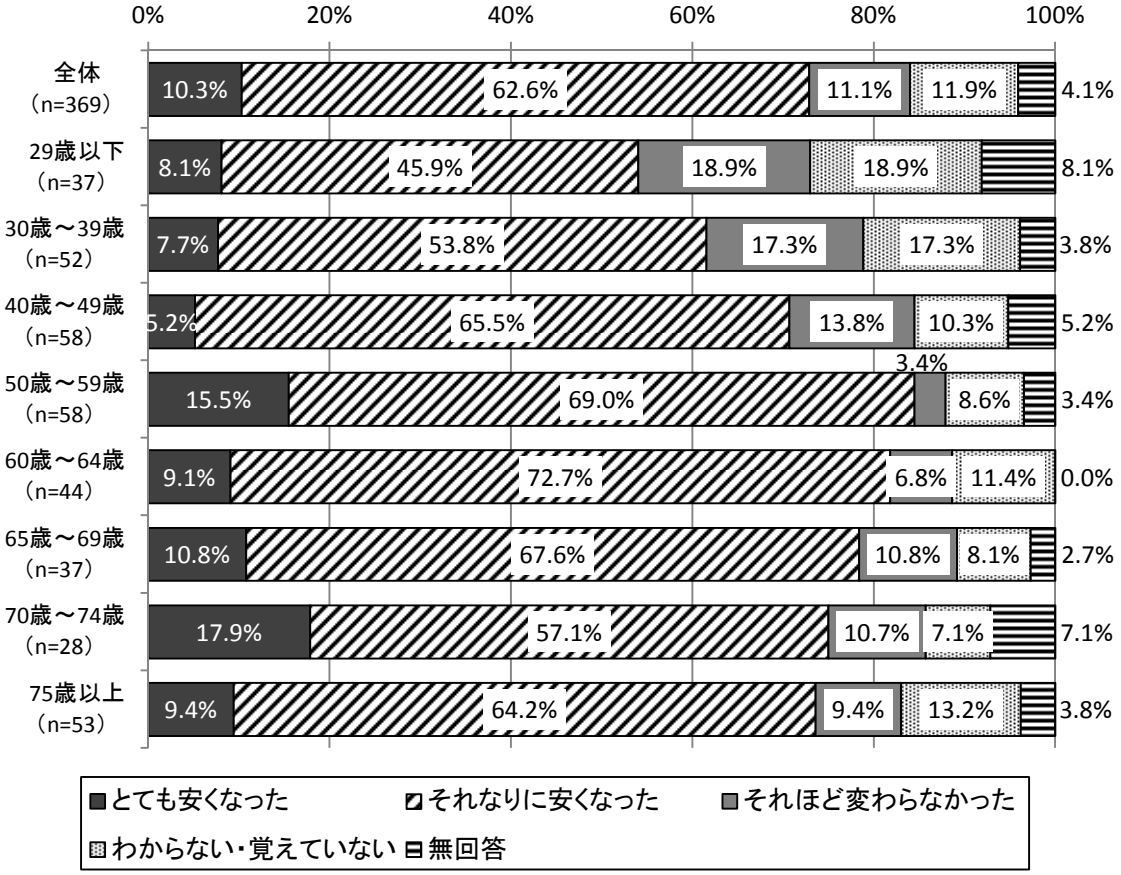
4）ジェネリック医薬品への変更による薬局窓口での薬代の負担感

図表 146　ジェネリック医薬品への変更による薬局窓口での薬代の負担感
（変更した人、男女別）



（注）「全体」には、「性別」について無回答の 1 人が含まれる。

図表 147　ジェネリック医薬品への変更による薬局窓口での薬代の負担感
（変更した人、年齢階級別）

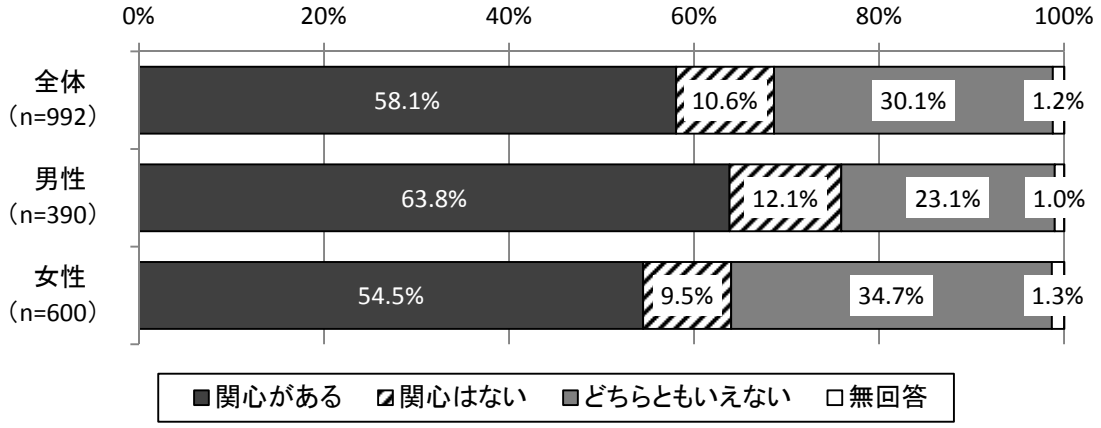


（注）「全体」には、「年齢」について無回答の 2 人が含まれる。

（３）ジェネリック使用に関する経験等

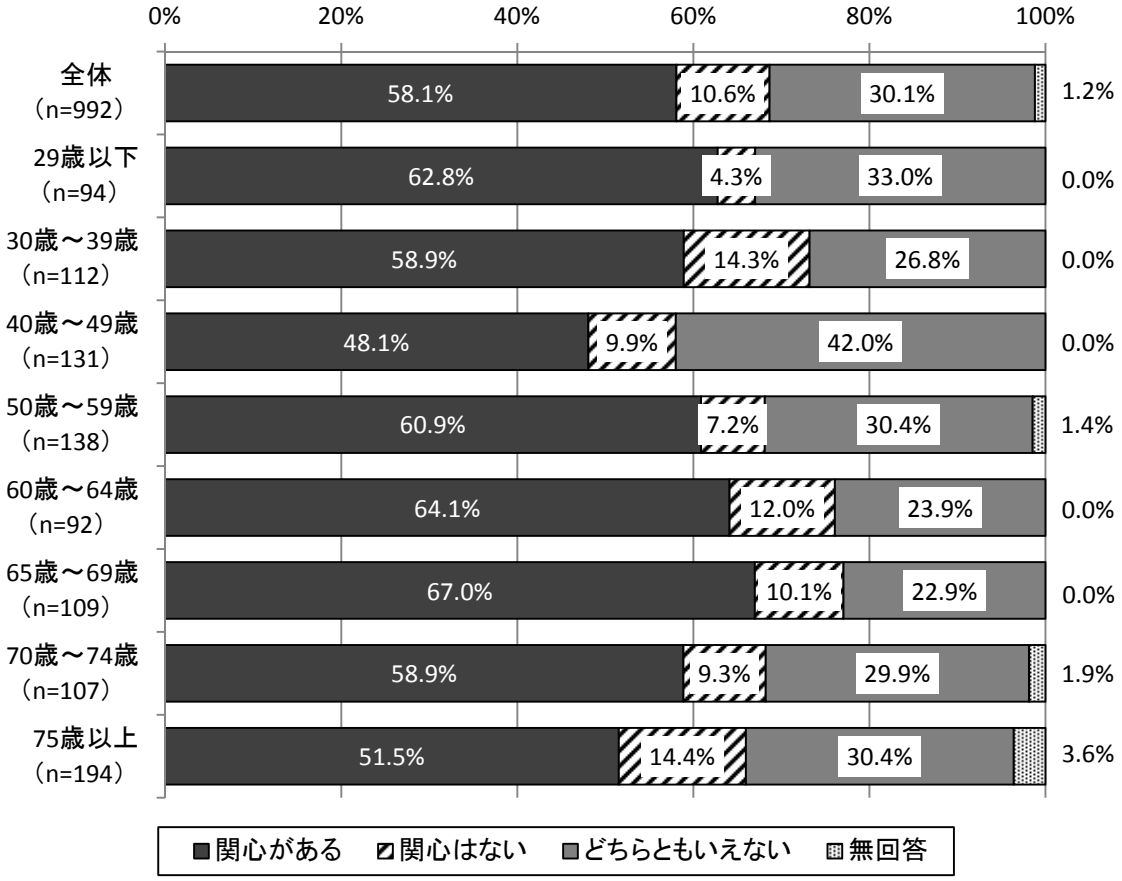
①ジェネリック医薬品に対する関心の有無

図表 148　ジェネリック医薬品に対する関心の有無（男女別）



（注）「全体」には、「性別」について無回答の 2 人が含まれる。

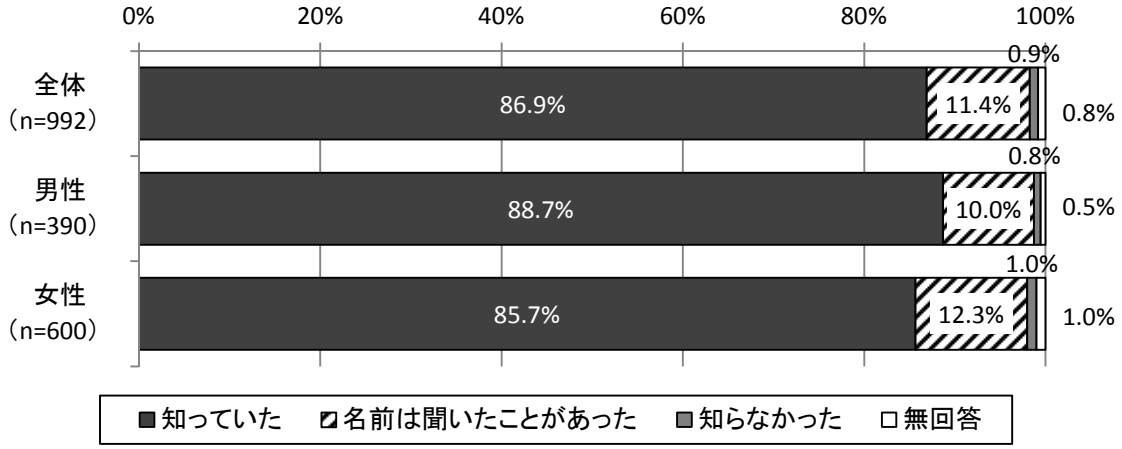
図表 149　ジェネリック医薬品に対する関心の有無（年齢階級別）



（注）「全体」には、「年齢」について無回答の 15 人が含まれる。

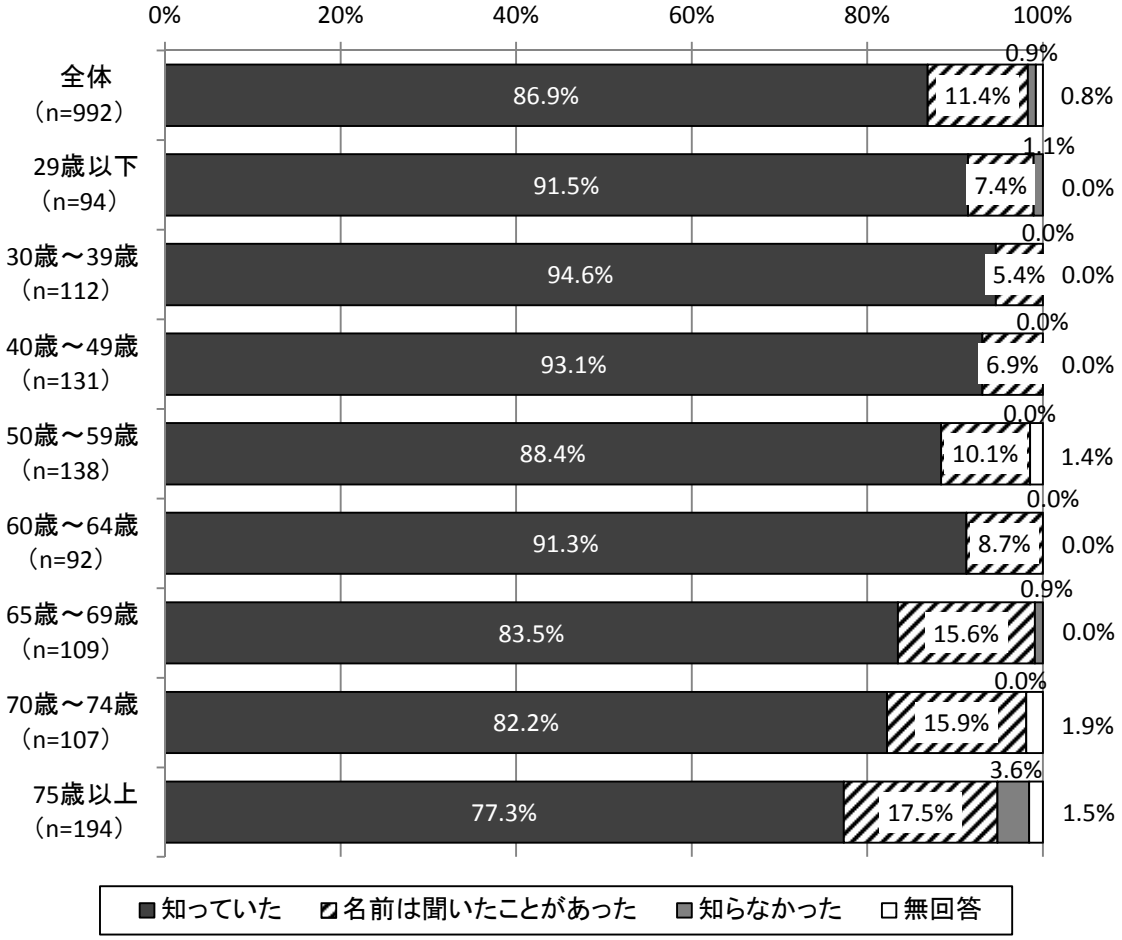
②ジェネリック医薬品に対する認知度

図表 150　ジェネリック医薬品に対する認知度（男女別）



（注）「全体」には、「性別」について無回答の 2 人が含まれる。

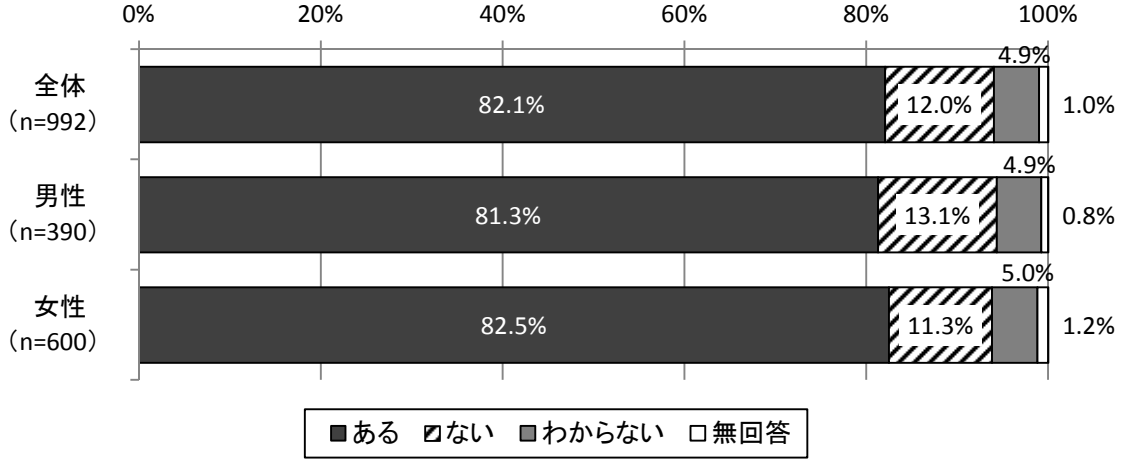
図表 151　ジェネリック医薬品に対する認知度（年齢階級別）



（注）「全体」には、「年齢」について無回答の 15 人が含まれる。

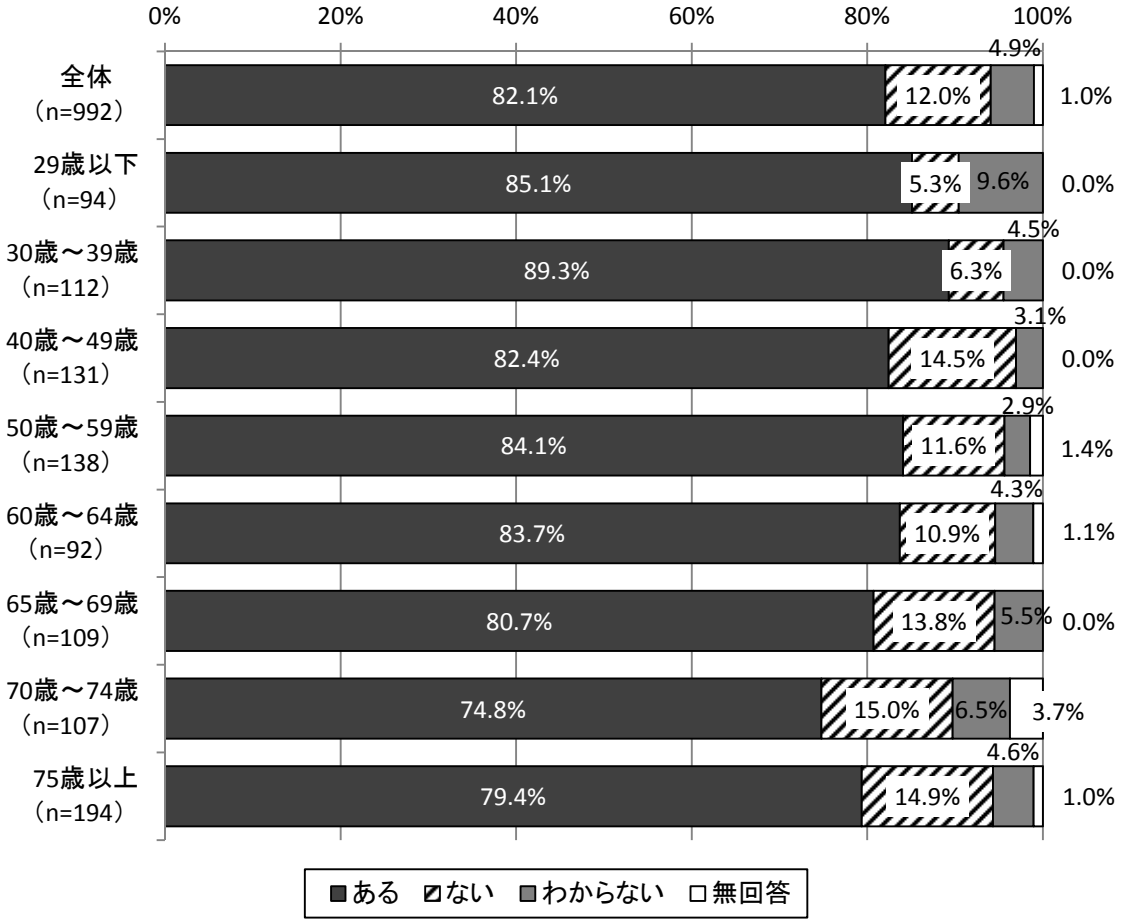
③ジェネリック医薬品の使用経験の有無

図表 152　ジェネリック医薬品の使用経験の有無（男女別）



（注）「全体」には、「性別」について無回答の 2 人が含まれる。

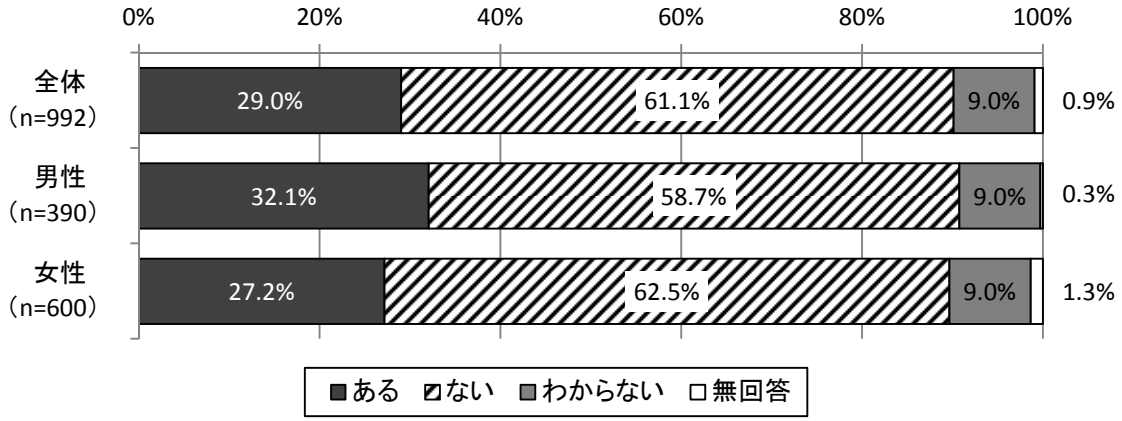
図表 153　ジェネリック医薬品の使用経験の有無（年齢階級別）



（注）「全体」には、「年齢」について無回答の 15 人が含まれる。

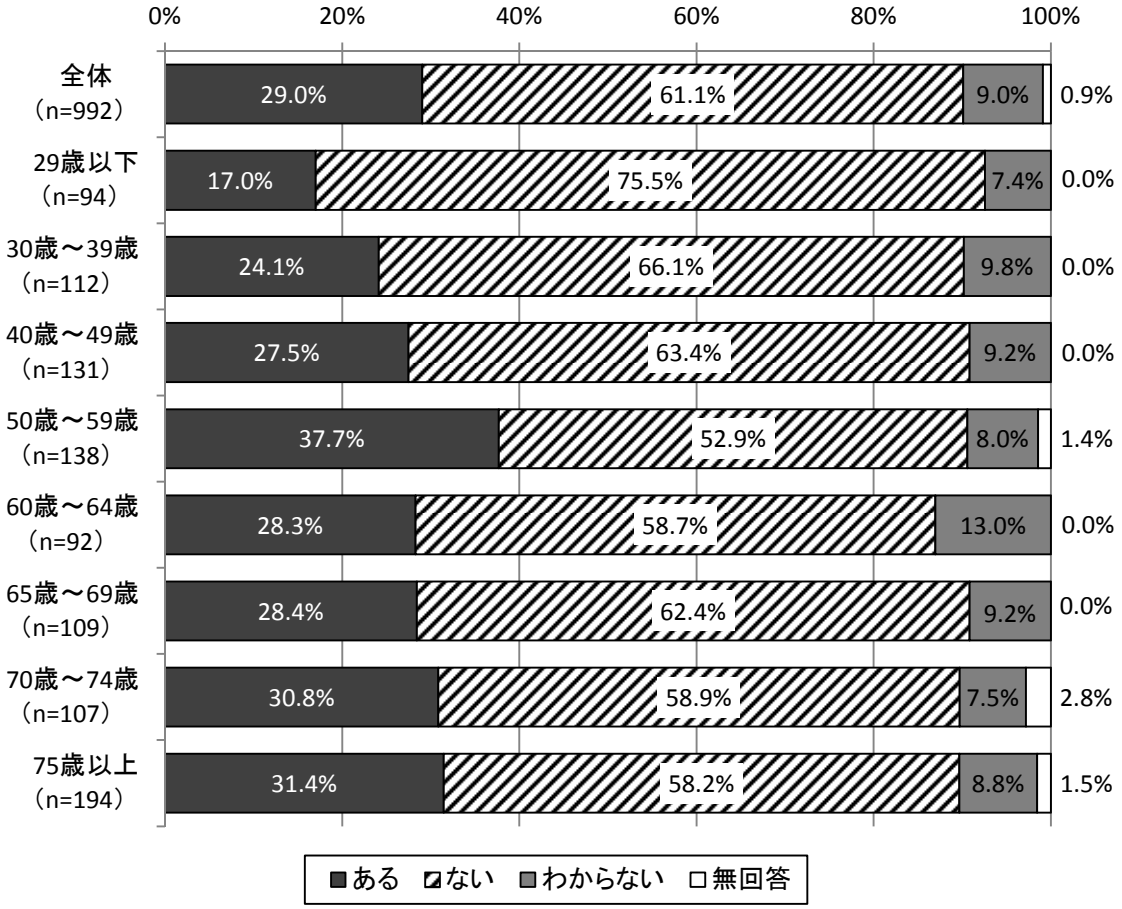
④ジェネリック医薬品について医師から説明を受けた経験の有無

図表 154　ジェネリック医薬品について医師から説明を受けた経験の有無（男女別）



（注）「全体」には、「性別」について無回答の 2 人が含まれる。

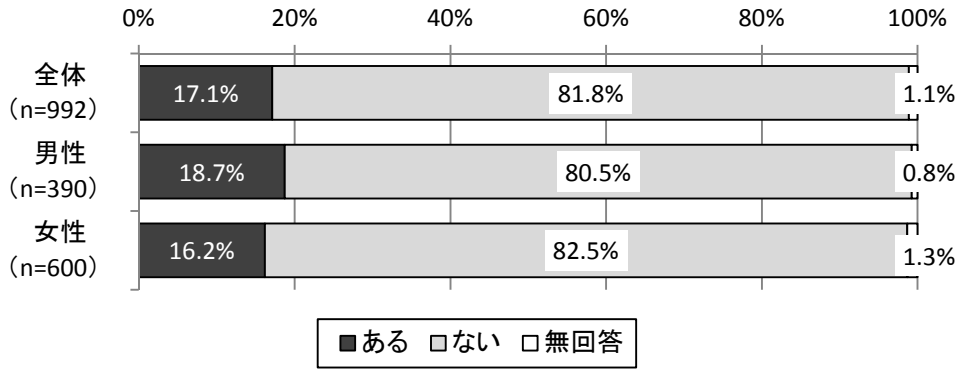
図表 155　ジェネリック医薬品について医師から説明を受けた経験の有無（年齢階級別）



（注）「全体」には、「年齢」について無回答の 15 人が含まれる。

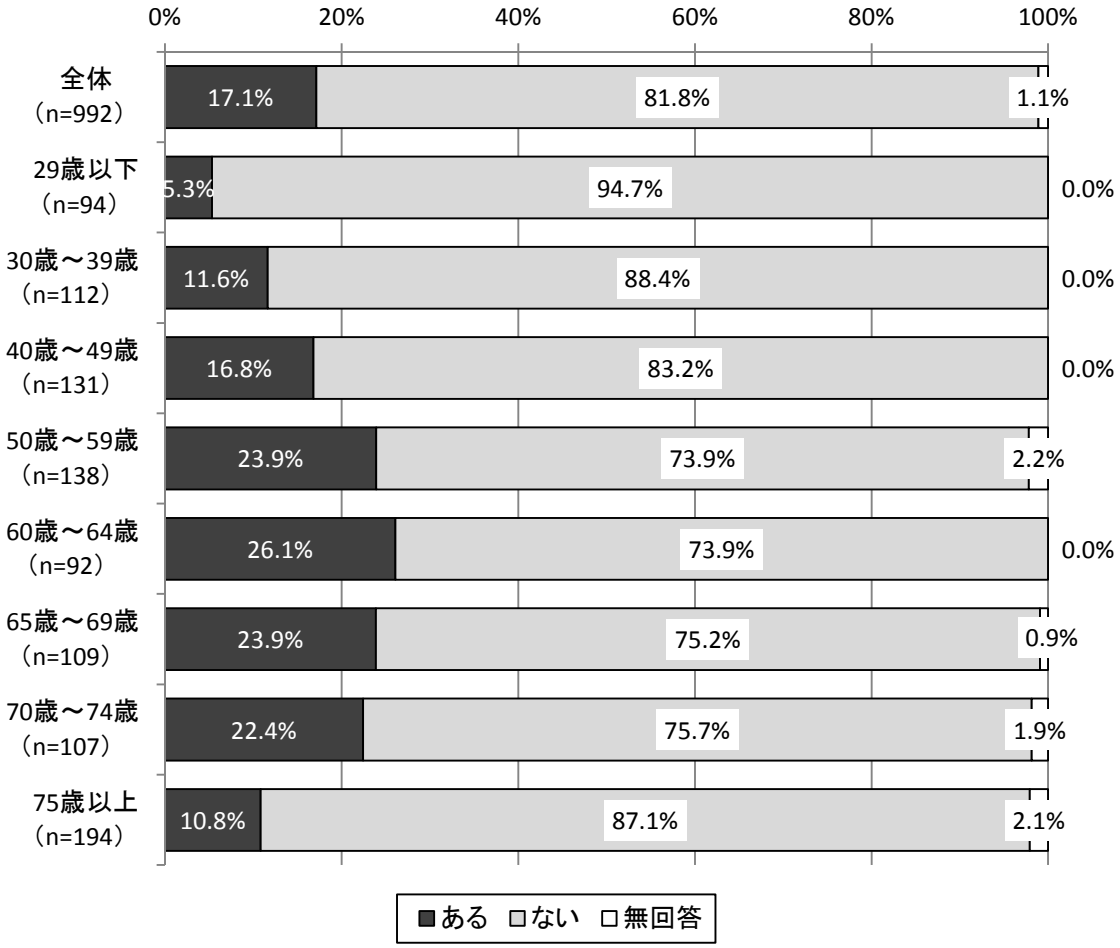
⑤ジェネリック医薬品の処方を医師に頼んだ経験の有無

図表 156　ジェネリック医薬品の処方を医師に頼んだ経験の有無（男女別）



（注）「全体」には、「性別」について無回答の 2 人が含まれる。

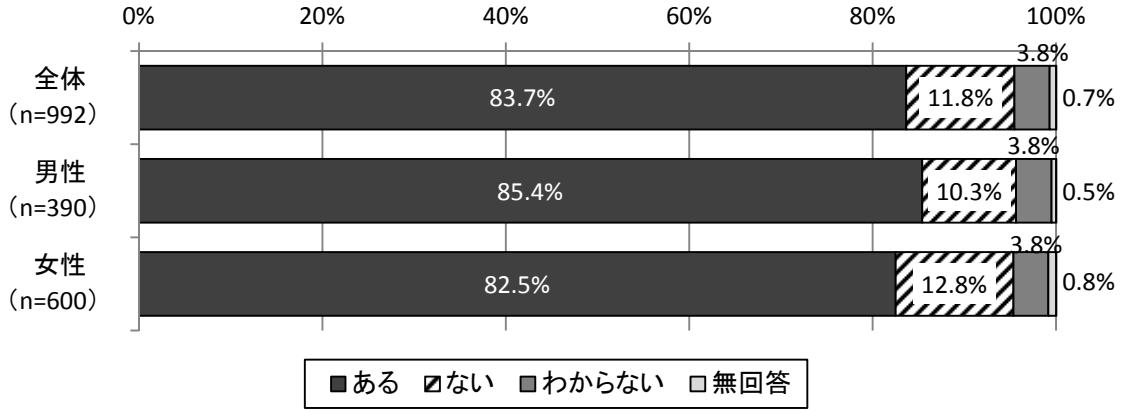
図表 157　ジェネリック医薬品の処方を医師に頼んだ経験の有無（年齢階級別）



（注）「全体」には、「年齢」について無回答の 15 人が含まれる。

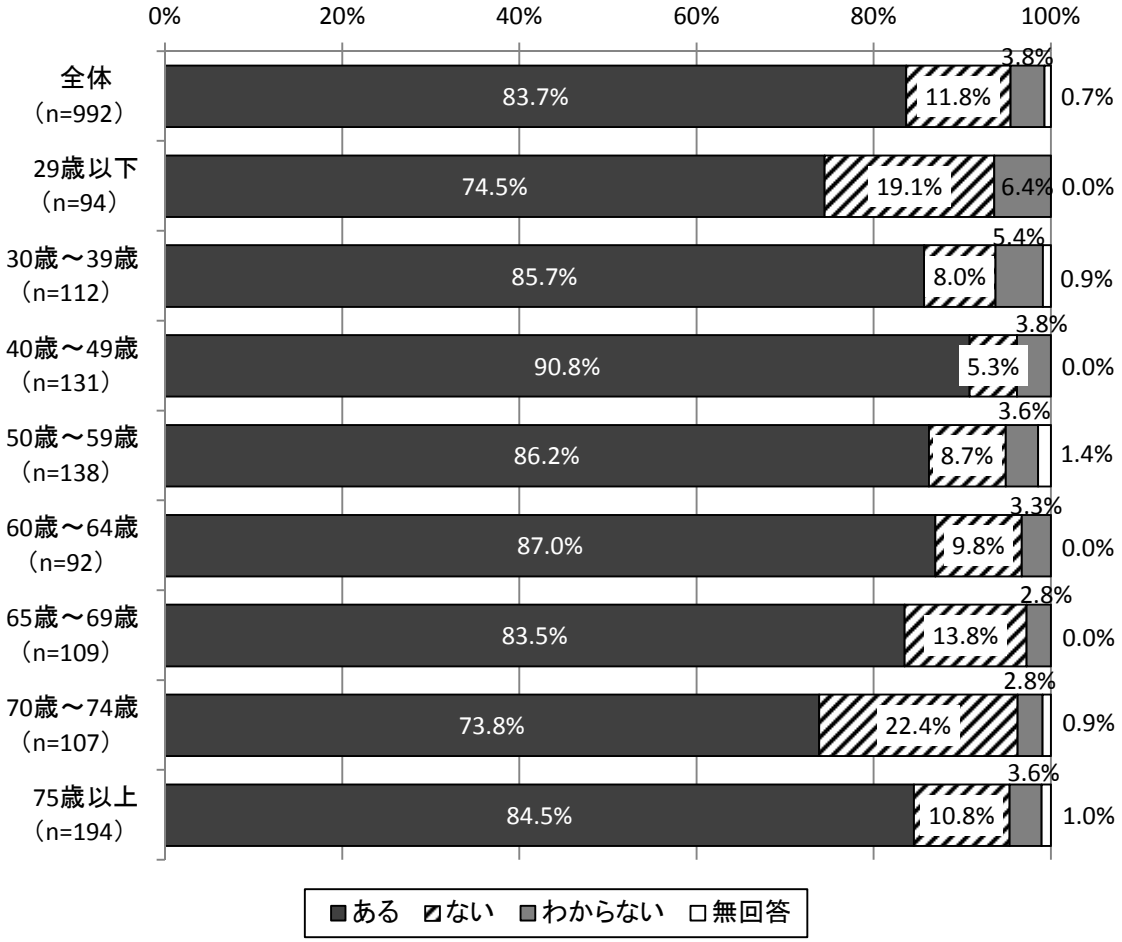
⑥ジェネリック医薬品について薬剤師から説明を受けた経験の有無

図表 158　ジェネリック医薬品について薬剤師から説明を受けた経験の有無（男女別）



（注）「全体」には、「性別」について無回答の 2 人が含まれる。

図表 159　ジェネリック医薬品について薬剤師から説明を受けた経験の有無（年齢階級別）

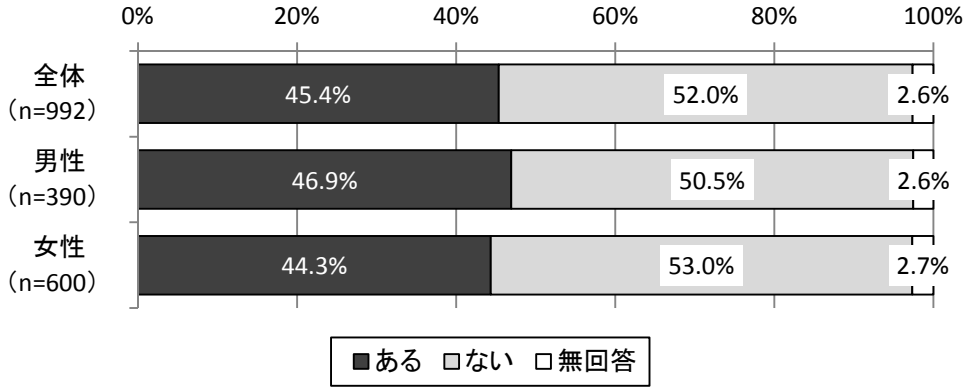


（注）「全体」には、「年齢」について無回答の 15 人が含まれる。

⑦ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだ経験等

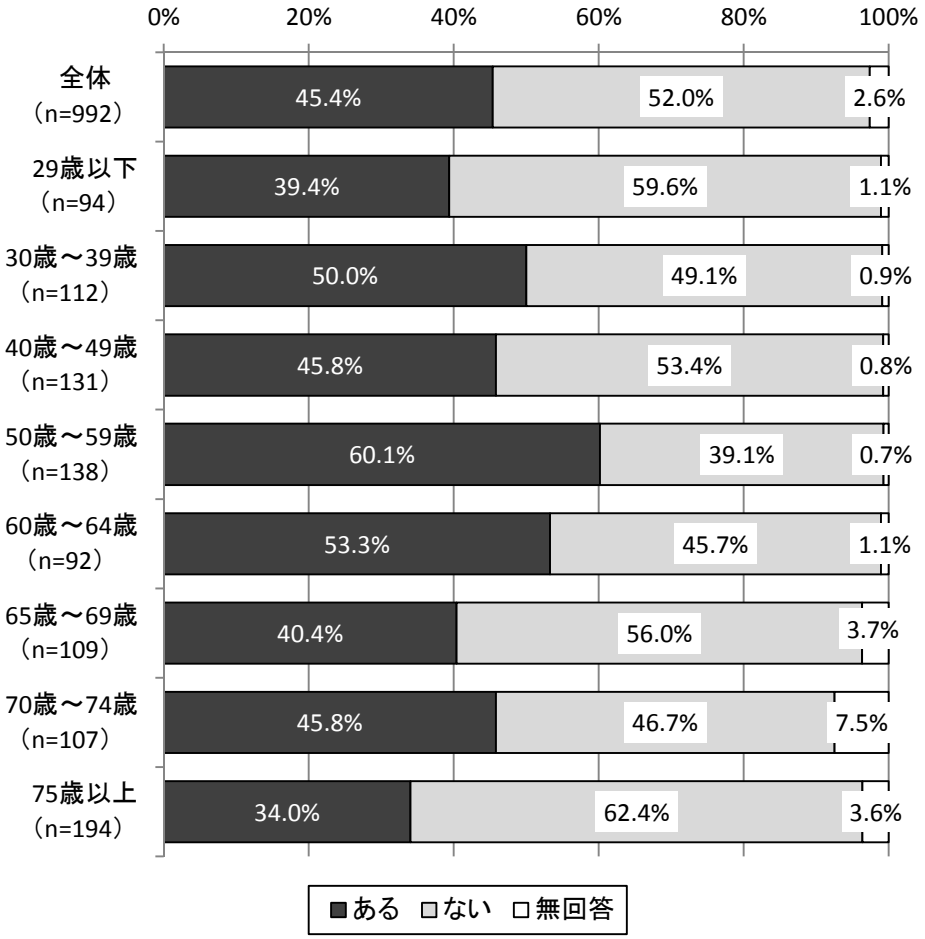
1）ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだ経験の有無

図表 160　ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだ経験の有無（男女別）



（注）「全体」には、「性別」について無回答の 2 人が含まれる。

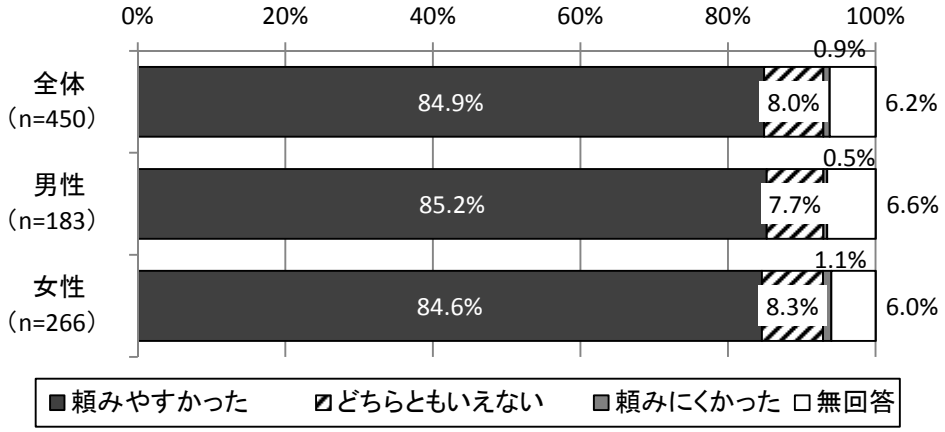
図表 161　ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだ経験の有無（年齢階級別）



（注）「全体」には、「年齢」について無回答の 15 人が含まれる。

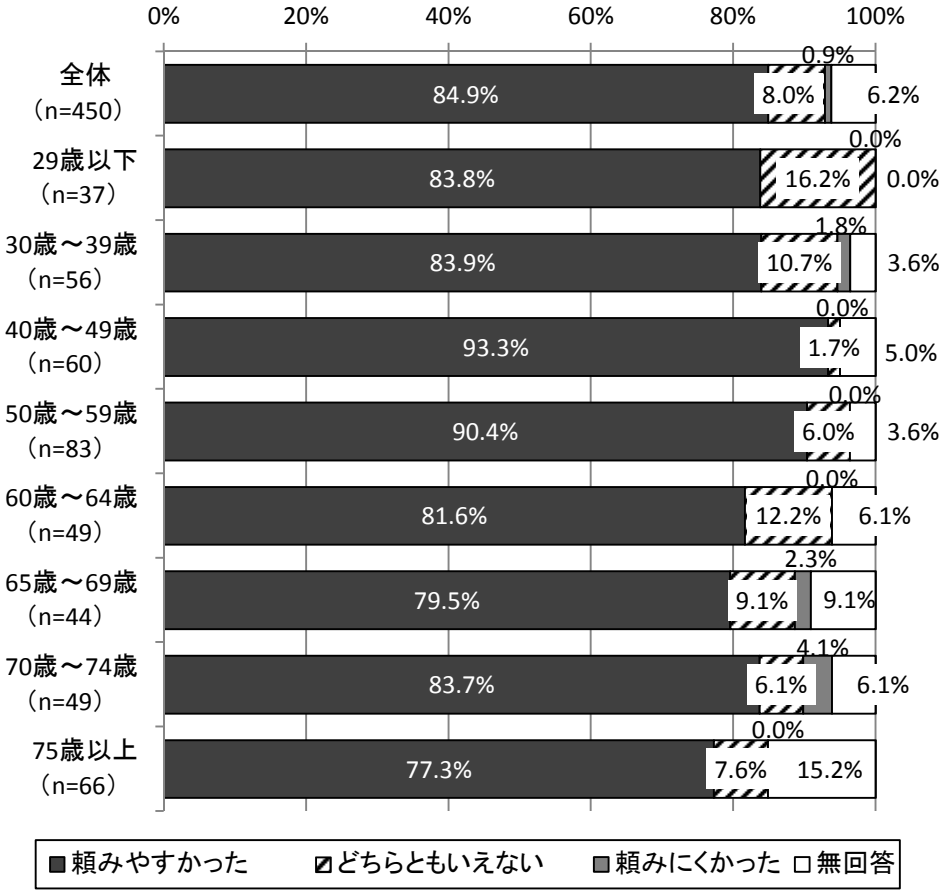
2）ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだ時の頼みやすさ

図表 162　ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだ時の頼みやすさ
（頼んだ経験のある人、男女別）



（注）「全体」には、「性別」について無回答の 1 人が含まれる。

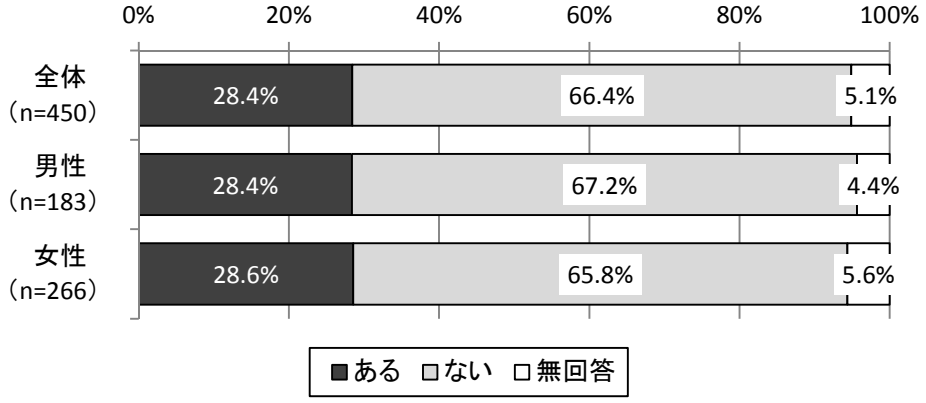
図表 163　ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだ時の頼みやすさ
（頼んだ経験のある人、年齢階級別）



（注）「全体」には、「年齢」について無回答の 6 人が含まれる。

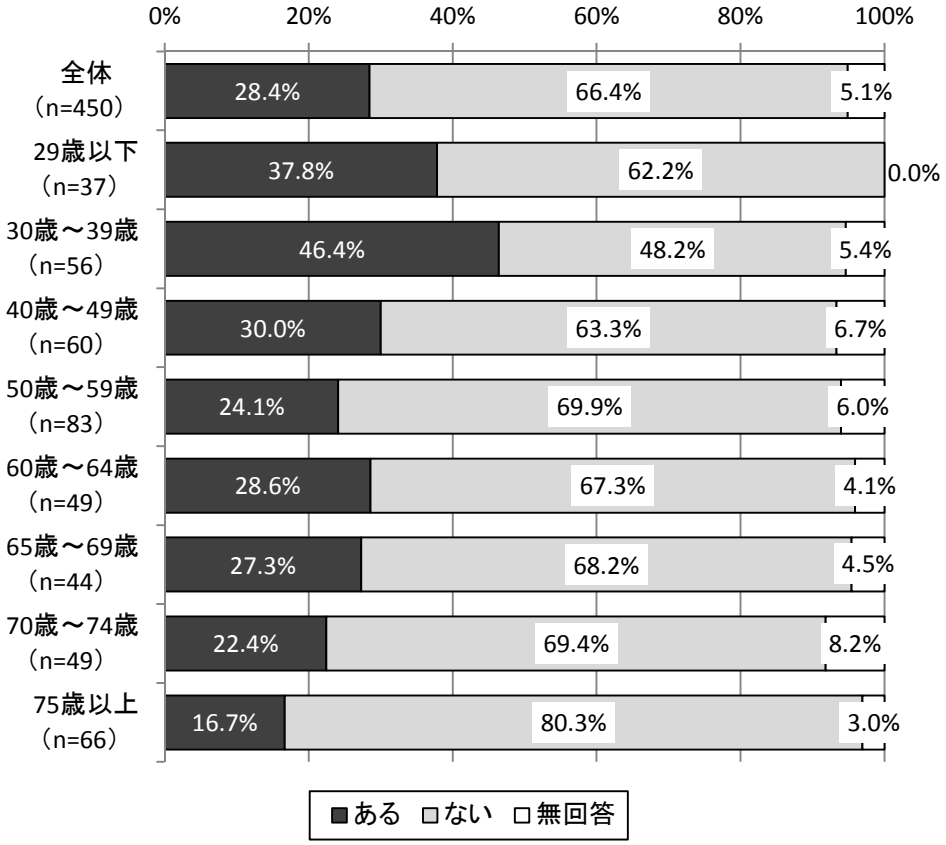
3）ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだが調剤してもらえなかった経験の有無（平成 26 年 4 月以降）

図表 164　ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだが調剤してもらえなかった経験の有無（平成 26 年 4 月以降）（頼んだ経験のある人、男女別）



（注）「全体」には、「性別」について無回答の 1 人が含まれる。

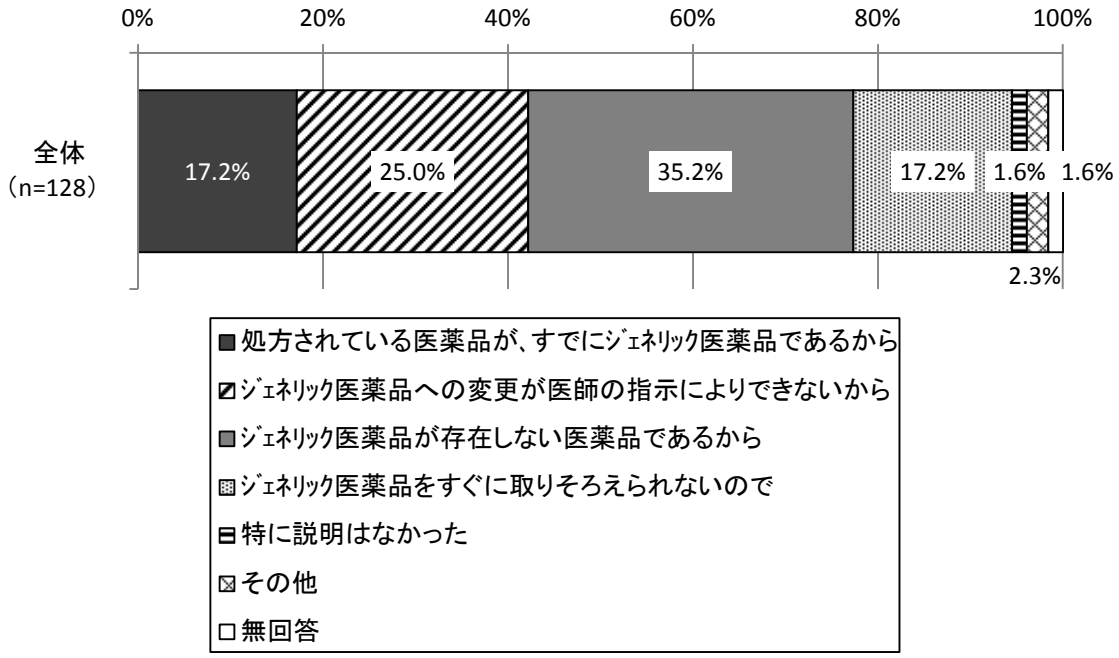
図表 165　ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだが調剤してもらえなかった経験の有無（平成 26 年 4 月以降）（頼んだ経験のある人、年齢階級別）



（注）「全体」には、「年齢」について無回答の 6 人が含まれる。

4）ジェネリック医薬品の調剤をしてもらえなかった時に薬局から説明を受けた内容

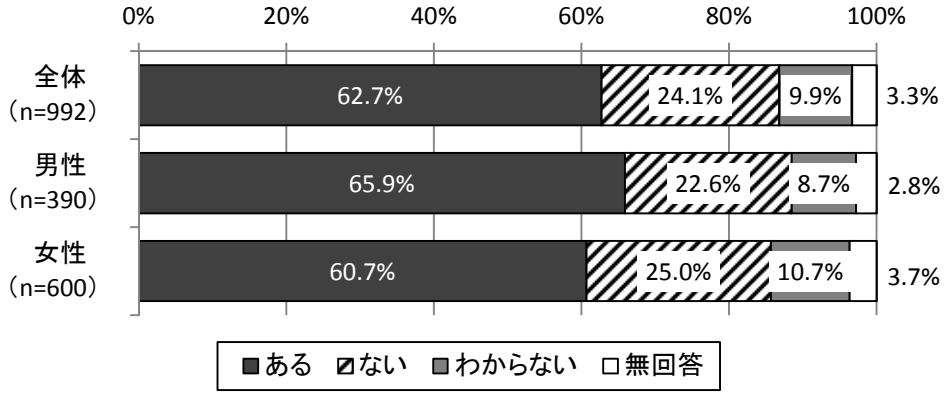
図表 166　ジェネリック医薬品の調剤をしてもらえなかった時に薬局から説明を受けた内容（頼んだが調剤してもらえなかった経験のある人）



⑧今までに先発医薬品からジェネリック医薬品に変更した薬の有無等

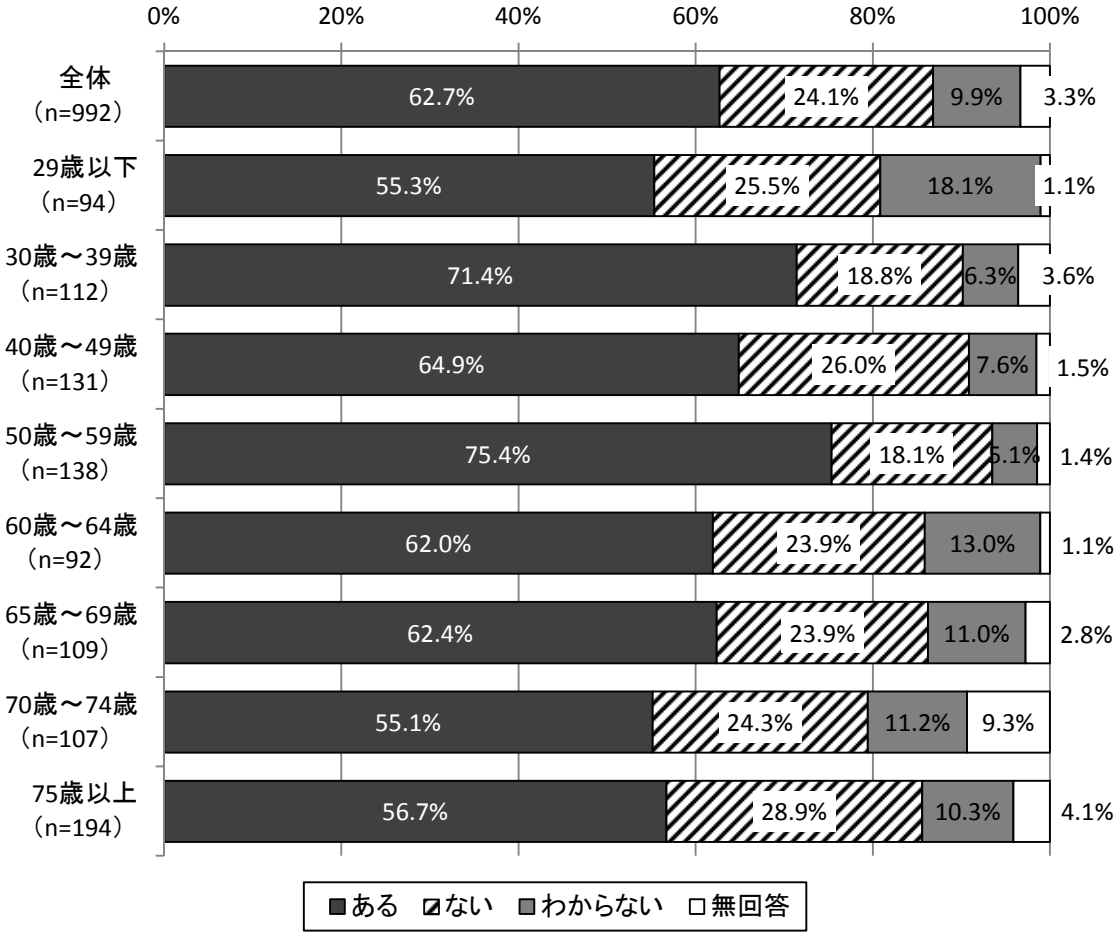
1）今までに先発医薬品からジェネリック医薬品に変更した薬の有無

図表 167　今までに先発医薬品からジェネリック医薬品に変更した薬の有無（男女別）



（注）「全体」には、「性別」について無回答の 2 人が含まれる。

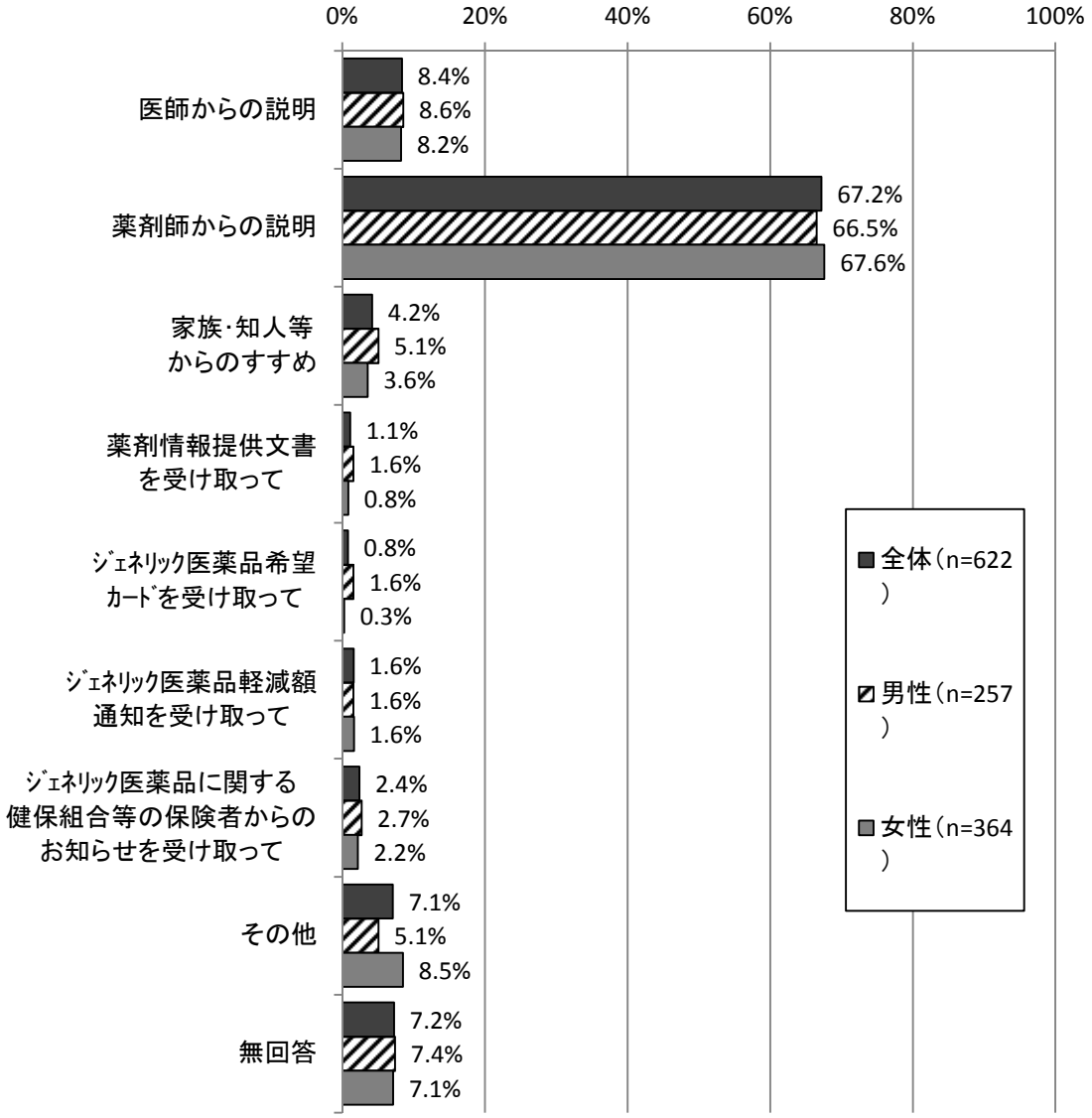
図表 168　今までに先発医薬品からジェネリック医薬品に変更した薬の有無（年齢階級別）



（注）「全体」には、「年齢」について無回答の 15 人が含まれる。

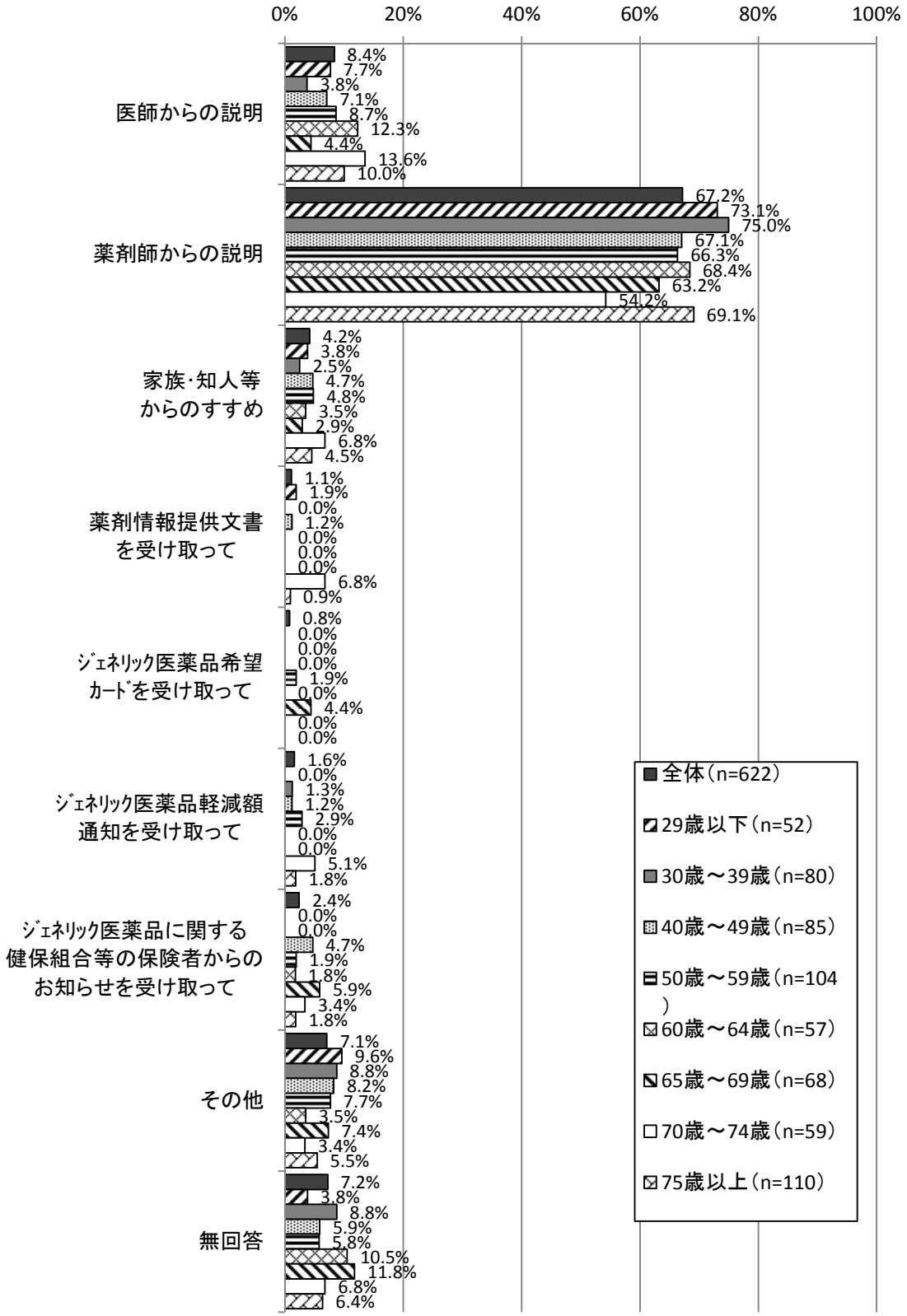
2）先発医薬品からジェネリック医薬品に変更したきっかけ

図表 169　先発医薬品からジェネリック医薬品に変更したきっかけ
（今までに先発医薬品からジェネリック医薬品に変更した薬がある人、男女別、単数回答）



（注）「全体」には、「性別」について無回答の 1 人が含まれる。

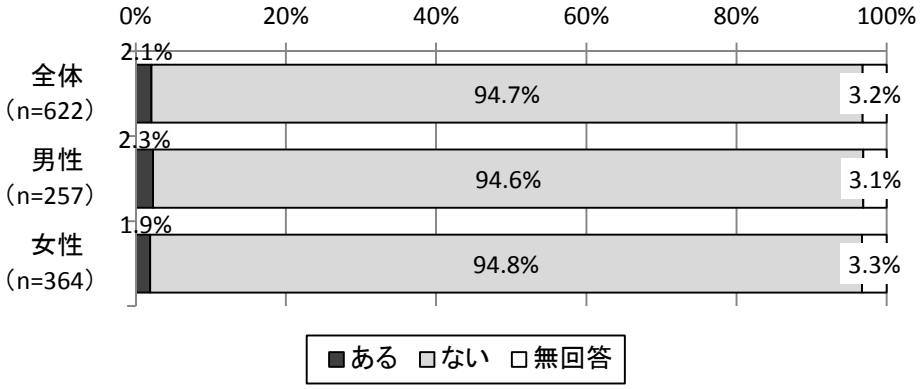
図表 170　先発医薬品からジェネリック医薬品に変更したきっかけ（今までに先発医薬品からジェネリック医薬品に変更した薬がある人、年齢階級別、単数回答）



（注）「全体」には、「年齢」について無回答の 7 人が含まれる。

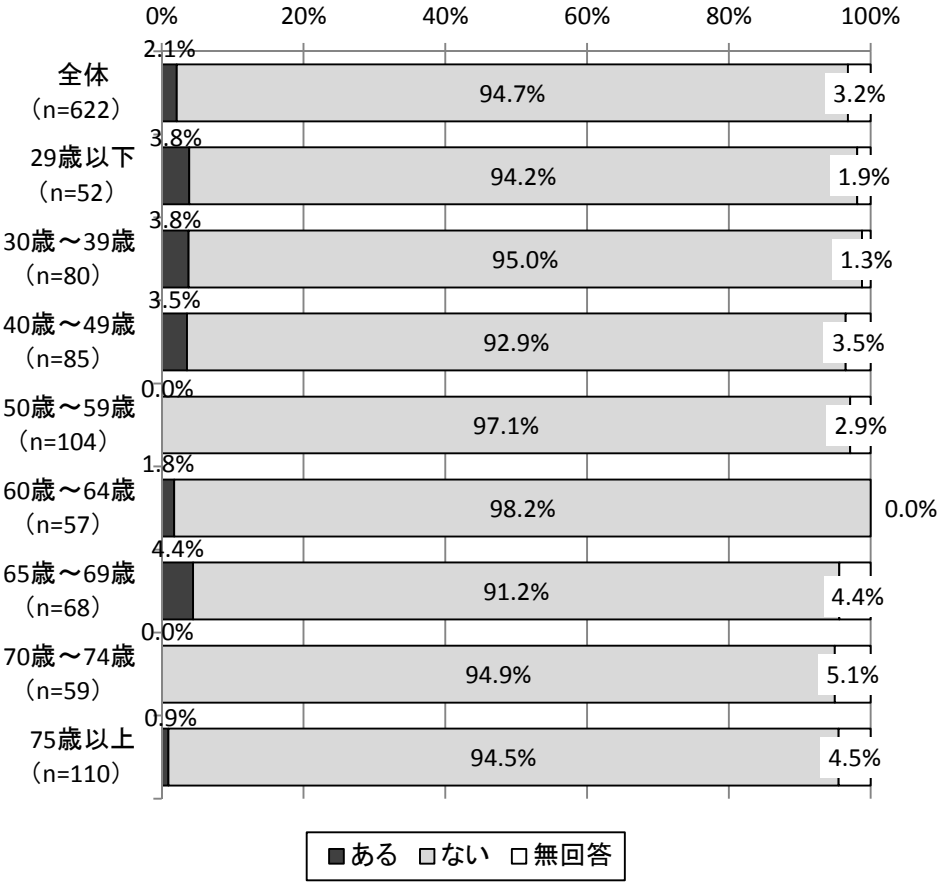
3）先発医薬品からジェネリック医薬品変更時における体調不良の経験の有無

図表 171　先発医薬品からジェネリック医薬品変更時における体調不良の経験の有無
（今までに先発医薬品からジェネリック医薬品に変更した薬がある人、男女別）



（注）「全体」には、「性別」について無回答の 1 人が含まれる。

図表 172　先発医薬品からジェネリック医薬品変更時における体調不良の経験の有無
（今までに先発医薬品からジェネリック医薬品に変更した薬がある人、年齢階級別）



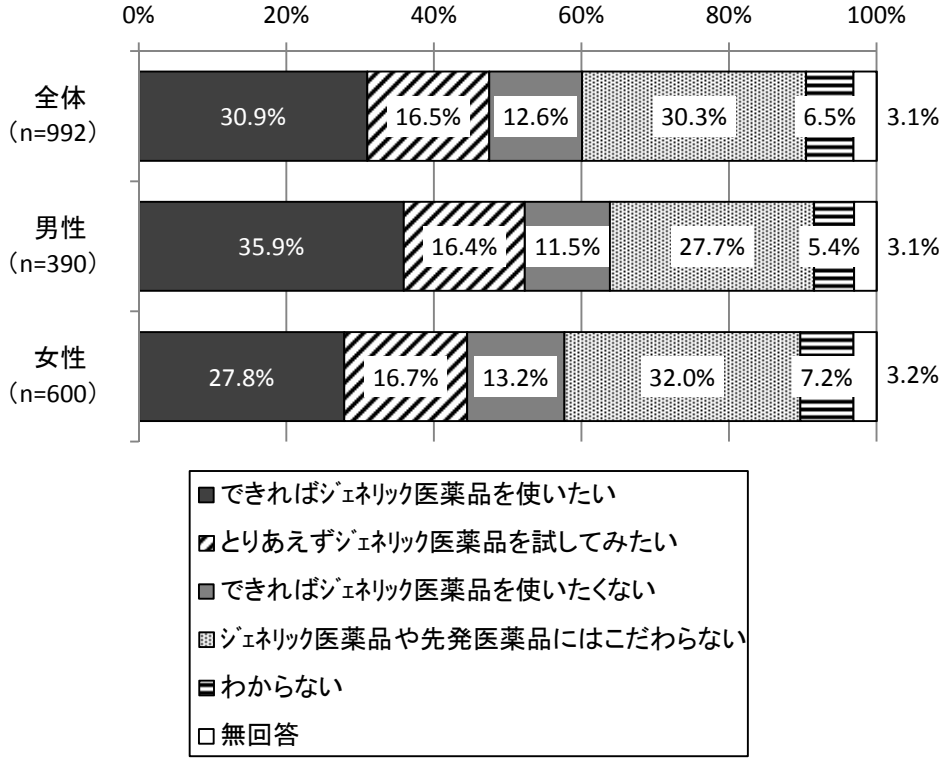
（注）「全体」には、「年齢」について無回答の 7 人が含まれる。

（４）ジェネリック使用に関する経験・意向等

①ジェネリック医薬品に関する使用意向等

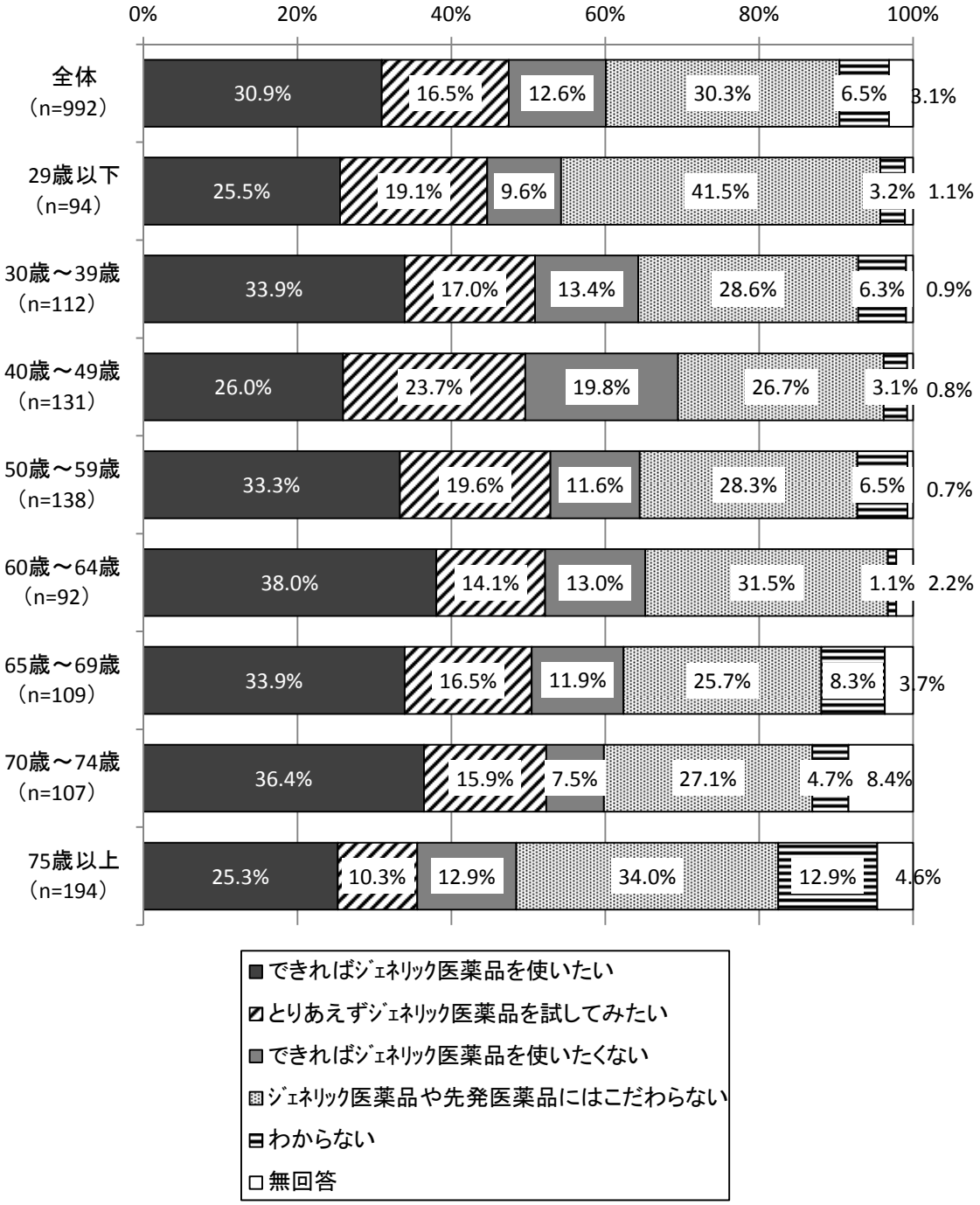
1）ジェネリック医薬品の使用に関する考え

図表 173　ジェネリック医薬品の使用に関する考え（男女別）



（注）「全体」には、「性別」について無回答の 2 人が含まれる。

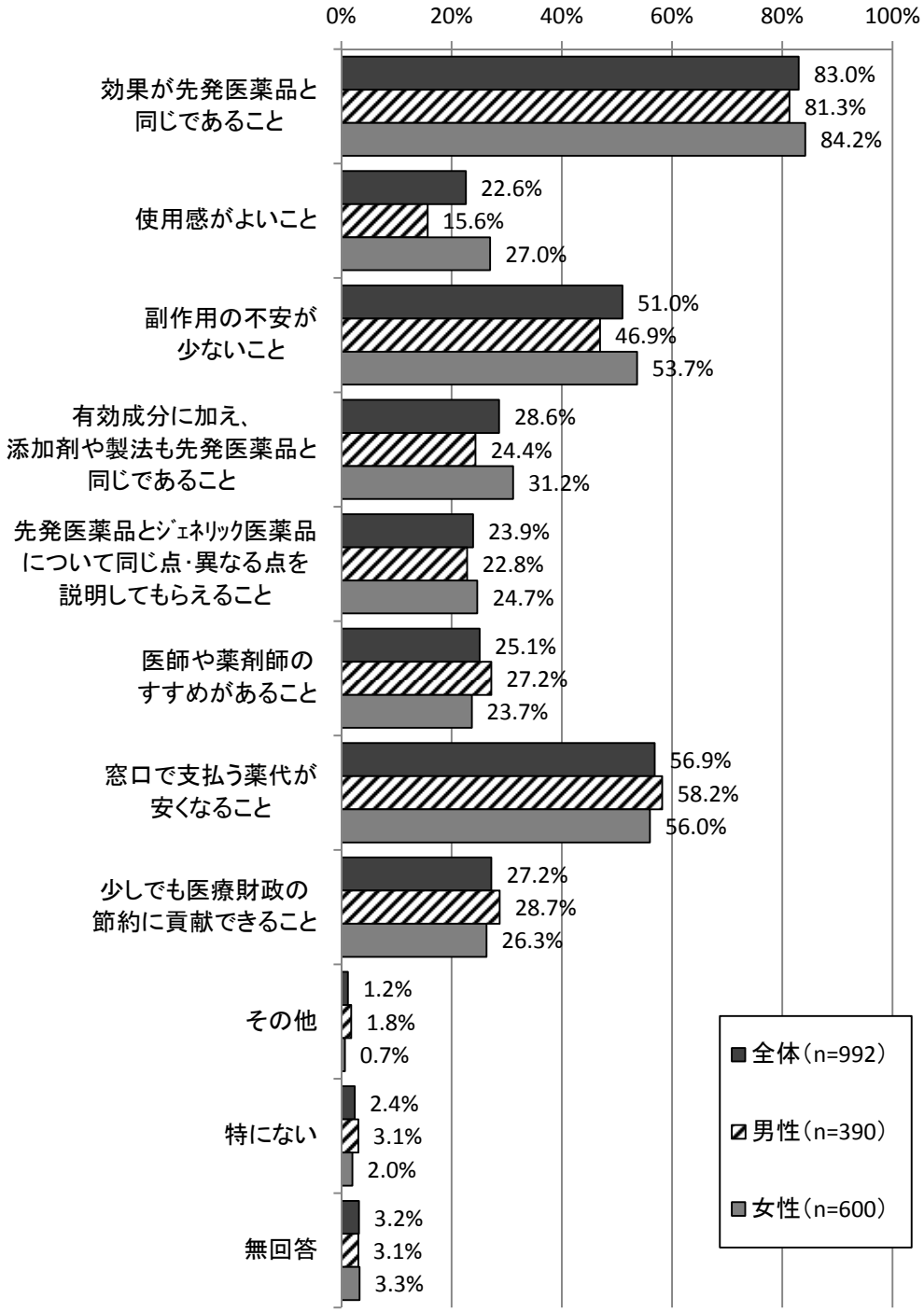
図表 174　ジェネリック医薬品の使用に関する考え（年齢階級別）



（注）「全体」には、「年齢」について無回答の 15 人が含まれる。

2）ジェネリック医薬品を使用する上で重要なこと

図表 175　ジェネリック医薬品を使用する上で重要なこと（男女別、複数回答）



（注）「全体」には、「性別」について無回答の 2 人が含まれる。

図表 176　ジェネリック医薬品を使用する上で重要なこと（年齢階級別、複数回答）

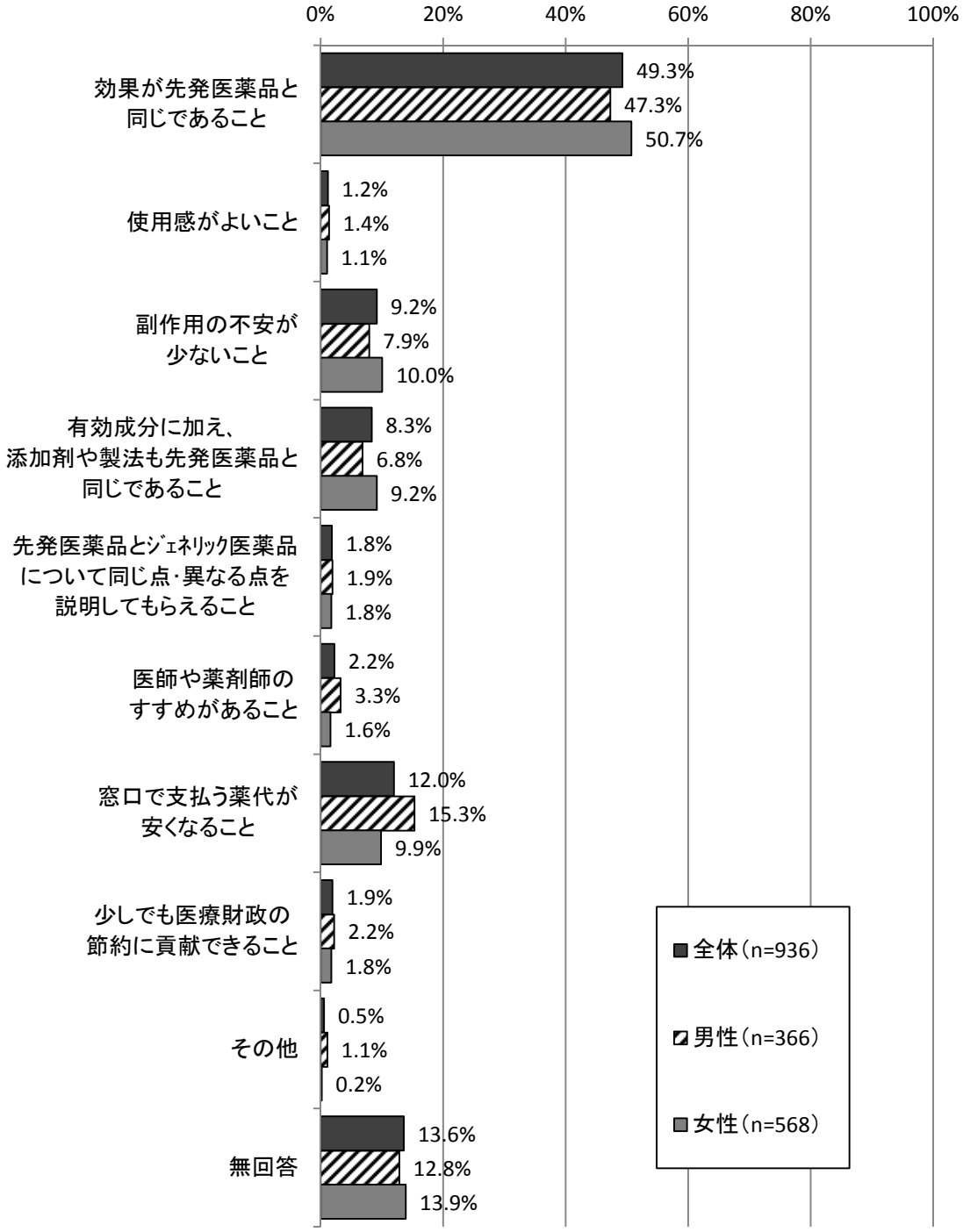
（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	効果が先発医薬品と同じであること	使用感がよいこと	副作用の不安が少ないこと	有効成分に加え、添加剤や製法も先発医薬品と同じであること	先発医薬品とジェネリック医薬品について同じ点・異なる点を説明してもらえること	医師や薬剤師のすすめがあること	窓口で支払う薬代が安くなること	少しでも医療財政の節約に貢献できること	その他	特にない	無回答
全体	992	823	224	506	284	237	249	564	270	12	24	32
	100.0	83.0	22.6	51.0	28.6	23.9	25.1	56.9	27.2	1.2	2.4	3.2
29歳以下	94	80	35	45	18	21	17	65	21	1	1	2
	100.0	85.1	37.2	47.9	19.1	22.3	18.1	69.1	22.3	1.1	1.1	2.1
30～39歳	112	101	32	54	33	21	17	69	23	4	1	2
	100.0	90.2	28.6	48.2	29.5	18.8	15.2	61.6	20.5	3.6	0.9	1.8
40～49歳	131	109	33	73	34	23	23	80	30	0	4	2
	100.0	83.2	25.2	55.7	26.0	17.6	17.6	61.1	22.9	0.0	3.1	1.5
50～59歳	138	123	41	90	45	40	41	91	38	1	3	0
	100.0	89.1	29.7	65.2	32.6	29.0	29.7	65.9	27.5	0.7	2.2	0.0
60～64歳	92	78	16	50	28	23	30	59	32	1	0	1
	100.0	84.8	17.4	54.3	30.4	25.0	32.6	64.1	34.8	1.1	0.0	1.1
65～69歳	109	89	12	51	41	32	37	54	29	1	2	4
	100.0	81.7	11.0	46.8	37.6	29.4	33.9	49.5	26.6	0.9	1.8	3.7
70～74歳	107	86	13	41	31	31	24	54	30	1	2	9
	100.0	80.4	12.1	38.3	29.0	29.0	22.4	50.5	28.0	0.9	1.9	8.4
75歳以上	194	146	41	95	52	43	59	88	66	2	11	9
	100.0	75.3	21.1	49.0	26.8	22.2	30.4	45.4	34.0	1.0	5.7	4.6

（注）「全体」には、「年齢」について無回答の 15 人が含まれる。

3）ジェネリック医薬品を使用する上で**最も**重要なこと

図表 177　ジェネリック医薬品を使用する上で**最も**重要なこと（男女別、単数回答）



（注）・「全体」には、「性別」について無回答の 2 人が含まれる。
・「重要なこと」で「特にない」「無回答」であった回答を除く 936 人を集計対象とした。

図表 178　ジェネリック医薬品を使用する上で**最も**重要なこと（年齢階級別、単数回答）

（単位：上段「人」、下段「%」）

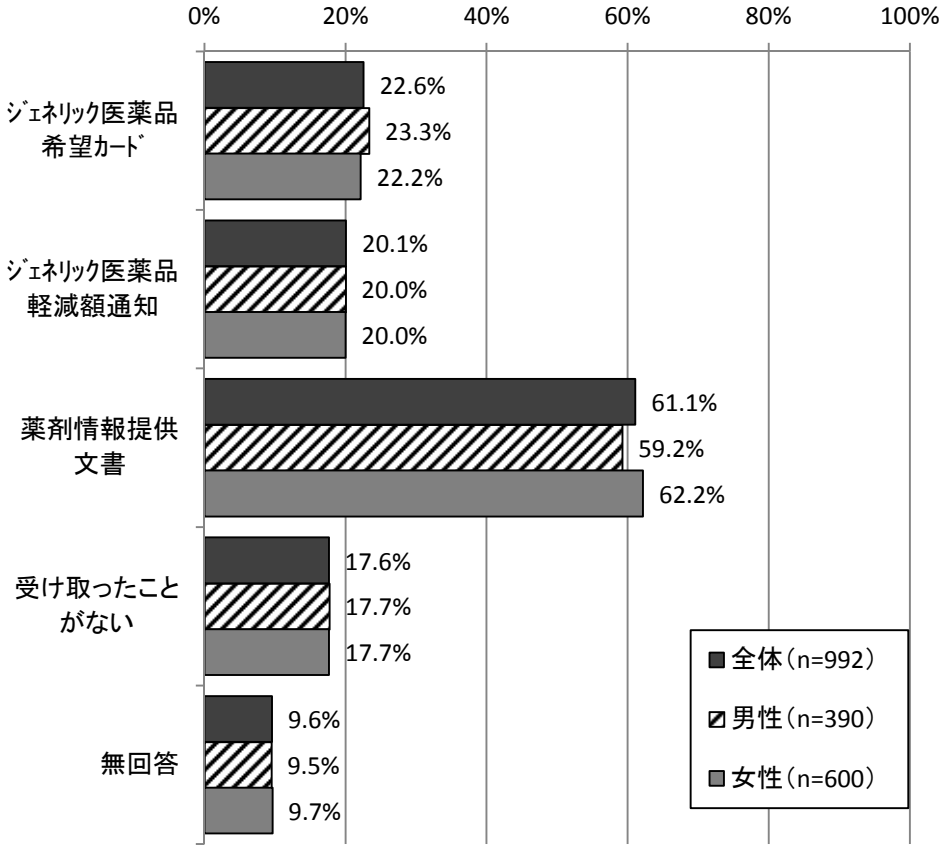
	総数	効果が先発医薬品と同じであること	使用感がよいこと	副作用の不安が少ないこと	有効成分に加え、添加剤や製法も先発医薬品と同じであること	先発医薬品とジェネリック医薬品について同じ点・異なる点を説明してもらえること	医師や薬剤師のすすめがあること	窓口で支払う薬代が安くなること	少しでも医療財政の節約に貢献できること	その他	無回答
全体	936	461	11	86	78	17	21	112	18	5	127
	100.0	49.3	1.2	9.2	8.3	1.8	2.2	12.0	1.9	0.5	13.6
29 歳以下	91	46	3	8	4	2	1	13	0	0	14
	100.0	50.5	3.3	8.8	4.4	2.2	1.1	14.3	0.0	0.0	15.4
30～39 歳	109	52	2	13	9	0	1	11	3	3	15
	100.0	47.7	1.8	11.9	8.3	0.0	0.9	10.1	2.8	2.8	13.8
40～49 歳	125	64	2	14	8	0	2	19	1	0	15
	100.0	51.2	1.6	11.2	6.4	0.0	1.6	15.2	0.8	0.0	12.0
50～59 歳	135	71	0	12	8	2	1	15	3	0	23
	100.0	52.6	0.0	8.9	5.9	1.5	0.7	11.1	2.2	0.0	17.0
60～64 歳	91	44	1	9	6	4	2	12	1	0	12
	100.0	48.4	1.1	9.9	6.6	4.4	2.2	13.2	1.1	0.0	13.2
65～69 歳	103	45	2	5	12	3	4	15	1	1	15
	100.0	43.7	1.9	4.9	11.7	2.9	3.9	14.6	1.0	1.0	14.6
70～74 歳	96	49	1	5	9	4	4	11	1	0	12
	100.0	51.0	1.0	5.2	9.4	4.2	4.2	11.5	1.0	0.0	12.5
75 歳以上	174	85	0	17	20	2	6	15	8	0	21
	100.0	48.9	0.0	9.8	11.5	1.1	3.4	8.6	4.6	0.0	12.1

（注）・「全体」には、「年齢」について無回答の 12 人が含まれる。
・「重要なこと」で「特にない」「無回答」であった回答を除く 936 人を集計対象とした。

②ジェネリック医薬品に関する文書等に関する経験・意向等

1）今までに受け取ったことがあるジェネリック医薬品に関する文書等

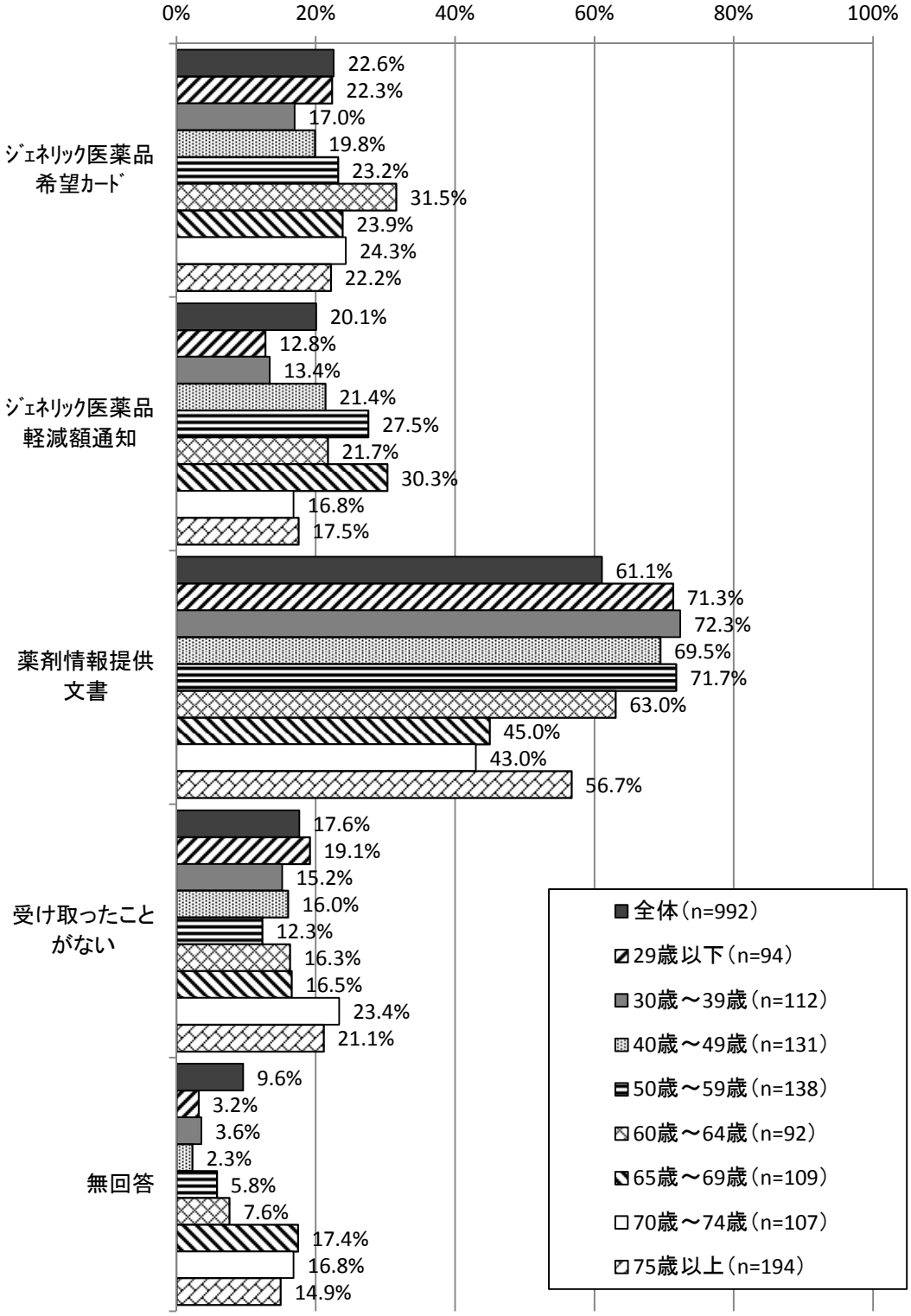
図表 179　ジェネリック医薬品に関する文書等の受取り経験の有無（男女別、複数回答）



（注）「全体」には、「性別」について無回答の 2 人が含まれる。

図表 180　ジェネリック医薬品に関する文書等の受取り経験の有無

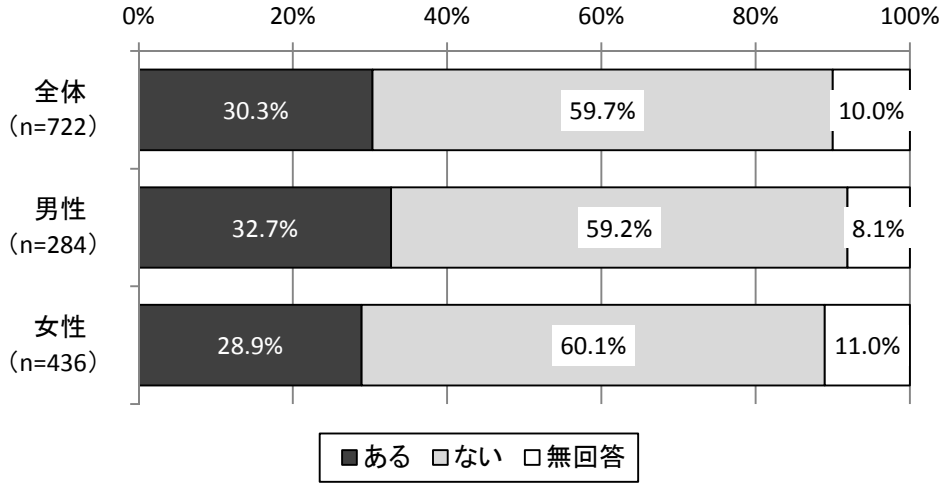
（年齢階級別、複数回答）



（注）「全体」には、「年齢」について無回答の 15 人が含まれる。

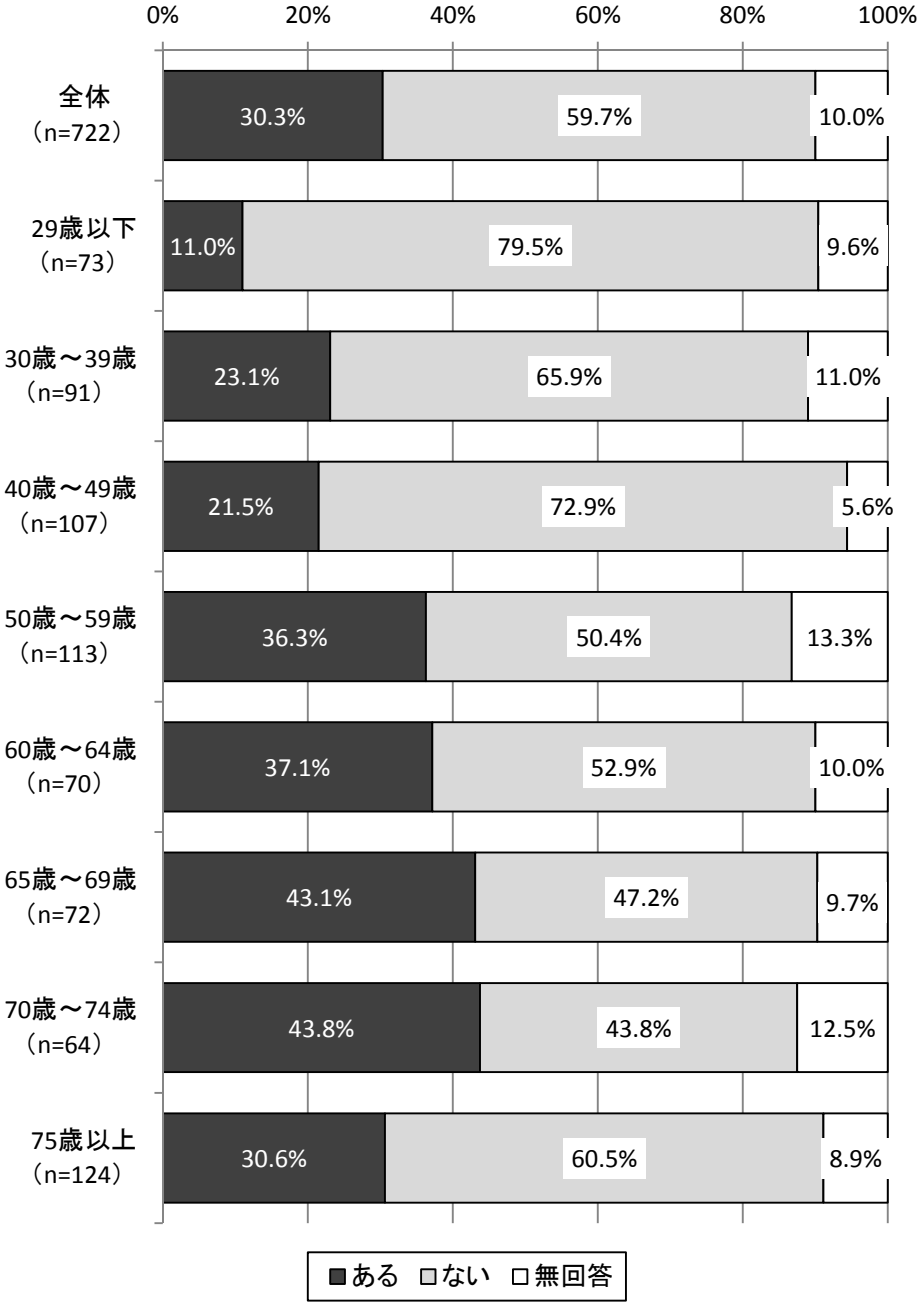
2）ジェネリック医薬品に関する文書等をきっかけとした相談・質問経験の有無

図表 181 ジェネリック医薬品に関する文書等をきっかけとした相談・質問経験の有無
（ジェネリック医薬品に関する文書等の受取り経験のある人、男女別、単数回答）



（注）「全体」には、「性別」について無回答の 2 人が含まれる。

図表 182 ジェネリック医薬品に関する文書等をきっかけとした相談・質問経験の有無
（ジェネリック医薬品に関する文書等の受取り経験のある人、年齢階級別、単数回答）

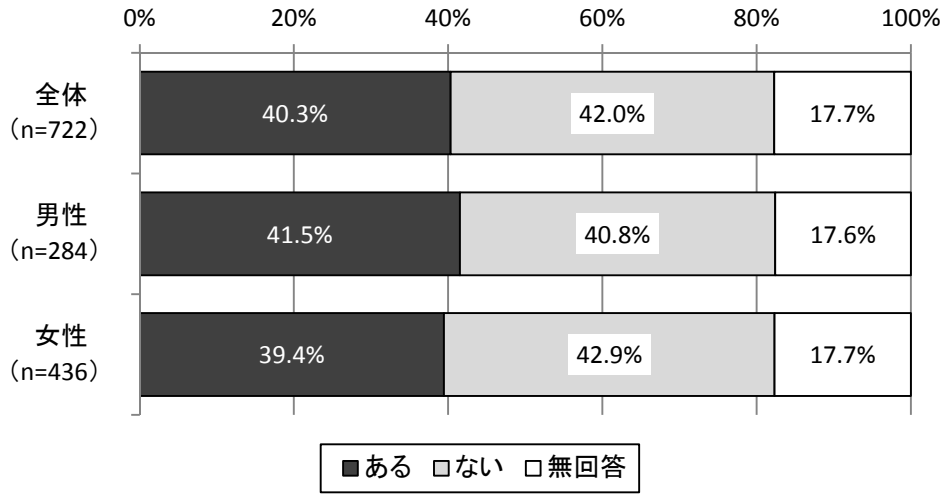


（注）「全体」には、「年齢」について無回答の 8 人が含まれる。

3）ジェネリック医薬品に関する文書等をきっかけとしたジェネリック医薬品使用経験の有無

図表 183　ジェネリック医薬品に関する文書等をきっかけとしたジェネリック医薬品使用経験の有無

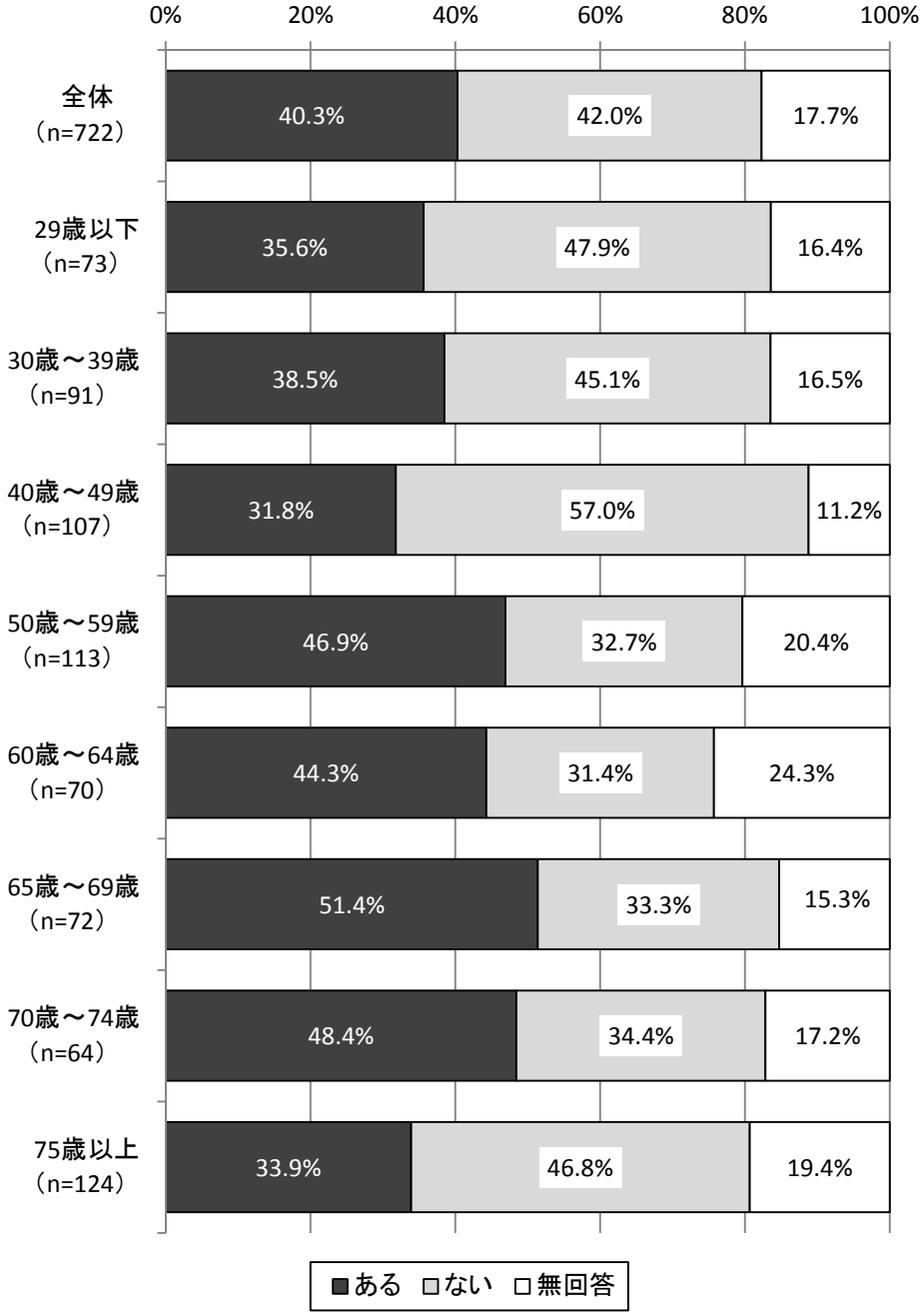
（ジェネリック医薬品に関する文書等の受取り経験のある人、男女別、単数回答）



（注）「全体」には、「性別」について無回答の 2 人が含まれる。

図表 184　ジェネリック医薬品に関する文書等をきっかけとしたジェネリック医薬品使用経験の有無

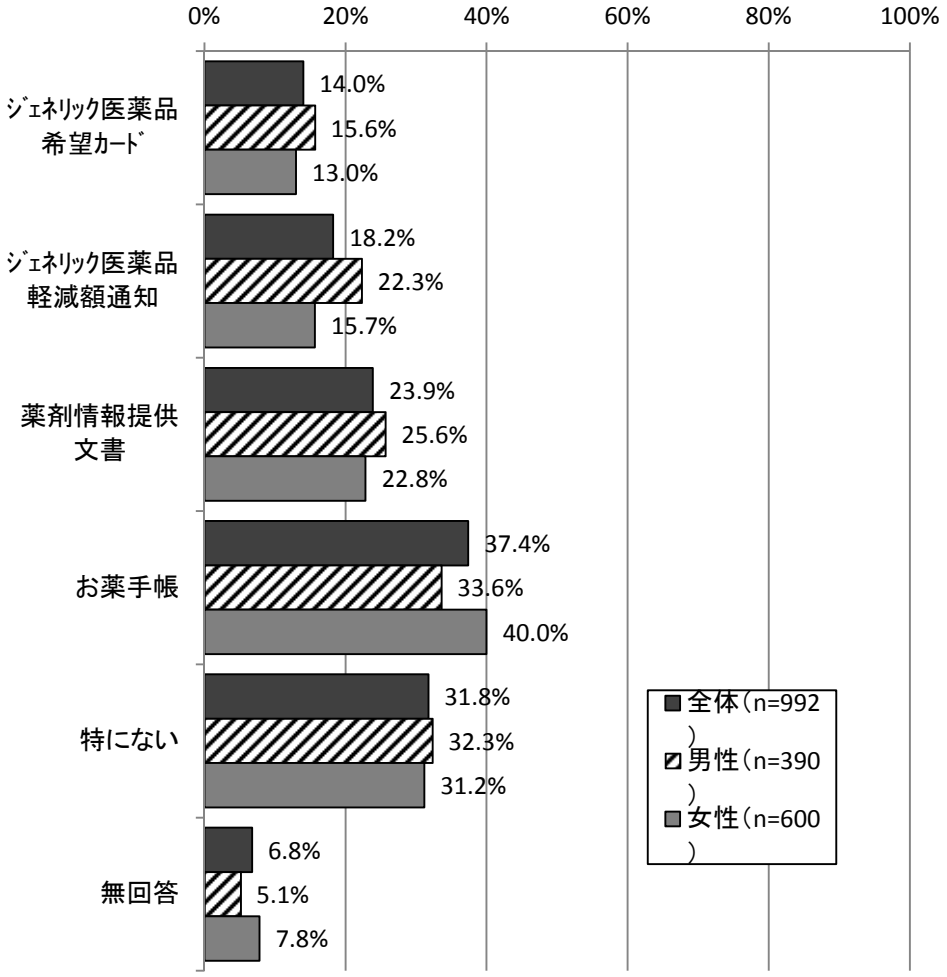
（ジェネリック医薬品に関する文書等の受取り経験のある人、年齢階級別、単数回答）



（注）「全体」には、「年齢」について無回答の 8 人が含まれる。

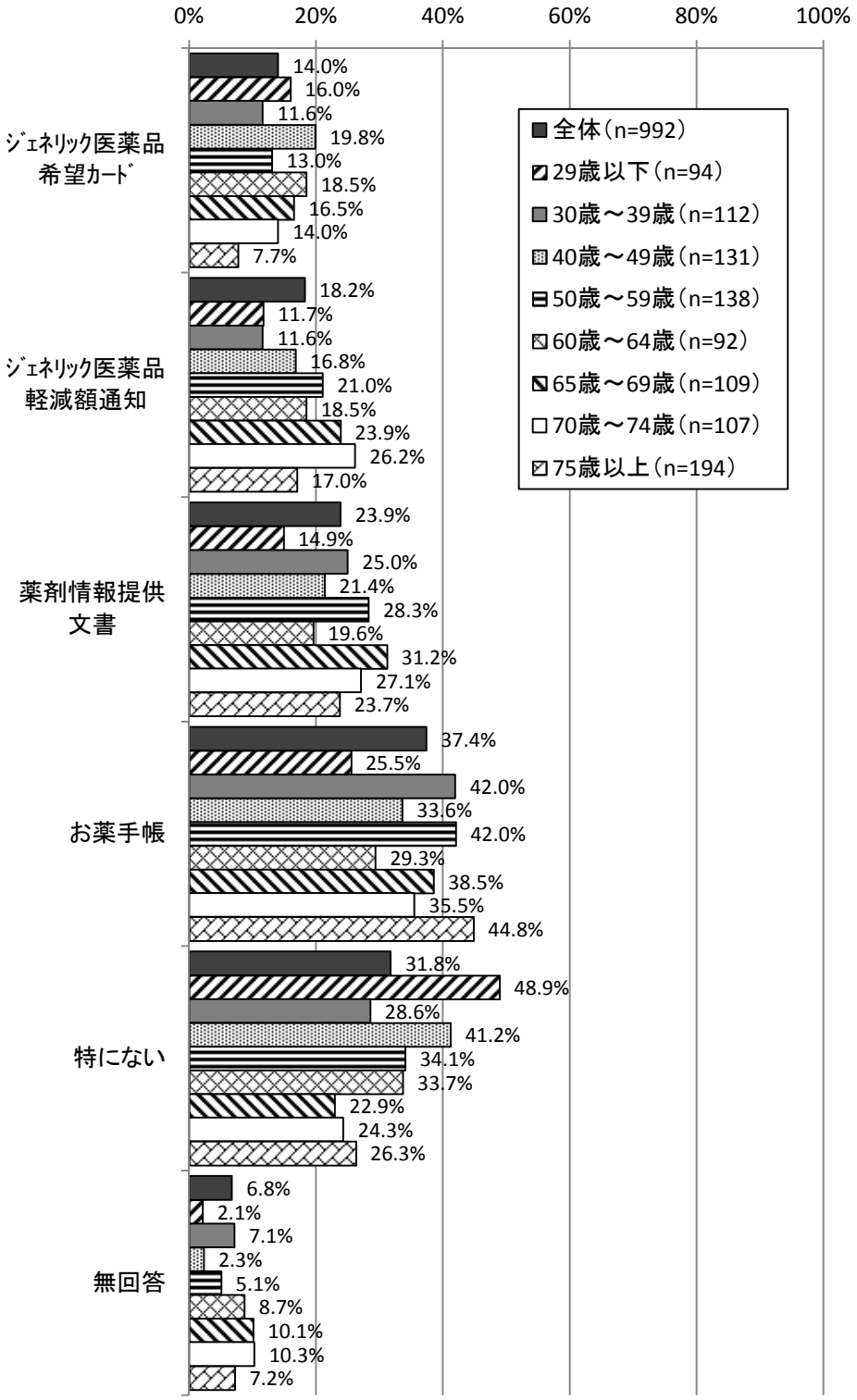
4）今後活用してみたいジェネリック医薬品に関する文書等

図表 185　今後活用してみたいジェネリック医薬品に関する文書等（男女別、複数回答）



（注）「全体」には、「性別」について無回答の 2 人が含まれる。

図表 186　今後活用してみたいジェネリック医薬品に関する文書等
（年齢階級別、複数回答）

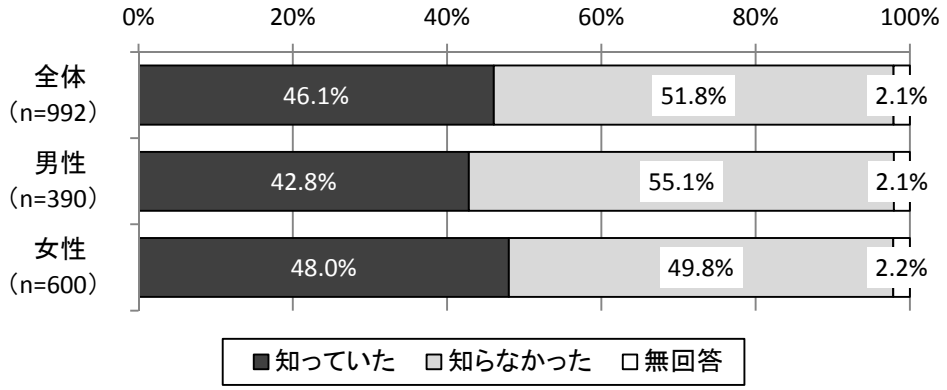


（注）「全体」には、「年齢」について無回答の 15 人が含まれる。

③一般名処方に関する認知度・意向等

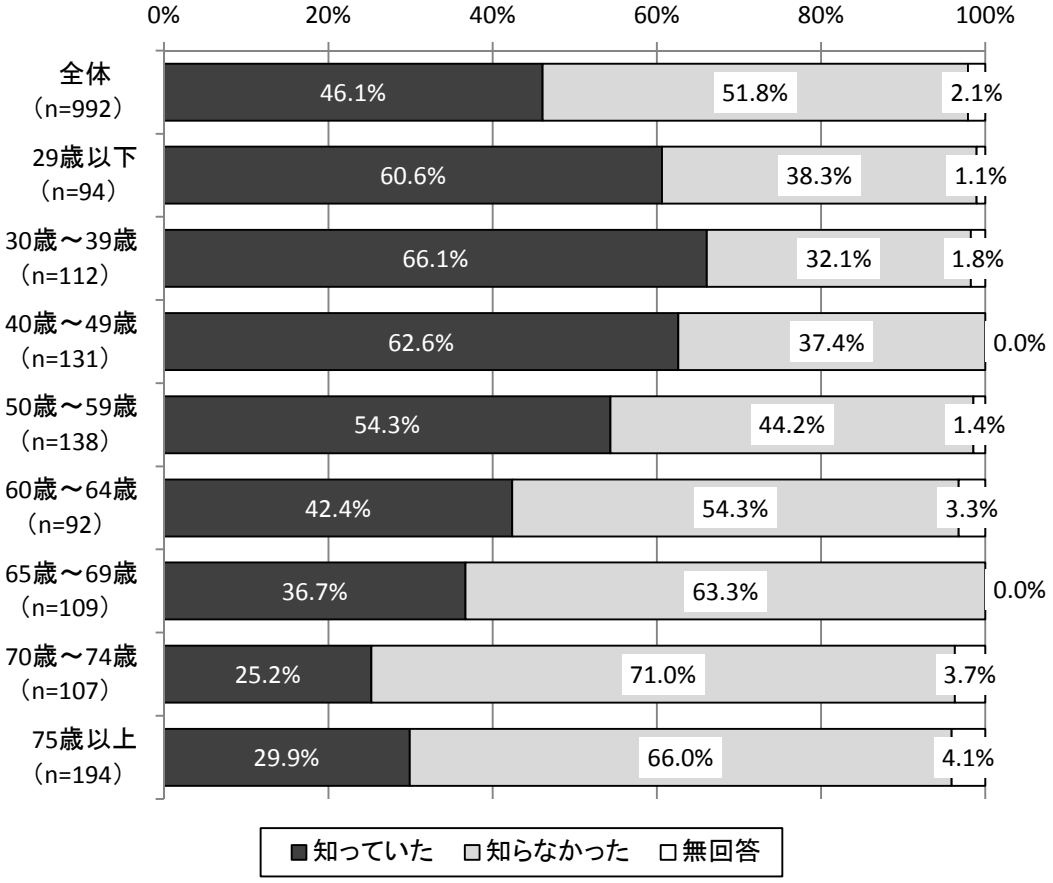
1）一般名処方の認知度

図表 187　一般名処方の認知度（男女別）



（注）「全体」には、「性別」について無回答の 2 人が含まれる。

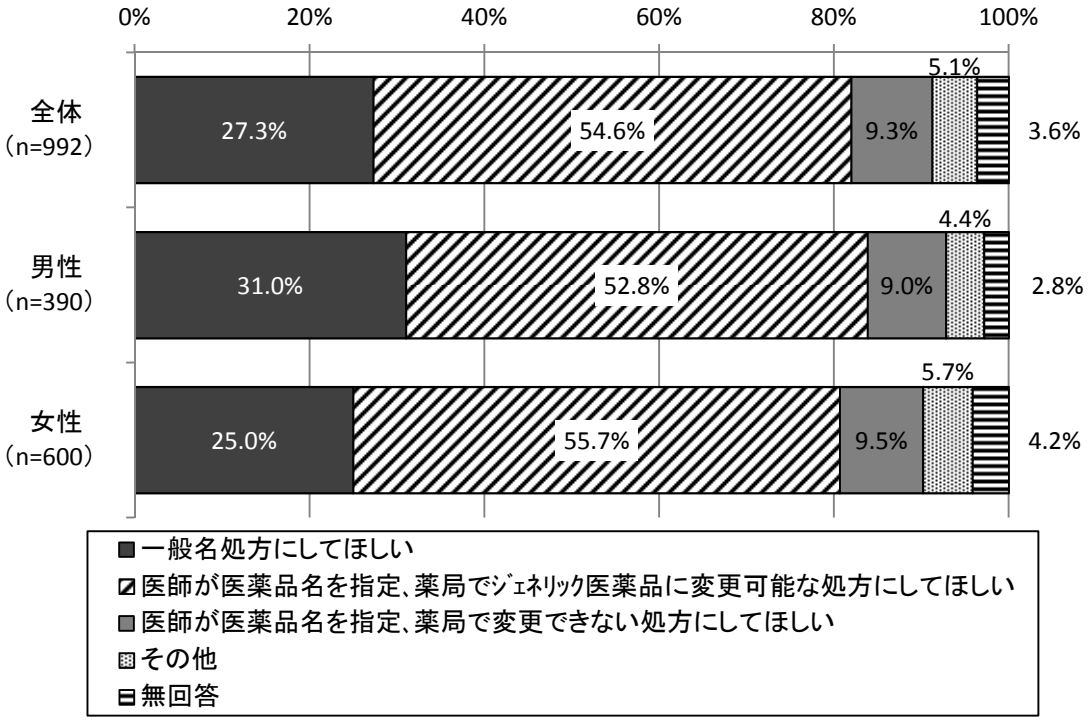
図表 188　一般名処方の認知度（年齢階級別）



（注）「全体」には、「年齢」について無回答の 15 人が含まれる。

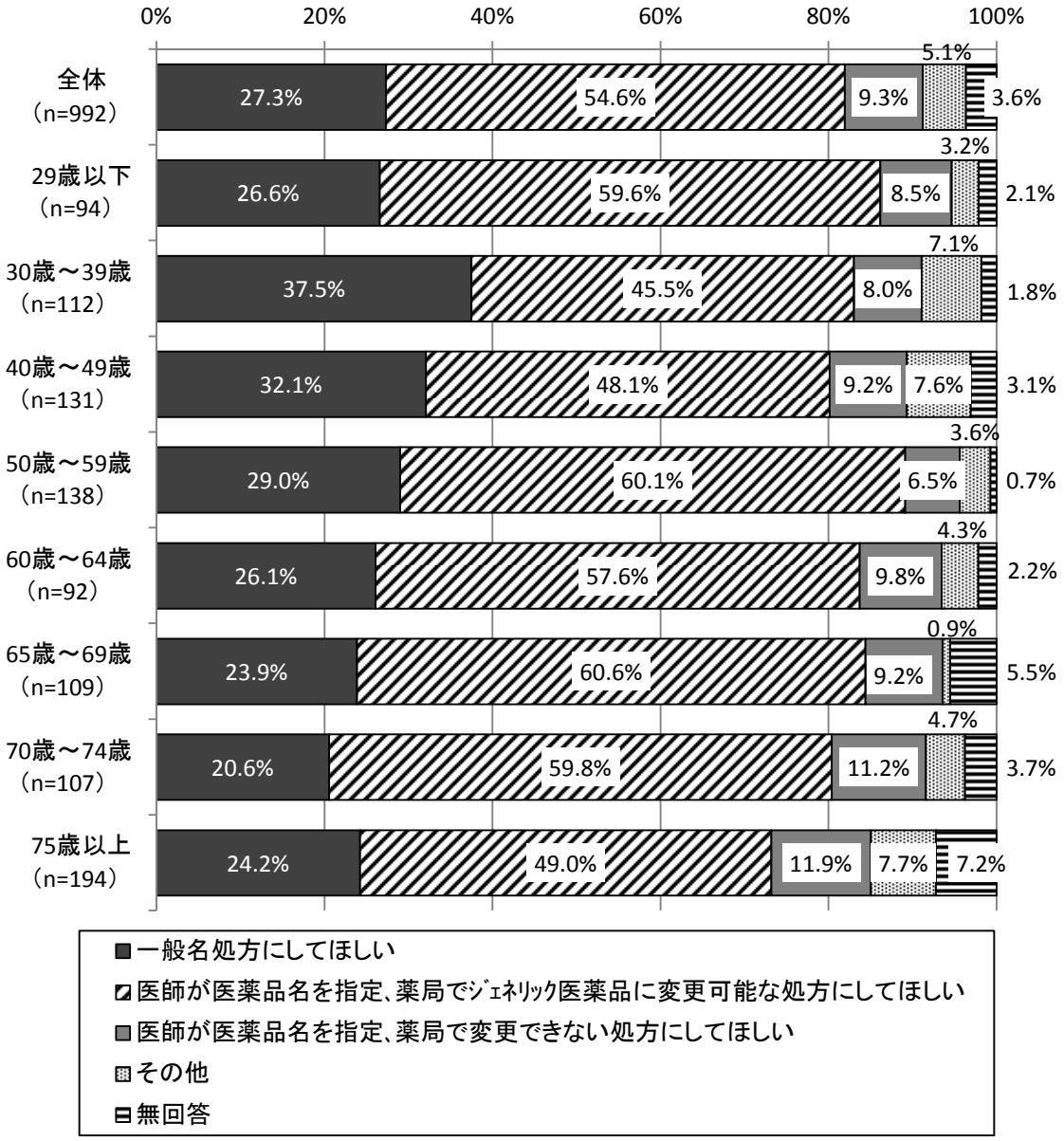
2）望ましい処方せんの方式

図表 189　望ましい処方せんの方式（男女別）



（注）「全体」には、「性別」について無回答の 2 人が含まれる。

図表 190　望ましい処方せんの方式（年齢階級別）



（注）「全体」には、「年齢」について無回答の 15 人が含まれる。

様式１

平成 26 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 26 年度調査）

後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査　保険薬局票

※この「保険薬局票」は保険薬局の開設者・管理者の方に、貴薬局における後発医薬品の使用状況やお考えについてお伺いするものです。
※以下のラベルに、電話番号をご記入ください。また、薬局名と薬局の所在地をご確認の上、記載内容に不備等がございましたら、赤書きで修正してください。

＜ご回答方法＞
・あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。
・「※○は１つだけ」という質問については、あてはまる番号を１つだけ○で囲んでください。
・（　　）内には具体的な数値、用語等をご記入ください。
・（　　）内に数値を記入する設問で、該当なしは「０（ゼロ）」を、わからない場合は「－」をご記入ください。
・特に断りのない限り、平成 26 年 9 月末現在の貴薬局の状況についてお答えください。

０．あなたご自身についてお伺いします。

① 性別　※○は１つだけ	1. 男性　2. 女性	② 年齢	（　　）歳
③ 開設者・管理者の別　※○は１つだけ	1. 開設者　2. 管理者　3. 開設者兼管理者		

1．貴薬局の状況についてお伺いします。

①開設者 ※法人の場合は、法人の形態にも○をつけてください	1. 法人 ……▶（1.株式会社　2.有限会社　3.合資会社　4.合名会社　5.その他） ……▶（1. ホールディングスの傘下　2. ホールディングスの非傘下） 2. 個人
②同一法人による薬局店舗数	（　　）店舗　※当該店舗を含めてお答えください。
③開設年	西暦（　　）年
④貴薬局はチェーン薬局（一経営者が20店舗以上を所有する薬局の店舗）ですか。　※○は１つだけ	1. はい　2. いいえ
⑤貴薬局の処方せんの応需状況として最も近いものは、次のうちどれですか。 ※○は１つだけ	1. 主に近隣にある特定の病院の処方せんを応需している薬局 2. 主に近隣にある特定の診療所の処方せんを応需している薬局 3. 主に複数の特定の保険医療機関（いわゆる医療モールも含む）の処方せんを応需している薬局 4. 様々な保険医療機関からの処方せんを応需している薬局 5. その他（具体的に　　）
⑥貴薬局の売上高に占める保険調剤売上の割合　※平成 25 年度決算	約（　　）％　※OTC医薬品の販売等がなく、保険調剤収入のみである場合は 100%とご記入ください。

		常勤（実人数）	非常勤（実人数）
⑦職員数 ※該当者がいない場合は「0」とご記入ください。	1）薬剤師	（　　）人	（　　）人
	2）その他（事務職員等）	（　　）人	（　　）人
	3）全職員	（　　）人	（　　）人

⑧調剤基本料　※○は１つだけ		1. 調剤基本料（41 点）　2. 調剤基本料（25 点）
	⑧-1　全処方せんの受付回数（調剤基本料の根拠となる数字）	（　　）回／月
	⑧-2　主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数の割合（調剤基本料の根拠となる数字）	（　　.　　）％　※小数点以下第１位まで
	⑧-3　妥結率	（　　.　　）％　※小数点以下第１位まで
⑨基準調剤加算　※○は１つだけ		1. 基準調剤加算１（12 点）　2. 基準調剤加算２（36 点） 3. 届出（算定）していない
⑩後発医薬品調剤体制加算 ※○は１つだけ	⑩-1　平成 25 年度	1. 後発医薬品調剤体制加算１（5 点） 2. 後発医薬品調剤体制加算２（15 点） 3. 後発医薬品調剤体制加算３（19 点） 4. 届出（算定）していない
	⑩-2　平成 26 年度	1. 後発医薬品調剤体制加算１（18 点） 2. 後発医薬品調剤体制加算２（22 点） 3. 届出（算定）していない
⑪後発医薬品調剤割合（**新 指 標**） ※**新指標**算出式＝後発医薬品/（後発医薬品あり先発医薬品＋後発医薬品）（%）		（　　）％　※平成 26 年９月１か月間について算出
⑫ 新指標の**カットオフ値** ※**カットオフ値**算出式＝（後発医薬品あり先発医薬品＋後発医薬品）/全医薬品（%）		（　　）％　※平成 26 年９月１か月間について算出
⑬ 新指標で算出するに当たって何か問題点はありましたか。 ※○は１つだけ		1. ある　2. ない　3. まだわからない
⑭【上記⑬で「1.ある」と回答された薬局】 具体的な問題点を教えてください。		
（自由記載欄）		

2. 貴薬局で調査対象期間（平成 26 年 11 月 6 日（木）～11 月 12 日（水））に受け付けた処方せんについて、ご記入ください。

（1）①平成 26 年 11 月 6 日（木）～11 月 12 日（水）に受け付けた処方せん枚数は何枚ですか。	（　　）枚
② ①のうち、先発医薬品（準先発品）名で処方され、変更不可となっている医薬品が１品目でもある処方せんの枚数	（　　）枚
③ ①のうち、後発医薬品名で処方され、変更不可となっている医薬品が１品目でもある処方せんの枚数	（　　）枚

（２）以下は上記質問（１）**①の処方せん**（平成 26 年 11 月 6 日（木）～11 月 12 日（水）に受け付けた処方せん）に記載された医薬品について品目ベース（銘柄・剤形・規格単位別）の数でご記入ください。

① 一般名で処方された医薬品の品目数	（　　）品目
② ①のうち、後発医薬品を選択した医薬品の品目数	（　　）品目
③ ①のうち、先発医薬品（準先発品＊1を含む）を選択した医薬品の品目数	（　　）品目
④ 先発医薬品（準先発品）名で処方された医薬品の品目数	（　　）品目
⑤ ④のうち、「変更不可」となっていない＊2 医薬品の品目数	（　　）品目
⑥ ⑤のうち、先発医薬品を後発医薬品に変更した医薬品の品目数	（　　）品目
⑦ ⑤のうち、先発医薬品を調剤した医薬品の品目数	（　　）品目
⑧ ⑦のうち、後発医薬品が薬価収載されていないため、後発医薬品に変更できなかった医薬品の品目数	（　　）品目
⑨ ⑦のうち、外用剤が処方され、同一剤形の後発医薬品がなかったため変更できなかった医薬品の品目数（クリーム、ローション、軟膏はそれぞれ別剤形）	（　　）品目
⑩ ⑦のうち、患者が希望しなかったため、後発医薬品に変更できなかった医薬品の品目数（過去に確認済みの場合を含む）	（　　）品目
⑪ 後発医薬品名で処方された医薬品の品目数	（　　）品目
⑫ ⑪のうち、「変更不可」となっている医薬品の品目数	（　　）品目
⑬ その他（漢方製剤など、先発医薬品・準先発品・後発医薬品のいずれにも該当しない医薬品）の品目名で処方された医薬品の品目数	（　　）品目
⑭ （1）①の処方せんに記載された医薬品の品目数の合計（①＋④＋⑪＋⑬＝⑭）	（　　）品目

※①＋④＋⑪＋⑬＝⑭となりますのでご確認ください

＊1 昭和 42 年以前に承認・薬価収載された医薬品のうち、価格差のある後発医薬品があるもの。

＊2 後発医薬品（ジェネリック医薬品）への変更が不可の場合の署名欄に処方医の署名又は記名・押印がない、又は署名欄に処方医の署名又は記名・押印があるものの「変更不可」欄に「レ」又は「×」が記載されていないもの。

（3）【上記（2）の⑫で1品目でも他の後発医薬品への変更不可となっている医薬品があった薬局】
変更不可の後発医薬品が処方されることで、調剤を行う上で何か問題はありましたか。　※○は1つだけ

1. あった　　2. なかった

（4）【上記（3）で「1. あった」と回答された薬局】
どのような問題がありましたか。　※あてはまる番号すべてに○

1. 処方された後発医薬品の備蓄がなく、取り寄せるために患者を待たせることになった
2. 処方された後発医薬品の備蓄がなく、後ほど（当日）、患者宅へ届けることになった
3. 処方された後発医薬品の備蓄がなく、直ちに取り寄せることができないため後日届けることになった
4. 患者が他の銘柄の後発医薬品を希望したため、医師への疑義照会等対応が必要になった
5. その他（具体的に　　）

（5）期間中に、一般名処方の処方せんを持参した患者のうち、後発医薬品を調剤しなかったケースについて、最も多い理由は何ですか。 ※○は1つだけ

0. そのようなケースはなかった
1. 患者が後発医薬品を希望しなかったから
2. 薬価収載された後発医薬品がなかったから
3. 後発医薬品の備蓄がなかったから
4. 先発医薬品と後発医薬品で適応が違う医薬品だったから
5. その他（具体的に　　）

3. 貴薬局における後発医薬品への対応状況についてお伺いします。

(1)調剤用医薬品の備蓄状況・廃棄額等 ※質問①②は 9 月末日時点、質問③④は 9 月 1 か月間の数値をご記入ください。			平成 25 年 9 月 または把握可能な 25 年度の末日時点または 1 か月分	平成 26 年 9 月 または把握可能な直近 1 か月分の末日時点または 1 か月分
	①備蓄品目	1)全医薬品	約（　　）品目	約（　　）品目
		2)うち後発医薬品	約（　　）品目	約（　　）品目
	②在庫金額	1)全医薬品	約（　　）円	約（　　）円
		2)うち後発医薬品	約（　　）円	約（　　）円
	③購入金額	1)全医薬品	約（　　）円	約（　　）円
		2)うち後発医薬品	約（　　）円	約（　　）円
	④医薬品廃棄額	1)全医薬品	約（　　）円	約（　　）円
		2)うち後発医薬品	約（　　）円	約（　　）円
	⑤上記①-1)のうち、現在、1 つの先発医薬品（同一規格）に対して平均何品目の後発医薬品を備蓄していますか。 ※小数点以下第 1 位まで		平均　約（　　.　　）品目 例）先発医薬品α10mg ─ 後発医薬品A10mg 　　└ 後発医薬品B10mg 　　先発医薬品α20mg ── 後発医薬品A20mg この場合、平均「1.5」品目となります。	

(2) 貴薬局における後発医薬品の採用基準は何ですか。 ※あてはまる番号すべてに○

1. 後発医薬品メーカーが品質について情報開示をしていること
2. MRからの情報提供が頻繁にあること
3. 他の後発医薬品よりも薬価が安価であること
4. 大病院で採用されていること
5. 近隣の保険医療機関（病院・診療所）で採用されている処方銘柄であること
6. 後発医薬品の適応症が先発医薬品と同一であること
7. 納品までの時間が短いこと
8. 後発医薬品メーカー・卸が十分な在庫を確保していること
9. 患者からの評価がよいこと
10. 調剤がしやすい（例;容易に半割ができる、一包化調剤がしやすい）こと
11. 本社の問い合わせ窓口における対応が充実していること
12. 先発医薬品メーカーが扱う後発医薬品であること
13. 信頼のおける後発医薬品メーカーが扱う後発医薬品であること
14. 古くから販売されている後発医薬品であること
15. 有効成分に加え、添加剤や製法も先発医薬品と同じであること
16. その他（具体的に　　）

【選択肢 1～16 を選ばれた**すべての薬局**】
(2)-1 上記の選択肢 1～16 のうち、最もあてはまる番号を 1 つだけお書きください。→ [　　]

(3) 後発医薬品の調剤に関するお考えとして、最も近いものはどれですか。 ※○は1つだけ

1. 全般的に、積極的に後発医薬品の説明をして調剤するように取り組んでいる→**5ページの質問(7)へ**
2. 薬の種類によって、後発医薬品の説明をして調剤するように取り組んでいる
3. 患者によって、後発医薬品の説明をして調剤するように取り組んでいる
4. 後発医薬品の説明・調剤に積極的には取り組んでいない

▶【上記質問(3)で 1. 以外を回答された薬局】
(4) 後発医薬品を積極的には調剤しない場合、その理由は何ですか。 ※あてはまる番号すべてに○

1. 後発医薬品の品質（効果や副作用を含む）に疑問がある
2. 後発医薬品メーカーの安定供給に不安がある
3. 後発医薬品の情報提供体制に不安がある
4. 患者への普及啓発が不足している
5. 後発医薬品の説明に時間がかかる
6. 近隣医療機関が後発医薬品の使用に消極的である
7. 経営上の観点から
8. 在庫管理の負担が大きい
9. 経営者（会社）の方針
10. その他（具体的に　　）

【選択肢 1～10 を選ばれた**すべての薬局**】
(4)-1 上記の選択肢 1～10 のうち、最もあてはまる番号を 1 つだけお書きください。→ [　　]

【上記質問(3)で1. 以外を回答された薬局】
(5)後発医薬品を積極的に調剤していない医薬品の種類は何ですか。 ※あてはまる番号すべてに○

1. 血圧降下剤　2. 高脂血症用剤　3. 不整脈用剤　4. 精神神経用剤
5. 催眠鎮静剤　6. 抗不安剤　7. 抗てんかん剤　8. 解熱鎮痛剤
9. 糖尿病用剤等　10. 消化性潰瘍用剤　11. 抗アレルギー剤
12. その他（具体的に　　）　13. 特にない

【上記質問(3)で1. 以外を回答された薬局】
(6)後発医薬品を積極的に調剤していない患者の特徴として該当するものすべてに○をつけてください。※あてはまる番号すべてに○

1. 初回の受付時に後発医薬品の調剤を希望しなかった患者
2. 差額が小さい患者
3. 先発医薬品との違い（色、形など）を気にする患者
4. 後発医薬品への変更に関する説明に長時間を要すると思われる患者
5. その他（具体的に　　）
6. 特にない

(7)後発医薬品使用に関する患者の意向を把握する手段として**最も多く**利用しているものは何ですか。 ※○は1つだけ

1. 「お薬手帳」を通じて
2. 薬剤服用歴
3. 処方せん受付時における患者への口頭やアンケートによる意向確認（初回のみ）
4. 処方せん受付時における患者への口頭やアンケートによる意向確認（毎回）
5. その他（具体的に　　）

(8)後発医薬品への変更・選択において、患者の理解を最も得られやすい処方方法は何ですか。 ※○は1つだけ

1. 一般名処方　2. 先発医薬品名（準先発品を含む）だが変更不可とされていない処方
3. 後発医薬品の処方（別銘柄へ変更可能なものも含む）　4. 上記 1.と 2.と 3.でいずれも大きな違いはない
5. その他（具体的に　　）

(9)「一般名処方の調剤」または「後発医薬品への変更調剤」について、どのような方法・タイミングで処方医に情報提供することが望ましいと思いますか。 ※○は1つだけ

1. 調剤をした都度
2. 原則、調剤をした都度行うが、前回と同じ内容であった場合には連絡しない
3. 一定期間に行った調剤をまとめて　4. お薬手帳等により患者経由で次の診療日に
5. 副作用等問題が発生した時だけ　6. 必要ない
7. その他（具体的に　　）

(10)「一般名処方の調剤」または「後発医薬品への変更調剤」の情報提供の頻度等について、医療機関と予め合意した方法で行っていますか。 ※○は1つだけ

1. 主に合意した方法で行っている
2. 医療機関によって様々である
3. 合意した方法はない
4. その他（具体的に　　）

【上記質問(10)で「1. 主に合意した方法で行っている」「2. 医療機関によって様々である」と回答された薬局】
(11)その方法はどのようなものですか。 ※あてはまる番号すべてに○

1. 調剤をした都度提供すること
2. 原則、調剤をした都度行うが、前回と同じ内容であった場合には連絡しないとすること
3. 一定期間に行った調剤をまとめて提供すること
4. お薬手帳等により患者経由で次の診療日に提供すること
5. 副作用等問題が発生した時だけ提供すること
6. その他（具体的に　　）

4. 後発医薬品の使用にあたっての問題点・課題、要望等についてお伺いします。

（1）今後、どのような対応がなされれば、開設者・管理者の立場として後発医薬品の調剤を積極的に進めることができると思いますか。 ※あてはまる番号すべてに○

1. 厚生労働省による、医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底
2. 後発医薬品メーカー・卸による情報提供体制の確保
3. 後発医薬品に関する安定供給体制の確保
4. 後発医薬品の価格のバラツキや品目数の整理統合
5. 後発医薬品に対する患者の理解の向上
6. 後発医薬品を調剤する際の診療報酬上の評価
7. 後発医薬品の原体、製剤に関する製造方法、製造場所、製造国などの情報開示
8. その他（具体的に　　）
9. 特に対応は必要ない→質問（3）へ

（2）上記（1）の選択肢 1～8のうち、最もあてはまる番号を１つだけお書きください。

（3）現在、同一成分・同一剤形の後発医薬品の価格は銘柄ごとに様々ですが、どのような体系が望ましいと思いますか。
※○は1つだけ

1. １つの価格帯に統一
2. ２つの価格帯に統一
3. ３つの価格帯に統一（現行の制度）
4. 先発医薬品より安ければ価格は銘柄ごとに違っていてよい
5. その他（具体的に　　）

（4）後発医薬品の薬価について、先発医薬品と比較してどの程度が適切な水準とお考えになりますか。

先発医薬品の薬価の（　　）％程度

（5）貴薬局で、後発医薬品の使用を進める上で医師に望むことはありますか。 ※あてはまる番号すべてに○

1. 患者への積極的な働きかけ
2. 後発医薬品への変更調剤に関する薬剤師への信頼感
3. 患者が後発医薬品の使用を希望している場合、処方せんに変更不可の署名を行わないこと
4. 後発医薬品の銘柄指定をしないこと
5. 一般名処方とすること
6. お薬手帳への記載以外の医療機関（医師）への情報提供を不要とすること
7. 疑義照会への誠実な対応
8. 後発医薬品に対する理解
9. その他（具体的に　　）
10. 医師に望むことは特にない→質問（7）へ

（6）上記（5）の選択肢 1～9のうち、最もあてはまる番号を１つだけお書きください。

（7）上記（1）（5）以外に、後発医薬品の使用にあたっての問題点・課題、また、後発医薬品の使用・普及を進めていくために、具体的にどのような取組を行えば効果があるか、ご意見を自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力いただきまして、ありがとうございました。
※引き続き、様式２のご記入もよろしくお願いいたします。

様式２

平成 26 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 26 年度調査）

後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査 保険薬局票

■ 平成 26 年 11 月 6 日（木）から 11 月 12 日（水）のうちのいずれか平均的な開局時間の 1 日の状況をご記入ください。詳細は調査要綱をご覧の上、ご記入ください。

■ 処方せん１枚につき１行を使ってご記入ください。

調査日：平成２６年（　　）月（　　）日（　　）曜日

通し番号（NO.）	先発→後発 ※１品目でもある場合は○	記載銘柄により調剤した場合の薬剤料（A）		実際に調剤した薬剤料（B）		患者一部負担金の割合（C）	
(記入例) 1	○	724	点	540	点	3	割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割

※回答用紙が足りない場合には、大変恐縮ですが、裏面用紙をコピーしてお使いください。

回答用紙		枚中		枚

※記入例（全３枚のうち１枚目の場合）

回答用紙	3	枚中	1	枚

通し番号（NO.）	先発→後発 ※１品目でもある場合は〇	記載銘柄により調剤した場合の薬剤料（A）		実際に調剤した薬剤料（B）		患者一部負担金の割合（C）	
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割
			点		点		割

※回答用紙が足りない場合には、大変恐縮ですが、裏面用紙をコピーしてお使いください。

回答用紙		枚中		枚

※記入例（全３枚のうち１枚目の場合）

回答用紙	３	枚中	１	枚

平成 26 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 26 年度調査）

後発医薬品（ジェネリック医薬品）の使用に関する意識調査　患者票

※この患者票は、患者さんに、後発医薬品（ジェネリック医薬品）の使用状況やお考えについておうかがいするものです。

※ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（　　）内には具体的な数字や内容・理由などをご記入ください。

後発医薬品（ジェネリック医薬品）とは

先発医薬品（新薬）の特許が切れた後に販売される、先発医薬品と同じ有効成分、同じ効能・効果を持つ医薬品のことです。ジェネリック医薬品は先発品より安価で、経済的です。

なお、ジェネリック医薬品では、先発医薬品と異なる添加剤を使用する場合が多くありますが、先発医薬品が上市後に添加剤を変更する場合と同様に、添加剤の違いによって有効性・安全性に違いが生じないことを確認しています。

０．最初に、この調査票のご記入者について、おうかがいします。
この調査票のご記入者は、患者さんご本人でしょうか。それともご家族の方等でしょうか。

1. 患者ご本人（代筆の場合も含む）
2. 本人以外のご家族（具体的に　　）
3. その他（具体的に　　）

１．患者さんご自身のことについておうかがいします。

① 性別　※○は１つだけ	1. 男性　2. 女性	② 年齢	（　　）歳
③ お住まい	（　　）都・道・府・県		

④ お手持ちの健康保険証の種類　※お手持ちの健康保険証の「保険者」名称をご確認ください。○は１つだけ

1. 国民健康保険（国保）
2. 健康保険組合（健保組合）
3. 全国健康保険協会（協会けんぽ）
4. 共済組合（共済）
5. 後期高齢者医療広域連合（広域連合）
6. 全額公費（自己負担がない）
7. その他（具体的に　　）
8. わからない

⑤ 医療費の自己負担額（医療機関や薬局の窓口で支払う金額）がありますか。　※○は１つだけ

1. ある　2. ない

⑥ この３か月間に処方せん（ご本人の処方せんです）を持って薬局に行った回数	過去 3 か月間の薬局訪問回数 約（　　）回

⑦ 「お薬手帳」を利用していますか。※○は１つだけ

1. 利用している
2. 利用していない

２．**本日の状況等**についておうかがいします。

① 本日、この薬局を選んだ理由は何ですか。※○はいくつでも

1. この薬局をかかりつけにしているから
2. 医療機関の近くにあったから
3. 通勤･通学の途中、職場や学校の近くにあったから
4. 薬剤師がわかりやすく説明してくれるから
5. ジェネリック医薬品を調剤してくれるから
6. 待ち時間が短いから
7. その他（具体的に　　）

② 本日、薬局の窓口で支払った自己負担額（一部負担金）は、いくらでしたか。　※ない場合は「0」とお書きください。

（　　）円

③ 本日、薬局の窓口で支払った自己負担額がどのくらい安くなれば、今後ジェネリック医薬品を使用したいと思いますか。※○は１つだけ　※自己負担額０円の方は回答不要です

1. 少しでも安くなるのであれば使用したい
2. 本日支払った金額よりも一定額安くなるのであれば使用したい
   →（安くなる金額の目安：　　円程度）
3. いくら安くなっても使用したくない
4. わからない
5. その他（具体的に　　）

③-1 いくら安くなっても使用したくない理由は何ですか。※あてはまる番号すべてに○

1. 安く売れる理由が不可解だから
2. 高いものはいいものだと考えるから
3. 聞き慣れないメーカーだから
4. ジェネリック医薬品の効き目（効果）や副作用に不安があるから
5. 医師がすすめないから
6. 薬剤師がすすめないから
7. 家族や知人がすすめないから
8. 使いなれたものがいいから
9. その他（具体的に　　）

③-2 そのように思われる具体的なきっかけがあれば教えてください。※○は１つだけ

1. ジェネリック医薬品に切り替えて、副作用が出たことがあるから
2. ジェネリック医薬品に切り替えて、効き目が悪くなったことがあるから
3. 報道等、周囲からジェネリック医薬品の品質、効果等に関して良い情報を聞かないから
4. その他（具体的に　　）

④ 本日、薬局で、先発医薬品からジェネリック医薬品へ変更しましたか。※○は１つだけ

1. ジェネリック医薬品へ変更した
2. ジェネリック医薬品へ変更しなかった
3. わからない

④-1 ジェネリック医薬品に変更した時の薬局の窓口での薬代の負担感はどうでしたか。
※○は１つだけ

1. とても安くなった　　2. それなりに安くなった
3. それほど変わらなかった　　4. わからない・覚えていない

３．後発医薬品（ジェネリック医薬品）の使用に関するご経験などについておうかがいします。
ここからは、本日のことだけではなく、今までのご経験についてお答えください。

① ジェネリック医薬品に関心がありますか。　※○は１つだけ

1. 関心がある　　2. 関心はない　　3. どちらともいえない

② ジェネリック医薬品を知っていましたか。　※○は１つだけ

1. 知っていた　　2. 名前は聞いたことがあった　　3. 知らなかった

③ 今までにジェネリック医薬品を使用したことがありますか。　※○は１つだけ

1. ある　　2. ない　　3. わからない

④ 医師からジェネリック医薬品についての説明を受けたことがありますか。　※○は１つだけ

1. ある　　2. ない　　3. わからない

⑤ 医師にジェネリック医薬品の処方をお願いしたことはありますか。　※○は１つだけ

1. ある　　2. ない

※ここからの質問も、本日このアンケートを受け取った薬局に限らず、今までのご経験としてお答えください。

⑥ 薬剤師からジェネリック医薬品についての説明を受けたことがありますか。　※○は１つだけ

1. ある　　2. ない　　3. わからない

⑦ 薬剤師にジェネリック医薬品の調剤をお願いしたことはありますか。　※○は１つだけ

1. ある　　2. ない→質問⑧へ

⑦-1 薬局で薬剤師に「ジェネリック医薬品の調剤」は頼みやすかったですか。　※○は１つだけ

1. 頼みやすかった　　2. どちらともいえない
3. 頼みにくかった　→（その理由：　　）

⑦-2 平成 26 年 4 月以降、薬局でジェネリック医薬品を調剤してもらえなかったことはありますか。　※○は１つだけ

1. ある　　2. ない→質問⑧へ

⑦-2-1 その薬局からはどのような説明がありましたか。　※○は１つだけ

1. 処方されている医薬品が、すでにジェネリック医薬品であるから
2. ジェネリック医薬品への変更が医師の指示によりできないから
3. ジェネリック医薬品が存在しない医薬品であるから
4. ジェネリック医薬品をすぐに取りそろえられないので（在庫がないので）
5. 特に説明はなかった
6. その他（具体的に　　）

⑧ 先発医薬品からジェネリック医薬品に変更されたお薬はありますか。　※○は１つだけ

1. ある　　2. ない→質問4. ①へ　　3. わからない→質問4. ①へ

⑧-1 その時のきっかけは何ですか。　※○は１つだけ

1. 医師からの説明　　2. 薬剤師からの説明
3. 家族・知人等からのすすめ　　4. 薬剤情報提供文書※1を受け取って
5. ジェネリック医薬品希望カードを受け取って
6. ジェネリック医薬品軽減額通知（差額通知等）※2を受け取って
7. ジェネリック医薬品に関する健保組合等の保険者からのお知らせを受け取って
8. その他（具体的に　　）

⑧-2 ジェネリック医薬品に変更した時に、アレルギーなどの体調不良を経験したことがありますか。※○は１つだけ

1. ある　　2. ない

⑧-2-1 どのようなお薬でどのような経験をされましたか。先発医薬品をどのくらい使用していたか、ジェネリック医薬品に変更してどのくらい期間が経ってから症状が出たか等、できるだけ具体的にお書きください。

（　　）

※１　薬剤情報提供文書とは

保険薬局から調剤したお薬と一緒に渡される文書で、薬の名前や写真、効能・効果、用法、副作用、注意事項などが書かれています。平成 24 年 4 月以降、ジェネリック医薬品についての説明（ジェネリック医薬品の有無や価格など）もこの文書に記載し、患者に情報提供することとなりました。

※２　ジェネリック医薬品軽減額通知（差額通知等）とは

処方された薬をジェネリック医薬品に切り替えることにより、どのくらい薬代（薬剤料）の自己負担額が軽減されるかを健康保険組合や市町村国保などの保険者が具体的に試算して、例えば「ジェネリック医薬品に切り替えた場合の薬代の自己負担の軽減額に関するお知らせ」のような名前で通知してくれるサービスです。

４．ジェネリック医薬品の使用に関するお考え・ご経験や、使用促進の取組についておうかがいします。

① ジェネリック医薬品の使用に関するお考えとして、最も近いものはどれですか。 ※○は１つだけ

1. できればジェネリック医薬品を使いたい
2. とりあえずジェネリック医薬品を試してみたい
3. できればジェネリック医薬品を使いたくない
4. ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない
5. わからない

② あなたがジェネリック医薬品を使用するにあたって重要なことは何ですか。
※あてはまる番号すべてに○

1. 効果（効き目）が先発医薬品と同じであること
2. 使用感がよいこと
3. 副作用の不安が少ないこと
4. 有効成分に加え、添加剤や製法も先発医薬品と同じであること
5. 先発医薬品とジェネリック医薬品について同じ点・異なる点を説明してもらえること
6. 医師や薬剤師のすすめがあること
7. 窓口で支払う薬代が安くなること
8. 少しでも医療財政の節約に貢献できること
9. その他（具体的に　　）
10. 特にない→質問④へ

③ 上記②の選択肢 1～9 のうち、最も重要なことは何ですか。
あてはまる番号を１つだけお書きください。

④ 今までに受け取ったことがあるものをすべて○で囲んでください。 ※あてはまる番号すべてに○

1. ジェネリック医薬品希望カード
2. ジェネリック医薬品軽減額通知（差額通知等）
3. 薬剤情報提供文書
4. 受け取ったことがない→6ページの質問⑤へ

【質問④で受け取ったことがある方におうかがいします。】
④-1 これらを受け取ったことをきっかけに、医師や薬剤師にジェネリック医薬品の相談・質問をしたことがありますか。 ※○は１つだけ

1. ある　　2. ない

【質問④で受け取ったことがある方におうかがいします。】
④-2 これらを受け取ったことをきっかけに、ジェネリック医薬品を使用したことがありますか。 ※○は１つだけ

1. ある　　2. ない

⑤ 今後、活用してみたいものは何ですか。 ※○はいくつでも

1. ジェネリック医薬品希望カード　　2. ジェネリック医薬品軽減額通知（差額通知等）
3. 薬剤情報提供文書　　4. お薬手帳　　5. 特にない

一般名処方の処方せんとは

製薬会社がつけた医薬品の個別製品名ではなく、医薬品の成分名（一般名）で書かれた処方せんです。例えば、「ガスター」は製品名ですが、一般名では「ファモチジン」といいます。

このような一般名で書かれた処方せんを薬局に持っていくと、患者は薬局で薬剤師に相談しながら、先発医薬品かジェネリック医薬品かを選択することができます。

⑥ 上記の説明にある、「一般名処方」の処方せんをご存知でしたか。 ※○は１つだけ

1. 知っていた　　2. 知らなかった

⑦ 一般名処方では、患者が薬局の薬剤師と相談しながら先発医薬品・ジェネリック医薬品の中から調剤してもらう医薬品を選ぶことができます。このことについて、どのように思いますか。あなたのお考えに最も近いもの１つに○をつけてください。 ※○は１つだけ

1. できるだけ、一般名処方にしてほしい
2. できるだけ、医師が医薬品名を指定しつつ、薬局でジェネリック医薬品に変更することもできる処方にしてほしい
3. できるだけ、医師が医薬品名を指定し、薬局で変更できない処方にしてほしい
4. その他（具体的に　　）

５．ジェネリック医薬品を使用する上でのご意見・ご要望等をおうかがいします。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。
お手数をおかけいたしますが、11月21日（金）までに専用の返信用封筒（切手不要）に同封し、
お近くのポストに投函してください。

平成 26 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 26 年度調査）

後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査

病院票

※この「病院票」は、病院の開設者・管理者の方に、貴施設における後発医薬品の使用状況やお考えについてお伺いするものです。
※以下のラベルに、電話番号をご記入ください。また、施設名と施設の所在地をご確認の上、記載内容に不備等がございましたら、赤書きで修正してください。

※ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（　　）内には具体的な数値、用語等をご記入ください。（　　）内に数値を記入する設問で、該当なしは「０（ゼロ）」を、わからない場合は「－」をご記入ください。
※特に断りのない場合は、平成 26 年 9 月末現在の状況についてご記入ください。

０．あなたご自身についてお伺いします。

① 性別　※○は１つだけ	1. 男性　2. 女性	② 年齢	（　　）歳
③ 開設者・管理者の別 ※○は１つだけ	1. 開設者　2. 管理者　3. 開設者兼管理者 4. その他（具体的に　　）		

１．貴施設の状況についてお伺いします。

①開設者 ※○は１つだけ	1. 国立　2. 公立　3. 公的　4. 社会保険関係団体 5. 医療法人　6. 個人　7. 学校法人　8. その他の法人
②開設年	西暦（　　）年
③標榜している診療科 ※あてはまる番号すべてに○	1. 内科　2. 外科　3. 整形外科　4. 脳神経外科 5. 小児科　6. 産婦人科　7. 呼吸器科　8. 消化器科 9. 循環器科　10. 精神科　11. 眼科　12. 耳鼻咽喉科 13. 泌尿器科　14. 皮膚科　15. その他（具体的に　　）
④ＤＰＣ対応 ※○は１つだけ	1. ＤＰＣ対象病院（Ⅰ群）　2. ＤＰＣ対象病院（Ⅱ群） 3. ＤＰＣ対象病院（Ⅲ群）　4. ＤＰＣ準備病院 5. 対応していない
⑤オーダリングシステム ※あてはまる番号すべてに○	1. 一般名処方に対応できるオーダリングシステムを導入している 2. 後発医薬品名が表示されるオーダリングシステムを導入している 3. オーダリングシステムを導入している（上記 1.、2.の機能はない） 4. オーダリングシステムを導入していない
⑥院内・院外処方の割合	院内処方（　　）％＋院外処方（　　）％＝100％　※処方せん枚数ベース

⑦特定入院料の状況 ※貴施設で算定しているものすべてに○	1. 回復期ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病棟入院料 2. 地域包括ケア病棟入院料 3. 救命救急入院料 4. 特定集中治療室管理料 5. 小児入院医療管理料 6. その他、投薬・注射に係る薬剤料が包括されている特定入院料（精神科救急入院料等） 7. いずれも算定していない	⑧許可病床数	1)一般病床　（　　）床 2)療養病床　（　　）床 3)精神病床　（　　）床 4)結核病床　（　　）床 5)感染症病床（　　）床 6)全　　体　（　　）床
⑨後発医薬品使用体制加算の状況	1. 算定していない 2. 後発医薬品使用体制加算１を算定している 3. 後発医薬品使用体制加算２を算定している		
⑩医師数（常勤換算） ※小数点以下第１位まで	（　　.　）人	⑪薬剤師数（常勤換算） ※小数点以下第１位まで	（　　.　）人
⑫処方せん料の算定回数	（　　）回　※平成 26 年 9 月 1 か月間		
⑬一般名処方加算の算定回数	（　　）回　※平成 26 年 9 月 1 か月間		

２．貴施設における後発医薬品の使用状況等についてお伺いします。

①後発医薬品の採用状況は、いかがでしょうか。 ※○は１つだけ	1. 後発医薬品があるものは積極的に採用 2. 薬の種類によって、後発医薬品を積極的に採用 3. 後発医薬品を積極的には採用していない 4. その他（具体的に　　）
②後発医薬品を採用する際に重視することは何ですか。 ※あてはまる番号すべてに○	1. 後発医薬品メーカーが品質について情報開示をしていること 2. MRからの情報提供が頻繁にあること 3. 他の後発医薬品よりも薬価が安価であること 4. 大病院で採用されていること 5. 近隣の保険医療機関（病院・診療所）で採用されている処方銘柄であること 6. 後発医薬品の適応症が先発医薬品と同一であること 7. 納品までの時間が短いこと 8. 後発医薬品メーカー・卸が十分な在庫を確保していること 9. 患者からの評価がよいこと 10. 調剤がしやすい（例;容易に半割ができる、一包化調剤がしやすい）こと 11. 本社の問い合わせ窓口における対応が充実していること 12. 先発医薬品メーカーが扱う後発医薬品であること 13. 信頼のおける後発医薬品メーカーが扱う後発医薬品であること 14. 古くから販売されている後発医薬品であること 15. 有効成分に加え、添加剤や製法も先発医薬品と同じであること 16. その他（具体的に　　） 17. 特にない→3ページの質問④へ
③上記②の選択肢１～１６のうち、最も重視する点としてあてはまる番号を１つご記入ください。	

		全品目	うち、後発医薬品
④医薬品備蓄品目数	1）内服薬	（　　）品目	（　　）品目
	2）外用薬	（　　）品目	（　　）品目
	3）注射薬	（　　）品目	（　　）品目
	4）合　計	（　　）品目	（　　）品目

⑤調剤用医薬品費（購入額）	約（　　）円	※平成 26 年 9 月 1 か月間
⑥上記⑤のうち後発医薬品費（購入額）	約（　　）円	※平成 26 年 9 月 1 か月間
⑦調剤用医薬品廃棄額	約（　　）円	※平成 26 年 9 月 1 か月間
⑧上記⑦のうち後発医薬品廃棄額	約（　　）円	※平成 26 年 9 月 1 か月間

⑨後発医薬品使用割合　**＜数量ベース＞**（平成 26 年の 1 月～9 月）※小数点以下第 1 位まで

※1 か月間に調剤した後発医薬品について薬価基準上の規格単位ごとに数えた数量÷1 か月間に調剤した後発医薬品ありの先発医薬品と後発医薬品について薬価基準上の規格単位ごとに数えた数量×100。

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月
（　.　）%	（　.　）%	（　.　）%	（　.　）%	（　.　）%	（　.　）%
7 月	8 月	9 月			
（　.　）%	（　.　）%	（　.　）%			

３．＜院外処方せんを発行している施設の方にお伺いします。院外処方せんを発行していない施設の方は４ページの質問４．①へお進みください＞

外来診療における処方せん発行時の状況や**後発医薬品の処方に関するお考え**をお伺いします。

①外来患者に院外処方する場合、後発医薬品の使用について、施設としてどのように対応していますか。※○は 1 つだけ

1. 施設の方針として、後発医薬品を積極的に使用する→質問②へ
　＊一般名処方の場合や「変更不可」欄にチェック等を行わない場合を含みます。
2. 施設の方針として、薬の種類によって、後発医薬品を積極的に使用する
3. 施設の方針として、個々の医師の判断に任せている
4. 施設の方針として、後発医薬品をほとんど使用していない
5. その他（具体的に

→ ①-1 施設の方針として、「後発医薬品を積極的に使用する」としていない場合、その理由は何ですか。
※あてはまる番号すべてに○

1. 後発医薬品の品質（効果や副作用を含む）に疑問がある
2. 後発医薬品の安定供給に不安がある
3. 後発医薬品に関する情報提供が不足している
4. 患者への普及啓発が不足している
5. 後発医薬品の説明に時間がかかる
6. 一般名処方に対応したオーダリングシステムとなっていない
7. 後発医薬品を処方するメリットがない
8. 経営上の観点から
9. 患者が先発医薬品を希望する
10. その他（具体的に　　）

② 平成 26 年 4 月以降、貴施設では、一般名処方による処方せんを発行したことがありますか。※○は 1 つだけ

1. 発行している
2. 発行を検討中→質問③へ
3. 発行していない→質問③へ

→ ②-1　一般名処方による処方せんの発行により、事務的な負担は増えましたか。　※○は 1 つだけ

1. とても増えた
2. 少し増えた
3. ほとんど変わらない
4. 少し減った
5. とても減った
6. わからない

③ 保険薬局で実際に調剤した後発医薬品の銘柄等に関する情報提供はどのような方法・タイミングで必要ですか。
※○は１つだけ

1. 調剤をした都度
2. 原則、調剤をした都度行うが、前回と同じ内容であった場合には連絡しない
3. 一定期間に行った調剤をまとめて
4. お薬手帳等により患者経由で次の診療日に
5. 副作用等問題が発生した時だけ
6. 必要ない
7. その他（具体的に　　）

４．＜院外処方せんを発行していない施設の方にお伺いします＞
外来診療時における院内投薬の状況や後発医薬品の使用に関するお考えについてお伺いします。

① 外来診療時の院内投薬における後発医薬品の処方に関するお考えとして、最も近いものはどれですか。
※○は１つだけ

1. 施設の方針として、後発医薬品を積極的に使用する→5ページの質問5. ①へ
＊一般名処方の場合や「変更不可」欄にチェック等を行わない場合を含みます。
2. 施設の方針として、薬の種類によって、後発医薬品を積極的に使用する
3. 施設の方針として、個々の医師の判断に任せている
4. 施設の方針として、後発医薬品をほとんど使用していない
5. その他（具体的に　　）

→ ①-1 施設の方針として、「後発医薬品を積極的に使用する」としていない場合、その理由は何ですか。
※あてはまる番号すべてに○

1. 後発医薬品の品質（効果や副作用を含む）に疑問がある
2. 後発医薬品の安定供給に不安がある
3. 後発医薬品に関する情報提供が不足している
4. 患者への普及啓発が不足している
5. 後発医薬品の説明に時間がかかる
6. 一般名処方に対応したオーダリングシステムとなっていない
7. 後発医薬品を処方するメリットがない
8. 経営上の観点から
9. 患者が先発医薬品を希望する
10. その他（具体的に　　）

５．＜すべての施設の方にお伺いします＞

入院患者に対する後発医薬品の使用に関するお考えについてお伺いします。

※ここでは、造影剤などの検査に用いる医薬品を含め、内服薬、注射薬及び外用薬の全てを対象とします。

①**入院患者**に対する後発医薬品の使用状況は、いかがでしょうか。 ※最も近いものの番号１つだけに○	1. 後発医薬品を積極的に処方する 2. 薬の種類によって、後発医薬品を積極的に処方する 3. 患者によって、後発医薬品を積極的に処方する 4. 後発医薬品を積極的には処方しない
②今後、どのような対応が進めば、**病院として**、入院患者への投薬・注射における後発医薬品の使用を進めてもよいと思いますか。 ※あてはまる番号すべてに○	1. 厚生労働省による、医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底 2. 後発医薬品メーカー・卸による情報提供体制の確保 3. 後発医薬品に関する安定供給体制の確保 4. 後発医薬品の価格のバラツキや品目数の整理統合 5. 先発医薬品名を入力すると一般名処方できるオーダリングシステムの導入 6. 後発医薬品に対する患者の理解 7. 後発医薬品を処方する際の診療報酬上の評価 8. 後発医薬品の使用割合についての診療報酬上の評価 9. 後発医薬品の原体、製剤に関する製造方法、製造場所、製造国などの情報開示 10. その他（具体的に　　） 11. 特に対応は必要ない→質問6. ①へ
③上記②の選択肢１～１０のうち、最もあてはまる番号を１つだけお書きください。	

６．＜すべての施設の方にお伺いします＞

後発医薬品の使用に関するお考えについてお伺いします。

① 後発医薬品について、薬事法に基づく厚生労働大臣の承認を得るためには、どのようなデータ（例えば、人での血中濃度を測定する臨床試験データなど）が必要か、ご存知ですか。　※○は１つだけ		
1. だいたい知っている	2. 少しは知っている	3. ほとんど知らない
② 厚生労働省では、平成 24 年 7 月に医療関係者向けに『ジェネリック医薬品への疑問に答えます～ジェネリック医薬品Ｑ＆Ａ～』を作成し、HP でも公開（http://www.mhlw.go.jp/bunya/iryou/kouhatu-iyaku/dl/02_120713.pdf）していますが、このことをご存知ですか。　※○は１つだけ		
1. 知っている（内容も見た）	2. 知っている（内容を見ていない）	3. 知らない
③ 厚生労働省では、平成 25 年 4 月に『後発医薬品の更なる使用促進のためのロードマップ』を発表しましたが、このことをご存知ですか。　※○は１つだけ		
1. 知っている（内容も見た）	2. 知っている（内容を見ていない）	3. 知らない
④ 今現在、後発医薬品に関して不信感はありますか。　※○は１つだけ		
1. ある	2. ない→６ページの質問７．へ	

④-1 不信感を抱いたきっかけは何ですか。　※あてはまる番号すべてに○

1. 先発医薬品との効果・副作用の違いを経験した
2. 先発医薬品との使用感（味、色、剤形、粘着力等）の違いを経験した
3. 後発医薬品メーカー間での効果の差を経験した
4. 処方していた後発医薬品の品切・製造中止
5. メーカーから必要な情報が公開されていなかった
6. メーカーに情報提供を求めたが、対応に満足できなかった
7. 医療関係者から後発医薬品に関する苦情を聞いた
8. その他（具体的に　　）

7．後発医薬品の使用にあたっての問題点・課題等、また、後発医薬品の使用・普及を進めていくために、具体的にどのような取組を行えば効果があるか、ご意見を自由にお書きください。

「病院票」の質問はこれで終わりです。ご協力いただきまして、ありがとうございました。

平成 26 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 26 年度調査）

後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査 医師票

※この医師票は、貴施設において、外来診療を担当する医師の方に、後発医薬品の使用状況やお考えについてお伺いするものです。

※ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（　）内には具体的な数値、用語等をご記入ください。（　）内に数値を記入する設問で、該当なしは「0（ゼロ）」を、わからない場合は「－」をご記入ください。

※ご回答頂いた調査票は、専用の返信用封筒（切手不要）にて、直接事務局までご返送いただけますよう、お願い申し上げます。

※特に断りのない場合は、平成 26 年 9 月末現在の状況についてご記入ください。

1．あなたご自身についてお伺いします。

① 性別	1. 男性　2. 女性	② 年齢	（　　）歳
③ 主たる担当診療科 ※○は 1 つだけ	1. 内科　2. 外科　3. 整形外科　4. 脳神経外科 5. 小児科　6. 産婦人科　7. 呼吸器科　8. 消化器科 9. 循環器科　10. 精神科　11. 眼科　12. 耳鼻咽喉科 13. 泌尿器科　14. 皮膚科　15. その他（具体的に　　）		
④ 1 日当たり平均外来診察患者数	（　　）人　※平成 26 年 9 月 1 か月間		

2．＜院外処方せんを発行している施設の方にお伺いします。院外処方せんを発行していない施設の方は３ページの質問３．①へお進みください＞

外来診療における院外処方せん発行時の状況や後発医薬品の処方に関するお考えについてお伺いします。

①後発医薬品の処方に関するお考えとして、最も近いものはどれですか。　※○は 1 つだけ

1. 後発医薬品を積極的に処方する→質問②へ
　＊一般名処方の場合や「変更不可」欄にチェック等を行わない場合を含みます。
2. 薬の種類によって、後発医薬品を積極的に処方する
3. 患者によって、後発医薬品を積極的に処方する
4. 後発医薬品を積極的には処方しない

▶①-1 後発医薬品を積極的に処方しない場合、その理由は何ですか。※あてはまる番号すべてに○

1. 後発医薬品の品質（効果や副作用を含む）に疑問がある
2. 後発医薬品の安定供給に不安がある
3. 後発医薬品に関する情報提供が不足している
4. 患者への普及啓発が不足している
5. 後発医薬品の説明に時間がかかる
6. 一般名の記入がしづらい
7. 後発医薬品を処方するメリットがない
8. 経営上の観点から
9. 患者が先発医薬品を希望する
10. 患者の容態等から先発医薬品が良いと判断した
11. その他（具体的に　　）

② 1 年前と比較して、後発医薬品の処方数（一般名処方や後発医薬品への「変更不可」としない処方せんも含みます）は、変化しましたか。※○は 1 つだけ

1. 多くなった　2. 変わらない　3. 少なくなった

③ 平成 26 年 4 月以降、「変更不可」欄に「レ」又は「×」を記した処方せんを発行したことはありますか。
※○は 1 つだけ

1. ある　2. ない→2ページの質問④へ

③-1　あなたが発行した院外処方せん枚数全体に占める、「変更不可」欄に「レ」又は「×」を記した医薬品が 1 品目でもある処方せん枚数の割合は、どの程度ありますか。　※平成 26 年 9 月	約（　　）％

③-2　一部の医薬品について「変更不可」とするのは、どのようなケースが最も多いですか。最も多いものの番号 1 つだけに○をつけてください。※○は 1 つだけ

1. 先発医薬品から後発医薬品への変更不可とすることが多い
2. 後発医薬品について他銘柄の後発医薬品への変更不可とすることが多い
3. 先発医薬品・後発医薬品の区別なく変更不可とすることが多い
4. その他（具体的に　　）

③-3　先発医薬品の銘柄を指定する場合、それはなぜですか。※あてはまる番号すべてに○

1. 後発医薬品の品質（効果や副作用を含む）に疑問がある
2. 後発医薬品の安定供給に不安がある
3. 後発医薬品に関する情報提供が不足している
4. 患者から希望があったから
5. その他（具体的に　　）
6. 先発医薬品の銘柄を指定することはない

③-4　後発医薬品の銘柄を指定する場合、それはなぜですか。※あてはまる番号すべてに○

1. 特定の銘柄以外の後発医薬品の品質（効果や副作用を含む）に疑問がある
2. 特定の銘柄以外の後発医薬品の安定供給に不安がある
3. 特定の銘柄以外の後発医薬品に関する情報提供が不足している
4. 先発医薬品と主成分や添加物等が同一の製剤である後発医薬品を処方したい
5. 先発医薬品の会社が製造した後発医薬品を処方したい
6. 上記 1.～5.以外の理由で後発医薬品の銘柄を指定する必要がある（理由：　　）
7. 患者から希望があったから
8. その他（具体的に　　）
9. 後発医薬品の銘柄を指定することはない

④ 平成 26 年 4 月以降、あなたは、一般名処方による処方せんを発行したことがありますか。※○は 1 つだけ

1. ある
2. ないが検討中→質問⑤へ
3. ない（予定もない）→質問⑤へ

④-1　一般名処方による処方せんの発行により、事務的な負担は増えましたか。　※○は 1 つだけ

1. とても増えた
2. 少し増えた
3. ほとんど変わらない
4. 少し減った
5. とても減った
6. わからない

⑤ 保険薬局で実際に調剤した後発医薬品の銘柄等に関する情報提供はどのような方法・タイミングで必要ですか。※○は 1 つだけ

1. 調剤をした都度
2. 原則、調剤をした都度行うが、前回と同じ内容であった場合には連絡しない
3. 一定期間に行った調剤をまとめて
4. お薬手帳等により患者経由で次の診療日に
5. 副作用等問題が発生した時だけ
6. 必要ない
7. その他（具体的に　　）

⑥ 患者から後発医薬品の処方を求められたことがありますか。　※○は 1 つだけ

1. ある
2. ない→3ページの質問4. ①へ

⑥-1 質問⑥の場合、どのような対応をとりましたか。　※あてはまる番号すべてに○

1. 先発医薬品を処方し、変更不可の欄に署名しなかった
2. 後発医薬品を処方した
3. 後発医薬品を処方し、変更不可の欄に署名した
4. 一般名で処方した
5. 後発医薬品が存在しない医薬品であるので対応できなかった
6. 対応しなかった（理由：　　）
7. その他（具体的に　　）

3．＜院外処方せんを発行していない施設の方にお伺いします＞

外来診療時における院内投薬の状況や後発医薬品の使用に関するお考えについてお伺いします。

① 外来診療時の院内投薬における後発医薬品の処方に関するお考えとして、最も近いものはどれですか。
※○は１つだけ

1. 後発医薬品を積極的に処方する→質問②へ
＊一般名処方の場合や「変更不可」欄にチェック等を行わない場合を含みます。
2. 薬の種類によって、後発医薬品を積極的に処方する
3. 患者によって、後発医薬品を積極的に処方する
4. 後発医薬品を積極的には処方しない

→①-1 後発医薬品を積極的に処方しないのはどのような理由によるものでしょうか。※あてはまる番号すべてに○。

1. 後発医薬品の品質（効果や副作用を含む）に疑問がある
2. 後発医薬品の安定供給に不安がある
3. 後発医薬品に関する情報提供が不足している
4. 患者への普及啓発が不足している
5. 後発医薬品の説明に時間がかかる
6. 患者が先発医薬品を希望する
7. 患者の容態等から先発医薬品が良いと判断した
8. 経営上の観点から
9. その他（具体的に　　）

② 患者から後発医薬品の処方を求められたことがありますか。　※○は１つだけ

1. ある
2. ない→質問４．①へ

→②-1 質問②の場合、どのような対応をとりましたか。　※あてはまる番号すべてに○

1. 後発医薬品を処方・調剤した
2. 後発医薬品が存在しないため先発医薬品を処方・調剤
3. 後発医薬品を採用していないため先発医薬品を処方・調剤
4. 対応しなかった（理由：　　）
5. その他（具体的に　　）

4．後発医薬品の使用に関するお考えについてお伺いします。

① 後発医薬品について、薬事法に基づく厚生労働大臣の承認を得るためには、どのようなデータ（例えば、人での血中濃度を測定する臨床試験データなど）が必要か、ご存知ですか。　※○は１つだけ

1. だいたい知っている
2. 少しは知っている
3. ほとんど知らない

② 厚生労働省では、平成 24 年 7 月に医療関係者向けに『ジェネリック医薬品への疑問に答えます～ジェネリック医薬品Ｑ＆Ａ～』を作成し、HP でも公開（http://www.mhlw.go.jp/bunya/iryou/kouhatu-iyaku/dl/02_120713.pdf）していますが、このことをご存知ですか。　※○は１つだけ

1. 知っている（内容も見た）
2. 知っている（内容を見ていない）
3. 知らない

③ 厚生労働省では、平成 25 年 4 月に『後発医薬品の更なる使用促進のためのロードマップ』を発表しましたが、このことをご存知ですか。　※○は１つだけ

1. 知っている（内容も見た）
2. 知っている（内容を見ていない）
3. 知らない

④ 今現在、後発医薬品に関して不信感はありますか。　※○は１つだけ

1. ある
2. ない→質問⑤へ

→ 次ページに続きます。

④-1　不信感を抱いたきっかけは何ですか。　※あてはまる番号すべてに○
1. 先発医薬品との効果・副作用の違いを経験した 3. 先発医薬品との使用感（味、色、剤形、粘着力等）の違いを経験した 4. 後発医薬品メーカー間での効果の差を経験した 5. 処方していた後発医薬品の品切・製造中止 6. メーカーから必要な情報が公開されていなかった 7. メーカーに情報提供を求めたが、対応に満足できなかった 8. 医療関係者から後発医薬品に関する苦情を聞いた 9. その他（具体的に　　）
⑤ 今後、どのような対応がなされれば、医師の立場として後発医薬品の処方を進めてもよいと思いますか。 ※あてはまる番号すべてに○
1. 厚生労働省による、医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底 2. 後発医薬品メーカー・卸による情報提供体制の確保 3. 後発医薬品に関する安定供給体制の確保 4. 後発医薬品の価格のバラツキや品目数の整理統合 5. 先発医薬品名を入力すると一般名処方できるオーダリングシステムの導入 6. 後発医薬品に対する患者の理解 7. 後発医薬品を処方する際の診療報酬上の評価 8. 後発医薬品の使用割合についての診療報酬上の評価 9. 後発医薬品の原体、製剤に関する製造方法、製造場所、製造国などの情報開示 10. その他（具体的に　　） 11. 特に対応は必要ない→質問5. へ

⑥ 上記⑤の選択肢１～１０のうち、最もあてはまるものの番号を１つだけお書きください。	

５．後発医薬品の使用にあたっての問題点・課題等、また、後発医薬品の使用・普及を進めていくために、具体的にどのような取組を行えば効果があるか、ご意見を自由にお書きください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。
お手数をおかけいたしますが、平成 26 年 11 月 18 日（火）までに専用の返信用封筒（切手不要）に同封し、お近くのポストに投函してください。

平成 26 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 26 年度調査）

後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査
診療所票

※この「診療所票」は医療機関の開設者・管理者の方に、貴施設における後発医薬品の使用状況やお考えについてお伺いするものです。

※ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（　　）内には具体的な数値、用語等をご記入ください。（　　）内に数値を記入する設問で、該当なしは「０（ゼロ）」を、わからない場合は「－」をご記入ください。

※特に断りのない場合は、平成 26 年 9 月末現在の状況についてご記入ください。

０．あなたご自身についてお伺いします。

① 性別	1. 男性　2. 女性	② 年齢	（　　）歳
③ 開設者・管理者の別 ※○は１つだけ	1. 開設者　2. 管理者　3. 開設者兼管理者 4. その他（具体的に　　）		
④ 主たる担当診療科 ※○は１つだけ	1. 内科　2. 外科　3. 整形外科　4. 脳神経外科 5. 小児科　6. 産婦人科　7. 呼吸器科　8. 消化器科 9. 循環器科　10. 精神科　11. 眼科　12. 耳鼻咽喉科 13. 泌尿器科　14. 皮膚科　15. その他（具体的に　　）		

１．貴施設の状況についてお伺いします。

①医療機関名	（　　）
②所在地	（　　）都・道・府・県
③開設者	1. 個人　2. 法人　3. その他
④開設年	西暦（　　）年
⑤種別 ※○は１つだけ	1. 無床診療所 2. 有床診療所　→　許可病床数（　　）床
⑥標榜している診療科 ※あてはまる番号すべてに○	1. 内科　2. 外科　3. 整形外科　4. 脳神経外科 5. 小児科　6. 産婦人科　7. 呼吸器科　8. 消化器科 9. 循環器科　10. 精神科　11. 眼科　12. 耳鼻咽喉科 13. 泌尿器科　14. 皮膚科　15. その他（具体的に　　）
⑦オーダリングシステム ※あてはまる番号すべてに○	1. 一般名処方に対応できるオーダリングシステムを導入している 2. 後発医薬品名が表示されるオーダリングシステムを導入している 3. オーダリングシステムを導入している（上記 1.、2.の機能はない） 4. オーダリングシステムを導入していない
⑧院内・院外処方の割合	院内処方（　　）％＋院外処方（　　）％＝100％　※処方せん枚数ベース
⑨医師数（常勤のみ）	（　　）人
⑩薬剤師数（常勤のみ）	（　　）人　※ゼロの場合は「0」とご記入ください。

２．＜有床診療所及び院内処方のある施設の方にお伺いします。すべて院外処方の無床診療所の方は３ページの質問４．①へお進みください。＞

貴施設における後発医薬品の使用状況等についてお伺いします。

①医薬品備蓄品目数	約（　　）品目
②上記①のうち後発医薬品の備蓄品目数	約（　　）品目
③調剤用医薬品費（購入額）	約（　　）円　※平成 26 年 9 月 1 か月間又は直近 1 か月分
④上記③のうち後発医薬品費（購入額）	約（　　）円　※平成 26 年 9 月 1 か月間又は直近 1 か月分
⑤調剤用医薬品廃棄額	約（　　）円　※平成 26 年 9 月 1 か月間又は直近 1 か月分
⑥上記⑤のうち後発医薬品廃棄額	約（　　）円　※平成 26 年 9 月 1 か月間又は直近 1 か月分
⑦後発医薬品の採用状況は、いかがでしょうか。 ※○は１つだけ	1. 後発医薬品があるものは積極的に採用 2. 薬の種類によって、後発医薬品を積極的に採用 3. 後発医薬品を積極的には採用していない 4. その他（具体的に　　）
⑧後発医薬品を採用する際に重視すること ※あてはまる番号すべてに○	1. 後発医薬品メーカーが品質について情報開示をしていること 2. MRからの情報提供が頻繁にあること 3. 他の後発医薬品よりも薬価が安価であること 4. 大病院で採用されていること 5. 近隣の保険医療機関（病院・診療所）で採用されている処方銘柄であること 6. 後発医薬品の適応症が先発医薬品と同一であること 7. 納品までの時間が短いこと 8. 後発医薬品メーカー・卸が十分な在庫を確保していること 9. 患者からの評価がよいこと 10. 調剤がしやすい（例;容易に半割ができる、一包化調剤がしやすい）こと 11. 本社の問い合わせ窓口における対応が充実していること 12. 先発医薬品メーカーが扱う後発医薬品であること 13. 信頼のおける後発医薬品メーカーが扱う後発医薬品であること 14. 古くから販売されている後発医薬品であること 15. 有効成分に加え、添加剤や製法も先発医薬品と同じであること 16. その他（具体的に　　） 17. 特にない→質問3. ①へ
⑨上記⑧の選択肢１～１６のうち、最もあてはまる番号を１つだけお書きください。	

３．＜有床診療所の方にお伺いします。無床診療所の方は３ページの質問４．①へお進みください＞

入院患者に対する後発医薬品の使用に関するお考えについてお伺いします。

※ここでは、造影剤などの検査に用いる医薬品を含め、内服薬、注射薬及び外用薬の全てを対象とします。

①後発医薬品使用体制加算の状況　※○は１つだけ	1. 算定していない 2. 後発医薬品使用体制加算１を算定している 3. 後発医薬品使用体制加算２を算定している
②**入院患者**に対する後発医薬品の使用状況は、いかがでしょうか。 ※最も近いものの番号１つだけに○	1. 後発医薬品を積極的に処方する 2. 薬の種類によって、後発医薬品を積極的に処方する 3. 患者によって、後発医薬品を積極的に処方する 4. 後発医薬品を積極的には処方しない

③今後、どのような対応が進めば、**診療所として**、入院患者への投薬・注射における後発医薬品の使用を進めてもよいと思いますか。 ※あてはまる番号すべてに○	1. 厚生労働省による、医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底 2. 後発医薬品メーカー・卸による情報提供体制の確保 3. 後発医薬品に関する安定供給体制の確保 4. 後発医薬品の価格のバラツキや品目数の整理統合 5. 先発医薬品名を入力すると一般名処方できるオーダリングシステムの導入 6. 後発医薬品に対する患者の理解 7. 後発医薬品を処方する際の診療報酬上の評価 8. 後発医薬品の使用割合についての診療報酬上の評価 9. 後発医薬品の原体、製剤に関する製造方法、製造場所、製造国などの情報開示 10. その他（具体的に　　） 11. 特に対応は必要ない→質問4. ①へ
④上記③の選択肢１～１０のうち、最もあてはまる番号を１つだけお書きください。	

4．＜院外処方せんを発行している施設の方にお伺いします。院外処方せんを発行していない施設の方は５ページの質問５．①へお進みください＞

外来診療における処方せん発行時の状況や**後発医薬品の処方に関するお考え**をお伺いします。

① 処方せん料の算定回数（平成 26 年 9 月 1 か月間）	（　　）回
② 一般名処方加算の算定回数（平成 26 年 9 月 1 か月間）	（　　）回

③ 後発医薬品の処方に関するお考えとして、最も近いものはどれですか。　※○は１つだけ

1. 後発医薬品を積極的に処方する→質問④へ
   ＊一般名処方の場合や「変更不可」欄にチェック等を行わない場合を含みます。
2. 薬の種類によって、後発医薬品を積極的に処方する
3. 患者によって、後発医薬品を積極的に処方する
4. 後発医薬品を積極的には処方しない

▶③-1 後発医薬品を積極的に処方しない場合、その理由は何ですか。※あてはまる番号すべてに○。

1. 後発医薬品の品質（効果や副作用を含む）に疑問がある
2. 後発医薬品の安定供給に不安がある
3. 後発医薬品に関する情報提供が不足している
4. 患者への普及啓発が不足している
5. 後発医薬品の説明に時間がかかる
6. 一般名の記入がしづらい
7. 後発医薬品を処方するメリットがない
8. 経営上の観点から
9. 患者が先発医薬品を希望する
10. 患者の容態等から先発医薬品が良いと判断した
11. その他（具体的に　　）

④ 1 年前と比較して、後発医薬品の処方数（一般名処方や後発医薬品への「変更不可」としない処方せんも含みます）は、変化しましたか。※○は１つだけ

1. 多くなった　　2. 変わらない　　3. 少なくなった

⑤ 平成 26 年 4 月以降、「変更不可」欄に「レ」又は「×」を記した処方せんを発行したことはありますか。
※○は１つだけ

1. ある　　2. ない→4ページの質問⑥へ

⑤-1　あなたが発行した院外処方せん枚数全体に占める、「変更不可」欄に「レ」又は「×」を記した医薬品が１品目でもある処方せん枚数の割合は、どの程度ありますか。※平成 26 年 9 月

約（　　）％

⑤-2　一部の医薬品について「変更不可」とするのは、どのようなケースが最も多いですか。最も多いものの番号 1 つだけに○をつけてください。※○は１つだけ

1. 先発医薬品から後発医薬品への変更を不可とすることが多い
2. 後発医薬品について他銘柄の後発医薬品への変更を不可とすることが多い
3. 先発医薬品・後発医薬品の区別なく変更を不可とすることが多い
4. その他（具体的に　　）

⑤-3　先発医薬品の銘柄を指定する場合、それはなぜですか。※あてはまる番号すべてに○

1. 後発医薬品の品質（効果や副作用を含む）に疑問がある
2. 後発医薬品の安定供給に不安がある
3. 後発医薬品に関する情報提供が不足している
4. 患者から希望があったから
5. その他（具体的に　　）
6. 先発医薬品の銘柄を指定することはない

⑤-4　後発医薬品の銘柄を指定する場合、それはなぜですか。※あてはまる番号すべてに○

1. 特定の銘柄以外の後発医薬品の品質（効果や副作用を含む）に疑問がある
2. 特定の銘柄以外の後発医薬品の安定供給に不安がある
3. 特定の銘柄以外の後発医薬品に関する情報提供が不足している
4. 先発医薬品と主成分や添加物等が同一の製剤である後発医薬品を処方したい
5. 先発医薬品の会社が製造した後発医薬品を処方したい
6. 上記 1.～5.以外の理由で後発医薬品の銘柄を指定する必要がある（理由：　　）
7. 患者から希望があったから
8. その他（具体的に　　）
9. 後発医薬品の銘柄を指定することはない

⑥ 平成 26 年 4 月以降、あなたは、一般名処方による処方せんを発行したことがありますか。※○は１つだけ

1. ある
2. ないが検討中→質問⑦へ
3. ない（予定もない）→質問⑦へ

⑥-1 一般名処方による処方せんの発行により、事務的な負担は増えましたか。　※○は１つだけ

1. とても増えた
2. 少し増えた
3. ほとんど変わらない
4. 少し減った
5. とても減った
6. わからない

⑦ 保険薬局で実際に調剤した後発医薬品の銘柄等に関する情報提供はどのような方法・タイミングで必要ですか。※○は１つだけ

1. 調剤をした都度
2. 原則、調剤をした都度行うが、前回と同じ内容であった場合には連絡しない
3. 一定期間に行った調剤をまとめて
4. お薬手帳等により患者経由で次の診療日に
5. 副作用等問題が発生した時だけ
6. 必要ない
7. その他（具体的に　　）

⑧ 患者から後発医薬品の処方を求められたことがありますか。　※○は１つだけ

1. ある
2. ない→５ページの質問６．①へ

⑧-1 質問⑧の場合、どのような対応をとりましたか。　※あてはまる番号すべてに○

1. 先発医薬品を処方し、変更不可の欄に署名しなかった
2. 後発医薬品を処方した
3. 後発医薬品を処方し、変更不可の欄に署名した
4. 一般名で処方した
5. 後発医薬品が存在しない医薬品であるので対応できなかった
6. 対応しなかった（理由：　　）
7. その他（具体的に　　）

5．＜院外処方せんを発行していない施設の方にお伺いします＞

外来診療時における院内投薬の状況や後発医薬品の使用に関するお考えについてお伺いします。

① 外来診療時の院内投薬における後発医薬品の処方に関するお考えとして、最も近いものはどれですか。
※○は１つだけ

1. 後発医薬品を積極的に処方する→質問②へ
＊一般名処方の場合や「変更不可」欄にチェック等を行わない場合を含みます。
2. 薬の種類によって、後発医薬品を積極的に処方する
3. 患者によって、後発医薬品を積極的に処方する
4. 後発医薬品を積極的には処方しない

→①-1 後発医薬品を積極的に処方しないのはどのような理由によるものでしょうか。※あてはまる番号すべてに○

1. 後発医薬品の品質（効果や副作用を含む）に疑問がある
2. 後発医薬品の安定供給に不安がある
3. 後発医薬品に関する情報提供が不足している
4. 患者への普及啓発が不足している
5. 後発医薬品の説明に時間がかかる
6. 経営上の観点から
7. 患者が先発医薬品を希望する
8. 患者の容態等から先発医薬品が良いと判断した
9. その他（具体的に　　）

② 患者から後発医薬品の処方を求められたことがありますか。　※○は１つだけ

1. ある
2. ない→質問６．①へ

→②-1 質問②の場合、どのような対応をとりましたか。　※あてはまる番号すべてに○

1. 後発医薬品を処方・調剤した
2. 後発医薬品が存在しないため先発医薬品を処方・調剤した
3. 後発医薬品を採用していないため先発医薬品を処方・調剤した
4. 対応しなかった（理由：　　）
5. その他（具体的に　　）

6．＜すべての施設の方にお伺いします＞

後発医薬品の使用に関するお考えについてお伺いします。

① 後発医薬品について、薬事法に基づく厚生労働大臣の承認を得るためには、どのようなデータ（例えば、人での血中濃度を測定する臨床試験データなど）が必要か、ご存知ですか。　※○は１つだけ

1. だいたい知っている
2. 少しは知っている
3. ほとんど知らない

② 厚生労働省では、平成 24 年 7 月に医療関係者向けに『ジェネリック医薬品への疑問に答えます～ジェネリック医薬品Ｑ＆Ａ～』を作成し、HP でも公開（http://www.mhlw.go.jp/bunya/iryou/kouhatu-iyaku/dl/02_120713.pdf）していますが、このことをご存知ですか。　※○は１つだけ

1. 知っている（内容も見た）
2. 知っている（内容を見ていない）
3. 知らない

③ 厚生労働省では、平成 25 年 4 月に『後発医薬品の更なる使用促進のためのロードマップ』を発表しましたが、このことをご存知ですか。　※○は１つだけ

1. 知っている（内容も見た）
2. 知っている（内容を見ていない）
3. 知らない

④ 今現在、後発医薬品に関して不信感はありますか。　※○は１つだけ

1. ある
2. ない→６ページの質問⑤へ

▶ ④-1 不信感を抱いたきっかけは何ですか。　※あてはまる番号すべてに○

1. 先発医薬品との効果・副作用の違いを経験した
2. 先発医薬品との使用感（味、色、剤形、粘着力等）の違いを経験した
3. 後発医薬品メーカー間での効果の差を経験した
4. 処方していた後発医薬品の品切・製造中止
5. メーカーから必要な情報が公開されていなかった
6. メーカーに情報提供を求めたが、対応に満足できなかった
7. 医療関係者から後発医薬品に関する苦情を聞いた
8. その他（具体的に　　）

⑤ 今後、どのような対応がなされれば、医師の立場として後発医薬品の処方を進めてもよいと思いますか。
※あてはまる番号すべてに○

1. 厚生労働省による、医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底
2. 後発医薬品メーカー・卸による情報提供体制の確保
3. 後発医薬品に関する安定供給体制の確保
4. 後発医薬品の価格のバラツキや品目数の整理統合
5. 先発医薬品名を入力すると一般名処方できるオーダリングシステムの導入
6. 後発医薬品に対する患者の理解
7. 後発医薬品を処方する際の診療報酬上の評価
8. 後発医薬品の使用割合についての診療報酬上の評価
9. 後発医薬品の原体、製剤に関する製造方法、製造場所、製造国などの情報開示
10. その他（具体的に　　）
11. 特に対応は必要ない→質問7. へ

⑥ 上記⑤の選択肢１～１０のうち、最もあてはまるものの番号を１つだけお書きください。	

7．後発医薬品の使用にあたっての問題点・課題等、また、後発医薬品の使用・普及を進めていくために、具体的にどのような取組を行えば効果があるか、ご意見を自由にお書きください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。